

2023年度

# 社会健康医学系専攻シラバス

京都大学大学院医学研究科



## 2023年度 京都大学アカデミックカレンダー

前期始まり	◇	4月1日(土)
年度当初調整期間	◇	4月3日(月)～7日(金)
入学式	◇	4月7日(金)
前期授業	◇	4月10日(月)～7月21日(金)
創立記念日	◇	6月18日(日)
試験・フィードバック期間	◇	7月24日(月)～8月4日(金)
夏季休業	◇	8月5日(土)～9月30日(土)
前期終わり	◇	9月30日(土)
後期始まり	◇	10月1日(日)
後期授業	◇	10月2日(月)～1月23日(火)
11月祭	◇	11月下旬 授業休止(予定):11月22日(水)・24日(金)
冬季休業	◇	12月29日(金)～1月3日(水)
試験・フィードバック期間	◇	1月24日(水)～2月6日(火)
修士・博士学位授与式	◇	3月25日(月)
卒業式	◇	3月26日(火)
後期終わり	◇	3月31日(日)

注:調整期間は原則として次の内容を考慮する。

年度当初調整期間:ガイダンス等を行う。

※学部入試に伴う授業休止について

前期日程試験 準備日:2024年2月24日(土)

試験日:2024年2月25日(日)～27日(火)

## ◇目 次◇

社会健康医学系専攻について	1
社会健康医学系専攻専門職学位課程 全授業科目一覧表	5
専門職学位課程特別コース及び特別プログラムについて	
〈特別コース〉	
I. 臨床研究者養成 (MCR) コース	9
臨床研究者養成 (MCR) コース 授業科目一覧表	10
II. 遺伝カウンセラーコース	11
遺伝カウンセラーコース 授業科目一覧表	12
III. 臨床統計家育成 (CB) コース	13
臨床統計家育成コース 授業科目一覧表	14
〈特別プログラム〉	
I. 知的財産経営学プログラム	16
知的財産経営学プログラム 授業科目一覧表	17
II. 医療経営ヤングリーダー・プログラム	18
社会健康医学系専攻 前期時間割 全教科	20
社会健康医学系専攻 後期時間割 全教科	21
<b>社会健康医学系専攻 授業科目内容</b>	<b>23</b>
【MPHコア】	
疫学Ⅰ (疫学入門)	24
疫学Ⅱ (研究デザイン)	24
医療統計学	25
感染症疫学	25
産業・環境衛生学	26
医療制度・政策・経済	26
社会健康医学と健康政策	27
医薬政策・行政	27
保健・医療の経済評価	28
行動科学	29
基礎医療倫理学	29
医学コミュニケーション・基礎	30
社会疫学	30
【MPH必修】	
医学基礎Ⅰ「生理学Ⅰ」	31
医学基礎Ⅰ「神経生理学」	31
医学基礎Ⅰ「解剖学」	32
医学基礎Ⅰ「基礎人類遺伝学」	32
医学基礎Ⅱ	33
臨床医学概論	33
【MPH選択】	
医療統計学実習	34
観察研究の統計的方法	34
文献検索法	35

文献評価法	35
ヘルスサイエンス研究の進め方	36
医療の質評価	36
毒性科学	37
医療社会学・基礎	37
統計遺伝学Ⅰ（2023年度は不開講）	
臨床試験	38
統計家の行動基準	38
健康デザイン論	39
統計的推測の基礎	39
生存時間解析	40
統計モデルとその応用	40
行政医学・産業医学	41
多重性の考え方	42
遺伝医療と倫理・社会	42
基礎人類遺伝学	43
臨床遺伝学・遺伝カウンセリング	43
遺伝医学特論（集中講義）	44
地域保健活動論	45
人間生態学	46
交絡調整の方法	46
解析計画実習	47
環境曝露・リスク評価	47
ベンチトレーニングコース	48
医薬品・医療機器の開発計画、薬事と審査	48
医薬品の開発と評価	49
ゲノム科学と医療	49
医療倫理学各論	50
統計遺伝学Ⅱ（2023年度は不開講）	
健康情報学Ⅰ	50
健康情報学Ⅱ	51
質的研究・演習	51
エビデンスユーザ入門	52
質的研究入門	53
環境・感染症論	53
臨床試験の統計的方法	54
フィールドワーク（2023年度は不開講）	
社会健康医学課外実習	54
感染症数理モデル入門	55
ポストコロナ社会のイノベーション：展望と自由提言	55
QOL・PRO 評価法	56
公衆衛生の緊急事態におけるリスクコミュニケーション	56
健康危機管理	57
グローバルヘルス通論	57
<b>【限定】</b>	
医療経営特別カリキュラムⅠ	58
医療経営特別カリキュラムⅡ	58
医療経営ケーススタディ	59

<b>臨床研究者養成（MCR）コース 授業科目内容</b> . . . . .	<b>61</b>
【MCR必修】	
臨床研究計画法Ⅰ . . . . .	62
臨床研究計画法演習Ⅰ . . . . .	62
医療技術の経済評価 . . . . .	63
臨床研究計画法Ⅱ . . . . .	63
【MCR選択】	
臨床研究計画法演習Ⅱ . . . . .	64
EBM・診療ガイドライン特論 . . . . .	64
臨床研究データ管理学 . . . . .	65
臨床研究特論 . . . . .	65
系統的レビュー . . . . .	66
データ解析法特論 . . . . .	67
社会疫学研究法 . . . . .	67
<b>遺伝カウンセラーコース 授業科目内容</b> . . . . .	<b>69</b>
【GC必修】	
基礎人類遺伝学演習 . . . . .	70
臨床遺伝学演習 . . . . .	70
遺伝カウンセラーコミュニケーション概論 . . . . .	71
遺伝カウンセリング演習1 . . . . .	72
遺伝カウンセリング演習2 . . . . .	72
遺伝カウンセリング実習1 . . . . .	73
遺伝カウンセリング実習2 . . . . .	74
遺伝サービス情報学 . . . . .	75
<b>臨床統計家育成（CB）コース 授業科目内容</b> . . . . .	<b>77</b>
【CB必修】	
臨床研究実地研修Ⅰ . . . . .	78
臨床研究実地研修Ⅱ . . . . .	78
【CB選択】	
臨床統計家の実務スキル . . . . .	79
統計的推測の基礎・演習 . . . . .	79
メタアナリシス . . . . .	80
<b>知的財産経営学プログラム 授業科目内容</b> . . . . .	<b>81</b>
【知財必修】	
アントレプレナーシップ . . . . .	82
メディカル分野技術経営学概論 . . . . .	82
特許法特論・演習（前期） . . . . .	83
契約実務演習 . . . . .	84

【知財選択】

知的財産経営学 基礎	84
アントレプレナーシップ特論	85
特許法特論・演習（後期）	85
知的財産法演習	86
創薬医学特論	86

**FY 2023 Syllabi for Master Course** 87

Mission and educational program of the Kyoto University School of Public Health	88
Curriculum for Master Course in the fiscal year of FY2023	102

Epidemiology I	104
Epidemiology II	104
Fundamentals of Biostatistics	105
Infectious Disease Epidemiology	105
Occupational health and environmental health sciences	106
Healthcare System, Policy and Economics	106
Health Policy and Academia	107
Drug Policy and Regulation	107
Economic Evaluation in Health Care	108
Behavioral Science	109
Basic Medical Ethics	109
Medical Communication: Introduction	110
Social epidemiology	110
Basic Medicine I (Physiology I)	111
Basic Medicine I (Neurophysiology)	111
Basic Medicine I (Anatomy)	112
Basic Medicine I (Introduction to Human Genetics)	112
Basic Medicine II	113
Introduction to Clinical Medicine	114
Introduction to Statistical Computing and Data Management	114
Statistical Methods for Observational Studies	115
Literature Research	115
Critical Appraisal	116
Methods of Health Science Research	116
Evaluation of Quality in Health Care	117
Toxicological Sciences	117
Medical Sociology	118
Statistical Genetics I (Not offered in FY 2023)	
Clinical Trial	118
Statisticians Standard of Conducts	119
Designing Health communication	119
Fundamentals of Statistical Inference	120
Survival Analysis	120
Statistical Modeling and Applications	121
Medical Doctors in Government and Occupational Settings	121

Multiplicity in clinical trials	122
Genetic Medicine, Ethics and Society	123
Introduction to Human Genetics	123
Clinical Genetics and Genetic Counseling	124
Special Seminar for Genetic Medicine	125
Public health intervention strategies	126
Field Medicine	126
Intermediate Biostatistics	127
Health Data Processing Laboratory	127
Environmental exposures and their risk assessments	128
On the Bench Training Course	128
Development strategy, plan, and regulatory affairs of drugs and medical devices	129
Drug Development, Evaluation and Regulatory Sciences	129
Genome Science and Medicine	130
Practicum for Clinical Genetics	130
Statistical Genetics II (Not offered in FY 2023)	
Health informatics I	131
Health informatics II	131
Applied Medical Communication	132
Introduction to EBM: How to use evidence in your daily life	132
Introduction to Qualitative Research	133
Environment and Infection	134
Statistical Methods in Clinical Trials	134
Fieldwork (Not offered in FY 2023)	
Field Training for Public Health Practice	135
Introduction to infectious disease modelling	135
The Post-COVID-19 Era: Innovation in Life and Technology	136
QOL/PRO assessment	136
Risk Communication for Public Health Emergencies	137
Healthcare crisis management	137
Healthcare management Special Curriculum I	138
Healthcare management Special Curriculum II	138
Case Studies in Healthcare Management	139
Seminar in Study Design I	139
Special Seminar in Study Design I	140
Economic Evaluation of Medical Technologies	140
Seminar in Study Design II	141
Special Seminar in Study Design II	142
Special Lectures on EBM and clinical practice guidelines	142
Data Management for Clinical Research	143
Clinical research advanced	143
Systematic Reviews	143
Special Seminar of Data Analysis	144
Methods in social epidemiology	145
Fundamental Human Genetics, exercise	145
Clinical Genetics, Exercise	146
Communication for Genetic Counselors	146
Genetic Counselling, Exercise 1	147



Genetic Counselling, Exercise 2	148
Genetic Counselling, Practice 1	149
Genetic Counselling, Practice 2	149
Genetic service informatics	150
Clinical Research Training I	151
Clinical Research Training II	152
Practical Skills for Clinical Biostatisticians	153
Practicum in Fundamentals of Statistical Inference	153
Meta-analysis	154
Entrepreneurship	154
Introduction to Technology Management in Medical Science	155
Special Lecture and Practicum for the Patent Law I	155
Business Contract Practice	156
Intellectual Property Management in Medical Science	156
Special Lecture for Entrepreneurship	157
Special lecture and practicum for the Patent Law II	157
Practicum for Intellectual Properties Protection Law	158
Special Lecture for Drug Discovery	158

<b>2023 年度人間健康科学系専攻科目及び他部局開講科目（公共政策大学院科目）における 社会健康医学系専攻学生の受講について</b>	161
--	-----

**科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」推進事業  
「公共圏における科学技術・教育研究拠点」**

<b>教育プログラム 授業科目</b>	163
現代社会と科学技術 A	164
現代社会と科学技術 B	164
科学技術イノベーション政策総合演習	165
研究プロジェクト	165
政策のための研究方法論（政策）	165
科学技術コミュニケーション演習	166



## ◆社会健康医学系専攻について

(<http://sph.med.kyoto-u.ac.jp/>)

### 1. 本専攻の概要

社会健康医学系専攻の使命は、医学・医療と社会・環境とのインターフェースを機軸とし以下の活動とその相互作用を通じて、人々の健康と福祉を向上させることである。

#### ○教育 (Teaching)

社会健康医学に関わる実務、政策、研究、教育において専門的かつ指導的役割を身につける幅広い教育を行う。

#### ○研究 (Research)

人々の健康に関わる経済、環境、行動、社会的要因についての知識を深め、新しい知識と技術を生み出す。

#### ○成果の還元 (Translating Research into Practice and Policy)

その成果を健康・医療に関わる現実社会の実践方策と政策に還元する。

#### ○専門的貢献 (Professional Practice)

専門の知識と技術を持って、個人・組織・地域・国・世界レベルで貢献する。

健康に関する問題は非常に広い範囲にわたっており、本専攻の教員、学生のテーマや専門性も多岐に渡っている。本専攻には、定量的評価に不可欠な疫学、統計に関する基礎領域から、ゲノム情報と健康のかかわり、医療の質の評価や経済的評価、倫理的側面、社会への健康情報の発信、健康増進と行動変容、健康の社会的決定要因、健康格差、グローバルヘルス、感染症など危機管理に関する研究や気候変動など環境要因と健康に関する研究、ヘルスコミュニケーションや質的研究など、さまざまな教育・研究を推進する分野が設置されている。

### 2. 教育課程

本専攻は、専門職学位課程（実務者レベル）2年と博士後期課程（研究者、教育者レベル）3年に区分され、専門職学位課程は、さらに、基幹課程である2年制 MPH コースをはじめ、1年制 MPH コース、臨床研究者養成（MCR）コース（1年制）、遺伝カウンセラーコース（2年制）、臨床統計家育成コース（2年制）を含めて5コースに分かれている。

教育内容として、下記のコア5領域が定められており、これらの領域を構成する科目を、必修（コア領域1、2）、選択必修（コア領域3、4、5）と指定している。いずれのコースでも5領域から最低1科目（コア領域1は2科目）の履修を必要とする。

区分		科目コード	科目名	責任者	単位	備考
MPH コア 5領域	コア領域1	H118000	疫学Ⅰ（疫学入門）	中山	1	必修
		H119000	疫学Ⅱ（研究デザイン）	山本（洋）	1	必修
	コア領域2	H001000	医療統計学	佐藤	2	必修
	コア領域3	H070000	感染症疫学	西浦	1	
		H124000	産業・環境衛生学	西浦	1	
	コア領域4	H166000	医療制度・政策・経済	今中	2	
		H126000	保健・医療の経済評価	今中	1	MCR コース 受講不可
		H127000	社会健康医学と健康政策	健康政策の 運営委員会	2	
		H109000	医薬政策・行政	川上	1	後期
	コア領域5	H075000	行動科学	田近	1	
		H076000	基礎医療倫理学	中島	1	
		H077000	医学コミュニケーション基礎	岩隈	1	
		H157000	社会疫学	近藤	2	

※前年度以前開講科目の科目変更については、「(別表) 科目変更対応表」を確認すること。

医学研究科人間健康科学系専攻、公共政策大学院、経営管理大学院、法学研究科、アジア・アフリカ地域研究研究科、工学研究科、「グローバル生存学大学院連携プログラム」、「政策のための科学プログラム」の予め定められた科目の履修・単位取得が可能。ただし、修了に必要な単位とはならない。具体的にはシラバス巻末およびホームページを参照。

URL: <http://sph.med.kyoto-u.ac.jp/syllabus.html>

## (1) 専門職学位課程

専門職学位課程に2年以上(2年制コース)もしくは1年以上(1年制コース)在学し、下記の30単位以上を修得し、本専攻が定める教育課程を修了することが「社会健康医学修士(専門職)」取得の要件である。

なお、1年間に履修科目として登録することができる単位数の上限は、原則42単位とする。ただし、特別コース・特別プログラム(1年制MPHコース、臨床研究者養成(MCR)コース、遺伝カウンセラーコース、臨床統計家育成コース、知的財産経営学プログラム)の履修者が、特別コース・特別プログラムにおける必修科目等を履修する場合は超過を認める。その他、やむを得ない事情により履修登録上限単位数を緩和する必要がある場合には、指導教員の申し出により超過を認めることがある。

### [2年制MPHコース]

科目	「医療系」 出身者*	「医療系」以外 出身者
MPH コア 5領域 (コア領域 1-5 のすべての領域を含む) (注1)	10	10
MPH 必修 (医学基礎 I (注3)・II、臨床医学概論) (注2)	—	6
課題研究	4	4
選択 (特別プログラムで指定されるものを含む)	16	10
計	30	30

※「医療系」出身者：医学部・看護学部・歯学部・薬学部・公衆衛生学部などの医療系学部の出身者

上記以外でかつ生物系等学部、医療系短期大学及び医療系専門学校出身者であっても医療系の国家資格を取得できるコースの出身者が「医療系」出身者として認定を希望する場合は、一括認定の対象とする。

「上記の一括認定で認定されなかった者」で、「医療系」出身者としての認定を求める際は、入学時に申請が必要である。

(注1) MPH コア科目を10単位を超えて取得した場合は、選択科目として算入する。

(注2) MPH 必修を、「医療系」出身者の学生が取得した場合、学位取得に必要な30単位に算入することはできない。

(注3) 令和4年度以降は「医学基礎 I」として、「医学基礎 I (生理学 I)」「医学基礎 I (神経生理学)」「医学基礎 I (解剖学)」あるいは「医学基礎 I (基礎人類遺伝学)」のいずれか履修すること。

課題研究：専門職学位課程共通。テーマ毎に、最も適切な研究室に配属し、研究アイデアから研究プロトコルの作成、データ収集と解析、結果の考察などを経験し、プレゼンテーションを行う。プレゼンテーションを行う者は、プレゼンテーションを行う当該年度に修了見込みの者に限られる。

既修得単位の認定：本専攻では上記コア領域科目の受講を推奨しているが、他大学院における取得単位について、コア領域1～5に相当する科目を対象に最大10単位以内を既修得単位として認定する場合がある。認定を希望する場合は、入学時に申請が必要である。

### [専門職学位課程特別コース・特別プログラム]

本専攻は、下記の特別コースを有する。これらの特別コースは入試枠が異なり、入学後にコース間の移動はできない。加えて、下記の如く、本専攻が修了を認める特別プログラムがある。

これらの詳細は、別途、「◇専門職学位課程特別コース及び特別プログラムについて」に後述する。

#### <特別コース>

- 1) 1年制MPHコース (1年で修了しうるが、修了要件は上記の2年制MPHコースと同じ。)
- 2) 臨床研究者養成(MCR)コース
- 3) 遺伝カウンセラーコース
- 4) 臨床統計家育成コース

#### <特別プログラム>

- 1) 知的財産経営学プログラム
- 2) 医療経営ヤングリーダー・プログラム

## (2) MPH-DrPH 課程について

出願資格：1) 修士相当の学位を有する者 あるいは、2) 医師・歯科医師の内、2年以上の臨床経験あるいは卒後臨床研修を修了した者。

上記出願資格1)、2)の条件を満たし、専門職学位課程に引き続き本専攻博士後期課程に進学を希望する者で、学部あるいは修士の履修成績、入学試験および専門職学位課程入学後の成績も優秀であり、意欲と能力のある者は、審査を受け、本専攻博士後期課程の受験資格を認定された場合、専門職学位課程の修了要件を満し、かつ上記の博士後期課程入学試験に合格することにより、1年次修了時点で博士後期課程に進学できる。

受験資格の認定を希望する者は、前期にコア科目8単位以上を取得(見込)したうえで、MPH-DrPH課程の願書、志望理由書、指導教員の推薦書(注)と、修士相当の者は、1) 修士学位の証明と修士および学部の成績、あるいは医師・歯科医師の者は、2) 臨床経験あるいは卒後臨床研修と在職証明書を添えて8月4日(金)までに教務課大学院教務掛に提出すること(認定を希望する者は、提出に先立ち、教務課大学院教務掛に事前に相談すること)。

本課程は、あくまで、博士後期課程への進学を前提としたものであり、進学しない場合は、1年次修了は無効となる。

(注) 課題研究に関する情報(課題名、プロトコール、進捗状況を示す資料等)は必須ではないが、推薦書に添付することができる。

## (3) 博士後期課程

博士後期課程に3年以上在学し、研究指導を受け、下記の所定単位を修得し、博士論文の審査および試験に合格することが「博士(社会健康医学)」取得の要件である。なお、1年間に履修科目として登録することができる単位数の上限は、原則42単位とする。

2022年度入学者より、大学院教育コース「社会健康医学・臨床疫学研究」において学位論文の中間ヒアリングとチューターシステムを導入することによって、大学院生の研究進捗状況をチェックし、必要に応じてアドバイスを与えることによって研究レベルの向上をサポートする体制を強化する。2年次あるいは3年次に中間ヒアリングにおいてチューターが研究進捗状況をチェックし、適切な研究方針で研究しているか、順調に研究が進展しているかなどを確認・審査する。中間ヒアリングに合格することが「実習」2単位の修得要件となる。

### 【2021年度以前入学者】

科目		本専攻専門職学位課程修了者以外		本専攻専門職学位課程修了者
		「医療系」出身者*	「医療系」以外出身者	
博士課程セミナー		6	6	6
専門職学位課程授業科目	MPH コア5領域 (コア領域1-5のすべての領域を含む)	7(領域1と領域2は、それぞれ2単位)	7(領域1と領域2は、それぞれ2単位)	—
	MPH 必修(医学基礎I(注1)、医学基礎II、臨床医学概論)	—	6	—
計		13	19	6

### 【2022年度以降入学者】

科目		本専攻専門職学位課程修了者以外		本専攻専門職学位課程修了者
		「医療系」出身者*	「医療系」以外出身者	
博士課程セミナー		6	6	6
大学院教育コース:社会健康医学・臨床疫学研究(演習)(1年次~)		4	4	4
大学院教育コース:社会健康医学・臨床疫学研究(実習)(2年次~)		2	2	2
専門職学位課程授業科目	MPH コア5領域 (コア領域1-5のすべての領域を含む)	7(領域1と領域2は、それぞれ2単位)	7(領域1と領域2は、それぞれ2単位)	—
	MPH 必修(医学基礎I(注1)、医学基礎II、臨床医学概論)	—	6	—
計		19	25	12

※「医療系」出身者：医学部・看護学部・歯学部・薬学部・公衆衛生学部などの医療系学部の出身者

上記以外でかつ生物系等学部、医療系短期大学及び医療系専門学校出身者であっても医療系の国家資格を取得できるコースの出身者が「医療系」出身者として認定を希望する場合は、一括認定の対象とする。

「上記の一括認定されなかった者」で、「医療系」出身者としての認定を求める際は、入学時に申請が必要である。

(注1) 令和4年度以降は「医学基礎Ⅰ」として、「医学基礎Ⅰ(生理学Ⅰ)」「医学基礎Ⅰ(神経生理学)」「医学基礎Ⅰ(解剖学)」あるいは「医学基礎Ⅰ(基礎人類遺伝学)」のいずれか履修すること。

※既修得単位の認定：本専攻では上記コア領域科目の受講を推奨しているが、他大学院における取得単位について、コア領域1～5に相当する科目を対象に最大7単位以内を既修得単位として認定する場合がある。認定を希望する場合は、入学時に申請が必要である。

令和5年度 社会健康医学系専攻 専門職学位課程 全授業科目一覧表

区分	科目コード	科目名	期間		主担当教員	単位	備考	レベル
			前期	後期				
MPH コア 必修	H118000	領域1 疫学Ⅰ（疫学入門）	○*		中山教授	1		基礎
	H119000	領域1 疫学Ⅱ（研究デザイン）	○前半		山本教授	1		基礎
	H001000	領域2 医療統計学	○		佐藤教授	2		基礎
MPH コア 選択 必修	H070000	領域3 感染症疫学	○後半		西浦教授	1		基礎
	H124000	領域3 産業・環境衛生学	○前半		西浦教授	1		基礎
	H166000	領域4 医療制度・政策・経済	○		今中教授	2		中級
	H127000	領域4 社会健康医学と健康政策	○		健康政策の運営委員会	2		基礎
	H109000	領域4 医薬政策・行政		○前半	川上教授	1		中級
	H126000	領域4 保健・医療の経済評価	○前半		今中教授	1	MCR コース生は受講不可	中級
	H075000	領域5 行動科学	○前半		田近准教授	1		基礎
	H076000	領域5 基礎医療倫理学	○前半		中島准教授	1		基礎
	H077000	領域5 医学コミュニケーション基礎	○前半		岩隈准教授	1		基礎
	H157000	領域5 社会疫学	○		近藤教授	2		基礎
MPH 必修	H154000	医学基礎Ⅰ（生理学Ⅰ）	○前半		西浦教授	2	「医療系」以外の出身者のみいずれか一つを選択必修。	基礎
	H163000	医学基礎Ⅰ（神経生理学）		○前半	西浦教授	2		基礎
	H153000	医学基礎Ⅰ（解剖学）	○前半		西浦教授	2		基礎
	H164000	医学基礎Ⅰ（基礎人類遺伝学）	○		和田特定教授	2		基礎
	H007000	医学基礎Ⅱ		○	尾野准教授・加藤准教授・塩見助教・山地助教・河田講師	2	「医療系」以外の出身者のみ必修。	基礎
	H008000	臨床医学概論		○	奥野講師・錦織助教・岩碓講師・星野特定講師・千葉非常勤講師	2		基礎
	(別表)	課題研究		2年次	所属分野の指導教員	4		—
MPH 選択	H011000	医療統計学実習	○		佐藤教授	2		中級
	H084000	観察研究の統計的方法	○*		佐藤教授	2		応用
	H093000	文献検索法	○前半		高橋准教授	1		基礎
	H094000	文献評価法	○後半		中山教授	1		基礎
	H115000	ヘルスサイエンス研究の進め方	○*		中山教授	1		基礎
	H129000	医療の質評価	○後半		今中教授	1		中級
	H162000	毒性科学	○		原田准教授	2		基礎
	H103000	医療社会学・基礎	○後半		岩隈准教授	1		基礎
	S004000	統計遺伝学Ⅰ	集中*			2	2023年度は開講せず	中級
	H112000	臨床試験	○		田中司朗特定教授	2		中級
	H134000	統計家の行動基準	○*		佐藤教授	1		応用
	H143000	健康デザイン論	通年・集中*		中山教授	1		応用
	H136000	統計的推測の基礎	○		大森特定教授	2		中級
	H137000	生存時間解析		集中	大森特定教授	1		応用
	H138000	統計モデルとその応用		集中	大森特定教授	1		応用
	H142000	行政医学・産業医学	集中		今中教授	2		応用
	H145000	多重性の考え方	○前半		大森特定教授	1		中級
	M001000	アントレプレナーシップ	○		寺西非常勤講師	2		基礎
	M026000	メディカル分野技術経営学概論	○		山本非常勤講師	2		基礎
	M017000	知的財産経営学基礎	○		早乙女特定教授	2		基礎
	M021000	アントレプレナーシップ特論	集中		早乙女特定教授	2		応用
	M024000	特許法特論・演習（前期）	○		高山非常勤講師・東田非常勤講師	2		基礎
	N015000	遺伝医療と倫理・社会	○*		和田特定教授	2		基礎
	H040000	基礎人類遺伝学	○		和田特定教授	2		基礎
	N021000	臨床遺伝学・遺伝カウンセリング	○*		中島准教授	3		基礎

区分	科目コード	科目名	期間		主担当教員	単位	備考	レベル	
			前期	後期					
MPH 選択	N017000	遺伝医学特論（集中講義）	2年次		中島准教授	2		応用	
	H158000	地域保健活動論		○前半	近藤教授	2		応用	
	H020000	人間生態学		○	坂本准教授	2		基礎	
	H021000	交絡調整の方法		○	大森特定教授	2		中級	
	H022000	解析計画実習		○	大森特定教授	2		応用	
	H159000	環境曝露・リスク評価		○	原田准教授	2		中級	
	H032000	ベンチトレーニングコース (On the Bench Training Course)		集中	原田准教授	2		応用	
	H099000	医薬品・医療機器の開発計画、薬事と審査		○	川上教授	2		応用	
	H079000	医薬品の開発と評価		○後半	川上教授	1		中級	
	M004000	契約実務演習		○	鈴木特定准教授	2		基礎	
	M007000	知的財産法演習		○	當麻非常勤講師	2		中級	
	M025000	特許法特論・演習（後期）		○	田中順也非常勤講師	2		中級	
	M028000	創薬医学特論		○	早乙女特定教授	1		応用	
	M022000	ゲノム科学と医療		○	松田教授	2		応用	
	N018000	医療倫理学各論		○*	中島准教授	2		応用	
	S005000	統計遺伝学Ⅱ		集中*		2	2023年度は開講せず	中級	
	H130000	健康情報学Ⅰ		○	中山教授	2		中級	
	H151000	健康情報学Ⅱ		○*	高橋准教授	2		中級	
	H160000	質的研究・演習	通年・集中		岩隈准教授	2		中級	
	H132000	エビデンスユーザ入門	通年*		古川教授	2		基礎	
	H156000	質的研究入門	○後半		中山教授・河野特定助教	1		基礎	
	H152000	環境・感染症論		○	山崎教授	2		中級	
	H135000	臨床試験の統計的方法		○前半	田中司朗特定教授	1		応用	
	H063000	フィールドワーク	通年・集中*		松田教授・田原教授	2	不開講	中級	
	H061000	社会健康医学課外実習	集中		所属分野の指導員等	1-2	インターンシップ	-	
	Z203000	グローバルヘルス通論		○	中山教授	2		中級	
	H161000	感染症数理モデル入門	集中		西浦教授	2		応用	
	H165000	ポストコロナ社会のイノベーション:展望と自由提言	通年		今中教授	2		応用	
	H167000	QOL・PRO 評価法		○*	山本教授	1		中級	
	H169000	公衆衛生の緊急事態におけるリスクコミュニケーション	集中		中山教授	1		応用	
	H170000	健康危機管理	通年		今中教授	1		応用	
	限定 科目	H082000	医療経営特別カリキュラムⅠ	集中		今中教授	2	医療経営マナージャー・プログラム 限定	応用
		H083000	医療経営特別カリキュラムⅡ		集中	今中教授	2		応用
H053000		医療経営ケーススタディ	通年・集中		今中教授	2	応用		
K026000		臨床研究計画法Ⅰ	○		川上教授	1	MCR 限定必修	応用	
K028000		臨床研究計画法演習Ⅰ	○		山本教授	1	MCR 限定必修	応用	
K030000		医療技術の経済評価	○前半		今中教授	1	MCR 限定必修	応用	
K027000		臨床研究計画法Ⅱ		○	川上教授	1	MCR 限定必修	応用	
K029000		臨床研究計画法演習Ⅱ		○	山本教授	1	MCR 限定選択	応用	
K020000		EBM・診療ガイドライン特論		○	中山教授	1	MCR 限定選択	応用	
K025000		臨床研究データ管理学		○前半	田中(佐)特定教授	1	MCR 限定選択・CB 限定必修	応用	
K034000		臨床研究特論		○	石見教授	2	MCR 限定選択	応用	
K036000		系統的レビュー	夏季集中		古川教授	1	MCR 限定選択	応用	
K033000		データ解析法特論	○後半		山本教授	1	MCR 限定選択	中級	
K035000		社会疫学研究法	○後半		近藤教授	1	MCR 限定選択	中級	
N022000		基礎人類遺伝学演習		1年次	和田特定教授・吉田特定助教	1	GC 限定	応用	



区分	科目コード	科目名	期間		主担当教員	単位	備考	レベル
			前期	後期				
	N006000	臨床遺伝学演習 (ロールプレイ演習)		1年次*	和田特定教授・鳥嶋特定助教	1	GC 限定	応用
	N020000	遺伝カウンセラーコミュニケーション概論	通年*		和田特定教授	3	GC 限定	基礎
	N007000	遺伝カウンセリング演習 1	1年次 (隔週)		川崎特定講師	2	GC 限定	基礎
	N008000	遺伝カウンセリング演習 2	2年次 (隔週)		川崎特定講師	2	GC 限定	応用
	N009000	遺伝カウンセリング実習 1	1年次		中島准教授	2	GC 限定	基礎
	N010000	遺伝カウンセリング実習 2	2年次		中島准教授	4	GC 限定	応用
	H168000	遺伝サービス情報学	○後半		川崎特定講師	1	GC 限定	基礎
	H139000	臨床統計家の実務スキル	○		大森特定教授	1	CB 限定選択	基礎
	H144000	統計的推測の基礎・演習	○*		大森特定教授	1	CB 限定選択	中級
	H146000	メタアナリシス	集中		田中司朗特定教授	1	CB・MCR 限定選択	応用
	H140000	臨床研究実地研修 I	通年・集中		田中司朗特定教授	2	CB 限定必修	応用
	H147000	臨床研究実地研修 II	通年・集中		田中司朗特定教授	2	CB 限定選択	応用

MCR＝臨床研究者養成コース、知財＝知的財産経営学プログラム、GC＝遺伝カウンセラーコース、CB＝臨床統計家育成コース

限定科目：該当する特別プログラムの者に限り履修可。

[期間] \*マークは、開講日注意。 [レベル] 基礎：予備知識を必要としないレベル、中級：一定の予備知識や経験を求めるレベル、応用：社会での実践や研究へ応用できるレベル、空欄：各シラバス参照

医学基礎 I (基礎人類遺伝学) と基礎人類遺伝学の両方を履修することはできない。

2022 年度までに「医療制度・政策」、「世界における医療制度・政策」、「行動経済学と健康医療介護」3 科目 (各 1 単位) のすべてを取得した学生は、「医療制度・政策・経済」を修得しても修了に必要な単位に算入することができない。

※ 前年度以前開講科目の科目変更については、「(別表 3) 科目変更対応表」を確認すること

(別表 1) 課題研究及び博士課程セミナー科目コード

研究分野	科目コード		
	課題研究(専門職学位課程)	[MCR]	博士課程セミナー(博士後期課程)
医療統計学	I001000		J001000
医療疫学	I002000	L002000	J002000
薬剤疫学	I003000	L003000	J003000
ゲノム情報疫学	I004000		J004000
医療経済学	I005000	L005000	J005000
医療倫理学	I006000	L006000	J006000
健康情報学	I007000	L007000	J007000
医学コミュニケーション学	I016000		J016000
環境衛生学	I009000		J009000
健康増進・行動学	I010000	L010000	J010000
予防医療学	I011000	L011000	J011000
社会疫学	I020000		J016000
健康政策・国際保健学	I013000		J013000
環境生態学	I014000		J014000
人間生態学	I015000		J015000
知的財産経営学	M018000		
遺伝医療学(遺伝カウンセラー)	N901000		
臨床統計家育成コース(臨床統計学)	I019000		

(別表 2) 社会健康医学・臨床疫学研究(演習・実習)科目コード

科目名	科目コード
社会健康医学・臨床疫学研究(演習)	P033000
社会健康医学・臨床疫学研究(実習)	P034000

(別表 3) 案

令和5年度開講科目		令和4年度以前開講科目
科目コード	科目名(新)	科目名(旧)
H166000	医療制度・政策・経済	医療制度・政策 世界における医療制度・政策 行動経済学と健康医療介護
H167000	QOL・PRO 評価法	なし
H168000	遺伝サービス情報学	なし
H169000	公衆衛生の緊急事態におけるリスクコミュニケーション	なし
H170000	健康危機管理	なし
M028000	創薬医学特論	なし

## ◇専門職学位課程特別コース及び特別プログラムについて

### <特別コース>

#### I. 臨床研究者養成 (MCR) コース

(<http://www.mcrkyoto-u.jp/>)

##### (1) 学習達成目標

- ① 臨床研究を支える種々の基本理論、知識、実践技術に習熟すること。
- ② 自分の臨床上の疑問に基づいた臨床研究を計画し、研究プロトコルの作成、研究の実施・マネジメント、得られたデータの基本的な解析処理、結果の解釈、論文にまとめる、などの一連の作業を独力でできる。
- ③ 自分の臨床研究の計画・実施・解析・解釈の過程で生じる疑問について、適切な時期に、適切な専門家に、適切な相談・照会ができる。

##### (2) 本コースのカリキュラムの特徴

- ① 集中的な授業・実習  
本コースでは、臨床研究の基本（理論、知識、方法、実践）を1年間で体系的に学習できるよう全体のカリキュラムが構成されている。加えて、本コース推奨科目以外にも社会健康医学系専攻が提供する殆ど全ての科目を履修することができる。なお、学生が入学前に取得した科目があり、既修得単位として認められれば履修が免除される。
- ② 個別指導（メンタリング）の重視  
本コースの学生には、入学時に1～2名の個別指導担当教員（メンター）を決定し、この担当教員が責任を持って担当学生の研究プロトコルの作成やデータの解析の指導、および実際の研究計画実施上の指導を行なう。研究の種類にもよるが、必要に応じて2名が指導教員となることもある。この個別指導は、本コース在学期間のみでなく、双方の合意のもとに、修了後も、研究実施、結果解析、論文作成まで継続的に行うことを念頭につくられている。指導教員の決定にあたっては、学生本人と本コース教員の間で協議を行ない決定する。
- ③ 修了時の課題研究発表と試問  
本コース修了時に、全ての学生は、自分の臨床上の疑問に基づく臨床研究を完成させ（研究プロトコルも認める）、発表会で試問を受け、合格する必要がある。  
なお専門職大学院のため、修士論文などは課さない。

##### (3) 修了要件

科目	単位数
MPH コア 5 領域 (コア領域 1 - 5 のすべての領域を含む 7 単位以上*) および MCR 必修科目	14
選択科目	12
課題研究	4
計	30

\*詳細は、「MCR コース授業科目一覧表」を参照。

平成 28 年度以降入学者は、上記を適用する。

照会先：臨床情報疫学分野および各担当分野

令和5年度 社会健康医学系専攻 臨床研究者養成(MCR)コース 授業科目一覧表

区分	科目コード	科目名	期間		主担当教員	単位	備考	
			前期	後期				
MCR 必修	K026000	★ 臨床研究計画法Ⅰ	○		川上教授	1	MCR 限定	
	K027000	★ 臨床研究計画法Ⅱ		○	川上教授	1	MCR 限定	
	K028000	★ 臨床研究計画法演習Ⅰ	○		山本教授	1	MCR 限定	
	H001000	医療統計学	○		佐藤教授	2	【コア領域2】	
	H118000	疫学Ⅰ (疫学入門)	○		中山教授	1	【コア領域1】	
	H119000	疫学Ⅱ (研究デザイン)	○前半		山本教授	1	【コア領域1】	
	K030000	★ 医療技術の経済評価	○前半		今中教授	1	MCR 限定	
	H094000	文献評価法	○後半		中山教授	1		
	H112000	臨床試験	○		田中司朗特定教授	2		
	-	コア領域3の科目を最低1単位*				1	【コア領域3】	
	-	コア領域4の科目を最低1単位**				1	【コア領域4】	
	-	コア領域5の科目を最低1単位***				1	【コア領域5】	
		L002000	課題研究：MCR (医療疫学)			通年 指導教員	4	指導教員が講義する課題研究を履修
		L003000	課題研究：MCR (薬剤疫学)					
	L005000	課題研究：MCR (医療経済学)						
	L006000	課題研究：MCR (医療倫理学)						
	L007000	課題研究：MCR (健康情報学)						
	L011000	課題研究：MCR (健康増進・行動学)						
	L010000	課題研究：MCR (予防医療学)						
MCR 推奨 選択	K036000	★ 系統的レビュー	夏季集中		古川教授	1	MCR 限定選択	
	K033000	★ データ解析法特論	○後半		山本教授	1	MCR 限定選択	
	K020000	★ EBM・診療ガイドライン特論		○	中山教授	1	MCR 限定選択	
	K029000	★ 臨床研究計画法演習Ⅱ		○	山本教授	1	MCR 限定選択	
	K025000	★ 臨床研究データ管理学		○前半	田中(佐) 特定教授	1	MCR 限定選択 CB 限定必修	
	K034000	★ 臨床研究特論		○	石見教授	2	MCR 限定選択	
	K035000	★ 社会疫学研究法	○後半		近藤教授	1	MCR 限定選択	
	H129000	医療の質評価	○後半		今中教授	1		
	H011000	医療統計学実習	○		佐藤教授	2		
	H076000	基礎医療倫理学	○前半		中島准教授	1	【コア領域5】	
	H075000	行動科学	○前半		田近准教授	1	【コア領域5】	
	H021000	交絡調整の方法		○	大森特定教授	2		
	H022000	解析計画実習		○	大森特定教授	2		
	H130000	健康情報学Ⅰ		○	中山教授	2		
	H109000	医薬政策・行政		○前半	川上教授	1	【コア領域4】	
	H079000	医薬品の開発と評価		○後半	川上教授	1		
	H099000	医薬品・医療機器の開発計画、薬事と審査		○	川上教授	2		
	H146000	メタアナリシス	集中		田中司朗特定教授	1	CB・MCR 限定選択	
	H167000	QOL・PRO 評価法		○*	山本教授	1		

★ MCR 限定科目は、MCR 専科生および受講生のみ受講可能である。聴講は不可。

\*コア領域3の科目とは、感染症疫学および産業・環境衛生学(西浦教授)であり、修了要件としていずれかの科目から1以上の単位取得が必要。

\*\*コア領域4の科目とは、社会健康医学と健康政策(健康政策の運営委員会)、医薬政策・行政(川上教授)、保健・医療の経済評価、医療制度・政策・経済(今中教授)であり、修了要件としていずれかの科目から1以上の単位取得が必要。

\*\*\*コア領域5の科目とは、行動科学(古川教授)、基礎医療倫理学(中島准教授)、医学コミュニケーション基礎(岩隈准教授)、社会疫学(近藤教授)であり、修了要件としていずれかの科目から1以上の単位取得が必要。

†開講日注意

※上記以外のシラバスに掲載されている MPH 科目(他のコース等の限定科目を除く)を選択科目として履修することができる(開講日時が同一の科目を同時に履修登録することは不可)。

## II. 遺伝カウンセラーコース

(<http://sph.med.kyoto-u.ac.jp/class-06.html>)

### (1) 遺伝カウンセラーコースの概要

ゲノム・遺伝情報を利用した医療、遺伝薬理学情報に基づいたテーラーメイド医療に対応できる高度な専門的知識と技術ならびにコミュニケーション能力をもち、患者・家族の立場を理解して新医療とのインターフェースとなりうる人材を総合的に養成する。

### (2) 遺伝カウンセラーコースの特徴

- ① 充実したスタッフ：この分野でトップレベルの多数の指導者が社会健康医学系専攻の教員とともに充実した専門教育を行う。
- ② 社会健康医学の幅広い素養：社会健康医学コア科目を履修する。修了時には、社会健康医学修士(専門職)(Master of Public Health; MPH)の学位が授けられる。
- ③ 充実した実習：現場での実習に特に重点を置いており、京都大学医学部附属病院遺伝子診療部などでの充実した実習が可能である。
- ④ 資格認定試験受験資格：遺伝カウンセラーコース：コース終了後、「認定遺伝カウンセラー」資格認定試験受験資格が得られる。

### (3) 修了要件

科目	「医療系」 出身者※	「医療系」 以外出身者
MPH コア 5 領域 (コア領域 1 - 5 のすべての領域を含むこと)	7	7
医学基礎 I (注1)、医学基礎 II、臨床医学概論	—	6
遺伝カウンセラーコース必修	2 9	2 7
課題研究	4	4
合計	4 0	4 4

※「医療系」出身者：医学部・看護学部・歯学部・薬学部・公衆衛生学部などの医療系学部の出身者  
上記以外でかつ生物系等学部、医療系短期大学及び医療系専門学校の出身者であっても医療系の国家資格を取得できる  
コースの出身者が「医療系」出身者として認定を希望する場合は、一括認定の対象とする。

「上記の一括認定されなかった者」で、「医療系」出身者としての認定を求める際は、入学時に申請が必要である。  
平成 28 年度以降入学者は、上記を適用する。

(注1) 医学基礎 I として、「医療系以外出身者」は「医学基礎 I (「基礎人類遺伝学」) を履修すること。なお、「医療系出身者」は「基礎人類遺伝学」を履修すること (令和 4 年度以降入学者)。

#### (参考) 課題研究：

初年度の学習や実習経験に基づいて専門領域の発展にふさわしいテーマを見出し、テーマごとにもっとも適切な教員の指導のもと、遺伝医療および遺伝カウンセリングの臨床現場の質の向上に資するとともに、クライアントの QOL の改善につながるような研究を行い、とりまとめを行う。

照会先：遺伝医療学分野

令和5年度 社会健康医学系専攻 遺伝カウンセラーコース 授業科目一覧表

区分	科目コード	科目名	期間		主担当教員	単位	備考
			前期	後期			
コア領域 1	H118000	疫学Ⅰ（疫学入門）	○		中山教授	1	必修
	H119000	疫学Ⅱ（研究デザイン）	○前半†		山本教授	1	必修
コア領域 2	H001000	医療統計学	○		佐藤教授	2	必修
コア領域 3	H070000	感染症疫学	○後半		西浦教授	1	選択必修
	H124000	産業・環境衛生学	○		西浦教授	1	選択必修
コア領域 4	H166000	医療制度・政策・経済	○		今中教授	2	選択必修
	H127000	社会健康医学と健康政策	○		健康政策の運営委員会	2	選択必修
	H109000	医薬政策・行政		○前半	川上教授	1	選択必修
コア領域 5	H075000	行動科学	○前半		田近准教授	1	推奨
	H076000	基礎医療倫理学	○前半		中島准教授	1	GC 必修
	H077000	医学コミュニケーション基礎	○前半		岩隈准教授	1	推奨
MPH 必修	H164000	医学基礎Ⅰ（基礎人類遺伝学）	○		和田特定教授	2	「医療系」以外の出身者のみ必修。
	H007000	医学基礎Ⅱ		○	尾野准教授・加藤准教授・塩見助教・山地助教・河田講師	2	
	H008000	臨床医学概論		○	奥野講師・鏑崎助教・岩崎講師・星野特定講師・千葉非常勤講師	2	
	N901000	課題研究（遺伝カウンセラー）	2年次		所属分野の指導員	4	
GC 必修	H040000	基礎人類遺伝学	1年次		和田特定教授	2	
	N015000	遺伝医療と倫理・社会	1年次		和田特定教授	2	
	N021000	臨床遺伝学・遺伝カウンセリング	1年次		中島准教授	3	
	N022000	基礎人類遺伝学演習		1年次	和田特定教授・吉田特定助教	1	GC 限定
	N006000	臨床遺伝学演習（ロールプレイ演習）		1年次	和田特定教授・鳥嶋特定助教	1	GC 限定
	N018000	医療倫理学各論		1年次	中島准教授	2	
	N017000	遺伝医学特論（集中講義）	2年次		中島准教授	2	
	N020000	遺伝カウンセラーコミュニケーション概論	1年次		和田特定教授	3	GC 限定
	N007000	遺伝カウンセリング演習 1	1年次（隔週）		川崎特定講師	2	合同カンファレンス
	N008000	遺伝カウンセリング演習 2	2年次（隔週）		川崎特定講師	2	合同カンファレンス
	N009000	遺伝カウンセリング実習 1	1年次		中島准教授	2	GC 限定
	N010000	遺伝カウンセリング実習 2	2年次		中島准教授	4	GC 限定
	M022000	ゲノム科学と医療		1年次	松田教授	2	
	H168000	遺伝サービス情報学	○後半		川崎特定講師	1	GC 限定
GC 推奨 選択	H157000	社会疫学	○		近藤教授	2	
	H156000	質的研究入門	集中		中山教授・河野特定助教	1	
	S004000	統計遺伝学Ⅰ	集中			2	参考科目、2023年度は開講せず
	S005000	統計遺伝学Ⅱ		集中		2	参考科目、2023年度は開講せず
	H093000	文献検索法	○前半		高橋准教授	1	
	H094000	文献評価法	○後半		中山教授	1	

※ GC = 遺伝カウンセラーコース

† 開講日注意

医学基礎Ⅰ（基礎人類遺伝学）と基礎人類遺伝学の両方を履修することはできない。

### Ⅲ. 臨床統計家育成 (CB) コース

(<http://www.cbc.med.kyoto-u.ac.jp/>)

#### (1) 学習達成目標

- ① 臨床研究の科学的な質を保つために必要な統計学基礎および臨床統計学を修めること。特に「臨床試験のための統計的原則 (ICH E9 ガイドライン)」について十分に理解すること。
- ② 病院での臨床研究に関する実地研修を通じて、統計解析、データマネジメント等の実務を経験し、臨床統計家に求められる技術に習熟すること。
- ③ 臨床研究の倫理的な質を保つために必要な知識・態度を身に着けること。特に日本計量生物学会作成の「統計家の行動基準」について十分に理解すること。

#### (2) 本コースのカリキュラムの特徴

本コースは、臨床統計家の人材供給を求める日本の臨床研究現場からの強いニーズにより設置された2年制の専門職学位課程である。コース修了後は、臨床統計家育成コースを修了したことを証明する修了証とともに社会健康医学修士(専門職)が授与される。本コースでは、臨床統計家に必要な知識、技術、態度を2年間で体系的に学習できるように、臨床統計関連科目だけではなく、医学、疫学、研究倫理などから全体のカリキュラムが構成されている。これに加えて、臨床試験を実施している京都大学医学部附属病院・国立循環器病研究センターと連携し、on the job training による臨床研究に関する実地研修を提供する(1年次・2年次の夏季集中で行う臨床研究実地研修Ⅰ・Ⅱ)。この実務経験を通じて、計画立案、データマネジメント、解析等、臨床統計学の実践的な技術を学ぶことができる。また、本コース推奨科目以外にも社会健康医学系専攻が提供する多くの科目を履修することができる。

#### (3) 修了要件

科目	「医療系」 出身者※	「医療系」 以外出身者
MPH コア 5 領域 (コア領域 1 - 5 のすべての領域を含むこと)	10	10
医学基礎Ⅰ <sup>(注1)</sup> 、医学基礎Ⅱ、臨床医学概論	—	6
臨床統計家育成コース必修	19	19
課題研究	4	4
合計	33	39

※「医療系」出身者：医学部・看護学部・歯学部・薬学部・公衆衛生学部などの医療系学部の出身者

上記以外でかつ生物系等学部、医療系短期大学及び医療系専門学校出身者であっても医療系の国家資格を取得できるコースの出身者が「医療系」出身者として認定を希望する場合は、一括認定の対象とする。

「上記の一括認定されなかった者」で、「医療系」出身者としての認定を求める際は、入学時に申請が必要である。

(注1) 令和4年度以降は「医学基礎Ⅰ」として、「医学基礎Ⅰ(生理学Ⅰ)」「医学基礎Ⅰ(神経生理学)」「医学基礎Ⅰ(解剖学)」あるいは「医学基礎Ⅰ(基礎人類遺伝学)」のいずれか履修すること。

照会先：医療統計学分野および臨床統計学分野

令和5年度 社会健康医学系専攻 臨床統計家育成コース 授業科目一覧表

区分	科目コード	科目名	期間		主担当教員	単位	備考
			前期	後期			
コア領域1	H118000	疫学Ⅰ（疫学入門）	○		中山教授	1	必修
	H119000	疫学Ⅱ（研究デザイン）	○前半†		山本教授	1	必修
コア領域2	H001000	医療統計学	○		佐藤教授	2	必修
コア領域3	H070000	感染症疫学	○後半		西浦教授	1	選択必修
	H124000	産業・環境衛生学	○前半		西浦教授	1	選択必修
コア領域4	H166000	医療制度・政策・経済	○		今中教授	2	選択必修
	H127000	社会健康医学と健康政策	○		健康政策の運営委員会	2	選択必修
	H109000	医薬政策・行政		○前半	川上教授	1	推奨
	H126000	保健・医療の経済評価	○前半		今中教授	1	推奨
コア領域5	H075000	行動科学	○前半		田近准教授	1	選択必修
	H076000	基礎医療倫理学	○前半		中島准教授	1	選択必修
	H077000	医学コミュニケーション基礎	○前半		岩隈准教授	1	選択必修
	H157000	社会疫学	○		近藤教授	2	選択必修
MPH 必修	H154000	医学基礎Ⅰ（生理学Ⅰ）	○前半		西浦教授	2	「医療系」以外の出身者のみ必修。ただし、医学基礎Ⅰ（生理学Ⅰ）・医学基礎Ⅰ（神経生理学）・医学基礎Ⅰ（解剖学）・医学基礎Ⅰ（基礎人類遺伝学）についてはいずれか1つを選択必修。
	H163000	医学基礎Ⅰ（神経生理学）		○前半	西浦教授	2	
	H153000	医学基礎Ⅰ（解剖学）	○前半		西浦教授	2	
	H164000	医学基礎Ⅰ（基礎人類遺伝学）	○		和田特定教授	2	
	H007000	医学基礎Ⅱ		○	尾野准教授・加藤准教授・塩見助教・山地助教・河田講師	2	
	H008000	臨床医学概論		○	奥野講師・錦織助教・岩崎講師・星野特定講師・千葉非常勤講師	2	
	I019000	課題研究（臨床統計家育成コース）	2年次		各指導教員	4	
CB 必修	H136000	統計的推測の基礎	○		大森特定教授	2	
	H134000	統計家の行動基準	○†		佐藤教授	1	
	H011000	医療統計学実習	○		佐藤教授	2	
	H112000	臨床試験	○		田中司朗特定教授	2	
	H137000	生存時間解析		集中	大森特定教授	1	夏季集中講義
	H138000	統計モデルとその応用		集中	大森特定教授	1	夏季集中講義
	H021000	交絡調整の方法		○	大森特定教授	2	
	H022000	解析計画実習		○	大森特定教授	2	
	H135000	臨床試験の統計的方法		○	田中司朗特定教授	1	
	K025000	臨床研究データ管理学		○	田中（佐）特定教授	1	MCR 限定選択・CB 限定必修
	H140000	臨床研究実地研修Ⅰ	通年・集中		田中司朗特定教授	2	CB 限定必修（病院での実習）
H147000	臨床研究実地研修Ⅱ	通年・集中		田中司朗特定教授	2	CB 限定必修（病院での実習）	
CB 推奨 選択	H139000	臨床統計家の実務スキル	○		大森特定教授	1	
	H084000	観察研究の統計的方法	○†		佐藤教授	2	
	H093000	文献検索法	○前半		高橋准教授	1	
	H094000	文献評価法	○後半		中山教授	1	
	H144000	統計的推測の基礎・演習	○		大森特定教授	1	CB 限定選択
	H145000	多重性の考え方	○前半		大森特定教授	1	



H079000	医薬品の開発と評価		○後半	川上教授	1	
H099000	医薬品・医療機器の開発計画、薬事と審査		○	川上教授	2	
M022000	ゲノム科学と医療		○	松田教授	2	
H130000	健康情報学Ⅰ		○	中山教授	2	
H151000	健康情報学Ⅱ		○	高橋准教授	2	
H146000	メタアナリシス	集中		田中司朗特定教授	1	CB・MCR 限定選択

※ CB = 臨床統計家育成コース

† 開講日注意

## ＜特別プログラム＞

### I. 知的財産経営学プログラム

#### (1) 知的財産経営学プログラムの概要

大学の研究成果をもとに新規産業を興し経営するには、これまでの日本の企業風土で蓄積された企業文化、経営のノウハウとは異なるものが要求される。その一つが技術経営であり、特に知的財産を最大限に活用する知的財産戦略を担うディレクター（知的財産ディレクター）の仕事である。ここで期待される人材は、複数の異なるベクトルを持つ必要がある。

- ① 自然科学の分野において、医学研究科で先端医学領域の研究を実施している教員や産業界における探索・開発研究の経験が豊富な教員による講義により、トップレベルの科学的な知識とその活用にあたっての社会的受容性の知識を習得してもらう。
- ② 人文・社会健康医学系専攻科学の分野において、知的財産権やその他ビジネスに関する基礎は、各専門分野により選ばれた教員の講義から知識を学ぶと共に、実業界でのキャリアを持つ講師（ベンチャーキャピタル分野）から、企業会計や知的財産の市場評価・流通の実務的なスキルと知識を学ぶ。
- ③ 上記により習得した知識をベースとして、実務経験を通じた知識の深化と、即戦力としての実務能力の養成を行う。具体的には、京都大学医学領域拠点業務との連携やエクスターンシップの実施も含めて、テーマ毎に適切な指導教員のもとで研究者とも連携し、研究成果の権利化と活用の実務を手伝う。実施項目としては、発明の抽出、周辺特許調査、明細書作成、ビジネスプラン作成、契約実務作業等を経験する。これらにより発明の開示から知的財産としての活用までの全体の流れを把握し、出願妥当性の判断に至る経緯の考察や産業界との連携における問題点と解決法に関する考察などのプレゼンテーションまで実際に経験させる。

これらにより専門職大学院として問題解決能力、実践・実務能力を身に付け、生命科学分野における知的財産経営、技術経営に関する高度な専門性を有する人材養成のための教育研究を行う。

#### (2) 修了要件

本プログラムの修了要件は、2年以上在学し、下記の30単位を修得し、本プログラムが定めるカリキュラムを修了することである。

##### 【2022年度以前入学者】

	「医学部医学科」出身者	「医学部医学科」以外出身者
MPH コア5領域(コア領域1-5のすべての領域を含む)	7	7
知的財産領域必修	1 2	1 2
課題研究(知的財産経営学)	4	4
医学領域選択必修	3	3
選択	4	4
計	3 0	3 0

##### 【2023年度以降入学者】

	「医療系」出身者	「医療系」以外出身者
MPH コア5領域(コア領域1-5のすべての領域を含む)	7	7
MPH 必須	—	6
知的財産領域必修	8	8
課題研究(知的財産経営学)	4	4
選択	1 1	5
計	3 0	3 0

照会先：知的財産経営学分野

令和5年度 社会健康医学系専攻 知的財産経営学プログラム 授業科目一覧表

区分	科目コード	科目名	期間		主担当教員	単位	備考
			前期	後期			
コア領域1	H118000	疫学Ⅰ（疫学入門）	○		中山教授	1	必修
	H119000	疫学Ⅱ（研究デザイン）	○前*		山本教授	1	必修
コア領域2	H001000	医療統計学	○		佐藤教授	2	必修
コア領域3	H070000	感染症疫学	○後半		西浦教授	1	選択必修
	H124000	産業・環境衛生学	○前*		西浦教授	1	
コア領域4	H166000	医療制度・政策・経済	○		今中教授	2	選択必修
	H126000	保健・医療の経済評価	○前*		今中教授	1	
	H127000	社会健康医学と健康政策	○		健康政策の運営委員会	2	
	H109000	医薬政策・行政		○前*	川上教授	1	
コア領域5	H075000	行動科学	○前*		田近准教授	1	選択必修
	H076000	基礎医療倫理学	○前*		中島准教授	1	
	H077000	医学コミュニケーション基礎	○前*		岩隈准教授	1	
	H157000	社会疫学	○		近藤教授	2	
MPH 必修	H154000	医学基礎Ⅰ（生理学Ⅰ）	○前*		西浦教授	2	「医療系」以外の出身者のみ必修。ただし、医学基礎Ⅰ（生理学Ⅰ）・医学基礎Ⅰ（神経生理学）・医学基礎Ⅰ（解剖学）・医学基礎Ⅰ（基礎人類遺伝学）についてはいずれか1つを選択必修。
	H163000	医学基礎Ⅰ（神経生理学）		○前半	西浦教授	2	
	H153000	医学基礎Ⅰ（解剖学）	○前*		西浦教授	2	
	H164000	医学基礎Ⅰ（基礎人類遺伝学）	○		和田特定教授	2	
	H007000	医学基礎Ⅱ		○	尾野准教授・加藤講師・塩見助教・渡部病院特定助教・河田講師	2	
	H008000	臨床医学概論		○	奥野講師・錦織助教・岩崎講師・星野特定講師・千葉非常勤講師	2	
	M018000	課題研究（知的財産経営学）	2年次		各指導教員	4	
知的財産領域必修	M001000	アントレプレナーシップ	○		寺西非常勤講師	2	一部科目で集中講義や不規則開講の形式をとるものもあり。各シラバスなどを確認すること。
	M026000	メディカル分野技術経営学概論	○		山本非常勤講師	2	
	M024000	特許法特論・演習(前期)	○		高山非常勤講師・東田非常勤講師	2	
	M004000	契約実務演習		○	鈴木特定准教授	2	
選択	M017000	知的財産経営学基礎	○		早乙女特定教授	2	
	M021000	アントレプレナーシップ特論	集中		早乙女特定教授	2	夏期集中講義
	M025000	特許法特論・演習(後期)		○	田中順也非常勤講師	2	
	M007000	知的財産法演習		○	當麻非常勤講師	2	
	M028000	創薬医学特論		○	早乙女特定教授	1	
	M022000	ゲノム科学と医療		○	松田(文)教授	2	
	H079000	医薬品の開発と評価		○後半	川上教授	1	
	M009000	薬理学 <sup>(医)</sup>	(春学期)		林教授	2	
	M027000	生化学 <sup>(医)</sup>	(春学期)		竹内教授	2	

注1：<sup>(医)</sup>は医学部医学科の科目

注2：選択科目にはこの他にも、経済学研究科、法学研究科の関連科目を個別に単位認定する可能性があるため、指導教員に確認すること。

\*開講日注意

(別表)

2023年度科目		2022年度科目	
区分	科目名	区分	科目名
選択	特許法特論・演習(後期)	知的財産領域必修	特許法特論・演習(後期)
選択	知的財産法演習	知的財産領域必修	知的財産法演習

選択	医薬品の開発と評価	医学領域選択必修	医薬品の開発と評価
選択	薬理学 <sup>(医)</sup>	医学領域選択必修	薬理学 <sup>(医)</sup>
選択	生化学 <sup>(医)</sup>	医学領域選択必修	生化学 <sup>(医)</sup>
選択	創薬医学特論		
		医学領域選択必修	病理学総論 <sup>(医)</sup>
		医学領域選択必修	生理学 <sup>(医)</sup>
		医学領域選択必修	発生学 <sup>(医)</sup>
		医学領域選択必修	遺伝医学特論(集中講義)

## II. 医療経営ヤングリーダー・プログラム

### (1) 医療経営ヤングリーダー・プログラムの概要

医療経営ヤングリーダー・プログラムは、高度専門職である医療経営幹部候補生およびこの領域の将来のリーダーを育成するためのプログラムであり、財務、会計、経営分析、市場分析、組織論・組織行動、組織文化の把握、質保証・業務改善、情報システム、法と倫理、関連ビジネス、政策・制度などについて学び、新たな教材や教育方法の創造にも参加し、経営実力者の人格と出会い、現場に身を置いて演習、調査、ケーススタディ等を行う。

当プログラムは、面接、審査の上、経営の素養と意欲のある人材、各年若干名を対象に開講する。ケーススタディに加えて、プロジェクト形式で、経営実例に直結する調査、分析、支援活動などを進め、情報収集、分析、妥当な計画立案、説得力ある討議、環境適応、変革・創造、行動の力を高めるべく訓練を行う。これらを通じて現実の医療経営に大いに貢献できる人材の基盤作りを行い、医療機関の将来の経営幹部、そして我が国の医療経営界において将来に主導的役割を担いうる人材の養成をめざす。

### (2) 医療経営ヤングリーダー・プログラムの修了要件

- ① 社会健康医学系専攻専門職学位課程の修了のための要件を満たすこと
- ② 下記を全て履修すること

区分	科目コード	科目名	単位	時期
コア領域4	H166000	医療制度・政策・経済	2	前期
コア領域4	H126000	保健・医療の経済評価	1	前期前半
MPH 選択	H129000	医療の質評価	1	前期後半
限定	H082000	医療経営特別カリキュラムⅠ	2	前期
限定	H083000	医療経営特別カリキュラムⅡ	2	後期
限定	H053000	医療経営ケーススタディ	2	通年
MPH 必修	I005000	課題研究(医療経済学分野)	4	—

※前年度以前開講科目の科目変更については、「(別表) 科目変更対応表」を確認すること。

- 社会健康医学系専攻の多くの科目の選択を自ら設計して積極的に履修することを強く推奨する。
  - さらに、経営管理大学院、公共政策大学院、または経済学研究科の科目を履修することを強く推奨する。
  - また、当該分野でのセミナーに積極的に参加することが求められる。
- ③ 課題研究で医療経営に関わる課題に取り組むこと

照会先：医療経済学分野





◇ 社会健康医学系専攻 2023年度 後期時間割 (10~3月) : 全教科

月	火	水	木	金
1限 8:45~10:15		【MPH選択必修(医療系以外)】 【知財選択必修】 医学基礎Ⅰ (神経生理学) (後期前半) 【人問健康第9】	【GO限定必修】 遺伝カウンセリング コミュニケーション 概論 和田 【演習】	
2限 10:30~12:00	【MPH選択】 【MCR推奨選択】 交絡調整の方法 大森 【A】	【MPH選択】 【MCR推奨選択】 交絡調整の方法 大森 【A】	【MPH必修(医療系以外)】 【知財選択必修】 医学基礎Ⅱ 教務委員会 【A】	【MPH推奨】 【MCR推奨選択】 健康情報学Ⅰ 中山 【A】
3限 13:15~14:45	【MPH選択】 【MCR推奨選択】 QOL-PRO 評価法 山本(洋) 【A】	【MPH選択】 【MCR推奨選択】 医薬品・医療機器の開 発計画、審査と審査 川上 【演習】	【MPH選択】 【知財選択必修】 地域保健活動論 (後期前半) 近藤 【先講】	【MCR限定選択】 【GO必修】 EBM・診療ガイドライン 特論 中山 【演習】
4限 15:00~16:30	【MPH選択】 【MCR推奨選択】 人間生薬学 坂本 【東アジア研究所・東 棟E202】	【MPH選択】 【MCR推奨選択】 環境・感染症論 山崎 【東アジア地域研究 所・東棟E202】	【MPH選択】 【GO必修】 ゲノム科学と 医療 松田 【南館総合研究棟とオン ライン】	【MPH選択】 【MCR推奨選択】 健康情報学Ⅱ 高橋 【演習】
5限 16:45~18:15	【MCR限定必修】 臨床研究計画法Ⅱ 川上 【A】	【MPH選択】 【MCR推奨選択】 臨床試験の 統計的方法 (後期前半) 田中(司) 【B】	【GO限定必修】 基礎人種遺伝学 講習 (1年次) 和田・吉田 【演習】	【MPH選択】 ポストコロナ社 会のイノベーション ・展望と自 由発言 (通年) 今中 【A】
6限 18:30~20:00	【MCR限定選択】 臨床研究特論 石原 【B】	【知財必修】 【MPH選択】 契約実務演習 鈴木 【MIG】	【MCR限定選択・CB限 定必修】 臨床研究データ管 理学 (後期前半) 田中(佐) 【B】	【GO限定必修】 遺伝カウンセリング 演習1・2 (通年) 川崎 【A】
	【MCR限定選択】 【MPH選択】 知的財産法演習 藤原 【MIG】	【知財必修】 【MPH選択】 特許法特論・演習 (後期) 田中(順) 【MIG】	【MPH選択】 健康危機管理 今中 【A】	

**集中講義・随時・不開講など:**  
 【MPH選択】 質的研究・演習 (通年・集中) 岩隈  
 【MPH選択】 健康デザイン論 (通年・集中) 中山  
 【MPH選択】 ベンチマーキングコース (後期・集中) 原田  
 【MPH選択】 生存時間解析 (後期・集中) 大森  
 【MPH選択】 統計モデルとその応用 (後期・集中) 大森  
 【MPH選択】 公衆衛生の緊急事態におけるリスクコミュニケーション (通年・集中) 中山  
 【知財選択】 創薬医学特論 (後期・不定期) 早乙女  
 【MPH選択】 社会健康医学専攻外実習 (通年・集中) 所属分野の指導教員等  
 【MPH選択】 【GO推奨選択】 統計遺伝学Ⅱ (今年度は不開講)

**限定科目:**  
 【医療経営やグリーナー・プログラム(限定)】 医療経営ケーススタディ (通年・集中) 今中  
 【医療経営やグリーナー・プログラム(限定)】 医療経営特別カリキュラムⅡ (後期・集中) 今中  
 【政策のための科学(限定選択)】 科学技術コミュニケーション演習 (通年) 川上  
 【政策のための科学(限定必修)】 研究プロジェクト (通年) 川上  
 【CB(限定必修)】 臨床研究実地研修Ⅰ (通年・集中) 田中(司)  
 【CB(限定必修)】 臨床研究実地研修Ⅱ (通年・集中) 田中(司)  
 【GO(限定)】 遺伝カウンセリング実習Ⅰ・Ⅱ (通年・随時) 中島









## 社会健康医学系専攻授業科目内容

科目ナンバリング	P-PUB01 8H118 LB90										
授業科目名 -英語-	疫学 I (疫学入門) 【領域1】 Epidemiology I				担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 中山 健夫 医学研究科 教授 佐藤 俊哉 滋賀医科大学 教授 三浦 克之 京都健康長寿医療センター 石崎 達郎 研究部長 田原 康玄 静岡社会健康医学大学院大学 教授					
配当 学年	専門職	単位数	1	開講年度・ 開講期	2023・ 前期集中	曜時間	金3・4	授業 形態	講義	使用 言語	日本語及び英語
<b>【授業の概要・目的】</b>											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・本コースは医学研究科社会健康医学系専攻の必須科目の一つです。</li> <li>・臨床研究を含む社会健康医学（パブリックヘルス）領域において、最も基本となる疫学の考え方、方法論についての入門的な講義を行います。</li> <li>・原則として金曜3限ですが、3限と4限の2コマ連続で講義をおこなう場合があります。</li> </ul>											
<b>【到達目標】</b>											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・疫学の基本的考え方、用語、概念、方法論を説明できる。</li> <li>・疫学の発展的な知識を学ぶための基礎を身に付ける。</li> </ul>											
<b>【授業計画と内容】</b>											
第1回 4月14日 (3限) イントロダクション (中山) 第2回 4月14日 (4限) コホート研究・症例対照研究 (中山) 第3回 4月21日 (3限) 歴史と事例から学ぶ疫学 (佐藤) 第4回 4月28日 (3限) 介入研究 (中山) 第5回 4月28日 (4限) 追跡型研究 (中山) 第6回 5月12日 (3限) 疫学をめぐる最近の話題 (中山) 第7回 5月12日 (4限) 高齢者の疫学研究 (石崎) 第8回 6月2日 (3限) 視聴覚教材「大いなる航海」 (中山) 6月9日 (3限) テスト 特別講義予定あり (三浦・田原)											
<b>【履修要件】</b>											
特になし											
<b>【成績評価の方法・観点】</b>											
テスト (80%)、毎回の小レポート提出 (20%)											
<b>【教科書】</b>											
講義資料は配布											
<b>【参考書等】</b>											
(参考書) 川村孝『エビデンスをつくる』(医学書院)											

疫学 I (疫学入門) 【領域1】 (2)
中山健夫・津谷喜一郎『臨床研究と疫学研究のための国際ルール集』(ライフサイエンス出版) 矢野栄二・橋本英樹『ロスマンの疫学』(篠原出版新社) 厚生統計協会編集『図説・国民衛生の動向』(厚生統計協会) ロドルフォ・サラッチ著『読んでわかる! 疫学入門』(大修館書店)
<b>【授業外学修(予習・復習)等】</b>
予習は特に必要でないが、講義の復習には十分時間をあててください。
<b>【その他(オフィスアワー等)】</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・症例研究や基礎的研究と異なる「人間集団を対象とする」という疫学研究の意義と可能性を理解してもらえればと願っています。</li> <li>・本コースの内容の多様性と一貫性を保つために、担当教員はシラバス作成時、学期中、終了後など、適宜、意見交換を行い、講義資料を共有して連携を図っています。</li> <li>・留学生対応として、講義資料の事前提供、Key termの日英併記を進めます。</li> <li>・特別講義の予定は初回の講義で説明します。</li> </ul> 人間健康科学系専攻学生の受講可否：可 ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	P-PUB01 8H119 LB90										
授業科目名 -英語-	疫学 II (研究デザイン) 【領域1】 Epidemiology II				担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 山本 洋介 医学研究科 准教授 小川 雄右 非常勤講師 神代 和明 非常勤講師 土方 保和 非常勤講師 三品 浩基					
配当 学年	専門職	単位数	1	開講年度・ 開講期	2023・ 前期前半	曜時間	金1,2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語及び英語
<b>【授業の概要・目的】</b>											
※ 状況により、オンライン授業で実施することがあります。 社会健康医学領域の研究デザインに必要な理論や基本的知識を、実例を交えて学びます。 なお、質的な研究は含まれません。											
<b>【到達目標】</b>											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の疑問をリサーチクエスチョンに構造化できる。</li> <li>・様々な研究事例にふれ、自身の研究を着想するための基礎となる知識を身に付ける。</li> </ul>											
<b>【授業計画と内容】</b>											
1) 4/21 (1限) イントロダクション・研究デザインとは (山本) 2) 5/12 (1限) リサーチクエスチョンの構造化 (小川) 3) 5/26 (1限) 調査研究法(山本) 4) 5/26 (2限) 事例：質問票を用いた研究 (三品・山本) 5) 6/9 (1限) メタアナリシス・システマティックレビューの概要(小川) 6) 6/9 (2限) 診断研究・予後予測指標に関する研究 (土方) 7) 6/23 (1限) 分割時系列デザインを用いた研究 (神代) 8) 6/23 (2限) 事例：近年の臨床研究のトピックから (小川・神代・山本)											
<b>【履修要件】</b>											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・MPHコア(必修)MCR必修科目</li> <li>・「疫学I」を履修中あるいは履修済であることが履修要件です。</li> </ul>											
<b>【成績評価の方法・観点】</b>											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・平常点(出席含む) 50%</li> <li>・レポート 50%</li> </ul>											
<b>【教科書】</b>											
授業中に指示する											
<b>【参考書等】</b>											
(参考書) 授業中に紹介する											

疫学 II (研究デザイン) 【領域1】 (2)
<b>【授業外学修(予習・復習)等】</b>
予習は必要ないが、復習を充分行うこと。
<b>【その他(オフィスアワー等)】</b>
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	P-PUB01 8H001 LJ90										
授業科目名 <英訳>	医療統計学 (コア) 【領域2】 Fundamentals of Biostatistics				担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 佐藤 俊哉					
配当 学年	専門職	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時間	火2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
<b>[授業の概要・目的]</b>											
医療統計学は社会健康医学の実務・研究に必須であることは広く認識されています。が、医療統計の教科書には怪しげな数式ばかりでできてとっつきにくく、一部の愛好家以外には敬遠されています。しかし、しかしです、本当は医療統計学っておもしろいのです。「医療統計学はおもしろい」ということをみなさんに伝えたいと、医療統計学では、数学的、技術的な問題に立ち入ることなく、平易なことばで医療統計学の考え方を解説しています。必ず復習をしてください。講義中にはわかった気分になりますが、それが自分のものとなるためには、自分の中で何度も何度も確認する必要があります。毎回、講義の始めに前回の振り返りをしますので、復習してわからなかったことはそこでどんでん質問してください。技術的な内容については、午後の医療統計学実習で補います。											
【講義動画の事前視聴・オンラインライブでのディスカッションと質疑】 ※十分なスペースの講義室が確保できないためオンライン開講とします。											
<b>[到達目標]</b>											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療統計アレギーの改善</li> <li>・因果関係とコントロール（対照）について理解を深める</li> <li>・疫学研究、臨床試験の代表的なデザインを学ぶ</li> <li>・医療統計の基礎的な考え方を自分なりに説明できる</li> </ul>											
<b>[授業計画と内容]</b>											
第1回 4月11日 コントロールの重要性【メディア授業:反転授業/同時双方向型】											
第2回 4月18日 ピロリ菌と胃がん【メディア授業:反転授業/同時双方向型】											
第3回 4月25日 疫学研究デザイン概論【メディア授業:反転授業/同時双方向型】											
5月2日 休講											
第4回 5月9日 骨粗鬆症治療薬市販後臨床試験【メディア授業:反転授業/同時双方向型】											
第5回 5月16日 臨床試験デザイン概論【メディア授業:反転授業/同時双方向型】											
第6回 5月23日 曝露効果、治療効果の指標【メディア授業:反転授業/同時双方向型】											
第7回 5月30日 統計的仮説検定の考え方【メディア授業:反転授業/同時双方向型】											
第8回 6月6日 検定と信頼区間の関係【メディア授業:反転授業/同時双方向型】											
第9回 6月13日 ASA声明と「 $P < 0.05$ の向こう側」【メディア授業:反転授業/同時双方向型】											
第10回 6月20日 研究に必要なサンプルサイズ【メディア授業:反転授業/同時双方向型】											
第11回 6月27日 研究の妥当性1【メディア授業:反転授業/同時双方向型】											
第12回 7月4日 研究の妥当性2【メディア授業:反転授業/同時双方向型】											
第13回 7月11日 新しい疫学研究デザイン【メディア授業:反転授業/同時双方向型】											
第14回 7月18日 交絡とはなにか【メディア授業:反転授業/同時双方向型】											
-----医療統計学 (コア) 【領域2】(2)へ続く↓↓↓											

医療統計学 (コア) 【領域2】(2)
<b>[履修要件]</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間健康科学系専攻の学生さんの受け入れはしていません</li> <li>・医科学専攻、医学博士課程の受講希望者は事前に必ずメールで連絡してください</li> <li>・受講者は単位不要でも必ずミニテストを受け、レポートを提出してください</li> <li>・医療統計学を履修していないと後期「交絡調整の方法」は履修できません</li> </ul>
<b>[成績評価の方法・観点]</b>
毎回のディスカッションへの参加とレポート ・複数のテーマ(7月はじめに提示します)から一つを選び、指定された関連文献をレビューして自分の意見をレポートにまとめる
<b>[教科書]</b>
講義前にスライド資料などをPandAIにアップします。
<b>[参考書等]</b>
(参考書) 佐藤俊哉『宇宙怪人しまりす 医療統計を学ぶ』(岩波科学ライブラリー114) ISBN:978-4-00-007454-7 佐藤俊哉『宇宙怪人しまりす 医療統計を学ぶ 検定の巻』(岩波科学ライブラリー194) ISBN:978-4-00-029594-9 梅広計、藤田利治、佐藤俊哉『これからの臨床試験』(朝倉書店) ISBN:978-4-254-32185-6 ロスマン, KJ 『ロスマンの疫学, 第2版』(篠原出版社) ISBN:978-4-8841-2372-7
<b>(関連URL)</b>
<a href="http://www.kbs.med.kyoto-u.ac.jp/">http://www.kbs.med.kyoto-u.ac.jp/</a> (医療統計ホームページ)
<b>[授業外学修(予習・復習)等]</b>
復習を忘れずに。
<b>(その他(オフィスアワー等))</b>
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	P-PUB01 8H070 LB90										
授業科目名 <英訳>	感染症疫学 【領域3】 Infectious Disease Epidemiology				担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 西浦 博					
配当 学年	専門職	単位数	1	開講年度・ 開講期	2023・ 前期集中	曜時間	木2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語及び英語
<b>[授業の概要・目的]</b>											
This module clearly explains fundamental concepts of infectious disease epidemiology and sets out the analytical methods employed in public health practice. The contents of the lecture series covers the concept/definition of various epidemiological measurements, assessment of the spread and control of infectious diseases using a variety of statistical methods, statistical estimation of key epidemiological indices, and introduces mathematical modeling of infectious diseases. This vast and important area of epidemiology is described in line with recent and ongoing health concerns such as HIV/AIDS, tuberculosis, malaria, dengue, SARS and influenza.											
<b>[到達目標]</b>											
a. Explain two special characteristics of infectious diseases, b. Explain public health importance of asymptomatic infection c. Describe and classify various epidemiological risks of infection and death, d. Describe the concept of herd immunity and its importance in public health practice and epidemiologic exercise, e. Describe the concept of early detection of outbreak in a sense of hypothesis testing, f. Describe the fundamental concept and method of using historical baseline, g. Explain how each of the following methods detects an outbreak: regression method, time series technique and scan statistic											
<b>[授業計画と内容]</b>											
Each session takes 90 minutes in total. First 60 minutes are spent for unidirectional lecture. Remaining 30 minutes are split into two parts, i.e., 15 minutes in-class assessment and 15 minutes scoring session plus Q&A.											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction: mechanisms and epidemiological measurements of infectious diseases</li> <li>2. Natural history of infectious diseases</li> <li>3. Measuring transmissibility and severity: Concept and definition</li> <li>4. Outbreak investigation (1): active surveillance data</li> <li>5. Estimating prevalence: Unobservable nature of infection event</li> <li>6. Vaccine efficacy: Addressing dependent happening</li> <li>7. Outbreak investigation (2): notification data</li> <li>8. Tutorial, followed by exam</li> </ol>											
<b>[履修要件]</b>											
Have a background with basics of epidemiology (e.g. MPH core curriculum)											
-----感染症疫学 【領域3】(2)へ続く↓↓↓											

感染症疫学 【領域3】(2)
<b>[成績評価の方法・観点]</b>
Attendance to a total of two-thirds of classes will be required to be eligible for final examination. Evaluation is conducted by coursework (i.e. comprehension during the class) (30%) and examination (70%).
<b>[教科書]</b>
西浦博(編)『感染症疫学のためのデータ分析入門』(金芳堂、2021) ISBN:978-4-7653-1882-2 (感染症疫学の入門書。本専門職学位課程での講義内容に準拠してまとめています。)
<b>[参考書等]</b>
(参考書) 西浦博(編)『感染症流行を読み解く数理』(日本評論社、2022) ISBN:978-4-535-78759-9 (感染症の流行データを数理的に検討したい方向け。)
<b>[授業外学修(予習・復習)等]</b>
No specific preparation would be required. At the end of each session, we will have in-class assessment consisting of approximately 5-8 multiple choice questions.
<b>(その他(オフィスアワー等))</b>
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング P-PUB01 8H124 LB90											
授業科目名 <英訳>	産業・環境衛生学 【領域3】 Occupational health and environmental health sciences				担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 西浦 博					
配当 学年	専門職	単位数	1	開講年度・ 開講期	2023・ 前前期	曜時間	木2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語及び英語
<b>[授業の概要・目的]</b>											
1) ビトの健康と環境とのかわりについて、健康被害を基にメカニズムを理解すること。 2) 大気、水、土、さらに食品などの環境から様々な有害な化学物質を取り込む仕組みについて説明可能になること。 3) 中毒量がどのように定まっているのか、また、健康影響がどのように同定されているのか、基本的な知識と考え方を修得すること。 This module introduces health-related problems in relation to environment, focusing on mechanisms by which human health is damaged. Participants are advised to understand and describe how the natural environment including air, water and land as well as foods are associated with potential harmful chemical substance to humans. Moreover, toxicological assessment of reference dose and how the health effect is evaluated is reviewed.											
<b>[到達目標]</b>											
1) 健康と生存環境（一般生活環境と産業職場）あるいは自然環境との関係について基礎理論や事例分析、疫学的分析などを通じて十分に理解すること。 2) 公害や環境汚染を含む環境問題と健康の関わり、放射線被害の実態、労働における健康問題に関して弱者の立場を受容し、それらに対してわが国がどう対応してきたのかを記述できること。 3) 感染症あるいは中毒の患者が発生した際に、公衆衛生専門家として実施すべき行動を自発的に考え、理路整然と具体的な行動を述べることができること。 4) 社会医学的問題を肌で感じ、問題解決の現場に触れ、それを通じて、より良い社会の在り方について考え、仮想的に創造すること。 1. To understand how the health and environment are influencing each other via important examples of public nuisance in humans. 2. To describe how humans have faced public nuisance, environmental exposures including radiation and occupational hazards. 3. To logically explain how public health experts can take actions against infectious diseases and exposure accident with a toxic substance. 4. To simulate ideal future society by touching upon existing problems in social medicine and their solutions.											
<b>[授業計画と内容]</b>											
2023年度は第1回講義は4月6日（木）10:30とするので注意すること。											
全8回で構成する。 1) 環境保健学総論 2) 中毒学概論 3) 環境汚染の評価、公害 4) 放射線と健康 5) 産業保健入門 6) 住環境・騒音・振動、廃棄物と環境・健康、水質・水質汚濁 7) 食中毒と食品保健 8) 化学物質の管理											
産業・環境衛生学 【領域3】(2)へ続く↓↓↓											

<b>産業・環境衛生学 【領域3】(2)</b>											
Lectures. In total, there will be eight sessions. 1. Introduction to environmental medicine. 2. Toxicology 3. Environmental assessment and public nuisance 4. Radiation 5. Introduction to occupational health 6. Living environment, sound, environmental pollution and health 7. Food poisoning and food hygiene 8. Management of chemical substance											
<b>[履修要件]</b>											
MPHコア選択											
<b>[成績評価の方法・観点]</b>											
出席回数が3分の2に相当する6回以上を満了し、十分に内容を理解していることを講義中の個別質問で確認し、また、最終試験を実施することで修了を判定します。 Mandatory to attend two-thirds of sessions (i.e. attendance to a minimum of 6 lectures). Evaluations will be made by individual interviews during classes and final exam.											
<b>[教科書]</b>											
講義中の配布資料。											
<b>[参考書等]</b>											
(参考書) 以下、参考にされて下さい。 CURRENT Occupational & Environmental Medicine: Fourth Edition / Joseph LaDou : McGraw-Hill Medical, 2006, ISBN:978-0071443135											
<b>[授業外学修(予習・復習)等]</b>											
地球環境問題および化学などの知識は必ずしも必要ではありませんが、適宜、一般常識レベルで学習されることを求めます。											
<b>[その他(オフィスアワー等)]</b>											
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング P-PUB01 8H166 LB90											
授業科目名 <英訳>	医療制度・政策・経済 Healthcare System, Policy and Economics				担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 今中 雄一 医学研究科 特准教授 佐々木 典子 医学研究科 准教授 國澤 進 医学研究科 特任講師 榎 重虎 医学研究科 特任助教 後藤 悦					
配当 学年	専門職	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時間	水2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語及び英語
<b>[授業の概要・目的]</b>											
医療に関する政策・制度・経済について、国、地域・自治体、医療施設に至る諸々の場における重要課題を扱い、基本的事項を理解する。											
<b>[到達目標]</b>											
・医療の領域の政策・制度とマネジメントに関する沿革、現状、理論・概念、研究・評価手法、課題と対策について、重要事項を理解し、他者に説明できるようになること。 ・基本的な研究や社会制度の意義を系統的、批判的に解釈できるようになること。 ・社会健康医学の研究及び実務上の問題解決に、関連する知識等を活用できるようになること。											
<b>[授業計画と内容]</b>											
(授業計画と内容) 第1回 4月12日 医療制度のしくみ 第2回 4月19日 医療制度全体を把握する枠組み 第3回 4月26日 医療政策の形成過程 第4回 5月10日 医療保険制度 第5回 5月17日 医療と財源：保険制度 第6回 5月24日 Health Informatics and Policy 第7回 5月31日 Evidence-Based Policyと制度全体を把握する枠組み 第8回 6月7日 ユニバーサルヘルスカバレッジ：Universal Health Coverage (UHC) 第9回 6月14日 医療政策の全体像と課題 第10回 6月21日 医療の経済評価・HTAの政策への活用：日本と諸外国 第11回 6月28日 行動経済学の理論と健康関連領域への応用 第12回 7月5日 行動経済学の健康医療介入：概論1 第13回 7月12日 行動経済学の健康医療介入：概論2 第14回 7月19日 諸外国と日本の医療の経済評価・HTAの利用 第15回 7月26日 行動経済学の実社会への応用  * 外部講師他の諸状況により日程変更あります。初回に予定を説明します。											
<b>[履修要件]</b>											
原則、出席80%以上を前提とする											
医療制度・政策・経済(2)へ続く↓↓↓											

<b>医療制度・政策・経済(2)</b>											
<b>[成績評価の方法・観点]</b>											
1. レポート 60% 2. 日々の講義へのコミットメント 40%											
<b>[教科書]</b>											
授業中に指示する											
<b>[参考書等]</b>											
(参考書) 『今中雄一編、認知症にやさしい健康まちづくりガイドブック：地域共生社会に向けた15の視点(共著)』(学芸出版社；2023) 『病院の教科書第2版』(医学書院) 『医療制度・医療政策・医療経済』(丸善出版,2013) 『医療の原価計算』(社会保険研究所,2003) 『医療安全のエビデンス-患者を守る実践方策』(医学書院,2005) 『NEW予防医学・公衆衛生学改訂第4版』(南江堂, 2018.)											
<b>[授業外学修(予習・復習)等]</b>											
予習・復習は必要											
<b>[その他(オフィスアワー等)]</b>											
※やむを得ず相当の理由等により、対面授業をオンライン授業等へ変更する可能性があります。 当分野では、医療政策、医療経営、医療の質・安全・コスト研究に深く関わりたい人を募っています(医療経済学分野： <a href="http://med-econ.uimin.ac.jp">http://med-econ.uimin.ac.jp</a> ) 問い合わせ等は、 医療経済学教室 教務 <heqm-kyoumu(at)mail2.adm.kyoto-u.ac.jp> へご連絡ください。 面談等希望者は、適宜、教員にアポイントメントをとってください。 ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング	P-PUB01 8H127 LB90														
授業科目名 <英語>	社会健康医学と健康政策 【領域4】 Health Policy and Academia					担当者所属・職名・氏名									
	医学研究科 教授 今中 雄一	医学研究科 教授 佐藤 俊哉	医学研究科 特定教授 早乙女 周子	医学研究科 教授 近藤 尚己	医学研究科 教授 西浦 博	医学研究科 教授 中山 健夫	医学研究科 教授 川上 浩司	医学研究科 准教授 坂本 龍太	附属病院 特定教授 小川 昌宣	医学研究科 特定講師 川崎 秀徳	医学研究科 准教授 岩隈 美徳	医学研究科 准教授 田近 亜蘭	医学研究科 教授 山本 洋介	医学研究科 准教授 原田 浩二	医学研究科 教授 石見 拓
配当学年	専門職	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	木3	授業形態	講義	使用言語	日本語				
<b>[授業の概要・目的]</b>															
社会健康医学（Public Health）における、健康・医療に関わる制度・政策、ならびにそれらに貢献・関連する研究、人材育成、その他の専門的活動について学ぶ。 社会健康医学系専攻を構成する各分野から、担当している研究・教育等領域の視点・見識、実績・経験などに基づき、健康・医療に関連する制度・政策や社会の仕組みがどのようになっているか、また、健康・医療に関連する制度・政策や社会の仕組みに、研究、人材育成、その他の専門的活動がどのように関わり貢献しているかを、講義する。															
<b>[到達目標]</b>															
各分野による講義の全体を通して、健康や医療に係る制度・政策の全貌を多角的に把握できるようにする。															
<b>[授業計画と内容]</b>															
第1回	4月13日	社会健康医学と健康政策：総論（今中）													
第2回	4月15日	健康医療介護政策とエビデンス（今中）													
第3回	4月27日	大気環境基準の作り方（佐藤）													
第4回	5月11日	社会健康医学と知的財産（早乙女）													
第5回	5月18日	健康格差の制御（近藤）													
第6回	5月25日	新型コロナウイルス感染症の疫学（西浦）													
第7回	5月1日	成人における疾病予防：特定健診とがん検診（中山）													
第8回	6月8日	学校保健や母子保健情報の利活用による地域健康政策（川上）													
第9回	6月15日	実地に基づく健康政策（坂本）													
第10回	6月22日	母子保健と制度・政策（小川/川崎）													
第11回	6月29日	ヘルスコミュニケーションと健康政策（岩隈）													
社会健康医学と健康政策 【領域4】(2)へ続く↓↓↓															

<b>社会健康医学と健康政策 【領域4】(2)</b>															
第12回 7月6日 地域保健医療行政（今中）															
第13回 7月13日 グローバルメンタルヘルス（田近）															
第14回 7月20日 健康政策におけるQOL評価（山本）															
第15回 7月27日 環境保健の制度と政策（原田）															
第16回 8月3日 心臓突然死対策における社会医学的アプローチ（石見）															
※予定は変更となることがあります。初回に予定を説明します。															
<b>[履修要件]</b>															
社会健康医学系専攻の院生 原則、出席80%以上を前提とする															
<b>[成績評価の方法・観点]</b>															
1. レポート（配点比重 40%） 2. 日々の講義へのコミットメント（配点比重 60%）															
<b>[教科書]</b>															
適宜、資料を講義にて配布する															
<b>[参考書等]</b>															
〔参考書〕 『NEW予防医学・公衆衛生学 改訂第4版（編集：小泉昭夫/馬場園明/今中雄一/武林亨）』（南江堂、2018。） 『今中雄一編 認知症にやさしい健康まちづくりガイドブック：地域共生社会に向けた15の視点（共著）』（学芸出版社；2023） 今中雄一『病院の教科書第2版』（医学書院） 適宜、資料を講義にて配布する															
<b>[授業外学修（予習・復習）等]</b>															
予習・復習は必要															
<b>[その他（オフィスアワー等）]</b>															
健康政策学に関わる領域の教育を、専攻全体でカバーする。 ※やむを得ず相当の理由等により、対面授業をオンライン授業等へ変更する可能性があります。															
社会健康医学と健康政策 【領域4】(3)へ続く↓↓↓															

<b>社会健康医学と健康政策 【領域4】(3)</b>															
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。															

科目ナンバリング	P-PUB01 8H109 LB90														
授業科目名 <英語>	医薬政策・行政 【領域4】 Drug Policy and Regulation					担当者所属・職名・氏名									
	医学研究科 教授 川上 浩司														
配当学年	専門職	単位数	1	開講年度・開講期	2023・後期前半	曜時限	水2	授業形態	講義	使用言語	日本語及び英語				
<b>[授業の概要・目的]</b>															
本コースは医学研究科社会健康医学系専攻のMPHコア科目の一つです。医薬品、医療機器を軸に、日本および海外の健康政策、産業政策と行政を俯瞰します。社会福祉、財務、食品衛生、医薬経済の観点から、国際的な医薬品認可行政、経済性との整合、ライフサイエンス研究とトランスレーショナルリサーチの実践についても学びます。 【講義担当者】川上浩司（薬剤疫学・教授）、松林恵介（吹田市・行政医師）、西嶋康浩（厚生労働省健康局難病対策課移植医療対策推進室）、間宮弘晃（i P S 細胞研究所）															
<b>[到達目標]</b>															
・医薬政策・行政、食品衛生行政、社会福祉に関連した政策の基本的考え方、方法論を理解している。 ・医薬経済、トランスレーショナルリサーチの政策上の取組の基本的考え方、方法論を理解している。															
<b>[授業計画と内容]</b>															
第1回	10月4日	医薬政策、行政の潮流	(川上)												
第2回	10月11日	米国連邦政府における医薬行政	(川上)												
第3回	10月18日	医療機器の行政、研究開発と課題	(川上)												
第4回	10月25日	日本における医薬行政と最近の動向	(間宮)												
第5回	11月1日	食品衛生行政	(西嶋)												
第6回	11月8日	医療保険制度と医薬品の評価	(松林)												
<b>[履修要件]</b>															
本コース終了の翌週から継続して講義が行われるH079「医薬品の開発と評価」と連続、一括した内容となっており、原則として通して受講できない方は受け入れ不可とします。また、同日3・4限のH099「医薬品・医療機器の開発計画、薬事と審査」も本講義の内容を掘り下げたもので、合わせて受講することを推奨します。															
<b>[成績評価の方法・観点]</b>															
講義の場への参加（50%）、レポート（50%）															
<b>[教科書]</b>															
使用しない															
<b>[参考書等]</b>															
〔参考書〕 安生紗枝子ら『新薬創製への招待：開発から市販後の監視まで』（共立出版、2006。）															
医薬政策・行政 【領域4】(2)へ続く↓↓↓															

<b>医薬政策・行政 【領域4】(2)</b> 川上浩司, 漆原尚巳, 田中司朗 (監修) 『ストロムの薬剤疫学』(南山堂, 2019.)	
<b>[授業外学修(予習・復習)等]</b> 予習は特に不要であるが、復習については十分に行うことを期待する。	
<b>(その他(オフィスアワー等))</b> 川上浩司 G棟3階・内線: 9469(代表) 面談希望は必ずメールでご連絡下さい。 kawakami.koji.4e@kyoto-u.ac.jp 人間健康科学系専攻学生の受講可否: 可 ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	

<b>科目ナンバリング</b> P-PUB01 8H126 LB90					
<b>授業科目名</b> <英訳> 保健・医療の経済評価 Economic Evaluation in Health Care	<b>担当者所属・職名・氏名</b> 医学研究科 教授 今中 雄一 医学研究科 特定准教授 佐々木 典子 医学研究科 准教授 國澤 進 医学研究科 特定講師 榎 重虎 医学研究科 特定助教 後藤 祝				
<b>配当年</b> 専門職	<b>単位数</b> 1	<b>開講年度・開講期</b> 2023・前期前半	<b>曜時限</b> 水4	<b>授業形態</b> 講義	<b>使用言語</b> 日本語及び英語
<b>[授業の概要・目的]</b> ・保健・医療における経済評価を支える理論・フレームワークについての講義を行い、保健・医療の経済性評価のための主な研究手法を学習します。 ・保健・医療の経済評価は、通常、現実的な制約の中で評価をすることになりますが、その際の研究のあり方についても学習します。 ・保健・医療に関する幅広いテーマの経済評価の検討を行います。					
<b>[到達目標]</b> ・保健・医療における経済評価を支える理論・フレームワークや研究方法等について、重要事項を説明できる。 ・医療の経済評価研究に関するバイアスについて理解している。 ・治療技術・薬剤・医療材料・検査・健康政策プログラムなどに関する経済分析に用いられる主な研究手法として、費用分析・費用効果分析・費用効用分析・費用便益分析の違いやそれぞれの適応、費用算定・アウトカム測定・時間の概念・割引率・感度分析、増分費用効果比といった中心的な概念を理解して説明でき、分析結果の適切な解釈ができる。 ・上記を踏まえてこの領域の研究文献を批判的にレビューし、その意義を説明できる。研究プロトコルの作成や研究実施時に、習得した知識・技術を活用できる。					
<b>[授業計画と内容]</b> 第1回 4月12日 保健・医療における経済性の評価(1) 第2回 4月19日 保健・医療における経済性の評価(2) 第3回 4月26日 医療経済評価研究の評価法 第4回 5月10日 経済評価のモデリング 第5回 5月17日 費用効果/効用分析の方法論1 第6回 5月24日 費用効果/効用分析の方法論2 第7回 5月31日 保健・医療の経済評価: 論文レビュー&討議1 第8回 6月7日 保健・医療の経済評価: 論文レビュー&討議2 ※ 初回に予定を説明します。					
保健・医療の経済評価 【領域4】(2)へ続く↓↓↓					

<b>保健・医療の経済評価 【領域4】(2)</b>	
<b>[履修要件]</b> 非MCR限定 人間健康科学系専攻学生の受講可否: 否 原則、出席80%以上を前提とする	
<b>[成績評価の方法・観点]</b> 講義・討論・グループワーク・発表におけるコミットメント(配分40%)、課題レポート・期末などのレポート(配分60%)により、総合的に評価する。	
<b>[教科書]</b> 適宜、資料を講義にて配布する	
<b>[参考書等]</b> <b>(参考書)</b> 『今中雄一編, 認知症にやさしい健康まちづくりガイドブック: 地域共生社会に向けた15の視点(共著)』(学芸出版社: 2023) 『病院の教科書第2版』(医学書院) ・ Drummond MF, et al. Methods for the Economic Evaluation of Health Care Programmes, 4th Ed. Oxford, 2015. ・ Myriam Hunink. Decision Making in Health and Medicine: Integrating Evidence and Values. Cambridge, 2001. ・ 医療制度・医療政策・医療経済(丸善出版2013) ・ Handbook of Health Services Research (Springer Science+Business Media) ・ 『NEW予防医学・公衆衛生学 改訂第4版』(編集:小泉昭夫/馬場國明/今中雄一/武林亨) 南江堂, 2018.	
<b>[授業外学修(予習・復習)等]</b> 予習・復習は必要	
<b>(その他(オフィスアワー等))</b> 経済学の学習経験は問いません。 当分野では医療の経済性、質・安全・原価の実証研究政策研究、医療の政策や経営に深く関わりたい人を募っています。(医療経済学分野: <a href="http://med-econ.umin.ac.jp">http://med-econ.umin.ac.jp</a> )	
保健・医療の経済評価 【領域4】(2)へ続く↓↓↓	

<b>保健・医療の経済評価 【領域4】(3)</b>	
(注) 医療のプロセス、アウトカム等の質指標、診療のばらつき、医療の質の評価・改善、医療機能評価、医療の質・安全に係わる制度・政策については、水曜3限「医療の質評価」(前期後半)(1単位)(MCR推奨選択・コア選択必修)を選択してください。	
問い合わせ等は、 医療経済学教室 教務 <heqm-kyoumu(at)mail2.adm.kyoto-u.ac.jp> へご連絡ください。 面談等希望者は、適宜、教員にアポイントメントをとってください。 ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	



科目ナンバリング	P-PUB01 8H075 LB90										
授業科目名 <英訳>	行動科学 【領域5】 Behavioral Science					担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 准教授 田近 亜蘭				
配当 学年	専門職	単位数	1	開講年度・ 開講期	2023・ 前期前半	曜時限	火1	授業 形態	講義	使用 言語	日本語及び英語
<b>[授業の概要・目的]</b>											
I. コースの概要 人間行動に関連する理論の基礎について学習する。特に実践的に有用であることが示されている理論を中心に学習する。											
II. 教育・学習方法 講義は対面式で実施する。 パワーポイントスライドによる講義、グループディスカッション、レポート提出											
<b>[到達目標]</b>											
・主な行動理論について説明することができる。 ・行動理論の応用・適用を考えることができる。											
<b>[授業計画と内容]</b>											
第1回 4月11日 インTRODクダクション、ヘルスビリーフモデル 第2回 4月18日 トランスセオレティカルモデル、計画的行動理論 第3回 4月25日 認知行動理論、認知行動療法 第4回 5月2日 社会的認知理論 第5回 5月9日 ストレスとコーピング 第6回 5月16日 動機付け面接 第7回 5月23日 まとめ 第8回 5月30日 (予備)											
<b>[履修要件]</b>											
MPHコア(選択必修)											
<b>[成績評価の方法・観点]</b>											
平常点(出席を含む)50点、レポート50点(単位取得のためには、合計で60点以上が必要。)											
<b>[教科書]</b>											
毎回、講義資料を配布する。											
<b>[参考書等]</b>											
(参考書) 必須テキスト：なし 推奨テキスト： ・Glanz et al. Health Behavior and Health Education-theory, research and practice. 4th edition. Jossey-Bass, 行動科学 【領域5】(2)へ続く↓↓↓											

<b>行動科学 【領域5】(2)</b>
2008(行動科学の定版的教科書です。部分訳が出版されています。「健康行動と健康教育—理論、研究、実践」(曽根智史ら、医学書院、2006年)) ・松本千明. 医療・保健スタッフのための健康行動理論の基礎、医歯薬出版、2002(簡略に要領よく行動科学の種々の理論がまとめられています)
<b>[授業外学修(予習・復習)等]</b>
毎回復習をしてください。
<b>(その他(オフィスアワー等))</b>
その他メッセージ 人間健康科学系専攻学生の受講可否：可 ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	P-PUB01 8H076 LB90										
授業科目名 <英訳>	基礎医療倫理学 【領域5】 Basic Medical Ethics					担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 准教授 中島 健				
配当 学年	専門職	単位数	1	開講年度・ 開講期	2023・ 前期前半	曜時限	木5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語及び英語
<b>[授業の概要・目的]</b>											
【基本情報】 授業日時：木曜5限(前期前半) 教室：G棟セミナー室A・状況によりオンライン授業を実施することがある レベル：基礎 担当者：中島健(科目責任者・医療倫理学)、和田敬仁、小川昌宣、竹之内沙弥香、大守伊織、鳥嶋雅子、小杉真司											
【コースの概要】 社会健康医学における研究と実践の基礎となる医療倫理の考え方、研究倫理申請などについて、その骨子を学ぶ。授業は講義、演習(事例検討)などを組み合わせて行う。											
<b>[到達目標]</b>											
・社会健康医学における研究と実践の基礎となる医療倫理上の問題に適切に対応できる。 ・主な医療倫理理論について説明できる。 ・自身の研究倫理申請が適切にできる。 ・産婦人科医療・小児医療・終末期医療などにおける医療倫理上の問題を説明できる。											
<b>[授業計画と内容]</b>											
【第1回】 4/13<小杉>医療倫理学総論・医療倫理における考え方 【第2回】 4/20<中島>生命倫理学の歴史 【第3回】 4/27<和田>新生児・小児医療と倫理など(1) 【第4回】 5/11<竹之内>終末期医療の倫理 【第5回】 5/18<小川>産婦人科医療と倫理 【第6回】 5/25<鳥嶋>遺伝カウンセリングについて 【第7回】 6/1 <川崎>新生児・小児医療と倫理など(2) 【第8回】 6/8 <小杉>研究倫理・倫理審査委員会 (変更の可能性があるので開講日に確認してください)											
<b>[履修要件]</b>											
MPHコア科目(選択必修) 自身の研究計画を倫理申請する予定がある場合は必ず履修すること(MCR含む) 人間健康科学系専攻学生の受講可否：要事前連絡											
<b>[成績評価の方法・観点]</b>											
平常点(出席を含む)(約40%)、レポート(約60%)などを総合的に判定する。 <レポート提出期限> ・自身の研究計画を倫理申請する予定がある場合は必ず履修すること(MCR含む) 基礎医療倫理学 【領域5】(2)へ続く↓↓↓											

<b>基礎医療倫理学 【領域5】(2)</b>
・中間レポート締切：5月31日 ・最終レポート締切：6月30日 (注意)レポート提出先：takeshinaka@kuhp.kyoto-u.ac.jp 受領確認メールはいたしません。
<b>[教科書]</b>
講義中の配布資料
<b>[参考書等]</b>
(参考書)
<b>[授業外学修(予習・復習)等]</b>
適宜指示する
<b>(その他(オフィスアワー等))</b>
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	P-PUB01 8H077 LB90										
授業科目名 <英訳>	医学コミュニケーション・基礎 【領域5】 Medical Communication: Introduction				担当者所属 職名・氏名	医学研究科 准教授 岩隈 美穂					
配当 学年	専門職	単位数	1	開講年度・ 開講期	2023・ 前期前半	曜時限	火5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語及び英語
<b>[授業の概要・目的]</b>											
<p>コースの概要 本コースは医学研究科社会健康医学系専攻のMPHコア科目の一つです。 ヘルスコミュニケーションの基本的事項を網羅していますが、特に非言語コミュニケーションへの理解を深めます。</p>											
<b>[到達目標]</b>											
<p>学習到達目標（このコース終了時までに習得が期待できること）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ヘルスコミュニケーションの基本的枠組み、コンセプトを理解する。</li> <li>臨床におけるコミュニケーションについて、ミクロ（個人）からマクロ（社会・国際）での視点で理解する。</li> <li>ヘルスコミュニケーションにおける、非言語コミュニケーションの役割・重要性について理解する。</li> <li>病院における病児の親とのコミュニケーションを理解する。</li> </ul>											
<b>[授業計画と内容]</b>											
<p>1) 4/11 イントロダクション 2) 4/18 コミュニケーションとは？ 3) 4/25 ヘルス領域でのコミュニケーション 4) 5/2 コミュニケーション学の基本の「き」：非言語 x 言語 x チャネル 5) 5/9 医療と時間と空間：統・非言語コミュニケーション 6) 5/16 「病棟の子供たちに遊びを通した日常を届ける」（高谷恵美氏 京大病院「にこにこトマト」代表） 7) 5/23 まとめ コミュニケーション学の基本の「き」：非言語 x 言語 x チャネル</p>											
<b>[履修要件]</b>											
選択必修											
医学コミュニケーション・基礎 【領域5】 2へ続く ↓ ↓ ↓											

医学コミュニケーション・基礎 【領域5】 (2)	
<b>[成績評価の方法・観点]</b>	
平常点（授業参加度も含む）	50%
レポート	50%
「一言一言」 5% + タイトル10% + 最終版 35%	
<b>[教科書]</b>	
・ハンドアウトを配布する。	
<b>[参考書等]</b>	
(参考書)	
<b>[授業外学修（予習・復習）等]</b>	
コミュニケーション学の中で興味のあるリーディングを読むことを推奨する。	
<b>[その他（オフィスアワー等）]</b>	
<p>「授業参加・貢献」を重視しているため、自発的発言を求める。 医療・医学への社会的アプローチに興味のある学生向け。 障害があり、授業あるいは課題への取り組みに配慮（Accommodation）が必要な場合、早めに相談に来ること。 講師の都合により日程変更の可能性あり。 留学生がいる場合、授業使用言語を英語にする可能性あり。</p> <p>* 今年度は、対面での授業を予定しています。</p> <p>※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。</p>	

科目ナンバリング	P-PUB01 8H157 LB90										
授業科目名 <英訳>	社会疫学 【領域5】 Social epidemiology				担当者所属 職名・氏名	医学研究科 教授 近藤 尚己					
配当 学年	専門職	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	月3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語及び英語
<b>[授業の概要・目的]</b>											
<p>疾病のリスクの高い個人へのハイリスクアプローチに加え、個人を取り巻く社会環境を整備するポピュレーションアプローチが公衆衛生の大きな潮流となっています。ポピュレーションアプローチでは、個人の社会背景やおかれた社会環境の違い、それらに伴う健康格差に配慮する必要があります。また健康格差を踏まえた戦略を立てることで、一層の効果や効率的な資源の活用が期待できます。</p> <p>本コースでは、そのような活動に必要な社会疫学の基礎的な理論と分析手法について学びます。社会疫学は健康事象の社会的分布の記述（＝健康格差の記述疫学）をしたり、疾病のリスク要因／健康の推進要因としての社会環境や社会制度の役割を探索する疫学の一分野です。また社会疫学は、健康格差を是正する手法を開発したり、その効果を評価します。このことで「誰一人取り残さない」健康な社会の実現に資することを目指しています。</p> <p>コース主担当の近藤による総論および主要テーマのレクチャーに加え、各論では当該分野の第一人者を非常勤講師に招きます。毎年、講師たちとのアツい議論が交わされます。</p> <p>In addition to the high-risk approach to individuals at high risk of disease, a major trend in public health is the population approach to the social environment surrounding individuals. In the population approach, it is necessary to take into account the differences in the social background and social environment of individuals and the health inequalities associated with these differences. Strategies that take health inequalities into account can be expected to be more effective and efficient in the use of resources.</p> <p>In this course, you will learn about the basic theories and analytical methods of social epidemiology necessary for such activities. Social epidemiology is a branch of epidemiology that describes the social distribution of health events (i.e. descriptive epidemiology of health inequalities) and explores the role of the social environment and social institutions as risk factors for disease/ drivers of health. Social epidemiology also develops methods to correct health inequalities and evaluates their effectiveness. By doing so, it aims to contribute to the realisation of a healthy society where 'no one is left behind'.</p> <p>In addition to the general lectures, leading experts in the field are invited to provide specific talks of their specialty. Every year, the lecturers and students engage in heated discussions.</p>											
<b>[到達目標]</b>											
<p>1. 社会疫学の視座を理解する。 2. 主な健康の社会的決定要因の種類、評価法、実態について理解する 3. 社会学・経済学・倫理学・行動科学／社会心理学など近傍学問の関連理論を理解する 4. 健康格差の評価法の基礎を理解する 5. 健康格差の制御法の基礎を理解する 6. 社会疫学の保健活動や臨床への応用について、自身の認識と意見を持つ</p> <p>1. understand the perspective of social epidemiology.</p>											
社会疫学 【領域5】 (2)へ続く ↓ ↓ ↓											

<b>社会疫学 【領域5】 (2)</b>	
<p>2. understand the types, assessment methods and realities of the main social determinants of health 3. understand relevant theories from neighbouring disciplines such as sociology, economics, ethics, behavioural science/social psychology 4. understand the basics of assessment methods for health inequalities 5. understand the fundamentals of control methods for health inequalities 6. have their own perceptions and opinions on how to apply social epidemiology to health activities and clinical practice.</p>	
<b>[授業計画と内容]</b>	
下記予定は変更する場合があります。	
日程	講義タイトル（関連するテキストの章）
1. 4/10	社会疫学総論
2. 4/17	社会経済状況
3. 4/24	貧困と社会的排除
4. 5/1	社会格差
5. 5/8	格差の認知科学と政治哲学
6. 5/15	社会関係（高木大資/東京大学）
7. 5/22	ライフコース疫学
8. 5/29	ソーシャル・キャピタル
9. 6/5	SDHとしてのジェンダー（本庄かおり/大阪医科大学）
10. 6/12	健康格差の測定（長谷田真帆）
11. 6/19	多重レベルの現象把握とデータ分析
12. 6/26	建造環境（高木大資/東京大学）
13. 7/3	健康格差の制御法：コミュニティへのアプローチ
14. 7/10	健康格差の制御法：コミュニティへのアプローチ行動科学の応用
15. 7/24	レビューセッション
The schedule below is subject to change.	
Dates & Lecture title (relevant text chapter)	
-----	
1. 4/10	General introduction to social epidemiology
2. 4/17	Socio-economic conditions
3. 4/24	Poverty and social exclusion
4. 5/1	Social inequalities
5. 5/8	Cognitive science and political philosophy of inequality
6. 5/15	Social relations (Dr Daisuke Takagi@The University of Tokyo)
7. 5/22	Lifecourse epidemiology (Prof Takeo Fujiwara @ Tokyo Medical and Dental U)
8. 5/29	Social Capital
9. 6/5	Gender as SDH (Prof.Kaori Honjo@Osaka Medical and Pharmaceutical University)
10. 6/12	Measuring health inequalities (Dr Maho Haseida)
11. 6/19	Understanding multi-level phenomena and data analysis
12. 6/26	Built environment (Dr Daisuke Takagi)
13. 7/3	Methods for addressing health inequalities: a community approach
14. 7/10	Methods for addressing health inequalities: Behavioral science applications
15. 7/24	Review session
社会疫学 【領域5】 (3)へ続く ↓ ↓ ↓	

社会疫学【領域5】(3)	
<b>【履修要件】</b>	
特になし	
<b>【成績評価の方法・観点】</b>	
出席・講義内小テスト 40%、レポート60% レポート課題はコース開催中に提示します。	
レポートについて： *A4一枚程度とし、最大2枚まで。 *締切：各講義日の1週間後の正午 *課題名・氏名・学籍番号・提出日を明記すること *事実関係やデータ、フレーズ等引用した場合、必ず引用データの出所を示すこと。引用した資料のリストは最後に記載すること。インターネットからの長文のコピー&ペーストは禁止（図表やデータについては、引用元を明記した上で可）。	
Attendance and in-lecture quizzes 40%, report 60% Report assignments will be presented during the course.	
About the report *A4 sheet of paper, maximum 2 pages. Deadline: noon one week after each lecture day. *State the name of the assignment, your name, student ID number and date of submission. When quoting facts, data, phrases, etc., be sure to indicate the source of the quoted data. A list of cited sources should be included at the end. No long-form copying and pasting from the internet is permitted (for figures and data, quotations are acceptable provided the source is clearly stated).	
<b>【教科書】</b>	
川上憲人・橋本英樹・近藤尚己（編著）『社会と健康：健康格差解消に向けた統合科学的アプローチ』（東大出版会、2015）ISBN:978-4-13-060411-6（各講義に関連する章を事前に読んでおくこと。）	
関連する章を読んでおくこと。精読は不要。テキストは著者割りで購入できます。希望者はcontact@socepi.med.kyoto-u.ac.jpまでメールするか、社会疫学分野オフィス（先端棟2F）までお越しください。	
講義は英語で行います。日本語の資料と補講動画を事前にリリースします。	
<b>【参考書等】</b>	
（参考書） 近藤尚己『健康格差対策の進め方：効果をもたらす5つの視点』（医学書院、2016）ISBN:978-4-260-02501-0（特に後半の講義内容に関連。） Lisa F. Berkman, Ichiro Kawachi, and M. Maria Glymour 『Social Epidemiology 2nd Edition』（Oxford, 2014）ISBN:9780195377903（へビーですが読み応えあり。邦訳が大修館から上下巻あり（社会疫学分野にて訳者割りで購入化）。） NHKスペシャル取材班『健康格差 あなたの寿命は社会が決める』（講談社現代新書）ISBN:978-4-06-288452-5（たいへん読みやすい一般むけ入門書。） 「健康格差対策の進め方」『社会疫学：上・下』は社会疫学分野にて著者割りで購入できます。希望者はcontact@socepi.med.kyoto-u.ac.jpまでメールするか、社会疫学分野オフィス（先端棟2F）までお越しください。	
社会疫学【領域5】(4)へ続く ↓ ↓ ↓	

社会疫学【領域5】(4)	
<b>【授業外学修（予習・復習）等】</b>	
履修届け出後、関連する論文をまとめたコースパッケージへのオンラインアクセスを提示します。各回と関連する論文については事前にスキム・リーディングしておくことを推奨します。精読は不要。	
<b>【その他（オフィスアワー等）】</b>	
クラス内でのディスカッションを重視します。	
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	

科目ナンバリング		P-PUB01 2H154 LJ87	
<b>授業科目名</b>	医学基礎 I 「生理学 I」 <英訳> Basic Medicine I (Physiology I)	<b>担当所属</b>	医学研究科 教授 西浦 博 医学研究科 教授 林 悠
<b>担当学年</b>	専門職	<b>単位数</b>	2
<b>開講年度</b>	2023_前期前半	<b>開講期</b>	月3,4
<b>授業形態</b>	講義	<b>使用言語</b>	日本語
<b>【授業の概要・目的】</b>			
医療に関わる者に必要とされる人体機能についての専門的基礎知識を習得する。本講義では、神経系、血液、循環、呼吸などの機能系の仕組みとその働きについて学ぶ。毎回の授業で提示される課題について各自で検索・考察することによって人体機能についての理解を深め、チーム医療の一員として必要な生理学の素養を身につけることを目的とする。			
<b>【到達目標】</b>			
医療の現場で問題に直面した際に、専門職として正しい判断がとれるようになるための基盤となる人体機能についての基礎知識を習得する。			
<b>【授業計画と内容】</b>			
2023.04.10 第1,2回 末梢神経・中枢神経（緑川）			
2023.04.17 第3,4回 神経興奮の発生とその伝導・伝達（渡邊大）			
2023.04.24 第5,6回 感覚（緑川）			
2023.05.01 第7,8回 筋と骨（緑川）			
2023.05.08 第9,10回 血液（緑川）			
2023.05.15 第11,12回 心臓と循環（緑川）			
2023.05.22 第13,14回 呼吸とガスの運搬（緑川）			
（未定）第15回,16回 試験/学習到達度の評価・フィードバック（緑川）			
<b>【履修要件】</b>			
特になし			
<b>【成績評価の方法・観点】</b>			
社会健康医学系専攻においては、出席を通じた理解度評価30%とレポート70%			
<b>【教科書】</b>			
奈良 勲/鎌倉 矩子 監修『<標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野>生理学』（医学書院）ISBN:978-4-260-03644-3 スライドと配布資料も使用する。			
<b>【参考書等】</b>			
（参考書） 奈良 勲/鎌倉 矩子 監修『<標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野>生理学』（医学書院）ISBN:978-4-260-03644-3			
<b>【授業外学修（予習・復習）等】</b>			
配布資料に示されているチェックリストの各項目について復習し、理解できているかどうか確認して下さい。			
<b>【その他（オフィスアワー等）】</b>			
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。			

科目ナンバリング		P-PUB01 2H163 LJ87	
<b>授業科目名</b>	医学基礎 I 「神経生理学」 <英訳> Basic Medicine I (Neurophysiology)	<b>担当所属</b>	医学研究科 教授 西浦 博 医学研究科 教授 林 悠
<b>担当学年</b>	専門職	<b>単位数</b>	2
<b>開講年度</b>	2023_後期前半	<b>開講期</b>	水1,2
<b>授業形態</b>	講義	<b>使用言語</b>	日本語
<b>【授業の概要・目的】</b>			
医療に関わる者に必要となる人体機能のうち神経系の構造と機能について、「生理学I・II」で学んだ内容からさらに発展的な項目について、学習する。毎回の授業で提示される課題について各自で検索・考察することによって神経系について理解を深め、医療専門職として有用となる神経機能の発展的な知識を身につけることを目的とする。			
<b>【到達目標】</b>			
医療の現場で問題に直面した際に、医療専門職として正しい判断がとれるようになるために有用となるヒト神経系についての発展的な知識を習得する。			
<b>【授業計画と内容】</b>			
2023.11.29 第1,2回 神経系の組織、基本的機能と神経伝達物質（緑川）			
2023.12.06 第3,4回 体性感覚（緑川）			
2023.12.13 第5,6回 視覚（緑川）			
2023.12.20 第7,8回 聴覚・身体感覚・化学感覚・脊髄の運動制御機構と脊髄反射（緑川）			
2023.12.27 第9,10回 皮質と脳幹によって制御される運動機能・小脳と大脳基底核の運動全般における役割（緑川）			
2024.01.10 第11,12回 大脳皮質、脳の知的機能・学習と記憶（緑川）			
2024.01.17 第13,14回 大脳辺縁系・自律神経系（緑川）			
（未定）第15回,16回 試験/学習到達度の評価・フィードバック（緑川）			
<b>【履修要件】</b>			
本科目は、2017～2020年度カリキュラム適用学生対象の科目です。 （※2021年度以降カリキュラム適用学生は、「神経生理学」を履修登録してください。）			
<b>【成績評価の方法・観点】</b>			
成績評価の方法は別途確認すること			
<b>【教科書】</b>			
スライドと配布資料を使用する。			
<b>【参考書等】</b>			
（参考書） John E. Hall；総監訳＝石川義弘・岡村康司・尾仲達史・河野憲二『ガイトン生理学 原著第13版』（エルゼビア・ジャパン）ISBN:9784860347741 奈良 勲/鎌倉 矩子 監修『<標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野>生理学』（医学書院）ISBN:978-4-260-03644-3			
<b>【授業外学修（予習・復習）等】</b>			
配布資料に示されているチェックリストの各項目について復習し、理解できているかどうか確認して下さい。			
<b>【その他（オフィスアワー等）】</b>			
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。			

科目ナンバリング	P-PUB01 2H153 LJ87										
授業科目名 <英訳>	医学基礎 I 「解剖学」 Basic Medicine I (Anatomy)				担当所属 職名・氏名	医学研究科 教授 西浦 博 医学研究科 教授 山田 重人					
配当 学年	専門職	単位数	2	開講年度 開講期	2023 前期前半	曜時限	水3,4	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
<b>[授業の概要・目的]</b>											
人体は様々な細胞から組織、器官が構成されており、それらが協調して働くことで一単位として機能している。人体の構造と機能に関する総合的理解を目指し、特に、その構造異常や機能異常によって起こる「疾患」を念頭において概説する。											
<b>[到達目標]</b>											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・人体の構造及び機能の基本を理解する。</li> <li>・人体に関する用語を日本語および英語で理解する。</li> <li>・異常により引き起こされる疾患の病態について解剖学的に説明できる。</li> </ul>											
<b>[授業計画と内容]</b>											
第1回 (4/12) Chapter1 Introduction to the Body; Chapter2 Chemistry of Life (山田)											
第2回 (4/12) Chapter3 Cells; Chapter4 Tissues (山田)											
第3回 (4/19) Chapter5 Organ Systems; Chapter6 Skin and Membranes (山田)											
第4回 (4/19) Chapter10 Senses; Chapter11 Endocrine System (山田)											
第5回 (4/26) Chapter7 Skeletal System (谷間)											
第6回 (4/26) Chapter8 Muscular System (谷間)											
第7回・第8回 (5/10) Chapter9 Nervous System (谷間)											
第9回 (5/17) Chapter12 Blood; Chapter13 Cardiovascular System (山田)											
第10回 (5/17) Chapter13 Cardiovascular System (cont'd) (山田)											
第11回 (5/24) Chapter14 Lymphatic System and Immunity; Chapter15 Respiratory System (谷間)											
第12回 (5/24) Chapter16 Digestive System (谷間)											
第13回 (5/31) Chapter18 Urinary System; Chapter21 Reproductive System (山田)											
第14回 (5/31) Chapter22 Growth, Development, and Aging (山田)											
第15回 (日付未定) フィードバック (西浦)											
<b>[履修要件]</b>											
特になし											
<b>[成績評価の方法・観点]</b>											
社会健康医学系専攻においては、理解度確認30%とレポート70% なお、成績評価方法の問い合わせについては、授業担当教員ではなく西浦・上田 (sphyoumu@gmail.com) へ確認すること。											

医学基礎 I 「解剖学」(2)へ続く↓ ↓ ↓

科目ナンバリング	P-PUB01 8H164 LJ90										
授業科目名 <英訳>	医学基礎 I 「基礎人類遺伝学」 Basic Medicine I (Introduction to Human Genetics)				担当所属 職名・氏名	医学研究科 特定教授 和田 敬仁					
配当 学年	専門職	単位数	2	開講年度 開講期	2023 前期	曜時限	水・木	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
<b>[授業の概要・目的]</b>											
【基本情報】 授業日時：水曜日 3時限を原則とする (例外予定にご注意ください) 教室：G棟3階演習室・状況によりオンライン授業を実施することがある レベル：基礎 担当教員：和田敬仁 (科目責任者)・中島健・小川晶宣・川崎秀徳・小杉真司											
【コースの概要】 遺伝カウンセラーとしてあるいは遺伝医学・遺伝医療を志す者として最も基本的な事項について理解するための講義である。今後、遺伝情報を治療に役立てていく精密医療のためにも重要である。細胞遺伝学、分子遺伝学、メンデル遺伝学、非メンデル遺伝、集団遺伝学などについて系統的な講義を行う。											
<b>[到達目標]</b>											
ヒト遺伝学の基本的事項について完全に理解し、専門家でない人にもわかりやすく説明できる。											
<b>[授業計画と内容]</b>											
【第1回】 4月12日<和田1>「メンデル遺伝総論」メンデル遺伝総論；遺伝形式、ヒトゲノム構造、標準的家系図の記載法											
【第2回】 4月12日4限<小杉1>「常染色体顕性遺伝/潜性遺伝」常染色体顕性遺伝 疾患の概念・特徴・浸透度・表現度、遺伝性と新生突然変異・anticipation (次世代の表現促進現象) /常染色体潜性遺伝 疾患の概念・特徴・保因者の概念											
【第3回】 4月12日5限<小杉2>「X連鎖性遺伝」X連鎖性遺伝の概念・X染色体とY染色体の特異性・性の決定機構・X連鎖性遺伝を示す具体的疾患											
【第4回】 4月12日6限<小川1>「細胞遺伝学(1)」染色体と細胞分裂・分画法による染色体分析・染色体の核型記載方法・染色体異常概論											
【第5回】 4月19日(臨床第一講堂)<小杉3>「薬理遺伝学」遺伝薬理学とゲノム薬理学の基本を正確に理解する											
【第6回】 4月19日5限<小川2>「細胞遺伝学(2)」染色体数異常の概念と発生機構・染色体構造異常の概念と発生機構・保因者の概念と次世代への影響											
【第7回】 4月26日<和田2>「分子遺伝学の基礎」遺伝子発現調節と分子病理学											
【第8回】 5月10日<中島1>「遺伝学的検査(1)」PCR法、シーケンシング法、サザンブロット法、CGHマイクロアレイ法											
【第9回】 5月17日<中島2>「遺伝学的検査(2)」バリエーションのスクリーニング方法、正常多型、バリエーションの種類											
【第10回】 5月24日<中島3>「腫瘍遺伝学の基礎」体細胞バリエーションと生殖細胞系列バリエーション、がん遺伝子とがん抑制遺伝子、遺伝性がん症候群											
【第11回】 5月31日<和田3>「遺伝学的リスクの推定」再発率の推定、ベイズの定理											
【第12回】 6月7日<和田4>「多因子遺伝、集団遺伝」多因子遺伝の概念、量的形質と質的形質、ハーディー・ワインバークの法則、アレル頻度、近親交配											

医学基礎 I 「基礎人類遺伝学」(2)へ続く↓ ↓ ↓

医学基礎 I 「解剖学」(2)
<b>[教科書]</b>
K.T.Patton, G.A.Thibodeau 『Structure & Function of the Body, 16th ed., Paperback』 (ELSEVIER) ISBN: 978-0323597791 (2019年11月発売の新版を使用する。)
<b>[参考書等]</b>
(参考書) 塩田浩平『グレイ解剖学 原著第3版』(エルゼビア・ジャパン) ISBN:978-4860343064 (必要に応じて参照のこと。重いのので毎回の講義に持参しなくてもよい。解剖実習では必要か。) 藤田恒夫『入門人体解剖学 改訂第5版』(南江堂) ISBN:978-4-524-24237-5 (英語がどうしても辛くなった時に参照するのに適切。) Paulsen, Waschke 『ソボッタ解剖学アトラス』(2021) ISBN:4621304593 (アトラス。実習と併用が可能。これは第1巻の情報で、全3巻である。)
<b>[関連URL]</b>
<a href="https://evolve.elsevier.com/cs/">https://evolve.elsevier.com/cs/</a> (教科書を購入すると、ウェブサイトへのアクセス方法が入手できます。)
<b>[授業外学修(予習・復習)等]</b>
・講義前には、教科書の該当範囲を通読しておくことが望ましい。 ・講義後には付録してある演習問題を解き、講義事項を確認する。
<b>[その他(オフィスアワー等)]</b>
初回講義より教科書を使用するので購入して持参すること。 なお、成績評価方法の問い合わせについては、授業担当教員ではなく西浦・上田 (sphyoumu@gmail.com) へ確認すること。
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

医学基礎 I 「基礎人類遺伝学」(2)
「非メンデル遺伝(1)」ミトコンドリア遺伝学を学ぶ 【第13回】 6月14日<和田5>「非メンデル遺伝(1)」ミトコンドリア遺伝学を学ぶ；母系遺伝、ヘテロプラスミー、ホモプラスミー、ミトコンドリア病 【第14回】 6月21日<中島4>「遺伝的多様性とDNA修復」遺伝的多様性、遺伝継承されるDNAのバリエーションと多型、DNA修復 【第15回】 6月28日<和田6>「非メンデル遺伝(2)」エピジェネティクスを学ぶ；刷り込み遺伝子、DNAメチル化、ヒストン修飾、クロマチンリモデリング、片親性ダイソミー 【第16回】 7月5日<川崎>「本試験」筆記試験 【第17回】 7月26日<小川>「再試験」筆記試験
<b>[履修要件]</b>
遺伝カウンセラーコース1年生(医療系出身者)必修科目、非医療系出身者は医学基礎I「基礎人類遺伝学」を履修下さい。 選択科目として履修する場合は、「遺伝医療と倫理・社会」とも履修することをお勧めします 人間健康科学系専攻学生の受講可否：要事前連絡
<b>[成績評価の方法・観点]</b>
試験、レポート、発表、出席等を総合的に評価する
<b>[教科書]</b>
トンプソン&トンプソン『遺伝医学(第2版)』(メディカルサイエンスインターナショナル) ISBN:978-4-89592-875-5 (2017年4月発行) 福嶋義光編『遺伝カウンセリングマニュアル(改定第3版)』(南江堂 2016) ISBN:978-4-524-26667-8 978-4-815-70166-6『新 遺伝医学やさしい系統講義19講』(メディカルサイエンスインターナショナル 2019) 臨床遺伝専門医制度委員会『臨床遺伝専門医テキスト1 臨床遺伝学総論』(診断と治療社 2021) ISBN:978-4-787-82367-0
<b>[参考書等]</b>
(参考書) 新川詔夫『遺伝医学への招待(改定6版)』(南江堂 2020) ISBN:978-4-524-24931-2 戸田達史『臨床遺伝専門医制度委員会』(MEDSI 2021) ISBN:978-4815730321
<b>[関連URL]</b>
<a href="http://www.geneclinics.org/GeneReviews">http://www.geneclinics.org/GeneReviews</a>
<b>[授業外学修(予習・復習)等]</b>
適宜指示する

医学基礎 I 「基礎人類遺伝学」(3)へ続く↓ ↓ ↓

医学基礎 I 「基礎人類遺伝学」(3)	
(その他(オフィスアワー等))	
講義日程、講師、内容については、多少の変更がある可能性があります	
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	

科目ナンバリング		P-PUB01 8H007 LB87	
授業科目名 <英訳>	医学基礎 II Basic Medicine II	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 西浦 博 医学研究科 准教授 尾野 亘 附属病院 准教授 加藤 貴雄 附属病院 助教 塩見 紘樹 京都府立医科大学 助教 河田 光博 附属病院 助教 山地 杏平
配当 学年	専門職	単位数	2
開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	木2
授業 形態	講義	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】			
担当教員 尾野 亘(京都大学大学院医学研究科 循環器内科学 准教授) 循環 加藤 貴雄(京都大学医学部附属病院 先端医療研究開発機構 臨床研究支援部 准教授) 循環 山地 杏平(京都大学医学部附属病院 循環器内科 助教) 塩見 紘樹(京都大学大学院医学研究科 循環器内科学 助教) 循環 河田 光博(京都府立医科大学 京都府立医科大学名誉教授) 神経内分泌学、脳科学、解剖学 コースの概要 生活習慣病などの疾病を学ぶために必要な医学的基礎知識として、循環系の器官・器官系の生理機能と調節機構に加えて、医学基礎I(前期)で扱わなかった運動器系(骨と筋)、神経系の基本的な構造と機能、およびその病態形成のメカニズムなどについて講義を行う。 学習到達目標(このコース終了時までに習得が期待できること) ・循環系について理解する ・運動器系の構成と正常機能および頻度の高い疾患の病態について理解する ・神経系と感覚器系の正常機能と形態および頻度の高い疾患の病態について理解する 教育・学習方法 講義形式(一部、解剖センターでの脳、骨格標本の見学を予定)			
【到達目標】			
医療系学部等での該当する教育を受けていない学生向けに開講している科目である。社会健康医学系専攻における多様な研究活動を行っていくための基礎的な学びを得る。			
【授業計画と内容】			
第1回 10月5日 循環器総論 ポンプとしての構造と機能を知る 第2回 10月12日 循環器各論1 構造的異常を知る: 弁膜症・先天性心疾患と血管疾患の理解のために 第3回 10月19日 循環器各論2 構造的異常を知る: 虚血性心疾患・救急医療の理解のために 第4回 10月26日 循環器各論3 機能的異常を知る: 高血圧・不整脈の理解のために 第5回 11月2日 運動器系: 骨格系1(骨・軟骨組織の構造と軸骨格)について 第6回 11月9日 運動器系: 骨格系2(上肢・下肢の骨、関節)について 第7回 11月16日 運動器系: 筋系1(筋組織の構造と運動)について 第8回 11月30日 運動器系: 筋系2(上肢・下肢・体幹)について 第9回 12月7日 神経系1: 神経系の研究の歴史、神経細胞の構造と機能について 第10回 12月14日 神経系2: 中枢神経系(大脳皮質)の構造と機能について 第11回 12月21日 神経系3: 中枢神経系(大脳の各葉)の構造と機能について 第12回 1月28日 神経系4: 中枢神経系(基底核、辺縁系、間脳)の構造と機能について			
----- 医学基礎 II(2)へ続く ↓ ↓ ↓			

医学基礎 II(2)	
第13回 1月11日 神経系5: 中枢神経系(脳幹、脊髄)の構造と機能について 第14回 1月18日 神経系6: 末梢神経系、自律神経系、血管系について 第15回 1月25日 神経系7: 代表的な脳・脊髄疾患の病態について感覚器系2と総まとめ: 嗅覚・味覚・体性感覚と皮膚、総まとめについて	
*1回~4回: 塩見 紘樹・加藤 貴雄・山地 杏平・尾野 亘、5回~15回: 河田 光博	
【履修要件】	
特になし	
【成績評価の方法・観点】	
平常点30%とレポート70%	
【教科書】	
・カラーで学ぶ解剖生理学(第2版)(コメディカルサポート研究会)メディカル・サイエンス・インターナショナル(ELSEVIER)2017 神経科学 脳の探求 改訂版 マーク・F・ペアー(著),パリー・W・コノーズ(著),マイケル・A・パラディオ(著),藤井聡(監修,翻訳) 西村書店 2021	
【参考書等】	
(参考書) (参考書) ・カンデル神経科学 第2版 宮下保司(監修),Eric R. Kandel・John D. Koester・Sarah H. Mack・Steven A. Siegelbaum(編集) メディカルサイエンスインターナショナル 2022 ・人体の正常構造と機能(改訂第3版)全10巻縮刷版、日本医事新報社、2017 ・プロメテウス解剖学コアトラス 第2版、医学書院、2014 ・病気が見えるvol.2 循環器 医療情報科学研究所 2017	
【授業外学修(予習・復習)等】	
適宜予習復習を求める。	
(その他(オフィスアワー等))	
人間健康科学系専攻学生の受講可否:可	
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	

科目ナンバリング		P-PUB01 8H008 LB87	
授業科目名 <英訳>	臨床医学概論 Introduction to Clinical Medicine	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 西浦 博 非常勤講師 渡邊 決 非常勤講師 千葉 勉
配当 学年	専門職	単位数	2
開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水4
授業 形態	講義	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】			
担当教員 千葉 勉(関西電力病院 特任院長、京都大学名誉教授) 奥野 琢也(大塚製薬PV部メディカルセーフティー室シニアマネージャー) 鉦織 達人(京都大学医学部附属病院医療安全管理部/消化管外科 助教) 岩波 将博(京都府立医科大学大学院医学研究科呼吸器内科学 助教) 星野 伸晃(京都大学医学部附属病院先端医療研究開発機構(iACT) 臨床研究支援部/消化管外科 特定講師) コースの概要 医学は今日まで多くの疾病の原因を解明し、その予防法と治療法を発見し人間社会に貢献してきた。しかし、現代社会は人口問題、環境問題、高齢者問題などが相まって、人間の疾病と関連する多くの課題に直面している。本講義では、保健、医療、福祉に携わる保健医療従事者(医師、看護師、その他のコメディカルスタッフ)が連携していく上で不可欠な医学に関する基礎知識と今日の課題について講義する。また、臨床研究の紹介を通じて社会健康医学と臨床医学の間の関係に関する理解を深め、その役割に関する責任感を高める。 教育・学習方法 ・講義			
【到達目標】			
・現代医学・医療の基本的な内容や方向性を理解できる。 ・社会における臨床医学の役割や抱える問題点とその背景を、様々な立場から理解できる。 ・臨床研究のホットトピックについて強い動機で学修できる。			
【授業計画と内容】			
第1回 10月4日 周術期管理の問題提示 第2回 10月11日 集中治療管理の問題提示 第3回 10月18日 医療と安全管理 第4回 10月25日 臨床栄養とPRO 第5回 11月1日 がん診療における患者・医療と社会 第6回 11月8日 がんゲノム医療における臨床的課題 第7回 11月15日 臨床研究と法・指針 第8回 11月29日 保険外併用療養費制度 第9回 12月6日 がんの基礎と臨床 第10回 12月13日 遺伝子と遺伝病 第11回 12月27日 免疫と疾患 第12回 1月10日 感染症 第13回 1月17日 栄養と代謝性疾患 第14回 1月24日 消化器疾患 第15回 1月31日 循環器疾患と腎疾患			
----- 臨床医学概論(2)へ続く ↓ ↓ ↓			

<b>臨床医学概論(2)</b>
*1回・2回:奥野講師、3回・4回:錦織講師、5回・6回:岩成講師、7回・8回:星野講師 9回~15回:千葉講師
<b>【履修要件】</b> 特になし
<b>【成績評価の方法・観点】</b> 理解度の確認（出席の上で講義内容の理解を確認する） 50%、レポート50%
<b>【教科書】</b> 推薦テキスト（購入は必須ではない） ・河田光博、武田英二編、臨床医学入門人体の構造と機能及び疾病の成り立ち 第2版(栄養科学シリーズNEXT)、講談社サイエンティフィク、2009.
<b>【参考書等】</b> (参考書) (参考書等) ・Harrison's Internal Medicine 19th edition, McGraw Hill Education ・Goldman-Cecil, Medicine, 25th edition, Elsevier ・ガイトン 生理学、エルセヴィアジャパン ・ハーバー 生化学、丸善 ・日本麻酔科学会 麻酔を受けられる方へ： <a href="https://anesth.or.jp/users/common/receive_anesthesia?page=1">https://anesth.or.jp/users/common/receive_anesthesia?page=1</a> ・厚生労働省 人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針： <a href="https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hokabunya/kenkyujigyou/i-kenkyu/index.html">https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hokabunya/kenkyujigyou/i-kenkyu/index.html</a> ・厚生労働省 臨床研究法について： <a href="https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000163417.html">https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000163417.html</a> ・厚生労働省 先進医療の概要について： <a href="https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/iryuhoken/sensiniryoo/index.html">https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/iryuhoken/sensiniryoo/index.html</a> ・厚生労働省 患者申出療養制度： <a href="https://www.mhlw.go.jp/moushideryouyou/professional.html">https://www.mhlw.go.jp/moushideryouyou/professional.html</a>
<b>【授業外学修（予習・復習）等】</b> 適宜予習復習を求むる。
<b>【その他（オフィスアワー等）】</b> 必修である非医療系学部出身者はもちろん、医師はじめ医療系学部出身者の受講も歓迎します。 人間健康科学系専攻学生：可 ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

<b>医療統計学実習(2)</b>
第15回9月13日 発表会2 (10:30開始)
<b>【履修要件】</b> ・履修者は40名を上限としますので、社会健康医学系専攻の履修者を優先します ・毎年上限以上の履修希望者がいて、希望通りに受け入れられない状況ですが、例年、途中から「参加できなくなった」という学生さんがいます。参加できなくなる可能性のある場合は受講を遠慮してください ・人間健康科学系専攻の学生さんの受け入れはしていません ・医学修士、医学博士課程の受講希望者は事前に連絡してください ・レポートを書いたことのない人は、レポートの書き方に関する書籍などを読んでおいてください
注 この実習は9月に発表会があります
<b>【成績評価の方法・観点】</b> レポートとプレゼンテーション ・毎回レポートを提出してもらいます ・班ごとのプレゼンテーション ・個人ごとのプレゼンテーション (9月)
<b>【教科書】</b> 必須ソフト： JMP 毎回「実習の手引き」を配布します
<b>【参考書等】</b> (参考書)
<b>【授業外学修（予習・復習）等】</b> 毎回レポート提出があります
<b>【その他（オフィスアワー等）】</b> 途中からの参加は認めません、必ず初回から出席してください ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

<b>科目ナンバリング</b>	P-PUB01 8H011 P190		
<b>授業科目名</b> <英訳>	医療統計学実習 Introduction to Statistical Computing and Data Management	<b>担当者所属・職名・氏名</b>	医学研究科 教授 佐藤 俊哉 医学研究科 特定教授 大森 崇 医学研究科 特定助教 大宮 将義
<b>配当学年</b>	専門職	<b>単位数</b>	2
<b>開講年度</b>	2023	<b>開講期</b>	前期
<b>曜時限</b>	火3,4	<b>授業形態</b>	実習
<b>使用言語</b>	日本語		
<b>【授業の概要・目的】</b> 医療統計学実習では、医療統計学講義で学んだ医療統計の考え方を実際に目で見て、体験することを目的とします。医療統計学の理解を深めるためにはお勤めの実習です。統計ソフトJMPによる簡単な集計、解析、プログラミングを実習します。実習のレポートはワープロソフトWordで作成してもらいます。図表などは表計算ソフトExcelを使って作成します。プレゼンテーションはプレゼンテーションソフトPowerPointを用いて行います。これらのソフトの使い方も学びます。 統計ソフトJMPは京都大学でライセンス契約しています。医学研究科の学生さんは医学研究科ホームページの、 <a href="http://www.med.kyoto-u.ac.jp/software/JMP/">http://www.med.kyoto-u.ac.jp/software/JMP/</a> から、実習で使用するノートパソコンにJMPをダウンロード・インストールしてください。みなさんの個人のパソコンにもインストールできますので、ノートパソコンなどにインストールして実習に持ってきてください。			
<b>【グループ実習】</b>			
<b>【到達目標】</b> ・データチェック、データマネジメントの重要性を理解する ・ワープロ、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトを使って、理解しやすい図表を作成し、発表し、レポートを作成する ・統計ソフトを使って集計と簡単な統計計算を行うことで、医療統計の基礎的な考え方の理解を深める			
<b>【授業計画と内容】</b>			
第1回	4月11日	イントロダクション、表計算ソフトを使う	
第2回	4月18日	統計ソフトJMPを使う	
第3回	4月27日	グループ実習1: テーマ選択・データ収集	
	5月2日	休講	
第4回	5月9日	グループ実習2: データ収集	
第5回	5月16日	グループ実習3: 集計、解析	
第6回	5月23日	グループ実習4: プレゼンテーション	
第7回	5月30日	ランダムにわけよう	
第8回	6月6日	リスク比、リスク差、オッズ比の不思議	
第9回	6月13日	割合の差の検定と帰無仮説のほんとうの意味	
第10回	6月20日	「95%信頼区間は95%の確率で真の値を含む」わけではない	
第11回	6月27日	2×2表を解析する	
第12回	7月4日	サンプルサイズを計算していかに多くの対象者が必要かをみる	
第13回	7月11日	ランダムサンプリングしてみる	
第14回	9月12日	発表会1 (10:30開始)	
医療統計学実習(2)へ続く ↓ ↓ ↓			

<b>科目ナンバリング</b>	P-PUB01 8H084 L190		
<b>授業科目名</b> <英訳>	観察研究の統計的方法 Statistical Methods in Observational Studies	<b>担当者所属・職名・氏名</b>	医学研究科 教授 佐藤 俊哉
<b>配当学年</b>	専門職	<b>単位数</b>	2
<b>開講年度</b>	2023	<b>開講期</b>	前期集中
<b>曜時限</b>	金・3-6	<b>授業形態</b>	講義
<b>使用言語</b>	日本語		
<b>【授業の概要・目的】</b> 臨床研究や疫学研究では様々な観察研究が行われています。臨床試験に代表される実験研究を実施できない状況は数多くあり、観察研究は臨床研究・疫学研究において重要な役割を演じています。しかし、観察研究は実験研究とことなっており、さまざまなバイアスが入りやすく、観察研究に特有の留意すべき事項も多くあります。 本コースでは観察研究のデザイン、統計解析の方法を解説し、観察研究を計画、実施、解析ならびに報告するための医療統計学の知識を習得することを目標とします。			
<b>【6月2日、9日、16日、23日（金）の集中講義】</b>			
<b>【到達目標】</b> ・バイアスを避けるための研究デザイン上の工夫を理解する ・バイアスを調整するための統計的方法を理解する ・観察研究における因果推論の考え方を理解する ・様々な研究デザインによる対象者のサンプリング方法と解析方法を理解する			
<b>【授業計画と内容】</b> 集中講義 6月2日、9日、16日、23日（金）3限～6限（24日のみ3限・4限）			
第1回	6月2日	3限	2×2表の数理と解析
第2回	6月2日	4限	観察研究におけるバイアス
第3回	6月2日	5限	層別解析
第4回	6月2日	6限	演習1
第5回	6月9日	3限	マッチング
第6回	6月9日	4限	一般化線形モデル
第7回	6月9日	5限	生存時間解析
第8回	6月9日	6限	演習2
第9回	6月16日	3限	新しい疫学研究デザイン1
第10回	6月16日	4限	新しい疫学研究デザイン2
第11回	6月16日	5限	ベイズ流の解析
第12回	6月16日	6限	演習3
第13回	6月23日	3限	傾向スコアによる解析
第14回	6月23日	4限	操作変数法
<b>【履修要件】</b> ・統計学の基本的な知識（確率分布、尤度、漸近分散、など）を前提とした難しいコースなので、前期「統計的推測の基礎」を履修済みであること ・受講希望者は登録前に必ず相談してください			
観察研究の統計的方法(2)へ続く ↓ ↓ ↓			

<b>観察研究の統計的方法(2)</b>	
・人間健康科学系専攻の学生さんの受け入れはしていません	
<b>[成績評価の方法・観点]</b>	
数理・解析に関する演習のレポート	
<b>[教科書]</b>	
講義資料を事前にPandAにアップします	
<b>[参考書等]</b>	
(参考書) 佐藤俊哉『宇宙怪人しまりす 医療統計を学ぶ 検定の巻』(岩波書店, 2012) ISBN:978-4-00-029594-9 丹後俊郎、松井茂之編『新版 医学統計学ハンドブック』(朝倉書店, 2018) ISBN:9784254122999 Lash TL, VanderWeele TJ, Haneuse S, Rothman KJ『Modern Epidemiology, 4th ed.』(Walters Kluwer, 2021) ISBN:9781451193282 佐藤俊哉、石黒智恵子、山口拓洋編『これからの薬剤疫学』(朝倉書店, 2021) ISBN:9784254301236	
<b>[授業外学修(予習・復習)等]</b>	
講義の進め方は事前アナウンスします	
<b>(その他(オフィスアワー等))</b>	
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	

科目ナンバリング		P-PUB01 8H093 LB90		
授業科目名 <英訳>	文献検索法 Literature Search		担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 准教授 高橋 由光 医学研究科 教授 中山 健夫
	配当 学年	専門職	単位数	1
開講年度・ 開講期	2023・ 前期中	曜時限	月	4
<b>[授業の概要・目的]</b>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>臨床研究を含む社会健康医学(パブリックヘルス)領域において、基本的なスキルの1つである文献検索の方法論について講義を行います。</li> <li>疫学・EBM(根拠に基づく医療)の知識をもとに、各種の健康・医療情報を検索する方法を学習します。</li> <li>PubMed、コクラン・ライブラリー、医学中央雑誌など代表的な医学文献データベース、有用なWebサイト、本学で利用可能な情報リソースの基礎的事項を紹介し、その活用法の習得を目指します。</li> <li>EBMや疫学の基礎知識を学びながら、社会健康医学の学習・研究を進める基礎として、体系的な情報検索法の習得を目指します。</li> <li>教育・学習方法: パワーポイントスライドによる講義と実習</li> </ul>				
<b>[到達目標]</b>				
各種文献データベースを活用して、社会健康医学に関する情報を検索するスキルを習得する。				
<b>[授業計画と内容]</b>				
原則対面授業ですが、一部メディア活用を行います。文献検索のハンズオン(対面またはオンライン)も行います。各自、パソコンおよびインターネットアクセス環境の準備をよろしくお願いします。				
第1回 4月10日 オリエンテーション(中山・高橋)				
第2回 4月17日 医中誌Web入門(医学中央雑誌)				
第3回 4月24日 PubMed入門(医学図書館)【同時双方向型及びオンデマンド型】				
第4回 5月8日 PubMed応用・インターネット検索(高橋)				
第5回 5月15日 クリニカル・クエスト、診療ガイドライン、システマティック・レビュー(中山)				
第6回 5月22日 コクラン・ライブラリー入門(ワイリー)【同時双方向型及びオンデマンド型】				
第7回 5月29日 文献管理入門・Mendeley演習(エルセビア・ジャパン)【同時双方向型及びオンデマンド型】				
第8回 6月5日 文献評価の基本&各種声明(中山)				
<b>[履修要件]</b>				
特になし				
<b>[成績評価の方法・観点]</b>				
毎回の小レポート(30%) および課題レポート提出(70%)				

文献検索法(2)へ続く↓↓↓

<b>文献検索法(2)</b>	
<b>[教科書]</b>	
使用しない	
<b>[参考書等]</b>	
(参考書) 授業中に紹介する	
<b>[授業外学修(予習・復習)等]</b>	
講義で行った検索方法を、自らできるように復習してください。予習が必要な場合は、事前にPandAにて指示します。	
<b>(その他(オフィスアワー等))</b>	
人間健康科学系専攻学生の受講可否: 受講可 PandAを通して連絡を行いますので、初回講義の前に、余裕をもってKULASISにて履修登録(仮で可)を行ってください。	
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	

科目ナンバリング		P-PUB01 8H094 LB90		
授業科目名 <英訳>	文献評価法 Critical Appraisal		担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 中山 健夫 医学研究科 准教授 高橋 由光 豊田地域医療センター 教育顧問 野口 善令 京都府立医科大学 教授 四方 哲 新潟山形リハビリテーション専門学校 田中 優 教授 東京都健康長寿医療センター 石崎 達郎 研究部長 静岡社会健康医学大学院大学 佐々木 八十子
	配当 学年	専門職	単位数	1
開講年度・ 開講期	2023・ 前期集中	曜時限	期後半: 月	4
<b>[授業の概要・目的]</b>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>臨床研究を含む社会健康医学(パブリックヘルス)領域において、基本的なスキルの1つである文献の評価方法について講義を行います。</li> <li>疫学・EBM(根拠に基づく医療)の知識をもとに、各種の健康・医療情報を検索し、適切に評価した上で利用する方法を学習します。</li> </ul>				
教育・学習方法 ・パワーポイントスライドによる講義と実習 ・一部グループワークあり				
<b>[到達目標]</b>				
得られた文献・情報を批判的に吟味し、主体的に活用する能力を習得する。				
<b>[授業計画と内容]</b>				
第1回 4月10日オリエンテーション(中山・高橋)				
第2回 6月12日CASPによる臨床試験論文の評価(中山)				
第3回 6月19日ケースを用いたバイアスの評価(1)(石崎)				
第4回 6月26日ケースを用いたバイアスの評価(2)(石崎)				
第5回 7月10日CASPによるメタアナリシス論文の評価(中山)				
第6回 7月24日AGREE法による診療ガイドラインの評価(中山)				
第7回 7月31日コクラン・レビューを通して(田中・佐々木)				
第8回 8月28日 4限・5限 特別セミナー 医療者に求められる思考法: 臨床疫学からの視点(野口) メタアナリシスから地域医療、そして行政へ(四方)				
<b>[履修要件]</b>				
特になし				
<b>[成績評価の方法・観点]</b>				
毎回の小レポート(30%) および課題レポート提出(70%)				
<b>[教科書]</b>				
講義資料は配布				

文献評価法(2)へ続く↓↓↓

文献評価法(2)
-----
<b>[参考書等]</b>
(参考書) 中山健夫, 津谷喜一郎編著 『臨床研究と疫学研究のための国際ルール集』 (ライフサイエンス出版)
<b>[授業外学修 (予習・復習) 等]</b>
予習より復習に時間を取ること
<b>(その他 (オフィスアワー等))</b>
EBMや疫学の基礎知識を学びながら、社会健康医学の学習・研究を進める基礎として、系統的な文献評価法の習得を目指します。
人間健康科学系専攻学生の受講可否: 可
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	P-PUB01 8H115 LB90										
授業科目名 <英訳>	ヘルスサイエンス研究の進め方 Methods of Health Sciences Research				担当者所属・ 職名・氏名		医学研究科 教授 中山 健夫 スタッフコム株式会社 植谷 可恵 情報環境機構 助教 小野 英理				
配当 学年	専門職	単位数	1	開講年度・ 開講期	2023・ 前期集中	曜時限	水4	授業 形態	講義	使用 言語	日本語及び英語
<b>[授業の概要・目的]</b>											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療・ヘルスサイエンス研究を進めるにあたって必要な、明確で正確なコミュニケーションの基本的知識を学びます。</li> <li>・研究者として「知らなかった」ではすまされない研究と出版の倫理について学びます。</li> <li>・研究成果公表にあたって分かりやすい、科学的・論理的な文章、図表、スライドやポスターの作成法を学びます。</li> </ul>											
<b>[到達目標]</b>											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヘルスサイエンス研究をする意味への理解を深める。</li> <li>・研究者として遵守すべき研究と出版の倫理について理解する。</li> <li>・研究を進めるにあたって必要な学会発表、論文出版の進め方、助成金申請の準備について基本的な手順を理解する。</li> <li>・研究成果を公表するにあたって必要な科学的な文章作成方法と、一般的な文章表現方法の違いを理解する。</li> </ul>											
<b>[授業計画と内容]</b>											
第1回 6月16日3限 公正な科学研究 (中山) 第2回 6月16日4限 研究と出版の倫理I (総論) (中山) 第3回 6月23日3限 研究と出版の倫理II (ICMJE) (中山) 第4回 6月23日4限 論理的な文章作成法: 効果的・効率的な書き方、論文と抄録の書き方 (植谷) 第5回 6月30日3限 研究資金の概要と研究資金獲得に向けた申請書作成のポイント (協力・大西 将徳 学術研究展開センター (KURA)) 第6回 6月30日4限 訴求力のあるプレゼンテーション、ポスターの作成 (小野) 第7回 7月14日3限 論理的な文章作成法: パラグラフ構造 (植谷) 第8回 7月14日4限 京都大学における医学研究の歴史 (中山)											
<b>[履修要件]</b>											
特になし											
<b>[成績評価の方法・観点]</b>											
毎回の小レポート (80%) レポート (20%)											
<b>[教科書]</b>											
講義資料は配布											
ヘルスサイエンス研究の進め方 (2)へ続く↓↓↓											

ヘルスサイエンス研究の進め方 (2)
-----
<b>[参考書等]</b>
(参考書) Thomas Lang 『トム・ラングの医学論文「執筆・出版・発表」実践ガイド』 (シナジー) Thomas Lang 『わかりやすい医学統計の報告: 医学論文作成のためのガイドライン』 (中山書店) 中山健夫 ほか 『臨床研究と疫学研究のための国際ルール集』 (ライフサイエンス社) 購入は必須ではありません。
<b>[授業外学修 (予習・復習) 等]</b>
・各回授業につき1時間程度。
<b>(その他 (オフィスアワー等))</b>
・授業中は自分の表現で意見表明できるように常に考えていてください。 ・開講日と時限に注意してください。
人間健康科学系専攻学生の受講可否: 可
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	P-PUB01 8H129 LB90										
授業科目名 <英訳>	医療の質評価 Evaluation of Quality in Health Care				担当者所属・ 職名・氏名		医学研究科 教授 今中 雄一 医学研究科 特定准教授 佐々木 典子 医学研究科 准教授 國澤 進 医学研究科 特定講師 榎 重虎 医学研究科 特定助教 後藤 悦				
配当 学年	専門職	単位数	1	開講年度・ 開講期	2023・ 前期後半	曜時限	水3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
<b>[授業の概要・目的]</b>											
医療の質、医療安全、公正と効率に関して、医療スタッフ・医療施設・地方自治体・国に至る諸々の現場レベルにおける重要課題を扱い、基本的事項を理解する。 <内容> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療の質、公正と効率</li> <li>・Quasi-Experimental Designの基本について説明できる</li> <li>・医療の質・安全・効率におけるマネジメントシステムと政策</li> <li>・医療の評価・病院機能評価</li> <li>・医療情報と医療の質評価</li> <li>・医療の質指標 (QI) とその活用</li> </ul>											
<b>[到達目標]</b>											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療の質を評価する際に必要な理論・概念、研究・評価手法、課題と対策について、重要事項を理解し、他者に説明しできるようになること。</li> <li>・基本的な研究や社会制度の意義を系統的、批判的に解釈できるようになること。</li> <li>・社会健康医学の研究及び実務上の問題解決に、関連しうる知識等を活用できるようになること。</li> </ul>											
<b>[授業計画と内容]</b>											
第1回 6月14日 医療の質、効率、そして公正 第2回 6月21日 医療の質・安全と組織文化 第3回 6月28日 医療の質の評価法、アウトカム研究・リスク調整 第4回 7月5日 医療の質の指標化 (QI, CI) 第5回 7月12日 情報システムと医療評価 第6回 7月19日 医療の質評価: 論文レビュー&討議1 第7回 7月26日 医療の質評価: 論文レビュー&討議2											
* 外部講師他の諸状況により日程変更あります。初回に予定を説明します。											
<b>[履修要件]</b>											
社会健康医学系専攻院生 他専攻院生 (人間健康科学系専攻等含む) の受講可否: 3名程度まで可 (ただし、社会健康医学系専攻院生を前提とした講義となります。)											
医療の質評価 (2)へ続く↓↓↓											



医療の質評価 (2)	
原則、80%以上の出席を前提とする	
【成績評価の方法・観点】	
1. レポート 60% 2. 日々の講義へのコミットメント 40%	
【教科書】	
適宜、資料を講義にて配布する。	
【参考書等】	
<p>(参考書)</p> <p>『今中雄一編, 認知症にやさしい健康まちづくりガイドブック: 地域共生社会に向けた15の視点 (共著)』(学芸出版社: 2023)</p> <p>『病院の教科書第2版』(医学書院)</p> <p>『医療安全のエビデンス - 患者を守る実践方策』(医学書院, 2005)</p> <p>『Handbook of Health Services Research』(Springer Science+Business Media)</p> <p>『NEW予防医学・公衆衛生学 改訂第4版』(編集:小泉昭夫/馬場園明/今中雄一/武林亨)』(南江堂, 2018.)</p>	
【授業外学修(予習・復習)等】	
予習・復習は必要	
(その他(オフィスアワー等))	
※やむを得ず相当の理由等により、対面授業をオンライン授業等へ変更する可能性があります。	
・当分野では、医療政策、医療経営、医療の質・安全・コスト研究に深く関わりたい人を募っています。(医療経済学分野: <a href="http://med-econ.uamin.ac.jp">http://med-econ.uamin.ac.jp</a> )	
問い合わせ等は、 医療経済学教室 教務 <heqm-kyoumu(at)mail2.adm.kyoto-u.ac.jp> へご連絡ください。 面談等希望者は、適宜、教員にアポイントメントをとってください。	
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	

科目ナンバリング		P-PUB01 8H162 LB90	
授業科目名 <英訳>	毒性科学 Toxicological Sciences	担当所属・ 職名・氏名	医学研究科 准教授 原田 浩二 医学研究科 特准教授 奥田 裕子 京都大学 医学研究科 研究員 藤谷 倫子 医療法人社団 原田 真理子 蘇生会総合病院 医師 非常勤講師 藤井 由希子
配当 学年	専門職	単位数	2
開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時間	水4
授業 形態	講義	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】			
化学物質の健康影響を考えると、「正」の面である薬と「負」の面である毒がある。本コースでは、環境汚染物質や身近にある金属、有機物質の毒性を有名な事件を題材として考察し、毒性学の概論を学ぶ。現代科学文明の獲得した利便性とヒト健康に及ぼす負の作用を考えます。ケーススタディをもとに、薬物、毒物の影響を教授しますが、自らも考え、積極的に意見発表を行ってください。			
【到達目標】			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境保健の事例を説明できる。</li> <li>・化学物質の毒性を説明できる。</li> <li>・毒物に関して、性質、影響を類推、文献検索ができる。</li> <li>・中毒事例について症状と経過から毒物を予想できる。</li> </ul>			
【授業計画と内容】			
第1回 オリエンテーション(環境保健と毒性学) Orientation			
第2回~3回 水銀中毒 Mercury poisonings			
第4回 ネオニコチノイド農薬 Neonicotinoid pesticide			
第5回~6回 砒素中毒 Arsenic poisonings			
第7回 インドの小児の神経障害事例 Cause of Chirethren's Death in India during summer			
第8回 インスリン発見百周年を超えて一概論と毒性学的话题 Beyond the 100th anniversary of Insulin-overview and toxicological issues			
第9回 トリカブトなどの自然毒 Aconitine			
第10回 植物性エストロゲン Phytoestrogens			
第11回 残留性有機汚染物質 Persistent organic pollutants			
第12回 麻薬の毒性 Opioid and cannabinoid			
第13回 温熱環境 温泉って体に良いの? -これまでの研究と今後- Thermal environment: Are hot springs good for your health? -Past and future research-			
第14回~15回 グループワーク Group work			
【履修要件】			
特になし			
【成績評価の方法・観点】			
平常点(出席と質問等の積極性を含む) 30%、レポートと発表70%			
----- 毒性科学(2)へ続く ↓ ↓ ↓ -----			

毒性科学(2)	
【教科書】	
講義中の配布資料	
【参考書等】	
(参考書) 授業中に紹介する	
【授業外学修(予習・復習)等】	
予習の必要はありませんが、化学の知識については、若干必要ですので復習してください。グループワークについては授業時間外で準備してください。	
(その他(オフィスアワー等))	
オンラインで開講する予定である。 留学生が受講している場合は英語での説明も同時に行う。	
人間健康科学系専攻学生の受講可否: 上限10人まで可能	
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	

科目ナンバリング		P-PUB01 8H103 LB90	
授業科目名 <英訳>	医療社会学・基礎 Medical Sociology	担当所属・ 職名・氏名	医学研究科 准教授 岩隈 美穂
配当 学年	専門職	単位数	1
開講年度・ 開講期	2023・ 前期集中	曜時間	前期後半 火
授業 形態	講義	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】			
<p>コースの概要</p> <p>医療社会学とは「健康・病気と保健・医療に関わる世界の問題を、行動や生活、家族や集団、地域や社会、文化などに関する社会学の理論と方法を用いて解明する学問分野」です(山崎喜比古(編)、2001、「健康と医療の社会学」まえがきより)</p> <p>このクラスの射程として、社会学はもちろんだが人類学、コミュニケーション学、歴史、哲学、倫理学なども含めた「人文学・社会科学」から医学を考える。</p> <p>座学に加えて、地域共生社会実現のための研修プログラム(支援者向けカードゲーム)「Let's 協力」を実施する。</p>			
【到達目標】			
<p>学習到達目標(このコース終了時までに習得が期待できること)</p> <p>医療社会学とは何か、を説明できる。</p> <p>医療社会学の概念、理論、方法論を理解する。</p> <p>基本的概念である「患者役割」「医療化」「エンハンスメント」「SDH」などについて理解する。</p> <p>「人文学・社会科学」の視点から医療・医学を理解する。</p> <p>地域共生社会の研修プログラム(ゲームフィクション)を通して、以下を理解することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の多様なニーズを知ること。</li> <li>・一つの組織でできることの限界を知ること。</li> <li>・地域がつながったときの可能性を知ること。</li> <li>・当事者への直接的アプローチだけでなく、地域へのアプローチの有効性と方法を知ること。</li> </ul>			
【授業計画と内容】			
1)5/30 インタロダクション			
2)6/6 医療社会学の基礎			
3)4/6/13 地域共生社会実現のための研修プログラム「Let's 協力」(稲葉久之氏)【3時間】			
5)6/20 病人役割ほか			
6)6/27 IPE/IPWについて(酒井郁子氏 千葉大学)			
7)7/4 SDH、エンハンスメントほか			
8)7/11 まとめ			
----- 医療社会学・基礎(2)へ続く ↓ ↓ ↓ -----			

医療社会学・基礎(2)	
【履修要件】 特になし	
【成績評価の方法・観点】 出席 25% 授業参加度 25% レポート 50% タイトル 15% + 最終版 35%	
【教科書】 ハンドアウトを配布する 地域共生社会実現のための研修プログラム（支援者向けカードゲーム）「Let's 協力」は、3時間（2コマ）です。	
【参考書等】 （参考書）	
【授業外学修（予習・復習）等】 各自の興味関心に関連した医療社会学のリーディングを読むことを薦める	
【その他（オフィスアワー等）】 「授業参加・貢献」を重視しているため、自発的発言を求めます。 医療・医学への社会的アプローチに興味のある学生向け。 障害があり、授業あるいは課題への取り組みに配慮（Accommodation）が必要な場合、早めに相談に来ること。 講師の都合によって、内容や日程が変わることもある。 地域共生社会実現のための研修プログラム（支援者向けカードゲーム）「Let's 協力」の使用言語は日本語で、2コマ続けて行う（3時間）。 人間健康科学系専攻学生の受講可否： 10名まで可 * 今学期は、対面での授業を予定しています。 ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	

科目ナンバリング		P-PUB01 8H112 LB90	
授業科目名 <英訳>	臨床試験 Clinical Trial	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 特定教授 田中 司朗 医学研究科 教授 古川 壽亮 医学研究科 准教授 西山 知佳 京都府立医科大学 教授 手良向 聡 名医医療センター臨床疫学研究室 齋藤 明子 医学研究科 特定助教 大宮 将義
配当 学年	専門職	単位数	2
開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水5
授業 形態	講義	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】 臨床試験の方法論について、海外の標準的教科書「クリニカルトライアル よりよい臨床試験を志す人たちへ」の3章、5章、6章、9章、10章、12-15章に沿って講義する。循環器、がん、Translational Research領域の医師主導型臨床試験に実績のある講師3人により、臨床試験の実際について講義する。また、仮想的な臨床試験のプロトコル作成を小グループで行う。MCR必修、CB必修、MPH選択。			
【到達目標】 ・臨床試験の方法論を理解する。 ・臨床試験プロトコルの記載内容を理解し、プロトコル作成の考え方について、実習を通じて身につける。			
【授業計画と内容】 ・第1回は先端科学研究棟1階大セミナー室にて対面で行うので、出席すること ・事前学習+講義形式と、実習形式 ・事前学習の詳細については第1回講義で案内する ・実習はプロトコル作成など			
第1回 4月12日 インTRODクッション（田中） 第2回 4月19日 うつ病治療のエビデンスを作る：メタアナリシスとメタトライアル（古川） 第3回 4月26日 組織作りと計画（田中） 第4回 5月10日 循環器領域の教育介入試験の実際（西山） 第5回 5月17日 エンドポイント・ランダム化とブラインドの方法（田中） 第6回 5月24日 プロトコルの統計学的考慮点（手良向） 第7回 5月31日 がん臨床試験実施上の問題とその対策（齋藤）★WEB 第8回 6月7日 検定の多重性・中間解析・試験経過の把握（田中） 第9回 6月14日 プロトコルの逸脱・非劣性試験・実習班分け（田中） 第10回 6月21日 実習（プロトコルコンセプト作成、田中） 第11回 6月28日 実習（プロトコルコンセプト作成、田中） 第12回 7月5日 実習（プロトコルコンセプト作成、田中） 第13回 7月12日 実習（プロトコルコンセプト作成、田中） 第14回 7月19日 実習（プロトコル検討会、古川、西山、田中）			
臨床試験(2)へ続く↓↓↓			

臨床試験(2)	
【履修要件】 特になし	
【成績評価の方法・観点】 平常点（50%）、レポート（50%）	
【教科書】 S. J. ボコック『クリニカルトライアル よりよい臨床試験を志す人たちへ』（篠原出版） 教科書の入手については第1回でアナウンスする。	
【参考書等】 （参考書）	
【授業外学修（予習・復習）等】 教科書「クリニカルトライアル よりよい臨床試験を志す人たちへ」を適宜読むこと。	
【その他（オフィスアワー等）】 人間健康科学系専攻学生の受講可否： 可 ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	

科目ナンバリング		P-PUB01 8H134 LJ90	
授業科目名 <英訳>	統計家の行動基準 Statisticians Standard of Conducts	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 佐藤 俊哉 医学研究科 特任准教授 佐藤 恵子 医学研究科 特定教授 大森 崇 医学研究科 特定助教 大宮 将義
配当 学年	専門職	単位数	1
開講年度・ 開講期	2023・ 前期集中	曜時限	水5
授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】 19世紀の英国の首相ディズレーリは「嘘には、嘘、“大きな嘘”、“統計”がある」として、統計はさまざまな領域で政策や意思決定するための基礎情報として用いられ、人間の福利や環境を保持・向上させるために必要なものです。統計が嘘よばわりされないためには、統計に関わる業務や研究を行う専門家である統計家は、相応の知識や技能はもちろんのこと、プロフェッショナルリズムを有していなくてはなりません。 と言われると、なにやら堅苦しい感じがして、とくに最近では研究不正のおかげで、規範を守れぬ研究倫理セミナーを受けるなど、外からの縛りがきつくなるばかりですが、本講義は、「自分を縛るのは自分しかない」を基本コンセプトに、統計家はどうかあるべきかを自ら考えて心に持つことを目的とします。 人間を対象にした臨床試験をデザインする際には、科学性だけではなく心が必要であること、健康を願って作ったはずの薬が悲劇を招き、それに統計家が負担する可能性があることなどの事例を学びます。そして、統計家はどうかあるべきかを、自分はどうありたいのかについて、討議やグループワークを通じて考えます。 【7月7日、14日、21日（金）の集中講義】 第3・4回（7月14日）は佐藤嗣道先生（東京理科大学）による講義とディスカッションがあります。			
【到達目標】 ・臨床研究における科学性と倫理性の相克を理解する ・薬の評価において過去に統計家がしてきたことを理解する ・臨床研究における統計家の役割を説明できる ・統計家としての行動基準を考へて身の内に持つ			
【授業計画と内容】 集中講義 7月7日（金、3,4限）、14日（金、3,4限）、21日（金、3,4,5限） 第1回 7月7日 3限 正当な臨床試験を計画する1 第2回 7月7日 4限 正当な臨床試験を計画する2 第3回 7月14日 3限 サリドマイド裁判と統計家の関わり1 第4回 7月14日 4限 サリドマイド裁判と統計家の関わり2 第5回 7月21日 3限 ICH統計ガイドラインのここ 第6回 7月21日 4限 統計家のプロフェッショナルリズム涵養の 第7回 7月21日 5限 グループワーク			
統計家の行動基準(2)へ続く↓↓↓			

統計家の行動基準(2)
<b>[履修要件]</b>
統計家でない学生さんも歓迎です。
<b>[成績評価の方法・観点]</b>
レポート
<b>[教科書]</b>
講義資料などをPandaにアップします
<b>[参考書等]</b>
(参考書) Friedman LM, Furberg CD, DeMets DL, Reboussin DM, Granger CB 『Fundamentals of Clinical Trials, 5th ed.』 (Springer, 2015) 國頭英男, 佐藤恵子, 吉村健一 『誰も教えてくれなかった臨床試験の正しい作法』 (中外医薬社, 2016)
<b>[授業外学修(予習・復習)等]</b>
日本計量生物学会「統計家の行動基準」、ICH E9「臨床試験における統計的原則」を読んでおくこと。 <a href="http://www.biometrics.gr.jp/news/all/standard_20150310.pdf">http://www.biometrics.gr.jp/news/all/standard_20150310.pdf</a> <a href="https://www.pmda.go.jp/int-activities/int-harmony/ich/0031.html">https://www.pmda.go.jp/int-activities/int-harmony/ich/0031.html</a> そのほかは講義で指示します。
<b>(その他(オフィスアワー等))</b>
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	P-PUB01 8H143 LJ90										
授業科目名 <英訳>	健康デザイン論 Designing Health communication			担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 中山 健夫						
配当 学年	専門職	単位数	1	開講年度・ 開講期	2023・ 通年集中	曜時限	集中講義	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
<b>[授業の概要・目的]</b>											
<ul style="list-style-type: none"> <li>「ヘルスケアにおけるコミュニケーション・デザインアプローチ」のコンセプトと基本的枠組みを理解する。</li> <li>当該アプローチを手がかりに、メッセージの受け手を「期待する成果」に誘うための「理解」「行動」を促進するコミュニケーション・デザインの考え方について学ぶ。</li> <li>「講義+ワークショップ」形式を基本とする。</li> </ul> 教育・学習方法 講義・演習 ※アクションラーニング形式(双方向型)な授業を想定。											
<b>[到達目標]</b>											
<ul style="list-style-type: none"> <li>健康アウトカムを最大化を果たすための「ヘルスコミュニケーション」の在り方について「インサイト」「理解/行動促進」「共創・協働」等の概念とアプローチ方法の理解を図る。</li> </ul>											
<b>[授業計画と内容]</b>											
(前期)											
第1回	9月14日	3限		イントロダクション	～健康デザイン概論						
第2回	9月14日	4限		コミュニケーション・デザイン	～コミュニケーションをデザインするという						
第3回	9月15日	2限		生活者インサイト	～ターゲットインサイトの考え方・向き合い方						
第4回	9月15日	3限		ブランニング	～健康に誘うための「仕掛けを企てる」ということ						
(後期)											
第5回	2月15日	3限		「私」のプロジェクト発表会							
第6回	2月15日	4限		クリエーターに学ぶ「価値」の育て方							
第7回	2月16日	2限		Public Relationというアプローチ							
第8回	2月16日	3限		グループワーク							
(※日程は予定のため、変更の可能性あり)											
<b>[履修要件]</b>											
特になし											
<b>[成績評価の方法・観点]</b>											
課題レポート(50%)、発表(50%)											
健康デザイン論(2)へ続く ↓ ↓ ↓											

健康デザイン論(2)
<b>[教科書]</b>
講義の際に指定予定
<b>[参考書等]</b>
(参考書) 講義の際に指定予定
<b>[授業外学修(予習・復習)等]</b>
講義内容の復習と課題への取り組み
<b>(その他(オフィスアワー等))</b>
プロジェクト研究員(ヘルスコミュニケーションに関する研究【株式会社電通】)の協力を得る予定 ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	P-PUB01 8H136 LJ90										
授業科目名 <英訳>	統計的推測の基礎 Fundamentals of Statistical Inference			担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 佐藤 俊哉 統計数理研究所 逸見 昌之 医学研究科 特定教授 大森 崇 医学研究科 特定助教 大宮 将義						
配当 学年	専門職	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	木4	授業 形態	講義・演習	使用 言語	日本語
<b>[授業の概要・目的]</b>											
<p>この授業では、統計関連科目を学ぶ上でその基礎となる事項について学習する。具体的には、前半で統計的推測法の土台となる確率論の基礎事項について取り扱い、後半では統計的推定・仮説検定・信頼区間などの統計的推測の基礎概念について取り扱う。</p> <p>前半の確率論では、数学的に厳密な測度論に基づくものではなく、微積分や線形代数(大学学部教養レベルの数学)を用いる範囲で、統計的推測法の理解に必要な確率に関する基本事項の習得を目指す。後半の統計的推測では、基礎概念に対する原理的な考え方と理論的な側面に重点を置く。この授業は、他の統計関連科目の授業ではなかなか立ち止まってじっくりと考える余裕のない基礎的な部分に焦点を当て、準備と足固めをするのが目的である。</p> <p>受講生のバックグラウンドは様々であると想定されるため、可能な限りその事情を考慮しながら授業を進める。</p> <p>【パワーポイントスライドと板書による講義形式】</p>											
<b>[到達目標]</b>											
<ul style="list-style-type: none"> <li>確率と統計に関する基礎概念の意味や考え方をしっかり理解し、自分の言葉で説明することができる</li> <li>統計量や確率分布などに関する計算を、必要に応じて自分で考えながら実行できる</li> <li>他の統計関連科目を学ぶ際に、各種の統計手法をブラックボックスとはせず、自ら考えながら学んで、その仕組みを理解することができる</li> </ul>											
<b>[授業計画と内容]</b>											
第1回	4月13日			講義の概要と確率・確率変数の概念							
第2回	4月20日			休講							
第3回	4月27日			離散型確率変数とその分布に関する基本事項							
第4回	5月4日			連続型確率変数とその分布に関する基本事項							
第5回	5月11日			複数の確率変数の取り扱いⅠ							
第6回	5月18日			複数の確率変数の取り扱いⅡ							
第7回	5月25日			正規標本に関連する確率分布							
第8回	6月1日			統計的推定の基本事項							
第9回	6月8日			統計的仮説検定の基本事項Ⅰ							
第10回	6月15日			統計的仮説検定の基本事項Ⅱ							
第11回	6月22日			線形回帰分析の基礎Ⅰ							
第12回	6月29日			線形回帰分析の基礎Ⅱ							
第13回	7月6日			漸近的方法の基本事項(極限定理、最尤法とその性質)							
第14回	7月13日			漸近的方法の基本事項II(最尤法に基づく検定)							
第15回	7月20日			漸近的方法の基本事項III(デルタ法、最尤法以外の推定法など)							
第16回	7月27日										
第17回	8月3日										
統計的推測の基礎(2)へ続く ↓ ↓ ↓											

統計的推測の基礎(2)	
-----	
【履修要件】	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・微積分と線形代数の基本的な知識があること</li> <li>・人間健康科学系専攻の学生さんの受け入れはしていません</li> </ul>	
【成績評価の方法・観点】	
レポート	
【教科書】	
講義資料を配布します	
【参考書等】	
<p>(参考書)</p> 講義中に紹介します	
【授業外学修(予習・復習)等】	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講生のこの授業の内容の習得状況は様々だと思いますが、この授業を利用しながら、自分が良く理解できていない部分について重点的に学習していただきたい</li> <li>・この講義に限らず、数理的な講義の内容を理解し習得するためには、講義に出席するだけでは不十分で、自ら講義後に手を動かして計算や論理を丁寧に確かめる必要があります。特にこの講義で扱う内容は、数理的な要素が絡む他の統計関連の講義の理解のために非常に重要であるため、復習には必ずじっくり取り組んでください</li> <li>・臨床統計家育成コースには、この授業の他に演習が用意されています。基礎に不安のある方や、自分で演習等が困難な方は特に、演習も利用してください</li> </ul>	
【その他(オフィスアワー等)】	
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	

科目ナンバリング		P-PUB01 8H137 LJ90	
授業科目名 <英訳>	生存時間解析 Survival Analysis	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 特定教授 大森 崇 医学研究科 教授 佐藤 俊哉 大阪大学大学院医学系研究科 服部 聡 医学研究科 特定助教 大宮 将義
配当 学年	専門職	単位数	1
開講年度・ 開講期	2023・ 後期集中	曜時間	金3-4
授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】			
生存時間解析は関心のある事象が生じるまでの期間(生存時間)の統計的分析をする方法であり、抗悪性腫瘍薬の臨床試験など、様々な医学研究において重要な役割を果たしています。研究の実施上の制約から生存時間がすべての被験者で観察されないことが通常で、そのような打ち切りデータに基づいて推測を行うための独特の方法論が発達しています。本講義では、生存時間解析の基本的な考え方を学習し、統計解析用プログラム言語であるSASによる実習を通じて理解の定着を図ります。			
【11月10日、17日、24日、12月1日(金)の集中講義】			
【到達目標】			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・打ち切りを伴う生存時間解析における尤度とパラメトリックモデルに対する最尤推定法を理解する</li> <li>・Kaplan-Meier法、logrank検定の考え方を理解する</li> <li>・ハザードの概念を理解し、Cox比例ハザードモデルを理解する</li> <li>・生存時間解析の方法をSASにより適用できる</li> </ul>			
【授業計画と内容】			
第1回	11月10日	3限	生存時間データの事例と特徴
第2回	11月10日	4限	パラメトリック推定
第3回	11月17日	3限	ノンパラメトリック推定
第4回	11月17日	2限	Logrank検定
第5回	11月24日	3限	Cox比例ハザードモデル
第6回	11月24日	4限	生存時間解析における残差解析
第7回	12月1日	3限	ランダム化試験におけるサンプルサイズ設計
【履修要件】			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・前期「統計的推測の基礎」を履修済みであること</li> <li>・微積分の基本的な計算に慣れていること</li> </ul>			
【成績評価の方法・観点】			
毎回レポートを提出してもらいます			
【教科書】			
毎回講義資料を配布します			
-----			
生存時間解析(2)へ続く ↓ ↓ ↓			

生存時間解析(2)	
-----	
【参考書等】	
<p>(参考書)</p> 大橋靖雄、浜田知久馬『生存時間解析—SASによる生物統計』(東京大学出版会) ISBN:978-4130602006 Collett D (宮岡悦良 監訳)『医薬統計のための生存時間データ解析 原著第2版』(共立出版) ISBN:978-4320110359 Klein J, Moeschberger ML (打波守訳)『生存時間解析』(丸善出版) ISBN:978-4621061886 Therneau TM, Grambsch PM『Modeling Survival Data: Extending the Cox Model』(Springer) ISBN:978-1-4419-3161-0 大橋靖雄、浜田知久馬、魚住龍史『生存時間解析 応用編—SASによる生物統計』(東京大学出版会) ISBN:978-4130623179	
【授業外学修(予習・復習)等】	
前回の復習	
【その他(オフィスアワー等)】	
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	

科目ナンバリング		P-PUB01 8H138 LJ90	
授業科目名 <英訳>	統計モデルとその応用 Statistical Modeling and Applications	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 特定教授 大森 崇 医学研究科 教授 佐藤 俊哉 岩手医科大学 高橋 史朗 医学研究科 特定助教 大宮 将義
配当 学年	専門職	単位数	1
開講年度・ 開講期	2023・ 後期集中	曜時間	金3-4
授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】			
「交絡」を調整する方法の一つに回帰モデルがある。代表的な回帰モデルは、1つの連続的な結果変数に対するものである。しかし医学研究では、リスクの有無に興味がある場合や興味のある結果がくり返し測定される場合もあり、結果の特徴に応じたより複雑なモデルが必要となる場合がある。本コースでは、実例を交えながら、様々な結果変数に対する回帰モデルとその解析方法を説明する。			
【10月6日、13日、20日、27日(金)の集中講義】			
【到達目標】			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・回帰モデルの役割を理解する</li> <li>・様々なデータの特徴に応じた回帰モデルと解析方法を理解する</li> <li>・統計解析ソフトを用いて解析を実施し、結果を解釈できる</li> </ul>			
【授業計画と内容】			
第1回	10月6日	3限	経時測定データの事例と特徴
第2回	10月6日	4限	相関する連続データに対する一般線形モデル(1) 平均構造と共分散構造のモデリング
第3回	10月13日	3限	相関する連続データに対する一般線形モデル(2) 変量効果モデル
第4回	10月13日	4限	欠測値がある経時測定データの解析
第5回	10月20日	3限	相関するカテゴリカルデータに対する一般化線形モデル(1) 周辺モデルとGEE
第6回	10月20日	4限	相関するカテゴリカルデータに対する一般化線形モデル(2) 変量効果モデル
第7回	10月27日	3限	経時測定データ解析の復習とSASによる演習
【履修要件】			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・前期「統計的推測の基礎」を履修済みであること</li> <li>・線形代数の基本的な知識</li> </ul>			
-----			
統計モデルとその応用(2)へ続く ↓ ↓ ↓			

統計モデルとその応用(2)	
-----	
[成績評価の方法・観点]	
毎回レポートを提出してもらいます	
[教科書]	
毎回講義資料を配布します	
[参考書等]	
(参考書)	
Dobson AJ. 『一般化線形モデル入門 原著第2版』 (共立出版) ISBN:978-4320018679 McCulloch C., Searle S., and Neuhaus J. 『Generalized, Linear, and Mixed Models』 (Wiley) ISBN:978-0-470-07371-1 船渡川伊久子, 船渡川隆 『経時データ解析』 (朝倉書店) ISBN:978-4254128550	
[授業外学修(予習・復習)等]	
前回の復習をすること	
(その他(オフィスアワー等))	
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	

科目ナンバリング		P-PUB01 8H142 LJ90	
授業科目名 <英訳>	行政医学・産業医学 Medical Doctors in Government and Occupational Settings		担当部署・ 職名・氏名
			医学研究科 教授 今中 雄一 非常勤講師 川村 孝 昭夫 非常勤講師 小泉 昭夫 環境安全保健機構 教授 阪上 優
配当 学年	専門職	単位数	2
開講年度・ 開講期	2023・ 前期集中	曜期限	集中講義
授業 形態	講義	使用 言語	日本語
[授業の概要・目的]			
労働医学の実践、行政医学の実践について、集中的に学ぶ。 1) 実践現場での問題解決および社会的な問題解決への展開を志向する。 2) 行政の場における医師(行政医師)の専門的実務について概要を学ぶ。 3) 労働の場における医師(産業医)の専門的実務について概要を学ぶ。			
外部講師: 渡邊 能行先生(前)京都府健康福祉部保健医療対策監、京都先端科学大学)、和田 安彦先生(常務保健所長)、猪飼 宏先生(京都府立医科大学 医療情報部長)、丹藤 昌治先生(厚生労働省労働基準局安全衛生部労働衛生課 主任中央じん肺診査医/労働衛生管理官)、波床 将材先生(京都市こころの健康増進センター)、森口 次郎先生(京都工場保健会)、林 朝茂先生(大阪公立大学大学院 医学研究科 産業医学)、			
[到達目標]			
・課題と対策について深い理解と知識を有し、他者に説明できるようになること。 ・何が問題なのか洞察できるようになること。 ・課題の解決に向けて必要に応じ専門家の支援を得ることができるようになること。			
[授業計画と内容]			
・8月7日(月)、8月8日(火) 各日1~5限を予定 ・加えて、「行政医学・産業医学エクステンション」のオンデマンド講義を5コマ以上聴講することを推奨する。			
【行政医学】 行政医学の実践 行政医学実践: 概論 成人・高齢者保健、母子保健、学校保健、歯科保健 地域包括ケアシステムの推進、地域医療構想・計画の実装 精神保健、疾病・障害者対策、難病対策 健康づくり、生活習慣病対策、要援護高齢者・障害者対策 感染症対策、食中毒、災害時の対策、健康危機管理など 行政医学: 演習、グループワーク 実践現場に係る参加・学習			
【産業医学】 産業医学の実践 産業医学実践: 概論 職場の環境衛生、生活や地域の環境衛生			
----- 行政医学・産業医学(2)へ続く ↓ ↓ ↓			

行政医学・産業医学(2)	
-----	
化学物質の管理、有害要因の曝露予防・健康障害対策 労働時間管理、特に医師の労働時間 健診を通じた健康管理 職場のメンタルヘルス 労働医学: 演習、グループワーク 実践現場に係る参加・学習	
*産業厚生医学分野の教員は、京都大学全体の産業衛生を担当する専任産業医です。 講義で産業医学の要諦や職場巡視の実践について、理論に基づく実践を分かりやすく伝えるとともに、「職場巡視」への参加機会を設けます。「職場巡視」への参加希望の方は、当科目のTA連絡先等に連絡してください。	
*外部講師他の諸状況により変更の可能性あり。初回に予定表を配布する。	
[履修要件]	
社会健康医学系専攻院生 他専攻院生(人間健康科学系専攻等含む)の受講可否: 若干名 8割程度以上、一定の参加・コミットメントの高さが必須である。	
[成績評価の方法・観点]	
講義・グループワークにおけるコミットメント(配分60%)、レポート(配分40%)により、総合的に評価する。	
[教科書]	
適宜、資料を講義にて配布する。	
[参考書等]	
(参考書)	
『今中雄一編、認知症にやさしい健康まちづくりガイドブック: 地域共生社会に向けた15の視点(共著)』(学芸出版社: 2023) 『病院の教科書第2版』(医学書院) 適宜、講義中に紹介する。 ・「NEW予防医学・公衆衛生学 改訂第4版」(編集:小泉昭夫/馬場園明/今中雄一/武林亨) 南江堂. 2018.	
[授業外学修(予習・復習)等]	
初回に説明する	
(その他(オフィスアワー等))	
社会医学系専門医制度研修プログラムの副分野「行政・地域」、「産業・環境」の研修(各々10時間相当)にもみなすことができる。職場巡視への参加は社会医学系専門医制度・専攻院の副分野研修として重要です。	
※やむを得ず相当の理由等により、対面授業をオンライン授業等へ変更する可能性があります。	
----- 行政医学・産業医学(3)へ続く ↓ ↓ ↓	

行政医学・産業医学(3)	
-----	
問い合わせ等は、 医療経済学教室 教務 <heqm-kyoumu(at)mail2.adm.kyoto-u.ac.jp> へご連絡ください。	
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	

科目ナンバリング	P-PUB01 8H145 LB90										
授業科目名 <英訳>	多重性の考え方 Multiplicity in clinical trials				担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 特定教授 大森 崇 医学研究科 教授 佐藤 俊哉 横浜市立大学 医学研究科 特定助教 大宮 将義					
配当 学年	専門職	単位数	1	開講年度・ 開講期	2023・ 前期前半	曜時間	金2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語及び英語
<b>【授業の概要・目的】</b>											
<p>検証的な臨床試験において、試験薬に関するいくつかの用量のそれぞれをプラセボと対比較する場合のように、1つの臨床試験で検証を目的とする検定が複数行われることがあります。このような場合、第一種の過誤確率 (type I error rate) に関する多重性を考慮した解析が必要です。本講義では、複数回の検定が行われるいくつかの状況設定において、試験計画、解析、結果の解釈で検定の多重性をどう考慮するかを理解を目指します。一部SASによる実習も行います。</p> <p>第5回は北海道大学 横田敷先生に、第6回は東京大学 上村綱平先生、第7回は東京理科大学 寒水孝司先生にご講義いただきます。</p> <p>【パワーポイントスライドによる講義形式】</p>											
<b>【到達目標】</b>											
<ul style="list-style-type: none"> <li>臨床試験における検定の多重性に関する問題を理解する</li> <li>仮説の構造に対応する適切な統計手法を説明できる</li> <li>用量-反応関係、中間解析、サブグループ解析などにおける多重性について理解する</li> </ul>											
<b>【授業計画と内容】</b>											
<p>第1回 4月14日 検定の多重性の基礎 (坂巻)</p> <p>4月21日 (日本計量生物学会)</p> <p>第2回 4月28日 分散分析に関連する多重比較の問題 (坂巻)</p> <p>第3回 5月12日 閉検定手順とその発展 (坂巻)</p> <p>第4回 5月19日 最近の臨床試験における多重性の問題—承認審査の事例検討— (上村)</p> <p>第5回 5月26日 中間解析におけるアルファ消費関数法 (横田)</p> <p>第6回 6月2日 複数の主要評価変数を用いる臨床試験の実際 (寒水)</p> <p>第7回 6月9日 SASによる実習 (佐藤、大森、大宮)</p>											
<b>【履修要件】</b>											
<ul style="list-style-type: none"> <li>「統計的推測の基礎」を履修済みであること</li> <li>SASが使用可能であること</li> </ul>											
<b>【成績評価の方法・観点】</b>											
平常点およびレポート											
----- 多重性の考え方(2)へ続く ↓ ↓ ↓ -----											

<b>多重性の考え方(2)</b>											
<b>【教科書】</b>											
講義資料を事前にPandAにアップします											
<b>【参考書等】</b>											
<p>(参考書)</p> <p>坂巻 顕太郎, 寒水 孝司, 濱崎 俊光 『多重比較法』 (朝倉書店, 2009) ISBN:978-4254128628</p> <p>永田靖 『統計的多重比較法の基礎』 (サイエンティスト社, 2007) ISBN:978-4914903466</p> <p>Dmitrienko A, Molenberghs G, Chuang-Stein C, Offen WW. 『森川・田崎監訳 治験の統計解析 理論とSASによる実践』 (講談社, 2009) ISBN:978-4061557772</p> <p>Dmitrienko A, Tamhane AC, Bretz F, eds. 『Multiple testing problems in pharmaceutical statistics』 (CRC Press, 2009) ISBN:978-1584889847</p>											
<b>【授業外学修 (予習・復習) 等】</b>											
<p>「統計的推測の基礎」や (CBコースの学生は) 「臨床統計家の実務スキル」の内容を十分に復習してください。</p> <p>毎回の講義の復習が必要です。</p>											
<b>【その他 (オフィスアワー等)】</b>											
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング	P-PUB01 8N015 LJ90										
授業科目名 <英訳>	遺伝医療と倫理・社会 Genetic Medicine, Ethics and Society				担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 特定教授 和田 敬仁					
配当 学年	専門職	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時間	水・木	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
<b>【授業の概要・目的】</b>											
<p>【基本情報】</p> <p>授業日時：水曜2限を原則とする (例外予定にご注意ください)</p> <p>教室：G棟3階演習室・状況によりオンライン授業を実施することがある</p> <p>レベル：基礎</p> <p>担当者：和田敬仁 (科目責任者)・中島健・小川昌宣・澤井英明・川崎秀徳・小杉眞司</p> <p>【コースの概要】</p> <p>遺伝医療・先端医療においては、倫理的な配慮は不可欠である。遺伝医療を中心とした医療倫理の基本について学ぶ。特に種々のガイドラインの理解は極めて重要である。また、社会的な基盤を含む日本の遺伝医療の現状について理解する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>遺伝医療・医学に関する倫理指針、遺伝学的検査、小児・産婦人科遺伝医療における倫理問題の基本、社会基盤について理解する。</p> <p>【授業計画と内容】</p> <p>【第1回】 4月12日&lt;小杉1&gt; 「遺伝医療総論」遺伝カウンセラーコースの必修科目の最初のものとして、必ずしも「倫理」にかかわらず、全般的なイントロダクションを行う。また、遺伝医療における倫理問題の特性、遺伝情報の共有、意図しない遺伝情報の開示などについて考える</p> <p>【第2回】 4月19日(臨床第一講堂)&lt;小杉2&gt; 「遺伝医療に関するガイドラインについて」関連する種々のガイドラインについて考える</p> <p>【第3回】 4月26日&lt;小杉3&gt; 「遺伝学的検査と遺伝子解析について」臨床検査として行われる遺伝学的検査と研究として行われるヒト遺伝子解析における倫理的問題点、研究と臨床の境界と区別について考える</p> <p>【第4回】 5月10日&lt;小杉4&gt; 「発症前遺伝子診断について」発症前遺伝子診断・易罹性診断の意味とその問題点について、神経変性疾患、家族性腫瘍など疾患における違いを明確にしながら考える</p> <p>【第5回】 5月17日&lt;小杉5&gt; 「キャリア診断・保因者診断について・遺伝子例外主義について」常染色体・X連鎖性劣性遺伝性疾患・均衡型染色体相互転座などにおける保因者診断の意味と問題点について考える。遺伝情報を特別に秘匿する必要があるとする遺伝子例外主義の問題点を考える。</p> <p>【第6回】 5月24日&lt;中島1&gt; 「治療法・予防法のある疾患の発症前診断・易罹性診断について」いわゆるActionableな遺伝性疾患、特に遺伝性腫瘍における血縁者のバリエーション保持診断の意義について考える。</p> <p>【第7回】 5月24日5限&lt;小川1&gt; 「人工妊娠中絶」本邦における人工妊娠中絶について、その倫理問題について考える</p> <p>【第8回】 5月31日&lt;中島2&gt; 「遺伝子検査ビジネス」について Direct-to-Consumer (DTC) 遺伝子検査についてその意義・問題点を考える</p> <p>【第9回】 6月7日&lt;和田1&gt; 「小児遺伝性疾患の診断・告知と代諾」小児期発症の遺伝性疾患に対</p> <p style="text-align: center;">----- 遺伝医療と倫理・社会(2)へ続く ↓ ↓ ↓ -----</p>											

<b>遺伝医療と倫理・社会(2)</b>											
<p>する倫理的問題を考える</p> <p>【第10回】 6月7日5限&lt;和田2&gt; 「生命倫理観の多様性」患者やクライアントの持つさまざまな生命倫理観を理解し、対応する方法を考える</p> <p>【第11回】 6月14日5限&lt;小川2&gt; 「出生前診断・生殖補助医療」出生前診断の倫理的問題について理解する。不妊・不育症治療としての生殖補助医療の倫理的問題点について詳細に検討する</p> <p>【第12回】 6月21日&lt;和田3&gt; 「障がい」と生命倫理 「障がい」から生命倫理を考える</p> <p>【第13回】 6月28日&lt;中島3&gt; 「ゲノム医療における二次的所見の取り扱い」網羅的ゲノム解析が実臨床に導入されて来たことにより得られた本来の目的とは別の二次的所見に対応する際の倫理的な問題を考える。</p> <p>【第14回】 6月28日4限&lt;澤井&gt; 「少子化の何が問題なのか」年々出生数は減少し、少子化の進行が止まらない。少子化の何が問題であるのか、その対策の必要性を考える</p> <p>【第15回】 7月5日&lt;川崎&gt; 「新生児医療と倫理」新生児医療における倫理的問題について考える</p> <p>【第16回】 7月12日&lt;中島&gt; 本試験筆記試験</p> <p>【第17回】 8月12日&lt;川崎&gt; 再試験筆記試験</p>											
<b>【履修要件】</b>											
<p>遺伝カウンセラーコース1回生必修科目</p> <p>人間健康科学系専攻学生の受講可否：要事前連絡</p>											
<b>【成績評価の方法・観点】</b>											
試験、レポート、授業への積極的な参加、発表、出席等を総合的に評価する											
<b>【教科書】</b>											
随時配布する											
<b>【参考書等】</b>											
(参考書)											
<b>【授業外学修 (予習・復習) 等】</b>											
適宜指示する											
<b>【その他 (オフィスアワー等)】</b>											
<p>講義日程、講師、内容については、多少の変更がある可能性があります。</p> <p>※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。</p>											

科目ナンバリング	P-PUB01 8H040 LJ90										
授業科目名 <英訳>	基礎人類遺伝学 Introduction to Human Genetics				担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 特定教授 和田 敬仁					
配当 学年	専門職	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023 前期	曜時間	水5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
<b>[授業の概要・目的]</b>											
【基本情報】 授業日時：水曜日 3 時限を原則とする（例外予定にご注意ください） 教室：G棟3階演習室・状況によりオンライン授業を実施することがある レベル：基礎 担当教員：和田敬仁（科目責任者）、中島健、小川晶宣、川崎秀徳、小杉眞司											
【コースの概要】 遺伝カウンセラーとしてあるいは遺伝医学・遺伝医療を志す者として最も基本的な事項について理解するための講義である。今後、遺伝情報を治療に役立てていく精密医療のためにも重要である。細胞遺伝学、分子遺伝学、メンデル遺伝学、非メンデル遺伝、集団遺伝学などについて系統的な講義を行う。											
<b>[到達目標]</b> ヒト遺伝学の基本的事項について完全に理解し、専門家でないにもわかりやすく説明できる。											
<b>[授業計画と内容]</b>											
【第1回】 4月12日<和田1>「メンデル遺伝総論」メンデル遺伝総論；遺伝形式、ヒトゲノム構造、標準的家系図の記載法 【第2回】 4月12日4限<小杉1>「常染色体顕性遺伝/潜性遺伝」常染色体顕性遺伝 疾患の概念・特徴・浸透度・表現度、遺伝性と新生突然変異・anticipation（次世代の表現促進現象）/常染色体潜性遺伝 疾患の概念・特徴・保因者の概念 【第3回】 4月12日5限<小杉2>「X連鎖性遺伝」X連鎖性遺伝の概念・X染色体とY染色体の特異性・性の決定機構・X連鎖性遺伝を示す具体的疾患 【第4回】 4月12日6限<小川1>「細胞遺伝学(1)」染色体と細胞分裂・分染法による染色体分析・染色体の核型記載方法・染色体異常概論 【第5回】 4月19日(臨床第一講堂)<小杉3>「薬理遺伝学」遺伝薬理学とゲノム薬理学の基本を正確に理解する 【第6回】 4月19日5限<小川2>「細胞遺伝学(2)」染色体数異常の概念と発生機構・染色体構造異常の概念と発生機構・保因者の概念と次世代への影響 【第7回】 4月26日<和田2>「分子遺伝学の基礎」遺伝子発現調節と分子病理学 【第8回】 5月10日<中島1>「遺伝学的検査(1)」PCR法、シーケンス法、サザンブロット法、CGHマイクロアレイ法 【第9回】 5月17日<中島2>「遺伝学的検査(2)」バリエーションのスクリーニング方法、正常多型、バリエーションの種類 【第10回】 5月24日<中島3>「腫瘍遺伝学の基礎」体細胞バリエーションと生殖細胞系列バリエーション、がん遺伝子とがん抑制遺伝子、遺伝性がん症候群 【第11回】 5月31日<和田3>「遺伝学的リスクの推定」再発率の推定、ベイズの定理 【第12回】 6月7日<和田4>「多因子遺伝、集団遺伝」多因子遺伝の概念、量的形質と質的形質、											
基礎人類遺伝学(2)へ続く ↓ ↓ ↓											

基礎人類遺伝学(3)											
【その他（オフィスアワー等）】 講義日程、講師、内容については、多少の変更がある可能性があります ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング	P-PUB01 8N021 LJ90										
授業科目名 <英訳>	臨床遺伝学・遺伝カウンセリング Clinical Genetics and Genetic Counseling				担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 准教授 中島 健					
配当 学年	専門職	単位数	3	開講年度・ 開講期	2023 前期	曜時間	水5-6	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
<b>[授業の概要・目的]</b>											
【基本情報】 授業日時：水曜4限、5限を原則とする（例外予定にご注意ください） 教室：G棟3階演習室・状況によりオンライン授業を実施することがある、レベル：基礎 担当者：中島健（科目責任者） 和田敬仁・小川晶宣・高橋政代・澤井英明・川崎秀徳・山崎博司・小杉眞司 【コースの概要】 遺伝カウンセリングの基本的な考え方、モデル、現状などの総論的な講義を行う。また、代表的な疾患について、チーム医療としての遺伝医療に参加することのできるレベルの知識と考え方を身につけ、遺伝医療の現場で行われている問題を解決するため、臨床遺伝学の講義を行うとともに家族関係やチーム医療としての遺伝カウンセリングにもフォーカスをおく。各論として、単一遺伝性疾患、染色体異常、多発奇形、習慣性流産、家族性腫瘍、神経変性疾患、多因子疾患などについて講義する。											
<b>[到達目標]</b> 主要な遺伝性疾患の病態、原因、遺伝形式、遺伝的問題について説明できる。また、それらの疾患に関わる遺伝カウンセリングの基本的な考え方、主な留意点について説明できる。											
<b>[授業計画と内容]</b>											
【第1回】 4月19日4限(臨床第一講堂)<中島>「遺伝性腫瘍(1)総論」遺伝性腫瘍の概念・体細胞系列変異と生殖細胞系列変異、癌抑制遺伝子と癌遺伝子、発症前診断 【第2回】 4月19日6限<和田>「先天異常症候群」先天奇形症候群の診断・療育や遺伝カウンセリングを学ぶ 【第3回】 4月26日4限<中島>「遺伝性腫瘍(2)」家族性大腸がん 家族性腫瘍の代表疾患としての家族性大腸ポリポーシスとLynch症候群、それらの遺伝カウンセリングについて学ぶ 【第4回】 4月26日5限<和田>「常染色体異常(1)」常染色体の数的異常と構造異常による疾患の遺伝カウンセリングを学ぶ 【第5回】 4月26日6限<小川>「不妊症・生殖補助医療」歴史的背景・現状・具体的技術・法的規制・倫理問題とガイドライン常染色体異常症、遺伝カウンセリング 【第6回】 5月10日4限<和田>「常染色体異常(2)」微細欠失症候群やクロマチン病の診断・治療と療育を学ぶ 【第7回】 5月10日5限<和田>「性染色体異常」ターナー症候群やクラインフェルター症候群、X連鎖性疾患の遺伝カウンセリング、性スペクトラムを学ぶ 【第8回】 5月10日6限<小川>「出生前診断」現状・具体的技術・法的規制・倫理問題について学ぶとともに、遺伝カウンセリングの実践について学ぶ 【第9回】 5月17日4限<小川>「不妊症(習慣性流産)」不妊症と習慣性流産 概念・病態・原因・治療・乏精子症による造精機能障害と転座型保因者における染色体異常妊娠等の遺伝学的要因の関与と遺伝カウンセリング 【第10回】 5月17日5限<和田>「遺伝性神経疾患(1)」トリプレットリピート病やファブリー病などの遺伝カウンセリングを学ぶ 【第11回】 5月24日4限<小杉>「遺伝性腫瘍(3)」多発性内分泌腫瘍症他 遺伝性腫瘍の具体的疾患として、多発性内分泌腫瘍1型および2型VHLを中心にとりあげ、概念・病態・遺伝形式・診断・治療、及び遺伝カウンセリングについて概説する											
臨床遺伝学・遺伝カウンセリング(2)へ続く ↓ ↓ ↓											

臨床遺伝学・遺伝カウンセリング(2)	
[第12回] 5月31日4限<和田>「筋ジストロフィー」トウジャンヌベッカー型筋ジストロフィーの遺伝カウンセリングを学ぶ	
[第13回] 5月31日5限<和田>「遺伝性神経疾患(2)」神経皮膚症候群や脊髄筋萎縮症などの遺伝カウンセリングを学ぶ	
[第14回] 6月7日4限<和田>「遺伝性循環器疾患」Long Q 症候群、マルファン症候群などの遺伝性循環器疾患の遺伝カウンセリングを学ぶ	
[第15回] 6月14日4限<小川>「胎児診断と周産期管理」胎児情報をもとに実施される実施される産科周産期管理について学ぶ	
[第16回] 6月14日5限<中島>「遺伝性腫瘍(4)」家族性乳がん・卵巣がん」最も頻度の高い遺伝性乳癌卵巣癌の遺伝医療について知る。保険医療と自費医療の区別。リスク低減手術、サーベイランスについて学ぶ	
[第17回] 6月21日4限<中島>「遺伝性腫瘍(5)」リリー・フラウメニ症候群」最もがんの浸透率の高いリリー・フラウメニ症候群について、古典的診断基準、遺伝学的検査推奨基準、ガイドラインについて学ぶ	
[第18回] 6月21日5限<小川>「遺伝診療と医療システム」臨床遺伝の医療システムについて学ぶ	
[第19回] 7月5日4限<山崎>「遺伝性難聴」遺伝性難聴 概念・病態・遺伝形式・診断(症候性難聴と非症候性難聴) 遺伝的異質性・治療と療育、遺伝カウンセリング	
[第20回] 7月5日5限<川崎>「先天代謝異常症」先天代謝異常症の疾患概要と遺伝カウンセリングを学ぶ	
[第21回] 7月12日3限<川崎>「難病」難病と医療費助成・福祉制度	
[第22回] 7月12日4限<中島>「遺伝性腫瘍」FAP以外のポリポーシス症候群、網膜芽細胞腫、BHD症候群等比較的稀な遺伝性腫瘍について学ぶ	
[第23回] 7月12日5限<高橋政代>「遺伝性網膜疾患と再生医療」網膜色素変性・加齢黄斑変性 概念・病態・遺伝形式・診断・遺伝的異質性・治療・再生医療	
[第24回] 7月19日4限<和田>「本試験」筆記試験	
[第25回] 8月2日4限<中島>「再試験」筆記試験	
<b>履修要件</b>	
遺伝カウンセリングコース1回生必修科目 選択科目として履修する場合は、「基礎人類遺伝学」とともに履修することをお勧めします 人間健康科学系専攻学生の受講可否：要事前連絡(基礎人類遺伝学とあわせて履修する必要あり)	
<b>成績評価の方法・観点</b>	
試験、レポート、発表、出席等を総合的に評価する	
<b>教科書</b>	
『トンプソン&トンプソン遺伝医学第2版』(メディカルサイエンスインターナショナル) ISBN: 978-4-89592-875-5 『#8226遺伝カウンセリングマニュアル 改定第3版』(南江堂) ISBN:978-4-524-26667-8 臨床遺伝専門医制度委員会監修『臨床遺伝学各論1生殖・周産期領域 臨床遺伝専門医テキスト』(診断と治療社) ISBN:978-4-787-82514-8 臨床遺伝専門医制度委員会監修『臨床遺伝学各論2小児領域』(診断と治療社) ISBN:978-4-787-82515-5 臨床遺伝専門医制度委員会監修『臨床遺伝学各論3成人領域』(診断と治療社) ISBN:978-4-787-82516-2	
臨床遺伝学・遺伝カウンセリング(2)へ続く↓ ↓ ↓	

臨床遺伝学・遺伝カウンセリング(3)	
臨床遺伝専門医制度委員会監修『臨床遺伝学各論4腫瘍領域』(診断と治療社) ISBN:978-4-787-82517-9 「基礎人類遺伝学」参照	
<b>参考書等</b>	
(参考書) 『遺伝医学への招待 改定第6版』(南江堂) ISBN:978-4-524-24931-2 『GeneReviews』	
<b>関連URL</b>	
http://www.geneclinics.org/(GeneReviews)	
<b>授業外学修(予習・復習)等</b>	
適宜指示する	
<b>その他(オフィスアワー等)</b>	
講義日程、講師、内容については、多少の変更がある可能性があります。 ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	

科目ナンバリング		P-PUB01 8N017 LJ90	
授業科目名	遺伝医学特論(集中講義)	担当者所属・職名・氏名	医学研究科 准教授 中島 健
<英訳>	Special Seminar for Genetic Medicine		
配当学年	専門職	単位数	2
開講年度	2023・前期集中	開講時期	集中講義
授業形態	講義	使用言語	日本語
<b>授業の概要・目的</b>			
【基本情報】 授業日時：前期集中(開講日時にご注意ください) 教室：臨床第一講堂・状況によりオンライン授業を実施することがある レベル：応用 担当者：中島健(科目責任者) 和田敬仁・小川昌宣・鳥嶋雅子・吉田晶子・小杉真司 【コースの概要】 遺伝カウンセリングとして1年次に学んだ基礎的事項を確認し、医師と同レベルの高度な理解を得るための講義である			
<b>到達目標</b>			
ヒト遺伝学の基本的事項について完全に理解し、医師とも正確な議論ができる。			
<b>授業計画と内容</b>			
【第1回】 4月11日火1限<中島>「臨床遺伝学と遺伝カウンセリング・メンデル遺伝の基礎」遺伝形式、遺伝用語について学ぶ			
【第2回】 4月11日火2限<中島>「遺伝学的検査について」遺伝性疾患の遺伝子検査について学ぶ			
【第3回】 4月12日水1限<和田>「家系図の書き方・遺伝的リスクの推定」家系図の標準的記載法と遺伝的リスクの推定法を学ぶ			
【第4回】 4月12日水2限<和田>「先天奇形症候群の遺伝カウンセリング」主要な先天奇形症候群の遺伝カウンセリングを学ぶ			
【第5回】 4月14日金1限<小川>「細胞遺伝学と染色体異常の遺伝カウンセリング」細胞遺伝学の基礎を知り、染色体異常症についての遺伝カウンセリングを学ぶ			
【第6回】 4月14日金2限<小川>「出生前医療と遺伝カウンセリング」出生前遺伝学的検査の実際と遺伝カウンセリングを学ぶ			
【第7回】 4月18日火1限<和田>「遺伝性神経疾患の遺伝カウンセリング」主要な遺伝性神経疾患の遺伝カウンセリングを学ぶ			
【第8回】 4月18日火2限<小川>「生殖補助医療と遺伝カウンセリング」不育症・不妊症を含む疾患を対象とした生殖補助医療と遺伝カウンセリングを学ぶ			
【第9回】 4月19日水2限<小杉>「遺伝医療に関するガイドラインについて」			
【第10回】 4月19日水3限<小杉>「薬理遺伝学」			
【第11回】 4月19日水4限<中島>「遺伝性腫瘍の遺伝カウンセリング」主な遺伝性腫瘍とその遺伝カウンセリングについて学ぶ			
【第12回】 4月20日木3限<鳥嶋>「遺伝カウンセリングの場面での医療コミュニケーション(1)」「共感的理解」「対人援助職に最低限必要な態度」、「コミュニケーションを阻害する態度や言葉」など医療コミュニケーションの基本を学ぶ			
【第13回】 4月20日木4限<吉田>「遺伝カウンセリングの場面での医療コミュニケーション」			
遺伝医学特論(集中講義)(2)へ続く↓ ↓ ↓			

遺伝医学特論(集中講義)(2)	
【(2)】 遺伝カウンセリング場面での具体的なコミュニケーション方法について学ぶ	
【第14回】 4月21日金3限<和田>「当事者と共に歩む遺伝医療」	
【第15回】 4月21日金4限<和田>「遺伝カウンセリングの実際」医療現場で行われている遺伝カウンセリングを学ぶ	
【第16回】 5月8日2限<和田・川崎>「本試験」筆記試験	
<b>履修要件</b>	
社会健康医学系専攻(専門職学位過程) 分子生物学・分子遺伝学の基本的理解を前提とする。	
<b>成績評価の方法・観点</b>	
試験、レポート、出席等を総合的に評価	
<b>合格基準</b>	
1回の記述式試験において、100点満点中、60点以上となること 60点以上：合格 59点以下：不合格	
<b>教科書</b>	
『トンプソン&トンプソン遺伝医学第2版』(メディカルサイエンスインターナショナル) ISBN: 978-4-89592-875-5 『遺伝カウンセリングマニュアル 改定第3版』(南江堂) ISBN:978-4-524-26667-8 日本人類遺伝学会編集『臨床遺伝学テキストノート』(診断と治療社) (978-4-787-82316-8)	
<b>参考書等</b>	
(参考書) 『遺伝医学への招待(南江堂) 改定第6版』(南江堂) ISBN:978-4-524-24931-2 日本人類遺伝学会編集『コアカリ準拠 臨床遺伝学テキストノート』(診断と治療社) ISBN:978-4-787-82316-8	
<b>関連URL</b>	
http://www.geneclinics.org/(GeneReviews)	
<b>授業外学修(予習・復習)等</b>	
適宜指示する	
<b>その他(オフィスアワー等)</b>	
講義日程、講師、内容については、多少の変更がある可能性があります。 ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	



科目ナンバリング	P-PUB01 8H158 LB90						
授業科目名	地域保健活動論			担当者所属	医学研究科 教授 近藤 尚己		
<英訳>	Public health intervention strategies			職名・氏名			
配当学年	専門職	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期前半	曜時限	木3,4
						授業形態	講義
						使用言語	日本語及び英語
<b>[授業の概要・目的]</b>							
国際社会・国・地域・職域・SNSコミュニティといった「場」におけるヘルスプロモーション活動の実践に関する理論や技術について、講義と演習の形式で実践的に学びます。							
とりわけ「健康の社会的決定要因」と「健康格差」に着目し、そのメカニズムの解明や実態把握のための研究の進め方や格差の評価・測定法、健康格差野御方法について学びます。関連する理論のうち、疾病予防におけるRoseのhigh risk strategy と population strategyの類型をさらに分類し、特にpopulation strategyの亜型であるvulnerable population approach, proportionate universalism, redistributive policy等の理解と、これらのアプローチに基づく具体的な実践をテーマに、公正なヘルスプロモーション推進の方法について学びます。							
ヘルスプロモーションでは多様な利害関係者との合意形成と協働的活動が求められます。地域社会での実践に関連する概念として、community empowerment, community organizing, social prescribing (社会的処方)、地域包括ケアcommunity-based integrated care、地域共生社会inclusive societyなどを扱います。こども食堂や生活困窮世帯の子どもへの学習支援など、市民による社会包摂の取り組みとの関連やその在り方について検討します。							
最終日にグループで課題発表をしてもらいます。							
The course provides practical training in the form of lectures and exercises on theories and techniques related to the practice of health promotion activities in 'places' such as the international community, countries, regions, workplaces and SNS communities.							
Particular attention is paid to 'social determinants of health' and 'health inequalities', and students learn how to conduct research to clarify the mechanisms and understand the actual situation, how to evaluate and measure inequalities, and how to control health inequalities. Among the relevant theories, Rose's high-risk strategy and population strategy typologies in disease prevention are further classified, particularly the vulnerable population approach, which is a subtype of the population strategy. The course focuses on understanding proportionate universalism, redistributive policy, etc., which are subtypes of population strategy, and on specific practices based on these approaches to learn how to promote equitable health promotion.							
Health promotion requires consensus-building and collaborative activities with diverse stakeholders. Concepts relevant to community practice include community empowerment, community organizing, social prescribing, community-based integrated care, and inclusive society. The course examines the relationship with and the nature of social inclusion initiatives by citizens, such as children's cafeterias and learning support for children from needy households.							
On the last day of the course, students will be asked to make a group presentation on their assignment.							
<b>[到達目標]</b>							
・地域保健活動の考え方についての歴史の変遷を理解する							
-----地域保健活動論(2)へ続く↓↓↓-----							

<b>地域保健活動論(2)</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティにおける健康格差の制御手法の基本を理解する</li> <li>・現在実施されている地域保健の取り組みを批判的に評価できる</li> <li>・多様な主体との合意形成を行う手法を実践的に学ぶ</li> <li>・受講生が関心を持つテーマを掘り下げ、発表形式で議論し、理解を深める</li> </ul>	
Understand the historical evolution of the concept of community health action. Understand the basics of methods to control health inequalities in the community. Critically evaluate current community health initiatives. Practical learning of methods for consensus building with diverse actors. To deepen understanding by delving into themes of interest to the students and discussing them in the form of presentations.	
<b>[授業計画と内容]</b>	
下記の予定は変更する場合があります。	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 10/5 地域保健活動の概念とその変遷・ポピュレーションアプローチの類型</li> <li>2. 10/12 健康なまちを創る：ソーシャルキャピタルの醸成とコミュニティの組織化</li> <li>3. 10/19 データを基盤にまちづくり：地域診断データを活用したコミュニティでのヘルスプロモーション</li> <li>4. 10/26 多様な組織との連携を進める：保健外のセクターとの合意形成と活動推進</li> <li>5. 11/9 健康影響予測評価 (Health Impact Assessment) を体験する：HIA演習 (産業医科大学・藤野善久)</li> <li>6. 11/13 「ゆるスポーツ」でつくる共生社会 (世界ゆるスポーツ協会会長・澤田智洋氏特別講義)</li> <li>7. 11/30 健康を「売る」仕掛け：ソーシャルマーケティングの応用と活動のターゲットング (東京大学・鎌田真光)</li> <li>8. 12/7 課題発表!</li> </ol>	
The following schedule is subject to change.	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 10/5 Concepts of community health activities and their evolution/types of population approaches</li> <li>2. 10/12 Creating healthy communities: fostering social capital and community organization</li> <li>3. 10/19 Data-based community development: health promotion in communities using local diagnostic data.</li> <li>4. 10/26 Promoting partnerships with diverse organizations: building consensus and promoting activities with sectors outside of health</li> <li>5. 11/9 Experiencing Health Impact Assessment (HIA): HIA exercise (Prof. Yoshihisa Fujino, Occupational and Environmental Medicine University)</li> <li>6. 11/13 Inclusive society created through 'Yuru Sports' (special lecture by Mr Tomohiro Sawada, President of the World Yuru Sports Association) (Japanese only)</li> <li>7. 11/30 "Selling" health: Application of social marketing and targeting of activities (Dr Masamitsu Kamata, The University of Tokyo.)</li> <li>8. 12/7 Students' Presentation!</li> </ol>	
<b>[履修要件]</b>	
聴講は可能ですが、レポート提出と課題発表は原則として履修生のみとします。 Auditing is allowed, but as a rule only students taking the course are allowed to submit reports and present assignments.	
-----地域保健活動論(3)へ続く↓↓↓-----	

<b>地域保健活動論(3)</b>	
<b>[成績評価の方法・観点]</b>	
出席(30%)・レポート(30%)・課題発表(40%) 初回講義、最終発表にはレポート提出を求めます。 Attendance (30%), report (30%), assignment presentation (40%) Students are required to submit a report for the first lecture and final presentation.	
<b>[教科書]</b>	
参考書「健康格差対策の進め方：効果をもたらす5つの視点」を講義の進捗に合わせて通読することを推奨する。 日本語を母語としない受講生が1名でもいる場合、講義は英語で行い、配布資料は日本語と英語の両方を配布します。ただし外部講師の講義は日本語で行い、スタッフによる逐次英語通訳を付けます。	
<b>[参考書等]</b>	
(参考書) 近藤尚己『健康格差対策の進め方：効果をもたらす5つの視点』(医学書院, 2016) ISBN:978-4-260-02501-0 Lisa F. Berkman, Ichiro Kawachi, and M. Maria Glymour 『Social Epidemiology 2nd Edition』(Oxford, 2014) ISBN:9780195377903 (ヘビーですが読み応えあり。邦訳が大修館から上下巻あり(社会疫学分野にて訳者割引で購入化)) NHKスペシャル取材班『健康格差 あなたの寿命は社会が決める』(講談社現代新書) ISBN:978-4-06-288452-5 (たいへん読みやすい一般向け入門書) Meredith Minkler 『Community Organizing and Community Building for Health and Welfare』(2012) ISBN:9780813553009 澤田智洋『マイノリティデザイン-弱さを生かせる社会をつくらう』(ライツ社) ISBN:978-4-909044-29-7 近藤尚己, 五十嵐歩(編集)『認知症plus地域共生社会つながり支え合うまちづくりのために私たちができること』(日本看護協会出版会, 2022) ISBN:9784818023994 下記書籍は以下から無料ダウンロード可能 <a href="https://www.jages.net/library/regional-medical/">https://www.jages.net/library/regional-medical/</a> 近藤尚己編 「付き添い」のちから 生活困窮者の医療サービス利用の実態および受診同行支援の効果に関する調査研究 黒谷佳代編 生活困窮世帯の子どもに対する支援ってどんな方法があるの? 国内外の取り組みとその効果に関するレビューおよび調査 近藤尚己編 介護予防のための地域診断データの活用と組織連携ガイド 近藤尚己編 地域包括ケアの推進に向けたまちづくり支援ガイド	
-----地域保健活動論(4)へ続く↓↓↓-----	

<b>地域保健活動論(4)</b>	
<b>[関連URL]</b>	
<a href="https://www.jages.net/library/regional-medical/">https://www.jages.net/library/regional-medical/</a> (地域保健に役立つ資格格納サイト (JAGES))	
<b>[授業外学修(予習・復習)等]</b>	
最終日に課題発表をしてもらいます。準備については講義中にアナウンスします。 You will be asked to present your assignment on the last day. Preparation will be announced during the lecture.	
<b>[その他(オフィスアワー等)]</b>	
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	

科目ナンバリング P-PUB01 8H020 LB90											
授業科目名 <英訳> 人間生態学 Field Medicine		担当者所属・ 職名・氏名		薬777薬研研 准教授 坂本 龍太							
配当 学年	専門職	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023 後期	曜時限	月4	授業 形態	講義	使用 言語	日本語及び英語
<b>【授業の概要・目的】</b>											
フィールド医学は、疾病、老化のありさまを、自然環境、文化背景との関連でもう一度、捉えなおそうとする研究領域である。本授業では、フィールド医学の系譜をたどるとともに我が国及びヒマラヤ地域などで行ってきた研究活動を紹介します。病院から地域に出て生活の場を重んじるフィールド医学のよりよい実践を目指し、世界の中で我々が抱えている課題を共有し、今後のあり方をともに議論していきたい。											
<b>【到達目標】</b>											
先人たちが同時代を生きる人々のバイオニアスピリッツや哲学を学び、自身で課題を発見し、自主的に物事に取り組む能力を育む。											
<b>【授業計画と内容】</b>											
第1回 自己紹介及び講座紹介 第2回 フィールド医学 第3回 自由とバイオニアスピリッツ 第4回 目の前の一人の患者からはじまる研究 第5回 傍らに棲むレジオネラ 第6回 高所環境における老い 第7回 内なる地球環境問題 第8回 ドムカル谷における高齢者の健康とあわせ 第9回 地域研究における友好の意義 第10回 プータンにおける地域在住高齢者ケア計画 第11回 診療所から学ぶ人々の暮らし 第12回 医療の限界と役割 第13回 死生観と医療の意義 第14回 ヒマラヤの長寿者からの伝言 第15回 総合討論 試験 実施しない											
教室：稲盛財団記念館 2階 東南亭 201に変更 12月16日に限り、稲盛財団記念館2階213											
<b>【履修要件】</b>											
特になし											
<b>【成績評価の方法・観点】</b>											
出席による発表、討論、ならびにレポートによって行う。											
-----人間生態学(2)へ続く↓↓↓-----											

人間生態学(2)											
<b>【教科書】</b>											
授業中に指示する											
<b>【参考書等】</b>											
(参考書) 坂本龍太 『プータンの小さな診療所』(ナカニシヤ出版) ISBN:978-4779508974 奥宮清人 『生老病死のエコロジー』(昭和堂) ISBN:978-4812210673											
<b>【授業外学修(予習・復習)等】</b>											
授業中に感じた疑問や課題を大切に、それに関する事について調べたり、自分自身の頭でよく考える。											
<b>【その他(オフィスアワー等)】</b>											
坂本龍太 京都大学東南アジア研究所 606-8501 京都市左京区吉田下阿達町 4 6 TEL:075-753-7368 FAX:075-753-7168 E-mail:sakamoto65@cseas.kyoto-u.ac.jp											
面会希望者は、メールでアポイントをとってください。											
人間健康科学系専攻学生の受講可否：可能（5名程度）											
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング P-PUB01 8H021 LJ90											
授業科目名 <英訳> 交絡調整の方法 Intermediate Biostatistics		担当者所属・ 職名・氏名		医学研究科 特定教授 大森 崇 医学研究科 教授 佐藤 俊哉							
配当 学年	専門職	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023 後期	曜時限	火2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
<b>【授業の概要・目的】</b>											
前期コア科目である「医療統計学」で学んだ医療統計学の考え方を実践するための具体的な統計的方法について講義します。 本講義では、疫学研究などの観察研究において因果関係を調べる際に妨げとなる「交絡」を調整する方法として、層別解析、回帰モデルなどの解析方法を説明するとともに、解析計画を立てる上で必須である「研究計画書」での医療統計的なポイント、データ解析を実施する上で必要となる「解析計画書」作成のポイントをとり上げます。「医療統計学」よりも専門的な内容が増えますが、具体例を示しながら基本的な考え方を中心に講義します。 履修条件に注意してください。											
【パワーポイントスライドによる講義形式】											
<b>【到達目標】</b>											
・ 交絡について理解し、正しく説明できる ・ 交絡調整における層別解析と回帰モデルの意義を理解し、説明できる ・ 層別解析と回帰モデルの利点・欠点を説明できる ・ 研究計画書、解析計画書の重要性を理解し、説明できる											
<b>【授業計画と内容】</b>											
新型コロナウイルス感染症の感染拡大等による特例措置期間中のオンライン授業により、各回Zoom（同時双方向型）で実施する。											
第1回 10月3日 交絡の復習と標準化 第2回 10月10日 共通効果の推定 第3回 10月17日 平均値の比較 第4回 10月24日 回帰モデル入門、第1回ミニテスト 10月31日 休講（博士入試） 第5回 11月7日 一般化線形モデル 第6回 11月14日 生存時間解析1 第7回 11月21日 生存時間解析2 第8回 11月28日 データの欠測・estimand、第2回ミニテスト 第9回 12月5日 研究計画書の作成 第10回 12月12日 解析計画書の作成 第11回 12月19日 医薬品の審査と市販後安全対策（森先生） 第12回 12月26日 変数選択、第3回ミニテスト 第13回 1月9日 上級者の交絡調整の方法 第14回 1月16日 解析計画ディスカッション											
-----交絡調整の方法(2)へ続く↓↓↓-----											

交絡調整の方法(2)											
<b>【履修要件】</b>											
・ 前期コア科目「医療統計学」を履修済みであること ・ 人間健康科学系専攻の学生さんの受け入れはしていません											
<b>【成績評価の方法・観点】</b>											
3回のミニテストおよび平常点											
<b>【教科書】</b>											
前期 医療統計学 配布資料 講義スライド資料を配布します											
<b>【参考書等】</b>											
(参考書) Lash TL, VanderWeele TJ, Haneuse S, Rothman KJ. 『Modern Epidemiology, 4th ed.』 (Wolters Kluwer, 2021) ISBN:978-1451193282											
<b>【授業外学修(予習・復習)等】</b>											
前期コア科目「医療統計学」の資料を復習してください											
<b>【その他(オフィスアワー等)】</b>											
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		P-PUB01 8H022 PJ90										
授業科目名 -英訳-	解析計画実習 Health Data Processing Laboratory					担当者所属・ 職名・氏名		医学研究科 特定教授 大森 崇 医学研究科 教授 佐藤 俊哉 日本製薬工業協会 森 和彦 医薬品医療機器総合機構 安藤 友紀 医学研究科 特定助教 大宮 将義				
	配当 学年	専門職	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時間	火3,4	授業 形態	実習	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】												
<p>疫学研究・臨床研究を実施する上で必要となる研究計画書や解析計画書を作成するために必要な内容を実習を通じて身につけます。この実習は、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究ガイドラインや倫理指針の内容を批判的に吟味しグループでディスカッションする臨床研究ガイドライン実習</li> <li>・「交絡調整の方法」で学んだ方法をJMPを使って実践する統計解析実習</li> <li>・公開されている医薬品承認申請・審査資料を用いて医薬品の承認審査を体験する審査実習</li> <li>・自身の研究の解析計画を作成する解析計画実習</li> </ul> <p>の4つのパートからなっています。</p> <p>履修条件に注意してください。</p> <p>【少人数の班に分かれた実習】</p>												
【到達目標】												
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種研究ガイドライン、倫理指針の内容を理解できる</li> <li>・統計ソフトJMPを用いて層別解析、回帰モデルが実行でき、適切な結果を報告し、結果を解釈できる</li> <li>・医薬品承認申請の資料を読み、医薬品の審査を体験する</li> <li>・課題研究の解析計画書を作成できる</li> </ul>												
【授業計画と内容】												
<p>第1回 10月3日 ガイドライン・倫理指針実習1</p> <p>第2回 10月10日 ガイドライン・倫理指針実習2</p> <p>第3回 10月17日 ガイドライン・倫理指針実習 発表会</p> <p>第4回 10月24日 層別解析</p> <p>10月31日 休講 (博士入試)</p> <p>第5回 11月7日 平均値の比較</p> <p>第6回 11月14日 回帰分析</p> <p>第7回 11月21日 一般化線形モデル</p> <p>第8回 11月28日 生存時間解析</p> <p>第9回 12月5日 新医薬品の審査実習1</p> <p>第10回 12月12日 新医薬品の審査実習2</p> <p>第11回 12月19日 新医薬品の審査実習 発表会</p> <p>第12回 12月26日 解析計画書作成1</p>												
----- 解析計画実習(2)へ続く ↓ ↓ ↓ -----												

解析計画実習(2)											
<p>第13回 1月9日 解析計画書作成2</p> <p>第14・15回 1月16日 解析計画書発表会</p>											
【履修要件】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・前期選択科目「医療統計学実習」を履修済みであること</li> <li>・人間健康科学系専攻の学生さんの受け入れはしていません</li> </ul>											
【成績評価の方法・観点】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・班および個人のレポート</li> <li>・班および個人による発表</li> </ul>											
【教科書】											
<p>前期 医療統計学講義・実習資料</p> <p>毎回実習の手引きを配布します</p>											
【参考書等】											
(参考書)											
【授業外学修(予習・復習)等】											
前期選択科目「医療統計学実習」を復習してください											
【その他(オフィスアワー等)】											
<p>統計ソフトJMPがインストールされたノートパソコンを持参してください。JMPは医学研究科の大学院生であれば利用できます(個人のパソコンにインストールできます)。</p> <p>JMPの利用については、  <a href="http://www.med.kyoto-u.ac.jp/software/JMP/">http://www.med.kyoto-u.ac.jp/software/JMP/</a>  を参照してください。(11月ごろライセンスの更新が必要となります。)</p> <p>※途中からの参加は認めません、必ず初回から出席してください</p> <p>※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。</p>											

科目ナンバリング		P-PUB01 8H159 LB90										
授業科目名 -英訳-	環境曝露・リスク評価 Environmental exposures and their risk assessments					担当者所属・ 職名・氏名		医学研究科 准教授 原田 浩二 医学研究科 特定准教授 奥田 裕子 京都大学 医学研究科 研究員 藤谷 倫子 医療法人社団藤生会 原田 真理子 藤生会総合病院 医師 非常勤講師 藤井 由希子				
	配当 学年	専門職	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時間	金5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】												
<p>環境要因の健康影響を評価するための方法論について講義する。</p> <p>種々の環境要因の概略を説明し、それぞれについての曝露評価手法を紹介する。</p> <p>環境要因による健康アウトカムへの影響を解析した事例を紹介し、その特徴を講義する。</p> <p>環境要因の影響に基づいて、定められた集団におけるリスクを評価するための枠組みについて紹介し、事例を検討する。</p> <p>最後に、リスク評価結果を社会で実装するリスク管理の実際と課題について紹介する。</p> <p>講義においては学生自身による事例の検討も課題とし、発表、討論の機会を提供する。</p>												
【到達目標】												
<p>種々の環境要因を説明できる</p> <p>環境要因の曝露評価の手法の概要を説明できる</p> <p>健康影響の評価、リスク評価の枠組みを理解できる</p> <p>環境研究の論文について批判的に吟味できる。</p>												
【授業計画と内容】												
<p>1st Orientation</p> <p>2nd Exposure assessment 1 Physical factors</p> <p>3rd Exposure assessment 2 Chemical factors</p> <p>4th Exposure assessment 3 Biological monitoring</p> <p>5th Exposure assessment 4 Chemical analysis</p> <p>6th Toxicology 1 General principle</p> <p>7th Toxicology 2 Testing methods</p> <p>8th Toxicology 3 Toxicokinetics</p> <p>9th Environmental epidemiology 1 Phytoestrogens</p> <p>10th Environmental epidemiology 2 Chemical exposures and metabolic disorders</p> <p>11th Risk assessment 1 Critical review</p> <p>12th Risk assessment 2 Critical review</p> <p>13th Toxicology 4 Gene and environment interactions</p> <p>14th Risk management</p> <p>15th Presentation and discussion</p>												
【履修要件】												
特になし												
【成績評価の方法・観点】												
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Attendance and active participation 50%</li> <li>・ Presentation 50%</li> </ul>												
----- 環境曝露・リスク評価(2)へ続く ↓ ↓ ↓ -----												

環境曝露・リスク評価(2)											
-----											
【教科書】											
<p>使用しない</p> <p>Handouts</p>											
【参考書等】											
(参考書)											
授業中に紹介する											
【授業外学修(予習・復習)等】											
Revision is recommended to follow biological mechanisms in target toxicities.											
【その他(オフィスアワー等)】											
<p>オンライン講義となる可能性がある。</p> <p>人間健康科学系専攻学生の受講可否? 上限3人まで可能</p> <p>※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。</p>											

科目ナンバリング	P-PUB01 8H032 LB90										
授業科目名 <英訳>	ベンチトレーニングコース On the Bench Training Course				担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 准教授 原田 浩二 医学研究科 特定准教授 奥田 裕子 武庫川女子大学食物栄養科学部 土生 敏行 准教授 昭和大学医学部 講師 森戸 大介					
配当 学年	専門職	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期集中	曜時間	集中講義	授業 形態	講義	使用 言語	日本語及び英語
<b>[授業の概要・目的]</b>											
I. コースの概要 環境保健・毒性評価・化学工業における専門職として必要な調査、実験の実践を行ないます。Gas Chromatography/Mass Spectrometryを使用した化学分析法、フィールドでの環境汚染物質調査、ヒトへの曝露、リスク評価のprotocol writing, protocol meeting, sample collecting, sample measurement, audit, paper writing, review, presentationを実習します。											
<b>[到達目標]</b>											
<ul style="list-style-type: none"> <li>文献等を調べて研究テーマの背景を説明できる</li> <li>明らかにすべき事柄に対する研究手段を選択することができる</li> <li>分析機器を使用することができる</li> <li>プロトコルを書くことができる</li> <li>プロトコルをpresentationすることができる</li> <li>実験結果をまとめることができる</li> <li>研究結果をpresentationすることができる</li> <li>研究成果を論文にまとめることができる</li> </ul>											
<b>[授業計画と内容]</b>											
Course Schedule 1 Orientation 2 Gas Chromatography 3 Mass Spectrometry 4 Biochemical analysis 5 Molecular analysis 6 Sample preparation 7 Discussion of theme and presentation of background 8 Protocol Writing 9 Protocol Presentation 10 Sample collecting 11 Sample measurement (1) 12 Sample measurement (2) 13 Summarizing the data 14 Presentation of the data 15 Writing Paper											
----- ベンチトレーニングコース(2)へ続く ↓ ↓ ↓											

ベンチトレーニングコース(2)											
<b>[履修要件]</b>											
特になし											
<b>[成績評価の方法・観点]</b>											
Active participation 50%, Presentation 50%											
<b>[教科書]</b>											
授業中に指示する											
<b>[参考書等]</b>											
(参考書) 授業中に紹介する											
<b>[授業外学修(予習・復習)等]</b>											
実習の課題によっては1日の講義時間が変わります。											
<b>(その他(オフィスアワー等))</b>											
本科目は集中講義ですので、科目登録者に対して、実習実施のスケジュールを連絡し、受講者とスケジュールを調整します。 人間健康科学系専攻学生の受講可否： 上限2人まで可能 ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング	P-PUB01 8H099 LB90										
授業科目名 <英訳>	医薬品・医療機器の開発計画、薬事と審査 Development strategy, plan, and regulatory affairs of drugs and medical devices				担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 川上 浩司					
配当 学年	専門職	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時間	水3,4	授業 形態	講義	使用 言語	日本語及び英語
<b>[授業の概要・目的]</b>											
【講義担当者】川上浩司(薬剤疫学・教授)、田中司朗(臨床統計学・特定教授)、佐々木まどか(大阪成蹊短期大学・非常勤講師)、藤原康弘(独立行政法人医薬品医療機器総合機構(PMDA)・理事長)、笠井宏委(東北大学病院 臨床研究推進センター)、山本晴子(独立行政法人医薬品医療機器総合機構(PMDA)・理事長特任補佐)、所哲哉(日本医療機器開発機構)、堀井郁夫(英国ケンブリッジ大学・客員教授)、脇谷滋之(武庫川女子大学・教授)、瓜生原葉子(同志社大学・教授)、Christian Elze (Catenion社・シニアパートナー)、大西佳恵 (CreativCeutical社・日本代表)、寺島 玄(株式会社JMDC)、漆原尚巳(慶應義塾大学・教授)、佐藤泉美(長崎大学・教授)、深澤俊貴(デジタルヘルス学・特定助教)											
コースの概要 本コースは医学研究科社会健康医学系専攻の選択科目の一つです。 医薬品開発の全体戦略、新薬創出や毒性への対応、標準治療確立のための臨床試験のプロトコル作成、臨床試験の計画と実施中のプロジェクトマネジメントの基礎と実際、PRO研究の実際、薬価の交渉、市販後臨床試験の考え方について学びます。また、医薬品や医療機器の開発と行政当局における開発の考え方と審査の考え方と薬事対応方法について、行政当局の元審査官の講師陣により理化学試験と製造、非臨床試験、臨床審査、および承認の考え方につき網羅的に講義と実習を通して学びます。 学習到達目標(このコース終了時までに習得が期待できること) ・医薬品、バイオ医薬品(生物製剤)、医療機器の開発の戦略、臨床試験の立案、実施時のプロジェクトマネジメント、安全性・有効性の評価について、開発者の薬事業務と行政当局(審査側)の業務と考え方を理解する。 ・ヘルステクノロジーアセスメントの観点から、費用対効果、薬価についての実施を学ぶ。 教育・学習方法 ・講義、審査・開発実習、討議											
<b>[到達目標]</b>											
学習到達目標(このコース終了時までに習得が期待できること) ・医薬品、バイオ医薬品(生物製剤)、医療機器の開発の戦略、臨床試験の立案、実施時のプロジェクトマネジメント、安全性・有効性の評価について、開発者の薬事業務と行政当局(審査側)の業務と考え方を理解する。 ・ヘルステクノロジーアセスメントの観点から、費用対効果、薬価についての実施を学ぶ。											
<b>[授業計画と内容]</b>											
第1回 10月4日 アカデミアにおける医薬品開発とトランスレーショナルリサーチ (田中) 第2回 10月11日 臨床試験 開発と審査: 臨床評価 (藤原) 第3回 10月18日 臨床試験 開発と審査: CMC (川上) 第4回 10月25日 臨床試験 開発と審査: 非臨床試験 (佐々木)											
----- 医薬品・医療機器の開発計画、薬事と審査(2)へ続く ↓ ↓ ↓											

医薬品・医療機器の開発計画、薬事と審査(2)											
第5回 11月1日 臨床試験のプロジェクトマネジメントの基礎と実習 (登井) 第6回 11月8日 臨床試験 開発と審査: 医療機器(1) (山本) 第7回 11月15日 The Changing Dynamics of Bio-pharmaceutical Innovation (Elze) 第8回 11月29日 医薬品開発におけるデータ評価と個別化医療 (堀井) 第9回 12月6日 臨床試験 開発と審査: 再生医療 (脇谷) 第10回 12月13日 医薬品のライフサイクルマネジメント (瓜生原) 第11回 12月20日 薬剤疫学方法論実習 (深澤) 第12回 12月27日 医薬経済評価: 費用対効果研究実習 (大西) 第13回 1月10日 臨床試験 開発と審査: 医療機器(2) (所) 第14回 1月17日 臨床試験 開発と審査: 製造販売承認後 (漆原) 第15回 1月24日 医療系データベースを用いた医療・健康評価の実績 (寺島)											
<b>[履修要件]</b>											
臨床試験の実施や審査、医薬品や医療機器の事業戦略、開発やアウトカム研究トピックの方々を講師にお迎えしています。後期2限に開講されるH109「医薬政策・行政」H079「医薬品の開発と評価」を受講していることを必須とします。本科目のみの受講は認めません。											
<b>[成績評価の方法・観点]</b>											
実習への参加(50%)、レポート(50%)											
<b>[教科書]</b>											
使用しない											
<b>[参考書等]</b>											
(参考書) 安生紗枝子ら『新薬創製への招待: 開発から市販後の監視まで』(共立出版, 2006.) 川上浩司, 漆原尚巳, 田中司朗(監修)『ストロムの薬剤疫学』(南山堂, 2019.)											
<b>[授業外学修(予習・復習)等]</b>											
適宜予習復習を求める。											
<b>(その他(オフィスアワー等))</b>											
人間健康科学系専攻学生の受講可否: 可 ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング	P-PUB01 8H079 LB90										
授業科目名 <英訳>	医薬品の開発と評価 Drug Development, Evaluation and Regulatory Sciences				担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 川上 浩司					
配当 学年	専門職	単位数	1	開講年度・ 開講期	2023・ 後期中	曜時限	後期後半 水2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語及び英語
<b>[授業の概要・目的]</b>											
前週までの「医薬政策・行政」に引き続いて、医薬品、バイオ医薬品、医療機器の研究開発の過程について、前臨床研究、試験物の理化学試験と製造、動物を用いた非臨床試験、そして人を対象とした臨床試験、行政当局による承認、薬価の決定(費用対効果)、市販後評価というすべてのステップにおける安全性と有効性、経済性の評価について学びます。また、トランスレーショナルリサーチの実際、製薬産業の国際動向についても学びます。											
【講義担当者】川上浩司(薬剤学・教授)、白沢博満(MSD株式会社・副社長)、堀井郁夫(英国ケンブリッジ大学・客員教授)、佐藤泉美(長崎大学・教授)、Christian Elze (Catenion社・シニアパートナー)、大西佳恵(CreativCeutical社・日本代表)、石河貴夫(財務省主計局)、漆原尚巳(慶應義塾大学・教授)、田中佐智子(デジタルヘルス学講座・特定教授)											
<b>[到達目標]</b>											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・医薬品、医療機器、生物製剤の開発と評価の基本的考え方、方法論を理解している。</li> <li>・費用対効果、薬価とは何かについての基本的考え方、方法論を理解している。</li> <li>・薬剤学と市販後の基本的考え方、方法論を理解している。</li> </ul>											
<b>[授業計画と内容]</b>											
第1回	11月15日	Healthcare Systems - Challenges and Reform (Elze)									
第2回	11月29日	医薬品の創製、毒性と安全性 (堀井)									
第3回	12月6日	医療リアルワールドデータと医薬品評価 (川上)									
第4回	12月13日	グローバル製薬企業の動向と開発薬事 (白沢)									
第5回	12月20日	薬剤学概論 (佐藤)									
第6回	12月27日	医薬経済概論：費用対効果と薬価の考え方 (大西)									
第7回	1月10日	日本の財政状況と医療・福祉 (石河)									
第8回	1月17日	市販後調査、市販後臨床試験 (漆原)									
第9回	1月24日	デジタルヘルスの現状と疫学 (田中)									
医薬品の開発と評価(2)へ続く ↓ ↓ ↓											

<b>医薬品の開発と評価(2)</b>											
<b>[履修要件]</b>											
本コースの前週まで講義が行われるH109「医薬政策・行政」と連続、一括した内容となっており、原則として通じて受講できない方は受け入れ不可とします。また、同日3・4限のH099「医薬品・医療機器の開発計画、薬事と審査」も本講義の内容を掘り下げたもので、合わせて受講することを推奨します。											
<b>[成績評価の方法・観点]</b>											
講義の場への参加 (50%)、レポート (50%)											
<b>[教科書]</b>											
使用しない											
<b>[参考書等]</b>											
(参考書) 安生紗枝子ら『新薬創製への招待：開発から市販後の監視まで』(共立出版, 2006.) 川上浩司, 漆原尚巳, 田中司朗 (監修) 『ストロムの薬剤学』(南山堂, 2019.)											
<b>[授業外学修(予習・復習)等]</b>											
予習は特に不要であるが、復習については十分に行うことを期待する。											
<b>[その他(オフィスアワー等)]</b>											
川上浩司 G棟3階・内線: 9469 (代表) 面談希望は必ずメールでご連絡下さい。 kawakami.koji.4e@kyoto-u.ac.jp											
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング	P-PUB01 8M022 LB90										
授業科目名 <英訳>	ゲノム科学と医療 Genome Science and Medicine				担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 松田 文彦 薬学副学長 特定教授 長崎 正朗 医学研究科 准教授 川口 修治					
配当 学年	専門職	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	木3	授業 形態	講義	使用 言語	英語
<b>[授業の概要・目的]</b>											
ゲノム科学技術が発展し、DNAシーケンズ実験を比較的低コストで実現できる時代となった。本講義の目的は、ゲノム科学の発展が21世紀の医療にいかなるインパクトを与えるのかを理解することにある。本講義では、ゲノム科学に携わっている研究者の最新の研究成果とその臨床医学における実践的な応用ならびに応用の可能性についての授業を、各分野の専門家による講義として行う。											
<b>[到達目標]</b>											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲノム医学の概念を理解する。</li> <li>・実際にに行われている、あるいは近い将来に行われるようになる可能性のある臨床医学へのゲノム科学の応用について、実情並びに展望を学ぶ。</li> </ul>											
<b>[授業計画と内容]</b>											
第1回	ゲノム医学①(村川泰裕 教授) 調節因子と疾患「Multi-layered gene expression regulation」について解説する。【メディア授業：オンデマンド型】										
第2回	ゲノム医学②(村川泰裕 教授) 調節因子と疾患「Multi-layered gene expression regulation」について解説する。【メディア授業：オンデマンド型】										
第3回	疾患とA I ①(川口修治 准教授) 「Introduction to medical AI」「Elucidation of causative genes of Mendelian disorders」について解説する。【メディア授業：オンデマンド型】										
第4回	疾患とA I ②(川口修治 准教授) 「Redefinition of rare diseases by image analysis」「Correction of fluctuated metabolome data」について解説する。【メディア授業：オンデマンド型】										
第5回	High-Dimensional Statistical Methods; Challenges and Innovations (Hung Hung 教授 台湾大学) 「Dimension Reduction Methods (DRM)」について解説する。【メディア授業：オンデマンド型】										
第6回	疾患の遺伝学 量的形質と構造多型(長崎正朗 特定教授) 「Structural Variation and Genetic Disorder SV-1」について解説する。【メディア授業：オンデマンド型】										
第7回	疾患の遺伝学②(長崎正朗 特定教授) 量的形質と構造多型 「Reference Assembly using long-read sequencer SV-2」について解説する。【メディア授業：オンデマンド型】										
第8回	Genomic Database Resources for Rare Diseases(長崎正朗 特定教授) 「Genomic Database Resources for Rare Diseases (DR1)」につ										
ゲノム科学と医療(2)へ続く ↓ ↓ ↓											

<b>ゲノム科学と医療(2)</b>											
いて解説する。【メディア授業：オンデマンド型】											
第9回	ゲノム医学①(長崎正朗 特定教授) COVID-19の感染拡大のゲノム解析によるアプローチ 「SARS-CoV-2 and sequencing technology CV-1」について解説する。【メディア授業：オンデマンド型】										
第10回	ゲノム医学② COVID-19の感染拡大とゲノム進化(長崎正朗 特定教授) 「SARS-CoV-2 and evolution CV-2」について解説する。【メディア授業：オンデマンド型】										
第11回	ゲノム医学①(岡田随象 教授 大阪大学) ゲノム創薬「Genomics for drug discovery」について解説する。【メディア授業：オンデマンド型】										
第12回	ゲノム医学②(岡田随象 教授 大阪大学) ゲノム創薬「Genomics for drug discovery」について解説する。【メディア授業：オンデマンド型】										
第13回	ゲノム医学①(葎田泰誠 教授 理化学研究所 グループリーダー) 薬理遺伝学「Pharmacogenomics Basic course in pharmacogenomics」について解説する。【メディア授業：オンデマンド型】										
第14回	ゲノム医学②(葎田泰誠 教授 理化学研究所 グループリーダー) 薬理遺伝学「Pharmacogenomics Basic course in pharmacogenomics」について解説する。【メディア授業：オンデマンド型】										
第15回	科学研究の成果をいかに伝えるか(村中瑠子 非常勤講師) (予定)実習をしながら科学研究の現状を解説する。【メディア授業：同時双方型】										
授業は原則、オンライン配信にて英語で行われます。											
<b>[履修要件]</b>											
特になし											
<b>[成績評価の方法・観点]</b>											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義における授業参加の状況</li> <li>・各授業に対するレポート提出</li> </ul>											
<b>[教科書]</b>											
授業中に指示する 参考資料は講義の中で適時配布											
<b>[参考書等]</b>											
(参考書) 授業中に紹介する											
ゲノム科学と医療(3)へ続く ↓ ↓ ↓											

ゲノム科学と医療(3)
<b>【授業外学修（予習・復習）等】</b> 配付資料を活用した復習を主体に行うこと。
<b>（その他（オフィスアワー等））</b> ※授業はメディア授業科目であり、原則、オンライン配信にて英語で行われます。 ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	P-PUB01 8N018 LJ90										
授業科目名 <英訳>	医療倫理学各論 Practicum for Clinical Genetics					担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 准教授 中島 健				
配当 学年	専門職	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
<b>【授業の概要・目的】</b>											
【基本情報】 授業日時：金曜5/6限（原則隔週） 教室：G棟3階演習室・状況によりオンライン授業を実施することがある レベル：応用 担当者：中島健（科目責任者）・和田敬仁・小川昌宣・山崎康仕・浅井篤・竹之内沙弥香											
【コースの概要】 医療技術の進展にともなう生じる臨床上の問題、臨床研究実施上の問題の検討を行う。「自ら問題を考え、解決の方策を探り、臨床で実践する能力」を身につけ、実践行動型の医療者となることを目標とする											
<b>【到達目標】</b>											
1)医療倫理学の基礎を理解する ・医療倫理学の背景、医師患者関係の変容、患者の権利や医師の義務を理解する 2)倫理的問題の対処方法を習得する ・問題の存在を認識し、考える枠組みを使って実際の問題を検討する ・議論を通じて解決の道筋をたてる ・臨床での実践方法を考える											
<b>【授業計画と内容】</b>											
【第1/2回】 10月6日<小杉>「倫理委員会・移植医療と倫理」倫理審査委員会の歴史、現状、法的根拠、組織、脳死からの臓器移植、生体肝移植、心臓死および生体からの肺移植などの問題点を事例に基づいて考える 【第3/4回】 10月20日<竹之内>「終末期医療」治療の中止、延命治療、安楽死、尊厳死、高齢者医療、DNRオーダー、事前指示、医学的無益性などについて考える 【第5/6回】 11月17日<和田>「小児科医療と倫理」小児医療における代諾やインフォームド・コンセントやアセント、医療倫理を学ぶ 【第7/8回】 12月1日<浅井>「医療資源配分の問題」 【第9/10回】 12月15日<中島>「二次的（偶発的）所見の問題」網羅的なゲノム情報が用いられる時代となり常に直面する二次的（偶発的）所見の取り扱いについて学ぶ 【第11/12回】 1月5日<山崎>「法と倫理」道徳・倫理・法の関係、自然法論と法実証主義などについて総合的に考える 【第13/14回】 1月19日<小川>「産婦人科医療と倫理」産婦人科では、胚や胎児を対象とするために生じる倫理問題が存在する。これらの幅広い倫理的問題について考える。 【第15/16回】 2月2日<中島>「自主研究発表」履修院生による自己テーマについての研究発表											
<b>【履修要件】</b> 遺伝カウンセラーコース1回生必修科目 SPH選択科目 先修科目として「基礎医療倫理学」の履修を原則とする											
医療倫理学各論(2)へ続く ↓ ↓ ↓											

医療倫理学各論(2)
人間健康科学系専攻学生の受講可否：要事前連絡
<b>【成績評価の方法・観点】</b> 研究発表、議論への参加の積極性、レポート、出席等を総合的に判定します。 自主研究発表(最後に実施)：医療倫理に関するどのようなテーマでも良いので、自ら問題点を探し、それについて調べたり、検討した結果を発表し、全体でディスカッションします。割り当て時間（発表+ディスカッション）は、発表者の数に依存しますが、15-20分程度です。（原則としてパワーポイントを用いて発表し、ハンドアウト配布をお願いします）。他の専攻や研究科からの受講、聴講の場合も必須です。
<b>【教科書】</b> 配布するハンドアウトなど
<b>【参考書等】</b> (参考書)
<b>【授業外学修（予習・復習）等】</b> 適宜指示する
<b>（その他（オフィスアワー等））</b> その他メッセージ 事例検討は、ビデオ、漫画を用いることがあります 講義日程、講師、内容については、多少の変更がある可能性があります かならず、正式な受講届を提出すること。 ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	P-PUB01 8H130 LB90										
授業科目名 <英訳>	健康情報学 I Health informatics I					担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 中山 健夫 医学研究科 准教授 高橋 由光 大東文化大学 教授 杉森 裕樹 日本MBTI協会 代表 園田 由紀 国立がん研究センターがん対策情報センター 若尾 文彦 附属病院 准教授 加藤 源太 株式会社情報システムズエンジニアリング 黒田 聡 代表取締役 新野 修平 新野社会健康医学大学院大学 藤本 修平				
配当 学年	専門職	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語及び英語
<b>【授業の概要・目的】</b>											
健康・医療情報、データや知識の収集、蓄積、伝達、検索、評価法、情報リテラシー、ヘルス・コミュニケーション（リスクコミュニケーション含む）、個人情報保護などの情報倫理の課題について講義する。疫学やEBMを基本として、医学文献からマスメディア、インターネットによる健康情報まで、さまざまな情報の特徴を知り、それらを主体的、効果的に活用する方法を考える。さらに欧米の医療関係者に関心の高い性格テスト・MBTI(Myers-Briggs Type Indicator)のワークショップを通して、個人の情報処理・認知の特性とコミュニケーションに関して体験的理解を深める。											
<b>【到達目標】</b>											
・疫学・EBMの知識を応用して、各種の健康・医療情報を適切に活用できる。 ・マスメディア情報、インターネット情報を収集し、適正な吟味を行った上で意思決定、問題解決、そしてコミュニケーションの素材とすることができる。 ・MBTIの視点から、個人の情報処理・認知、コミュニケーションの特性を理解する。											
<b>【授業計画と内容】</b>											
（※変更の可能性があるので開講日に確認して下さい） 第1回 10月6日 疫学とEBMからの健康情報リテラシー入門（1）（中山） 第2回 10月13日 疫学とEBMからの健康情報リテラシー入門（2）（中山） 第3回 10月20日 インターネットとe-ヘルス（高橋） 第4回 10月27日 患者視点の情報：Quality of life と Patient reported outcome（中山） 第5回 11月10日 質の高い医療情報の集約・共有・普及：根拠に基づく診療ガイドラインを考える（中山・藤本） 第6回 11月24日 ベネフィットとリスクのコミュニケーション（中山） 第7回 12月1日 医療におけるデータの二次利用の課題（加藤） 第8回 12月8日 健康情報を巡る話題：テクニカル・コミュニケーションの視点から（黒田） 第9回 12月15日 「がん」をめぐる患者・国民・医療者向け情報の整備（若尾） 第10回 12月22日 サラティブ情報の意義と可能性（中山） 1月5日 予備日 第11回 1月12日 健康情報ワールドカフェ（中山） 第12回 1月19日 ヘルス・リテラシーとリスク・コミュニケーション（杉森） 第13回 1月25日 個人の情報処理・認知特性からコミュニケーションへ：MBTI（エムビーティー・アイ：Myers-Briggs Type Indicator） セミオープンワークショップ 13時30分～17時30分（園田）											
健康情報学 I(2)へ続く ↓ ↓ ↓											

健康情報学 I (2)
第14回 1月26日 個人の情報処理・認知特性からコミュニケーションへ; MBTI (エムピータイプ); Myers-Briggs Type Indicator) セミオープンワークショップ 9時~12時、13時~16時 (園田) 第15回 2月9日 総合討論・個別発表 「健康情報学Iを履修して」 (中山)
※「健康情報学II」の講義と重ならないように開講します。
<b>【履修要件】</b>
疫学または根拠に基づく医療 (evidence-base medicine: EBM) の基礎知識を持つことが望ましいが、必須ではない。
<b>【成績評価の方法・観点】</b>
毎回の小レポート提出80%、発表20%
<b>【教科書】</b>
講義資料は配布、MBTIワークショップのテキストは各自購入 (3,300円程度)
<b>【参考書等】</b>
(参考書) 中山健夫著 『健康・医療の情報を読み解く: 健康情報学への招待』 (丸善書店) 中山健夫監修 『ヘルスコミュニケーション実践ガイド』 (日本評論社) 中山健夫・杉森裕樹監訳 『FDA リスク&ベネフィットコミュニケーション』 (丸善書店)
<b>【授業外学修 (予習・復習) 等】</b>
予習よりも復習に十分時間を取ること
<b>【その他 (オフィスアワー等)】</b>
情報とは「意思決定において不確実性を減じるもの」と定義されます。社会における健康・医療に関する情報の適切なあり方、そして個人の特性理解の視点から、情報のコミュニケーションについて考えてみたいと思います。
人間健康科学専攻学生の受講可否: 可
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	P-PUB01 8H151 LB90		
授業科目名	健康情報学 II	担当所属	医学研究科 准教授 高橋 由光
<英訳>	Health informatics II	職名・氏名	医学研究科 助教 西川 佳孝
記号	専門職	単位数	2
学年	2	開講年度・開講期	2023・後期
曜日	金	曜時間	3,4
授業形態	講義	使用言語	日本語及び英語
<b>【授業の概要・目的】</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>健康情報とICT: インターネットの基礎知識、eヘルス、ヘルスケアにおけるICT (Information and communication technology) について講義を行います。公的統計データ、各種二次データ、レポート情報・特定健診等情報データベース (NDB) などを例に、医療ビッグデータの現状および活用について講義を行います。国民生活基礎調査匿名データを使った実習を行います。(担当: 高橋)</li> <li>地域薬局における薬局業務の拡大・患者ケア: 社会の高齢化と医療の高度化により、地域の薬局が果たす役割は薬剤供給のみならず、地域住民の健康を支える業務にまで拡大しています。この薬局の役割の変化について国内外の事例を紹介いたします。また、国内薬局で糖尿病や高血圧患者を対象に実施されたCOMPASS研究で使われた患者支援の背景にある行動経済学のナッジや健康行動科学による患者支援のスキルについても紹介いたします。(担当: 岡田浩先生)</li> <li>災害と健康情報: 災害による健康影響について学習し、災害時に必要な健康情報について議論します。防災のための健康情報とその特徴について学習します。事例研究や症例報告の手法について紹介いたします。(担当: 西川)</li> </ul>			
<b>【到達目標】</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>インターネットの基礎知識、eヘルス、インターネット調査の特徴 (利点および欠点) を習得。</li> <li>公的統計データ、医療ビッグデータ、個人番号制度、ライフコース疫学についての基礎知識を習得</li> <li>世界の保健行政の中での地域薬局の役割の変化に関する知識の習得。薬局におけるプライマリケアへの関与についてのエビデンス、患者の自己決定を尊重しながら、生活習慣改善を促す手法 (行動経済学、ナッジ) に関する知識の習得。</li> <li>災害と健康についての基礎知識の習得。事例研究方法の基礎知識の習得。</li> </ul>			
<b>【授業計画と内容】</b>			
10/6 4限 イントロ (高橋)			
10/13 4限 地域における薬局業務の拡大 (岡田浩先生)			
10/20 4限 地域薬局での患者ケア (岡田浩先生)			
10/27 4限 インターネットの基礎知識 (高橋)			
11/10 4限 ヘルスケアとICTに関する各種ガイドライン (高橋)			
11/24 4限 インターネット調査フォーム作成 (高橋)			
12/1 4限 災害と健康情報1: 災害による健康影響・災害時の健康情報 (西川)			
12/8 4限 災害と健康情報2: 防災のための健康情報とその特徴 (西川)			
12/15 4限 災害と健康情報3: 事例研究の方法 (西川)			
12/22 3-4限 医療ビッグデータ、二次データの利活用 Aグループ (高橋)			
1/5 3-4限 医療ビッグデータ、二次データの利活用 Bグループ (高橋)			
1/12 3-4限 ヘルスケアとICTの事例紹介 (高橋)			
1/19 3-4限 社会ネットワーク分析 (高橋)、ライフコース疫学・社会疫学・まとめ (高橋)			
健康情報学 II (2)へ続く ↓ ↓ ↓			

健康情報学 II (2)
1/26 予備
変更する場合がありますので、必ず初回の講義にて確認してください。 健康情報学I、EBM・診療ガイドライン特論の日程と重ならないように開講します。
<b>【履修要件】</b>
健康情報学Iを可能な限り履修するようにしてください。
<b>【成績評価の方法・観点】</b>
平常点 (出席を含む) (30%) およびレポートまたは発表 (70%)
<b>【教科書】</b>
使用しない
<b>【参考書等】</b>
(参考書) 授業中に紹介する
<b>【授業外学修 (予習・復習) 等】</b>
予習用の教材・資料を、適宜提供します。
<b>【その他 (オフィスアワー等)】</b>
PandAを通して連絡を行いますので、初回講義の前に、余裕をもってKULASISにて履修登録 (仮で可) を行ってください。
人間健康科学専攻学生の受講可否: 可 ただし、履修希望者が多い場合は人数制限の可能性あり。 初回講義の前に、必ずメールをしてください。 takahashi.yoshimitsu.3m@kyoto-u.ac.jp
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	P-PUB01 8H160 SB90		
授業科目名	質的研究・演習	担当所属	医学研究科 准教授 岩隈 美穂
<英訳>	Applied Medical Communication	職名・氏名	
記号	専門職	単位数	2
学年	2	開講年度・開講期	2023・通年集中
曜日	金	曜時間	朝と明後夜
授業形態	演習	使用言語	日本語及び英語
<b>【授業の概要・目的】</b>			
質的研究方法をいくつか取り上げます。質的研究にも多くの手法があり、自分が知りたいリサーチクエスチョンに合わせて、適切な方法を選ぶ必要があります。実際に研究 (例えば課題研究) が始まる前にいくつかの道具 (ツール) を試しておくほうがいいので、自分のリサーチクエスチョンを意識し方法論を模索し始める時期に受講することをお勧めします。また自学自習が比較的難しい質的研究は、一緒に受講している伴走者 (クラスメート) がいると、課題・疑問を共有しながら学びやすいです。そのため「実際にデータを分析すること」を重視し、本講義ではグループでの分析や個人での分析を経験します。			
<b>【到達目標】</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>質的研究方法についての概要を説明することができる。</li> <li>グループ分析・個人分析を行うことができる。</li> <li>質的研究初学者向けSCATによる分析を行うことができる。</li> <li>フォーカスグループインタビュー (FGI)を経験し、FGI実施方法を習得する。</li> <li>計量テキスト分析 (デキストマイニング) を行い、データを分析・考察することができる。</li> <li>自分のリサーチクエスチョンに合った研究方法を選択できる。</li> </ul>			
<b>【授業計画と内容】</b>			
9/5 イントロ			
9/12 SCAT①			
9/19 SCAT②			
10/3 SCAT③			
10/17 SCAT④			
10/24 FGI①			
11/7 SCAT発表			
11/14 FGI②			
11/21 FGI③			
11/28 KHコーダー① (舟木友美氏)			
12/5 KHコーダー② (舟木友美氏)			
12/12 FGI④			
12/19 KHコーダー③ (舟木友美氏)			
1/9 分析結果発表			
1/16 分析結果発表			
<b>【履修要件】</b>			
特になし			
<b>【成績評価の方法・観点】</b>			
授業参加 (出席、積極性など) 30%			
質的研究・演習 (2)へ続く ↓ ↓ ↓			

質的研究・演習 (2)
分析発表 30%
課題レポート 40%
タイトル 10%
最終レポート 30%
<b>【教科書】</b>
使用しない
<b>【参考書等】</b>
(参考書) 授業中に紹介する
<b>【授業外学修(予習・復習)等】</b>
*授業時間外での課題(グループワーク、個人分析)が多く出ます。
<b>【その他(オフィスアワー等)】</b>
*日本語の高度な運用能力が必要です。 *今学期は、対面授業を実施予定です。 *課題の進捗度によって、授業内容が変更になる場合があります。  *オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	P-PUB01 8H132 LB90		
授業科目名 <英訳>	エビデンスユーザー入門 Introduction to EBM: How to use evidence in your daily life	担当所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 古川 壽亮
配当 学年	専門職	単位数	2
開講年度	2023・ 通年不定	開講期	
曜時限	月・日	曜時限	
授業 形態	講義	使用 言語	日本語及び英語
<b>【授業の概要・目的】</b>			
Evidence-Based Medicine (EBM: 根拠に基づく医療)の言葉は、今やすっかり人口に膾炙し、アンケート調査をやる人はアンケートで出てきた数字をエビデンスと呼び、画像研究をやる人はその数値をエビデンスと呼び、分子生物学をやる人はその結果をエビデンスと呼ぶ時代となりました。個々の患者の医療判断において、また集団の医療判断において、その根拠となるべきエビデンスとは、どういう性質のものを言うのか、どうすればそれを探ることが出来るのか、ない場合にはどうするのか、など、エビデンスユーザーとして必要な教養を身につけていただくコースにしたいと考えています。 そして、エビデンスユーザーの腕を磨かれたら、その次には、エビデンスメーカーとして何をすべきかも自ずと明らかになって行くことを期待しています。  なお、KUSPHにはさまざまなバックグラウンドと興味関心の方が集っておられます。EBMの方法論は、すべての対人実践に共通であると信じています。代替医療、教育、経済施策、環境施策などなど、各人の興味関心のテーマについてKUSPH卒業生が今後EBMを実践する一助にして頂ければ開講者として本望です。  (なお、2022年度において、互いの距離を十分に確保できる教室にてオンサイト講義とする予定である(2022年1月現在))			
<b>【到達目標】</b>			
1.診断、治療(介入)、予後、系統的レビューの各テーマについて、標準的な批判的吟味のチェックポイントを習得する 2.各領域において自分の臨床疑問について、疑問の定式化、情報検索、情報の批判的吟味、批判的吟味の結果の実地応用の4ステップを実施したレポートを提出する			
<b>【授業計画と内容】</b>			
講義は以下の手順で進みます。 1.診断、治療(介入)、予後、系統的レビューについて、教科書を指定しますので、批判的吟味のチェックポイントを、受講者が分担して解説・プレゼンテーションします 2.スモールグループに分けて、各グループで上記の各テーマについてEBM実践の例を発表して頂きます 3.上記のプロセスを学習した後、各個人は今度は自分の臨床疑問について実践の例をレポートしていただきます 自学自習に相当の時間を要すると思われるので、受講者はその覚悟で科目を選択されていることを期待します。そして、授業は原則隔週で行いますが、不規則な日もありますのでご注意ください。  回 月日 テーマ 担当者 1. 4月10日2限 EBMのスピリット 古川 2. 5月8日2限 治療(介入)の批判的吟味のチェックポイント 学生グループ①			
エビデンスユーザー入門(2)へ続く ↓ ↓ ↓			

エビデンスユーザー入門(2)
3. 5月22日2限* その実践例(1) グループ発表②③
4. 6月5日2限* その実践例(2) ④①
5. 7月3日2限 診断の批判的吟味のチェックポイント 学生グループ②
6. 7月24日2限* その実践例(1) グループ発表③④
7. 8月1日2限* その実践例(2) ⑧②
8. 10月2日2限 予後の批判的吟味のチェックポイント 学生グループ③
9. 10月16日2限* その実践例(1) グループ発表④①
10. 10月30日2限* その実践例(2) ②③
11. 11月13日2限 系統的レビューの批判的吟味のチェックポイント 学生グループ④
12. 11月20日2限 ネットワークメタアナリシスの批判的吟味のチェックポイント 古川
13. 12月4日2限* その実践例(1) グループ発表①②
14. 12月18日2限* その実践例(2) グループ発表③④
15. 12月15日2限 予備日
*2グループ発表をこなすため10時開始です
<b>【履修要件】</b>
MPH選択「文献検索法」「文献評価法」の履修をお勧めします。
<b>【成績評価の方法・観点】</b>
授業への参加度(40%) 診断、治療(介入)、予後、系統的レビューについて、自分の興味関心の臨床疑問について提出した計4本のレポート(60%)
<b>【教科書】</b>
Gordon Guyatt 他 『Users' Guides to the Medical Literature: Essentials of Evidence-Based Clinical Practice, 3rd Edition』(McGraw-Hill Professional) (ここに含まれる章を教科書として指定しますが、これらは下記Manualに全て含まれていますので、下記Manualを購入された方はそちらを利用下さい)
<b>【参考書等】</b>
(参考書) Gordon Guyatt 他 『Users' Guides to the Medical Literature: A Manual for Evidence-Based Clinical Practice, 3rd Edition』(McGraw-Hill Professional) 相原守夫訳 『医学文献ユーザーズガイド: 根拠に基づく診療のマニュアル』(中外医学社) (上記Manualの日本語訳です) 古川壽亮 『エビデンス精神医療』(医学書院)
<b>【関連URL】</b>
<a href="http://ebmh.med.kyoto-u.ac.jp/toolbox.html">http://ebmh.med.kyoto-u.ac.jp/toolbox.html</a> (健康増進・行動学分野ホームページのEBM Toolboxもご利用ください)
エビデンスユーザー入門(3)へ続く ↓ ↓ ↓

エビデンスユーザー入門(3)
<b>【授業外学修(予習・復習)等】</b>
自学自習に相当の時間を要すると思われるので、受講者はその覚悟で科目を選択されていることを期待します。
<b>【その他(オフィスアワー等)】</b>
人間健康科学専攻学生の受講可否:可  *オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



科目ナンバリング	P-PUB01 8H156 LB90										
授業科目名 <英訳>	質的研究入門 Introduction to Qualitative Research				担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 中山 健夫 医学研究科 特定助教 河野 文子					
配当 学年	専門職	単位数	1	開講年度・ 開講期	2023・ 前期集中	曜時限	水曜 1限	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
<b>【授業の概要・目的】</b>											
質的研究法の基礎について概説し、様々な分析手法について講義する。											
<b>【到達目標】</b>											
質的研究の方法論の基礎的事項について述べるができること。 質的研究の主要な方法論を理解し、質的研究を批判的に解釈できるようになること。 質的研究の専門家の指導を受けながら、質的研究を実施する事ができる様になること。											
<b>【授業計画と内容】</b>											
第1回 6月7日 質的研究とは何か? 質的研究の哲学(認識論&存在論) 質的研究における理論の役割											
第2回 6月14日 質的研究の計画とデザイン 質的研究におけるリサーチクエスションの立て方(個別演習) 研究計画書の書き方											
第3回 6月21日 インタビュー、フォーカスグループ、参与観察、非干渉的データの利用 グループワーク(フォーカスグループの演習)											
第4回 6月28日 データの分析方法(テーマ分析、内容分析) グループワーク(テーマ分析の演習)											
第5回 7月5日 質的研究における厳密性と倫理 質的研究の評価・妥当性 グループワーク(COREQガイドライン評価についての議論の演習)											
第6回 7月12日 混合研究の基礎											
第7回 7月19日 新たな質的研究の方法(フォトボイス法、参加型アクションリサーチ、等) グループワーク(フォトボイス法の演習)											
第8回 7月26日 質的研究の結果の論文執筆とコミュニケーション方法											
<b>【履修要件】</b>											
社会健康医学系専攻の院生。 医学専攻、医学博士課程、人間健康の受講希望者は事前に必ずメールで連絡してください。 (kohno.ayako.8w@kyoto-u.ac.jp) 受講者は単位不要でも必ず講義への出席およびレポートを提出してください。											
質的研究入門(2)へ続く↓↓↓											

<b>質的研究入門(2)</b>											
<b>【成績評価の方法・観点】</b>											
1. 4回のレポートの提出(演習のまとめ)(配点比重50%) 2. 日々の講義へのコミットメント(授業への出席および感想の提出)(配点比重50%)											
<b>【教科書】</b>											
適宜、資料を講義にて配布する。											
<b>【参考書等】</b>											
(参考書) Liamputtong P. Qualitative research methods. Fifth edition. Melbourne: Oxford university press; 2020. Liamputtong P. Research methods in health: foundations for evidence-based practice. 3rd edition. 2017											
<b>【授業外学修(予習・復習)等】</b>											
講義の予習・復習に十分時間をあててください。											
<b>【その他(オフィスアワー等)】</b>											
本授業は、対面授業として実施予定です。 オフィスアワーについては、第1回の講義で案内します。 人間健康科学系専攻学生の受講可否: 上限5人まで可能。 履修登録者には、PandAから事前に授業に関する連絡を通知します。 聴講を希望する学生は、授業初日(6月7日)の1週間前(5月31日)までに、講師に聴講の希望をメールで連絡して下さい。(kohno.ayako.8w@kyoto-u.ac.jp) ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング	P-PUB01 8H152 LB90										
授業科目名 <英訳>	環境・感染症論 Environment and Infection				担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 山崎 渉					
配当 学年	専門職	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語及び英語
<b>【授業の概要・目的】</b>											
教員による講義および受講生によるプレゼンテーションとグループディスカッションを通して、感染症を総合的に理解する。特に環境・ヒト・病原体間における相互作用の理解を深める。感染症が引き起こす社会変容・歴史的な影響についても社会生態学的視点から学習する。											
<b>【到達目標】</b>											
感染症を総合的に理解するために、病原体の生息する自然環境、ヒトの作り出す人為的環境、感染を受けるヒトの抵抗性などの様々な要因を社会生態学的視点から捉える能力を修得する。											
<b>【授業計画と内容】</b>											
第1回～第9回は講義、第10回～第15回はプレゼンテーション・グループディスカッションになる見込みである。											
第1回 総論 第2回 動物種を越える病原体の伝播 第3回 食品衛生 第4回 水と健康 第5回 蚊・マダニ媒介性感染症 第6回 プリオン病 第7回 薬剤耐性 第8回 生物兵器・バイオテロ・病原体の漏出事故 第9回 インフォデミック 第10回 プレゼンテーション・グループディスカッションI 第11回 プレゼンテーション・グループディスカッションII 第12回 プレゼンテーション・グループディスカッションIII 第13回 プレゼンテーション・グループディスカッションIV(参加者数によっては自習) 第14回 プレゼンテーション・グループディスカッションV(参加者数によっては自習) 第15回 プレゼンテーション・グループディスカッションVI(参加者数によっては自習)											
<b>【履修要件】</b>											
特になし											
<b>【成績評価の方法・観点】</b>											
<b>【評価方法】</b> 成績評価は出席姿勢(30%)、受講生によるプレゼンテーション(50%)とそれに基づくグループディスカッション(20%)における理解度、積極性、洞察力、意思表現の能力をもとに判定する。プレゼンテーションをしない受講生は未受験扱いとし、成績は無しとする。											
<b>【評価基準】</b> 100点満点中、60点以上となること(60点以上:合格 59点以下:不合格)。											
環境・感染症論(2)へ続く↓↓↓											

<b>環境・感染症論(2)</b>											
<b>【教科書】</b>											
教科書は使用しない。講義資料および関連する学術論文等をPandA内に共有する。											
<b>【参考書等】</b>											
(参考書) 参考書は使用しない。講義資料および関連する学術論文等をPandA内に共有する。											
<b>【関連URL】</b>											
https://kyoto.cseas.kyoto-u.ac.jp/(東南アジア地域研究研究所) http://sph.med.kyoto-u.ac.jp/field/class-16/(医学研究科 社会健康医学専攻 環境生態学)											
<b>【授業外学修(予習・復習)等】</b>											
講義資料等を活用した予習・復習を推奨する。											
<b>【その他(オフィスアワー等)】</b>											
<b>【連絡先】</b> 〒606-8501 京都市左京区吉田下阿達町46 京都大学東南アジア地域研究研究所 東棟E309号室 山崎 渉 Tel: (075) 753-9618 Email: yamazaki@cseas.kyoto-u.ac.jp											
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング	P-PUB01 8H135 LJ90											
授業科目名 <英訳>	臨床試験の統計的方法 Statistical Methods in Clinical Trials					担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 特定教授 田中 司朗 医学研究科 特定助教 大宮 将義					
配当 学年	専門職	単位数	1	開講年度・ 開講期	2023・ 後期前半	曜時間	水5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語	
<b>[授業の概要・目的]</b>												
第II相・第III相臨床試験デザインの理解とサンプルサイズ計算の習得を目標に、講義・実習を行う。第1回の前に講義動画・課題などを配信するので、それを用いて予習・復習をすること。前期科目「臨床試験」、「統計的推測の基礎」、「統計モデルとその応用」程度の臨床試験・統計学の知識を前提とする。CB必修、MPH選択。												
<b>[到達目標]</b>												
・第II相・第III相臨床試験におけるサンプルサイズの計算を習得する。 ・試験デザインにおける頻度論・Bayes流統計学の考え方の違いを理解する。												
<b>[授業計画と内容]</b>												
・教室は、G棟セミナー室Bで行う ・事前学習+講義形式、実習形式 ・第1、2、5、6回の実習ではサンプルサイズの計算を行うが、ソフトウェアの知識は前提としない。 ・第3、4回では臨床試験の論文を読み、結果を解釈する。 ・実習のチューターは、臨床統計スタッフが行う。												
第1回 10月4日 サンプルサイズ設計1 連続データ 第2回 10月11日 サンプルサイズ設計2 2値データ 第3回 10月18日 臨床試験の結果の解釈 第4回 10月25日 臨床試験の結果の解釈 第5回 11月1日 サンプルサイズ設計3 生存時間データ 第6回 11月8日 サンプルサイズ設計4 第II相臨床試験・Bayes流統計学 第7回 11月15日 予備日												
<b>[履修要件]</b>												
前期科目「臨床試験」、「統計的推測の基礎」、「統計モデルとその応用」を履修済みであること												
<b>[成績評価の方法・観点]</b>												
平常点 (50%)、レポート (50%)												
<b>[教科書]</b>												
教科書の一部をまとめた公式・数表集を配布する。												
----- 臨床試験の統計的方法(2)へ続く ↓ ↓ ↓												

<b>臨床試験の統計的方法(2)</b>
<b>[参考書等]</b>
(参考書)
<b>[授業外学修(予習・復習)等]</b>
第1回の前に配信する講義動画・課題などを用いて、予習・復習を行う。詳細はメール等でアナウンスする。
<b>(その他(オフィスアワー等))</b>
人間健康科学系専攻学生の受講可否： 不可
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	P-PUB01 8H061 PB90											
授業科目名 <英訳>	社会健康医学課外実習 Field Training for Public Health Practice					担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 西浦 博					
配当 学年	専門職	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 通年集中	曜時間	集中講義	授業 形態	実習	使用 言語	日本語及び英語	
<b>[授業の概要・目的]</b>												
I. コースの概要 ・就業体験を通じて、学んだ専門知識等を活かし、応用力を高める。 ・キャリアデザインの実践につなげる機会とする。 ・所属分野の指導教員と、場合によっては、加えて他分野の主担当教員とも、十分に相談の上、履修届を出してください。 (計画未確定のままに急いで、学年初め・学期初めに履修届を出す必要はありません。)												
II. 学習到達目標 (このコース終了時までに習得が期待できること) ・社会の現場に必要な技能の向上を図る。 ・大学院で得た知識・技能を、いかにして実務に役立たせるかを確認する。 ・志望する就業の現場での雰囲気や必要な技能を知る。 ・実務を通じて、社会貢献をする。												
III. 教育・学習方法 ・就業体験を通じて、学んだ専門知識等を活かし、応用力を高める。												
<b>[到達目標]</b>												
学習到達目標 (このコース終了時までに習得が期待できること) ・社会の現場に必要な技能の向上を図る。 ・大学院で得た知識・技能を、いかにして実務に役立たせるかを確認する。 ・志望する就業の現場での雰囲気や必要な技能を知る。 ・実務を通じて、社会貢献をする。												
<b>[授業計画と内容]</b>												
所属分野の指導教員等と、十分に相談の上、インターンシップの計画を立ててください。												
<b>[履修要件]</b>												
KULASISでの履修登録はできません。履修する場合は、窓口に申し出てください。												
----- 社会健康医学課外実習(2)へ続く ↓ ↓ ↓												

<b>社会健康医学課外実習(2)</b>
<b>[成績評価の方法・観点]</b>
・終了後速やかに報告書・レポート(報告書の様式は教務掛を通じて入手すること)を作成し、かつ、インターン先の責任者と指導教員の確認を得ること。 ・合否のみ、判定する。
<b>[教科書]</b>
・諸々の学習資源は、就業体験を通じて得られる。
<b>[参考書等]</b>
(参考書) ・諸々の学習資源は、就業体験を通じて得られる。
<b>[授業外学修(予習・復習)等]</b>
適宜予習復習を求める
<b>(その他(オフィスアワー等))</b>
その他メッセージ ・他の履修科目の日程と重複しないように計画してください。重複した場合、インターンシップを優先するわけではありません。必要な際は、該当する科目責任者に相談してください。 ・履修登録(単位取得)せずに、インターンシップを行ってもかまいません。 ・実質的な業務が計60時間以上で2単位。計30時間以上で1単位とします。 ・上記の時間の目安と、就業体験の内容と質を、主担当教員(指導教員等)が評価し、合否と単位数(1単位か2単位)を判定します。 ・報告書の様式(教務掛で受取る)を主担当教員(指導教員等)に提出し、履修届けを同時に行ってください。
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	P-PUB01 8H161 LB90										
授業科目名 <英訳>	感染症数理モデル入門 Introduction to infectious disease modelling			担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 西浦 博						
配当 学年	専門職	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期集中	曜時限	8/1-8/10	授業 形態	講義	使用 言語	日本語及び英語
<b>[授業の概要・目的]</b>											
This module welcomes students to dive into the introductory science of infectious disease modelling. We cover the fundamental idea of renewal process. Infectious disease data are very special in two critical points, (i) infection event is seldom directly observable and (ii) the risk of infection involves dependence structure. We study how these problems are handled using non-linear models and integral equations.											
<b>[到達目標]</b>											
a. Understand how the transmission potential is measured in epidemiology; b. Explain threshold phenomena in controlling infectious diseases; c. Describe technical issues associated with delay structure; d. Understand how vaccine efficacy at an individual level can be measured; e. Estimate and implement epidemic modelling in students' own laptop computer.											
<b>[授業計画と内容]</b>											
Each session takes 90 minutes in total. The module itself will be a part of the 10-day short course of infectious disease modelling, and participants are encouraged to take other lectures too. 1. Introduction to epidemic modelling 2. Measuring transmissibility 3. Herd immunity and SIR model 4. Capturing heterogeneity 5. Vaccine and vaccination 6. Stability analysis 7. Real time modelling 8. Case fatality risk, followed by exam											
<b>[履修要件]</b>											
Attend "infectious disease epidemiology" (MPH core) in advance 必ず「感染症疫学」に先にご出席ください											
<b>[成績評価の方法・観点]</b>											
Attendance to a total of two-thirds of classes will be required to be eligible for final examination. Evaluation is conducted by coursework (i.e. comprehension during the class) (30%) and examination (70%).											
感染症数理モデル入門(2)へ続く↓↓↓											

<b>感染症数理モデル入門(2)</b>											
<b>[教科書]</b>											
西浦博(編)『感染症疫学のためのデータ分析入門』(金芳堂、2021) ISBN:978-4-7653-1882-2 (感染症疫学の入門書。本専門職学位課程での講義内容に準拠してまとめています。)											
<b>[参考書等]</b>											
(参考書) 西浦博(編)『感染症流行を読み解く数理』(日本評論社、2022) ISBN:978-4-535-78759-9 (感染症の流行データを数理的に検討したい方向け。)											
<b>[授業外学修(予習・復習)等]</b>											
No specific preparation would be required. There will be math refresher sessions on Day 2 and Day 3 of the entire short course. Students who do not possess substantial mathematical expertise are encouraged to attend those lessons.											
<b>[その他(オフィスアワー等)]</b>											
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング	P-PUB01 8H165 LJ90										
授業科目名 <英訳>	ポストコロナ社会のイノベーション：展望と自由提言 The Post-COVID-19 Era: Innovation in Life and Technology			担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 今中 雄一 医学研究科 教授 西浦 博 医学研究科 教授 近藤 尚己 附属病院 教授 黒田 知宏 経済学研究所 教授 依田 高典 附属病院 教授 長尾 美紀 経済学研究所 教授 諸富 徹 情報学研究所 教授 鹿島 久嗣 文学研究科 教授 児玉 聡 人と社会の未来研究 教授 内田 由紀子 人と社会の未来研究 教授 広井 良典 環境安全保健機構 准教授 角山 雄一 経済学研究所 特准教授 谷 直起 国土交通省総合政策局社会 査察 隆司 国土経済分析特別研究員						
配当 学年	専門職	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 通年	曜時限	金5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
<b>[授業の概要・目的]</b>											
新型コロナウイルスのパンデミックの波が繰り返される中、社会、経済、医療、国民の生活や考え方は、従来のあり方とは異なってきた。一方で、科学技術やその応用方法、生活のあり方、思考などにもイノベーションが生まれてきている。イノベーションがどのように生じており、今後、どう展開していくか、公衆衛生・医療、経済、情報、心理、社会、環境、都市・まち、行政・法制度、思想・倫理などの諸側面から包括的に考え、最新の潮流も踏まえ展望し、ポストコロナ社会のより充実した展開に向けて、自由闊達に提案を議論も深める。											
【オーガナイザー】：今中雄一(医学研究科社会健康医学系専攻 医療経済学 教授) 【コ・オーガナイザー】近藤 尚己(医学研究科社会健康医学系専攻 社会疫学 教授)、長尾 美紀(医学部付属病院 感染制御部 教授)、西浦博(医学研究科 社会健康医学系専攻 環境衛生学 教授)											
<b>[到達目標]</b>											
ポストコロナ時代の社会を多側面から具体的に考えることが出来るようになる。											
<b>[授業計画と内容]</b>											
第1回 6月16日 オリエンテーション/ビッグデータからみるCOVID-19と保健医療リフォーム (医学研究科 社会健康医学系専攻 医療経済学 教授 今中 雄一) 第2回 6月23日 新型コロナウイルス感染症の疫学と見通しの科学 (医学研究科 社会健康医学系専攻 環境衛生学 教授 西浦 博) 第3回 6月30日 パンデミックや災害に強いレジリエントな社会づくり (医学研究科 社会健康医学系専攻 社会疫学 教授 近藤 尚己) 第4回 7月14日 ポストコロナの医療DX (医学部付属病院 医療情報学 教授 黒田 知宏) 第5回 7月21日 ポストコロナの地球循環型社会～京都の里山より～ (地球環境学 環境教育論 准教授 浅利美鈴) 第6回 7月28日 科学とリスクコミュニケーション：福島第一原発事故、COVID-19感染症を教訓に (環境安全保健機構放射線管理部門 助教 角山 雄一) 第7回 10月6日 ポストコロナの社会経済：行動経済学の展開											
ポストコロナ社会のイノベーション：展望と自由提言(2)へ続く↓↓↓											

<b>ポストコロナ社会のイノベーション：展望と自由提言(2)</b>											
<p>(経済学部・経済学研究所 依田 高典)</p> <p>第8回 10月13日 COVID-19臨床現場からの医療・社会への提言 (医学部付属病院 感染制御部 教授 長尾 美紀)</p> <p>第9回 10月20日 脱炭素時代のDXと経済 (経済学研究所 教授 諸富 徹)</p> <p>第10回 10月27日 ポストコロナ社会の都市計画・地域計画・まちづくり (法学部・法学研究所 非常勤講師/国土交通省総合政策局社会資本経済分析特別研究官 査察 隆司)</p> <p>第11回 11月10日 prePrint時代における機械学習・AIの活用と意思決定 (情報学研究所 知能情報学専攻 教授 鹿島久嗣)</p> <p>第12回 11月17日 ELSI: 生命倫理・医療倫理、生命倫理学の視点からのQOL評価 (文学研究科倫理学研究室 准教授 児玉 聡)</p> <p>第13回 11月24日 ポストコロナ社会における日本の財政と産業の変革 (経済学研究所 准教授 古村 典洋)</p> <p>第14回 12月1日 ポストコロナの幸福と社会文化 (人と社会の未来研究 社会心理学・文化心理学 教授) 内田由紀子</p> <p>第15回 12月8日 ポストコロナ時代の持続可能な福祉社会 (人と社会の未来研究 公共政策・科学哲学 教授 広井良典)</p> <p>第16回 12月15日 まとめ：ポストコロナの社会の展開(複数教員)</p>											
*予定は変更となることがあります。初回に予定を説明します。											
<b>[履修要件]</b>											
・80%以上の出席を必須とします。 ・最終回の議論への参加を重視します。											
<b>[成績評価の方法・観点]</b>											
日々のコミットメント50%、レポート50%											
<b>[教科書]</b>											
使用しない											
<b>[参考書等]</b>											
(参考書) 『今中雄一編、認知症にやさしい健康まちづくりガイドブック：地域共生社会に向けた15の視点(共著)』(学芸出版社；2023) 『病院の教科書第2版』(医学書院)											
ポストコロナ社会のイノベーション：展望と自由提言(2)へ続く↓↓↓											

ポストコロナ社会のイノベーション：展望と自由提言 (3)
-----
<b>【授業外学修（予習・復習）等】</b>
特になし
<b>（その他（オフィスアワー等））</b>
※やむを得ず相当の理由等により、対面授業をオンライン授業等へ変更する可能性があります。
問い合わせ等は、 医療経済学教室 教務 <heqm-kyoumu(at)mail2.adm.kyoto-u.ac.jp>へご連絡ください。
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	P-PUB01 8H167 LB90										
授業科目名 <英訳>	QOL・PRO評価法 QOL/PRO assessment					担当所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 山本 洋介 医学研究科 准教授 小川 雄右 医学研究科 助教 山田 淑恵				
配当 学年	専門職	単位数	1	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語及び英語
<b>【授業の概要・目的】</b>											
医学研究を進める上で必須ともいえる、QOL (Quality of Life)、PRO (Patient Reported Outcomes) 評価の方法を学ぶ。 また、結果の解釈、さらには既存の評価法の利活用にとどまらず、新規に尺度を開発するための基本的事項について理解し、その開発プロセスの一部を体験する。											
<b>【到達目標】</b>											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・QOL・PROならびにそれらの評価法について理解し、他者に説明することができる。</li> <li>・測定された結果を正しく解釈することができる。</li> <li>・測定尺度開発に求められる基本的事項を知ることができる。</li> </ul>											
<b>【授業計画と内容】</b>											
※ 状況によりオンラインで提供する場合があります											
10/16 第1回 イントロダクション：QOLとPRO											
10/23 第2回 包括的尺度											
10/30 第3回 疾患特異的尺度・症状尺度											
11/6 第4回 インデックス型尺度											
11/13 第5回 測定結果の解釈											
11/20 第6回 測定尺度開発に求められる基本的事項											
11/27 第7回 測定尺度開発実習1											
12/4 第8回 測定尺度開発実習2（発表）											
<b>【履修要件】</b>											
特になし											
<b>【成績評価の方法・観点】</b>											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・平常点（出席含む）50%</li> <li>・発表会での発表50%</li> </ul>											
<b>【教科書】</b>											
授業中に指示する											
<b>【参考書等】</b>											
（参考書） 授業中に紹介する											
----- QOL・PRO評価法(2)へ続く ↓ ↓ ↓											

<b>QOL・PRO評価法(2)</b>
-----
<b>【授業外学修（予習・復習）等】</b>
予習は必要ないが、復習を充分行うこと。
<b>（その他（オフィスアワー等））</b>
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	P-PUB01 8H169 LB90										
授業科目名 <英訳>	公衆衛生の緊急事態におけるリスクコミュニケーション Risk Communication for Public Health Emergencies					担当所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 中山 健夫 非常勤講師 蝦名 玲子				
配当 学年	専門職	単位数	1	開講年度・ 開講期	2023・ 通年集中	曜時限	集中講義	授業 形態	講義	使用 言語	日本語及び英語
<b>【授業の概要・目的】</b>											
本授業は、公衆衛生の緊急事態におけるリスクコミュニケーションの理解を深め、適切な実践ができる人材を育成することを目的としたもので、前期（入門編）と後期（応用編）から成る。 まず前期に緊急事態下のリスクコミュニケーションの基本となる概念や理論を学び、危機下でコミュニケーションを難しくするリスク認知と感情の問題や対応方法、保健医療専門職個人や行政等のリスク管理組織が信頼を構築するための戦略と体制、戦略的リスクコミュニケーション計画の策定方法について、演習を交え理解を深める。 さらに後期では情報処理能力も低下する危機下でのリスク説明と不確実性の示し方、合理的な判断へ導く方法、情報公開場面での考慮点となるマスメディアとの協力やステイグマ対策、緊急事態によるリスクに脆弱な人びととの対話、虚偽情報の処理の仕方等、より難易度の高いコミュニケーションについて学ぶ。 講義・実習は科目責任者と非常勤講師が共同・分担して実施する。											
教育・学習方法：講義形式と演習											
<b>【到達目標】</b>											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・公衆衛生の緊急事態に、保健医療専門職やリスク管理者に求められる多様なリスクコミュニケーションについて理解できるようになる</li> <li>・戦略的リスクコミュニケーション計画の策定、ニュースのアクセスメント、実践、評価を含む、リスクコミュニケーション能力が向上する</li> <li>・リスクの影響を受けた人々のリスク認知や感情、理解度（ヘルスリテラシー）等を理解した上で、相手のニーズに合った双方向のコミュニケーション・スキルが身につく</li> <li>・危機管理の中での効果的にリスクコミュニケーションをとる方法を理解し、遂行能力が高まる</li> <li>・ステイグマや虚偽情報への対応方法がわかる</li> <li>・次の緊急事態に備えるために、リスクコミュニケーションの視点から何をすべきかがわかる</li> </ul>											
<b>【授業計画と内容】</b>											
前後期、各1日（4コマ×2日）											
前期（9月12日予定）：											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 緊急事態下のリスクコミュニケーション</li> <li>2. リスク認知と感情</li> <li>3. 信頼を構築するための戦略と危機対応体制</li> <li>4. 戦略的リスクコミュニケーション計画</li> </ol>											
後期（調整中）：											
<ol style="list-style-type: none"> <li>5. リスク説明、不確実性の示し方、合理的な判断へ導く方法</li> <li>6. マスメディアとの協力とステイグマへの対応</li> </ol>											
----- 公衆衛生の緊急事態におけるリスクコミュニケーションへ続く ↓ ↓ ↓											

<p>7. リスクに脆弱な人々とのコミュニケーション 8. 虚偽情報の処理</p>	
<p>【履修要件】 特になし</p>	
<p>【成績評価の方法・観点】 授業中行う演習70%、コース終了時の小論文30%</p>	
<p>【教科書】 蝦名玲子著『公衆衛生の緊急事態にまちの医療者が知っておきたいリスクコミュニケーション』（医学書院）（各自購入（2,860円）教科書を用いるが、演習等は配布資料もあり）</p>	
<p>【参考書等】 （参考書） 蝦名玲子著『クライシス・緊急事態リスクコミュニケーション（CERC）：危機下において人々の命と健康を守るための原則と戦略』（大修館書店）</p>	
<p>【授業外学修（予習・復習）等】 日々のニュースや保健医療福祉現場で働く同僚等との会話から、本授業から学んだことがいかに現状の改善に活かせるかを普段から考えること。</p>	
<p>【その他（オフィスアワー等）】 ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。</p>	

<p>科目ナンバリング P-PUB01 8H170 LB90</p>	
<p>授業科目名 &lt;英訳&gt; Healthcare crisis management</p>	<p>担当者所属・ 職名・氏名 医学研究科 教授 今中 雄一</p>
<p>配当 学年 専門職</p>	<p>単位数 1 開講年度・ 開講期 2023・ 通年 曜時限 木6</p>
<p>授業形態 講義</p>	<p>使用言語 日本語及び英語</p>
<p>【授業の概要・目的】 新興感染症の流行、大規模災害、紛争・生物テロ、飲料水・食中毒・医薬品等による健康危機から人々の健康と命を守るための社会のしくみと実践は、益々重要となっている。関連する制度・政策、組織・連携・体制・分析・評価、計画・対策、実践などの各側面を、日常の地域のレジリエンスとともに、強化していく必要がある。 以上を含め、各視点から、健康危機管理を我が国の第一人者より学ぶ。</p>	
<p>【到達目標】 健康危機管理のしくみを理解し説明できるようになる。</p>	
<p>【授業計画と内容】 7月6日より開始し12月21日までの間で以下の候補日から全8講義を行います。 候補日：7月6日、7月20日、7月27日、9月7日、9月21日、10月5日、10月19日、11月16日、11月30日、12月7日、12月21日  第1回 オリエンテーション/健康危機管理の制度と実践：アカデミアの視点から（医学研究科 社会健康医学系専攻 医療経済学 教授 今中 雄一） 第2回 健康危機管理の制度と実践：国の行政・政策の視点から（厚生労働省 生活衛生・食品安全審議官 佐々木 昌弘） 第3回 健康危機管理の制度と実践：保健所の視点から（全国保健所長会 副会長/枚方保健所 保健所長 白井 千香） 第4回 健康危機管理の制度と実践：自治体行政の視点から（京都府 健康福祉部長 長谷川 学） 第5回 健康危機管理の制度と実践：感染症危機管理の視点から（国立感染症研究所 感染症危機管理研究センター長 齋藤 智也） 第6回 健康危機管理の制度と実践：災害医療の視点から（国立病院機構本部 DMAT事務次長 近藤 久禎） 第7回 健康危機管理の制度と実践：国の政策・研究の視点から（国立保健医療科学院 健康危機管理研究部 部長 富尾 淳） 第8回 健康危機管理の制度と実践：アカデミアと実践の視点から（医学研究科 社会健康医学系専攻 環境衛生学 教授 西浦 博）  ※上記の順番と題名は暫定的なものです。初回に予定を説明します。</p>	

健康危機管理(2)へ続く ↓ ↓ ↓

<p>健康危機管理(2)</p>	
<p>【履修要件】 ・80%以上の出席を必須とします。 ・積極的な議論への参加を重視します。</p>	
<p>【成績評価の方法・観点】 日々のコミットメント50%、レポート50%</p>	
<p>【教科書】 使用しない</p>	
<p>【参考書等】 （参考書） 『今中雄一編、認知症にやさしい健康まちづくりガイドブック：地域共生社会に向けた15の視点（共著）』（学芸出版社：2023） 『病院の教科書第2版』（医学書院） 講義で紹介する</p>	
<p>【授業外学修（予習・復習）等】 本人次第</p>	
<p>【その他（オフィスアワー等）】 ※やむを得ず相当の理由等により、対面授業をオンライン授業等へ変更する可能性があります。  問い合わせ等は、 医療経済学教室 教務 &lt;heqm-kyoumu(at)mail2.adm.kyoto-u.ac.jp&gt; へご連絡ください。 面談等希望者は、適宜、教員にアポイントメントをとってください。  ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。</p>	

<p>科目ナンバリング P-PUB01 8Z203 LB90</p>	
<p>授業科目名 &lt;英訳&gt; Global health</p>	<p>担当者所属・ 職名・氏名 医学研究科 教授 中山 健夫 医学研究科 助教 SAHKER, Ethan Kyle</p>
<p>配当 学年 1年生以上</p>	<p>単位数 2 開講年度・ 開講期 2023・ 後期 曜時限 水3</p>
<p>授業形態 講義</p>	<p>使用言語 英語</p>
<p>【授業の概要・目的】 This course is provided in English by the Global Health Interdisciplinary Unit. The course is conducted entirely through ZOOM and accessed via PANDA. It includes a wide variety of classes to provide students with insight into global health challenges. Students will be introduced to the socio-cultural, economic, political, and environmental factors that globally affect the health of populations. A series of guest speakers will be drawn from diverse fields to share their expertise. We welcome students from all faculties and graduate schools.</p>	
<p>【到達目標】 To gain a wide range of perspectives and critical knowledge about current global health issues. Students will be able to understand why tackling global health issues is such an important endeavor to reduce poverty, build stronger economies, and promote peace.</p>	
<p>【授業計画と内容】 後期水曜日3限目 Wednesday, 13:15 to 14:45 (3rd period)  This course is simultaneous bidirectional course every time. In principle, we will cover the following topics:  1. Introduction: Why study global health? 2. Understanding the social determinants of health 3. Achieving the health-related Sustainable Development Goals 4. Sexual Reproductive Health 5. Delirium &amp; Working Globally 6. Group Discussion 7. Environment &amp; Health 8. Global Health &amp; Aging 9. Role of Innovation &amp; Technology in Changing People's lives 10. Culture &amp; Health 11. Global Mental Health 12. Natural Disasters &amp; Global Health Challenges 13. Term Paper Workshop 14. Ecological Model &amp; Public Health Intervention 15. Feedback</p>	

グローバルヘルス通論(2)へ続く ↓ ↓ ↓

グローバルヘルス通論(2)	
【履修要件】 特になし	
【成績評価の方法・観点】 -The course is presented in lecture/group discussion format -Each class is provided by an expert in the field -All sessions are conducted in English -All lectures will be conducted as live lectures through Zoom. -Attendance is mandatory for all lectures except for exceptional circumstances. -Grading is based on Term Paper (100%). -See the course homepage on PandA for details of attendance, term paper, and course contact information.	
【教科書】 使用しない There is no official textbook for this course	
【参考書等】 (参考書) Skolnik, Richard 『Global Health 101 (3rd ed.)』 (Jones and Bartlett Publisher) Skolnik R (著), 木原正 (監訳), 木原雅 (監訳) 『グローバルヘルス:世界の健康と対抗戦略の最新動向』 (メディカル・サイエンス・インターナショナル) Additional readings may be suggested when necessary	
【授業外学修(予習・復習)等】 Require preparation and review for each class. Significant time dedicated to writing the term paper, the 1 course assignment.	
【その他(オフィスアワー等)】 The course is a media class and will be conducted entirely through ZOOM. Students may contact the instructor by email (sahker.ethan.2e@kyoto-u.ac.jp) ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	

科目ナンバリング		P-PUB01 8H082 LB90	
授業科目名 <英訳>	医療経営特別カリキュラム I Healthcare management Special Curriculum I	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 今中 雄一 医学研究科 特定准教授 佐々木 典子 医学研究科 准教授 國澤 進 医学研究科 特定講師 榎 重虎 医学研究科 特定助教 後藤 悦
配当 学年	専門職	単位数	2
開講年度・ 開講期	2023・ 前期集中	曜時限	集中講義
授業形態	実習	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】 急速に変遷する医療制度の中で経営環境は困難化し、経営の力の差がますます大きくなることを言う今日、医療の質・安全性を高めながら堅実に経営を向上させることのできる専門性高く実力のある医療経営者が強く求められている。 当コースは、『医療経営ヤングリーダー・プログラム』(1学年約2名まで)に限定した科目であり、その院生には必修である。当コースは、社会健康医学系専攻修士課程専門職大学院の一環として提供され、同様の要件を満たさねばならない。面接、審査の上、若手医師ならびに経営の素養のある若手を対象に開講する。 座学にとどまらず、例えば、プロジェクト形式で、経営実例に直結する調査、分析、活動などを進める。自らの情報収集、分析、環境適応、創造の能力をたかめるべく訓練を行う。			
【到達目標】 現実の医療経営に大いに貢献できる人材の基盤作りを行い、医療機関の将来の経営幹部、そして我が国の医療経営界において将来に主導的役割を担う人材の養成をめざす。			
【授業計画と内容】 当コースは高度専門職である経営幹部候補生およびこの領域の将来のリーダーを育成するためのプログラムである。 財務、会計、経営分析、市場分析、組織論・組織行動、組織文化の把握、質保証・業務改善、情報システム、法と倫理、関連ビジネス、政策・制度などについて学び、経営実力者の人格と出会い、現場に身を置いて、インターンシップ、実習、演習、調査等を行う。既存の教材や教育方法を学びながら、新たな教材や教育方法の創造に参加する。 例えば、プロジェクト形式で以下のようなことも行う。 ○病院経営の実態に関する調査の実施と分析、改善策の立案 ○経営の取材、関係情報収集の実務 ○経営事例研究 ○診療圏・潜在市場に関するデータ収集と分析 ○診療情報、診療報酬、医療費・原価に関する分析 ○経営関連指標の多施設間比較 ○病院経営の支援ニーズの把握と実現 ○プロジェクトのマネジメント、など。			
医療経営特別カリキュラム Ⅰ(2)へ続く ↓ ↓ ↓			

医療経営特別カリキュラム Ⅰ(2)	
これらを通じて、現実の医療経営に大いに貢献できる人材の基盤作りを行い、医療機関の将来の経営幹部、そして我が国の医療経営界において、将来に主導的役割を担う人材の養成をめざす。 プロジェクト遂行型学習、問題解決型実習、小グループ演習 教室：医療経済学教室ほか	
【履修要件】 医療経営ヤングリーダー・プログラム限定必修	
【成績評価の方法・観点】 1) プロジェクト成果、研究成果 2) コースワークへのコミットメント	
【教科書】 資料は適宜配布する。	
【参考書等】 (参考書) 『今中雄一編、認知症にやさしい健康まちづくりガイドブック：地域共生社会に向けた15の視点(共著)』(学芸出版社；2023) 『病院の教科書2版』(医学書院)	
【授業外学修(予習・復習)等】 授業中に指示する場合があるが、自発的かつ積極的な取り組みを期待する。	
【その他(オフィスアワー等)】 ※やむを得ず相当の理由等により、対面授業をオンライン授業等へ変更する可能性があります。 人間健康科学系専攻学生の受講可否： 否 問い合わせ等は、 医療経済学教室 教務 <heqm-kyoumu(at)mail2.adm.kyoto-u.ac.jp> へご連絡ください。 面談等希望者は、適宜、教員にアポイントメントをとってください。 ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	

科目ナンバリング		P-PUB01 8H083 LB90	
授業科目名 <英訳>	医療経営特別カリキュラム II Healthcare management Special Curriculum II	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 今中 雄一 医学研究科 特定准教授 佐々木 典子 医学研究科 准教授 國澤 進 医学研究科 特定講師 榎 重虎 医学研究科 特定助教 後藤 悦
配当 学年	専門職	単位数	2
開講年度・ 開講期	2023・ 後期集中	曜時限	集中講義
授業形態	実習	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】 急速に変遷する医療制度の中で経営環境は困難化し、経営の力の差がますます大きくなることを言う今日、医療の質・安全性を高めながら堅実に経営を向上させることのできる専門性高く実力のある医療経営者が強く求められている。 当コースは、『医療経営ヤングリーダー・プログラム』(1学年約2名まで)に限定した科目であり、その院生には必修である。当コースは、社会健康医学系専攻修士課程専門職大学院の一環として提供され、同様の要件を満たさねばならない。面接、審査の上、若手医師ならびに経営の素養のある若手を対象に開講する。 座学にとどまらず、例えば、プロジェクト形式で、経営実例に直結する調査、分析、活動などを進める。自らの情報収集、分析、環境適応、創造の能力をたかめるべく訓練を行う。			
【到達目標】 現実の医療経営に大いに貢献できる人材の基盤作りを行い、医療機関の将来の経営幹部、そして我が国の医療経営界において将来に主導的役割を担う人材の養成をめざす。			
【授業計画と内容】 当コースは高度専門職である経営幹部候補生およびこの領域の将来のリーダーを育成するためのプログラムである。 財務、会計、経営分析、市場分析、組織論・組織行動、組織文化の把握、質保証・業務改善、情報システム、法と倫理、関連ビジネス、政策・制度などについて学び、経営実力者の人格と出会い、現場に身を置いて、インターンシップ、実習、演習、調査等を行う。既存の教材や教育方法を学びながら、新たな教材や教育方法の創造に参加する。 例えば、プロジェクト形式で以下のようなことも行う。 ○病院経営の実態に関する調査の実施と分析、改善策の立案 ○経営の取材、関係情報収集の実務 ○経営事例研究 ○診療圏・潜在市場に関するデータ収集と分析 ○診療情報、診療報酬、医療費・原価に関する分析 ○経営関連指標の多施設間比較 ○病院経営の支援ニーズの把握と実現 ○プロジェクトのマネジメント、など。			
医療経営特別カリキュラム Ⅰ(2)へ続く ↓ ↓ ↓			

医療経営特別カリキュラム II(2)	
<p>これらを通じて、現実の医療経営に大いに貢献できる人材の基盤作りを行い、医療機関の将来の経営幹部、そして我が国の医療経営界において、将来に主導的役割を担う人材の養成をめざす。</p> <p>プロジェクト遂行型学習、問題解決型実習、小グループ演習</p> <p>教室：医療経済学教室ほか</p>	
<b>[履修要件]</b>	
医療経営ヤングリーダー・プログラム限定必修	
<b>[成績評価の方法・観点]</b>	
1) プロジェクト成果、研究成果 2) コースワークへのコミットメント	
<b>[教科書]</b>	
資料は適宜配布する。	
<b>[参考書等]</b>	
<p>(参考書) 『今中雄一編、認知症にやさしい健康まちづくりガイドブック：地域共生社会に向けた15の視点（共著）』（学芸出版社：2023） 『病院の教科書第2版』（医学書院）</p>	
<b>[授業外学修（予習・復習）等]</b>	
授業中に指示する場合があるが、自発的かつ積極的な取り組みを期待する。	
<b>(その他（オフィスアワー等）)</b>	
※やむを得ず相当の理由等により、対面授業をオンライン授業等へ変更する可能性があります。	
人間健康科学系専攻学生の受講可否： 否	
<p>問い合わせ等は、 医療経済学教室 教務 &lt;heqm-kyoumu(at)mail2.adm.kyoto-u.ac.jp&gt; へご連絡ください。 面談等希望者は、適宜、教員にアポイントメントをとってください。</p> <p>※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。</p>	

科目ナンバリング P-PUB01 8H053 LB90										
授業科目名 <英訳>	医療経営ケーススタディ Case Studies in Healthcare Management				担当者所属・ 職名・氏名		医学研究科 教授 今中 雄一 医学研究科 特定准教授 佐々木 典子 医学研究科 准教授 國澤 進 医学研究科 特定講師 榎 重虎 医学研究科 特定助教 後藤 悦			
	配当 学年	専門職	単位数	2	開講年度 開講期	2023・ 通年集中	曜時限	集中講義	授業 形態	演習
<b>[授業の概要・目的]</b>										
急速に変遷する医療制度の中で経営環境は困難化し、経営の力がますます大きくものを言う今日、医療の質・安全性を高めながら堅実に経営を向上させることのできる専門性高く実力のある医療経営者が強く求められている。										
当コースは、社会健康医学系専攻修士課程専門職大学院の一環として提供される中において『医療経営ヤングリーダー・プログラム』に限定した科目であり、そのプログラム上、必修である。面接審査の上、経営の素養のある人材を対象に開講する。										
ケーススタディに加えて、プロジェクト形式で、経営実例に直結する調査、分析、活動などを進める。これらを通じて、自らの情報収集、分析、妥当な計画立案、環境適応、創造の能力、行動力を高めるべく訓練を行う。										
<b>[到達目標]</b>										
現実の医療経営に大いに貢献できる人材の基盤作りを行い、医療機関の将来の経営幹部、そして我が国の医療経営界において将来に主導的役割を担う人材の養成をめざす。										
<b>[授業計画と内容]</b>										
『医療経営ヤングリーダー・コース』は高度専門職である医療経営幹部候補生およびこの領域の将来のリーダーを育成するためのプログラムであり、財務、会計、経営分析、市場分析、組織論・組織行動、組織文化の把握、質保証・業務改善、情報システム、法と倫理、関連ビジネス、政策・制度などについて学び、新たな教材や教育方法の創造にも参加し、経営実力者の人格と出会い、現場に身を置いて演習、調査、ケーススタディ等を行う。										
当ケーススタディ・コースでは、以下の課題（例）を扱う。										
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 診療圏分析と病院機能の設計</li> <li>○ 新病院組織の立ち上げ</li> <li>○ 病院の建替えと健全財務</li> <li>○ 資金調達</li> <li>○ 人事制度改革</li> <li>○ 経営戦略立案</li> <li>○ 原価計算の導入と活用</li> <li>○ B S Cの導入</li> <li>○ 電子カルテ導入と業務プロセスの見直し・改善</li> <li>○ 組織変革のリーダーシップ</li> </ul>										
-----医療経営ケーススタディ(2)へ続く↓ ↓ ↓										

医療経営ケーススタディ(2)	
<p>○ 地域レベル医療経営の見直しと改革 ○ 組織文化の醸成、など</p> <p>これらを通じて、現実の医療経営に大いに貢献できる人材の基盤作りを行い、医療機関の将来の経営幹部、そして我が国の医療経営界において将来に主導的役割を担う人材の養成をめざす。</p>	
<b>[履修要件]</b>	
医療経営ヤングリーダー・プログラム限定必修	
<b>[成績評価の方法・観点]</b>	
ケーススタディ等、クラスへのコミットメント	
<b>[教科書]</b>	
資料は適宜配布する。	
<b>[参考書等]</b>	
<p>(参考書) 『今中雄一編、認知症にやさしい健康まちづくりガイドブック：地域共生社会に向けた15の視点（共著）』（学芸出版社：2023） 『病院の教科書第2版』（医学書院）</p>	
<b>[授業外学修（予習・復習）等]</b>	
授業中に指示する場合があるが、自発的かつ積極的な取り組みを期待する。	
<b>(その他（オフィスアワー等）)</b>	
※やむを得ず相当の理由等により、対面授業をオンライン授業等へ変更する可能性があります。	
人間健康科学系専攻学生の受講可否： 否	
<p>問い合わせ等は、 医療経済学教室 教務 &lt;heqm-kyoumu(at)mail2.adm.kyoto-u.ac.jp&gt; へご連絡ください。 面談等希望者は、適宜、教員にアポイントメントをとってください。</p> <p>※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。</p>	









## 臨床研究者養成(MCR)コース

科目ナンバリング	P-PUB01 8K026 LB90	
授業科目名 <英語>	臨床研究計画法 I (MCR限定) Seminar in Study Design I	担当者所属・職名・氏名 医学研究科 教授 川上 浩司 医学研究科 特定准教授 中尾 葉子 医学研究科 特定助教 水野 佳世子 医学研究科 特定助教 高山 厚 医学研究科 教授 今中 雄一 医学研究科 特定准教授 佐々木 典子 医学研究科 教授 中山 健夫 医学研究科 准教授 高橋 由光 医学研究科 助教 當山 まゆみ 医学研究科 教授 古川 壽亮 医学研究科 准教授 田近 亜蘭 医学研究科 教授 石見 拓 医学研究科 特定助教 西岡 典宏 医学研究科 教授 近藤 尚己 医学研究科 助教 井上 浩輔 医学研究科 教授 山本 洋介 医学研究科 准教授 小川 雄右 医学研究科 助教 山田 淑恵
配当学年	専門職	単位数 1
開講年度・開講期	2023 前期	曜時限 月5
授業形態	講義	使用言語 日本語及び英語
<b>[授業の概要・目的]</b> (本講義の通称：プロマネI) 1. 講義 ・MCR修了者が行ってきた臨床研究を素材として、 ①プロトコル作成と研究の運営において必要な手法を学ぶ。 ②臨床研究プロトコルを作成および実施・運営する上で必要な実践的知識・技能を学ぶ。 ③臨床研究を実際に運営する際に必要な研究マネジメント方略に関する知識・技能を習得する。 2. プロトコル発表検討会 ・MCR担当教員とMCR専科生および受講生全員が、毎回参加することを原則とする。 ・個々の院生が、自身のリサーチ・クエスチョン (RQ) にもとづいた研究計画を発表し、院生や教員による形成的な検討、評価、フィードバックを通じて質の高い研究プロトコルを作成にむけて学習する。 ・院生はRQの背景や意義の説明を中心に発表する。スライドは英語で作成し、発表は日本語を可とする。ディスカッションは日本語とする。		
<b>[到達目標]</b> ・研究の目的に適合した臨床研究プロトコルを指導者からの助言を得て作成できる。 ・研究の目的に適合した研究のマネジメントの具体的方略を指導者からの助言を得て考案できる。 ・研究の方法や場に応じた研究運営上の留意点を指導者からの助言を得て認識できる。		
<b>[授業計画と内容]</b> *オンラインによる講義・発表検討会とします* 第1回 4月10日オリエンテーション (川上教授・全担当教員)		
臨床研究計画法 I (MCR限定)へ続く↓↓↓		

科目ナンバリング	P-PUB01 8K028 SB90	
授業科目名 <英語>	臨床研究計画法演習 I (MCR限定) Special Seminar in Study Design I	担当者所属・職名・氏名 医学研究科 教授 山本 洋介 医学研究科 准教授 小川 雄右 医学研究科 特定准教授 佐々木 典子 医学研究科 准教授 高橋 由光 医学研究科 准教授 田近 亜蘭 医学研究科 特定准教授 中尾 葉子 医学研究科 助教 井上 浩輔 医学研究科 特定助教 高山 厚 医学研究科 助教 當山 まゆみ 医学研究科 特定助教 西岡 典宏 医学研究科 特定助教 水野 佳世子 医学研究科 助教 山田 淑恵
配当学年	専門職	単位数 1
開講年度・開講期	2023 前期	曜時限 木4
授業形態	演習	使用言語 日本語及び英語
<b>[授業の概要・目的]</b> (本講義の通称：プレプロマネI) ◆プロトコル発表検討会 ・MCR専科生および受講生全員が、毎回参加することを原則とする。 ・個々の院生が、自身のリサーチ・クエスチョン (RQ) にもとづいた研究計画を発表し、院生相互の意見交換を通じて質の高い研究プロトコルを作成にむけて学習する。 ・院生はRQの背景や意義の説明を中心に発表する。		
<b>[到達目標]</b> ・研究の目的に適合した臨床研究プロトコルを指導者からの助言を得て作成できる。 ・研究の目的に適合した研究のマネジメントの具体的方略を指導者からの助言を得て考案できる。 ・研究の方法や場に応じた研究運営上の留意点を指導者からの助言を得て認識できる。		
<b>[授業計画と内容]</b> ※ 状況によりオンラインで提供する場合があります。 第1回 4月13日オリエンテーション/プロトコル発表検討会 第2回 4月17日プロトコル発表検討会 ※開講日注意 第2回 4月20日プロトコル発表検討会 第3回 4月27日プロトコル発表検討会 第4回 5月11日プロトコル発表検討会 第5回 5月18日プロトコル発表検討会 第6回 5月25日プロトコル発表検討会 第7回 6月1日プロトコル発表検討会 第8回 6月8日プロトコル発表検討会 第9回 6月15日プロトコル発表検討会 第10回 6月22日プロトコル発表検討会 第11回 6月29日プロトコル発表検討会		
臨床研究計画法演習 I (MCR限定)へ続く↓↓↓		

臨床研究計画法 I (MCR限定)(2)
第2回 4月24日プロトコル発表検討会 第3回 5月1日プロトコル発表検討会 第4回 5月8日プロトコル発表検討会 第5回 5月15日プロトコル発表検討会 第6回 5月22日プロトコル発表検討会 第7回 5月29日プロトコル発表検討会 第8回 6月5日プロトコル発表検討会 第9回 6月12日プロトコル発表検討会 第10回 6月19日プロトコル発表検討会 第11回 6月26日プロトコル発表検討会 第12回 7月3日プロトコル発表検討会 第13回 7月10日プロトコル発表検討会 第14回 7月24日プロトコル発表検討会 第15回 7月31日プロトコル発表検討会
<b>[履修要件]</b> MCR限定必修科目
<b>[成績評価の方法・観点]</b> ・講義への積極的な参加 (30%) ・プロトコル発表 (70%)
<b>[教科書]</b> 使用しない オリエンテーション時、および演習時に必要文献を適宜指示する。
<b>[参考書等]</b> (参考書) 授業中に紹介する
<b>[授業外学修 (予習・復習) 等]</b> 教育・学習方法 ・課題作業 (プロトコル作成を含む) ・学生によるプロトコル発表・出席者全員による検討。
<b>[その他 (オフィスアワー等)]</b> 専科生が研究課題発表会においてプロトコルの発表を行う場合には、研究課題レポートに加えてフルプロトコルの提出が必要である。フルプロトコルは、倫理委員会に提出できるレベルのものとし、より詳細な記載 (実施手順等)、調査票や説明書・同意書等の添付を要する。提出期限は2月上旬を予定。電子ファイルによりMCR事務局に送付する (詳細は追って指示する)。なお、課題研究発表会において解析結果まで発表する場合には、フルプロトコルの提出は不要。 人間健康科学系専攻学生の受講可否: 不可 ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

臨床研究計画法演習 I (MCR限定)(2)
第12回 7月6日プロトコル発表検討会 第13回 7月13日予備日 第14回 7月21日予備日
<b>[履修要件]</b> MCR限定必修科目
<b>[成績評価の方法・観点]</b> ・講義への積極的な参加 (100%)
<b>[教科書]</b> 使用しない オリエンテーション時、および演習時に必要文献を適宜指示する。
<b>[参考書等]</b> (参考書) 授業中に紹介する
<b>[授業外学修 (予習・復習) 等]</b> 教育・学習方法 ・課題作業 (プロトコル作成を含む) ・学生によるプロトコル発表・出席者全員による検討。
<b>[その他 (オフィスアワー等)]</b> 人間健康科学系専攻学生の受講可否: 不可 ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		P-PUB01 8K030 LB90									
授業科目名 <英訳>	医療技術の経済評価 (MCR限定) Economic Evaluation of Medical Technologies										
	担当所属・職名・氏名 医学研究科 教授 今中 雄一 医学研究科 特定准教授 佐々木 典子 医学研究科 准教授 國澤 進 医学研究科 特定講師 榎 重虎 医学研究科 特定助教 後藤 悦										
配当学年	専門職	単位数	1	開講年度・開講期	2023・前前前半	曜時限	水3	授業形態	講義	使用言語	日本語及び英語
<b>[授業の概要・目的]</b>											
<ul style="list-style-type: none"> <li>医療技術における経済評価を支える理論・フレームワークについての講義を行い、医療技術・医薬品等の経済性評価のための主な研究手法を学習します。</li> <li>医療技術の経済評価は、通常、現実的な制約の中で評価をすることになりますが、その際の研究のあり方についても学習します。</li> <li>医療技術・医薬品等、臨床的な事例・テーマを中心に検討を行います。</li> </ul>											
<b>[到達目標]</b>											
<ul style="list-style-type: none"> <li>医療技術における経済評価を支える理論・フレームワークや研究方法等について、重要事項を説明できる。</li> <li>医療技術の経済評価に関するバイアスについて理解している。</li> <li>治療技術・薬剤・医療材料などに関する経済分析に用いられる主な研究手法として、費用分析・費用効果分析・費用効用分析・費用便益分析の違いやそれぞれの適応、費用算定・アウトカム測定・時間の概念・割引率・感度分析、増分費用効果比といった中心的な概念を理解して説明でき、分析結果の適切な解釈ができる。</li> <li>上記を踏まえてこの領域の研究文献を批判的にレビューし、その意義を説明できる。研究プロトコルの作成や研究実施時に、習得した知識・技術を活用できる。</li> </ul>											
<b>[授業計画と内容]</b>											
第1回	4月12日	医療技術の経済性評価 (1)									
第2回	4月19日	医療技術の経済性評価 (2)									
第3回	4月26日	医療経済評価研究の評価法									
第4回	5月10日	経済評価のモデリング									
第5回	5月17日	費用効果/効用分析の方法論 1									
第6回	5月24日	費用効果/効用分析の方法論 2									
第7回	5月31日	医療技術の経済評価：論文レビュー&討議 1									
第8回	6月7日	医療技術の経済評価：論文レビュー&討議 2									
* 初回に予定を説明します。											
<b>[履修要件]</b>											
MCR限定必修 原則、出席80%以上を前提とする											
医療技術の経済評価 (MCR限定) (2)へ続く↓ ↓ ↓											

医療技術の経済評価 (MCR限定) (2)											
<b>[成績評価の方法・観点]</b>											
講義・討議・グループワーク・発表におけるコミットメント (配分40%)、課題レポート・期末などのレポート (配分60%) により、総合的に評価する。											
<b>[教科書]</b>											
適宜、資料を講義にて配布する											
<b>[参考書等]</b>											
<p>(参考書)</p> <p>『今中雄一編、認知症にやさしい健康まちづくりガイドブック：地域共生社会に向けた15の視点 (共著)』 (学芸出版社；2023)</p> <p>『病院の教科書第2版』 (医学書院)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Drummond MF, et al. Methods for the Economic Evaluation of Health Care Programmes, 4th Ed. Oxford, 2015.</li> <li>Myriam Hunink. Decision Making in Health and Medicine: Integrating Evidence and Values. Cambridge, 2001.</li> <li>医療制度・医療政策・医療経済 (丸善出版,2013)</li> <li>Handbook of Health Services Research (Springer Science+Business Media)</li> <li>「NEW予防医学・公衆衛生学 改訂第4版」 (編集:小泉昭夫/馬場園明/今中雄一/武林亨) 南江堂, 2018.</li> </ul>											
<b>[授業外学修 (予習・復習) 等]</b>											
予習・復習は必要											
<b>(その他 (オフィスアワー等))</b>											
※やむを得ず相当の理由等により、対面授業をオンライン授業等へ変更する可能性があります。											
<ul style="list-style-type: none"> <li>経済学の学習経験は問いません。</li> <li>当分野では医療の経済性、質・安全・原価の実証研究政策研究、医療の政策や経営に深く関わりたい人を募っています。(医療経済学分野：http://med-econ.umin.ac.jp)</li> <li>注)医療のプロセス、アウトカム等の質指標、診療のばらつき、医療の質の評価・改善、医療機能評価、医療の質・安全に係わる制度・政策については、水曜3限「医療の質評価」(前期後半) (1単位) (MCR推奨選択・コア選択必修)を選択してください。</li> </ul> <p>問い合わせ等は、 医療経済学教室 教務 &lt;heqm-kyoumu(at)mail2.adm.kyoto-u.ac.jp&gt;</p>											
医療技術の経済評価 (MCR限定) (3)へ続く↓ ↓ ↓											

医療技術の経済評価 (MCR限定) (3)											
へご連絡ください。											
面談等希望者は、適宜、教員にアポイントメントをとってください。											
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		P-PUB01 8K027 LB90									
授業科目名 <英訳>	臨床研究計画法 I I (MCR限定) Seminar in Study Design II										
	担当所属・職名・氏名 医学研究科 教授 川上 浩司 医学研究科 特定准教授 中尾 葉子 医学研究科 特定助教 水野 佳世子 医学研究科 特定助教 高山 厚 医学研究科 教授 今中 雄一 医学研究科 特定准教授 佐々木 典子 医学研究科 教授 中山 健夫 医学研究科 准教授 高橋 由光 医学研究科 助教 當山 まゆみ 医学研究科 教授 古川 壽亮 医学研究科 准教授 田近 亜蘭 医学研究科 教授 石見 拓 医学研究科 特定助教 西岡 典宏 医学研究科 教授 近藤 尚己 医学研究科 助教 井上 浩輔 医学研究科 教授 山本 洋介 医学研究科 准教授 小川 雄右 医学研究科 助教 山田 淑恵										
配当学年	専門職	単位数	1	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	月5	授業形態	講義	使用言語	日本語及び英語
<b>[授業の概要・目的]</b>											
<p>(本講義の通称：プロマネII)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>講義</li> <li>MCR修了者が行ってきた臨床研究を素材として、 <ol style="list-style-type: none"> <li>①プロトコル作成と研究の運営において必要な手法を学ぶ。</li> <li>②臨床研究プロトコルを作成および実施・運営する上で必要な実践的知識・技能を学ぶ。</li> <li>③臨床研究を実際に運営する際に必要な研究マネジメント方略に関する知識・技能を習得する。</li> </ol> </li> <li>プロトコル発表検討会</li> <li>MCR担当教員とMCR専科生および受講生全員が、毎回参加することを原則とする。</li> <li>個々の院生が、自身のリサーチ・クエスト (RQ) にもとづいた研究計画を発表し、院生や教員による形式的な検討、評価、フィードバックを通じて質の高い研究プロトコルを作成にむけて学習する。</li> <li>院生は英語でスライドを作成し、英語で発表する。ディスカッションは英語および日本語で行う。</li> </ol>											
<b>[到達目標]</b>											
<ul style="list-style-type: none"> <li>研究の目的に適合した臨床研究プロトコルを作成できる。</li> <li>研究の目的に適合した研究のマネジメントの具体的方略を考案できる。</li> <li>研究の方法や場に応じた研究運営上の留意点を認識できる。</li> </ul>											
<b>[授業計画と内容]</b>											
第1回	10月16日	プロトコル発表検討会									
第2回	10月23日	プロトコル発表検討会									
臨床研究計画法 I I (MCR限定) (2)へ続く↓ ↓ ↓											

臨床研究計画法 I I (MCR限定)(2)
第3回 10月30日 プロトコル発表検討会 第4回 11月6日 プロトコル発表検討会 第5回 11月13日 プロトコル発表検討会 第6回 11月20日 プロトコル発表検討会 第7回 11月27日 プロトコル発表検討会 第8回 12月4日 プロトコル発表検討会 第9回 12月11日 プロトコル発表検討会 第10回 12月18日 プロトコル発表検討会 第11回 12月25日 プロトコル発表検討会 第12回 1月15日 プロトコル発表検討会 第13回 1月22日 プロトコル発表検討会 第14回 1月29日 プロトコル発表検討会
<b>【履修要件】</b> MCR限定必修科目
<b>【成績評価の方法・観点】</b> ・講義への積極的な参加 (30%) ・プロトコル発表 (70%)
<b>【教科書】</b> 使用しない 臨床研究計画法のオリエンテーション時、および、演習時に必要文献を適宜指示する。
<b>【参考書等】</b> (参考書) 授業中に紹介する
<b>【授業外学修(予習・復習)等】</b> 教育・学習方法 ・課題作業(プロトコル作成を含む) ・学生によるプロトコル発表・出席者全員による検討。
<b>【その他(オフィスアワー等)】</b> 専科生が研究課題発表会においてプロトコルの発表を行う場合には、研究課題レポートに加えてフルプロトコルの提出が必要である。フルプロトコルは、倫理委員会に提出できるレベルのものとし、より詳細な記載(実施手順等)、調査票や説明書・同意書等の添付を要する。提出期限は2月上旬を予定。電子ファイルによりMCR事務局に送付する(詳細は追って指示する)。なお、課題研究発表会において解析結果まで発表する場合には、フルプロトコルの提出は不要。  人間健康科学系専攻学生の受講可否: 不可  ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

臨床研究計画法演習 I I (MCR限定)(2)
第12回 12月25日 プロトコル発表検討会
<b>【履修要件】</b> MCR限定選択科目
<b>【成績評価の方法・観点】</b> ・講義への積極的な参加 (100%)
<b>【教科書】</b> 使用しない 臨床研究計画法演習のオリエンテーション時、および、演習時に必要文献を適宜指示する。
<b>【参考書等】</b> (参考書) 授業中に紹介する
<b>【授業外学修(予習・復習)等】</b> 教育・学習方法 ・課題作業(プロトコル作成を含む) ・学生によるプロトコル発表・出席者全員による検討。
<b>【その他(オフィスアワー等)】</b> 人間健康科学系専攻学生の受講可否: 不可  ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	P-PUB01 8K029 SB90										
授業科目名 <英訳>	臨床研究計画法演習 I I (MCR限定) Special Seminar in Study Design II				担当者所属・職名・氏名		医学研究科 教授 山本 洋介 医学研究科 准教授 小川 雄右 医学研究科 特准教授 佐々木 典子 医学研究科 准教授 高橋 由光 医学研究科 准教授 田近 亜蘭 医学研究科 特准教授 中尾 葉子 医学研究科 助教 井上 浩輔 医学研究科 特助教 高山 厚 医学研究科 助教 當山 まゆみ 医学研究科 特助教 西岡 典宏 医学研究科 特助教 水野 佳世子 医学研究科 助教 山田 淑恵				
配当学年	専門職	単位数	1	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	月4	授業形態	演習	使用言語	日本語及び英語
<b>【授業の概要・目的】</b> (本講義の通称: プレプロマネII) ◆プロトコル発表検討会 ・MCR専科生および受講生全員が、毎回参加することを原則とする。 ・個々の院生が、自身のリサーチ・クエスト(Q)にもとづいた研究計画を発表し、院生相互の意見交換を通じて質の高い研究プロトコルを作成にむけて学習する。 ・院生は、研究実施に際しての問題点を明らかにする。結果が出ている場合は結果の解釈を明らかにする。											
<b>【到達目標】</b> ・研究の目的に適合した臨床研究プロトコルを作成できる。 ・研究の目的に適合した研究のマネジメントの具体的方略を考案できる。 ・研究の方法や場に応じた研究運営上の留意点を認識できる。											
<b>【授業計画と内容】</b> ※ 状況によりオンラインで提供する場合があります。  第1回 9月25日 プロトコル発表検討会 第2回 10月2日 プロトコル発表検討会 第3回 10月16日 プロトコル発表検討会 第4回 10月23日 プロトコル発表検討会 第5回 11月6日 プロトコル発表検討会 第6回 11月13日 プロトコル発表検討会 第7回 11月20日 プロトコル発表検討会 第8回 11月27日 プロトコル発表検討会 第9回 12月4日 プロトコル発表検討会 第10回 12月11日 プロトコル発表検討会 第11回 12月18日 プロトコル発表検討会											

科目ナンバリング	P-PUB01 8K020 LB90										
授業科目名 <英訳>	EBM・診療ガイドライン特論 (MCR限定) Special Lectures on EBM and clinical practice guidelines				担当者所属・職名・氏名		医学研究科 教授 中山 健夫 大阪地方裁判所 裁判官 西岡 繁晴 財団法人健康医学大学院大学 藤本 修平 准教授 聖路加国際大学大学院 准教授 増澤 祐子				
配当学年	専門職	単位数	1	開講年度・開講期	2023・後期集中	曜時限	金曜3限	授業形態	特論	使用言語	日本語及び英語
<b>【授業の概要・目的】</b> ・臨床医療の基盤となりつつあるEBM(根拠に基づく診療)と、EBMを用いた診療ガイドラインの歴史、国内外の動向と展望を学びます。 ・実習を通して、近年大きく進歩しつつある診療ガイドラインの評価・作成の方法の実際を経験します。 ・患者・家族とのコミュニケーション、法的な意味合い、医療資源の配置など社会的な視点から診療ガイドラインの可能性と課題を考えます。  教育・学習方法 ・パワーポイントスライドによる講義と実習 ・一部グループワークあり											
<b>【到達目標】</b> ・EBMと診療ガイドラインの関係を説明できる。 ・EBMを用いた診療ガイドラインの作成・評価の概要を理解し、実施できる。 ・社会的な視点から診療ガイドラインの可能性と課題を説明できる。											
<b>【授業計画と内容】</b> (※変更の可能性があるので開講日に確認して下さい) 第1回 10月6日 EBMと診療ガイドライン(中山) 第2回 10月13日 診療ガイドラインの評価(中山) 第3回 10月20日 診療ガイドラインの作成(中山・増澤) 第4回 10月27日 診療ガイドラインからQuality Indicator(QI)へ(中山) 第5回 11月10日 診療ガイドラインの法的位置づけ(西岡) 第6回 11月24日 診療ガイドラインからShared decision-making(SDM)へ(中山・藤本) 第7回 12月1日 診療ガイドラインと患者の視点(中山) 第8回 12月8日 総合討論(中山)  ※「健康情報学II」の講義と重ならないように開講します。											
<b>【履修要件】</b> MCRコースの履修生と受講生に限定(MCR限定)											

EBM・診療ガイドライン特論 (MCR限定) (2)
<b>[成績評価の方法・観点]</b>
毎回の小レポート提出100%
<b>[教科書]</b>
講義資料は配布
<b>[参考書等]</b>
(参考書) 中山健夫, 津谷喜一郎編著 『臨床研究と疫学研究のための国際ルール集』 (ライフサイエンス出版) 『Minds診療ガイドライン作成の手引き2014年版』 (医学書院)
<b>[授業外学修 (予習・復習) 等]</b>
予習より復習に十分時間を取ること。
<b>(その他 (オフィスアワー等))</b>
受講生には診療ガイドラインを適切に利用するだけでなく、近い将来、各領域の診療ガイドラインを作る立場になって頂くことを期待しています。 人間健康科学系専攻学生の受講可否: 否 ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	P-PUB01 8K025 LJ90										
授業科目名 <英訳>	臨床研究データ管理学 (MCR・CB限定) Data management for Clinical Research					担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 特定教授 田中 佐智子				
配当 学年	専門職	単位数	1	開講年度・ 開講期	2023・ 後期前半	曜時限	木5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語及び英語
<b>[授業の概要・目的]</b>											
臨床研究に必要なデータ管理に関して、実例を用いて講義および演習を行う。MCRおよび臨床統計家育成コース限定。											
<b>[到達目標]</b>											
臨床研究に必要なデータ管理の方法を取得し、自らの研究に活かすことができる。											
<b>[授業計画と内容]</b>											
第一回: データ管理概論1 (高田) 【メディア授業: 同時双方向型】 第二回: 臨床試験におけるデータ管理の役割 (医学研究科教員) 第三回: データ管理と統計 (田中) 第四回: 品質管理 (高田) 【メディア授業: 同時双方向型】 第五回: 症例報告書 (田中) 第六回: 症例報告書のデザイン実習 (田中) 第七回: 電子カルテ情報におけるデータ管理の役割 (医学研究科教員)											
<b>[履修要件]</b>											
特になし											
<b>[成績評価の方法・観点]</b>											
平常点 (50%)、レポート (50%)											
<b>[教科書]</b>											
使用しない											
<b>[参考書等]</b>											
(参考書) 授業中に紹介する											

臨床研究データ管理学 (MCR・CB限定) (2)
<b>[授業外学修 (予習・復習) 等]</b>
課題研究でデータを扱う際に復習すること。
<b>(その他 (オフィスアワー等))</b>
履修学生には医療従事者もいるため、新型コロナウイルスの流行状況によっては、オンラインでの開講となる可能性もある (夏から初秋の流行状況をみて判断する、ないしは開講時点での医学研究科の指針に従う)。 実習でノートパソコンを使用する必要があるため、必要に応じて持参すること (事前に指示を行う)。 また、上記授業予定は受講生の理解度・興味により若干の変更を伴う場合もある。 人間健康科学系専攻学生の受講可否: 不可 ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	P-PUB01 8K034 LB90										
授業科目名 <英訳>	臨床研究特論 (MCR限定) Clinical research advanced					担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 石見 拓 医学研究科 特定助教 西岡 典宏				
配当 学年	専門職	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月6	授業 形態		使用 言語	日本語及び英語
<b>[授業の概要・目的]</b>											
<ul style="list-style-type: none"> <li>研究の立案から体制の構築、研究費の獲得、論文投稿、成果の社会還元まで、一連のプロセスを学ぶ。</li> <li>スモールグループに分かれて、研究計画の作成、研究費申請の実際を体験する。</li> <li>臨床研究計画法I・IIで履修した研究方法について掘り下げる。</li> <li>学生から質問を提示し、教員と参加学生で検討する。</li> <li>教員から研究方法上の問題点を提示し、学生が検討する。</li> </ul>											
<b>[到達目標]</b>											
<ul style="list-style-type: none"> <li>臨床疑問の解決に向け、適切な研究方法を選択する過程、その具体化、実践と結果の活用などについて具体的な研究事例に照らして深く理解する。</li> <li>仮説形成、研究計画立案のプロセスを理解し、自身の研究計画に反映できるようになる。</li> <li>研究費の獲得方法の具体例を知り、自身の研究推進に生かす。</li> <li>論文作成・査読への対応の具体例を知り、自身の研究に反映する。</li> <li>研究チームの構築、研究成果のフィードバック、社会還元の実際を知り、自身の研究活動に反映することができるようになる。</li> </ul>											
<b>[授業計画と内容]</b>											
<ul style="list-style-type: none"> <li>仮説形成、研究計画立案のプロセス</li> <li>研究費の獲得方法の具体例</li> <li>査読への対応方法</li> <li>研究チームの作り方、フィードバックの仕方</li> <li>研究成果の社会還元</li> </ul>											
<b>[履修要件]</b>											
MCR限定 (選択)											
<b>[成績評価の方法・観点]</b>											
授業参加の姿勢、グループワークでの積極性、説明の明快さ											
<b>[教科書]</b>											
使用しない											
<b>[参考書等]</b>											
(参考書) 川村 孝 『臨床研究の教科書』 (医学書院)											

<b>臨床研究特論 (MCR限定) (2)</b>	
川村 孝 『エビデンスをつくる：陥りやすい臨床研究のピットフォール』 (医学書院)	
<b>[授業外学修 (予習・復習) 等]</b>	
自らの研究に反映し、同僚の研究を支援する	
<b>(その他 (オフィスアワー等))</b>	
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	

科目ナンバリング		P-PUB01 8K036 LE90	
授業科目名 <英訳>	系統的レビュー (MCR限定) Systematic Reviews	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 古川 壽亮 医学研究科 助教 SAHKEE, Ethan Kyle 医学研究科 助教 LUO, Yan
配当 学年	専門職	単位数	1
開講年度 開講期	2023・ 通年集中	曜時限	集中講義
<b>[授業の概要・目的]</b>		[Overall objective] The students will learn the methodology of a systematic review and pairwise meta-analysis, and write up the (introduction and) methods section(s) of a protocol on a PICO of their own choice.  The course will be conducted in English. The protocol to be submitted should be in English. The course is limited to MCR students but is optional. Only those MCR students who wish to write up a protocol are accepted.  [Overall structure of the course] The students will be divided into five groups. Each group will summarize and present the allocated chapters from the Cochrane Handbook. The faculty will comment and supplement the lecture by the students. After this lecture, each student will add relevant sections and subsections according to the RevMan format for the Methods section of a systematic review protocol for interventions.  [in response to the COVID-19 pandemic] It is very hard to predict the level of the pandemic in September as of the writing of this syllabus. Depending on the level of the pandemic and/or the readiness of the students, there remains a possibility that this course will be held online.]	
<b>[到達目標]</b>		[Expectations for the students] 1. Each group must read, summarize and present approximately 50 pages of the Handbook. The faculty will announce the groups in July, and each group can start working on their presentation before the course takes place in September. 2. The course takes place in the morning. Each student is expected to work on his protocol in the afternoon. The group members who have a presentation the following day may also wish to brush up their presentation. 3. After the entire course is over, each student must present their completed protocol (Methods section is mandatory. Introduction section is optional) within two weeks. The faculty will then return the commented and edited protocol.	
<b>[授業計画と内容]</b>		[Schedule]  No. Date Period Topic By: 1 Fri, Aug 25 1st period (8:45-10:15) Introduction to evidence synthesis Prof Furukawa  2 Fri, Aug 25 2nd period (10:30-12:00) Presentation of proposed PICOs by students All students	
----- 系統的レビュー (MCR限定) (2)へ続く ↓ ↓ ↓			

<b>系統的レビュー (MCR限定) (2)</b>	
3 Fri, Aug 25 3rd (13:15-14:30) Handbook Chapters 1-3 Group 1	
4 Mon, Aug 28 1st period (8:45-10:15) Presentation by students on "Criteria for considering studies for this review" All students	
5 Mon, Aug 28 2nd period (10:30-12:00) Handbook Chapters 4-5 Group 2	
6 Tue, Aug 29 1st period (8:45-10:15) Presentation by students on "Search methods for identification of studies" and "Data collection and analysis #8211 Selection of studies, Data extraction and management" All students	
7 Tue, Aug 29 2nd period (10:30-12:00) Handbook Chapters 7,8,13 Group 3	
8 Wed, Aug 30 1st period (8:45-10:15) Presentation by students on "Data collection and analysis #8211 Assessment of risk of bias in included studies, Assessment of reporting bias" All students	
9 Wed, Aug 30 2nd period (10:30-12:00) Handbook Chapters 6&9 Group 4 Handbook Chapters 10 Group 5	
10 Thu, Aug 31 1st period (8:45-10:15) Presentation by students on "Data collection and analysis #8211 Measures of treatment effect, Unit of analysis issues, Dealing with missing data, Assessment of heterogeneity Data synthesis Subgroup analysis and investigation of heterogeneity Sensitivity analysis" All students	
11 Thu, Aug 31 2nd period (10:30-12:00) Wrap up All students	
<b>[履修要件]</b>	
Statistics and Epidemiology courses recommended. Limited to MCR students (elective for MCR students).	
<b>[成績評価の方法・観点]</b>	
All evaluations will be based on the submitted protocol after the course.	
<b>[教科書]</b>	
Julian P. T. Higgins et al 『Cochrane Handbook for Systematic Reviews of Interventions, 2nd edition』 (Wiley) Essential textbook (the whole course will be based on this textbook): Julian P. T. Higgins, James Thomas, et al. (2019) Cochrane Handbook for Systematic Reviews of Interventions, 2nd edition (Wiley Cochrane Series), Wiley-Blackwell  Essential software (the protocol will follow the format in this software): ReviewManager 5 <a href="https://training.cochrane.org/online-learning/core-software-cochrane-reviews/revman">https://training.cochrane.org/online-learning/core-software-cochrane-reviews/revman</a>	
----- 系統的レビュー (MCR限定) (3)へ続く ↓ ↓ ↓	

<b>系統的レビュー (MCR限定) (3)</b>	
<b>[参考書等]</b>	
(参考書)	
<b>[授業外学修 (予習・復習) 等]</b>	
Please be advised that much work both before and after the class will be required.	
<b>(その他 (オフィスアワー等))</b>	
人間健康科学系専攻学生の受講可否：不可 ※オフィスアワー実施の有無は、KULASTSで確認してください。 ※オフィスアワーの詳細については、KULASTSで確認してください。  ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	



科目ナンバリング	P-PUB01 8K033 LJ90										
授業科目名 <英訳>	データ解析法特論 (MCR限定) Special Seminar of Data Analysis				担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 山本 洋介 医学研究科 助教 山田 淑恵					
配当 学年	専門職	単位数	1	開講年度 開講期	2023・ 前期後半	曜時限	月6	授業 形態	特論	使用 言語	日本語
<b>[授業の概要・目的]</b>											
<ul style="list-style-type: none"> <li>この講義では、統計解析ソフトウェアstataを用いて臨床研究のデータ解析を行う。</li> <li>実習の教材として用いる臨床研究データは、臨床研究の実例のデータを可能な限り用いる。</li> <li>学習の習熟度の確認のために、学習課題を課している。</li> <li>開講期間中は講習会コードを提供し、無償でstataの試用が可能である（ただし開講期間終了後も継続して使用を希望する場合には各自購入する必要あり）</li> </ul>											
<b>[到達目標]</b>											
<ul style="list-style-type: none"> <li>統計解析ソフトを用いて基礎的な臨床研究データの解析ができる。</li> <li>解析ソフトの出力結果を正確に解釈することができる。</li> </ul>											
<b>[授業計画と内容]</b>											
※ 状況によっては、この講義はオンラインで提供する場合があります											
第1回 5月22日統計ソフトの基本的な使い方 第2回 5月29日連続変数の検定と推定 第3回 6月5日カテゴリ変数の検定と推定 第4回 6月12日相関と回帰 第5回 6月19日重回帰分析 第6回 6月26日ロジスティック回帰分析 第7回 7月3日生存時間解析 第8回 7月10日サンプルサイズの推定・その他の解析											
<b>[履修要件]</b>											
stataを用いて解析する予定のある人の履修をおすすめします。											
<b>[成績評価の方法・観点]</b>											
<ul style="list-style-type: none"> <li>講義への積極的な参加 (60%)</li> <li>課題に対するレポート (40%)</li> </ul>											
データ解析法特論 (MCR限定) (2)へ続く ↓ ↓ ↓											

<b>データ解析法特論 (MCR限定) (2)</b>											
<b>[教科書]</b>											
使用しない 基本的な学習資源は配布。											
<b>[参考書等]</b>											
(参考書) 東 尚弘、中村文明、林野泰明、杉岡 隆、山本洋介 『臨床研究のためのstataマニュアル』 (健康医療評価研究機構 (iHope))											
<b>[授業外学修 (予習・復習) 等]</b>											
<ul style="list-style-type: none"> <li>予習: 不要</li> <li>復習: 次回講義までに当該回の復習を行うこと。課題がある場合には次回講義までにレポートを提出すること。</li> </ul>											
<b>[その他 (オフィスアワー等)]</b>											
面談希望はまずメールでご連絡下さい。 ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング	P-PUB01 8K035 LB90										
授業科目名 <英訳>	社会疫学研究法 (MCR限定) Methods in social epidemiology				担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 近藤 尚己					
配当 学年	専門職	単位数	1	開講年度 開講期	2023・ 前期集中	曜時限	火1	授業 形態	講義	使用 言語	日本語及び英語
<b>[授業の概要・目的]</b>											
経済危機や大規模災害、感染症パンデミックなど、危機は健康格差を拡大させることが知られていますが、臨床現場においても、貧困や孤立など、社会的な課題を抱えた患者に出会うことはよくあり、危機の時はその頻度が高まります。患者の社会的課題や居住環境をふまえた医療を提供することで、治療や予防の効果が高まることが期待できます。											
本コースでは、臨床現場における社会疫学研究の実践について、実践的に学びます。具体的には、社会経済状況による患者の健康格差、医療サービスアクセス格差、治療効果の格差を評価するための研究や、こういった課題の解決のための介入手法の開発とその評価方法などについて学びます。「せっかく治療した患者を病気にした環境に戻さない」ために必要なエビデンス構築のための基礎的な知識とスキルを身につけます。											
<b>[到達目標]</b>											
<ul style="list-style-type: none"> <li>患者の社会的課題の評価法を学びます。</li> <li>主に臨床現場で進める社会疫学研究の主要テーマやその実践法を学びます。</li> <li>社会疫学で汎用される、マルチレベル分析や反事実モデル、Directed Acyclic Graphsなどを活用した因果推論の基礎を学びます。</li> <li>関心を持ったテーマを調べるための簡易な研究計画を立てるワークを行います。</li> </ul>											
<b>[授業計画と内容]</b>											
以下の日程は変更する場合があります。											
1. 6/6現場の社会疫学研究テーマ 2. 6/20記述疫学：健康格差の分布とデータの見方 (大阪医科薬科大学/伊藤) 3. 6/27観察研究：個人の社会要因・社会環境要因と健康の関係性を推論する 4. 7/4実験研究・準実験研究：社会・制度への介入効果を検証する 5. 7/11社会疫学の因果推論 (井上) 6. 7/18応用：社会的処方研究 (大阪医科薬科大学/西岡) 7. 7/25マルチレベル混合効果分析入門 (佐藤) 8. 8/1レポート作成実習：研究計画作成演習											
<b>[履修要件]</b>											
「社会疫学」を受講するか、履修届後送られるPANDAのリンクから、社会疫学の動画や補講資料で事前学習をして臨むこと。											
社会疫学研究法 (MCR限定) (2)へ続く ↓ ↓ ↓											

<b>社会疫学研究法 (MCR限定) (2)</b>											
<b>[成績評価の方法・観点]</b>											
出席40% レポート60%											
<b>[教科書]</b>											
授業中に指示する											
<b>[参考書等]</b>											
(参考書) 藤野 善久 (著)、近藤 尚己 (著)、竹内 文乃 (著) 『保健医療従事者のためのマルチレベル分析活用ナビ 繰り返しのある実験データ 多施設研究 地域・職域データの扱い方』 (2013) ISBN:978-4-7878-2053-2 (URL: <a href="https://honto.jp/netstore/pd-book_25912440.html">https://honto.jp/netstore/pd-book_25912440.html</a> ) 近藤尚己 『健康格差対策の進め方 効果をもたらす5つの視点』 (2016) ISBN:978-4-260-02501-0 (著者引あり URL: <a href="https://www.igaku-shoin.co.jp/book/detail/89440">https://www.igaku-shoin.co.jp/book/detail/89440</a> ) 西智弘 『社会的処方 孤立という病を地域のつながりで治す方法』 (学芸出版社, 2020) ISBN:978-4-7615-2731-0 (URL: <a href="https://book.gakugei-pub.co.jp/gakugei-book/9784761527310/">https://book.gakugei-pub.co.jp/gakugei-book/9784761527310/</a> ) その他、下記総説が参考になります。											
西岡大輔, 近藤尚己. 社会的処方の事例と効果に関する文献レビュー. 医療と社会 2020;29:527-44.											
西岡大輔, 上野恵子, 舟越光彦, et al. 医療機関で用いる患者の生活困窮評価尺度の開発. 日本公衆衛生雑誌 2020;67:461-70.											
黒谷佳代 (監修・著者), 上野恵子 (編) 近藤尚己 (編著), 小貫美幸 (編著), et al. 生活困窮世帯の子どもに対する支援ってどんな方法があるの? 国内外の取り組みとその効果に関するレビューおよび調査 (平成30年度厚生労働省社会福祉推進事業「社会的弱者への透き透き支援等社会的処方の効果の検証および生活困窮家庭の子どもへの支援に関する調査研究」報告書). 東京: 日本老年学的評価研究機構 (代表・近藤克則) 2019.											
近藤尚己 (編著), 西岡大輔 (編著), 高木大資, et al. 「付き添い」のちから 生活困窮者の医療サービス利用の実態及び受診同行支援の効果に関する調査研究 (平成30年度厚生労働省社会福祉推進事業「社会的弱者への透き透き支援等社会的処方の効果の検証および生活困窮家庭の子どもへの支援に関する調査研究」報告書). 東京: 日本老年学的評価研究機構 (代表・近藤克則) 2019.											
近藤尚己. 環境改善による健康格差対策の類型とその実践—医療に求められる“社会的処方”. 医学のあゆみ 2019;271:1165-70.											
西岡大輔, 近藤尚己. 医療機関における患者の社会的リスクへの対応: social prescribingの動向を参考にした課題整理. 医療経済研究 2019;30:5-19.											
近藤尚己. 健康格差対策の進め方 社会疫学の知見を踏まえて. 日本健康教育学会誌 2018;26:398-403.											
澤憲明, 堀田聰子. 英国における社会的処方. In: 横林健一, イチロー・カワチ, eds. 社会疫学と総合診療 (ジェネラリスト教育コンソーシアム vol10): カイ書林 2017:138-44.											
社会疫学研究法 (MCR限定) (3)へ続く ↓ ↓ ↓											

社会学研究方法 (MCR限定)(3)
<b>[授業外学修(予習・復習)等]</b>
研究課題を具体的に考える演習をします。作成する研究計画を実際に進めることを希望する場合、アドバイスや研究チーム構築の支援等については、コース担当教員(近藤)に相談してください。
<b>(その他(オフィスアワー等))</b>
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。





## 遺伝カウンセラーコース

科目ナンバリング	P-PUB01 8N022 SJ90						
授業科目名 <英訳>	基礎人類遺伝学演習 (GC限定) Fundamental Human Genetics, exercise		担当所属 職名・氏名	医学研究科 特定教授 和田 敬仁 医学研究科 特定助教 吉田 晶子	医学研究科 特定教授 和田 敬仁 医学研究科 特定助教 吉田 晶子	和名	敬仁
配当学年	専門職	単位数	1	開講年度・開講期	2023 後期	曜時限	木5
<b>【授業の概要・目的】</b>							
【基本情報】 授業日時：後期木曜5限（例外予定にご注意ください） 教室：G棟3階演習室・状況によりオンライン授業を実施することがある レベル：応用 担当者：和田敬仁（科目責任者）・中島健・小川昌宣・澤井英明・川崎秀徳							
【コースの概要】 遺伝カウンセラーとしての基礎知識となる遺伝子・染色体の分析について、演習を通じて体験することにより、具体的に理解することを目的とする。家系図作成、遺伝形式の推定、遺伝的リスクの推定などについて、演習を行うほか、臨床の現場で行われる画像診断、医学的フォローの実践についても学ぶ。							
<b>【到達目標】</b>							
#8226家系図作成、遺伝形式推定、再発確率計算を正確に行うことができる #8226遺伝学的検査の方法について具体的に理解し、正確に説明することができる							
<b>【授業計画と内容】</b>							
【第1回】6月28日水曜5限<澤井>「骨系統疾患とレントゲンエコー検査」胎児の先天異常で頻度の高い骨系統疾患について概説し、その診断のために必要なレントゲン読影の知識を習得する 【第2回】1月5日<和田1>「家系図作成演習」標準的家系図記載法を学び、遺伝形式および遺伝的リスク推定を学ぶ 【第3回】1月19日 <中島1>「がん検診」がんの検診と遺伝性腫瘍のサーベイランスの相違について理解する。 【第4回】10月26日 <川崎1>「診療録からの情報収集・医療情報の収集」 診療録からの情報収集のコツを学ぶ。一般的な医療情報の収集に関して整理する 【第5回】1月2日<小川1>「胎児超音波検査」妊娠初期～中期にかけての超音波検査、特に染色体異常と関係するソフトマーカーについて理解する。妊娠後期に施行される超音波検査とその意義について理解する 【第6回】1月9日<和田2>「CGHマイクロアレイの結果解釈の基礎」 CGHマイクロアレイの結果解釈のための基礎を学ぶ；UCSCゲノムブラウザ、ClinGen、Decipherなど 【第7回】1月16日<中島2>「遺伝性腫瘍に関する画像診断」上部下部内視鏡検査、腹部超音波検査等の画像診断の特性・意義について学ぶ 【第8回】1月30日 <小川2>「放射線・環境因子・感染症の胎児への影響」先天異常の原因において5%程度を占める環境因子について理解する 【第9回】12月7日<川崎2>「診療録・医療文書の書き方」医学情報を書く際のコツを学ぶ 【第10回】12月14日 <和田3>「CGHマイクロアレイの結果解釈の実践(1)」実際の症例を通して、CGHマイクロアレイの結果解釈を学ぶ 【第11回】12月21日 <中島3>「バリエーションの評価1」腫瘍関連遺伝子において検出されるバ							
基礎人類遺伝学演習 (GC限定) (2)へ続く↓ ↓ ↓							

<b>基礎人類遺伝学演習 (GC限定) (2)</b>	
バリエーションの評価を行い、その解釈を学ぶ 【第12回】1月11日<小川3>「流産絨毛検査」妊娠初期の流産では半数以上で染色体異常が生じている。流産患者における検査の意義について理解する 【第13回】1月18日<和田4>「CGHマイクロアレイの結果解釈の実践(2)」実際の症例を通して、CGHマイクロアレイの結果解釈を学ぶ 【第14回】1月25日<小川4>「羊水染色体検査」羊水染色体検査の実施方法を理解し、その検査に当たっての適切な説明について検討する 【第15回】2月1日<和田5>「WESの結果解釈の実践」 Whole Exome Sequenceから得られたバリエーションの評価と解釈を学ぶ	
<b>【履修要件】</b>	
遺伝カウンセラーコース1回生限定必修科目（事前確定科目） 先修科目として「基礎人類遺伝学」の履修を原則とする	
<b>【成績評価の方法・観点】</b>	
積極的な演習への参加、レポート、発表、出席等を総合的に評価する	
<b>【教科書】</b>	
ハンドアウトを配布	
<b>【参考書等】</b> (参考書)	
<b>【授業外学修（予習・復習）等】</b>	
適宜指示する	
<b>【その他（オフィスアワー等）】</b>	
講義日程、講師、内容については、多少の変更がある可能性があります ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	

科目ナンバリング	P-PUB01 8N006 SJ90						
授業科目名 <英訳>	臨床遺伝学演習 (GC限定) Clinical Genetics, Exercise		担当所属 職名・氏名	医学研究科 特定教授 和田 敬仁 医学研究科 特定助教 吉田 晶子	医学研究科 特定教授 和田 敬仁 医学研究科 特定助教 吉田 晶子	和名	敬仁
配当学年	専門職	単位数	1	開講年度・開講期	2023 後期	曜時限	水5
<b>【授業の概要・目的】</b>							
【基本情報】別称：「遺伝カウンセリングロールプレイ演習」 授業日時：後期水曜5限（例外予定にご注意ください） 教室：G棟3階演習室・状況によりオンライン授業を実施することがある、レベル：応用 担当者：和田敬仁（科目責任者）・中島健・小川昌宣・澤井英明・川崎秀徳・吉田晶子・鳥嶋雅子・村上裕美・本田明夏・稲葉慧・春山嵯依子 【コースの概要】 ・演習開始4週間前、オリエンテーションを行う（2023年度は9/6とする）。 ・基本設定は担当教員がオリエンテーション時に関係者全員に通知する。検討過程で基本設定に変更がある場合は、関係者全員に事前に必ず知らせる。 ・実際の遺伝カウンセリングは、臨床遺伝専門医と認定遺伝カウンセラーで役割分担しながら、チーム医療として行う。通常、遺伝学的検査の結果開示など、臨床遺伝専門医が実際には主に行っていることについても、ロールプレイでは「遺伝カウンセリング担当者」として実施する。これは遺伝カウンセラーとして貴重な経験になるだけでなく、臨床遺伝専門医の立場を理解するのにも役立つ。また、頻度の高い疾患については認定遺伝カウンセラーとして十分な知識を有しておくことは、クライアントから再度質問された場合などにも対応できる力となる。 ・第1回～第8回は1名のクライアントを対象に、第9回～第16回は2名のクライアントを対象にロールプレイを行う。全体を通じて、遺伝カウンセリングの構造・流れを適切に学び、主訴・経緯の確認からアジェンダセッティング、疾患の説明および意思決定支援と、全体を通じてカウンセリングマインドをもって対応できることを目指す。また、クライアントが2名のテーマでは、クライアント間のパワーバランスや意見の違いへの対応や配慮を学ぶ。 ・ロールプレイ実施の2週間前までに遺伝カウンセリング担当者（M1）・CGCメンター・担当教員での事前打合せを実施する。その他、適宜打ち合わせを行う。 ・クライアント役も必要に応じてシナリオ設定者と打ち合わせを行う。尚、クライアント役の1回はM1が担当する。 ・前日までに遺伝カウンセリング担当者（M1）は遺伝カウンセリングで使用する資料を配布する。 ・ロールプレイ当日も、担当教員やメンター、およびオブザーバから活発かつ建設的なフィードバックを求めるが、フィードバックシートでのコメントも収集する。 ・遺伝カウンセリング担当者（M1）・CGCメンター、担当教員での当日の振り返りを行う。また、後日、遺伝カウンセリング担当者（M1）とCGCメンターで一部の逐語録やフィードバックシートを用いた振り返りを行い、1週間後を目安に担当教員へレポートを提出する。また、全ロールプレイ終了後、全体を通じての振り返りレポートを鳥嶋・吉田へ提出する。 ・履修学生の人数により、予定を変更する可能性がある。							
臨床遺伝学演習 (GC限定) (2)へ続く↓ ↓ ↓							

<b>臨床遺伝学演習 (GC限定) (2)</b>	
<b>【到達目標】</b>	
遺伝カウンセラーとしての実践的な技術を身に付け、現場での実践的な対応能力を獲得する。臨床遺伝学の知識と遺伝カウンセリングの基本的技術を習得する。	
<b>【授業計画と内容】</b>	
【第0回】9月6日5限<全員>「ロールプレイの行い方とオリエンテーション、遺伝カウンセリング実習」ロールプレイの目的、方法と意義について。遺伝カウンセリング実習についてのオリエンテーション 【第1回】10月4日／【第2回】10月18日 <中島>「遺伝性乳癌卵巣癌症候群（HBOC）」乳がん患者が多数いる家系での遺伝性乳がんのリスクの評価および遺伝学的検査の適応。血縁者への情報共有や発症前診断について学ぶ。また、乳がん患者が多数いる家系での血縁者への情報共有や発症前診断について学ぶ。 【第3回】10月25日／【第4回】11月1日 <川崎>「肥大型心筋症」肥大型心筋症の家系例について、家族歴聴取からAt risk者の推定、症状や遺伝形式の説明、本人の遺伝学的検査と血縁者の発症前診断の意義、検診の方法について学ぶ。 【第5回】1月8日／【第6回】1月15日 <小川>「出生前診断」出生前遺伝学的検査にかかわる遺伝カウンセリングにおいて、疾患の自然史を含めた情報提供や適切な遺伝学的評価に基づいた再発率の提供ができることを目指す。 【第7回】1月22日／【第8回】1月29日 <中島>「Li-fraumeni症候群」がん組織でのパネル検査にてLi-fraumeni症候群の可能性を指摘された若年発症の乳がん患者に対し、生殖細胞系列の遺伝学的検査の意義や血縁者への影響を説明する。 【第9回】12月6日／【第10回】12月13日 <和田>「ミトコンドリア病」家系難聴と糖尿病の症状・家族歴のあるクライアントとその家族に対し、疾患説明および、母系遺伝、表現の多様性、確定できない情報の伝え方等のミトコンドリア病における遺伝カウンセリングを学ぶ。 【第11回】12月20日／【第12回】12月27日 <川崎>「ファブリー病」XLであるファブリー病の症状および遺伝形式の説明とそれによる血縁者への影響を学ぶ。疾患や治療法について理解し、説明する。 【第13回】1月10日／【第14回】1月17日 <和田>「筋強直性ジストロフィー」筋強直性ジストロフィーの多臓器にわたる症状、トリプレットリピート病や表現促進等の説明を学ぶ。また、症状のあるクライアントおよびその家族の疾患の受け入れや心理社会的支援を検討する。 【第15回】1月24日／【第16回】1月31日 <小川澤井>「習慣流産」習慣流産症例において、原因の産婦人科の評価に加えて遺伝学的検査に基づく評価と次回妊娠に向けて着床前診断も含めた提案に関する遺伝カウンセリングを学ぶ。 参加者：担当、関係全教員、遺伝カウンセリング担当者院生（M1）、オブザーバ（M1、M2、博士院生）、CGCメンター 記録：オブザーバーのM1（ビデオ撮影およびファイルをサーバに保存：復習用）	
<b>【履修要件】</b>	
遺伝カウンセラーコース1回生限定必修科目（事前確定科目）	
<b>【成績評価の方法・観点】</b>	
演習における積極性、実践的能力、出席、レポート等を総合的に評価する	
臨床遺伝学演習 (GC限定) (3)へ続く↓ ↓ ↓	

臨床遺伝学演習 (GC限定) (3)
<b>【教科書】</b> 使用しない
<b>【参考書等】</b> (参考書)
<b>【授業外学修(予習・復習)等】</b> 適宜指示する
<b>【その他(オフィスアワー等)】</b> ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	P-PUB01 8N020 LJ90		
授業科目名 <英訳>	遺伝カウンセラーコミュニケーション概論 (GC限定) Counselling for Genetic Counselors	担当所属 職名・氏名	医学研究科 特定教授 和田 敬仁 医学研究科 特定助教 鳥嶋 雅子
配当 学年	専門職	単位数	3
開講年度・ 開講期	2023・ 通年不定	曜時限	木1:講義 木2:講義
授業 形態	講義・演習	使用 言語	日本語
<b>【授業の概要・目的】</b>			
【基本情報】授業日時：前期木曜1限を毎週実施、後期木曜1限を隔週実施を原則とする（例外予定にご注意ください） 教室：G棟3階演習室・状況によりオンライン授業を実施することがある レベル：基礎 担当者：和田敬仁・鳥嶋雅子・吉田晶子・浦野真理・浦尾充子・隈村綾子・村上裕美・秋山奈々・本田明夏・稲葉慧・松川愛未 【コースの概要】本講義では、コミュニケーションという観点から、遺伝カウンセリングの重要なテーマについて、院生自身が主体となってディスカッションを行い、互いの学びを共有していく。遺伝カウンセラーとして、クライアント・家族の支援のためのコミュニケーションは勿論のこと、チーム医療のメンバーとして、異なった専門性を持つチームメンバーとのコミュニケーションのあり方についても学ぶ。また、本講義は、『遺伝カウンセリングロールプレイ演習』『遺伝カウンセリング実習(病院での臨床実習)』で必要な基礎知識・理論を学ぶという役割も担っており、これらの講義・演習・実習を通して遺伝カウンセリング、そして遺伝カウンセラーについて学びを深めることを総合的な目標として掲げている。演習については、授業の進行状況に応じて、ロールプレイ、ビデオ学習など様々な方法を用いる予定である。 【教育・学習方法】・ テキストを予習し、レポート提出 ・ 講義内でのディスカッションおよび演習 ・ 時間外に以下の学習も併せて行う。 ビデオ学習「グロリア」と3人のセラピスト みなさまの積極的な参加を希望します。授業内容に関する質問も随時歓迎です。メールで問い合わせてください。			
<b>【到達目標】</b>			
1. 遺伝カウンセラーとして、クライアント・家族をどのように支援していくのか最低限必要と考えられる知識及び態度を身につける。 2. 医療チームのメンバーとしてどのような動きをすることが望ましいか最低限必要な知識及び態度を身につける。			
<b>【授業計画と内容】</b>			
<前期>			
【第1回】 4/13 <吉田> 「イントロ・基本的な考え方」「遺伝カウンセリングの定義・歴史」「倫理綱領」基礎編1日目：遺伝カウンセラーのコミュニケーション：はじめに（自己紹介・授業・宿題について）基本的な考え方。 遺伝カウンセリングの定義・歴史 【第2回】 4/20 <浦尾、鳥嶋> 「家族面接」「家族力動」「家族システム理論」基礎編13日目：家族面接における遺伝カウンセラーの役割 【第3回】 4/27 <鳥嶋> 「遺伝カウンセラーの基本的態度」「共感的理解」基礎編2日目：遺伝カウンセリングの基本的態度と内側(内的照合格)からの理解、基礎編3日目：共感的理解を理解を理解する 【第4回】 5/11 <吉田> 「ラポール形成」「受付・来談経緯・主訴の確認」「最初の段階のコミュニケーション」基礎編4日目：遺伝カウンセリングの流れ及び信頼関係(ラポール)の形成、基礎編6日目：電話受付の留意点			

遺伝カウンセラーコミュニケーション概論 (GC限定) (4)
【第5回】 5/18<村上> 「ノンバーバルコミュニケーション」基礎編5日目：ノンバーバルコミュニケーションの重要性 【第6回】 5/25<吉田> 「情報提供」基礎編8日目：遺伝カウンセリングにおける情報提供 【第7回】 6/1<吉田> 「情報提供」基礎編8日目：遺伝カウンセリングにおける情報提供 【第8回】 6/8<鳥嶋> 「意思決定」基礎編9日目：遺伝カウンセリングにおける意思決定 【第9回】 6/15<鳥嶋> 「意思決定」「アンティシパトリーガイダンス」実践編9日目：進行性で治療法のない遺伝性疾患に関する発症前検査を希望して来談した人との遺伝カウンセリング 【第10回】 6/22<吉田、鳥嶋> 「ミニロールプレイ」主訴の確認・家系図聴取・情報取得時のアセスメント 【第11回】 6/29<吉田、鳥嶋> 「ミニロールプレイ」遺伝形式の説明(AD/AR)情報提供時のアセスメント 【第12回】 7/6<吉田、鳥嶋> 「ミニロールプレイ」遺伝形式の説明(XL)・情報提供時のアセスメント 【第13回】 7/13<秋山、鳥嶋> 「親から子に「遺伝」について伝える」小児の遺伝カウンセリング実践10日目：親から子に「遺伝」について伝える 【第14回】 7/20<本田> 「障害観」「出生前検査」基礎編16日目：障害と社会の理解 実践編8日目：出生前検査に伴う遺伝カウンセリング 【第15回】 7/27<吉田> 「症例検討」遺伝カウンセリングの構成、クライアントのアセスメント
<後期>
【第16回】 10/5<松川、鳥嶋> 「日本人のコミュニケーションと遺伝カウンセリング」夏休みの宿題(1)：日本人のコミュニケーション 【第17回】 10/19<吉田> 「倫理分析」基礎編15日目：遺伝カウンセリングにおける倫理 【第18回】 11/2<吉田> 「フォローアップ」「マネジメント」基礎編14日目：遺伝カウンセリングの終了とフォローアップ 【第19回】 11/16<稲葉> 「当事者団体と関係機関との連携」実践編14日目：視覚障害(網膜色素変性症)の遺伝カウンセリング、実践編5日目：当事者団体と関係機関との連携 【第20回】 11/30 <隈村、本田> 「医療ソーシャルワーカーから学ぶ」基礎編10日目：医療ソーシャルワーカーの事例から学ぶ〜クライアント支援のためのコミュニケーション〜 【第21回】 12/14 <浦野、鳥嶋> 「心理的防衛機制」「病気に対する心理学的理論」「対処モデル」基礎編17日目：遺伝カウンセリングと防衛機制、病気に対する心理学的理論、心理的防衛機制、対処モデル 【第22回】 1/18<浦野、鳥嶋> 「悲嘆のプロセス」「クライシスカウンセリング」「グリーフカウンセリング」基礎編11日目：喪失体験の理解、悲嘆のプロセス、クライシスカウンセリング、グリーフカウンセリング 【第23回】 2/1<鳥嶋> 「病とともに生きる・まとめ」基礎編18日目：遺伝性の病とともに生きる。評価とまとめ
<b>【履修要件】</b> 遺伝カウンセラーコース1回生限定必修科目(事前確定科目)
<b>【成績評価の方法・観点】</b> 前期・後期あわせて終了時に評価する。学習目標の到達度40% レポート30% 授業中のディスカッション30%

遺伝カウンセラーコミュニケーション概論 (GC限定) (4)
<b>【教科書】</b> ・遺伝カウンセリングのためのコミュニケーション論-京都大学大学院医学研究科遺伝カウンセラーコース講義(メディカルドゥ) 978-4944157662
<b>【参考書等】</b> (参考書)
<b>【授業外学修(予習・復習)等】</b> 適宜予習復習を求める
<b>【その他(オフィスアワー等)】</b> ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	P-PUB01 8N007 SJ90										
授業科目名 <英訳>	遺伝カウンセリング演習1 (GC限定)			担当所属 職名・氏名		医学研究科 特定講師 川崎 秀徳					
配当 学年	専門職	単位数	2	開講年度 開講期	2023 - 2024	開講期	2023 - 2024	開講期	2023 - 2024	開講期	2023 - 2024
[授業の概要・目的]											
【基本情報】授業日時：金曜日（原則隔週）5・6時限、教室：G棟セミナー室A（第1～5回、第12～15回）または演習室（第6～11回）・状況によりオンライン授業を実施することがある。レベル：遺伝カウンセリング演習1（基礎）・遺伝カウンセリング演習2（応用） 担当者：和田敦仁・中島健・小川昌宣・川崎秀徳（科目責任者）・鳥嶋雅子・吉田晶子・村上裕美・本田明夏・稲葉慧 田村和朗・巽純子・西郷和真・福嶋伸之・川下理日人・木下善仁・仲間美奈 レクチャー担当者 【コースの概要】実際の遺伝カウンセリング症例を提示し、遺伝的問題、医学的問題、療養問題、社会的問題、法的問題、倫理的問題、心理的問題などについて、他の学内からのカンファレンス参加者とともに、徹底的な討論を行う。1年次学生も後期からは、実際の遺伝カウンセリング実習で体験した症例について、自ら提示を行い、カンファレンスを中心的に運営する。これは、京都大学と近畿大学の遺伝カウンセラーコースのカリキュラムの中で最も重要なものであり、両大学の院生が積極的に参加するものである。実習期の院生（2回生4月～10月ごろ、1回生11月ごろ一年度末、移行期は各コースの実情による）は、原則として毎回症例提示を行うこと。16:30-18:30ごろ：合同カンファレンス症例提示・検討会（1回4例～5例となるように調整し、進行は司会がタイムキーピングを行う）。18:30ごろより50分程度：京大・近大遺伝カウンセラーコースの修了者による遺伝カウンセラーとしての活動などに関するプレゼン、あるいは合同カンファレンス出席者・招聘演者等によるレクチャー（カンファレンスレクチャー） オンライン実施の場合は、レクチャーと症例検討の順番を変えることができる。 【教育・学習方法】症例提示・討論、カンファレンス記録の作成（症例ごとに順番で担当）											
[到達目標]											
症例の適切なプレゼンテーション、種々の問題点の整理と今後の対応方針の決定、討論への参加と論理的な主張、適切なカンファレンス記録の作成ができる。											
[授業計画と内容]											
<司会>カンファレンスレクチャー担当者 【第1回】4月14日<小杉>小杉真司「合同カンファレンスのイントロダクション」 【第2回】4月28日<川崎>武内俊樹「重症新生児に対する遺伝学的検査・診断とカウンセリング」 【第3回】5月12日<西郷>高橋祐二「神経疾患 最近の話題」 【第4回】5月26日<川崎>北島康司「ダウン症のライフコースを知る：新生児期から青年期、そして成人期まで」 【第5回】6月9日<吉田>津幡真理「東北大学病院遺伝子診療部の取り組み」 【第6回】6月23日<和田>黒岩麻里「Y染色体とSTR遺伝子に依存しない哺乳類の性決定メカニズム」 【第7回】7月14日<木下>飯田慶「コモンSNPとRNAプライミング」 【第8回】10月27日<本田>稲葉慧「京大病院遺伝子診療部における認定遺伝カウンセラーの仕事」 【第9回】11月10日<仲間>松崎佐和子「九州大学病院臨床遺伝医療部の展開と展望」											
遺伝カウンセリング演習1 (GC限定) (2)へ戻る ↓ ↓ ↓											

遺伝カウンセリング演習1 (GC限定) (3)											
[参考書等]											
(参考書)											
[授業外学修（予習・復習）等]											
適宜指示する。											
[その他（オフィスアワー等）]											
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

遺伝カウンセリング演習1 (GC限定) (2)											
【第10回】11月24日<鳥嶋>山本佳世「遺伝カウンセリング領域における質的研究」 【第11回】12月8日<川崎>上山美津穂「遺伝性疾患へのチャイルドライフスペシャリストのかかわり」 【第12回】12月22日<中島>小川昌宣「胎児と妊婦と私と」 【第13回】1月12日<川崎>新年懇談会 【第14回】1月26日<川下>二川摩周「岡山大学病院における認定遺伝カウンセラーの役割」 【第15回】2月9日<和田>古屋充子「遺伝性腎腫瘍とその関連疾患」											
<合同カンファレンスの具体的進行方針> 1) 合同カンファレンスの目的：合同カンファレンスは実習報告会ではない。同席者としての感想などは原則として除外する。症例としての検討を主題とし、適切な遺伝カウンセリングがなされたかどうか、誤った点や不足する点はなかったかなど、内外の専門家の意見、討議を聞き、それに参加する。できるだけ多くの人の意見を聞けるよう、結果として今後の遺伝カウンセリングに実質的に生かせるように討議の時間を確保する。 2) プレゼンテーション：プレゼンテーションは客観的な事実を端的にまとめる。まず、ケースの背景と相談点参加者に理解してもらう。相談経過、問題点、討議点も同様に端的に示す。発表時間は12分程度、議論を13分程度とする。 3) スライド：議論が整理しやすいように論点を整理する。タイトル（日付・発表者・担当医名を含む）、疾患理解のための説明、クライアント来談の背景、主訴、家系図、遺伝カウンセリングの具体的な内容、課題・問題点の考察といった構成を原則とする。 4) 進行：プレゼンテーション終了後、司会者が質問や意見を参加者から受け付ける。質問に対しての返答は原則プレゼンテーションを行った院生が行うが、実習を担当した教員ならびに認定遺伝カウンセラーも必要に応じて対応する。 5) 終了後：ディスカッションの内容を含んだスライドを1枚追加する。担当医ならびに認定遺伝カウンセラーの確認後、「カウンセリング記録」および「カンファレンス記録」の2箇所に保存する。（カンファレンス終了1週間以内に） *個人情報に接することがあるため、初回参加時には「誓約書」を提出する。カウンセリング内容についての会話は、他者のいるところではしないこと、内容を記したノートは、他者の目にふれないようにすること、ノートの貸し借りは禁止。											
[履修要件]											
遺伝カウンセラーコース限定必修科目（事前確定科目）1回生は「遺伝カウンセリング演習1」、2回生は「遺伝カウンセリング演習2」											
[成績評価の方法・観点]											
プレゼンテーション、討論への積極的な参加、カンファレンス記録の作成などを総合的に評価する。											
[教科書]											
使用しない ハンドアウトの配布は、原則としてありません。											
遺伝カウンセリング演習1 (GC限定) (3)へ戻る ↓ ↓ ↓											

科目ナンバリング	P-PUB01 8N008 SJ90										
授業科目名 <英訳>	遺伝カウンセリング演習2 (GC限定)			担当所属 職名・氏名		医学研究科 特定講師 川崎 秀徳					
配当 学年	専門職	単位数	2	開講年度 開講期	2023 - 2024	開講期	2023 - 2024	開講期	2023 - 2024	開講期	2023 - 2024
[授業の概要・目的]											
【基本情報】授業日時：金曜日（原則隔週）5・6時限、教室：G棟セミナー室A（第1～5回、第12～15回）または演習室（第6～11回）・状況によりオンライン授業を実施することがある。レベル：遺伝カウンセリング演習1（基礎）・遺伝カウンセリング演習2（応用） 担当者：和田敦仁・中島健・小川昌宣・川崎秀徳（科目責任者）・鳥嶋雅子・吉田晶子・村上裕美・本田明夏・稲葉慧 田村和朗・巽純子・西郷和真・福嶋伸之・川下理日人・木下善仁・仲間美奈 レクチャー担当者 【コースの概要】実際の遺伝カウンセリング症例を提示し、遺伝的問題、医学的問題、療養問題、社会的問題、法的問題、倫理的問題、心理的問題などについて、他の学内からのカンファレンス参加者とともに、徹底的な討論を行う。1年次学生も後期からは、実際の遺伝カウンセリング実習で体験した症例について、自ら提示を行い、カンファレンスを中心的に運営する。これは、京都大学と近畿大学の遺伝カウンセラーコースのカリキュラムの中で最も重要なものであり、両大学の院生が積極的に参加するものである。実習期の院生（2回生4月～10月ごろ、1回生11月ごろ一年度末、移行期は各コースの実情による）は、原則として毎回症例提示を行うこと。16:30-18:30ごろ：合同カンファレンス症例提示・検討会（1回4例～5例となるように調整し、進行は司会がタイムキーピングを行う）。18:30ごろより50分程度：京大・近大遺伝カウンセラーコースの修了者による遺伝カウンセラーとしての活動などに関するプレゼン、あるいは合同カンファレンス出席者・招聘演者等によるレクチャー（カンファレンスレクチャー） オンライン実施の場合は、レクチャーと症例検討の順番を変えることができる。 【教育・学習方法】症例提示・討論、カンファレンス記録の作成（症例ごとに順番で担当）											
[到達目標]											
症例の適切なプレゼンテーション、種々の問題点の整理と今後の対応方針の決定、討論への参加と論理的な主張、適切なカンファレンス記録の作成ができる。											
[授業計画と内容]											
<司会>カンファレンスレクチャー担当者 【第1回】4月14日<小杉>小杉真司「合同カンファレンスのイントロダクション」 【第2回】4月28日<川崎>武内俊樹「重症新生児に対する遺伝学的検査・診断とカウンセリング」 【第3回】5月12日<西郷>高橋祐二「神経疾患 最近の話題」 【第4回】5月26日<川崎>北島康司「ダウン症のライフコースを知る：新生児期から青年期、そして成人期まで」 【第5回】6月9日<吉田>津幡真理「東北大学病院遺伝子診療部の取り組み」 【第6回】6月23日<和田>黒岩麻里「Y染色体とSTR遺伝子に依存しない哺乳類の性決定メカニズム」 【第7回】7月14日<木下>飯田慶「コモンSNPとRNAプライミング」 【第8回】10月27日<本田>稲葉慧「京大病院遺伝子診療部における認定遺伝カウンセラーの仕事」 【第9回】11月10日<仲間>松崎佐和子「九州大学病院臨床遺伝医療部の展開と展望」											
遺伝カウンセリング演習2 (GC限定) (2)へ戻る ↓ ↓ ↓											



遺伝カウンセリング演習2 (GC限定) (2)	
【第10回】11月24日 <鳥嶋> 山本佳世「遺伝カウンセリング領域における質的研究」	<合同カンファレンスの具体的進行方針> 1) 合同カンファレンスの目的: 合同カンファレンスは実習報告会ではない。同席者としての感想などは原則として除外する。症例としての検討を主題とし、適切な遺伝カウンセリングがなされたかどうか、誤った点や不足する点はなかったかなど、内外の専門家の意見、討議を聞き、それに参加する。できるだけ多くの人の意見を聞けるよう、結果として今後の遺伝カウンセリングに実質的に生かせるように討議の時間を確保する。 2) プレゼンテーション: プレゼンテーションは客観的な事実を端的にまとめる。まず、ケースの背景と相談点参加者に理解してもらう。相談経過、問題点・討議点も同様に端的に示す。発表時間は12分程度、議論を13分程度とする。 3) スライド: 議論が整理しやすいように論点を整理する。タイトル(日付・発表者・担当医名を含む)、疾患理解のための説明、クライアント来談の背景・主訴、家系図、遺伝カウンセリングの具体的な内容、課題・問題点の考察といった構成を原則とする。 4) 進行: プレゼンテーション終了後、司会者が質問や意見を参加者から受け付ける。質問に対しての返答は原則プレゼンテーションを行った院生が行うが、実習を担当した教員ならびに認定遺伝カウンセラーも必要に応じて対応する。 5) 終了後: ディスカッションの内容を含んだスライドを1枚追加する。担当医ならびに認定遺伝カウンセラーの確認後、「カウンセリング記録」および「カンファレンス記録」の2箇所に保存する。(カンファレンス終了1週間以内に) *個人情報に接することがあるため、初回参加時には「誓約書」を提出する。カウンセリング内容についての会話は、他者のいるところではしないこと、内容を記したノートは、他者の目にふれないようにすること、ノートの貸し借りは禁止。
【第11回】12月8日 <川崎> 上山美津穂「遺伝性疾患へのチャイルドライフスペシャリストのかかわり」	
【第12回】12月22日 <中島> 小川昌宣「胎児と妊婦と私と」	
【第13回】1月12日 <川崎> 新年懇談会	
【第14回】1月26日 <川下> 二川摩周「岡山大学病院における認定遺伝カウンセラーの役割」	
【第15回】2月9日 <和田> 古屋充子「遺伝性腎腫瘍とその関連疾患」	
【履修要件】	
遺伝カウンセラーコース限定必修科目(事前確定科目) 1回生は「遺伝カウンセリング演習1」、2回生は「遺伝カウンセリング演習2」	
【成績評価の方法・観点】	
プレゼンテーション、討論への積極的な参加、カンファレンス記録の作成などを総合的に評価する。	
【教科書】	
使用しない ハンドアウトの配布は、原則としてありません。	
-----	
遺伝カウンセリング演習2 (GC限定) (2)へ続く ↓↓↓	

遺伝カウンセリング演習2 (GC限定) (3)	
【参考書等】	
(参考書)	
【授業外学修(予習・復習)等】	
適宜指示する。	
【その他(オフィスアワー等)】	
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	
-----	
遺伝カウンセリング演習2 (GC限定) (3)へ続く ↓↓↓	

科目ナンバリング		P-PUB01 8N009 PJ90	
授業科目名	遺伝カウンセリング実習1 (GC限定)	担当者所属・職名・氏名	医学研究科 准教授 中島 健
<英訳>	Genetic Counselling, Practice 1		
配当学年	専門職	単位数	2
		開講年度	2023
		開講期	通年不定
		曜時限	その他
		授業形態	実習
		使用言語	日本語
【授業の概要・目的】			
【I. コースの概要】			
遺伝カウンセリングの現場に同席し、その現状を体験するとともに、予診の聴取(プレカウンセリング)、家系図の作成、電話フォローアップなどを実際のクライアントに対しておこなう。担当: 中島健(科目責任者)、和田敬仁、小川昌宣、川崎秀徳、澤井英明、四本由樹、鳥嶋雅子、吉田晶子、村上裕美、本田明夏、稲葉慧			
【II. 教育・学習方法】			
実習(準備・プレ遺伝カウンセリング・同席実習・症例記録作成・カンファレンスでの症例報告・討議・電話フォローアップ)。関連学会・セミナーに出席、積極的に参加し、レポートをまとめる。			
1月-3月は、「遺伝カウンセラー業務実習」として遺伝カウンセリング電話予約対応などの認定遺伝カウンセラー業務の実践についても実習する。			
【到達目標】			
クライアントへの適切な接し方を体得する。予診の聴取、家系図の作成が適切に可能となる。症例の問題点について、担当医らと討議できる。症例をまとめ、医学的・心理社会的・倫理的問題について文献を検索し、最新情報入手できる。カンファレンスで、症例を提示し、討論を行うことができる。関連する部局と適切な情報交換、連携が可能であり、チーム医療を実践できる。			
【授業計画と内容】			
【遺伝カウンセリング実習】			
1年次の後半から遺伝カウンセリング実習を開始する。学生個人個人の知識・到達度や実習のavailabilityから判断して、実習の開始時期や頻度を決定する。2年間で60症例程度を経験する。ごく初期は同席のみであるが、できるだけ実際の遺伝カウンセリングに少しでも参加することが望まれる。そこで、予診や家系図作成などの初期インターク(プレ遺伝カウンセリング)を行う。個々のケースについて症例記録・ログブックを作成し、担当教員に確認の上、できるだけ早く(遅くとも1週間以内に)確定し、所定の場所に保存する。類型化シートも作成する。また、経験した症例をカンファレンスで発表し、討論する。1ケースあたり、(準備や検索を含めると)6時間程度が必要となる。家族性腫瘍、神経変性疾患、出生前診断・染色体異常、遺伝性難聴、眼科疾患、先天奇形、先天性代謝異常、その他、できるだけバラエティに富んだ疾患の症例の経験をするようにつとめる。・京都大学医学部附属病院遺伝子診療部(耳鼻科遺伝難聴外来含む): 月一金(コース全員で交代、担当医が不要と判断しない限り、必ず実習生が同席すること)・兵庫医科大学遺伝子医療部: 火曜(1名)交代で必ず実施・高槻病院小児科・産婦人科(3-4クール)。オンラインでの実習も経験する。			
遺伝カウンセリング後の電話フォローアップについては原則として遺伝カウンセラーコース院生が対応し、実質的なOJT(on the job training)、インターンシップを行う。			
<症例記録の書き方の注意: 抜粋>			
1. ファイル名: カルテ番号+短い疾患名+受診日とする(例)999FAP120915			
再診のときは、前回のものに追記したものに再診日と回数を記載。(例)999FAP1261013-2			
2. 本文のタイトルの前にカルテ番号を入れる。			
3. クライアント氏名は記載しないが、診療施設の名前などは全て実名記載する。			
-----			
遺伝カウンセリング実習1 (GC限定) (2)へ続く ↓↓↓			

遺伝カウンセリング実習1 (GC限定) (2)	
4. 時間(終了時間、所要時間)も入れる。	
5. 家系図はパワーポイントで、別ファイルに。ファイル名は、上記のワードファイルと同じ。	
【学会・研修会への参加】	
より幅広い知識・経験を積むため、下記の学会・研修会等への参加は原則として2年間必修とする(経費はできるだけサポートする)。学会発表、セミナーでの積極的な活動が奨励される。下記以外の学会・セミナーについても遺伝カウンセリングに関係の深いものについては参加を推奨する。また、これらの機会を利用し積極的な人脈作りを行うべきである。また、患者会・サポートグループなど積極的に参加することが勧められる。適宜情報を提供する。	
【履修要件】	
遺伝カウンセラーコース限定必修(事前確定科目) 1回生は「遺伝カウンセリング実習1」、2回生は「遺伝カウンセリング実習2」	
【成績評価の方法・観点】	
実習への積極的な参加などを総合的に評価する。	
【教科書】	
実際のクライアントに接した経験ほど重要な資源はない。	
【参考書等】	
(参考書)	
【授業外学修(予習・復習)等】	
【2023年度の必須参加予定】(変更ある場合はその都度連絡します)	
6月16日(金)-17(土) 日本遺伝性腫瘍学会*高知市文化プラザかるぼーと7Fギャラリー(ハイブリッド)	
2023年7月7日(土) ~9日(日) 日本遺伝カウンセリング学会*まつもと市民芸術館(〒390-0815 長野県松本市深志3-10-1)	
2023年7月28日(金) ~7月29日(土) 日本遺伝子診療学会*三井ガーデンホテル千葉(千葉県千葉市)	
9月ごろ遺伝カウンセリング研修会(2回生のみ)	
9月ごろ遺伝医学セミナー三井ガーデンホテル千葉(千葉県千葉市)?	
2023年10月11日(水) ~14日(土) 日本人類遺伝学会・全国遺伝子医療部門連絡会議* 都市センターホテル(東京都)	
未定遺伝カウンセリングアドバンスセミナー(1回生のみ)	
(2023年度入学者が2回生になった際の参加学会・研修会は上記と同一ではありません。)	
経費補助を受けて学会・セミナー等へ参加した場合は、レポートを提出すること。レポートはA4用紙で参加日数枚数を目安とし、速やかに提出すること(最大1ヶ月以内)。また、これらのレポートについては、報告書として冊子化されることがあることを了解すること。2回生は*のいずれかの学会で一度は研究発表をおこなうことが望ましい。	
-----	
遺伝カウンセリング実習1 (GC限定) (2)へ続く ↓↓↓	

遺伝カウンセリング実習1 (GC限定) (3)	
(その他 (オフィスアワー等))	
クライアントのいかなる情報についても守秘を徹底すること。遺伝カウンセリング内容についての会話は、部外者のいるところではないこと、内容を記したノート類は、部外者の目にふれないようにすること。ノートの貸し借りは禁止。守秘できない場合は、退学処分とする。	
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	

科目ナンバリング	P-PUB01 8N010 P190		
授業科目名 <英訳>	遺伝カウンセリング実習2 (GC限定) Genetic Counselling, Practice 2	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 准教授 中島 健
配当 学年	専門職	単位数	4
開講年度 開講期	2023・ 通年不定	曜時限	その他
授業形態	実習	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】			
【I. コースの概要】			
遺伝カウンセリングの現場に同席し、その現状を体験するとともに、予診の聴取（プレカウンセリング）、家系図の作成、電話フォローアップなどを実際のクライアントに対しておこなう。 担当者：中島健（科目責任者）、和田敬仁、小川昌宣、川崎秀徳、澤井英明、四本由郁、鳥嶋雅子、吉田晶子、村上裕美、本田明夏、稲葉慧			
【II. 教育・学習方法】			
実習（準備・プレ遺伝カウンセリング・同席実習・症例記録作成・カンファレンスでの症例報告・討議・電話フォローアップ）。関連学会・セミナーに出席、積極的に参加し、レポートをまとめる。			
1月～3月は、「遺伝カウンセラー業務実習」として遺伝カウンセリング電話予約対応などの認定遺伝カウンセラー業務の実践についても実習する。			
【到達目標】			
クライアントへの適切な接し方を体得する。予診の聴取、家系図の作成が適切に可能となる。症例の問題点について、担当医らと討議できる。症例をまとめ、医学的・心理社会的・倫理的問題について文献を検索し、最新情報を入手できる。カンファレンスで、症例を提示し、討論を行うことができる。関連する部局と適切な情報交換、連携が可能であり、チーム医療を実践できる。			
【授業計画と内容】			
【遺伝カウンセリング実習】			
1年次の後半ころから遺伝カウンセリング実習を開始する。学生個人個人の知識・到達度や実習のavailabilityから判断して、実習の開始時期や頻度を決定する。2年間で60症例程度を経験する。ごく初期は同席のみであるが、できるだけ実際の遺伝カウンセリングに少しでも参加することが望まれる。そこで、予診や家系図作成などの初期インターク（プレ遺伝カウンセリング）を行う。個々のケースについて症例記録・ログブックを作成し、担当教員に確認の上、できるだけ早く（遅くとも1週間以内に）確定し、所定の場所に保存する。類型化シートも作成する。また、経験した症例をカンファレンスで発表し、討論する。1ケースあたり、（準備や検索を含めると）6時間程度が必要となる。家族性腫瘍、神経変性疾患、出生前診断・染色体異常、遺伝性難聴、眼科疾患、先天奇形、先天性代謝異常、その他、できるだけパラエティに富んだ疾患の症例の経験をするようにつとめる。・京都大学医学部附属病院遺伝子診療部（耳鼻科遺伝難聴外来含む）：月一金（コース全員で交代、担当医が不要と判断しない限り、必ず実習生が同席すること）・兵庫医科大学遺伝子診療部：火曜（1名）交代で必ず実施・高槻病院小児科・産婦人科（3-4クール）。オンラインでの実習も経験する。			
遺伝カウンセリング後の電話フォローアップについては原則として遺伝カウンセラーコース院生が対応し、実質的なOJT(on the job training)、インターンシップを行う。			
<症例記録の書き方の注意：抜粋>			
1. ファイル名：カルテ番号+短い疾患名+受診日とする（例）999FAP120915			
再診のときは、前回のものに追記したものに再診日と回数を記載。（例）999FAP1261013-2			
2. 本文のタイトルの前にカルテ番号を入れる。			
3. クライアント氏名は記載しないが、診療施設の名称などは全て実名記載する。			
遺伝カウンセリング実習2 (GC限定) (3)へ続く↓↓↓			

遺伝カウンセリング実習2 (GC限定) (2)	
4. 時間（終了時間、所要時間）も入れる。	
5. 家系図はパワーポイントで、別ファイルに。ファイル名は、上記のワードファイルと同じ。	
【学会・研修会への参加】	
より幅広い知識・経験を積むため、下記の学会・研修会等への参加は原則として2年間必修とする（経費はできるだけサポートする）。学会発表、セミナーでの積極的な活動が奨励される。下記以外の学会・セミナーについても遺伝カウンセリングに関係の深いものについては参加を推奨する。また、これらの機会を利用し積極的な人脈作りを行うべきである。また、患者会・サポートグループなどへ積極的に参加することが勧められる。適宜情報を提供する。	
【履修要件】	
遺伝カウンセラーコース限定必修（事前確定科目）1回生は「遺伝カウンセリング実習1」、2回生は「遺伝カウンセリング実習2」	
【成績評価の方法・観点】	
実習への積極的な参加などを総合的に評価する。	
【教科書】	
実際のクライアントに接した経験ほど重要な資源はない。	
【参考書等】	
(参考書)	
【授業外学修（予習・復習）等】	
【2023年度の必須参加予定】（変更ある場合はその都度連絡します）6月16日(金)-17(土)日本遺伝性腫瘍学会*高知市文化プラザさるぼと7Fギャラリー（ハイブリッド）	
2023年7月7日（金）～9日(日)日本遺伝カウンセリング学会*まつもと市民芸術館〒390-0815 長野県松本市深志3-10-1)	
2023年7月28日（金）～7月29日（土）日本遺伝子診療学会*三井ガーデンホテル千葉（千葉県千葉市）	
9月ごろ遺伝カウンセリング研修会(2回生のみ)	
9月ごろ遺伝医学セミナー三井ガーデンホテル千葉（千葉県千葉市）？	
2023年10月11日（水）～14日（土）日本人類遺伝学会・全国遺伝子医療部門連絡会議*都市センターホテル（東京都）	
未定遺伝カウンセリングアドバンスセミナー(1回生のみ)	
（2023年度入学者が2回生になった際の参加学会・研修会は上記と同一ではありません。）	
経費補助を受けて学会・セミナー等へ参加した場合は、レポートを提出すること。レポートはA4用紙で参加回数枚数を目安とし、速やかに提出すること(最大1ヶ月以内)。また、これらのレポートについては、報告書として冊子化されることがあることを了解すること。2回生は*のいずれかの学会で一度は研究発表をおこなうことが望ましい。	
遺伝カウンセリング実習2 (GC限定) (3)へ続く↓↓↓	

遺伝カウンセリング実習2 (GC限定) (3)	
(その他 (オフィスアワー等))	
クライアントのいかなる情報についても守秘を徹底すること。遺伝カウンセリング内容についての会話は、部外者のいるところではないこと、内容を記したノート類は、部外者の目にふれないようにすること。ノートの貸し借りは禁止。守秘できない場合は、退学処分とする。	
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	

科目ナンバリング	P-PUB01 8H168 LB90										
授業科目名 <英訳>	遺伝サービス情報学 Genetic service informatics				担当者所属・ 職名・氏名						
配当 学年	専門職	単位数	1	開講年度・ 開講期	2023・ 前期集中	曜時間	水・6	授業 形態	講義	使用 言語	日本語及び英語
<b>【授業の概要・目的】</b>											
遺伝医療に従事する者にとって、遺伝関連情報の収集・評価は必要不可欠な技術に現在なっている。本コースでは、一般的な医療情報のデータベースならびにガイドライン検索に加えて、遺伝子と遺伝性疾患に関連するデータベースの利用方法、バリエーションの評価方法を体系的に学習し、遺伝医療におけるEBM（根拠に基づく医療）の実践のために必要な知識・技術を学ぶ。											
<b>【到達目標】</b>											
医療情報や遺伝情報のデータベースをその目的に応じて適切に使い分けるとともに、必要な情報を検索した上で、批判的吟味を適切に実施できるためのスキルを習得する。											
<b>【授業計画と内容】</b>											
【第1回】5月17日 和田 遺伝性疾患の情報検索 OMIMやGeneReviews等の遺伝性疾患のデータベースの使い方について学ぶ											
【第2回】5月24日 中島 文献管理法 EndNoteやMendeley、Zotero、RefWorks等の文献管理ツールについて学ぶ											
【第3回】5月31日 小川 文献検索法 PubMedや医中誌等を用いた文献検索の概要に関して学ぶ											
【第4回】6月7日 川崎 EBMの実践 EBMの基本的な考え方を学び、その実践のために必要なプロセスを整理する											
【第5回】6月14日 和田 Genome Browser UCSC Genome Browserを用いて、ゲノム情報の検索を行う											
【第6回】6月21日 中島 バリエーションの評価 ACMGガイドラインをもとにしたバリエーションの評価方法について学ぶ											
【第7回】6月28日 小川 診療ガイドライン、システムティック・レビュー 診療ガイドラインやシステムティック・レビューの概要について学び、活用の仕方を知る											
【第8回】7月5日 川崎 疾患支援システム 希少疾患の診断支援システムの利活用について学ぶ											
<b>【履修要件】</b>											
遺伝医療と倫理・社会、基礎人類遺伝学の先修が推奨される											
<b>【成績評価の方法・観点】</b>											
レポート、発表、出席等を総合的に評価											
<b>【教科書】</b>											
福嶋義光『トンプソン&トンプソン遺伝医学第2版』（メディカルサイエンスインターナショナル、2017）ISBN:978-4-89592-875-5											
中山智祥『医療に役立つ遺伝子関連Web情報検索 第2版 手とり足とり教えますガイド』（メディカルサイエンスインターナショナル、2020）ISBN:978-4815701970											
----- 遺伝サービス情報学(2)へ続く ↓ ↓ ↓											

遺伝サービス情報学(2)
<b>【参考書等】</b>
(参考書) 坊農秀雅『バリエーションデータ検索&活用 変異・多型情報を使いこなす達人レシピ』（羊土社、2020）ISBN:978-4758122450 水谷修紀『症例でわかる新しい臨床遺伝学』（MEDSI、2008）ISBN:978-4-89592-574-7
<b>【関連URL】</b>
<a href="https://togotv.dbcls.jp/(TogoTV)">https://togotv.dbcls.jp/(TogoTV)</a> <a href="https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/(PubMed)">https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/(PubMed)</a> <a href="https://www.ncbi.nlm.nih.gov/omim/(OMIM)">https://www.ncbi.nlm.nih.gov/omim/(OMIM)</a> <a href="http://www.geneclinics.org/(GeneReviews)">http://www.geneclinics.org/(GeneReviews)</a> <a href="https://genome.ucsc.edu/(UCSC Genome Browser)">https://genome.ucsc.edu/(UCSC Genome Browser)</a>
<b>【授業外学修（予習・復習）等】</b>
講義形式
<b>【その他（オフィスアワー等）】</b>
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。







## 臨床統計家育成(CB)コース

科目ナンバリング	P-PUB01 8H140 LB90										
授業科目名 <英訳>	臨床研究実地研修 I (CB限定) Clinical Research Training I					担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 特定教授 田中 司朗 附属病院 教授 森田 智視 附属病院 助教 阿部 寛康 附属病院 特定助教 中倉 章祥 国立循環器病研究センター 大前 勝弘 国立循環器病研究センター 朝倉 こう子 附属病院 助教 日高 優 附属病院 特定助教 上野 健太郎				
配当 学年	専門職	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 通年集中	曜時限	集中講義	授業 形態	実習	使用 言語	日本語
<b>[授業の概要・目的]</b>											
本研修の目的は、病院での実地研修を通して、臨床統計家育成コースの座学で習得した統計的考え方が現場でどのように応用されているかを実際に学ぶことです。そして、実際の体験・経験から、臨床試験における試験統計家の責務と役割を理解し、臨床試験の計画・実施・報告で試験統計家として必要とされる基本的な能力(態度、技能、知識)を習得することを旨とします。研修は、京都大学医学部附属病院と国立循環器病研究センターの2箇所で行われます。京都大学医学部附属病院での研修は、革新的な新医療技術(医薬品など)開発のための臨床試験の計画と実施に関する内容で主に構成されます。国立循環器病研究センターでの研修は、循環器疾患の医薬品や医療機器の臨床試験の計画と実施を中心とした内容で構成されます。											
<b>[到達目標]</b>											
* 臨床試験の計画と実施の過程、臨床試験の運営・実施体制、研究者・研究支援者、試験統計家などの責任範囲と役割などを理解する。 * 臨床試験実施計画書に記載すべき統計的事項を理解し、臨床試験実施計画書の作成に貢献できるための基本的知識と技術を習得する。 * 統計解析を適切に計画し、それらを実行し、結果を纏めることができるための基本的知識と技術を習得する。 * 臨床試験における研究倫理、利益相反、臨床試験における個人情報保護の基本的事項を理解し、信頼性の高い臨床試験の計画と実施に貢献できる。 * さまざまな説明の方法や手段を駆使し、臨床試験における統計的考え方を人にわかりやすく伝えることができるような態度と方法を身につける。											
<b>[授業計画と内容]</b>											
京都大学医学部附属病院と国立循環器病研究センターにて、7月から9月に集中講義実習を実施します。京都大学医学部附属病院に1日間(1限~6限, 8:45~19:45)、国立循環器病研究センターに6日間(9:30~11:00/11:15~12:45/13:45~15:00/15:15~17:00)訪問します。											
京都大学医学部附属病院の講義実習の内容 ・臨床統計家としての心構え ・統計コンサルティング業務 ・プロジェクトマネジメント業務について ・規制当局対応業務について ・モニタリング業務について											
臨床研究実地研修 I (CB限定) (2)へ続く ↓ ↓ ↓											

科目ナンバリング	P-PUB01 8H147 PB90										
授業科目名 <英訳>	臨床研究実地研修II (CB限定) Clinical Research Training II					担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 特定教授 田中 司朗 附属病院 教授 森田 智視 附属病院 助教 阿部 寛康 附属病院 特定助教 中倉 章祥 国立循環器病研究センター 大前 勝弘 国立循環器病研究センター 朝倉 こう子 附属病院 助教 日高 優 附属病院 特定助教 上野 健太郎				
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 通年集中	曜時限	集中講義	授業 形態	実習	使用 言語	日本語及び英語
<b>[授業の概要・目的]</b>											
本研修の目的は、病院での実地研修を通して、臨床統計家育成コースの座学で習得した統計的考え方が現場でどのように応用されているかを実際に学ぶことです。そして、実際の体験・経験から、臨床試験における試験統計家の責務と役割を理解し、臨床試験の計画・実施・報告で試験統計家として必要とされる基本的な能力(態度、技能、知識)を習得することを旨とします。なお臨床研究実地研修IIは、IIに続いて、より高度な内容を扱います。研修は、京都大学医学部附属病院と国立循環器病研究センターの2箇所で行われます。京都大学医学部附属病院での研修は、革新的な新医療技術(医薬品など)開発のための臨床試験の計画と実施に関する内容で主に構成されます。国立循環器病研究センターでの研修は、循環器疾患の医薬品や医療機器の臨床試験の計画と実施を中心とした内容で構成されます。											
<b>[到達目標]</b>											
* 臨床試験の計画と実施の過程、臨床試験の運営・実施体制、研究者・研究支援者、試験統計家などの責任範囲と役割などを理解する。 * 臨床試験実施計画書に記載すべき統計的事項を理解し、臨床試験実施計画書の作成に貢献できるための基本的知識と技術を習得する。 * 統計解析を適切に計画し、それらを実行し、結果を纏めることができるための基本的知識と技術を習得する。 * 臨床試験における研究倫理、利益相反、臨床試験における個人情報保護の基本的事項を理解し、信頼性の高い臨床試験の計画と実施に貢献できる。 * さまざまな説明の方法や手段を駆使し、臨床試験における統計的考え方を人にわかりやすく伝えることができるような態度と方法を身につける。											
<b>[授業計画と内容]</b>											
京都大学医学部附属病院にて、7月から9月に集中講義実習を実施します。京都大学医学部附属病院に5日間(1限~6限, 8:45~19:45)訪問します。											
京都大学医学部附属病院の講義実習の内容 ・事前課題発表・ディスカッション ・プロトコル作成とデータベース構築実習・ディスカッション ・統計解析計画実習 ・SASプログラム実習 ・統計解析実習・ディスカッション ・臨床試験の論文報告実習 ・統計解析報告発表・ディスカッション											
臨床研究実地研修 II (CB限定) (2)へ続く ↓ ↓ ↓											

臨床研究実地研修 I (CB限定) (3)											

臨床研究実地研修 II (CB限定) (3)											



臨床研究実地研修II (CB限定) (2)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>臨床家による実際の臨床試験紹介</li> <li>標準業務手順書について</li> <li>統計解析結果の品質保証</li> <li>総括報告書について</li> </ul>	
国立循環器病研究センターの講義実習の内容 (今年度は実習対象ではありませんので参考情報です)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>研修概要説明・病院見学</li> <li>循環器疾患基礎</li> <li>倫理・患者同意</li> <li>統計解析</li> <li>統計解析報告書・総括報告書・論文公表</li> <li>統計解析相談・臨床研究相談</li> <li>臨床試験のデータマネジメント</li> <li>臨床試験のモニタリング</li> <li>グループワーク：データマネジメント演習</li> <li>グループワーク：統計解析演習</li> <li>臨床試験のモニタリング見学</li> </ul>	
【履修要件】	
臨床研究実地研修Iを修了していること	
【成績評価の方法・観点】	
実習にて作成する報告書または発表の内容に基づいて評価する。平常点 (出席状況など) も考慮する。	
【教科書】	
使用しない	
【参考書等】	
(参考書) 実習中に指示する。	
【授業外学修 (予習・復習) 等】	
実習中に指示する。	
【その他 (オフィスアワー等)】	
人間健康科学系専攻学生の受講可否： 不可	
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	

科目ナンバリング		P-PUB01 8H139 LJ90	
授業科目名 <英訳>	臨床統計家の実務スキル (CB限定) Practical Skills for Clinical Biostatisticians	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 特定教授 大森 崇 医学研究科 教授 佐藤 俊哉 医学研究科 特定助教 大宮 将義
配当 学年	専門職	単位数	1
開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	月5
授業 形態	実習	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】			
臨床研究を行う中での統計家の役割を意識し、通して実務において必要となる統計ソフトを用いた実習を行います。具体的には、データの読み込み、プログラミングによる解析のためのデータセットの作成、解析、ファイルへの出力の知識と、プログラミングによる集計、表・リスト・図の作成を学びます。統計ソフトウェアはSASとRを使用します。			
【パワーポイントによる講義と統計ソフトによる実習】			
【到達目標】			
<ul style="list-style-type: none"> <li>臨床研究の実務における統計ソフトのプログラミングの必要性を説明できる</li> <li>集計・グラフ・統計解析のためのプログラムを作成できる</li> <li>データを読み込み、解析に適したデータセットに加工できる</li> <li>表・リスト・図を作成し、出力できる</li> </ul>			
【授業計画と内容】			
第1回	4月10日	実務における統計学の役割1、関連するドキュメント	
第2回	4月17日	SASとRの特徴	
第3回	4月24日	データの入力と読み込み、データセットの作成	
第4回	5月1日	グラフの作成	
第5回	5月8日	データセット、データフレームの加工その1	
第6回	5月15日	データセット、データフレームの加工その2	
第7回	5月22日	データセット、データフレームの加工その3	
第8回	5月29日	集計と統計解析	
第9回	6月5日	実務における統計学の役割2、表・リスト・図	
第10回	6月12日	R functionとSAS マクロ	
第11回	6月19日	実務における統計学の役割3、出力結果の保存	
第12回	6月26日	実務における統計学の役割4、総括報告書	
第13回	7月3日	実務における統計学の役割5、統計コンサルテーション	
第14回	7月10日	課題の発表とクラスディスカッション	
【履修要件】			
<ul style="list-style-type: none"> <li>臨床統計家育成コースの学生さんに限定します</li> <li>統計ソフトウェア SAS、R をインストールしたノートパソコンを持参してください</li> </ul>			

臨床統計家の実務スキル (CB限定) (2)へ続く↓↓↓

臨床統計家の実務スキル (CB限定) (2)	
【成績評価の方法・観点】	
平常点およびレポート	
【教科書】	
講義資料等をPandAにアップします	
【参考書等】	
(参考書) 宮岡悦良、吉澤敦子 『SASプログラミング』 (共立出版、2013) ISBN:978-4320110557 船尾嶋男 『The R Tips 第3版: データ解析環境Rの基本技・グラフィックス活用集』 (オーム社、2016) ISBN:978-4274219580 Kleinman K, Horton NJ 『SAS and R: Data Management, Statistical Analysis, and Graphics, Second Edition』 (Chapman and Hall/CRC, 2014) ISBN:978-1466584495	
【授業外学修 (予習・復習) 等】	
授業中に終わらなかったプログラミングは次の回までに終わるようにしてください。授業中に提示される課題を期日までに提出するようにしてください。	
【その他 (オフィスアワー等)】	
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	

科目ナンバリング		P-PUB01 8H144 SB90	
授業科目名 <英訳>	統計的推測の基礎・演習 (CB限定) Practicum in Fundamentals of Statistical Inference	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 特定教授 大森 崇 医学研究科 教授 佐藤 俊哉 統計数理研究所 逸見 昌之 医学研究科 特定助教 大宮 将義
配当 学年	1回生以上	単位数	1
開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	講14 講15
授業 形態	演習	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】			
この授業では、「統計的推測の基礎」の講義内容を中心に、統計関連科目を学ぶ上で、その基礎となる事項に関連した演習問題に取り組み、「統計的推測の基礎」の講義進捗に合わせて、前半では統計的推測全般に係る基礎事項の演習問題に取り組み、後半では統計的推測 (推定・仮説検定・信頼区間) の具体的な演習問題に取り組む。			
この授業の全体を通じての目的は、「統計的推測の基礎」で扱う各テーマの具体的な問題を通じての理解および定着と、それらを通じて得られる統計的推測の基本的な考え方を身に付けることである。前半の演習では、統計関連科目を学ぶ上で必要な計算能力を身につけ、後半の演習では、臨床統計学が応用される現実的問題に近い問題設定に取り組むことで、統計的推測がどのように用いられるかを知り、その有用性を理解する。			
受講生のバックグラウンドは様々であると想定されるため、多くの教員を配置し、各受講生の進捗に合わせて演習を進める。			
【演習形式】 (6月8日まで6限、15日からは5限に開講)			
【到達目標】			
<ul style="list-style-type: none"> <li>統計的推測法および関連する統計手法に必要な技術を理解し、応用することができる</li> <li>基本的な統計量の意味や性質を理解し、それらを自らの手で計算することができる</li> <li>統計的推測の基本事項が、実際の臨床研究等のような場面で必要になるかを理解し、応用上重要な基本的問題を解くことができる</li> </ul>			
【授業計画と内容】			
第1回	4月13日	基礎数学の確認と確率の計算	
	4月20日	休講	
第2回	4月27日	離散型確率変数の基本的な性質	
第3回	5月11日	連続型確率変数の基本的な性質	
第4回	5月18日	複数の確率変数I	
第5回	5月25日	複数の確率変数II	
第6回	6月1日	正規標本に関連する確率分布	
第7回	6月8日	統計的推定の基本事項	
第8回	6月15日	統計的仮説検定の基本事項I	
第9回	6月22日	統計的仮説検定の基本事項II	
第10回	6月29日	線型回帰分析の基礎I	
	7月6日	休講	
第11回	7月13日	線型回帰分析の基礎II	
第12回	7月20日	漸近的方法の基本事項 (極限定理、最尤法とその性質)	
第13回	7月27日	漸近的方法の基本事項II (最尤法に基づく検定)	
第14回	8月3日	漸近的方法の基本事項III (デルタ法、最尤法以外の推定法など)	

統計的推測の基礎・演習 (CB限定) (2)へ続く↓↓↓

統計的推測の基礎・演習 (CB限定) (2)
<b>【履修要件】</b>
臨床統計家育成コース限定科目です
<b>【成績評価の方法・観点】</b>
毎回、演習問題の解答を提出してもらい、その内容に応じて成績評価を行います
<b>【教科書】</b>
個々の進捗に合わせて、演習中に紹介します
<b>【参考書等】</b>
(参考書) 個々の進捗に合わせて、演習中に紹介します
<b>【授業外学修 (予習・復習) 等】</b>
・同日に開催される「統計的推測の基礎」と合わせて履修することで、予習は必要ありません。ただし、微積分や線形代数等の基本的な計算技術に不安があるときは、教員と相談しながら、各自勉強を進めてください
<b>【その他 (オフィスアワー等)】</b>
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	P-PUB01 8H146 LB90										
授業科目名 <英訳>	メタアナリシス (CB・MCR限定) Meta-analysis					担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 特定教授 田中 司朗 医学研究科 特定助教 大宮 将義				
配当 学年	1回生以上	単位数	1	開講年度 開講期	2023・ 前期集中	曜時間	集中講義	授業 形態	演習	使用 言語	日本語及び英語
<b>【授業の概要・目的】</b>											
系統的レビューのための統計手法であるメタアナリシスについて、教科書「新版メタ・アナリシス入門」に沿って講義・実習を行う。CB選択、MPH選択。											
<b>【到達目標】</b>											
・ STATAを用いてメタアナリシスを行う技術を身につける。											
<b>【授業計画と内容】</b>											
・ 講義形式と実習形式、実習は統計ソフトウェアSTATAを用いたデータ解析を行うため、各自でPCを用意すること ・ 実習のアシスタントは、臨床統計スタッフが行う											
第1回 8月7日 (月) 3限 13:15-14:45 メタアナリシスの代表的な方法 (3~6章) (丸尾)											
第2回 8月7日 (月) 4限 15:00-16:30 メタアナリシスの代表的な方法 (3~6章) (田中)											
第3回 8月8日 (火) 3限 13:15-14:45 メタアナリシスの代表的な方法 (3~6章) (田中)											
第4回 8月8日 (火) 4限 15:00-16:30 多変量・ネットワークメタアナリシス (7章、9~10章) (田中)											
第5回 8月9日 (水) 3限 13:15-14:45 多変量・ネットワークメタアナリシス (7章、9~10章) (野間)											
第6回 8月9日 (水) 4限 15:00-16:30 多変量・ネットワークメタアナリシス (7章、9~10章) (田中)											
<b>【履修要件】</b>											
特になし											
<b>【成績評価の方法・観点】</b>											
平常点 (50%)、レポート (50%)											
<b>【教科書】</b>											
丹後俊郎『新版メタ・アナリシス入門—エビデンスの統合をめざす統計手法—』(朝倉書店) ISBN:425412760X											
<b>【参考書等】</b>											
(参考書)											
<b>【授業外学修 (予習・復習) 等】</b>											
STATAの基本的な使用方法を理解しておくこととスムーズに実習に取り組める。											
<b>【その他 (オフィスアワー等)】</b>											
人間健康科学系専攻学生の受講可否： 不可											
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											





## 知的財産経営学プログラム

科目ナンバリング		P-PUB01 8M001 LJ90										
授業科目名 <英訳>	アントレプレナーシップ Entrepreneurship					担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 非常勤講師 寺西 豊 特定教授 鈴木 忍 医学研究科 特定講師 山口 太郎 特定助教 高山 幸次郎 医学研究科 非常勤講師 吉川 友貞 非常勤講師 四本 賢一					
	配当 学年	専門職	単位数	2	開講年度 開講期		2023・ 前期不定	曜時限	月6	授業 形態	講義	使用 言語
<b>[授業の概要・目的]</b>												
<p>コースの概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前半では、汎用性が高い経営管理手法の習得に力を置く。講義とケーススタディ演習を組み合わせ、アントレプレナーに必要な思考様式と基本的な経営管理手法の習得に費やす。</li> <li>後半では、講義とワークショップ（ビジネスプランもしくはビジネスコンセプトの作成が中心）を組み合わせた構成とする。講義では、バイオ・医療産業セクターの産業構造の特徴や最新トピックについても触れたい。</li> <li>年度ごとに重点テーマを変えているが、本年度はデザイン思考とビジネスモデル及びベンチャーの事業開発の手法の2点である。前者については、デザイン思考に基づくビジネスモデル作成のスキルを習得する。後者については、ベンチャー固有の資金調達手法（含：VCからの調達、公的金融機関、リース、産業ファイナンス等）と事業計画作成スキルを、講義と演習を通じて身につけてもらいたい。</li> </ul> <p>教育・学習方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本講座は、講義、ケーススタディ演習、ワークショップから構成される。ケーススタディ演習とワークショップに関しては、小グループによるプレゼンテーションがある。</li> </ul>												
<b>[到達目標]</b>												
<ul style="list-style-type: none"> <li>コースで習得した思考様式・経営管理手法・業界関連知識を活用することにより、医療系起業家としてのスキルを習得する。</li> <li>これにより、事業シース探索から事業開発計画の立案まで出来る能力を獲得する。</li> <li>この様な人材を当講座から輩出し、起業家と研究者との両面の資質を備えた人材を育成し、事業化成功の確率向上に寄与することが、本講座の最終目的である。</li> </ul>												
<b>[授業計画と内容]</b>												
第1回 4月10日ガイダンス 第2回 4月17日ビジネスモデルと収益構造 第3回 4月24日最適なビジネスモデルと戦略 第4回 5月8日財務諸表の読み方（外部講師） 第5回 5月15日 The Food Truck Challenge（外部講師） 第6回 5月22日ショートケース演習（損益計算書の活用） 第7回 5月29日個人のビジネスアイデア紹介 第8回 6月5日資金調達（外部講師） 第9回 6月12日サイエンスカフェ方式でのアイデアの展開チームアップ（グループ化） 第10回 6月19日 Startup企業に役立つ知財												
アントレプレナーシップ(2)へ続く↓↓↓												

<b>アントレプレナーシップ(2)</b>												
第11回 6月26日中間発表 第12回 7月3日新規事業展開（外部講師） 第13回 7月10日ベンチャーのあゆみ（外部講師） 第14回 7月24日会社設立に関する法務・会計・税務（外部講師） 第15回 7月31日ビジネスモデルコンペ												
*外部講師の都合等で日程変更の可能性あり。												
<b>[履修要件]</b>												
知財必修・MPH選択												
<b>[成績評価の方法・観点]</b>												
以下の3点を総合的に勘案して評価する。 ①平常点（出席を含む）、発言頻度（ケーススタディ演習によるプレゼンテーション、ディスカッションへの積極的参加等） ②チームワーク ③ビジネスモデル発表（orレポート提出）												
<b>[教科書]</b>												
必須テキスト：なし。講師が作成したPPT資料で代用。その他、適時講義中に参考資料を提示												
推奨テキスト： 「バイオデザイン」ステファノス・ゼニオス、ジョシュ・マコーワー、その他（業事日報社） 「コーポレートファイナンス第6版上・下」リチャード・ブリーリー、スチュワート・マイヤーズ（日経BP社） 「ビジネスモデル・ジェネレーション：ビジネスモデル設計書」アレックス・オスターワルダー（翔泳社） 「リーン・スタートアップ」エリック・リース（日経BP社）												
<b>[参考書等]</b>												
（参考書） 授業中に紹介する												
<b>[授業外学修（予習・復習）等]</b>												
ビジネスモデル作成にあたり、担当チームでの検討作業が必須となる。												
<b>[その他（オフィスアワー等）]</b>												
・タイトな講義内容ですが、合理的なカリキュラムを練っております。単なる知識の習得と言うよりも、ビジネス社会で通じる実践的な思考を習得出来るよう工夫しています。 ・17年度受講者が講義内で作成したビジネスモデルを基本としたものが、日刊工業新聞主催のビジネスコンペで入賞。また、23年度受講者のビジネスモデルは、大阪商工会議所・大阪NPOセンター等が主催する「CBフォーラムおおさか2011」での事業紹介として取り上げられ、大阪NPOセンターの事業化支援対象事業となりました。												
アントレプレナーシップ(3)へ続く↓↓↓												

<b>アントレプレナーシップ(3)</b>												
・このコースを受講した方は、M021夏期集中講義「アントレプレナーシップ特論」（ビジネスゲームによるキャッシュフロー管理、管理会計学の基礎入門コース）を受講できます。 ・講義は原則対面ですが、やむを得ない事情によりオンライン講義を実施する場合があります。												
人間健康科学系専攻学生の受講可否：可												
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。												

科目ナンバリング		P-PUB01 8M026 LJ90										
授業科目名 <英訳>	メディカル分野技術経営学概論 Introduction to Technology Management in Medical Science					担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 山本 博一 非常勤講師 池田 隆文					
	配当 学年	専門職	単位数	2	開講年度 開講期		2023・ 前期不定	曜時限	木6	授業 形態	講義	使用 言語
<b>[授業の概要・目的]</b>												
医療関連産業では、近年デジタル技術などの新しい技術（モダリティー）が数多く取り入れられている。それら新しい技術の導入と共に本産業分野では、旧来の医薬品産業、医療機器産業といったそれぞれの産業カテゴリー内の変化に加え、それら従来の枠組みを超えた新しいビジネスモデルの登場など、これまでにない大きな変化が生じている。また、新しいビジネスモデルの登場とともに、従来の枠を超えたオープンイノベーションの枠組みが重要となってきた。												
医薬品及び医療機器、再生医療産業は、ライフサイエンスの最先端の研究成果が直に適用される産業である。また、規制、倫理の観点から見た課題解決や、ベンチャーや産学連携組織の構築など、様々な分野の研究の成果が集積している産業でもある。												
本授業では、学内の講師とともに、医療産業の現場で活躍されている方を複数外部講師として招へいし、医薬品（新薬）及び医療機器（デジタルヘルスを含む）、再生医療などの医療関連産業における研究・開発やビジネス及び、産業の最新動向についてその概略を学ぶ。本年はその一環として、本産業分野において重要な役割を担うstartupを起業され活躍されている、あるいはstartupで仕事をされている医師を複数講師として招き講義をいただく予定である。												
<b>[到達目標]</b>												
本授業を通して、医療産業に興味のある多様な専門性を持った受講生が産業の全体像を理解し、自らの専門性が本産業において果たす役割と重要性を理解すること。本分野でイノベーションリーダーとして活躍する素地を得ること。												
大学の研究成果の移転、大学発ベンチャー創出などの基礎知識を持ち、受講生自身の研究の産業化、技術移転に必要な情報の取得とその方法の理解を通じ、企業との共同研究の企画、startup創出などの参考となる事象を理解できることも目標の一つである。												
<b>[授業計画と内容]</b>												
第1回 4月13日 本講座の概要、医療関連産業とモダリティーの変遷（1） 第2回 4月20日 医薬品開発の基礎I 第3回 4月27日 医薬品産業の基礎II 第4回 5月11日 医療関連産業とモダリティーの変遷（2） 第5回 5月18日 医療機器、デジタルヘルスの基礎 第6回 5月25日 医療機器イノベーション（手術機器） 第7回 6月1日 AIと画像診断 第8回 6月8日 薬事（医薬品、医療機器） 第9回 6月15日 デジタル医療の薬事最新情報及びstartupの挑戦 第10回 6月22日 Startup（1）医療機器・遠隔診療 第11回 6月29日 メガファーマの研究開発戦略 第12回 7月6日 Startup（2）分析機器 第13回 7月13日 Startup（3）創薬関連 第14回 7月20日 Startup（4）細胞医療 第15回 7月27日 再生・細胞医療												
メディカル分野技術経営学概論(2)へ続く↓↓↓												

メディカル分野技術経営学概論 (2)	
-----	
*外部講師の都合により日程変更等の可能性があります。 *講義は毎週木曜6限(6/8のみ5限)、MIC棟1Fセミナー室で行います。	
<b>[履修要件]</b>	
知財必修・MPH選択 医療関連産業に興味をお持ちの方はどなたでも受講可能です。	
<b>[成績評価の方法・観点]</b>	
平常点(出席を含む)、発表とレポートにより総合的に評価する。	
<b>[教科書]</b>	
使用しない	
<b>[参考書等]</b>	
(参考書) 授業中に紹介する	
<b>[授業外学修(予習・復習)等]</b>	
適宜予習復習を求める	
<b>(その他(オフィスアワー等))</b>	
講義の一部は創薬医学概論と共通の講義(第2回、3回、8回)となります。講義は毎週木曜6限(6/8のみ5限)、MIC棟1Fセミナー室で行います。  *オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	

科目ナンバリング	P-PUB01 8M024 SJ90										
授業科目名	特許法特論・演習(前期)					担当者所属・職名・氏名		非常勤講師 高山 周子 非常勤講師 東田 進弘			
<英訳>	Special Lecture and Practicum for the Patent Law I										
記号	専門職	単位数	2	開講年度	2023・前期不定	曜時限	水6	授業形態	特論	使用言語	日本語
<b>[授業の概要・目的]</b>											
I. コースの概要 本講義では、特許法の概略を学ぶと共に、化学・ライフサイエンスの分野の特許実務のポイントと特有の点を理解する。 裁判例に基づいた説明と演習で理解を深める。											
II. 教育・学習方法 ・パワーポイント資料を中心にした講義											
<b>[到達目標]</b>											
1. 特許法の基礎を学ぶ。 2. 一般的な特許実務に加え、化学・ライフサイエンス分野に特有の考え方を理解する。 3. 1と2を通じて、弁理士、特許庁審査官・審判官、その他知財専門家と円滑な意思疎通を図るために必要なレベルの知識を習得する。											
<b>[授業計画と内容]</b>											
1. 4月12日 高山 特許実務総論(1) 特許制度の概略、化学・ライフサイエンス分野の特許出願戦略のあり方(事例紹介)											
2. 4月19日 高山 特許実務総論(2) 発明の定義とカテゴリー											
3. 4月26日 東田 記載要件(1) 実施可能要件、サポート要件等											
4. 5月10日 東田 記載要件(2) 明確性要件、明細書・実施例の記載等											
5. 5月17日 高山 発明の新規性 発明の新規性、産業上利用可能性											
6. 5月24日 東田 先願 特許法39条、29条の2、上位概念・下位概念の考え方等											
7. 5月31日 高山 発明の進歩性(1) 実務における発明の進歩性の考え方											
8. 6月7日 高山 発明の進歩性(2) 発明の効果の顕著性と真質性、数値限定発明や選択発明の考え方											
----- 特許法特論・演習(前期)(2)へ続く ↓ ↓ ↓											

<b>特許法特論・演習(前期)(2)</b>	
-----	
9. 6月14日 東田 実務上重要な手続き(1) 審査手続き、手続補正と新規事項、分割・国内優先権主張出願、化学・ライフサイエンス分野に特有の実務上の重要事項等	
10. 6月21日 高山 実務上重要な手続き(2) 早期審査、情報提供、審判、特許異議申立て制度、特許の存続期間と延長登録制度	
11. 6月28日 東田 特許権 特許権の効力、先使用权、消尽論、実施権等	
12. 7月5日 東田 特許侵害訴訟等(1) 特許侵害訴訟概要、無効の抗弁、損害額等	
13. 7月12日 東田 特許侵害訴訟等(2) クレーム解釈、均等論、間接侵害等	
14. 7月19日 高山 条約及び外国特許出願 パリ条約による保護、特許協力条約による保護、外国出願実務	
15. 7月26日 高山 確認試験	
<b>[履修要件]</b>	
知財必修・MPH選択	
<b>[成績評価の方法・観点]</b>	
平常点(出席を含む)、および効果確認試験(最終日)	
<b>[教科書]</b>	
テキストとして講義ごとにプリントを配布します。	
<b>[参考書等]</b>	
(参考書) 参考書は、特に指定はありません。例えば、下記のような資料を参考にして下さい。 (参考書等) a) 標準特許法 第7版(高林 龍著 有斐閣) b) 特許庁説明会テキスト「特許庁HP」>お知らせ>イベント情報>特許庁主催説明会・シンポジウム>説明会テキスト(2021年度知的財産権制度入門テキストの「第2章 産業財産権の概要」の「第1節 特許制度の概要」) c) 知的財産権法文集(発明協会)	
----- 特許法特論・演習(前期)(3)へ続く ↓ ↓ ↓	

<b>特許法特論・演習(前期)(3)</b>	
-----	
<b>[授業外学修(予習・復習)等]</b>	
上記の特許庁説明会テキストの「第1節 特許制度の概要」等の該当箇所を一読しておいて下さい。	
<b>(その他(オフィスアワー等))</b>	
・本講座と併せて知的財産経営学基礎を受講することを推奨します。	
人間健康科学系専攻学生の受講可否：可	
原則対面での講義ですが、やむを得ない事情によりオンライン講義を実施する場合があります。	
*オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	

科目ナンバリング	P-PUB01 8M004 SJ90										
授業科目名 <英訳>	契約実務演習 Business Contract Practice				担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 特定准教授 鈴木 裕史 医学研究科 特定教授 早乙女 周子					
配当 学年	専門職	単位数	2	開講年度 開講期	2023・ 後期不定	曜時限	火 6	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
<b>[授業の概要・目的]</b>											
<p>コースの概要</p> <p>研究成果を活用してビジネスを行うためには、他者との効果的な連携が重要である。知的財産の創出、保護、活用といった各段階において、成果知財の価値最大化や紛争の回避・解決のために、契約についての知識や実行能力が必要となる。</p> <p>本演習では、契約についての基礎知識を学ぶ他、秘密保持契約、共同研究契約、特許ライセンス契約など研究の実施や研究成果の活用の際に関係する契約について、契約書サンプルを用い、契約締結における注意点について学ぶ。また、リーガルサーチの方法や交渉の基礎的技術等を創業分野の事例に基づいて学ぶ。</p> <p>教育・学習方法 講義および演習参加</p>											
<b>[到達目標]</b>											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・契約の基礎を理解しリーガルリテラシーを高める</li> <li>・研究開発関連契約を締結するプロセス、注意点を理解する</li> <li>・簡単な契約書を作成することができる</li> </ul>											
<b>[授業計画と内容]</b>											
第1回(鈴木) 10月 3日 契約概説 第2回(鈴木) 10月 10日 契約書について(1) 第3回(鈴木) 10月 17日 契約書について(2) 第4回(鈴木) 10月 24日 秘密保持契約 第5回(鈴木) 10月 31日 共同研究契約 第6回(鈴木) 11月 7日 共同研究契約 第7回(早乙女) 11月 14日 リーガル・サーチ 第8回(早乙女) 11月 21日 交渉術 第9回(鈴木) 11月 28日 研究開発関連契約各論(1) 第10回(鈴木) 12月 5日 研究開発関連契約各論(2) 第11回(鈴木) 12月 12日 研究開発関連契約各論(3) 第12回(鈴木) 12月 19日 研究開発関連契約各論(4) 第13回(鈴木) 1月 9日 研究開発関連契約各論(5) 第14回(鈴木) 1月 16日 研究開発関連契約各論(6) 第15回(鈴木) 1月 30日 契約交渉演習											
※第9回～第14回の研究開発関連契約各論では、受講生の志向を考慮しMaterial Transfer Agreement、研究委託契約、特許ライセンス契約、データ取扱い契約などの契約を取り上げる予定。また、いず											
契約実務演習(2)へ続く ↓ ↓ ↓											

<b>契約実務演習(2)</b>
<p>-----</p> <p>いくつかの回で企業等で契約を担当している外部講師による講義も行う予定。</p>
<b>[履修要件]</b>
<p>知財必修・MPH選択 事前或いは同時に履修することが推奨される科目：知的財産経営学基礎、特許法特論・演習</p>
<b>[成績評価の方法・観点]</b>
<p>平常点(出席を含む)、課題の提出、演習への参加、発表</p>
<b>[教科書]</b>
<p>必須テキスト：なし。資料等は教員より提供する</p>
<b>[参考書等]</b>
<p>(参考書) 知っておきたい知的財産契約の基礎知識 <a href="https://www.inpit.go.jp/katsuyo/ip-contract.html">https://www.inpit.go.jp/katsuyo/ip-contract.html</a></p> <p>その他は授業中に紹介する</p>
<b>[授業外学修(予習・復習)等]</b>
<p>適宜指示する</p>
<b>(その他(オフィスアワー等))</b>
<p>人間健康科学系専攻学生の受講可否：可(事前に連絡してください)</p> <p>※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。</p>

科目ナンバリング	P-PUB01 8M017 LJ90										
授業科目名 <英訳>	知的財産経営学 基礎 Intellectual Property Management in Medical Science				担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 特定教授 早乙女 周子 非常勤講師 藤井 淳 非常勤講師 田中 順也					
配当 学年	専門職	単位数	2	開講年度 開講期	2023・ 前期不定	曜時限	火 6	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
<b>[授業の概要・目的]</b>											
<p>オープンイノベーションが推進される中、企業研究者のみならずアカデミアの研究者も知的財産に関する知識を持ち、円滑な産学連携活動を行うスキルが求められている。本講義では、ライフサイエンス分野の研究成果を社会に還元するために必要な、産学連携に関する知識と知的財産マネジメントについて学習する。</p> <p>具体的には、ライフサイエンス企業のニーズとオープンイノベーションモデル、特許制度の概要、契約について学習する。内容は創業や医学が中心になるが、受講者のバックグラウンドを考慮し、食品や医療機器等のライフサイエンス産業も入れて講義する。</p> <p>最終的には、ライフサイエンス系の研究者が各自の研究生活において、他者権利の侵害回避、自身の研究成果の権利確保と活用に関して自己の判断で問題点を整理し、専門家の助言を適時に得ながら、産学連携を通じて円滑に事業化に進めて行く能力が獲得できる。</p>											
<b>[到達目標]</b>											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各自の研究生活において、他人の権利の侵害行為の回避、自身の研究成果の権利確保と活用に関して、自己の判断で問題点を整理し、専門家の助言を適時に得ながら円滑に進めていくことのできる能力が取得できる。</li> <li>・自らの発明を著実に知的財産として確保できるようになる。</li> <li>・特許の企業へのライセンスや共同研究契約締結を容易に進められるようになる。</li> <li>・研究マテリアルの入手や提供がスムーズに行えるようになる。</li> </ul>											
<b>[授業計画と内容]</b>											
第1回 4月11日イントロダクション(早乙女) 講義の内容、ねらいの確認 第2回 4月18日知的財産とは(藤井) 知的財産権・特許制度の概要、特許戦略の基本、職務発明の基礎知識 第3回 4月25日特許の実務ポイント(藤井) 発明と発見、作用機序の取扱い、医療関連発明、実験データの取扱い 第4回 5月2日特許明細書の基礎(田中) 特許明細書の構成、内容 第5回 5月9日先行技術調査の手法(早乙女) 特許出願の検索方法 第6回 5月16日外国特許戦略(藤井) 外国出願の方法・コスト、出願国の決め方 第7回 5月23日先行技術調査課題の解説、他者の権利侵害回避、試験研究の例外について(早乙女) 第8回 5月30日MTAについて(早乙女) 研究マテリアルの価値、入手、提供、管理システム 第9回 6月6日共同研究(早乙女) 共同研究契約のポイント、各種研究関連契約の基礎 第10回 6月13日実験ノート(早乙女) 実験ノートの扱い、研究発表と特許出願 第11回 6月20日 大学の知的権利化ケース研究【1】(早乙女) 医学発明の例を用いて、小グループで発明概要書を作成 第12回 6月27日 ライフサイエンス特許に関するトピックスI(早乙女) 第13回 7月4日 ライフサイエンス特許に関するトピックスII(早乙女) 第14回 7月11日大学の知的権利化ケース研究【2】(田中) グループ発表、解説 第15回 7月18日技術移転(早乙女) 技術移転、特許のライセンス、TLOの機能、利益相反											
知的財産経営学 基礎(2)へ続く ↓ ↓ ↓											

<b>知的財産経営学 基礎(2)</b>
<b>[履修要件]</b>
<p>知財選択・MPH選択</p>
<b>[成績評価の方法・観点]</b>
<p>平常点(出席を含む：配分 40%)、発表とレポート(配分 60%)により、総合的に評価する。</p>
<b>[教科書]</b>
<p>特に無し。必要な資料は講義にて配布する。</p>
<b>[参考書等]</b>
<p>(参考書) 開蔵 康『これからの生命化学研究者のためのバイオ特許入門講座』(羊土社) ISBN:4897063590 廣瀬 隆行『企業人・大学人のための知的財産権入門 一特許権を中心に』(東京学友同人) ISBN:4807907565</p>
<b>[授業外学修(予習・復習)等]</b>
<p>特になし</p>
<b>(その他(オフィスアワー等))</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・知的財産について興味がある学生ならどなたでも受講できます。</li> <li>・積極的な質問、討議を歓迎します。</li> </ul> <p>人間健康科学系専攻学生の受講可否：可</p> <p>※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。</p>



科目ナンバリング		P-PUB01 8M021 LJ90										
授業科目名 ＜英訳＞	アントレプレナーシップ特論 Special Lecture for Entrepreneurship					担当者所属・ 職名・氏名		医学研究科 特定教授 早乙女 周子 非常勤講師 寺西 豊 医学研究科 特定講師 山口 太郎 医学研究科 特定助教 高山 幸次郎				
	配当 学年	専門職	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期集中	曜時限	夏季集中	授業 形態	特論	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】												
<p>・製造業のビジネスゲームを通じて、管理会計の基礎について学習する。</p> <p>・ビジネスゲームでは製造設備（工場）、原材料の購入、従業員の雇用、商品の生産、販売までを行う。各行動の費用、売上を記帳し、12ヶ月が経過したところで貸借対照表（B/S）及び損益計算書（P/L）を作成し経常利益を算出する。</p> <p>・経営の疑似体験を通じて、経営戦略の検討、ビジネスモデルの構築及び会計の基礎知識を習得する。</p> <p>・経済の専門知識がなくても作成できる財務諸表作成シートを使用することにより、学生のバックグラウンドによらず、会計の基礎知識を習得することができる。さらに、ゲームを通じた演習により、実践的な会計の知識を習得することができる。</p>												
【到達目標】												
<p>経営の疑似体験を通じて、ビジネスに必要な会計の知識を実践的に習得する。</p> <p>そのことにより、実際にアントレプレナーとして起業する際に、事業を成功に導くことができるようなビジネスモデルの構築、予算管理を行うことができる。</p>												
【授業計画と内容】												
<p>第1回 8月3日 導入講義</p> <p>第2回 8月3日 ビジネスゲームルールの説明</p> <p>第3回 8月3日 ビジネスゲームデモ</p> <p>第4-6回 8月4日 ビジネスゲーム I-III</p> <p>第7回 8月4日 管理会計</p> <p>第8回 8月4日 投資と企業経営</p> <p>第9-12回 8月7日 ビジネスゲーム IV-VII</p> <p>第13回 8月7日 ビジネスゲーム発表資料作成</p> <p>第14回 8月8日 ベンチャー経営の実際</p> <p>第15回 8月8日 ビジネスゲーム経営結果の発表と振り返り</p>												
【履修要件】												
<p>知財選択・MPH選択 全講義出席可能であることを必須条件とします。 本講義は演習科目ですので、講義に必要な管理会計の知識はアントレプレナーシップを受講して、予め習得しておいてください。</p>												
----- アントレプレナーシップ特論(2)へ続く ↓ ↓ ↓ -----												

アントレプレナーシップ特論(2)												
-----												
【成績評価の方法・観点】												
平常点（出席を含む：配分 40%）、発表とレポート（配分 60%）により、総合的に評価する。												
【教科書】												
必須テキスト：無し。必要な資料は講義にて配布する。												
【参考書等】												
（参考書）												
【授業外学修（予習・復習）等】												
<p>アントレプレナーシップの講義内容、特にビジネスモデル、会計に関する内容について理解しておくこと。</p> <p>PandAでビジネスゲームのルールの動画を視聴すること。ルールブックを事前に配布するので、ビジネスゲームのルールをよく理解しておくこと。</p>												
【その他（オフィスアワー等）】												
人間健康科学系専攻学生の受講可否：可												
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。												

科目ナンバリング		P-PUB01 8M025 SJ90										
授業科目名 ＜英訳＞	特許法特論・演習（後期） Special lecture and practicum for the Patent Law II					担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 田中 順也				
	配当 学年	専門職	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期不定	曜時限	水6	授業 形態	特論	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】												
<p>授業の概要</p> <p>・化学・バイオ系（ライフサイエンス）の分野を中心として、研究成果である発明の抽出から特許出願、さらには特許取得に至るまでの特許実務について演習を交えて学習する。特に、特許調査及び特許性の判断、実験データ等に基づく明細書（発明説明書）の作成、事例研究について具体例を題材として特許戦略の実務について理解する。</p> <p>教育・学習方法</p> <p>・パワーポイント資料を中心とした講義ならびに実例を使った演習</p> <p>・各自の事前学習を含む事例資料を使用したケース研究講義</p>												
【到達目標】												
<p>学習到達目標（このコース終了時までに習得が期待できること）</p> <p>個人学習・研究を含む演習を通じて、特許戦略の実務について理解を深め、その実務に最低限必要な基礎知識・能力を身に付ける。</p>												
【授業計画と内容】												
<p>第1回 10月4日 特許明細書の読み方と書き方(1)：実際の特許明細書を参照して特許明細書の読み方と書き方を解説</p> <p>第2回 10月11日 特許明細書の読み方と書き方(2)：実際の特許明細書を参照して特許明細書の読み方と書き方を解説</p> <p>第3回 10月18日 特許明細書（発明説明書）の作成（1）：模擬的な実験データ及び発明完成までのシナリオに基づく発明の本質部分の抽出と整理</p> <p>第4回 10月25日 特許明細書（発明説明書）の作成（2）：模擬的な実験データ及び発明完成までのシナリオに基づく発明の本質部分の抽出と整理</p> <p>第5回 11月1日 特許明細書（発明説明書）の作成（3）：模擬的な実験データ及び発明完成までのシナリオに基づく発明の本質部分の抽出と整理</p> <p>第6回 11月8日 特許明細書（発明説明書）の作成（4）：模擬的な実験データ及び発明完成までのシナリオに基づく発明の本質部分の抽出と整理</p> <p>第7回 11月15日 ライフサイエンス分野における特許のポイント(1)</p> <p>第8回 11月22日 特許明細書の分析(1)：特許明細書を分析し、プレゼンテーション・議論する。</p> <p>第9回 11月29日 特許調査及び特許性の判断(1)：1つの特許公開公報を選び、特許調査及び特許性の判断を行い、プレゼンテーション・議論する。</p> <p>第10回 12月6日 特許調査及び特許性の判断(2)：1つの特許公開公報を選び、特許調査及び特許性の判断を行い、プレゼンテーション・議論する。</p> <p>第11回 12月13日 ライフサイエンス分野における特許のポイント(2)</p> <p>第12回 1月10日 事例研究(1)：バイオ・化学関連の審決取消訴訟の事例を題材として、個人学習・プレゼンテーションを踏まえて議論する。</p>												
----- 特許法特論・演習(後期)(2)へ続く ↓ ↓ ↓ -----												

特許法特論・演習（後期）(2)												
-----												
<p>第13回 1月17日 事例研究(2)：バイオ・化学関連の審決取消訴訟の事例を題材として、個人学習・プレゼンテーションを踏まえて議論する。</p> <p>第14回 1月24日 ライフサイエンス分野における特許戦略上の実務ポイント(2)</p> <p>第15回 1月31日 事例研究(3)：バイオ・化学関連の審決取消訴訟の事例を題材として、個人学習・プレゼンテーションを踏まえて議論する。</p>												
【履修要件】												
<p>知財必修・MPH選択 事前に履修することが推奨される科目：「特許法特論・演習（前期）」</p>												
【成績評価の方法・観点】												
レポート（課題に対するプレゼンテーション）、ケース研究への参加を総合的に評価する。												
【教科書】												
<p>必須テキスト：なし。最低限必要な資料は講義にて配布する。</p> <p>推奨テキスト：・特許の知識（竹田和彦著 ダイアモンド社） ・産業財産権標準テキスト特許編（発明協会） ・知的財産権法文集（発明協会）</p>												
【参考書等】												
（参考書）												
【授業外学修（予習・復習）等】												
<p>特許公報、裁判例等を題材とした課題について、授業で発表してもらうため、授業前に事例研究を十分に行うことが必要となる。</p>												
【その他（オフィスアワー等）】												
<p>・特許実務について演習を交えて学習します。不安な方は初回に相談して下さい。</p> <p>・特許に関する基礎的知識がない方は、事前に特許法特論・演習（前期）を履修して下さい。</p> <p>人間健康科学系専攻学生の受講可否：可</p> <p>原則対面だが、やむを得ない事情によりオンライン講義を実施する場合があります。</p> <p>※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。</p>												

科目ナンバリング	P-PUB01 8M007 SJ90										
授業科目名 <英訳>	知的財産法演習 Practicum for Intellectual Properties Protection Law					担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 富麻 博文 非常勤講師 宗定 勇				
配当 学年	専門職	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期不定	曜時限	月6	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
<b>[授業の概要・目的]</b>											
I. コースの概要 ・化学・バイオ系（ライフサイエンス）分野における知的財産が我が国において、どのように保護、活用されているのかを裁判例等を踏まえつつ概観し、その現状、論点等について学習する。 ・過去の判決例からそのエッセンスや傾向を分析し、知的財産を適切に保護および活用するために必要な基本的な方法論を学ぶ。 ・ライフサイエンス分野における知的財産を取り巻く現状についても、併せて学習する。											
<b>[到達目標]</b>											
II. 学習到達目標（このコース終了時までに習得が期待できること） ・過去の重要判決例の主要論点を分析し、論理的にその意義を理解すると共に、具体的な事例演習を通して知的財産を適切に保護する実務能力を身に付ける。 ・判決例からそのエッセンスや近時の傾向を学ぶことにより、ライフサイエンス分野特有の知的財産の保護および活用方法についての実践力を身に付ける。 ・ライフサイエンス分野に関する知的財産を取り巻く現状について理解を深める。											
III. 教育・学習方法 ・パワーポイント資料を中心とした講義、および事例資料を使用した討議や演習を通じて理解を深める。											
<b>[授業計画と内容]</b>											
第1回 10月2日ガイダンス、総論 第2回 10月16日発明者認定の重要性について 第3回 10月23日審決・判決の読み方、審判制度 第4回 10月30日宗定先生：知的資本経営を目指す 第5回 11月6日熊谷先生：審判の役割について 第6回 11月13日審決取消訴訟（新規性、進歩性） 第7回 11月20日審決取消訴訟（進歩性） 第8回 11月27日審決取消訴訟（記載要件、補正、訂正） 第9回 12月4日事例研究（進歩性）（発表、討論） 第10回 12月4日審決取消訴訟（存続期間延長登録出願） 第11回 12月11日特許権侵害訴訟（1）：特許権の効力、特許発明の技術的範囲 第12回 12月18日特許権侵害訴訟（2）：均等論、抗弁等 第13回 1月15日特許権侵害訴訟（3）：間接侵害等 第14回 1月22日事例研究（侵害訴訟）（発表、討論） 第15回 1月29日熊谷先生：国際的な知的財産保護の現状と課題—特許制度を中心に— 試験なし											
※外部講師の都合等で日程変更等の可能性あり。											
知的財産法演習(2)へ続く ↓↓↓											

<b>知的財産法演習(2)</b>
<b>[履修要件]</b>
知財必修・MPH選択 特許法上の実務に関する基礎知識（特許要件、審査基準等）を有していることが望ましい。 事前あるいは同時に履修することが推奨される科目：「特許法特論・演習（前期、後期）」
<b>[成績評価の方法・観点]</b>
平常点（出席を含む）、および課題発表、レポートの提出により、総合的に評価する。
<b>[教科書]</b>
必須テキスト：なし。必要な資料等は講義にて配布する。 推奨テキスト：別冊ジュリスト 特許判例百選 第5版 [No.244]（2019年8月発行）
<b>[参考書等]</b>
（参考書） 授業中に紹介する
<b>[授業外学修（予習・復習）等]</b>
講義で紹介する予定の判決例を予習し、争点を把握しておく。
<b>[その他（オフィスアワー等）]</b>
・化学、バイオ等についての高度な専門知識は要しない（技術内容については必要に応じて適宜説明する。）。 ・講義予定は、暫定的なものであり、変更があり得るため、注意のこと。 ・講義は原則対面で実施するが、やむを得ない事情によりオンライン講義を実施する場合もある。 ・12月4日は、5限及び6限の連続講義となる予定である。
人間健康科学専攻学生の受講可否： 可
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	P-PUB01 8M028 LB90										
授業科目名 <英訳>	創薬医学特論 Special Lecture for Drug Discovery					担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 特定教授 早乙女 周子				
配当 学年	専門職	単位数	1	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	その他	授業 形態	講義	使用 言語	日本語及び英語
<b>[授業の概要・目的]</b>											
現在の創薬は、従来の低分子医薬品の他、抗体、核酸医薬などモダリティが多様となっている。また、薬物送達技術やAIによる創薬など、創薬に関する基盤技術も発展してきている。更に、製薬企業のみならず、ベンチャー企業も革新的医薬品の創出に貢献している。これらの創薬研究を行っている製薬企業やベンチャーの研究者から、実例を交えて講義を行う。このことにより、最先端の創薬活動に関して理解をすることができる。											
<b>[到達目標]</b>											
創薬事例を学ぶことにより、創薬戦略、研究開発、ビジネスモデルを理解することができる。創薬基盤技術とその応用について理解することができる。											
<b>[授業計画と内容]</b>											
第1回 10月6日 5限（MIC2階会議室）ガイダンス／創薬の基礎 第2回10月13日 5限（MIC2階会議室）バイオベンチャーの資金調達 第3回 10月20日 5限（MIC2階会議室）エミシズマブの創薬 第4回 10月27日 5限（MIC2階会議室）DDS 第5回 11月10日 5限（MIC2階会議室）住友ファーマの創薬研究 第6回 11月17日 5限（MIC2階会議室）バイオベンチャーの創薬Ⅰ 第7回 12月1日 5限（MIC2階会議室）バイオベンチャーの創薬Ⅱ 第8回 創薬事例 創薬分野における新技術 等（調整中）											
*外部講師の都合により日程変更の可能性有											
<b>[履修要件]</b>											
メディカル分野技術経営学概論を受講していることが望ましい。											
<b>[成績評価の方法・観点]</b>											
平常点、レポートにより総合的に評価する。											
<b>[教科書]</b>											
使用しない 必要な資料は講義にて配布する。											
<b>[参考書等]</b>											
（参考書） 授業中に紹介する											
<b>[授業外学修（予習・復習）等]</b>											
適宜予習復習を求める。											
<b>[その他（オフィスアワー等）]</b>											
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											





# **FY2023 Syllabi for Master Course**

## **Kyoto University School of Public Health**

**NB. The English translation is a courtesy translation and please always refer to the Japanese version, which remains the official version.**

# Mission and educational program of the Kyoto University School of Public Health

(<http://sph.med.kyoto-u.ac.jp/>)

## 1. Mission of the school

The mission of the Kyoto University School of Public Health (KUSPH) is to improve people's health and welfare through the following activities and through their interactions between medical science and healthcare, as well as society and the environment.

### ○ Teaching

Providing education of broad disciplines to help students to be specialists and/or leaders in healthcare, policy making, research, and education of public health.

### ○ Research

Creating new knowledge and skills through deep understanding of the economic, environmental, behavioral, and social factors affecting people's health.

### ○ Translating Research into Practice and Policy

Disseminating research outputs to practical programs and policies related to the health and medical care in society.

### ○ Professional Practice

Contributing to improving health at multiple levels (individual, organizational, regional, national, and global) through specialized knowledge and skills.

Health-related problems cover broad issues. In order to face the challenges in health and to meet students' diverse interests, the school offers a wide range of classes promoting education and research taught by faculty with diverse background including biostatistics, epidemiology, genome epidemiology, healthcare economics and quality management, health promotion and behavioral science, social determinants of health, health disparities, global health, epidemic risk analysis, environmental health studies including climate change, health communication and qualitative research.

## 2. Educational Programs

The school consists of a two-year Professional Degree Course (=Master Course) for practitioners and a three-year Doctoral Course for researchers and educators. Students should take the classes of the Core Area 1 (2 classes) and 2 (1 class), and at least one class from the Core Area 3-5 depending on the credit requirement of core educational program for each Course (Master course 10 credits and doctor course 7 credits).

Categories	Code	Title	Organizer	Credits	Remarks
Core Area 1	H118000	Epidemiology I	Prof. Nakayama	1	Required
	H119000	Epidemiology II	Prof. Yamamoto	1	Required
Core Area 2	H001000	Biostatistics	Prof. Sato	2	Required
Core Area 3	H070000	Infectious Disease Epidemiology	Prof. Nishiura	1	
	H124000	Occupational health and environmental health sciences	Prof. Nishiura	1	
Core Area 4	H166000	Healthcare System, Policy and Economics	Prof. Imanaka	2	
	H126000	Economic Evaluation in Health Care	Prof. Imanaka	1	
	H127000	Health Policy and Academia	HPA steering committee	2	
	H109000	Drug Policy and Regulation	Prof. Kawakami	1	2nd semester
Core Area 5	H075000	Behavioral Science	Assoc. Prof. Tajika	1	
	H076000	Basic Medical Ethics	Assoc. Prof. Nakajima	1	
	H077000	Medical Communication (Basic)	Assoc. Prof. Iwakuma	1	
	H157000	Social epidemiology	Prof. Kondo	2	

- Please refer to URL: <http://sph.med.kyoto-u.ac.jp/syllabus.html> for additional classes available from other schools within Kyoto University. These courses cannot be counted towards credits necessary for completion of the Master's program.

## 2-1. Standard educational program for the MPH (Professional Degree) Course

For the “Masters of Public Health (MPH [Professional Degree])” be awarded, students are required to enroll for at least two years in the MPH Course, earning 30 of the below listed credits, and complete the determined educational curriculum for this course. However, the maximum number of classes can be registered in one year or in one semester in principle is 42 credits.

Category of classes	For students with medical background*	For students without medical background
Core Areas (All 5 areas should be included) <sup>a</sup>	10	10
Mandatory (Basic Medicine I <sup>b</sup> , II, Introduction to Clinical Medicine) <sup>c</sup>	—	6
Task research**	4	4
Elective	16	10
Total	30	30

<sup>a</sup> Earning more than 10 credit hours from Core Area classes will be counted toward 'elective' category credits.

<sup>b</sup> After FY2022, students without medical background must take one of the following courses as the credit of Basic Medicine I; Basic Medicine I (Anatomy), Basic Medicine I (Physiology I), Basic Medicine I (Neurophysiology), or Basic Medicine I (Introduction to Human Genetics).

<sup>c</sup> The credit earned by students with medical background will not be counted towards the requirement of 30 credits for the completion of an MPH degree.

- \* Students with medical background including graduates of medicine, nursing, dentistry, pharmacy, public health and other medical departments. Students who are graduates of the departments that can be obtained national medical qualifications other than the above and wish to be recognized as those with medical background may be eligible for it in bulk. If students who were not certified in bulk and wish to be recognized, must obtain a permission authorized by the school.
- \*\* **Task research:** Students will choose the most appropriate department for their research topic, receive mentoring for developing a research question and research protocol, data collection and analysis, and interpretation of the results. At the end of the program, students are required to present their research projects completed. Students are allowed to deliver such presentation only if they are expected to complete their graduate course in the same academic year as the one in which the said presentations are planned to be conducted.
- \*\*\* Accreditation of completed credits: Up to 10 credits can be accredited if you have completed courses in other graduate schools which correspond with Core Areas 1 through 5. If you want accreditation, you need to submit the necessary papers upon entrance into MPH.

### **Special courses and programs**

The following special courses and programs are available in the MPH course. Due to the differences in admission examination system, course changes are not allowed.

#### Special courses

- Master of Public Health 1-Year Course
- Master of Clinical Research Course
- Genetic Counselor Course
- Clinical Biostatistics Course

#### Special programs

- Management of Technology and Intellectual Property Program
- Young Leader Program for Healthcare Management

### **2-2. MPH-DrPH Course**

This is a special program which starts from 2010 that allows students to proceed to the DrPH Course after graduating from MPH Course in one year. Applicants should meet one of the following criteria; 1. have a master degree other than MPH from this school, 2. Medical or dental doctor with clinical practice experience of 2 years or more.

Applicants who wish to proceed to the Doctor Course immediately after the Master Course, meet the above criteria, AND exhibit excellent performance in the entrance exam and course work, are reviewed by the Education Affair Committee for qualification and accepted for this Course if they fulfill the credit requirement for Master Course AND pass the entrance exam to the Doctor Course.

Students who wish to be reviewed for qualification should get (or expected to get) 8 or more credits of the Core Area classes AND submit an application form, form stating the reasons for application, and recommendation letter from the potential mentor. Applicants having a master degree other than MPH from this school should show a copy of the master degree diploma and the applicants who are medical or dental doctors should show the documents certifying the clinical practice experience of 2 years or more. Application should be submitted to the Registration Office by Friday, August 4<sup>th</sup> (Applicants should contact the Office of



Student Affairs before submitting the application.)

If the applicant does not proceed to the Doctor Course after passing the exam, MPH degree will not be provided.

Note: Research protocol is not mandatory but could be attached to the recommendation letter.

**2-3. Educational program for Doctoral Course**

For a “Doctorate in Public Health (DrPH or PhD)” be awarded, students are required to enroll for the course for three years or more, receive mentoring for research, meet the following credit requirement, submit a doctoral paper, and pass the review and examination.

However, the maximum number of classes can be registered in one year or in one semester in principle is 42 credits.

Graduate education course "Public Health and Clinical Epidemiology Research" will be implementing midterm hearing and tutor system from 2022 academic year, in order to check the progress of graduate students' research and give advice as necessary, to strengthen the support system of improving students' research level. In the second or third year, tutors will check the progress of the students' research at the mid-term hearing and confirm whether the students conduct their research with an appropriate research policy and whether their research is progressing smoothly. Passing the mid-term hearing is required to earn two credits for " Public Health and Clinical Epidemiology Research (Practice)".

**【Students enrolled before FY2021】**

Categories		For students who are not the graduates of KUSPH		For KUSPH graduates
		For students with medical background*	For students without medical background	
Seminar for doctor course students		6	6	6
Master course program	Core (5 areas)	7 The classes of Core Area 1 (2 classes) and 2, and at least one class from the Core Area 3-5	7 The classes of Core Area 1 (2 classes) and 2, and at least one class from the Core Area 3-5	—
	Mandatory classes** (3)	—	6	—
Total		13	19	6

**【Students enrolled after FY2022】**

Categories		For students who are not the graduates of KUSPH		For KUSPH graduates
		For students with medical background*	For students without medical background	
Seminar for doctor course students		6	6	6
Graduate education course: " Public Health and Clinical Epidemiology Research (Seminar)" (in the first year~)		4	4	4
Graduate education course: " Public Health and Clinical Epidemiology Research (Practice)" (in the second year~)		2	2	2
Master course program	Core (5 areas)	7 The classes of Core Area 1 (2 classes) and 2, and at least one class from the Core Area 3-5	7 The classes of Core Area 1 (2 classes) and 2, and at least one class from the Core Area 3-5	—
	Mandatory (3 classes**)	—	6	—
Total		19	25	12

\* Students with medical background include graduates of medicine, nursing, dentistry, pharmacy, public health and other medical departments. Students who are graduates of the departments that can be obtained national medical qualifications other than above and wish to be recognized as those with medical background may be eligible for it in bulk. If students who were not certified in bulk and wish to be recognized, must obtain a permission authorized by the school.

\*\* After FY2022, students without medical background must take one of the following courses as the credit of Basic Medicine I; Basic Medicine I (Anatomy), Basic Medicine I (Physiology I), Basic Medicine I (Neurophysiology), or Basic Medicine I (Introduction to Human Genetics).

Accreditation of completed credits: Up to 7 credits can be accredited if you have completed courses in other graduate schools which correspond with Core Areas 1 through 5. If you want accreditation, you need to submit the necessary papers upon entrance into DrPH.

**Curriculum for Master degree program in the fiscal year 2023**

Category of classes	Code	Title	Semester		Organizer	Credits	Remarks	English syllabus	Level
			1st	2nd					
Core Area 1 (mandatory)	H118	Epidemiology I	●*		Prof. Nakayama	1	Required	●	B
	H119	Epidemiology II	●1		Prof. Yamamoto	1	Required	●	B
Core Area 2 (mandatory)	H001	Fundamentals of Biostatistics	●		Prof. Sato	2	Required	●	B
Core Area 3 (at least one class)	H070	Infectious Disease Epidemiology	●2		Prof. Nishiura	1		●	B
	H124	Occupational health and environmental health sciences	●1		Prof. Nishiura	1		●	B
Core Area 4 (at least one class)	H166	Healthcare System, Policy, and Economics	●		Prof. Imanaka	2		●	I
	H127	Health Policy and Academia	●		Prof. Imanaka	2		●	B
	H109	Drug Policy and Regulation		●1	Prof. Kawakami	1		●	I
	H126	Economic Evaluation in Health Care	●1		Prof. Imanaka	1		●	I
	H075	Behavioral Science	●1		Assoc. Prof. Tajika	1		●	B
Core Area 5 (at least one class)	H076	Basic Medical Ethics	●1		Assoc. Prof. Nakajima	1		●	B
	H077	Medical Communication: Introduction	●1		Assoc. Prof. Iwakuma	1		●	B
Mandatory	H157	Social epidemiology	●		Prof. Kondo	2		●	A
	H153	Basic Medicine I (Anatomy)	●1		Prof. Nishiura	2	Choose one of them: mandatory for students without medical background. Elective for those with medical background.	●	B
	H154	Basic Medicine I (Physiology I)	●1		Prof. Nishiura	2		●	B
	H163	Basic Medicine I (Neurophysiology)		●1	Prof. Nishiura	2		●	B
	H164	Basic Medicine I (Introduction to Human Genetics)	●		Program-Specific Prof. Wada	2		●	B
	H007	Basic Medicine II		●	Assoc. Prof. Ono, Assoc. Prof. Kato, Assist. Prof. Shiomi, Assist. Prof. Yamaji and Lec. Kawata	2		●	B
	H008	Introduction to Clinical Medicine		●	Lec. Okuno, Lec. Iwasaku, Lec. Hoshino, Part-time Lec. Chiba	2		●	B
		Task Research		2nd year	Mentors in each Department	4	See annex table		-
Elective	H011	Introduction to Statistical Computing and Data Managements	●		Prof. Sato	2		●	I

H084	Statistical Methods for Observational Studies	●*	Prof. Sato	2		●	A
H093	Literature Search	●1	Assoc. Prof. Takahashi	1		●	B
H094	Critical Appraisal	●2	Prof. Nakayama	1		●	B
H115	Methods of Health Sciences Research	●*	Prof. Nakayama	1		●	B

Category of classes	Code	Title	Semester		Organizer	Credits	Remarks	English syllabus	Level
			1st	2nd					
Elective	H129	Evaluation of Quality in Health Care	●2		Prof. Imanaka	1		●	I
	H162	Toxicological Sciences	●		Assoc. Prof. Harada	2		●	B
	H103	Medical Sociology	●2		Assoc. Prof. Iwakuma	1		●	B
	S004	Statistical Genetics I	●*			2	Not offered in FY2023	●	I
	H112	Clinical Trial Methodology	●		Prof. S. Tanaka	2		●	I
	H134	Statisticians Standard of Conducts	●		Prof. Sato	1		●	A
	H143	Designing Health communication		Int*	Prof. Nakayama	1		●	A
	H136	Fundamentals of Statistical Inference	●		Program-Specific Prof. Omori	2		●	I
	H137	Survival Analysis		Int	Program-Specific Prof. Omori	1		●	A
	H138	Statistical Modeling and Applications		Int	Program-Specific Prof. Omori	1		●	A
	H142	Medical Doctors in Government and Occupational Settings	Int		Prof. Imanaka	2		●	A
	H145	Multiplicity in clinical trials	●1		Program-Specific Prof. Omori	1		●	I
	M001	Entrepreneurship	●		Part-time Lec. Teranishi	2	TMMS	●	B
	M026	Introduction to Technology Management in Medical Science	●		Part-time Lec. Yamamoto	2	TMMS		B
	M017	Intellectual Property Management in Medical Science	●		Program-Specific Prof. Saotome	2	TMMS	●	B
	M021	Special Lecture for Entrepreneurship	Int		Program-Specific Prof. Saotome	2	TMMS	●	A
	M024	Special Lecture and Practicum for the Patent Law I	●		Part-time Lec. Takayama, Part-time Lec. Higashida	2	TMMS	●	B
N015	Genetic Medicine, Ethics and Society	●*		Program-Specific Prof. Wada	2	GC	●	B	
H040	Introduction to Human Genetics	●		Program-Specific Prof. Wada	2	GC	●	B	
N021	Clinical Genetics and Genetic Counseling	●*		Assoc. Prof. Nakajima	3	GC	●	B	
N017	Special Seminar for Genetic Medicine	Int		Assoc. Prof. Nakajima	2	GC, 2nd year students	●	A	

H158	Public health intervention strategies		● 1	Prof. Kondo	2	●	B
H020	Field Medicine		●	Assoc. Prof. Sakamoto	2	●	B
H021	Intermediate Biostatistics		●	Program-Specific Prof. Omori	2	●	I
H022	Health Data Processing Laboratory		●	Program-Specific Prof. Omori	2	●	A

Category of classes	Code	Title	Semester		Organizer	Credits	Remarks	English syllabus	Level
			1st	2nd					
Elective	H159	Environmental exposures and their risk assessments		●	Assoc. Prof. Harada	2		●	I
	H032	On the Bench Training Course		Int	Assoc. Prof. Harada	2		●	A
	H099	Development strategy, plan, and regulatory affairs of drugs and medical devices		●	Prof. Kawakami	2		●	A
	H079	Drug Development, Evaluation and Regulatory Science		●2	Prof. Kawakami	1		●	I
	M004	Business Contract Practice		●	Program-Specific Assoc. Prof. Suzuki	2	TMMS	●	B
	M007	Practicum for Intellectual Properties Protection Law		●	Lec. Toma	2	TMMS	●	I
	M025	Special lecture and practicum for the Patent Law II		●	Lec. J. Tanaka	2	TMMS	●	I
	M028	Special lecture for Drug Discovery		●	Program-Specific Prof. Saotome	1	TMMS		A
	M022	Genome Science and Medicine		●	Prof. Matsuda	2			A
	N018	Practicum for Medical Ethics		●	Assoc. Prof. Nakajima	2	GC		A
	S005	Statistical Genetics II		●*		2	Not offered in FY2023	●	I
	H130	Health informatics I		●	Prof. Nakayama	2		●	I
	H151	Health informatics II		●*	Assoc. Prof. Takahashi	2		●	I
	H160	Applied qualitative research		Int	Assoc. Prof. Iwakuma	2		●	I
	H132	Introduction to EBM: How to use evidence in your daily life		●*	Prof. Furukawa	2		●	B
	H152	Environment and Infection			Prof. Yamazaki	2		●	I
H156	Introduction to Qualitative Research		●2	Prof. Nakayama, Assist. Prof. Kohno	1		●	B	
H135	Statistical Methods in Clinical Trials		●1	Program-Specific Prof. S. Tanaka	1		●	A	
H063	Fieldwork		Int	Prof. Matsuda, Prof. Tabara	2	Not offered this year	●	I	
H061	Field Training for Public Health Practice		Int	Mentors in each Department	1-2	Internship	●	-	
Z203	Global health		●	Prof. Nakayama	2		●	I	
H161	Introduction to infectious disease modelling		Int	Prof. Nishiura	2		●	A	
H165	The Post-COVID-19 Era: Innovation in Life and Technology		●	Prof. Imanaka	2		●	A	

H167	QOL/PRO assessment		●*	Prof. Yamamoto	1			I
H169	Risk Communication for Public Health Emergencies		●	Prof. Nakayama	1			A
H170	Healthcare crisis management		●	Prof. Imanaka	1			A
H082	Healthcare Management Special Curriculum I	Int		Prof. Imanaka	2	YLP	●	A
H083	Healthcare Management Special Curriculum II		Int	Prof. Imanaka	2	YLP	●	A
H053	Case Studies in Healthcare Management		Int	Prof. Imanaka	2	YLP	●	A
Restricted for special programs								

Category of classes	Code	Title	Semester		Organizer	Credits	Remarks	English syllabus	Level
			1st	2nd					
Restricted for special programs	K026	Seminar in Study Design I	●		Prof. Kawakami	1	MCR	●	A
	K028	Special Seminar in Study Design I	●1		Prof. Yamamoto	1	MCR	●	A
	K030	Economic Evaluation of Medical Technologies	●1		Prof. Imanaka	1	MCR	●	A
	K027	Seminar in Study Design II		●	Prof. Kawakami	1	MCR	●	A
	K029	Special Seminar in Study Design II		●	Prof. Yamamoto	1	MCR	●	A
	K020	Special lectures on EBM and clinical practice guidelines		●	Prof. Nakayama	1	MCR	●	A
	K025	Data management for Clinical Research		●1	Prof. Tanaka	1	MCR and CB	●	A
	K034	Clinical research advanced		●1	Prof. Iwami	2	MCR	●	A
	K036	Systematic Reviews			Prof. Furukawa	1	MCR	●	A
	K033	Special Seminar of Data Analysis		●2	Prof. Yamamoto	1	MCR	●	I
	K035	Methods in social epidemiology		●2	Prof. Kondo	1	MCR		I
	N022	Practicum for Human Genetics			Program-Specific Prof. Wada, Program-Specific Assist. Prof. Yoshida	1	GC		A
	N006	Practicum for Clinical Genetics			Program-Specific Prof. Wada, Program-Specific Assist. Prof. Torishima	1	GC		A
	N020	Communication for Genetic Counselors			Program-Specific Prof. Wada	3	GC		B
	N007	Practicum for Medical Ethics 1			Program-Specific Lec. Kasasaki	2	GC		B
	N008	Practicum for Medical Ethics 2			Program-Specific Lec. Kasasaki	2	GC		A
	N009	Practice of Genetic Counseling 1			Assoc. Prof. Nakajima	2	GC		B
	N010	Practice of Genetic Counseling 2			Assoc. Prof. Nakajima	4	GC		A
	H168	Genetic service informatics		●2	Program-Specific Lec. Kasasaki	1	GC		B
H139	Practical Skills for Clinical Biostatisticians			Program-Specific Prof. Omori	1	CB	●	B	
H144	Practicum in Fundamentals of Statistical Inference			Program-Specific Prof. Omori	1	CB	●	I	
H146	Meta-analysis		Int	Program-Specific Prof. S. Tanaka	1	CB and MCR	●	A	



H140	Clinical Research Training I	Int	Program-Specific Prof. S. Tanaka	2	CB	●	A
H147	Clinical Research Training II	Int	Program-Specific Prof. S. Tanaka	2	CB	●	A

- MCR, Master Program for Clinical Research; TMMS, Dept. of Technology Management in Medical Science; GC, Genetic Counseling Course; YLP, Young Leader Program; , Global Health Interdisciplinary Unit; CB, Clinical Biostatistics; Int, Intensive.
- Be careful on class days marked with \* in the semester column.
- Level of classes means as follows. B: Basic, no prior knowledge required. I: Intermediate, some prior knowledge and experience required. A: Advanced, applicable to practice and research in society.
- Both Basic Medicine I (Introduction to Human Genetics) and Introduction to Human Genetics cannot be taken.
- Students who have passed all three courses (1 credit each) "Health Care Systems and Policies," "Health Care Systems and Policies around the World," and "Behavioral Economics in Health and Care" by FY2022 cannot count "Health Care Systems, Policies, and Economics" as credits required for completion.

**Annex table 1. Codes for Task Research and Doctor Course Seminars**

Departments	Department code	
	Task research (for Professional Degree Course student)	Doctor Course Seminar (for Doctor course students)
Biostatistics	I001	J001
Healthcare epidemiology	I002	J002
Pharmaco-epidemiology	I003	J003
Genome epidemiology	I004	J004
Healthcare economics	I005	J005
Medical ethics	I006	J006
Health informatics	I007	J007
Medical communication	I016	J016
Health and environmental sciences	I009	J009
Health promotion and behavioral science	I010	J010
Preventive medicine	I011	J011
Social epidemiology	I020	J016
Health policy and international health	I013	J013
Ecology with Emphasis on the Environment	I014	J014
Field Medicine	I015	J015
Management of Technology and Intellectual Property	M018	
Genetic Counselor Course	N901	
Clinical Biostatistics Course (Clinical Biostatistics)	I019	

**Annex table 2. Codes for Public Health and Clinical Epidemiology Research**

Title	Code
Public Health and Clinical Epidemiology Research (Seminar)	P033
Public Health and Clinical Epidemiology Research (Practice)	P034



◇ Curriculum of MPH Course for the First Semester of FY2023

	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	
1 8:45~10:15	[MPH Elective] <b>Introduction to EBK: How to use evidence in your daily life</b> (Check syllabus for lecture start date) Prof. Furukawa (A)	[Core areas, Required and Elective] <b>Behavioral Science</b> (First half of the first semester) Asso. Prof. T. Iga (A)	[MPH Elective][GC Elective] <b>Introduction to Qualitative Research</b> (Second half of the first semester) Prof. Nakayama & Kohno (A)	[GC Restricted (Required)] <b>Communication for Genetic Counselors</b> Prof. Wada (Practicum room)	[Core areas, Required] <b>Epidemiology II</b> (first half of the first semester) Prof. Yamamoto (A)	[MPH Elective] <b>Multiplicity in clinical trials</b> (Practicum room)
2 10:30~12:00	[Core areas, Required] <b>Fundamentals of Biostatistics</b> Prof. Sato (A)	[Core areas, Required and Elective] <b>Health System, Policy and Economics</b> Prof. Inanaka (Frontier)	[MPH Elective][MCR Elective] <b>Evaluation of Economic and Medical Technologies</b> (first half of the first semester) Prof. Inanaka (A)	[Core areas, Required and Elective] <b>Occupational and Environmental Health</b> (First half of the first semester) Prof. Nishihara (A)	[Core areas, Required] <b>Epidemiology I</b> Prof. Nakayama (A)	[MPH Elective] <b>Statistical Methods of a Standardized Conductor</b> Prof. Sato (Practicum room)
3 13:15~14:45	[Core areas, Required and Elective] <b>Social Epidemiology</b> Prof. Kondo	[Core areas, Required and Elective] <b>Basic Medicine I (Anatomy)</b> (First half of the first semester) (School of Human Health Sciences Room N09)	[MCR restricted, Elective] <b>Economic Evaluation of Medical Technologies</b> (first half of the first semester) Prof. Inanaka (A)	[Core areas, Required and Elective] <b>Health Policy and Academia</b> HPA steering committee (A)	[MPH Elective] <b>Methods of Health Sciences Research</b> Prof. Nakayama (A)	[MPH Elective] <b>Statistical Methods of a Standardized Conductor</b> Prof. Sato (Practicum room)
4 15:00~16:30	[MPH Elective][MCR Restricted][GC Elective] <b>Literature Appraisal</b> (First half of the first semester) Asso. Prof. Teramitsu (A)	[Core areas, Required and Elective] <b>Basic Medicine I (Anatomy)</b> (Second half of the first semester) Asso. Prof. Teramitsu (A)	[MPH Elective][MCR Elective] <b>Economic Evaluation in Health Care</b> (first half of the first semester) Prof. Inanaka (A)	[MPH Elective] <b>Fundamentals of Statistical Inference</b> Prof. Omori (Practicum room)	[MPH Elective] <b>Statistical Methods for Observational Studies</b> (Practicum room)	[MPH Elective] <b>Statistical Methods of a Standardized Conductor</b> Prof. Sato (Practicum room)
5 16:45~18:15	[Core areas, Required and Elective] <b>Medical Communication: Introduction</b> (first semester) Asso. Prof. Inokuma (Practicum room)	[MPH Elective] <b>Medical Communication: Introduction</b> (Second half of the first semester) Asso. Prof. Inokuma (Practicum room)	[MPH Elective and MCR required] <b>Clinical Trial</b> (Frontier)	[Core areas, Required and Elective] <b>Basic Medical Ethics</b> (First half of the first semester) Asso. Prof. Nakajima (A)	[GC Restricted (Required)] <b>Practicum for Genetic Counseling 1-2</b> (A)	[MPH Elective] <b>Statistical Methods for Observational Studies</b> (Practicum room)
6 18:30~20:00	[MCR Restricted (Required)] <b>Seminar in Study Design I</b> Prof. Kawakami (A)	[MPH Elective] <b>Entrepreneurship</b> Prof. Teramitsu (HK)	[MPH Elective][IP Required] <b>Special Lecture and Practicum for the Patent Law I</b> Lecs. Takayama and Higashida (MCR)	[MPH Elective] <b>Healthcare crisis management</b> Prof. Inanaka (A)	[GC Restricted (Required)] <b>Practicum for Genetic Counseling 1-2</b> (A)	[MPH Elective] <b>Statistical Methods for Observational Studies</b> (Practicum room)
		[MPH Elective] <b>Intellectual Property Management in Medical Science</b> Prof. Teramitsu (MCR)		[MPH Elective] <b>Introduction to Technology Management in Medical Science</b> Prof. Teramitsu (MCR)	[GC Restricted (Required)] <b>Practicum for Genetic Counseling 1-2</b> (A)	[MPH Elective] <b>Statistical Methods for Observational Studies</b> (Practicum room)

Restricted for special programs:  
 [GB restricted] **Clinical Research Training I** Program-Specific Prof. S. Tanaka  
 [GB restricted] **Clinical Research Training II** Program-Specific Prof. S. Tanaka  
 [GC restricted] **Practicum of Genetic Counseling 1-2** Asso. Prof. Nakajima  
 [GB/MCR restricted] **Meta-analysis** Program-Specific Prof. S. Tanaka  
 [MCR restricted] **Systematic Review** Prof. Furukawa  
 [Management Young Leaders Course] **Case Studies in Healthcare Management** Prof. Inanaka  
 [Management Young Leaders Course] **Healthcare Management: Special Curriculum I** Prof. Inanaka

Intensive Lectures, Not offered, etc.  
 [MPH Elective] **Applied Qualitative Research** Asso. Prof. Inokuma  
 [MPH Elective] **Special seminar for Genetic medicine** Asso. Prof. Nakajima  
 [MPH Elective] **Field Training for Public Health Practice** Mentors in each department  
 [MPH Elective] **Designing Health communication** Asso. Prof. Harada  
 [MPH Elective] **On the Bench Training Course** Asso. Prof. Harada  
 [MPH Elective] **Medical Doctors in Government and Occupational Settings** Prof. Inanaka  
 [MPH Elective] **Introduction to infectious disease modelling** Prof. Nishihara  
 [MPH Elective] **Medical Doctors in Government and Occupational Settings** Prof. Inanaka  
 [MPH Elective] **Risk Communication for Public Health Emergencies** Prof. Inanaka  
 [MPH Elective] **Special Lecture for Entrepreneurship** Program-Specific Prof. Saitono  
 [MPH Elective][GC Elective] **Statistical Genetics** (Not offered in FY2023)

[A] : Seminar room A on the 2nd floor of the G Bldg.  
 [B] : Seminar room B on the 2nd floor of the G Bldg.  
 [C/D] : Seminar room C/D on the 2nd floor of the G Bldg.  
 [Practicum room]: Practicum room on the 3rd floor of the G Bldg.  
 [Frontier]: Seminar room on the 1st floor of the Frontier Bldg.  
 [MCR]: Medical Innovation Center (Hospital West Campus)  
 [HK]: Meet Pharm Collaboration Building 3rd floor

◇ Curriculum of MPH Course for the Second Semester of FY2023

月		火		水		木		金		
1 8:45~10:15	[MPH Elective] <b>Introduction to EBM: How to use evidence in your daily life</b> Prof. Furukawa [A]	[MPH Elective] <b>Intermediate Biostatistics</b> Prof. Omori [A]	[Core areas, Required and Elective] <b>Basic Medicine I (Neurophysiology)</b> (School of Human Health Sciences Room No.9)	[Core areas, Required and Elective] <b>Drug Policy and Regulation</b> (first half of the second semester) Prof. Kawakami [A]	[MPH Elective] <b>Drug Development, Evaluation and Regulatory Sciences</b> (second half of the second semester) Prof. Kawakami [A]	[GC required (restricted)] <b>Communication for Genetic Counselors</b> Prof. Wada [Practicum room]	[MPH Elective] <b>Health Informatics I</b> Prof. Nakayama [A]	[MCR restricted (Elective)] <b>Special Lectures on EBM and Clinical Practice Guidelines</b> Prof. Nakayama [Practicum room]	[MPH Elective] <b>Genome Science and Medicine</b> Prof. Matsuda (South Research Bldg. and Online)	[MCR restricted (Elective)] <b>The Post-COVID-19 Era: Innovation in Life and Technology</b> Prof. Imanaka [Frontier]
[MPH Elective] <b>Healthcare crisis management</b> Prof. Imanaka [A]	[MCR restricted (restricted)] <b>Practicum for Clinical Genetics</b> (First year, check syllabus for lecture start date) Prof. Wada, Assistant Prof. Torishima [Practicum room]	[MPH Elective] <b>Statistical Methods in Clinical Trials</b> Prof. S. Tanaka [B]	[MPH Elective] <b>Special Lecture and Special Practicum for the Patent Law II</b> Lec. J. Tanaka [MIC]	[MCR restricted (Required)] <b>Seminar in Study Design II</b> Prof. Kawakami [A]	[MPH Elective] <b>Business Contract Practice</b> Assoc. Prof. Suzuki [MIC]	[MCR restricted (Required)] <b>Practicum for Intellectual Property Protection Law</b> Lec. Toma [MIC]	[MCR restricted (Required)] <b>Seminar in Study Design II</b> Prof. Kawakami [A]	[MCR restricted (Required)] <b>Special Seminar in Study Design II</b> Prof. Yamamoto [A]	[MCR restricted (Required)] <b>Special Seminar in Study Design II</b> Prof. Yamamoto [A]	
										[MCR restricted (Required)] <b>Statistical Modeling and Applications</b> Prof. Omori [IP Elective] <b>Risk Communication for Public Health Emergencies</b> Prof. Saotome [MPH Elective] <b>Field Training for Public Health Practices</b> Mentors in each department [GC Elective] Statistical Genetics II (Not offered in FY2023)

[A] : Seminar room A on the 2nd floor of the G Bldg.  
 [B] : Seminar room B on the 2nd floor of the G Bldg.  
 [C]/[D] : Seminar room C/D on the 2nd floor of the G Bldg.  
 [Practicum room] : Practicum room on the 3rd floor of the G Bldg.  
 [Frontier] : Seminar room on the 1st floor of the Frontier Bldg.  
 [MIC] : Medical Innovation Center (Hospital West Campus)

**Intensive Lectures, Not offered, etc.:**  
 [MPH Elective] **Applied Qualitative Research** Assoc. Prof. Iwakuma  
 [MPH Elective] **Designing Health communication** Prof. Nakayama  
 [MPH Elective] **On the Bench Training Course** Assoc. Prof. Harada  
 [MPH Elective] **Survival Analysis** Prof. Omori  
 [MPH Elective] **Statistical Modeling and Applications** Prof. Omori  
 [MPH Elective] **Risk Communication for Public Health Emergencies** Prof. Saotome  
 [IP Elective] **Special Lecture for Drug Discovery** Prof. Saotome  
 [MPH Elective] **Field Training for Public Health Practices** Mentors in each department  
 [MPH Elective] **GC Elective** Statistical Genetics II (Not offered in FY2023)

**Restricted for special programs:**  
 [Management Young Leaders Course] **Case Studies in Healthcare Management** Prof. Imanaka  
 [Management Young Leaders Course] **Healthcare Management Special Curriculum II** Prof. Imanaka  
 [CB restricted] **Clinical Research Training I** Program-Specific Prof. S. Tanaka  
 [CB restricted] **Clinical Research Training II** Program-Specific Prof. S. Tanaka  
 [GC restricted] **Practice of Genetic Counseling 1-2** Assoc. Prof. Nakajima

<b>Course number</b>		P-PUB01 8H118 LB90			
<b>Course title (and course title in English)</b>	疫学 I (疫学入門) 【領域1】		<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Professor, NAKAYAMA TAKEO Graduate School of Medicine Professor, SATO TOSIYA Shiga Medical University, Professor MIURA KATSUYUKI Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital and Institute of Gerontology ISHIZAKI TATSURO Shizuoka Graduate University of Public Health (Shizuoka SPH) Professor TABARA YASUHARU	
	Epidemiology I				
<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>	1	<b>Year/semesters</b>	2023/Intensive, First semester
<b>Days and periods</b>	Intensive	<b>Class style</b>	Lecture	<b>Language of instructor</b>	Japanese and English
<b>[Overview and purpose of the course]</b>					
This course is one of the required classes of school of public health. Epidemiology is defined as follows: the study of the distribution and determinants of health-related states or events in specified population, and the application of this study to control of health problems. Epidemiology is regarded as the basis of public health / clinical research and evidence-based practice. This is a scientific discipline that explores the cause, risk factor, prognosis of disease, and related factors. The course comprises systematic lectures on principles and methodologies of epidemiology for beginners.					
<b>[Course objectives]</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>Understanding basis concepts and methodologies of epidemiology</li> <li>Being familiar with terminology of epidemiology.</li> <li>Being capable of applying epidemiologic methods for clinical practice, research and health policy.</li> </ul>					
<b>[Course schedule and contents]</b>					
1 April 14 3rd introduction (NAKAYAMA) 2 April 14 4th cohort study / case-control study (NAKAYAMA) 3 April 21 3rd Epidemiology leaned by historical cases (SATO) 4 April 28 3rd intervention study (NAKAYAMA) 5 April 28 4th Follow-up study (NAKAYAMA) 6 May 12 3rd recent topics on epidemiology (NAKAYAMA) 7 May 12 4th geriatric epidemiology (ISHIZAKI) 8 June 2 3th special topic (NAKAYAMA) June 9 3rd Test Special lecture (MIURA, TABARA)					
<b>[Course requirements]</b>					
None					
Continue to 疫学 I (疫学入門) 【領域1】 (2) ↓ ↓ ↓					

<b>疫学 I (疫学入門) 【領域1】 (2)</b>	
<b>[Evaluation methods and policy]</b>	
examination 80%, short report for each lecture 20%	
<b>[Textbooks]</b>	
The material necessary for the lecture will be provided by lecturers.	
<b>[References, etc.]</b>	
<b>(Reference books)</b>	
Kawamura T 『Ebidensu wo tsukuru』 (Igaku shoin) Nakayama T & Tsutani K 『Rinsho kenkyu to ekigaku kenkyu no tameno kokusai rurushu』 (Life science shuppan) Kosei Tokei Kyokai 『Zusetsu Kokumin Eisei no doko』 (Kosei Tokei Kyokai) Yano E & Hashimoto H 『Rothman no ekigaku』 (Shinohara shuppan shinsha) Rodolfo Saracci 『Yonde wakarui Ekigakunyumon』 (Taishukan shoten)	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
Rather than spending more time on your preparation, please put more energy into the review.	
<b>[Other information (office hours, etc.)]</b>	
We hope that students will understand the importance and characteristics of epidemiology that examines "human populations".	
This course is open to graduate students with the school of human health science.	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

<b>Course number</b>		P-PUB01 8H119 LB90			
<b>Course title (and course title in English)</b>	疫学 II (研究デザイン) 【領域1】		<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Professor, YAMAMOTO YOUSUKE Graduate School of Medicine Associate Professor, OGAWA YUSUKE	
	Epidemiology II			Part-time Lecturer, JINDAI KAZUAKI Part-time Lecturer, HIJIKATA YASUKAZU Part-time Lecturer, MISHINA HIROKI	
<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>	1	<b>Year/semesters</b>	2023/The first half of first semester
<b>Days and periods</b>	Fri. 1,2	<b>Class style</b>	Lecture	<b>Language of instructor</b>	Japanese and English
<b>[Overview and purpose of the course]</b>					
※ Depending on the situation, this class may be offered online.					
The aim of this course is to learn core competency and practical skills in designing almost all types of projects in the field of SPH, except qualitative research.					
<b>[Course objectives]</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>Convert vague questions to structured abstracts</li> <li>Learn the basic skills to conduct a study, based on the examples of previous studies</li> </ul>					
<b>[Course schedule and contents]</b>					
1) April 21 (1st period) Introduction, Designing research (Yamamoto) 2) May 12 (1st period) Structuring your research question (Ogawa) 3) May 26 (1st period) Survey research (Yamamoto) 4) May 26 (2nd period) Survey research using questionnaires: an example (Mishina/Yamamoto) 5) June 9 (1st period) Meta-analysis and systematic review: an overview (Ogawa) 6) June 9 (2nd period) Diagnostic research and clinical prediction rule (Hijikata) 7) June 23 (1st period) Interrupted time series analysis (Jindai) 8) June 23 (2nd period) Current topics in recent clinical epidemiological studies (Jindai/Ogawa/Yamamoto)					
<b>[Course requirements]</b>					
MPH, MCR Required You need to had taken or take "Epidemiology I".					
<b>[Evaluation methods and policy]</b>					
Attendance 50%, Report 50%					
Continue to 疫学 II (研究デザイン) 【領域1】 (2) ↓ ↓ ↓					

<b>疫学 II (研究デザイン) 【領域1】 (2)</b>	
<b>[Textbooks]</b>	
Instructed during class	
<b>[References, etc.]</b>	
<b>(Reference books)</b>	
Introduced during class	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
Preparation is not needed, but you should review it after class.	
<b>[Other information (office hours, etc.)]</b>	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course number	P-PUB01 8H001 LJ90		
Course title (and course title in English)	医療統計学 (コア) 【領域2】 Fundamentals of Biostatistics	Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Professor, SATO TOSIYA
Target year	Professional degree students	Number of credits	2
Year/semesters	2023/First semester		
Days and periods	Tue.2	Class style	Lecture
Language of instruction	Japanese		
<b>[Overview and purpose of the course]</b>			
It is widely recognized that biostatistics are essential for the practice of and research on social healthcare. However, biostatistics textbooks are filled with mathematical formulas and are difficult to understand. All but some enthusiasts shy away from them such textbooks. However, in reality, biostatistics are rather interesting. In order to communicate this to all students, we explain the concepts of biostatistics in plain language without broaching mathematical and technical details. Please review the material provided. You may feel like you understand the content during the lecture, but to ensure that you do understand, it is important that you check your understanding repeatedly. We will review the previous session at the beginning of each session, so if you do not understand something taught in previously, please ask questions. Technical content will be supplemented in the afternoon during the medical statistics practicum.			
The course will be held online because a lecture room of sufficient size cannot be secured due to measures against COVID-19.			
<b>[Course objectives]</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>Improvements in biostatistics for allergies.</li> <li>Further your understanding of causality and control.</li> <li>Learn typical designs for epidemiological research and clinical trials.</li> <li>Learn how to explain the fundamental concepts of biostatistics on your own.</li> </ul>			
<b>[Course schedule and contents]</b>			
Session 1, April 11: The Importance of Control 【Flipped Classroom/Simultaneous bidirectional course】			
Session 2, April 18: Helicobacter Pylori and Stomach Cancer 【Flipped Classroom/Simultaneous bidirectional course】			
Session 3, April 25: Introduction to Epidemiologic Study Designs 【Flipped Classroom/Simultaneous bidirectional course】			
Session 4, May 9: Postmarketing Clinical Trial for Osteoporosis Drug 【Flipped Classroom/Simultaneous bidirectional course】			
Session 5, May 16: Introduction to Clinical Trial Designs 【Flipped Classroom/Simultaneous bidirectional course】			
Session 6, May 23: Measures of Exposure and Treatment Effects 【Flipped Classroom/Simultaneous bidirectional course】			
Session 7, May 30: Concepts in Statistical Testing 【Flipped Classroom/Simultaneous bidirectional course】			
Session 8, June 6: The Relationship Between Statistical Test and Confidence Interval 【Flipped Classroom/Simultaneous bidirectional course】			
Session 9, June 13: The ASA statement on p values and "The world beyond P<0.05" 【Flipped Classroom/Simultaneous bidirectional course】			
Continue to 医療統計学 (コア) 【領域2】 (2) ↓ ↓ ↓			

医療統計学 (コア) 【領域2】 (2)
Simultaneous bidirectional course】
Session 10, June 20: Sample Sizes Calculations 【Flipped Classroom/Simultaneous bidirectional course】
Session 11, June 27: The Validity of Cohort Studies 【Flipped Classroom/Simultaneous bidirectional course】
Session 12, July 4: The Validity of Case Control Studies 【Flipped Classroom/Simultaneous bidirectional course】
Session 13, July 11: New Designs for Epidemiological Studies 【Flipped Classroom/Simultaneous bidirectional course】
Session 14, July 18: What is Confounding? 【Flipped Classroom/Simultaneous bidirectional course】
<b>[Course requirements]</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>We do not accept students at the Human Health Science.</li> <li>Medical Science or the Doctoral Course of Medicine students should contact us via e-mail in advance.</li> <li>Students must take the mini-test and submit a report, even if they are not seeking credit.</li> <li>Those who are not taking this course may not attend the second semester course titled "Methods of Adjusting for Confounding."</li> </ul>
<b>[Evaluation methods and policy]</b>
Participation in the discussion session every week, and the final report
<ul style="list-style-type: none"> <li>Students should choose one from among several themes (presented at the beginning of July), review relevant documents, and summarize their opinions in a report.</li> </ul>
<b>[Textbooks]</b>
Class materials will be uploaded in Panda.
<b>[References, etc.]</b>
<b>(Reference books)</b>
Tosiya Sato, "宇宙怪人しまりす 医療統計を学ぶ" (Iwanami Science Library 114) ISBN:978-4-00-007454-7, Tosiya Sato "宇宙怪人しまりす 医療統計を学ぶ 検定の巻" (Iwanami Science Library 194, Hiroe Tsukabaki, Toshiharu Fujita, Tosiya Sato "これからの臨床試験" (Asakura Shoten) ISBN:978-4-254-32185-6, Rossman, KJ "Rossman's Epidemiology, Second Edition" (Shinoharashinsha) ISBN:978-4-8841-2372-7
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>
Do not forget to review previous sessions.
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>
*Please visit KULASIS to find out about office hours.

Course number	P-PUB01 8H070 LB90		
Course title (and course title in English)	感染症疫学 【領域3】 Infectious Disease Epidemiology	Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Professor, NISHIURA HIROSHI
Target year	Professional degree students	Number of credits	1
Year/semesters	2023/Intensive, First semester		
Days and periods	Intensive	Class style	Lecture
Language of instruction	Japanese and English		
<b>[Overview and purpose of the course]</b>			
This module clearly explains fundamental concepts of infectious disease epidemiology and sets out the analytical methods employed in public health practice. The contents of the lecture series covers the concept/definition of various epidemiological measurements, assessment of the spread and control of infectious diseases using a variety of statistical methods, statistical estimation of key epidemiological indices, and introduces mathematical modeling of infectious diseases. This vast and important area of epidemiology is described in line with recent and ongoing health concerns such as HIV/AIDS, tuberculosis, malaria, dengue, SARS and influenza.			
<b>[Course objectives]</b>			
a. Explain two special characteristics of infectious diseases, b. Explain public health importance of asymptomatic infection c. Describe and classify various epidemiological risks of infection and death, d. Describe the concept of herd immunity and its importance in public health practice and epidemiologic exercise, e. Describe the concept of early detection of outbreak in a sense of hypothesis testing, f. Describe the fundamental concept and method of using historical baseline, g. Explain how each of the following methods detects an outbreak: regression method, time series technique and scan statistic			
<b>[Course schedule and contents]</b>			
Each session takes 90 minutes in total. First 60 minutes are spent for unidirectional lecture. Remaining 30 minutes are split into two parts, i.e., 15 minutes in-class assessment and 15 minutes scoring session plus Q&A.			
<ol style="list-style-type: none"> <li>Introduction: mechanisms and epidemiological measurements of infectious diseases</li> <li>Natural history of infectious diseases</li> <li>Measuring transmissibility and severity: Concept and definition</li> <li>Outbreak investigation (1): active surveillance data</li> <li>Estimating prevalence: Unobservable nature of infection event</li> <li>Vaccine efficacy: Addressing dependent happening</li> <li>Outbreak investigation (2): notification data</li> <li>Tutorial, followed by exam</li> </ol>			
<b>[Course requirements]</b>			
Have a background with basics of epidemiology (e.g. MPH core curriculum)			
Continue to 感染症疫学 【領域3】 (2) ↓ ↓ ↓			

感染症疫学 【領域3】 (2)
<b>[Evaluation methods and policy]</b>
Attendance to a total of two-thirds of classes will be required to be eligible for final examination. Evaluation is conducted by coursework (i.e. comprehension during the class) (30%) and examination (70%).
<b>[Textbooks]</b>
西浦博 (編) 『感染症疫学のためのデータ分析入門』 (金芳堂、2021) ISBN:978-4-7653-1882-2 (感染症疫学の入門書。本専門職学位課程での講義内容に準拠してまとめています。) No specific requirement of textbook to be brought to this module.
<b>[References, etc.]</b>
<b>(Reference books)</b>
西浦博 (編) 『感染症流行を読み解く数理』 (日本評論社、2022) ISBN:978-4-535-78759-9 (感染症の流行データを数理的に検討したい方向け。)
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>
No specific preparation would be required. At the end of each session, we will have in-class assessment consisting of approximately 5-8 multiple choice questions.
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>
*Please visit KULASIS to find out about office hours.

<b>Course number</b>	P-PUB01 8H124 LB90		
<b>Course title (and course title in English)</b>	産業・環境衛生学 【領域3】 Occupational health and environmental health sciences	<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Professor, NISHIURA HIROSHI
<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>	1
<b>Year/semesters</b>	2023/The first half of first semester		
<b>Days and periods</b>	Thu.2	<b>Class style</b>	Lecture
<b>Language of instruction</b>	Japanese and English		
<b>[Overview and purpose of the course]</b>			
An overview of modern environmental problems and industrial health will be given to provide the basis of the risk assessment of chemicals for human health.			
<b>[Course objectives]</b>			
To have an overview of modern environmental problems and industrial health			
To understand dose-response relationship, threshold, inter-species difference and basic toxicology			
To acquire skills for risk assessment			
To acquire skills to describe the regulatory strategy to minimize the toxic effects of chemicals			
To predict major metabolism processes for representative chemicals			
<b>[Course schedule and contents]</b>			
Please be informed that the first lecture in 2023 is 6 April from 10:30.			
Course Schedule 1 Guidance and general principle Environmental Health Sciences 2 Climate 3 Water pollution 4 Air pollution 5 Occupational health 6 Gene and environment 7 Examination 8 Additional topic			
<b>[Course requirements]</b>			
None			
Continue to 産業・環境衛生学 【領域3】(2) ↓ ↓ ↓			

<b>産業・環境衛生学 【領域3】(2)</b>
<b>[Evaluation methods and policy]</b>
Attendance and active participation in the lecture 50% Examination 50 %
<b>[Textbooks]</b>
Handouts
<b>[References, etc.]</b>
(Reference books)
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>
Knowledge on chemistry is not necessarily required, but it is recommended to review it after class.
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>
"Occupational health and environmental health sciences", "Introduction to Toxicology", "Toxicology" and "On the Bench Training" are in series. Those who wish to take "Toxicology" and "On the Bench Training" should take "Occupational health and environmental health sciences".
*Please visit KULASIS to find out about office hours.

<b>Course number</b>	P-PUB01 8H166 LB90		
<b>Course title (and course title in English)</b>	医療制度・政策・経済 Healthcare System, Policy and Economics	<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Professor, IMANAKA YUICHI Graduate School of Medicine Program-Specific Associate Professor, SASAKI NORIKO Graduate School of Medicine Associate Professor, KUNISAWA SUSUMU Graduate School of Medicine Program-Specific Senior Lecturer, SHIN JUNG-HO Graduate School of Medicine Program-Specific Assistant Professor, GOTO ETSU
<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>	2
<b>Year/semesters</b>	2023/First semester		
<b>Days and periods</b>	Wed.2	<b>Class style</b>	Lecture
<b>Language of instruction</b>	Japanese and English		
<b>[Overview and purpose of the course]</b>			
医療に関する政策・制度・経済について、国、地域・自治体、医療施設に至る諸々の場における重要課題を扱い、基本的事項を理解する。			
<b>[Course objectives]</b>			
・医療の領域の政策・制度とマネジメントに関する沿革、現状、理論・概念、研究・評価手法、課題と対策について、重要事項を理解し、他者に説明できるようになること。 ・基本的な研究や社会制度の意義を系統的、批判的に解釈できるようになること。 ・社会健康医学の研究及び実務上の問題解決に、関連しうる知識等を活用できるようになること。			
<b>[Course schedule and contents]</b>			
(授業計画と内容) 第1回 4月12日 医療制度のしくみ 第2回 4月19日 医療制度全体を把握する枠組み 第3回 4月26日 医療政策の形成過程 第4回 5月10日 医療保険制度 第5回 5月17日 医療と財源：保険制度 第6回 5月24日 Health Informatics and Policy 第7回 5月31日 Evidence-Based Policy と制度全体を把握する枠組み 第8回 6月7日 ユニバーサルヘルスカバレッジ：Universal Health Coverage (UHC) 第9回 6月14日 医療政策の全体像と課題 第10回 6月21日 医療の経済評価・HTAの政策への活用：日本と諸外国 第11回 6月28日 行動経済学の理論と健康関連領域への応用 第12回 7月5日 行動経済学の健康医療介入：概論1 第13回 7月12日 行動経済学の健康医療介入：概論2 第14回 7月19日 諸外国と日本の医療の経済評価・HTAの利用 第15回 7月26日 行動経済学の実社会への応用			
* 外部講師他の諸状況により日程変更あります。初回に予定を説明します。			
Continue to 医療制度・政策・経済(2) ↓ ↓ ↓			

<b>医療制度・政策・経済(2)</b>
<b>[Course requirements]</b>
原則、出席80%以上を前提とする
<b>[Evaluation methods and policy]</b>
1. レポート 60% 2. 日々の講義へのコミットメント 40%
<b>[Textbooks]</b>
Instructed during class
<b>[References, etc.]</b>
(Reference books) 『今中雄一編 認知症にやさしい健康まちづくりガイドブック：地域共生社会に向けた15の視点（共著）』（学芸出版社；2023） 『病院の教科書第2版』（医学書院） 『医療制度・医療政策・医療経済』（丸善出版,2013） 『医療の原価計算』（社会保険研究所,2003） 『医療安全のエビデンス・患者を守る実践方策』（医学書院,2005） 『NEW予防医学・公衆衛生学改訂第4版』（南江堂, 2018.）
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>
予習・復習は必要
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>
※やむを得ず相当の理由等により、対面授業をオンライン授業等へ変更する可能性があります。 当分野では、医療政策、医療経営、医療の質・安全・コスト研究に深く関わりたい人を募っています（医療経済学分野： <a href="http://med-econ.uimin.ac.jp">http://med-econ.uimin.ac.jp</a> ） 問い合わせ等は、 医療経済学教室 教務 <heqm-kyoumu(at)mail2.adm.kyoto-u.ac.jp> へご連絡ください。 面談等希望者は、適宜、教員にアポイントメントをとってください。
*Please visit KULASIS to find out about office hours.



未更新

Course number	P-PUB01 8H127 LB90						
Course title (and course title in English)	社会健康医学と健康政策 【領域4】 Health Policy and Academia	Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Professor,IMANAKA YUUICHI Graduate School of Medicine Professor,SATO TOSIYA Graduate School of Medicine Program-Specific Professor,SAOTOME CHIKAKO Graduate School of Medicine Professor,KONDO NAOKI Graduate School of Medicine Professor,NISHIURA HIROSHI Graduate School of Medicine Professor,NAKAYAMA TAKEO Graduate School of Medicine Professor,KAWAKAMI, KOJI Center for Southeast Asian Studies Associate Professor,SAKAMOTO RYOUTA Kyoto University Hospital Program-Specific Associate Professor,OGAWA MASANOBU Graduate School of Medicine Program-Specific Senior Lecturer,KAWASAKI HIDENORI Graduate School of Medicine Associate Professor,IWAKUMA MIHO Graduate School of Medicine Associate Professor,TAJIKI ARAN Graduate School of Medicine Professor,YAMAMOTO YOUSUKE Graduate School of Medicine Associate Professor,HARADA KOUJI Graduate School of Medicine Professor,IWAMI TAKU Graduate School of Medicine Program-Specific Senior Lecturer,SHIN JUNG-HO				
			Target year	Professional degree students	Number of credits	2	Year/semesters
Days and periods	Thu.3	Class style	Lecture	Language of instructor	Japanese		
<b>[Overview and purpose of the course]</b>							
Students will learn about health and healthcare-related systems and policies, as well as the supporting roles of research, human resource development, and other specialized activities. Lectures will be conducted by each of the departments in the School of Public Health based on their individual perspectives, insight, achievements, and research. The lectures will address the systems, policies, and social structures associated with health and health care. In addition, the lectures will examine the contributions of research, human resource development, and other specialized activities that support these systems, policies, and social structures.							
Continue to 社会健康医学と健康政策 【領域4】 (2) ↓ ↓ ↓							

社会健康医学と健康政策 【領域4】 (2)	
<b>[Course objectives]</b>	
Through all the lectures provided by the various departments, students will gain a multifaceted and comprehensive understanding of the systems and policies pertaining to health and health care.	
<b>[Course schedule and contents]</b>	
April 14 Public Health and Health Policy: Overview April 21 System and policy in environmental health in Japan April 28 Making of air quality standard May 12 Public Health and Intellectual Property May 19 Policy actions for health equity May 26 Epidemiology of COVID-19 June 02 Health communication and health policy June 09 Infant and school health check-up for individual and health policy development June 16 Field-based Health Policy June 23 Maternal and child health – system and policy in Japan June 30 Preventive measures for adults: specific health guidance and cancer screening July 07 Community and Public Health July 14 Global mental health July 21 QOL evaluation and health policy July 28 Health policy: theory, research and reality	
Note: This schedule is subject to change. Overview of the schedule will be shown at the first day.	
<b>[Course requirements]</b>	
This course is only open to Students in School of Public Health. Attendance rate 80% or more.	
<b>[Evaluation methods and policy]</b>	
1. Report (40%) 2. Classroom participation (60%)	
<b>[Textbooks]</b>	
Reading materials will be distributed as needed.	
<b>[References, etc.]</b>	
<b>(Reference books)</b> Reading materials will be distributed as needed. . 『NEW予防医学・公衆衛生学 改訂第4版』 (編集:小泉昭夫/馬場園明/今中雄一/武林亨) 南江堂. 2018.	
Continue to 社会健康医学と健康政策 【領域4】 (3) ↓ ↓ ↓	

社会健康医学と健康政策 【領域4】 (3)	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
Both good preparation and review are needed.	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
This course is jointly conducted by the entire School of Public Health.  *Please visit KULASIS to find out about office hours.	
Continue to 社会健康医学と健康政策 【領域4】 (2) ↓ ↓ ↓	

Course number	P-PUB01 8H109 LB90						
Course title (and course title in English)	医薬政策・行政 【領域4】 Drug Policy and Regulation	Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Professor,KAWAKAMI, KOJI				
			Target year	Professional degree students	Number of credits	1	Year/semesters
Days and periods	Wed.2	Class style	Lecture	Language of instructor	Japanese and English		
<b>[Overview and purpose of the course]</b>							
Director and Instructors: (Director) Koji Kawakami (Professor, Pharmacoepidemiology), Hiroaki Mamiya(CIRA),Yasuhiro Nishijima (MHLW) , Keisuke Matsubayashi (Suita city)							
The policy and regulatory systems in Japan, EU, and the US involving healthcare, safety, science, food safety, and industry will be discussed.							
<b>[Course objectives]</b>							
To understand the ideas of drug/medical device/food policy and regulations; medical industrialization and translational research policy.							
<b>[Course schedule and contents]</b>							
Lecture schedule :							
October 4 Drug policy and regulations (Kawakami) October 11 Drug regulation in the United states (Kawakami) October 18 Policy and development of medical devices (Kawakami) October 25 Drug regulation in Japan (Mamiya) November 1 Food safety regulations (Nisijima) November 8 Health insurance system and coverage of pharmaceuticals (Matsubayashi)							
<b>[Course requirements]</b>							
You must take this course along with the course H079 “Drug Development, Evaluation and Regulatory Sciences” otherwise the entire grasp of the drug research, development, and regulations will not be achieved.							
<b>[Evaluation methods and policy]</b>							
Participation (50%) and report (50%)							
<b>[Textbooks]</b>							
Not used							
Continue to 医薬政策・行政 【領域4】 (2) ↓ ↓ ↓							

医薬政策・行政 【領域4】(2)	
-----	
<b>[References, etc.]</b>	
<b>(Reference books)</b>	
Saeko Yasuo et al. 『Invitation to new drug development.』 (Kyoritsu Press, 2006) Koji Kawakami, Hisashi Urushihara, Shiro Tanaka et al. ed. 『Strom's Textbook of Pharmacoepidemiology』 (NANZANDO Co.,Ltd., 2019.) Introduced during class	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
Preparation in advance and review after lecture	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
Koji Kawakami (3F, Bldg G) appointment required by email. e-mail: kawakami.koji.4e@kyoto-u.ac.jp intermediate  *Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course number		P-PUB01 8H126 LB90					
Course title (and course title in English)	保健・医療の経済評価 【領域4】 Economic Evaluation in Health Care	Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Professor, IMANAKA YUUIICHI Graduate School of Medicine Program-Specific Associate Professor, SASAKI NORIKO Graduate School of Medicine Associate Professor, KUNISAWA SUSUMU Graduate School of Medicine Program-Specific Senior Lecturer, SHIN JUNG-HO Graduate School of Medicine Program-Specific Assistant Professor, GOTO ETSU				
			Target year	Professional degree students	Number of credits	1	Year/semesters
Days and periods	Wed.4	Class style	Lecture	Language of instruction	Japanese and English		
<b>[Overview and purpose of the course]</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>Lectures will address the theories and frameworks that support economic evaluations in health care, and students will learn the major research methods used in evaluating healthcare-related economic performance.</li> <li>Economic evaluations of health care are usually conducted under practical constraints, and students will learn the approaches to conducting research under these conditions.</li> <li>This course will examine economic evaluations in a wide range of healthcare-related topics.</li> </ul>							
<b>[Course objectives]</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>Students will be able to explain key issues in the theories, frameworks, and research methods that support economic evaluations in health care.</li> <li>Students will understand the possible biases associated with research involving economic evaluations of health care.</li> <li>Economic evaluations are conducted on various aspects of health care, including treatment techniques, pharmaceuticals, medical supplies, medical examinations, and health policy programs. Students will understand and be able to explain the differences and respective applications of the main research methods used in these evaluations, including cost analyses, cost-effectiveness analyses, cost-utility analyses, and cost-benefit analyses. Students will also learn the core concepts of cost calculations and outcome measurements, time-based concepts, discount rates, sensitivity analyses, incremental cost-effectiveness ratios, and the appropriate interpretation of analytical results.</li> <li>Based on the above, students will be able to conduct critical reviews of research articles in this field and explain their significance. Students will also be able to apply their acquired knowledge and techniques when developing research protocols and conducting research.</li> </ul>							
<b>[Course schedule and contents]</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>April 13 Evaluating the economic performance of health care 1</li> <li>April 20 Evaluating the economic performance of health care 2</li> <li>April 27 Economic evaluation methods in health care</li> <li>May 11 Modeling in economic evaluations</li> <li>May 18 Methodologies in cost-effectiveness and cost-utility analyses 1</li> </ol>							
Continue to 保健・医療の経済評価 【領域4】(2) ↓ ↓ ↓							

保健・医療の経済評価 【領域4】(2)	
-----	
6. May 25 Methodologies in cost-effectiveness and cost-utility analyses 2 7. Jun 01 Economic evaluation in health care: Journal article review and discussion 1 8. Jun 08 Economic evaluation in health care: Journal article review and discussion 2 Note: This schedule is subject to change. Overview of the schedule will be shown at the first day.	
<b>[Course requirements]</b>	
This course is only open to Students in School of Public Health who are not involved in MCR course. Students in School of Human Health Sciences cannot apply for this course. Attendance rate 80% or more.	
<b>[Evaluation methods and policy]</b>	
1. Report (60%) 2. Classroom participation (40%)	
<b>[Textbooks]</b>	
Reading materials will be distributed as needed	
<b>[References, etc.]</b>	
<b>(Reference books)</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>Drummond MF, et al. Methods for the Economic Evaluation of Health Care Programmes, 4th Ed. Oxford, 2015.</li> <li>Myriam Hunink. Decision Making in Health and Medicine: Integrating Evidence and Values. Cambridge, 2001.</li> <li>医療制度・医療政策・医療経済 (丸善出版, 2013)</li> <li>Handbook of Health Services Research (Springer Science+Business Media)</li> <li>『NEW 予防医学・公衆衛生学 改訂第4版』(編集:小泉昭夫/馬場園明/今中雄一/武林亨) 南江堂, 2018.</li> </ul>	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
Both good preparation and review are needed.	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>Places available for students without former experiences of studying economics.</li> <li>Our department has been accepting graduate students who are interested in research related to health care policies, health care management, and health care quality/safety/cost. (<a href="http://med-econ.umin.ac.jp/int/">http://med-econ.umin.ac.jp/int/</a>)</li> </ul>	
Note: Topics related to process and outcome measures, clinical practice variation, healthcare evaluations and assessments, hospital functional assessments, and healthcare quality & safety are included in the course “	
Continue to 保健・医療の経済評価 【領域4】(3) ↓ ↓ ↓	

保健・医療の経済評価 【領域4】(3)	
-----	
Evaluation of Quality in Health Care” (Wed.3, the last half of first semester). If you would like to learn about these topics, consider to apply for this course.	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

未更新

<b>Course number</b>		P-PUB01 8H075 LB90			
<b>Course title (and course title in English)</b>	行動科学 【領域5】 Behavioral Science		<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Associate Professor,TAJIKA ARAN	
<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>	1	<b>Year/semesters</b>	2023/The first half of first semester
<b>Days and periods</b>	Tue.1	<b>Class style</b>	Lecture	<b>Language of instruction</b>	Japanese and English
<b>[Overview and purpose of the course]</b>					
I. Course Description This course will introduce outlines of representative behavior theories/concepts, with particular focus on those which have demonstrated effectiveness in practices.					
II. Methods of Instruction Lecture, group discussion, and report  (Based on the infection status of COVID-19, it will be decided whether the lectures will be face-to-face or in a fully online format.)					
<b>[Course objectives]</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>• To be able to explain the outlines of representative behavioral theories.</li> <li>• To be able to apply behavioral theories in the areas in which the participants are interested.</li> </ul>					
<b>[Course schedule and contents]</b>					
April 11 Introduction, Health belief model April 18 Transtheoretical model, Theory of planned behavior April 25 Cognitive-behavioral model, Cognitive behavioral therapy May 2 Social Cognitive Theory May 9 Stress and coping May 16 Motivational interviewing May 23 Overview June 30 (Reserve day)					
<b>[Course requirements]</b>					
MPH Elective but Required					
<b>[Evaluation methods and policy]</b>					
Participation 50 %, Report 50 % (To get credit 60% in total will be required)					
Continue to 行動科学 【領域5】(2) ↓ ↓ ↓					

<b>行動科学 【領域5】(2)</b>	
<b>[Textbooks]</b>	
lecture materials	
<b>[References, etc.]</b>	
<b>(Reference books)</b>	
Required text: None.  Suggested reading: <ul style="list-style-type: none"> <li>• Glanz et al. Health behavior and health education-theory, research and practice 4th edition, Jossey-Bass, San Francisco, 2008</li> <li>• Matsumoto et al. Basics of health behavior theories for medical and welfare personnel. (医療・保健スタッフのための健康行動理論の基礎)、医歯薬出版、2002</li> </ul>	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
Review lessons.	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
The class is open to students from Graduate School of Human Health Science.  *Please visit KULASIS to find out about office hours.	

<b>Course number</b>		P-PUB01 8H076 LB90			
<b>Course title (and course title in English)</b>	基礎医療倫理学 【領域5】 Basic Medical Ethics		<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Associate Professor,NAKAJIMA TAKESHI	
<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>	1	<b>Year/semesters</b>	2023/The first half of first semester
<b>Days and periods</b>	Thu.5	<b>Class style</b>	Lecture	<b>Language of instruction</b>	Japanese and English
<b>[Overview and purpose of the course]</b>					
This course is aimed to study ethical points of view for practice and research of public health.					
<b>[Course objectives]</b>					
Able to explain major theories for medical ethics. Able to write documents for one's research appropriately for the purpose of evaluation at ethics committee. Able to explain ethical problems on healthcare of children and patients on terminal stage, and research on genetics.					
<b>[Course schedule and contents]</b>					
[1st lecture] 4/13 [Kosugi] General remarks and Concept in medical ethics [2nd lecture] 4/20 [Nakajima] History of bioethics [3rd lecture] 4/27 [Wada] Ethics for neonates and children (1) [4th lecture] 5/11 [Takenouchi] Ethics for terminal care [5th lecture] 5/18 [Ogawa] Ethics for Obstetrics and gynecology [6th lecture] 5/25 [Torishima] Ethics for genetic counseling [7th lecture] 6/1 [kawasaki] Ethics for neonates and children (2) [8th lecture] 6/8 [Kosugi] Research Ethics and Ethics Review Board					
<b>[Course requirements]</b>					
None					
<b>[Evaluation methods and policy]</b>					
General attitude (including attendance): 40% Report: 60%					
<b>[Textbooks]</b>					
Not used					
Continue to 基礎医療倫理学 【領域5】(2) ↓ ↓ ↓					

<b>基礎医療倫理学 【領域5】(2)</b>	
<b>[References, etc.]</b>	
<b>(Reference books)</b>	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
Report deadline <ul style="list-style-type: none"> <li>• Middle report: 5/31</li> <li>• Final report: 6/30</li> </ul> (Caution) Report submission destination: kosugi@kuhp.kyoto-u.ac.jp We will not send you a receipt confirmation email.	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

<b>Course number</b>	P-PUB01 8H077 LB90				
<b>Course title (and course title in English)</b>	医学コミュニケーション・基礎 【領域5】 Medical Communication: Introduction		<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Associate Professor, IWAKUMA MIHO	
<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>	1	<b>Year/semesters</b>	2023/The first half of first semester
<b>Days and periods</b>	Tue.5	<b>Class style</b>	Lecture	<b>Language of instruction</b>	Japanese and English
<b>[Overview and purpose of the course]</b>					
I. Course Description The course provides an introduction to medical/health communication, both its theoretical frameworks and applications, for those from diverse interests, backgrounds, and/or disciplines. The course covers basics of medical/health communication, with an emphasis on non-verbal communication.					
<b>[Course objectives]</b>					
II. Course Goals and Objectives Understanding frameworks, theories, and concepts that are relevant to medical/health communication Understanding health communication from a micro to macro level Understanding roles and significances of non-verbal communication in the field of health communication Understanding communication with parents of sick children at hospitals					
<b>[Course schedule and contents]</b>					
1) 4/11 Introduction 2) 4/18 What's "communication" anyway? 3) 4/25 Communication studies in health fields 4) 5/2 "Nuts and bolts" of communication studies: verbal, non-verbal, and channel 5) 5/9 Many "times & spaces": non-verbal communication, continued 6) 5/16 Guest lecture on communicating with parents of sick children (Emiko Takaya @ Kyoto University Hospital "Nicotoma") 7) 5/23 Course wrap-up					
<b>[Course requirements]</b>					
None					
Continue to 医学コミュニケーション・基礎 【領域5】(2) ↓ ↓ ↓					

医学コミュニケーション・基礎 【領域5】(2)	
<b>[Evaluation methods and policy]</b>	
Course Grade Participation 50% Term paper 50% ("one-word declaration" 5% + title of the paper 10% + final version 35%)	
<b>[Textbooks]</b>	
Not used	
<b>[References, etc.]</b>	
<b>(Reference books)</b>	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
students are recommended to read readings of communication studies that are related to his or her interests.	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
Message This instructor differentiates "health communication," which is mainly interested in doctor-patient communication, from "medical communication" with a broader, sociological focus; therefore, it is recommended that when interested in the aforementioned doctor-patient communication, s/he take other SPH classes. Suitable for students who are interested in social science perspectives in medicine and science Consult with me ASAP for any disability-related accommodation @ mhiwakuma@yahoo.co.jp or ext. 4668. A guest lecture is given in Japanese.	
* The classes are delivered in-class only.	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

未更新

<b>Course number</b>	P-PUB01 8H157 LB90				
<b>Course title (and course title in English)</b>	社会疫学 【領域5】 Social epidemiology		<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Professor, KONDO NAOKI	
<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>	2	<b>Year/semesters</b>	2023/First semester
<b>Days and periods</b>	Mon.3	<b>Class style</b>	Lecture	<b>Language of instruction</b>	Japanese and English
<b>[Overview and purpose of the course]</b>					
In addition to the high-risk approach to individuals at high risk of illness/diseases, the population approach to improving the social environment has become a major trend in public health. In the population approach, it is necessary to consider the differences in the social background of individuals and the resulting health inequalities. By formulating a strategy based on health inequalities, further effects and efficient resource utilization can be expected.  This course will teach the basic theories and analytical methods of social epidemiology necessary for such activities. Social epidemiology is a field of epidemiology that describes the social distribution of health events and explores the role of the social environment and social systems as disease risk factors/health promotion factors. Social epidemiology also develops methods to reduce health inequalities and assesses their effectiveness. By doing this, we aim to contribute to the realization of a healthy society in which no one is left behind.  After the lectures on the main themes by Prof. Naoki Kondo, Leading experts in the field provide the lectures on their specific topics.					
<b>[Course objectives]</b>					
1. Understand the perspective of social epidemiology. 2. Understand the types, evaluation methods, and actual conditions of the main social determinants of health. 3. Understand the related theories of relevant disciplines such as sociology, economics, ethics, behavioral science, and social psychology. 4. Understand the basics of health inequalities assessment methods 5. Understand the basics of how to control health inequalities 6. Have your own awareness and opinion on public health actions and clinical application of social epidemiology.					
<b>[Course schedule and contents]</b>					
The following schedule is subject to change. 1. 4/11 An introduction of social epidemiology 2. 4/18 Socio-economic status 3. 4/25 Poverty and social exclusion 4. 5/2 Social disparity 5. 5/19 Cognitive science and political philosophy of inequality 6. 5/16 Social relationships (Daisuke Takagi, the University of Tokyo) 7. 5/20 Lifecourse epidemiology (Takeo Fujiwara, Tokyo Medical and Dental University)					
Continue to 社会疫学 【領域5】(2) ↓ ↓ ↓					

社会疫学 【領域5】(2)	
8. 5/23 Social capital 9. 5/30 Gender (Kaori Honjo, Osaka Medical and Pharmaceutical University)	
10.6/13 Measurement of health inequalities (Maho Haseda) 11.6/20 Multiple level phenomenon understanding and data analysis 12.6/27 Construction environment (Daisuke Takagi, the University of Tokyo) 13.7/4 Managing health inequalities: Approaching the community 14.7/25 Managing health inequalities: Applications of behavioral science 15.8/1 Review & feedback	
<b>[Course requirements]</b>	
None	
<b>[Evaluation methods and policy]</b>	
Attendance / lecture quiz 40%, report 60%	
Report assignments will be presented during the course.	
About the report: * Up to 2 pages(A4). * Deadline: Noon one week after each lecture day * Specify the assignment name, student ID number, and submission date. * When quoting data, phrases, etc., be sure to indicate the source of them. The list of cited materials should be listed at the end. Copying and pasting long sentences from the Internet is prohibited (for charts and data, it is possible to specify the citation source).	
<b>[Textbooks]</b>	
川上憲人・橋本英樹・近藤尚己 (編著) 『社会と健康: 健康格差解消に向けた統合科学的アプローチ』 (東大出版会, 2015) ISBN:978-4-13-060411-6 (In Japanese) Reading the relevant chapters in this textbook before each lecture is recommended. Non-Japanese speakers may read alternative materials such as "Social Epidemiology 2nd edition(Oxford)" or relevant review papers, searching PubMed.	
<b>[References, etc.]</b>	
<b>(Reference books)</b> Lisa F. Berkman, Ichiro Kawachi, and M. Maria Glymour 『Social Epidemiology 2nd Edition』 (Oxford, 2014) ISBN:9780195377903	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
Reading course materials before the class is recommended.	
Continue to 社会疫学 【領域5】(3) ↓ ↓ ↓	

社会学【領域5】(3)	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course number		P-PUB01 2H154 LJ87			
<b>Course title (and course title in English)</b>	医学基礎 I 「生理学 I」 Basic Medicine I (Physiology I)	<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Professor,NISHIURA HIROSHI Graduate School of Medicine Professor,HAYASHI YU		
<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>	2	<b>Year/semesters</b>	2023/The first half of first semester
<b>Days and periods</b>	Mon,3,4	<b>Class style</b>	Lecture	<b>Language of instruction</b>	Japanese
<b>[Overview and purpose of the course]</b>					
Details undecided. Please check an official announcement.					
<b>[Course objectives]</b>					
Details undecided. Please check an official announcement.					
<b>[Course schedule and contents]</b>					
Physiology I Mon 3, 4 <Lecture Schedule>					
Details undecided. Please check an official announcement.					
<b>[Course requirements]</b>					
None					
<b>[Evaluation methods and policy]</b>					
Attitude & Attendance 30%, Reports 70%					
<b>[Textbooks]</b>					
Details undecided. Please check an official announcement.					
<b>[References, etc.]</b>					
<b>(Reference books)</b>					
Details undecided. Please check an official announcement.					
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>					
Details undecided. Please check an official announcement.					
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>					
Details undecided. Please check an official announcement.					
*Please visit KULASIS to find out about office hours.					

Course number		P-PUB01 2H163 LJ87			
<b>Course title (and course title in English)</b>	医学基礎 I 「神経生理学」 Basic Medicine I (Neurophysiology)	<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Professor,NISHIURA HIROSHI Graduate School of Medicine Professor,HAYASHI YU		
<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>	2	<b>Year/semesters</b>	2023/The first half of second semester
<b>Days and periods</b>	Wed,1,2	<b>Class style</b>	Lecture	<b>Language of instruction</b>	Japanese
<b>[Overview and purpose of the course]</b>					
医療に関わる者に必要となる人体機能のうち神経系の構造と機能について、「生理学I・II」で学んだ内容からさらに発展的な項目について、学習する。毎回の授業で提示される課題について各自で検索・考察することによって神経系について理解を深め、医療専門職として有用となる神経機能の発展的な知識を身につけることを目的とする。					
<b>[Course objectives]</b>					
医療の現場で問題に直面した際に、医療専門職として正しい判断がとれるようになるために有用となるヒト神経系についての発展的な知識を習得する。					
<b>[Course schedule and contents]</b>					
2023.11.29 第1,2回 神経系の組織、基本的機能と神経伝達物質 (緑川)					
2023.12.06 第3,4回 体性感覚 (緑川)					
2023.12.13 第5,6回 視覚 (緑川)					
2023.12.20 第7,8回 聴覚・身体感覚・化学感覚・脊髄の運動制御機構と脊髄反射 (緑川)					
2023.12.27 第9,10回 皮質と脳幹によって制御される運動機能・小脳と大脳基底核の運動全般における役割 (緑川)					
2024.01.10 第11,12回 大脳皮質、脳の知的機能・学習と記憶 (緑川)					
2024.01.17 第13,14回 大脳辺縁系・自律神経系 (緑川)					
(未定) 第15回,16回 試験/学習到達度の評価・フィードバック (緑川)					
<b>[Course requirements]</b>					
本科目は、2017～2020年度カリキュラム適用学生対象の科目です。 (※2021年度以降カリキュラム適用学生は、「神経生理学」を履修登録してください。)					
<b>[Evaluation methods and policy]</b>					
成績評価の方法は別途確認すること					
<b>[Textbooks]</b>					
スライドと配布資料を使用する。					
<b>[References, etc.]</b>					
<b>(Reference books)</b>					
John E. Hall; 総監訳=石川義弘・岡村康司・尾仲達史・河野憲二 『ガイドン生理学 原著第13版』 (エルゼビア・ジャパン) ISBN:9784860347741					
Continue to 医学基礎 I 「神経生理学」(2) ↓ ↓ ↓					

医学基礎 I 「神経生理学」(2)	
奈良 典 / 鎌倉 亜子 監修 『<標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野>生理学』(医学書院) ISBN:978-4-260-03644-3	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
配布資料に示されているチェックリストの各項目について復習し、理解できているかどうか確認して下さい。	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

<b>Course number</b>	P-PUB01 2H153 LJ87		
<b>Course title (and course title in English)</b>	医学基礎 I 「解剖学」 Basic Medicine I (Anatomy)	<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Professor,NISHIURA HIROSHI Graduate School of Medicine Professor,YAMADA SHIGEHITO
<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>	2
<b>Year/semesters</b>	2023/The first half of first semester		
<b>Days and periods</b>	Wed.3,4	<b>Class style</b>	Lecture
<b>Language of instruction</b>	Japanese		
<b>[Overview and purpose of the course]</b>			
人体は様々な細胞から組織、器官が構成されており、それらが協調して働くことで一身体として機能している。人体の構造と機能に関する総合的理解を目指し、特に、その構造異常や機能異常によって起こる「疾患」を念頭において概説する。学生諸君の知的好奇心を刺激する一方で、臨床に有益な関連事項を織り交ぜて解説したい。			
<b>[Course objectives]</b>			
・人体の構造及び機能の基本を理解する。 ・異常により引き起こされる疾患の病態について解剖学的に説明できる。			
<b>[Course schedule and contents]</b>			
Anatomy Wed 3, 4 <Lecture Schedule>			
1. Chapter1 Introduction to the Body ; Chapter2 Chemistry of Life 2. Chapter3 Cells ; Chapter4 Tissues 3. Chapter5 Organ Systems ; Chapter6 Skin and Membranes 4. Chapter7 Skeletal System 5. Chapter8 Muscular System 6. Chapter9 Nervous System 7. Chapter9 Nervous system(cont' d) 8. Chapter10 Senses ; Chapter11 Endocrine System 9. Chapter12 Blood ; Chapter13 Cardiovascular System 10. Chapter13 Cardiovascular System (cont' d) 11. Chapter 14 Lymphatic System and Immunity ; Chapter15 Respiratory System 12. Chapter16 Digestive System ; Chapter17 Nutrition and Metabolism 13. Chapter18 Urinary System ; Chapter21 Reproductive System 14. Chapter22 Growth, Development, and Aging 15. (to be decided; using electronic materials) Report / Feedback (NISHIURA)			
<b>[Course requirements]</b>			
None			

Continue to 医学基礎 I 「解剖学」(2) ↓ ↓ ↓

<b>医学基礎 I 「解剖学」(2)</b>
<b>[Evaluation methods and policy]</b>
Attitude & Attendance 30%, Reports 70%
<b>[Textbooks]</b>
K.T.Patton, G.A. Thibodeau 「Structure & Function of the Body, 16th ed., Paperback」 (ELSEVIER) ISBN: 978-0323597791 (2019年11月発売の新刊を使用する。)
<b>[References, etc.]</b>
<b>(Reference books)</b> K.T.Patton, G.A. Thibodeau 「Structure & Function of the Body, 16th ed., Paperback」 (ELSEVIER) ISBN: 978-0323597791 (2019年11月発売の新刊を使用する。) 【参考書】 堀田浩平「グレイ解剖学 原著第3版」(エルゼビア・ジャパン) ISBN:978-4860343064 (必要に応じて参照のこと。重いのので毎回の講義に持参しなくてもよい。解剖実習では必要か。) 藤田恒夫「入門人体解剖学 改訂第5版」(南江堂) ISBN:978-4-524-24237-5 (英語がどうしても辛くなった時に参照するのに適切。)
<b>(Related URLs)</b>
<a href="https://evolve.elsevier.com/cs/">https://evolve.elsevier.com/cs/</a> (教科書を購入すると、ウェブサイトへのアクセス方法が入手できます。)
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>
・ 講義前には、教科書の該当範囲を通読してくることが望ましい。 ・ 講義後には付録してある演習問題を解き、講義事項を確認する。
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>
初回講義より教科書を使用するので購入して持参すること。 Students attending from School of Public Health should contact Education Committee (sphyoumu@gmail.com) for any queries and evaluation  *Please visit KULASIS to find out about office hours.

未更新

<b>Course number</b>	P-PUB01 8H164 LJ90		
<b>Course title (and course title in English)</b>	医学基礎 I 「基礎人類遺伝学」 Basic Medicine I (Introduction to Human Genetics)	<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Program-Specific Professor,WADA TAKAHIITO
<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>	2
<b>Year/semesters</b>	2023/First semester		
<b>Days and periods</b>	水3・その他開講日注意	<b>Class style</b>	Lecture
<b>Language of instruction</b>	Japanese		
<b>[Overview and purpose of the course]</b>			
[Basic information] Class date and time: 3rd period on Wednesdays (there may be exceptions) Classroom: Building G, 3rd floor, Seminar room Level: Basic Staff in charge: Shinji Kosugi, Takahito Wada, Ken Nakajima, Takahiro Yamada			
<b>[Course overview]</b>			
Lectures about the most basic matters for those who intend to work as genetic counselors or in the field of medical genetics/genetic medicine. It is also important for tailor-made treatment based on genetic information expected in the future. This course is composed of systematic lectures about cytogenetics, molecular genetics, Mendelian genetics, non-Mendelian genetics, and population genetics.			
<b>[Course objectives]</b>			
Having a complete understanding of the basics of human genetics and being able to explain it to non-specialists in a concise manner.			
<b>[Course schedule and contents]</b>			
[1st lecture] 4/13 [Wada 1] General Theory of Mendelian Genetics and How to Draw Family Trees: General theory of Mendelian and non-Mendelian genetics, autosomes and sex chromosomes, the concept of alleles, the concept of hereditary diseases, and how to draw family trees. [2nd lecture] 4/13 4th period [Kosugi 1] Autosomal Dominant/Recessive Inheritance: The concepts of autosomal dominant diseases, their characteristics, penetrance, expressiveness, hereditary and de novo mutation, and anticipation (next-generation expression promotion phenomena); the concept and characteristics of autosomal recessive diseases; and the concept of carriers. [3rd lecture] 4/13 5th period [Kosugi 2] X-linked inheritance: The concept of X-linked inheritance, the specificities of the X and Y chromosomes, gender determination mechanisms, and specific diseases that show X-linked inheritance. [4th lecture] 4/13 6th period [Yamada 1] Cytogenetics (1) Chromosome and cell division, chromosome analysis by banding, method of karyotyping chromosomes, and an introduction to chromosome abnormalities. [5th lecture] 4/20 (First clinical auditorium) [Kosugi 3] Pharmacogenetics: Understanding the basics of pharmacogenetics/pharmacogenomics, the most important area of (already-starting) tailor-made treatment. [6th lecture] 4/20 5th period [Yamada 2] Cytogenetics (2) The concept of chromosome numerical abnormality and generation mechanisms; the concept of chromosomal structural abnormality and generation mechanisms; and the concept of carriers and effects on the next generation. [7th lecture] 4/27 6th period [Wada 2] Estimation of genetic risks: Learn about estimation recurrence and			

Continue to 医学基礎 I 「基礎人類遺伝学」(2) ↓ ↓ ↓

<b>医学基礎 I 「基礎人類遺伝学」(2)</b>
Bayes' theorem. [8th lecture] 5/11 [Nakajima 1] Genetic testing (1) PCR, Sequencing and Southern blotting. [9th lecture] 5/18 [Kosugi] Genetic testing (2) How to screen for mutations, mutations and polymorphisms, and types of mutations. [10th lecture] 5/25 [Wada 3] Multifactorial inheritance and population genetics: Learn about the concept of multifactorial inheritance, quantitative and qualitative traits, and the Hardy-Weinberg principle. [11th lecture] 6/1 [Yamada 3] The Basics of the Human Genome: Learn about human genome information, including gene structure, functions, and genetic diversity in detail. [12th lecture] 6/8 [Wada 4] Non-Mendelian Genetics (1) Learn about mitochondrial inheritance. [13th lecture] 6/15 [Nakajima 3] The Basics of Tumor Genetics: Somatic cell variants and germline variants, oncogene and anti-oncogene, and hereditary cancer syndrome. [14th lecture] 6/22 [Wada 5] Non-Mendelian Genetics (2) Learn about epigenetics. [15th lecture] 6/29 [Yamada 4] The Basics of Molecular Genetics: PCR, next generation sequencing, and microarray.  7/6 Written test 7/27 Retest Written test
<b>[Course requirements]</b>
Compulsory subject for first-year students, graduating from non-medical college/university, in the Genetic Counselor Course  Caution; students, graduating from medical college/university, should take "Introduction to Human Genetics"  If taken as an elective, we recommend taking it along with "Genetic Medicine and Ethics/Society"  Availability for students majoring in Human Health Sciences: Contact us in advance
<b>[Evaluation methods and policy]</b>
Comprehensive evaluation of tests, reports, presentations, attendance, and other activities.
<b>[Textbooks]</b>
Thompson & Thompson Genetics in Medicine (2nd Ed.) (Medical Science International) ISBN: 978-4-89592-875-5, April 2017, Edited by Yoshimitsu Fukuyama Genetic Counseling Manual (Revised 3rd Edition) (Nankodo) ISBN:978-4-524-26667-8 Rinsyo Idenn Senmonni Text 1 Rinsyo Idengaku Soron (Shindan to Chiryō sya) ISBN: 978-4787823670
<b>[References, etc.]</b>
<b>(Reference books)</b> Norio Niikawa Iden Igaku e no Shotai (Revised 6th Edition) (Nankodo) ISBN:978-4-524-24931-2,

Continue to 医学基礎 I 「基礎人類遺伝学」(3) ↓ ↓ ↓

医学基礎 I 「基礎人類遺伝学」(3)	
<b>(Related URLs)</b>	
(http://www.geneclinics.org/ (GeneReviews))	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
Instructions will be given accordingly	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
The lecture schedule, lecturers, and content are subject to minor changes	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

<b>Course number</b>		P-PUB01 8H007 LB87	
<b>Course title (and course title in English)</b>	医学基礎 II	<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Professor,NISHIURA HIROSHI Graduate School of Medicine Associate Professor,ONO KOU Kyoto University Hospital Associate Professor,KATO TAKAO Kyoto University Hospital Assistant Professor,SHIOMI HIROKI Kyoto Okamoto Memorial Hospital KAWATA MITSUHIRO Kyoto University Hospital Assistant Professor,YAMAJI KYOHEI
	Basic Medicine II		
<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>	2
<b>Year/semesters</b>	2023/Second semester		
<b>Days and periods</b>	Thu.2	<b>Class style</b>	Lecture
<b>Language of instruction</b>	Japanese and English		
<b>[Overview and purpose of the course]</b>			
Director and Instructors: Koh Ono(Associate Professor, Department of Cardiovascular Medicine, Kyoto University Graduate School of Medicine) Takao Kato(Associate Professor iACT, Kyoto University Hospital) Kyohei Yamaji(Assistant Professor, Cardiovascular Medicine, Kyoto University Hospital) Hiroki Shiomi(Assistant Professor, Department of Cardiovascular Medicine, Kyoto University) Mitsuhiro Kawata(Senior Advisor, Kyoto Okamoto Memorial Hospital · Emeritus Professor, Kyoto Prefectural University of Medicine)			
This course introduces the basics of human anatomy, physiology, endocrinology, biochemistry, immunology as a basis for the understanding of human diseases. To understand human body, practice to observe human skeleton and brains will be scheduled.			
<b>[Course objectives]</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>• To understand the basics of circulatory system</li> <li>• To understand the basics of the structure and function of skeletal, muscular, and nervous systems with their some disorders</li> </ul>			
<b>[Course schedule and contents]</b>			
Course Schedule (*Schedule may be changed) #1 October 5Circulatory system (Introduction) #2 October 12 Circulatory system 1 (valvular heart disease, congenital heart disease, and vascular disease) #3 October 19Circulatory system 2 (ischemic heart disease and emergency medicine) #4 October 26 Circulatory system 3 (hypertension and arrhythmia) #5 November 2 Skeletal system 1 (bone/cartilage histology and axial skeleton) #6 November 9 Skeletal system 2 (upper and lower limb skeletons, joints) #7 November 16 Muscular system 1 (muscle histology and movements) #8 November 30 Muscular system 2 (upper and lower limb muscles, torso muscles)			
Continue to 医学基礎 II(2) ↓ ↓ ↓			

医学基礎 II(2)	
<p>#9 December 7 Nervous system 1 (history of neuroscience, neuronal structure and function)</p> <p>#10 December 14 Nervous system 2 (structure and function of cerebral cortex)</p> <p>#11 December 21 Nervous system 3 (structure and function of each lobe of the brain)</p> <p>#12 December 28 Nervous system 4(structure and function of basal ganglia, limbic system, diencephalon)</p> <p>#13 January 110 Nervous system 5 (structure and function of brainstem and spinal cord)</p> <p>#14 January 18 Nervous system 6 (structure and function of peripheral nerves, autonomic nervous system, blood supply)</p> <p>#15 January 25 Nervous system 7 (pathophysiology of diseases of nervous system)and review)</p> <p>#1 Dr. Shiomi, #2 Dr. Kato, #3 Dr. Yamaji, #4: Dr. Ono, #5 through #15: Professor Kawata</p>	
<b>[Course requirements]</b>	
Second Semester, Required for students without medical background	
<b>[Evaluation methods and policy]</b>	
Attitude & Attendance 30%, Reports 70%	
<b>[Textbooks]</b>	
<p>カラーで学ぶ解剖生理学 (第2版) * (コメディカルサポート研究会) メディカル・サイエンス・インターナショナル (ELSEVIER) 2017</p> <p>* Audio Chapter Summaries in English are available at the site of evolve.elsevier.com/PattonThibodeau/human body</p> <p>神経科学 脳の探求 改訂版 マーク・F・ベアー(著),バリー・W・コノーズ(著),マイケル・A・バラディーノ(著),藤井 聡(監修,翻訳) 西村書店 2021</p>	
<b>[References, etc.]</b>	
<b>(Reference books)</b>	
Suggested readings: ・カンデル神経科学 第2版 宮下保司(監修), Eric R. Kandel · John D. Koester · Sarah H. Mack · Steven A. Siegelbaum(編集) メディカルサイエンスインターナショナル 2022・人体の正常構造と機能 (改訂第3版) 全10巻縮刷版、日本医事新報社、2017 ・プロメテウス解剖学コアアトラス 第2版、医学書院、2014 ・病気が見える vol.2 循環器 医療情報科学研究所 2017	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
Preparation in advance and review after lecture	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
※The class is open to students from Graduate School of Human Health Science.	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	
Continue to 医学基礎 II(3) ↓ ↓ ↓	

医学基礎 II(3)	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

<b>Course number</b>	P-PUB01 8H008 LB87		
<b>Course title (and course title in English)</b>	臨床医学概論 Introduction to Clinical Medicine	<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Professor,NISHIURA HIROSHI Part-time Lecturer,WATANABE HIROKI Part-time Lecturer,CHIBA TSUTOMU
<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>	2
<b>Year/semesters</b>	2023/Second semester		
<b>Days and periods</b>	Wed.4	<b>Class style</b>	Lecture
<b>Language of instruction</b>	Japanese and English		
<b>[Overview and purpose of the course]</b>			
Instructors: Takuya Ouno, (Otsuka Pharmaceuticals Co.,Ltd. - Senior Manager, Medical Safety, Pharmacovigilance) Tatsuto Nishigori, (Assistant Professor, Department of Patient Safety/ Department of Surgery, Kyoto University Hospital) Masahiro Iwasaku, (Assistant Professor, Department of Pulmonary Medicine, Kyoto Prefectural University of Medicine) Nobuaki Hoshino (Program-Specific Senior Lecturer, Institute for Advancement of Clinical and Translational Science (IACT) / Department of Surgery, Kyoto University Hospital) Tsutomu Chiba(Specially appointed president, Kansai Electric Power Hospital)			
This course will offer introductory level of modern clinical medicine, in order to facilitate collaboration between healthcare specialists (i.e. medical doctors, nurses, or other professionals working on healthcare, public health, or social welfare) and students without previous experience in health care field. Lectures will cover disorders of major organ systems, focused on their etiology, treatment, prevention, as well as their societal impact, to help understand recent and historical public health issues, such as population, environment, or aging society. Exposed to topical subjects in clinical research, students are expected to cultivate their sense of responsibility in bridging between clinical medicine and public health.			
<b>[Course objectives]</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>To understand the roles and the problems of the clinical medicine and health care in Japan from the societal perspective.</li> <li>Can discuss the current situation and future perspectives of modern medical science and healthcare.</li> <li>Can describe the role of clinical research in improving evidence-based practice.</li> </ul>			
<b>[Course schedule and contents]</b>			
Course Schedule (subject to change)			
#1 October,4 Clinical question in perioperative management			
#2 October,11 Clinical question in intensive care management			
#3 October,18 Healthcare and Patient Safety			
#4 October,25 Clinical Nutrition and Patient Reported Outcomes			
#5 November,1 Patients, Medicine and Society in Cancer Care			
#6 November,8 Clinical Issues in Cancer Genomic Medicine			
#7 November,15 Clinical Research and Laws/Guideline			
#8 November,29 Medical Expenses Combined with Treatment Outside Insurance Coverage			
Continue to 臨床医学概論(2) ↓ ↓ ↓			

<b>臨床医学概論(2)</b>			
-----			
#9 December,6 Cancer: its biology and clinical medicine			
#10 December,13 Genes and genetic diseases			
#11 December,27 Immunology and immune diseases			
#12 January,10 Infectious diseases			
#13 January,17 Nutrition and metabolic diseases			
#14 January,24 Digestive diseases			
#15 January,31 Heart diseases and Kidney diseases			
#1&#2 Dr.Okuno,#3&#4 Dr. Nishigori ,#5&#6Dr.Iwasaku, #7&#8Dr.Hoshino, #9 through #15: Professor Chiba			
<b>[Course requirements]</b>			
Second Semester, Required for students without medical background			
<b>[Evaluation methods and policy]</b>			
Comprehension (including classroom participation) 50%, Report 50%			
<b>[Textbooks]</b>			
Necessary course materials will be distributed in class. Suggested readings (not mandatory): ・河田光博,武田英二編, 臨床医学入門 人体の構造と機能及び疾病の成り立ち 第2版(栄養科学シリーズNEXT), 講談社サイエンティフィク, 2009.			
<b>[References, etc.]</b>			
<b>(Reference books)</b> (Reference books) ・ Harrison' s Internal Medicine 19th edition, McGraw Hill Education ・ Goldman-Cecil, Medicine, 25th edition, Elsevier ・ ガイトン 生理学, エルセヴィアジャパン ・ ハーパー 生化学, 丸善 ・ 厚生労働省 人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針: <a href="https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hokabunya/kenkyujigyuu/i-kenkyu/index.html">https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hokabunya/kenkyujigyuu/i-kenkyu/index.html</a> ・ 厚生労働省 臨床研究法について: <a href="https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000163417.html">https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000163417.html</a> ・ 厚生労働省 先進医療の概要について: <a href="https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/iryuuhoken/sensiniryu/index.html">https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/iryuuhoken/sensiniryu/index.html</a> ・ 厚生労働省 患者申出療養制度: <a href="https://www.mhlw.go.jp/moushideryouyou/professional.html">https://www.mhlw.go.jp/moushideryouyou/professional.html</a>			
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>			
Preparation in advance and review after lecture			
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>			
※ Attendance of the students with medical background will also be welcomed.			
Continue to 臨床医学概論(3) ↓ ↓ ↓			

<b>臨床医学概論(3)</b>			
-----			
The class is open to students from Graduate School of human Health Science.			
*Please visit KULASIS to find out about office hours.			

未更新			
<b>Course number</b>	P-PUB01 8H011 PJ90		
<b>Course title (and course title in English)</b>	医療統計学実習 Introduction to Statistical Computing and Data Management	<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Professor,SATO TOSIYA Graduate School of Medicine Program-Specific Professor,OMORI TAKASHI Graduate School of Medicine Program-Specific Assistant Professor,Omura Masatomo
<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>	2
<b>Year/semesters</b>	2023/First semester		
<b>Days and periods</b>	Tue.3,4	<b>Class style</b>	Practical training
<b>Language of instruction</b>	Japanese		
<b>[Overview and purpose of the course]</b>			
The purpose of Introduction to Statistical Computing and Data Management is to see and experience the active practice of concepts learned during lectures. This practice is recommended to further your understanding of medical statistics. We practice simple aggregation, analysis, and programming using the JMP statistical software. You will be asked to create reports on this practice using Microsoft Word. We will create figures and tables using Microsoft Excel. We will create presentations using Microsoft PowerPoint. Kyoto University has a license agreement for the JMP statistical software. Students of the Graduate School of Medicine are required to download and install JMP on the laptop they will use during the course for their exercises, from the following link: <a href="http://www.med.kyoto-u.ac.jp/software/JMP/">http://www.med.kyoto-u.ac.jp/software/JMP/</a> on the Graduate School of Medicine homepage. Since this software can be installed on individual computers, please install it on your laptop and bring it with you to practice. [Online practice]			
<b>[Course objectives]</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>Understand the importance of data checks and management.</li> <li>Create charts, presentations, and reports of excellent quality using word processing, spreadsheet, and presentation software.</li> <li>Further your understanding of the fundamental concepts of medical statistics by performing simple statistical calculations and aggregations using statistical software.</li> </ul>			
<b>[Course schedule and contents]</b>			
Session 1, April 11: Introduction, Using spreadsheet software			
Session 2, April 18: Using the JMP statistical software			
Session 3, April 25: Group Exercise 1: Topic Selection and Data Collection			
Session 4, May 9: Group Exercise 2: Data Collection			
Session 5, May 16: Group Exercise 3: Aggregation and Analysis			
Session 6, May 23: Group Exercise 4: Presentation			
Session 7, May 30: Let us Randomize			
Session 8, June 6: The Mystery of Risk Ratios, Risk Differences, and Odds Ratios			
Session 9, June 13: Testing the Difference in Ratios and the True Meaning of the Null Hypothesis			
Session 10, June 20: The 95% Confidence Interval Does Not Contain the True Value With 95% Probability			
Session 11, June 27: Analyzing a 2x2 Table			
Session 12, July 4: Calculating Sample Size and finding out how many Subjects are Necessary			
Session 13, July 11: Let us Try Random Sampling			
Session 14, September 12: Presentation 1 (10:30 Start)			
Continue to 医療統計学実習(2) ↓ ↓ ↓			



医療統計学実習(2)	
Session 15, September 13: Presentation 2 (10:30 Start)	
<b>[Course requirements]</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>Since the upper limit of the class is 40 people, priority is given to students at the School of Public Health.</li> <li>Each year, there are students who wish to take this course than places and therefore some will not be accepted. However, each year there are students who may no longer be able to participate during the course for that year. Please refrain from taking this course if there is any possibility of you not being able to participate.</li> <li>We do not accept students pursuing a major at the Human Health Sciences.</li> <li>Students at the Medical Science or the Doctorate in Medicine, please contact us in advance.</li> <li>If you have never written a report before, please read a book on how to write a report.</li> </ul>	
Note: This practice have presentation sessions in September.	
<b>[Evaluation methods and policy]</b>	
Reports and presentations <ul style="list-style-type: none"> <li>Students will be asked to submit a report in each session.</li> <li>Each group will make a presentation.</li> <li>Each individual will make a presentation (September)</li> </ul>	
<b>[Textbooks]</b>	
Required software: JMP "Practice guidance" will be distributed in each session.	
<b>[References, etc.]</b>	
<b>(Reference books)</b>	
Handouts are distributed in the practice class.	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
A report is to be submitted in each session.	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>If you have not taken this course, you will not be able to take the "Analysis Planning Practicum" in the second semester.</li> <li>Participation midway through the course is not permitted, so please ensure that you attend from the first session onward.</li> </ul>	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course number		P-PUB01 8H084 LJ90			
<b>Course title (and course title in English)</b>	観察研究の統計的方法 Statistical Methods in Observational Studies	<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Professor,SATO TOSIYA		
<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>	2	<b>Year/semesters</b>	2023/Intensive, First semester
<b>Days and periods</b>	Intensive	<b>Class style</b>	Lecture	<b>Language of instruction</b>	Japanese
<b>[Overview and purpose of the course]</b>					
Various observational studies are conducted in clinical and epidemiological studies. There are many situations in which experimental trials, typified by clinical trials, cannot be conducted, and observational studies play an important role in clinical and epidemiological studies. Observational research, unlike experimental research, is susceptible to various biases, and there are many points that particular to observational research that one should be cautious about. This course explains the design of observational studies, methods of statistical analysis, and aims at the acquisition of the knowledge of medical statistics necessary to plan, conduct, analyze, and report observational studies. [Intensive online lectures on June 4, 11, 18, and 25 (Fri)]					
<b>[Course objectives]</b>					
Understand: <ul style="list-style-type: none"> <li>Ideas in research design to avoid bias,</li> <li>Statistical methods to adjust for bias,</li> <li>The concept of causal inference in observational research, and</li> <li>Methods of sampling and analysis of subjects using various research designs.</li> </ul>					
<b>[Course schedule and contents]</b>					
Intensive lectures on June 4, 11, 18, and 25 (Friday) Periods 3-6 (Periods 3 and 4 on June 28 alone) Session 1, June 4, Period 3: Mathematics and analysis of 2x2 tables Session 2, June 4, Period 4: Bias in observational research Session 3, June 4, Period 5: Stratified Analysis Session 4, June 4, Period 6: Exercise 1  Session 5, June 11, Period 3: Matching Session 6, June 11, Period 4: The Generalized Linear Models Session 7, June 11, Period 5: Survival Analysis Session 8, June 11, Period 6: Exercise 2  Session 9, June 18, Period 3: New Epidemiological Study Designs 1 Session 10, June 18, Period 4: New Epidemiological Study Designs 2 Session 11, June 18, Period 5: Bayesian Analysis Session 12, June 18, Period 6: Exercise 3  Session 13, June 25, Period 3: Propensity Scores Session 14, June 25, Period 4: Instrumental Variable Methods					
Continue to 観察研究の統計的方法(2) ↓ ↓ ↓					

観察研究の統計的方法(2)	
<b>[Course requirements]</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>As this is a challenging course that requires basic knowledge of statistics (probability distribution, likelihood, asymptotic variance etc.), students should have completed "Fundamentals of Statistical Inference" in the first semester.</li> <li>Those who wish to attend must consult the staff before registration.</li> <li>We do not accept those with human health science majors.</li> </ul>	
<b>[Evaluation methods and policy]</b>	
Exercise reports on mathematics and analysis.	
<b>[Textbooks]</b>	
Videos and materials will be uploaded in PanDA.	
<b>[References, etc.]</b>	
<b>(Reference books)</b>	
Tosiya Sato, "S宇宙怪人しまりす 医療統計を学ぶ 検定の巻" (Iwanami Shoten) ISBN:978-4-00-029594-9, Toshiro Tango, Shigeyuki Matsui eds. "新版 医学統計学ハンドブック" (Asakura Shoten) ISBN:978-4-254-12299-9, Rothman KJ, Greenland S, Lash TL "Modern Epidemiology, 3rd ed." (Lippincott, Williams & Wilkins) ISBN:978-0-7817-5564-1	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
Solve the exercises.	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course number		P-PUB01 8H093 LB90			
<b>Course title (and course title in English)</b>	文献検索法 Literature Search	<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Associate Professor,TAKAHASHI YOSHIMITSU Graduate School of Medicine Professor,NAKAYAMA TAKEO		
<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>	1	<b>Year/semesters</b>	2023/The first half of first semester
<b>Days and periods</b>	Mon.4	<b>Class style</b>	Lecture	<b>Language of instruction</b>	Japanese and English
<b>[Overview and purpose of the course]</b>					
Literature Search <ul style="list-style-type: none"> <li>This course is one of the elective classes of School of Public Health.</li> <li>As being based on fundamental knowledge of epidemiology and evidence-based medicine, this course provides students with skills of literature search.</li> <li>The useful databases such as PubMed, the Cochrane library, Igaku Chuo Zasshi, and the other information resources that are available on-line will be introduced.</li> <li>We hope students who attend this course will lay the foundation for promoting their own public health research by learning skills of information search.</li> <li>Lecture and practical in Japanese. I will try to offer several handouts in English.</li> </ul>					
<b>[Course objectives]</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>To acquire skills of searching medical or health information from various database or internet.</li> </ul>					
<b>[Course schedule and contents]</b>					
Please prepare your PC and the Internet for hands-on practice for literature search. 1) Apr 10. Orientation 2) Apr 17. Introduction to Igaku Chuo Zasshi Web 3) Apr 24. Introduction to PubMed (1) 【Simultaneous bidirectional and On-demand media course】 4) May 8. Introduction to PubMed (2) 5) May 15. Clinical questions, clinical guidelines, and systematic review 6) May 22. Introduction to Cochrane library 【Simultaneous bidirectional and On-demand media course】 7) May 29. Introduction to software for literature management (Mendeley) 【Simultaneous bidirectional and On-demand media course】 8) Jun 5. Introduction to critical appraisal and statements					
<b>[Course requirements]</b>					
None					
<b>[Evaluation methods and policy]</b>					
Participation in class and discussion, short report for each lecture (30%) & Report (70%)					
<b>[Textbooks]</b>					
Instructed during class					
Continue to 文献検索法(2) ↓ ↓ ↓					

文献検索法(2)	
-----	
<b>[References, etc.]</b>	
<b>(Reference books)</b> Introduced during class	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b> Review how to search the literature after classes.	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
This course is open to graduate students with the school of human health science. This course is basically conducted in Japanese. We will provide some information in English to international students. If you have questions, send an e-mail to takahashi.yoshimitsu.3m@kyoto-u.ac.jp.	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

<b>Course number</b>		P-PUB01 8H094 LB90	
<b>Course title (and course title in English)</b>	文献評価法 Critical Appraisal	<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Professor, NAKAYAMA TAKEO
			Graduate School of Medicine Associate Professor, TAKAHASHI YOSHIMITSU Toyota Regional Medical Center Educational Advisor NOGUCHI YOSHINORI Kyoto Prefectural University of Medicine Professor SHIKATA SATORU Wakayama Professional University of Rehabilitation Professor TANAKA YU Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital and Institute of Gerontology ISHIZAKI TATSURO Shizuoka Graduate University of Public Health (Shizuoka GPH) Senior Lecturer SASAKI HATOKO
<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>	1
<b>Year/semesters</b>	2023/Intensive, First semester		
<b>Days and periods</b>	Monday : 4	<b>Class style</b>	Lecture
<b>Language of instruction</b>	Japanese and English		
<b>[Overview and purpose of the course]</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>This course is one of the elective classes of School of Public Health.</li> <li>This course provides students with skills of critical appraisal of literature or information retrieved, as being based on fundamental knowledge of epidemiology and evidence-based medicine</li> </ul>			
<b>[Course objectives]</b>			
To acquire skills of critical appraisal of literature or information retrieved.			
<b>[Course schedule and contents]</b>			
I April 10 Orientation II June 12 Evaluation of papers of clinical trials by CASP III June 19 Evaluation of bias using cases (1) IV June 26 Evaluation of bias using cases (2) V July 10 Evaluation of papers of Meta-analysis by CASP VI July 24 Evaluation of clinical guidelines by AGREE VII July 31 Through the Cochrane Review VIII August 28 4th-5th Special seminar Required Thinking Skills for Healthcare Professionals: Perspectives from Clinical Epidemiology From meta-analysis to community health and the local government			
<b>[Course requirements]</b>			
None			
-----			
Continue to 文献評価法(2) ↓ ↓ ↓			

文献評価法(2)	
-----	
<b>[Evaluation methods and policy]</b>	
Participation in class and discussion, short report for each lecture (30%) & Report (70%)	
<b>[Textbooks]</b>	
The material necessary for the lecture will be provided by lecturers.	
<b>[References, etc.]</b>	
<b>(Reference books)</b> Nakayama T, Tsutani K 『Rinsho kenkyu to ekigaku kenkyu notameno kokusai ruru shu』 (Lifescience shuppan)	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b> Rather than spending more time on your preparation, please put more energy into the review.	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
We hope students who attend this course will lay the foundation for promoting their own public health research by learning skills of critical appraisal.	
This course is open to graduate students with the school of human health science.	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

<b>Course number</b>		P-PUB01 8H115 LB90	
<b>Course title (and course title in English)</b>	ヘルスサイエンス研究の進め方 Methods of Health Sciences Research	<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Professor, NAKAYAMA TAKEO
			Statcom Co. Ltd UETANI KAE Institute for Information Management and Communication Assistant Professor, ONO, Eiri
<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>	1
<b>Year/semesters</b>	2023/Intensive, First semester		
<b>Days and periods</b>	Intensive	<b>Class style</b>	Lecture
<b>Language of instruction</b>	Japanese and English		
<b>[Overview and purpose of the course]</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>Basic knowledge about how to communicate concisely and accurately.</li> <li>The ins and outs of ethics in research and publishing.</li> <li>How to create clear, scientific and logical texts, figures and tables, slides and posters for the effective publication of research results.</li> </ul>			
<b>[Course objectives]</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>Obtain a thorough understanding of the significance of health sciences research.</li> <li>Obtain an understanding of and observe for the ethics in research and publishing.</li> <li>Obtain an understanding of the basic methods of preparing presentations, papers, and grant proposals.</li> <li>Obtain an understanding of the differences between academic and general writing methods.</li> </ul>			
<b>[Course schedule and contents]</b>			
1. June 16 3rd Research integrity (NAKAYAMA) 2. June 16 4th Ethics in research and publishing I (introduction) (NAKAYAMA) 3. June 23 3rd Ethics in research and publishing II (ICMJE) (NAKAYAMA) 4. June 23 4th Logical writing: How to write effectively and efficiently, how to write a journal article and abstract (UETANI) 5. June 30 3rd Overview of research funding and points to consider when applying for research funding (Cooperation; ONISHI MASANORI Research Administration Center (KURA) ) 6. June 30 4th Creating appealing presentations and posters (ONO) 7. July 14 3rd Logical writing: Paragraph structure (UETANI) 8. July 14 4th History of medical research in Kyoto University (NAKAYAMA)			
<b>[Course requirements]</b>			
This course is open to graduate students with the school of human health science. Students who want to join are expected to actively participate in class discussions.			
<b>[Evaluation methods and policy]</b>			
Short report for each lecture 80%. Report 20%			
<b>[Textbooks]</b>			
Reading materials will be distributed as needed			
-----			
Continue to ヘルスサイエンス研究の進め方(2) ↓ ↓ ↓			

ヘルスサイエンス研究の進め方 (2)	
-----	
<b>[References, etc.]</b>	
<b>(Reference books)</b>	
Lang TA 『How to Write, Publish, & Present in the Health Sciences: A Guide for Clinicians & Laboratory Researchers』 (The American College of Physicians)	
Lang TA, Secic M 『How to Report Statistics in Medicine: Annotated Guidelines for Authors, Editors, and Reviewers』 (The American College of Physicians)	
Nakayama T, Tsutani K 『Rinsho kenkyu to ekigaku kenkyu no tameno kokusai rurushu』 (Life Science Shuppan)	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
One hour for each lesson.	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
Please check the lecture schedule. Students are advised to develop and express their own ideas and opinions during classes.	
This course is open to graduate students with the school of human health science.	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course number		P-PUB01 8H129 LB90	
Course title (and course title in English)	医療の質評価 Evaluation of Quality in Health Care	Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Professor, IMANAKA YUUCHI Graduate School of Medicine Program-Specific Associate Professor, SAKAI NORIKO Graduate School of Medicine Associate Professor, KUNISAWA SUSUMU Graduate School of Medicine Program-Specific Senior Lecturer, SHIN JUNG-HO Graduate School of Medicine Program-Specific Assistant Professor, GOTO ETSU
Target year	Professional degree students	Number of credits	1
Year/semesters	2023/The second half of first semester		
Days and periods	水3	Class style	Lecture
Language of instruction	Japanese		
<b>[Overview and purpose of the course]</b>			
[Outline and Purpose of the Course] This course facilitates the understanding of fundamental matters and important on-site issues in healthcare quality, safety, equity, and efficiency at various levels, such as medical staff, healthcare institutions, municipal governments, and national governments. <Content> - Healthcare quality, equity, and efficiency - Ability to explain the fundamentals of quasi-experimental design - Management systems and policies in healthcare quality, safety, and efficiency - Healthcare evaluations and hospital functional assessments - Healthcare informatics and healthcare quality evaluations - Healthcare quality indicators (QIs) and their applications			
<b>[Course objectives]</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>Students will understand and be able to explain key issues in evaluations of quality in health care, including the necessary theories and concepts, research and evaluation methods, as well as problems and measures.</li> <li>Students will be able to systematically and critically interpret the significance of fundamental research and social systems.</li> <li>Students will be able to apply relevant knowledge to solve problems in public health research and practice.</li> </ul>			
<b>[Course schedule and contents]</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>June 15 Healthcare quality, efficiency, and equity</li> <li>June 22 Organizational culture and quality/safety in health care culture</li> <li>June 29 Healthcare quality evaluation methods, outcomes research, and risk adjustments</li> <li>July 06 Indicators of healthcare quality (QIs and CIs)</li> <li>July 13 Information systems and healthcare evaluations</li> <li>July 20 Evaluation of quality in health care: Journal article review and discussion I</li> </ol>			
----- Continue to 医療の質評価 (2) ↓↓↓			

医療の質評価 (2)	
-----	
7. July 27 Evaluation of quality in health care: Journal article review and discussion 2	
Note: This schedule is subject to change. Overview of the schedule will be shown at the first day.	
<b>[Course requirements]</b>	
This course is mainly open to Students in School of Public Health. Students from other courses (including students in School of Human Health Sciences) are limited to maximum 3 students. Attendance rate 80% or more.	
<b>[Evaluation methods and policy]</b>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>Report (60%)</li> <li>Classroom participation (40%)</li> </ol>	
<b>[Textbooks]</b>	
Reading materials will be distributed as needed.	
<b>[References, etc.]</b>	
<b>(Reference books)</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>医療安全のエビデンス - 患者を守る実践方策 (医学書院, 2005)</li> <li>病院の教科書 (医学書院, 2010)</li> <li>Handbook of Health Services Research (Springer Science+Business Media)</li> <li>「NEW予防医学・公衆衛生学 改訂第4版」 (編集:小泉昭夫/馬場園明/今中雄一/武林亨) 南江堂, 2018.</li> </ul>	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
Both good preparation and review are needed.	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
Our department has been accepting graduate students who are interested in research related to health care policies, health care management, and health care quality/safety/cost. ( <a href="http://med-econ.umin.ac.jp/int/">http://med-econ.umin.ac.jp/int/</a> )	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course number		P-PUB01 8H162 LB90	
Course title (and course title in English)	毒性科学 Toxicological Sciences	Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Associate Professor, HARADA KOUJI Graduate School of Medicine Program-Specific Associate Professor, OKUDA HIROKO 京都大学 医学研究科 研究員 FUJITANI TOMOKO 医療法人社団 衛生会 衛生会総合病院 医師 HARADA MARIKO Part-time Lecturer, FUJII YUKIKO
Target year	Professional degree students	Number of credits	2
Year/semesters	2023/First semester		
Days and periods	Wed.4	Class style	Lecture
Language of instruction	Japanese and English		
<b>[Overview and purpose of the course]</b>			
The effects of hazardous chemicals on human health have been investigated in toxicology while therapeutic ones have been investigated in pharmacology. In this course, selected well-known episodes of environmental pollutants, heavy metals and organic substances will be given. We will discuss the toxicities of common chemicals in our modern lives: mercury, dioxin, lead, pesticides and cannabinoids. The aim of this course is to provide a scientific basis of modern toxicology and chemical environmental health.			
<b>[Course objectives]</b>			
Introduction to basic toxicology Knowledge for the toxic effects of some environmental pollutants, metals and organic substances used in our daily lives. Knowledge for toxicological mechanisms. To explain and predict the potential effects of hazardous chemicals and conduct literature search. To discuss and explain the possible chemicals from the symptoms and time course of poisonings.			
<b>[Course schedule and contents]</b>			
Course Schedule			
<ol style="list-style-type: none"> <li>Orientation</li> <li>2-3 Mercury poisonings</li> <li>4 Neonicotinoid pesticide</li> <li>5-6 Arsenic poisonings</li> <li>7 Cause of Chidren's Death in India during summer</li> <li>8 Beyond the 100th anniversary of Insulin- overview and toxicological issues</li> <li>9 Aconitine</li> <li>10 Phytoestrogens</li> <li>11 Persistent organic pollutants</li> <li>12 Opioid and cannabinoid</li> <li>13 Thermal environment: Are hot springs good for your health? -Past and future research-</li> <li>14-15 Group work</li> </ol>			
----- Continue to 毒性科学 (2) ↓↓↓			

毒性科学(2)
<b>[Course requirements]</b>
None
<b>[Evaluation methods and policy]</b>
Attendance and active participation in the lecture 30%; Report assignment and presentation 70 %
<b>[Textbooks]</b>
Handouts
<b>[References, etc.]</b>
<b>(Reference books)</b>
Introduced during class
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>
Group discussions should be performed by students in Out-of-Class.
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>
This lecture is held online. The lecture is held in English and Japanese language as possible.  *Please visit KULASIS to find out about office hours.

<b>Course number</b>	P-PUB01 8H103 LB90				
<b>Course title (and course title in English)</b>	医療社会学・基礎 Medical Sociology	<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Associate Professor,IWAKUMA MIHO		
<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>	1	<b>Year/semesters</b>	2023/Intensive, First semester
<b>Days and periods</b>	Intensive	<b>Class style</b>	Lecture	<b>Language of instruction</b>	Japanese and English
<b>[Overview and purpose of the course]</b>					
Course Description Medical sociology is a “scholarly discipline which investigates global issues concerning sickness, health, and medicine using sociological theories and methods.” (“Sociology of health and medicine” by Yamazaki et al. 2001) This course covers, in addition to sociology, such areas as anthropology, communication studies, history, philosophy, and/or ethics. In addition to classroom lectures, we will implement a training program (card game for supporters) “Let’s Cooperation” for the realization of a community cohesive society.					
<b>[Course objectives]</b>					
Course Goals and Objectives Understanding general ideas about medical sociology Understanding frameworks, theories, and concepts that are relevant to medical sociology Finding own research domain in medical sociology Providing perspectives and vocabularies for medicine from humanities and social sciences Through the training program (gamification) , “Let’s cooperate,” we deepen an understanding of the following. • the diverse needs of the community. • the limitations of what one organization can do. • the possibilities when communities are inter-connected. • the effectiveness and methods of not only a direct approach to the person concerned but also an approach to the community itself.					
<b>[Course schedule and contents]</b>					
1) 5/30 Introduction 2) 6/6 Basics of medical sociology 3)4) 6/13 Training program for community outreach “Let’s cooperate” 【3 hours】 5) 6/20 Sick role, stigma & other concepts of medical sociology 6) 6/27 Guest lecture on IPE/IPW 7) 7/4 SDH, enhancement, and etc. 8) 7/11 Course wrap-up					
Continue to 医療社会学・基礎(2) ↓ ↓ ↓					

医療社会学・基礎(2)
<b>[Course requirements]</b>
None
<b>[Evaluation methods and policy]</b>
Course Grade Attendance 25% Participation 25% Term paper 50% (title 15% + final version 35%)
<b>[Textbooks]</b>
Not used
<b>[References, etc.]</b>
<b>(Reference books)</b>
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>
Lectures, group-work, and/or discussion
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>
Message class participation by the student is highly valued Suitable for students who are interested in social science perspectives in medicine and science Consult with me ASAP for any disability-related accommodation @ mhiwakuma@yahoo.co.jp or ext. 4668. A guest lecture & the CBID workshop are delivered in Japanese. The CBID workshop takes 3 hours (2 class sessions). Contents & dates are subjects to change  * The lectures are delivered in-class.  *Please visit KULASIS to find out about office hours.

<b>Course number</b>	P-PUB01 8H112 LB90				
<b>Course title (and course title in English)</b>	臨床試験 Clinical Trial	<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Program-Specific Professor,TANAKA SHIROU Graduate School of Medicine Professor,FURUKAWA TOSHIAKI Graduate School of Medicine Associate Professor,NISHIYAMA CHIKA 京都府立医科大学 教授 TERAMUKAI SATOSHI 名古屋医療センター臨床疫学研究室 室長 SAITO AKIKO Graduate School of Medicine Program-Specific Assistant Professor,Omiwa Masatomo		
<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>	2	<b>Year/semesters</b>	2023/First semester
<b>Days and periods</b>	Wed.5	<b>Class style</b>	Lecture	<b>Language of instruction</b>	Japanese and English
<b>[Overview and purpose of the course]</b>					
This course consists of lectures on methodology of clinical trials in accordance with Chapter 3, 5, 6, 9, 10 and 12 to 15 of “Clinical Trials: A Practical Approach” . In addition, 3 lecturers who experienced in investigator-initiated clinical trials in cardiovascular disease, cancer, and translational research areas provide lectures on the practical aspects of clinical trials based on their experience. This course also includes a workshop of developing study protocols of hypothetical clinical trials with small-sized groups. MCR required, CB required, MPH elective.					
<b>[Course objectives]</b>					
To understand methodology of clinical trials To understand contents of study protocol and learn how to develop a study protocol through a workshop of protocol development					
<b>[Course schedule and contents]</b>					
This class is a hybrid of homework and lecture/workshop sessions. The first session is a face-to-face lecture at Seminar Room on the ground floor of Science Frontier Laboratory.  Homeworks are provided using an online system KoALA ( <a href="https://koala.highedu.kyoto-u.ac.jp/">https://koala.highedu.kyoto-u.ac.jp/</a> ).  April 14 Introduction (Tanaka) April 21 Creating Evidence for Depression Care: meta-analysis and mega-trials (Furukawa) April 28 Organization and Planning (Tanaka) May 12 Experience in Education Intervention Trials in Cardiovascular Disease (Nishiyama) May 19 Endpoints, Randomization and Blinding (Tanaka) May 26 Statistical Consideration in Protocol Development (Teramukai) June 2 Multiplicity in Hypothesis Tests, Interim Analysis and Monitoring June 9 Issues in Conducting Cancer Clinical Trials and Their Solutions (Saito) June 16 Protocol Deviation, Non-inferiority Trial (Tanaka) June 23 Workshop (protocol development, Tanaka, Imai, Yada) June 30 Workshop (protocol development, Tanaka, Imai, Yada)					
Continue to 臨床試験(2) ↓ ↓ ↓					

臨床試験(2)	
July 7 Workshop (protocol development, Tanaka, Imai, Yada) July 14 Workshop (protocol development, Tanaka, Imai, Yada) July 21 Workshop (presentation, Furukawa, Nishiyama, Tanaka, Imai, Yada)	
<b>[Course requirements]</b> None	
<b>[Evaluation methods and policy]</b> Attendance 50%, Report 50%	
<b>[Textbooks]</b> Stuart J. Pocock 『Clinical Trials: A Practical Approach』 (Wiley) A copy of the textbook will be provided.	
<b>[References, etc.]</b> (Reference books)	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b> Please read the textbook "Clinical Trials: A Practical Approach".	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b> *Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course number		P-PUB01 8H134 LJ90	
<b>Course title (and course title in English)</b>	統計家の行動基準 Statisticians Standard of Conducts	<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Professor.SATO TOSIYA Graduate School of Medicine Project Associate Professor.SATOU KEIKO Graduate School of Medicine Program-Specific Professor.OMORI TAKASHI Graduate School of Medicine Program-Specific Assistant Professor.Omiva Masatomo
<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>	1
<b>Year/semesters</b>	2023/Intensive, First semester		
<b>Days and periods</b>	Intensive	<b>Class style</b>	Lecture
<b>Language of instruction</b>	Japanese		
<b>[Overview and purpose of the course]</b>			
According to the 19th Century British Prime Minister Benjamin Disraeli, "There are lies, damned lies and statistics." However, statistics are used in various fields as fundamental information for decision-making and policy, and are vital to maintaining and improving human well-being and the environment. For statistics to not devolve into lies, statisticians, experts who perform research and tasks involving statistics, must not only have the appropriate knowledge and skills, but also professionalism. Saying this feels somewhat rigid, but as a result of recent instances of misconduct related to research, external regulations have only become stricter, such as mandatory attendance at research ethics seminars on standards adherence. This course aims to have students think for themselves about what statisticians should be, based on the basic premise that the only person who can ensure one's adherence is oneself. There is a need not only for science while designing clinical trials for humans, but also for heart. Medicines that were supposed to bring health have brought tragedy, and we shall study examples where statisticians may have been responsible for the harm caused. We shall consider how statisticians should behave, and what students wish to engage with through discussions and group work. [Online intensive lectures on July 2, 9, and 16 (Fri)]			
<b>[Course objectives]</b>			
Understand <ul style="list-style-type: none"> <li>Conflicts between science and ethics in clinical research,</li> <li>What statisticians have done in drug evaluations in the past,</li> <li>Ways to explain the role of statisticians in clinical research, and</li> <li>Ways to consider and internalize standards of behavior as a statistician.</li> </ul>			
<b>[Course schedule and contents]</b>			
Intensive lectures: July 2 (Friday, Periods 3 and 4), 9 (Friday, Periods 3 and 4), and 16 (Friday, Periods 3, 4, and 5) Session 1, July 2, Period 3: Planning a Valid Clinical Trial 1 Session 2, July 2, Period 4: Planning a Valid Clinical Trial 2  Session 3, July 9, Period 3: The Thalidomide Law Suit and Statisticians 1 (Professor Tsugumichi Sato, Tokyo University of Science) Session 4, July 9, Period 4: The Thalidomide Law Suit and Statisticians 2  Session 5, July 16, Period 3: The Heart of the ICH Statistical Guideline Session 6, July 16, Period 4: Cultivating Professionalism Among Statisticians Session 7, July 16, Period 5: Group Work			
Continue to 統計家の行動基準(2) ↓ ↓ ↓			

統計家の行動基準(2)	
<b>[Course requirements]</b> Students who are not statisticians are also welcome.	
<b>[Evaluation methods and policy]</b> Reports	
<b>[Textbooks]</b> Materials will be distributed in each session.	
<b>[References, etc.]</b> (Reference books) Friedman LM, Furberg CD, DeMets DL, Reboussin DM, Granger CB 『Fundamentals of Clinical Trials, 5th ed.』 (Springer, 2015), Hideo Kunitoh, Keiko Sato, Kenichi Yoshimura, "誰も教えてくれなかった臨床試験の正しい作法" (Chugai Igaku, 2016)	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b> Read the "Statisticians Code of Conduct" issued by The Biometric Society of Japan and the "Statistical Principles in Clinical Trials" issued by ICH E9. <a href="http://www.biometrics.gr.jp/news/all/standard_20150310.pdf">http://www.biometrics.gr.jp/news/all/standard_20150310.pdf</a> <a href="https://www.pmda.go.jp/int-activities/int-harmony/ich/0031.html">https://www.pmda.go.jp/int-activities/int-harmony/ich/0031.html</a>	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b> *Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course number		P-PUB01 8H143 LJ90	
<b>Course title (and course title in English)</b>	健康デザイン論 Designing Health communication	<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Professor.NAKAYAMA TAKEO
<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>	1
<b>Year/semesters</b>	2023/Intensive, year-round		
<b>Days and periods</b>	Intensive	<b>Class style</b>	Lecture
<b>Language of instruction</b>	Japanese		
<b>[Overview and purpose of the course]</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>To learn the way of thinking &amp; basic concept about Communication Design Approach in Healthcare</li> <li>Using this approach as a clue, we will discuss the potential of this approach to promote targets' "understandings" and "actions", and lead them to "expected results"</li> <li>Lecture &amp; workshop style.</li> </ul>			
<b>[Course objectives]</b>			
The goals of this course are to understand concepts and approaches such as "insight", "understanding / behavior promotion", "co-creation / collaboration", etc. regarding how to achieve "health communication" to maximize health outcomes.			
<b>[Course schedule and contents]</b>			
(First half) 1. September 14 3rd Introduction 2. September 14 4th Communication design Approach ~the way to design & activate consumer's understanding and behavior 3. September 15 2nd Consumer insights ~the attitudes to and way of understanding of the target insights 4. September 15 3rd Planning ~the way of thinking about designing/planning projects to invite the consumers more healthy  (Second half) 5. February 15 3rd Presentation of "I" Project 6. February 15 4th How to develop "value" by learning from creators 7. February 16 2nd The Public Relation Approach 8. February 16 3rd Group Work  (*Tentative schedule)			
<b>[Course requirements]</b> None			
Continue to 健康デザイン論(2) ↓ ↓ ↓			

健康デザイン論(2)
<b>[Evaluation methods and policy]</b>
Report (50%) Presentation (50%)
<b>[Textbooks]</b>
Text books will be introduced in the first class.
<b>[References, etc.]</b>
<b>(Reference books)</b> will be introduced in the first class.
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>
Review and home assignments.
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>
Project researchers (Research on health communication[Dentsu])will be cooperated.  *Please visit KULASIS to find out about office hours.

<b>Course number</b>		P-PUB01 8H136 LJ90	
<b>Course title (and course title in English)</b>	統計的推測の基礎 Fundamentals of Statistical Inference	<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Professor,SATO TOSIYA 統計数理研究所 HENMI MASAYUKI Graduate School of Medicine Program-Specific Professor,OMORI TAKASHI Graduate School of Medicine Program-Specific Assistant Professor,Omiva Masatomo
<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>	2
<b>Year/semesters</b>	2023/First semester		
<b>Days and periods</b>	Thu.4	<b>Class style</b>	lecture and seminar
<b>Language of instruction</b>	Japanese		
<b>[Overview and purpose of the course]</b>			
In this course, students will learn the fundamentals of statistics-related subjects. The first will deal with the fundamentals of probability theory, which form the foundation for methods of statistical inference. The second half will deal with the basic concepts of statistical inference such as statistical estimation, hypothesis testing, and confidence intervals. Probability theory in the first half is not based on mathematically rigorous measurement theories, but rather uses calculus and linear algebra (undergraduate-level mathematics) with the aim of teaching students the fundamentals of probability necessary to understand methods of statistical inference. The latter half of statistical inference emphasizes the fundamental ideas and theoretical aspects of the basic concepts. The aim of this course is preparation and consolidation while focusing on the fundamentals that we cannot stop to think about in the course of other statistics-related subjects. Since students in this course are expected to come from various backgrounds, lessons will proceed with as much consideration for their circumstances as possible. [Lecture format, using PowerPoint slides and whiteboards]			
<b>[Course objectives]</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>Understand the meaning of and ways of thinking that underlie basic concepts related to probability and statistics, and be able to explain these in your own words.</li> <li>Be able to carry out calculations relating to statistics and probability distribution etc., while framing your own thoughts when necessary.</li> <li>While studying other statistics-related subjects, be capable of studying various statistic methods on your own, and understand their mechanisms without viewing them as a black box.</li> </ul>			
<b>[Course schedule and contents]</b>			
Session 1, April 13: Lecture Overview and Probability and Stochastic Variable Concepts (Henmi) Session 2, April 27: Fundamentals of Discrete Random Variables and their Distribution (Henmi) Session 3, May 11: Fundamentals of Continuous Random Variables and their Distribution (Henmi) Session 4, May 18: Handling Multiple Random Variables I (Henmi) Session 5, May 25: Handling Multiple Random Variables II (Henmi) Session 6, June 1: Probability Distributions for Normal Samples (Henmi) Session 7, June 8: Fundamentals of Statistical Estimates (Ohmae) Session 8, June 15: Fundamentals of Statistical Hypothesis Testing I (Imai) Session 9, June 22: Fundamentals of Statistical Hypothesis Testing II (Imai) Session 10, June 29: Fundamentals of Linear Regression Analysis (Henmi) Session 11, July 13: Fundamentals of Linear Regression Analysis II (Henmi) Session 12, July 20: Fundamental Asymptotic Methods I (Limit Theorem, Maximum Likelihood, and its			
Continue to 統計的推測の基礎(2) ↓ ↓ ↓			

統計的推測の基礎(2)
Properties (Henmi) Session 13, July 27: Fundamental Asymptotic Methods II (Tests based on Maximum Likelihood) (Henmi) Session 14, August 3: Fundamental Asymptotic Methods III (Delta method, methods of estimation other than the maximum likelihood method) (Henmi)
<b>[Course requirements]</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>Students must have basic knowledge of calculus and linear algebra.</li> <li>We do not accept human health science majors.</li> </ul>
<b>[Evaluation methods and policy]</b>
Reports
<b>[Textbooks]</b>
Lecture materials will be distributed.
<b>[References, etc.]</b>
<b>(Reference books)</b> Other materials will be introduced during lectures
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>We expect students taking this course to learn various things, but we would like for them to emphasize on the parts that they do not fully understand while taking advantage of this class.</li> <li>Attendance at lectures alone is insufficient to understand and master the content of mathematical lessons. It is necessary to work through these one your own, checking calculations and logic after each lecture. The content covered in this lecture is very important to understand other statistics-related courses involving mathematical elements, so students are advised to work diligently on reviewing all that they learn.</li> <li>In addition to this class, other seminars are arranged for as part of the Clinical Statistician Training course. Those who are unsure of the basics, or are experiencing difficulty with the exercises themselves should also make use of these seminars.</li> </ul>
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>
*Please visit KULASIS to find out about office hours.

<b>Course number</b>		P-PUB01 8H137 LJ90	
<b>Course title (and course title in English)</b>	生存時間解析 Survival Analysis	<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Program-Specific Professor,OMORI TAKASHI Graduate School of Medicine Professor,SATO TOSIYA 大阪大学大学院医学系研究科 HATTORI SATOSHI Graduate School of Medicine Program-Specific Assistant Professor,Omiva Masatomo
<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>	1
<b>Year/semesters</b>	2023/Intensive, Second semester		
<b>Days and periods</b>	Intensive	<b>Class style</b>	Lecture
<b>Language of instruction</b>	Japanese		
<b>[Overview and purpose of the course]</b>			
Survival time analysis is a method of statistical analysis of the duration before an event of interest takes place (survival time). It plays an important role in various medical studies such as clinical trials of antineoplastic drugs. Survival time is not usually observed for all subjects because of research constraints, and a unique methodology has been developed to draw inferences based on this truncated data. In this course, students will learn the fundamental concepts of survival time analysis and try to establish an understanding through practice using SAS programming language for statistical analysis. [Intensive lectures on November 5, 12, 19 and 26 (Fri)]			
<b>[Course objectives]</b>			
Understand: <ul style="list-style-type: none"> <li>Likelihood in truncated survival time analysis and methods of maximum likelihood estimation for parametric models,</li> <li>The Kaplan-Meier method and the concept of logrank tests,</li> <li>The concept of hazards and the Cox proportional hazards model, and</li> <li>Ways to apply survival time analysis method using SAS.</li> </ul>			
<b>[Course schedule and contents]</b>			
Session 1. November 10 Period 3: Survival Time Data Examples and Their Characteristics Session 2. November 10 Period 4: Non-Parametric Estimation  Session 3. November 17 Period 3: Logrank Tests Session 4. November 17 Period 4: Review of the First Half of the Course and Exercises Using SAS  Session 5. November 24 Period 3: The Cox Proportional Hazard Models Session 6. November 24 Period 4: Residual Analysis in Survival Time Analysis  Session 7. December 3 Period 3: Sample Size Calculations in Randomized Trials			
<b>[Course requirements]</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>Students must have completed "Fundamentals of Statistical Inference" in the first semester.</li> <li>Students must be familiar with basic calculus.</li> </ul>			
Continue to 生存時間解析(2) ↓ ↓ ↓			

生存時間解析(2)	
<b>[Evaluation methods and policy]</b>	
Students will be asked to submit a report in each session.	
<b>[Textbooks]</b>	
Materials will be distributed in each session.	
<b>[References, etc.]</b>	
<b>(Reference books)</b>	
Yasuo Ohashi, Chikuma Hamada, "生存時間解析-SASによる生物統計" (University of Tokyo Press) ISBN:978-4130602006, Collett D, (Translated by Etsuo Miyaoka) "医業統計のための生存時間データ解析 原著第2版" (Kyoritsu Shuppan) ISBN:978-4320110359, Klein J, Moeschberger ML, (Translated by Mamoru Uchinami) "生存時間解析" (Maruzen Publishing) ISBN:978-4621061886, Themeau TM, Grambsch PM "Modeling Survival Data: Extending the Cox Model" (Springer) ISBN:978-1-4419-3161-0, Yasuo Ohashi, Chikuma Hamada, Ryuji Uozumi, "生存時間解析 応用編-SASによる生物統計-" (University of Tokyo Press) ISBN: 978-4130623179	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
Review lessons taught in previous sessions.	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course number		P-PUB01 8H138 LJ90				
Course title (and course title in English)	統計モデルとその応用 Statistical Modeling and Applications		Instructor's name, job title, and department of affiliation Graduate School of Medicine Program-Specific Professor, OMORI TAKASHI Graduate School of Medicine Professor, SATO TOSIYA 岩手医科大学 TAKAHASHI FUMIAKI Graduate School of Medicine Program-Specific Assistant Professor, Omiya Masamoto			
	Target year	Professional degree students		Number of credits	1	Year/semesters
Days and periods	Intensive	Class style	Lecture	Language of instruction	Japanese	
<b>[Overview and purpose of the course]</b>						
The use of a regression model is one of the methods of adjusting for "confounding." A typical regression model works for one continuous outcome variable. In medical research, however, there may be cases in which one is interested in the presence or absence of risk, or in which an interesting result is measured repeatedly, and a more complicated model may be required depending on the characteristics of the result. In this course, we explain regression models for various outcome variables and their methods of analysis by combining a range of examples. [Intensive lectures on October 1, 15, and 22, and 29 (Fri)]						
<b>[Course objectives]</b>						
Understand: <ul style="list-style-type: none"> <li>• The role of regression models,</li> <li>• Regression models for various data characteristics and their methods of analysis, and</li> <li>• Ways to perform analysis using statistical analysis software and interpret the results.</li> </ul>						
<b>[Course schedule and contents]</b>						
Session 1, October 6, Period 3: Examples and Characteristics of Longitudinal Data Session 2, October 6, Period 4: General Linear Models for Correlated Continuous Data (1) Mean and Covariance Structures Modeling  Session 3, October 13, Period 3: General Linear Models for Correlated Continuous Data (2) Random effect models Session 4, October 13, Period 4: Analysis of Longitudinal Data with Missing Values  Session 5, October 20, Period 3: Generalized Linear Models for Correlated Categorical Data (1) Marginal Models and Generalized Estimating Equations Session 6, October 20, Period 4: Generalized Linear Models for Correlated Categorical Data (2) Random effect models  Session 7, October 27, Period 3: Review of Analysis of Longitudinal Data and Practice using SAS						
Continue to 統計モデルとその応用(2) ↓ ↓ ↓						

統計モデルとその応用(2)	
<b>[Course requirements]</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>• Students should have completed "Fundamentals of Statistical Inference" in the first semester.</li> <li>• Students must have basic knowledge of linear algebra.</li> </ul>	
<b>[Evaluation methods and policy]</b>	
Students will be asked to submit a report in each session.	
<b>[Textbooks]</b>	
Materials will be distributed in each session.	
<b>[References, etc.]</b>	
<b>(Reference books)</b>	
Dobson AJ. "一般化線形モデル入門 原著第2版" (Kyoritsu Shuppan) ISBN:978-4320018679, McCulloch C, Searle S, and Neuhaus J. 『Generalized, Linear, and Mixed Models』 (Wiley) ISBN:978-0-470-07371-1, Ikuko Funatogawa, Takashi Funatogawa "経時データ解析" (Asakura Shoten) ISBN:978-4254128550	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
Review lessons taught in previous sessions.	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course number		P-PUB01 8H142 LJ90				
Course title (and course title in English)	行政医学・産業医学 Medical Doctors in Government and Occupational Settings		Instructor's name, job title, and department of affiliation Graduate School of Medicine Professor, IMANAKA YUUIICHI Part-time Lecturer, KAWAMURA TAKASHI Part-time Lecturer, KOIZUMI AKIO Agency for Health, Safety and Environment Professor, SAKAGAMI YUU			
	Target year	Professional degree students		Number of credits	2	Year/semesters
Days and periods	Intensive	Class style	Lecture	Language of instruction	Japanese	
<b>[Overview and purpose of the course]</b>						
The aim of this course is to provide students with intensive learning and practicing of occupational medicine and health policy. Students will 1) deal with a set of framework aiming at problem-solving in the practical and social context 2) learn about medical doctors' practice in the field of government on health policy 3) learn about medical doctors' practice in the field of occupational medicine						
<b>[Professor]</b>						
「Health policy」 渡邊能行 (京都府健康福祉部前保健医療対策監、京都先端科学大学)、和田安彦 (和歌山県田辺保健所)、猪飼宏 (京都府立医科大学)、丹藤昌治 (国立研究開発法人日本医療研究開発機構、革新基盤創成事業部)、波床将村 (京都市こころの健康増進センター)、 「Occupational medicine」 森口次郎 (京都工場保健会)、川村孝 (京都大学 名誉教授、環境安全保健機構)、林朝茂 (大阪市立大学)、阪上優 (京都大学 産業厚生医学、環境安全保健機構 健康管理部門)、小泉昭夫 (京都大学 名誉教授、公益法人京都保健会 社会健康医学福祉研究所)						
<b>[Course objectives]</b>						
By the end of this course, students will be able to: *have deep knowledge and understanding about the problems in these fields, and explain them to others *have a keen insight figuring out what is the critical cause *consult specialists appropriately in order to solve the problems						
<b>[Course schedule and contents]</b>						
This course is an immersive program held on Aug.30 and Aug.31. Students are required to participate in all the programs from the first period to the last (fifth or sixth). It is recommended to attend on-demand lectures of "Medical Doctors in Government and Occupational Settings: Extension". The program includes lectures and group works on following subjects  【Health policy】 -Practice of health policy -Introduction of health policy practice -Adult / elderly health, maternal and child health, school health and dental health -Promotion of the Integrated Community Care System, Implementation of Regional Health Vision / Plan						
Continue to 行政医学・産業医学(2) ↓ ↓ ↓						

行政医学・産業医学(2)	
-Mental health, Plans and actions for people with diseases, incurable diseases and special needs -Health promotion, Plans and actions for lifestyle-related diseases, elderly people who need support and people with disabilities -Infectious disease control, Measures against food poisoning, disasters and public health crisis -Exercises and group works of health policy -Fieldworks  【Occupational medicine】 -Practice of occupational medicine -Introduction of occupational medicine practice -Environmental health in workplaces and regions -Management of chemical substances, Prevention of exposure to harmful factors, Measures for health hazard -Labor hours management, especially of medical doctors -Health management through medical examinations -Mental health at workplace -Exercises and group works of occupational medicine -Fieldworks  * Note that the schedule is subject to change. The latest schedule will be introduced at the beginning of the course.	
[Course requirements]	
This course is mainly for students in the School of Public Health. Students from other courses (including students in School of Human Health Sciences) are also welcomed though the number will be limited. Participation/Commitment: 80% or more.	
[Evaluation methods and policy]	
The grade will be based mainly on active participation in the class (60%) and reports (40%).	
[Textbooks]	
Instructed during class No textbook is required for this course. Handouts will be distributed by the instructors as needed.	
[References, etc.]	
(Reference books) Introduced during class References will be introduced by the instructors as needed. ・NEW予防医学・公衆衛生学改訂第4版 (南江堂,2018年)	
[Study outside of class (preparation and review)]	
Explain first	
Continue to 行政医学・産業医学(3) ↓ ↓ ↓	

行政医学・産業医学(3)	
[Other information (office hours, etc.)]	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

未更新

Course number		P-PUB01 8H145 LB90	
Course title (and course title in English)	多重性の考え方 Multiplicity in clinical trials	Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Program-Specific Professor.OMORI TAKASHI Graduate School of Medicine Professor.SATO TOSIYA Yokohama city university SAKAMAKI KENTARO Graduate School of Medicine Program-Specific Assistant Professor.Omiya Masatomo
Target year	Professional degree students	Number of credits	1
Year/semesters	2023/The first half of first semester		
Days and periods	Fri.2	Class style	Lecture
Language of instructor	Japanese and English		
[Overview and purpose of the course]			
Multiple validation tests are often necessary within a single clinical trial, such as in a confirmatory clinical trial in which multiple doses of a study drug are run and compared to a placebo group. In such cases, it is extremely important to perform analysis that considers the multiplicity of the type-1 error rate ( $\alpha$ error) properly. In this course, we aim to make students capable of considering the multiplicity of tests at each stage of a clinical trial, namely planning, analysis, and the interpretation of results. Some practical training will also be provided using SAS. The fifth session will be delivered by Professor Isao Yokota of Hokkaido University, and the seventh session will be delivered by Professor Kouhei Uemura of the University of Tokyo. [Lecture format, using PowerPoint slides]			
[Course objectives]			
<ul style="list-style-type: none"> <li>Gain skills to distinguish between cases where adjustment for test multiplicity is necessary and cases where it is not.</li> <li>Understand basic statistical methods and learn to choose appropriate methods.</li> <li>Learn to analyze real data using basic statistical methods using SAS procedures.</li> <li>Learn to evaluate the performance of each method using Monte Carlo simulations.</li> </ul>			
[Course schedule and contents]			
Session 1, April 7, Period 2: Fundamentals of Test Multiplicity of (Sakamaki) Session 2, April 14, Period 2: Overview of Basic Statistical Methods (Sakamaki) Session 3, April 28, Period 2: Closed Testing Procedure (Sakamaki) Session 4, May 12, Period 2: Practicum using SAS (Yokota) Session 5, May 19, Period 2: Interval Analysis (Uemura) Session 6, May 26, Period 2: Multiplicity in Subgroup Analysis and Dose-Response Relationship Studies (Sozu) Session 7, June 2, Period 2: The Application of Multiplicity Adjustment in Practice (Omori, Sato, Omiya)			
Continue to 多重性の考え方(2) ↓ ↓ ↓			

多重性の考え方(2)	
[Course requirements]	
<ul style="list-style-type: none"> <li>Students must have completed the "Fundamentals of Statistical Inference" course.</li> <li>Students must be familiar with data handling and random number generation in SAS.</li> </ul>	
[Evaluation methods and policy]	
Class participation and reports.	
[Textbooks]	
Lecture materials will be distributed.	
[References, etc.]	
(Reference books) Yasushi Nagata. (2007) "統計的多重比較法の基礎" (Scientist Ltd.) ISBN:978-4914903466, Kentaro Sakamaki, Takashi Sozu and Toshimitsu Hamasaki, "多重比較法" (Asakura Shoten) ISBN: 978-4254128628, Dmitrienko, A., Molenberghs, G., Chuang-Stein, C., & Offen, W. W. (2005) "Analysis of clinical trials using SAS: A practical guide." (SAS Institute), translated by (Kaoru Morikawa and Tasaki Takenobu (2009)) 治験の統計解析 #8211理論とSAS#174による実践, Kodansha), Dmitrienko, A., Tamhane, A. C., & Bretz, F. (Eds.). (2009) "Multiple testing problems in pharmaceutical statistics." (CRC press)	
[Study outside of class (preparation and review)]	
Students should review the content of the "Fundamentals of Statistical Inference" course and CB course students should review the content of the "Practical Skills for Clinical Statisticians" course thoroughly. Students must review the lessons learned in each lecture.	
[Other information (office hours, etc.)]	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	



未更新

Course number	P-PUB01 8N015 LJ90		
Course title (and course title in English)	遺伝医療と倫理・社会 Genetic Medicine, Ethics and Society	Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Program-Specific Professor, WADA TAKAHIITO
Target year	Professional degree students	Number of credits	2
Year/semesters	2023/First semester		
Days and periods	水2・その他開講日注3	Class style	Lecture
Language of instruction	Japanese		
<b>[Overview and purpose of the course]</b>			
[Basic information] Class date and time: 2nd period of Wednesdays (there may be exceptions) Classroom: Building G, 3rd Floor, Seminar room Level: Basic Staff in charge: Shinji Kosugi (subject coordinator), Takahito Wada, Ken Nakajima, Takahiro Yamada, Hideaki Sawai, Hidenori Kawasaki			
[Course overview] Ethical considerations are essential in genetic/advanced medicine. This course is focused on the basics of medical ethics, centered on genetic medicine. Understanding the different guidelines involved is of vital importance. It also outlines the current state of genetic medicine in Japan, including its social foundation.			
<b>[Course objectives]</b>			
Understand the ethical guidelines for genetic medicine and medical science, as well as the basics of ethical issues in genetic testing in pediatrics/obstetrics, as well as in gynecology genetic medicine, and social infrastructure.			
<b>[Course schedule and contents]</b>			
[1st lecture] 4/13 [Kosugi 1] General Theory of Genetic Medicine: The first compulsory subject of the genetic counselor course is a general introduction, not necessarily related to ethics. The peculiarities of ethical issues in genetic medicine, sharing genetic information, and the unintended disclosure of genetic information are also discussed. [2nd lecture] 4/20 (First Clinical Auditorium) [Kosugi 2] A look at various guidelines concerning genetic medicine. [3rd lecture] 4/27 [Kosugi 3] Ethical Guidelines (and Others) for Human Genome and Gene Analysis Research: Ethical issues involved in human gene analysis conducted as research, as well as the boundaries and distinctions between research and clinical practices. [4th lecture] 5/11 [Kosugi 4] Gene Analyses Conducted by Companies: The issues involved in outsourcing genetic tests to external entities such as clinical testing companies, as well as issues in gene tests carried out in non-medical institutions. [5th lecture] 5/18 [Kosugi 5] Guidelines for Genetic Testing and the Significance of Gene Testing: A look at ethical issues that must be considered when performing clinical genetic testing, as well as the meaning of gene diagnosis and its issues while clarifying the differences between probands and relatives. [6th lecture] 5/25 [Nakajima 1] About Pre-Symptomatic Gene Diagnosis: An analysis of the meaning of pre-symptomatic genetic diagnosis and susceptibility diagnosis and the issues involved, while clarifying the			
Continue to 遺伝医療と倫理・社会(2) ↓ ↓ ↓			

<b>遺伝医療と倫理・社会(2)</b>			
differences among neurodegenerative diseases and familial tumors. [7th lecture] 6/1 [Nakajima 2] Carrier Diagnosis: The meaning of carrier detection in autosomes, X-linked inheritance recessive hereditary diseases, and balanced chromosome translocation. [8th lecture] 6/8 [Wada 1] Diagnosis and Notification of Pediatric Hereditary Diseases and Guardianship: A look at ethical issues in childhood-onset hereditary diseases. [9th lecture] 6/8 5th period [Yamada 1] Induced Abortion: Induced abortion in Japan and the ethical issues involved. [10th lecture] 6/15 [Yamada 2] Prenatal Diagnosis and Assisted Reproductive Technology: A look at the ethical issues of prenatal diagnosis, and a detailed analysis of ethical questions surrounding assisted reproductive technologies due to infertility/infecundity. [11th lecture] 6/15 5th period [Wada 2] The Diversity of Bioethics: An analysis of various bioethics of patients and clients and how to deal with them. [12th lecture] 6/22 [Wada 3] Disabilities and Bioethics: A look at bioethics from the perspective of disabilities. [13th lecture] 6/29 5th period [Yamada 3] Handling Secondary Findings in Genome Medicine: Ethical issues when dealing with secondary findings different from the original purpose obtained, with the recent introduction of comprehensive genome analysis in clinical practice. [14th lecture] 6/29 4th period [Sawai] Policies to Counter Declining Fertility (Healthy Parents and Children 21): Various measures have been implemented to counter the falling birthrate, which slows society's growth. Some of these measures produced results, while others did not. This lecture looks at what went wrong. [15th lecture] 6/30 [Kawasaki] Neonatal Care and Ethics: Ethical problems in neonatal care. 7/13 Final test Written test 8/3 Retest Written test			
<b>[Course requirements]</b>			
Compulsory subjects for first-year students in the Genetic Counselor Course  Availability for students majoring in Human Health Sciences: Contact us in advance			
<b>[Evaluation methods and policy]</b>			
Comprehensive evaluation of tests, reports, active participation in classes, presentations, attendance, and other activities.			
<b>[Textbooks]</b>			
Other materials will be distributed accordingly.			
<b>[References, etc.]</b>			
<b>(Reference books)</b> Introduced during class			
Continue to 遺伝医療と倫理・社会(3) ↓ ↓ ↓			

<b>遺伝医療と倫理・社会(3)</b>			
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>			
Instructions will be given accordingly			
<b>[Other information (office hours, etc.)]</b>			
The lecture schedule, lecturers, and content are subject to minor changes  *Please visit KULASIS to find out about office hours.			

未更新

Course number	P-PUB01 8H040 LJ90		
Course title (and course title in English)	基礎人類遺伝学 Introduction to Human Genetics	Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Program-Specific Professor, WADA TAKAHIITO
Target year	Professional degree students	Number of credits	2
Year/semesters	2023/First semester		
Days and periods	水3・その他開講日注3	Class style	Lecture
Language of instruction	Japanese		
<b>[Overview and purpose of the course]</b>			
[Basic information] Class date and time: 3rd period on Wednesdays (there may be exceptions) Classroom: Building G, 3rd floor, Seminar room Level: Basic Staff in charge: Shinji Kosugi, Takahito Wada, Ken Nakajima, Takahiro Yamada			
[Course overview] Lectures about the most basic matters for those who intend to work as genetic counselors or in the field of medical genetics/genetic medicine. It is also important for tailor-made treatment based on genetic information expected in the future. This course is composed of systematic lectures about cytogenetics, molecular genetics, Mendelian genetics, non-Mendelian genetics, and population genetics.			
<b>[Course objectives]</b>			
Having a complete understanding of the basics of human genetics and being able to explain it to non-specialists in a concise manner.			
<b>[Course schedule and contents]</b>			
[1st lecture] 4/13 [Wada 1] General Theory of Mendelian Genetics and How to Draw Family Trees: General theory of Mendelian and non-Mendelian genetics, autosomes and sex chromosomes, the concept of alleles, the concept of hereditary diseases, and how to draw family trees. [2nd lecture] 4/13 4th period [Kosugi 1] Autosomal Dominant/Recessive Inheritance: The concepts of autosomal dominant diseases, their characteristics, penetrance, expressiveness, hereditary and de novo mutation, and anticipation (next-generation expression promotion phenomena); the concept and characteristics of autosomal recessive diseases; and the concept of carriers. [3rd lecture] 4/13 5th period [Kosugi 2] X-linked inheritance: The concept of X-linked inheritance, the specificities of the X and Y chromosomes, gender determination mechanisms, and specific diseases that show X-linked inheritance. [4th lecture] 4/13 6th period [Yamada 1] Cytogenetics (1) Chromosome and cell division, chromosome analysis by banding, method of karyotyping chromosomes, and an introduction to chromosome abnormalities.  [5th lecture] 4/20 (First clinical auditorium) [Kosugi 3] Pharmacogenetics: Understanding the basics of pharmacogenetics/pharmacogenomics, the most important area of (already-starting) tailor-made treatment. [6th lecture] 4/20 5th period [Yamada 2] Cytogenetics (2) The concept of chromosome numerical abnormality and generation mechanisms; the concept of chromosomal structural abnormality and generation mechanisms; and the concept of carriers and effects on the next generation. [7th lecture] 4/27 6th period [Wada 2] Estimation of genetic risks: Learn about estimation recurrence and			
Continue to 基礎人類遺伝学(2) ↓ ↓ ↓			

基礎人類遺伝学(2)	
Bayes' theorem. [8th lecture] 5/11 [Nakajima 1] Genetic testing (1) PCR, Sequencing and Southern blotting. [9th lecture] 5/18 [Kosugi] Genetic testing (2) How to screen for mutations, mutations and polymorphisms, and types of mutations. [10th lecture] 5/25 [Wada 3] Multifactorial inheritance and population genetics: Learn about the concept of multifactorial inheritance, quantitative and qualitative traits, and the Hardy-Weinberg principle. [11th lecture] 6/1 [Yamada 3] The Basics of the Human Genome: Learn about human genome information, including gene structure, functions, and genetic diversity in detail. [12th lecture] 6/8 [Wada 4] Non-Mendelian Genetics (1) Learn about mitochondrial inheritance. [13th lecture] 6/15 [Nakajima 3] The Basics of Tumor Genetics: Somatic cell variants and germline variants, oncogene and anti-oncogene, and hereditary cancer syndrome. [14th lecture] 6/22 [Wada 5] Non-Mendelian Genetics (2) Learn about epigenetics. [15th lecture] 6/29 [Yamada 4] The Basics of Molecular Genetics: PCR, next generation sequencing, and microarray.  7/6 Written test 7/27 Retest Written test	
[Course requirements]	
Compulsory subject for first-year students, graduating from non-medical college/university, in the Genetic Counselor Course  Caution; students, graduating from medical college/university, should take "Introduction to Human Genetics"  If taken as an elective, we recommend taking it along with "Genetic Medicine and Ethics/Society"  Availability for students majoring in Human Health Sciences: Contact us in advance	
[Evaluation methods and policy]	
Comprehensive evaluation of tests, reports, presentations, attendance, and other activities.	
[Textbooks]	
Thompson & Thompson Genetics in Medicine (2nd Ed.) (Medical Science International) ISBN: 978-4-89592-875-5, April 2017, Edited by Yoshimitsu Fukuyama Genetic Counseling Manual (Revised 3rd Edition) (Nankodo) ISBN:978-4-524-26667-8 Rinsyo Idenn Senmonni Text 1 Rinsyo Idengaku Soron (Shindan to Chiryō sya) ISBN: 978-4787823670	
[References, etc.]	
(Reference books) Norio Niikawa Iden Igaku e no Shotai (Revised 6th Edition) (Nankodo) ISBN:978-4-524-24931-2,	
Continue to 基礎人類遺伝学(3) ↓ ↓ ↓	

基礎人類遺伝学(3)	
(Related URLs) (http://www.geneclinics.org/ (GeneReviews))	
[Study outside of class (preparation and review)]	
Instructions will be given accordingly	
[Other information (office hours, etc.)]	
The lecture schedule, lecturers, and content are subject to minor changes  *Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course number		P-PUB01 8N021 LJ90			
Course title (and course title in English)	臨床遺伝学・遺伝カウンセリング Clinical Genetics and Genetic Counseling		Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Associate Professor, NAKAJIMA TAKESHI	
Target year	Professional degree students	Number of credits	3	Year/semesters	2023/First semester
Days and periods	水5-6	Class style	Lecture	Language of instruction	Japanese
[Overview and purpose of the course]					
[Basic information] Class date and time: 4th and 5th periods on Wednesdays (there may be exceptions) Classroom: Building G, 3rd Floor, Seminar room, Level: Basic Staff in charge: Takeshi Nakajima, Takahito Wada, Masanobu Ogawa, Hideaki Sawai (Hyogo College of Medicine), Masayo Takahashi, Hidenori Kawasaki, Hiroshi Yamazaki, Shinji Kosugi  [Course overview] General lectures on the basic concepts, models, and current state of genetic counseling. The students are expected to acquire a level of knowledge and vision about the most common diseases in order to allow them to be part of a genetic medicine team. Also, to provide the students with skills to solve problems in the field of genetic medicine, the course offers lectures on clinical genetics and is focused on family relationships and genetic counseling as part of team medical care. Monohereditary diseases, chromosomal abnormalities, multiple malformations, recurrent miscarriage, familial tumors, neurodegenerative diseases, and multifactorial diseases are discussed in detail through the lectures.					
[Course objectives]					
Capable of explaining the pathology, causes, mode(s) of inheritance, and genetic problems of major hereditary illnesses. Also, being able to explain the basic concepts of genetic counseling for these ailments, as well as the main considerations about them.					
[Course schedule and contents]					
[1st lecture] 4/19 4th period (First clinical auditorium) [Nakajima] General Theory of Hereditary Cancer (1) General Theory of Familial Tumors (1): The concepts of familial tumors, somatic and germline mutations, tumor (suppressor) genes, and pre-symptomatic diagnosis. [2nd lecture] 4/19 6th period [Wada] Congenital Malformation Syndrome A look at the diagnosis/rehabilitation and genetic counseling for congenital malformation syndrome. [3rd lecture] 4/26 4th period [Nakajima] Hereditary Cancer (2) A look at familial adenomatous polyposis and Lynch syndrome as typical hereditary cancer, as well as genetic counseling practices for those diseases. [4th lecture] 4/26 5th period [Wada] Autosomal Abnormalities (1) A look at genetic counseling for diseases caused by numerical and structural abnormalities of autosomes. [5th lecture] 4/26 6th period [Ogawa] Infertility and Assisted Reproductive Technology Historical background, current state, specific skills, legal regulations, ethical issues, and guidelines. Autosomal abnormalities and genetic counseling. [6th lecture] 5/10 4th period [Wada] Autosomal Abnormalities (2) A look at the diagnosis, treatment, and rehabilitation of microdeletion syndrome and chromatin-related illnesses. [7th lecture] 5/10 5th period [Wada] Sex Chromosomes Abnormalities Learn about genetic counseling for Turner syndrome and Klinefelter syndrome, X-linked inheritance disease, and the sex spectrum.					
Continue to 臨床遺伝学・遺伝カウンセリング(2) ↓ ↓ ↓					

臨床遺伝学・遺伝カウンセリング(2)	
[8th lecture] 5/10 6th period [Ogawa] Prenatal Diagnosis A look at the current state, specific skills, legal regulations, and ethical issues, as well as actual genetic counseling practices [9th lecture] 5/17 4th period [Ogawa] Infertility (Recurrent Miscarriage) The concepts, pathology, causes, treatment of infertility and recurrent miscarriage, the involvement of genetic factors such as sperm dysfunction due to oligospermia and chromosomal abnormal pregnancy in translocation-type carriers, as well as genetic counseling for those cases. [10th lecture] 5/17 5th period [Wada] Hereditary Neurological Disorder (1) A look at genetic counseling for triplet repeat diseases and Fabry disease. [11th lecture] 5/24 4th period [Kokugi] Hereditary cancer (4): Multiple endocrine neoplasia Outline of the concepts, pathology, mode(s) of inheritance, diagnosis, treatment, and genetic counseling for multiple endocrine neoplasia types 1 and 2 as specific diseases of familial tumors. [12th lecture] 5/31 4th period [Wada] Muscular Dystrophy A look at genetic counseling for Duchenne/Becker Muscular dystrophy. [13th lecture] 5/31 4th period [Wada] Hereditary Neurological Disorder (2) A look at genetic counseling for neurocutaneous syndrome and spinal muscular atrophy. [14th lecture] 6/7 5th period [Wada] Hereditary Cardiovascular Disease A look at genetic counseling for hereditary cardiovascular diseases such as Long QT syndrome and Marfan syndrome. [15th lecture] 6/14 4th period [Ogawa] Fetus Diagnosis and Perinatal Control A look at obstetrics perinatal management, which is performed based on fetal information. [16th lecture] 6/14 5th period [Nakajima] Hereditary cancer (3) Hereditary breast and ovarian cancer (HBOC) Outline of the concepts, pathology, mode(s) of inheritance, diagnosis, treatment, and genetic counseling for hereditary breast and ovarian cancer (HBOC) as specific diseases of hereditary cancer. [17th lecture] 6/21 4th period [Nakajima] Hereditary cancer (5): Li-Fraumeni Syndrome Outline of the concepts, pathology, mode(s) of inheritance, diagnosis, treatment, and genetic counseling for Li-Fraumeni Syndrome as specific diseases of hereditary cancer. [18th lecture] 6/21 5th period [Ogawa] Genetic practice and medical system Learn about the clinical genetic medical system [19th lecture] 7/5 4th period [Yamazaki] Genetic Deafness The concepts, pathology, mode(s) of inheritance, diagnosis (syndromic and non-syndromic hearing loss), genetic heterogeneity, treatment and rehabilitation, and genetic counseling. [20th lecture] 7/5 5th period [Kawasaki] Congenital metabolic disorder Learn about congenital metabolic disorders and genetic counseling [21st lecture] 7/12 3rd period [Kawasaki] Intractable diseases Intractable Diseases and Medical Expenses Subsidy / Welfare System [22nd lecture] 7/12 4th period [Nakajima] Hereditary cancer (6) Learn about relatively rare hereditary cancer, polyposis syndrome other than FAP, retinoblastoma, and BHD syndrome [23rd lecture] 7/12 5th period [Masayo Takahashi] Hereditary Retinal Disease and Regenerative Medicine Retinitis pigmentosa and age-related macular degeneration: The concepts, pathology, mode(s) of inheritance, diagnosis, genetic heterogeneity, treatment, and regenerative medicine. [24th lecture] 7/19 4th period [Wada] Final test Written test [25th lecture] 8/2 4th period [Nakajima] Retest Written test	
Continue to 臨床遺伝学・遺伝カウンセリング(3) ↓ ↓ ↓	

臨床遺伝学・遺伝カウンセリング(3)	
<b>[Course requirements]</b>	
Compulsory subject for first-year students in the Genetic Counselor Course	
If taken as an elective, we recommend taking it along with "Basic Human Genetics."	
Availability for students majoring in Human Health Sciences: Contact us in advance (must be taken along with Basic Human Genetics)	
<b>[Evaluation methods and policy]</b>	
Comprehensive evaluation of tests, reports, presentations, attendance, and other activities.	
<b>[Textbooks]</b>	
Also, see Basic Human Genetics	
<b>[References, etc.]</b>	
<b>(Reference books)</b>	
Introduced during class	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
Instructions will be given accordingly	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
The lecture schedule, lecturers, and content are subject to minor changes.	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course number		P-PUB01 8N017 LJ90	
<b>Course title (and course title in English)</b>	遺伝医学特論 (集中講義)	<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Associate Professor, NAKAJIMA TAKESHI
	Special Seminar for Genetic Medicine		
<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>	2
<b>Year/semesters</b>	2023/Intensive, First semester		
<b>Days and periods</b>	Intensive	<b>Class style</b>	Lecture
		<b>Language of instruction</b>	Japanese
<b>[Overview and purpose of the course]</b>			
[Basic information]			
Class date and time: Mainly in the first semester (please check the exact start date and time)			
Classroom: First clinical auditorium			
Level: Advanced			
Staff in charge: Takeshi Nakajima, Takahito Wada, Masanobu Ogawa, Hidenori Kawasaki, Masako Torishima, Akiko Yoshida, Shinji Kosugi.			
[Course overview]			
Lectures designed to check the fundamentals of genetic counseling learned in the first year, and to acquire advanced knowledge at the same level as doctors.			
<b>[Course objectives]</b>			
Having a complete understanding of the basics of human genetics, and being able to have an accurate discussion with doctors.			
<b>[Course schedule and contents]</b>			
[1st lecture] 4/11 Tuesday 1st period [Nakajima] "Basics of Clinical Genetics and Genetic Counseling / Mendelian Genetics" Learn about inheritance and genetic terms			
[2nd lecture] 4/11 Tuesday 2nd period [Nakajima] "About Genetic Testing" Learn about genetic testing for hereditary diseases			
[3rd lecture] 4/12 Wednesday 1st period [Wada] "How to Draw Family Trees and Estimation of Genetic Risks" The standard method for drawing family trees and methods of estimating genetic risk			
[4th lecture] 4/12 Wednesday 2nd period [Wada] "Genetic Counseling for Congenital Malformation Syndromes" Genetic counseling for major congenital malformation syndromes			
[5th lecture] 4/14 Friday 1st period [Ogawa] "Genetic Counseling for Cytogenetics and Chromosomal Abnormalities" The basics of cytogenetics and genetic counseling for chromosomal abnormalities			
[6th lecture] 4/14 Friday 1st period [Ogawa] "Prenatal Care and Genetic Counseling" A look at actual practices of prenatal genetic testing and genetic counseling			
[7th lecture] 4/18 Tuesday 1st period [Wada] "Genetic Counseling for Hereditary Neurological Disorders" A look at genetic counseling for major hereditary neurological disorders			
[8th lecture] 4/18 Tuesday 2nd period [Ogawa] "Assisted Reproductive Technology and Genetic Counseling" A look at assisted reproductive technologies and genetic counseling, targeting medical conditions such as infertility and infecundity			
[9th lecture] 4/19 Wednesday 2nd period [Kosugi] "Guidelines for Genetic Medicine"			
[10th lecture] 4/19 Wednesday 3rd period [Kosugi] "Pharmacogenetics"			
[11th lecture] 4/19 Wednesday 4th period [Nakajima] "Genetic counseling for hereditary cancers" Learn			
Continue to 遺伝医学特論 (集中講義) (2) ↓ ↓ ↓			

遺伝医学特論 (集中講義) (2)	
about major hereditary tumors and their genetic counseling	
[12th lecture] 4/20 Thursday 3rd period [Torishima] "Medical Communication in the Context of Genetic Counseling (1)" The basics of medical communication, including "empathic understanding," "minimum attitude required for interpersonal assistance," and "attitudes and words that inhibit communication"	
[13th lecture] 4/20 Thursday 4th period [Yoshida] "Medical Communication in the Context of Genetic Counseling (2)" Specific communication methods in the context of genetic counseling	
[14th lecture] 4/21 Friday 3rd period [Wada] "Genetic medicine that walks with the patient"	
[15th lecture] 4/21 Friday 4th period [Wada] "Genetic Counseling in Practice" A look at actual genetic counseling practiced in clinics.	
[16th lecture] 5/8 Monday 2nd period [Wada/Kawasaki] "Final Test" Written test	
<b>[Course requirements]</b>	
Available only for the Division of Medical Science (Master's Program).	
Requires a basic understanding of molecular biology and molecular genetics.	
<b>[Evaluation methods and policy]</b>	
Comprehensive evaluation of tests, reports, attendance, and other activities.	
[Passing grade]	
A score of at least 60 out of 100 points on the written test	
60 points or more: Pass	
59 points or less: Fail	
<b>[Textbooks]</b>	
『Thompson & Thompson Genetics in Medicine (2nd Ed.)』 (Medical Science International) ISBN:978-4-89592-875-5	
『#8226 Genetic Counseling Manual (Nankodo) Revised 3rd Edition』 (Nankodo) ISBN:978-4-524-26667-8	
『Clinical genetics text note』 (The Japan Society of Human Genetics) ISBN:978-4-787-82316-8	
<b>[References, etc.]</b>	
<b>(Reference books)</b>	
『Iden Igaku e no Shotai ( "Invitation to Medical Genetics" ) Revised 5th Edition』 (Nankodo) ISBN: 978-4-524-26562-6	
Dian Donnai and Andrew Read 『New Clinical Genetics』 (MEDSI) ISBN:978-4-89592-574-7	
<b>(Related URLs)</b>	
<a href="http://www.geneclinics.org/(GeneReviews)">http://www.geneclinics.org/(GeneReviews)</a>	
Continue to 遺伝医学特論 (集中講義) (3) ↓ ↓ ↓	

遺伝医学特論 (集中講義) (3)	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
Instructions will be given accordingly	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

未更新

<b>Course number</b>		P-PUB01 8H158 LB90			
<b>Course title (and course title in English)</b>	地域保健活動論 Public health intervention strategies		<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Professor, KONDO NAOKI	
<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>	2	<b>Year/semesters</b>	2023/The first half of second semester
<b>Days and periods</b>	Thu.3,4	<b>Class style</b>	Lecture	<b>Language of instruction</b>	Japanese and English
<b>[Overview and purpose of the course]</b>					
This course provides the opportunities for practical learning in the form of lectures and exercises on theories and techniques related to health promotion activities in "places" such as the international community, countries, local communities, workplaces, and SNS communities.					
Focusing on social determinants of health and health disparity in particular. Among the related theories, We discuss on Rose's high risk strategy and population strategy in preventive medicine, which are further classified into vulnerable population approach, proportionate universalism, redistributive policy, etc.					
Health promotion requires consensus building and collaborative activities with various stakeholders. Concepts related to community practice include community empowerment, community organizing, social prescribing, community-based integrated care (chiiki houkatsu kea), and inclusive community design. We will also discuss recent voluntary actions by citizens, such as children's cafeteria (kodomo shokudo) and learning support for children.					
Participants will choose their own review topics to provide the presentation on them on the final day.					
<b>[Course objectives]</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>Understand the historical transition of the concept of community health activities.</li> <li>Understand the basics of health inequalities management in the community.</li> <li>Critically evaluate the community welfare actions that are currently being implemented.</li> <li>Practical learning of methods for consensus building with various actors.</li> <li>Select the themes that students are interested in, discuss them in a presentation format, and deepen their understanding.</li> </ul>					
<b>[Course schedule and contents]</b>					
The schedule below is subject to change.					
<ol style="list-style-type: none"> <li>10/6 History of health promotion/types of population strategy</li> <li>10/13 Creating a healthy city: fostering social capital and organizing communities</li> <li>10/20 Data-driven actions: Health promotion in the community using "regional diagnosis" data</li> <li>10/27 Collaboration with various stakeholders: consensus-building and activity promotion with non-health sectors</li> <li>11/10 Health Impact Assessment: HIA Exercise (Yoshihisa Fujino at University of Occupational and Environmental Health)</li> <li>11/17 Health and welfare: which should be our goal?(special speaker!)</li> <li>11/24 "Selling" health services: Application of social marketing (Masamitsu Kamada at Tokyo U)</li> </ol>					
Continue to 地域保健活動論(2) ↓ ↓ ↓					

<b>地域保健活動論(2)</b>	
8, 12/1 Presentations!	
<b>[Course requirements]</b>	
None	
<b>[Evaluation methods and policy]</b>	
Attendance (30%), report (30%), presentation (40%): Report submission is required for the first lecture and final presentation.	
<b>[Textbooks]</b>	
Not used	
<b>[References, etc.]</b>	
<b>(Reference books)</b>	
Lisa F. Berkman, Ichiro Kawachi, and M. Maria Glymour 『Social Epidemiology 2nd Edition』 (Oxford, 2014) ISBN:9780195377903	
Editors: Kawachi, Ichiro, Takao, Soshi, Subramanian, S.V. Global Perspectives on Social Capital and Health. Springer, 2013	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
Prepare for the presentations in the final day.	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

未更新

<b>Course number</b>		P-PUB01 8H020 LB90			
<b>Course title (and course title in English)</b>	人間生態学 Field Medicine		<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Center for Southeast Asian Studies Associate Professor, SAKAMOTO RYOUTA	
<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>	2	<b>Year/semesters</b>	2023/Second semester
<b>Days and periods</b>	Mon.4	<b>Class style</b>	Lecture	<b>Language of instruction</b>	Japanese and English
<b>[Overview and purpose of the course]</b>					
Field Medicine is based on the belief that patients in the hospital setting provides only a small glimpse into their world, and that the reality of illness and aging can be observed in their homes and communities as well. In this class, we will consider illness and ageing in relation to ecology and culture.					
<b>[Course objectives]</b>					
To nurture the potential to find and tackle with issues of one's own motive, we will learn the pioneer spirits and philosophy of our forefathers and people in our time.					
<b>[Course schedule and contents]</b>					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. Field Medicine</li> <li>3. Freedom and Pioneer Spirits</li> <li>4. Studies started from a patient in front of you</li> <li>5. Legionella beside you</li> <li>6. Aging in high-altitude environments</li> <li>7. Global environment issues inside us</li> <li>8. Health and happiness among the elderly in Domkhar valley</li> <li>9. Significance of friendships in area studies</li> <li>10. Community based elderly care program in Bhutan</li> <li>11. Learning livelihoods of people from a clinic</li> <li>12. Limitations and roles of medical care</li> <li>13. View of life and death and significance of medical care</li> <li>14. Message from an elderly in Himalaya</li> <li>15. General discussion</li> </ol>					
<b>[Course requirements]</b>					
None					
<b>[Evaluation methods and policy]</b>					
Evaluation will be made based on presentation, question-and-answer participation in class and reports.					
<b>[Textbooks]</b>					
Not used					
Continue to 人間生態学(2) ↓ ↓ ↓					

<b>人間生態学(2)</b>	
-----	
<b>[References, etc.]</b>	
<b>(Reference books)</b>	
坂本龍太 『アータンの小さな診療所』 (ナカニシヤ出版) ISBN:978-4779508974	
奥宮清人 『生老病死のエコロジー』 (昭和堂) ISBN:978-4812210673	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
Please treasure questions and ideas conceived in your mind during the classes. Please study further and consider well in your mind after the classes.	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
Ryota Sakamoto, MD, PhD	
Center for Southeast Asian Studies Kyoto University 46 Shimoadachi-cho, Yoshida, Sakyo-ku, 606-5801 Kyoto, Japan TEL:+81 75-753-7368 FAX:+81 75-753-7168 E-mail:sakamoto65@cseas.kyoto-u.ac.jp	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

<b>Course number</b>		P-PUB01 8H021 LJ90			
<b>Course title (and course title in English)</b>	交絡調整の方法		<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine	
	Intermediate Biostatistics			Program-Specific Professor.OMORI TAKASHI Graduate School of Medicine Professor,SATO TOSIYA	
<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>	2	<b>Year/semesters</b>	2023/Second semester
<b>Days and periods</b>	Tue.2	<b>Class style</b>	Lecture	<b>Language of instructor</b>	Japanese
<b>[Overview and purpose of the course]</b>					
Confounding leads to bias which interferes causal interpretation between exposure and outcome in observational studies. This course is designed to provide statistical methods for adjustment of confounding. Stratified analysis and regression modeling are introduced. Related topics, such as survival analysis, missing data, etc., are included. For conducting an epidemiologic or clinical research, developing a study protocol and a statistical analysis plan is necessary. We provide an essence for developing them.					
<b>[Course objectives]</b>					
- Understand the concept of confounding - Understand pros and cons of stratified analysis and regression modeling - Understand importance for study protocol and statistical analysis plan					
<b>[Course schedule and contents]</b>					
The course will be conducted entirely through Zoom (simultaneous bidirectional course) for measures to stop the spread of the COVID-19.					
1. October 3 Confounding and standardization 2. October 10 Estimation of common effect measures 3. October 17 Comparison of means 4. October 24 Introduction to regression modeling, Class exam 1 5. November 7 Generalized linear models 6. November 14 Survival analysis 1 7. November 21 Survival analysis 2 8. November 19 Handling missing data, Class exam 2 9. November 26 Data management and reporting 10. December 5 Study protocols 11. December 12 Statistical analysis plans 12. December 19 Review of pharmaceutical products and pharmacovigilance (13:15-14:45) 13. December 26 Variable selection, Class exam 3 14. January 9 Advanced methods for confounding adjustment 15. January 16 Discussion on statistical analysis plans					
Continue to 交絡調整の方法(2) ↓ ↓ ↓					

<b>交絡調整の方法(2)</b>					
<b>[Course requirements]</b>					
All students in the course were expected to take "Fundamentals of Biostatistics"					
<b>[Evaluation methods and policy]</b>					
Class examinations - 3 times					
<b>[Textbooks]</b>					
Distributed materials in "Fundamentals of Biostatistics"					
<b>[References, etc.]</b>					
<b>(Reference books)</b> Rothman KJ, Greenland S, Lash TL. 『Modern Epidemiology, 3rd ed.』 (Lippincott Williams & Wilkins, 2008)					
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>					
Fundamentals of Biostatistics					
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>					
*Please visit KULASIS to find out about office hours.					

未更新

<b>Course number</b>		P-PUB01 8H022 PJ90			
<b>Course title (and course title in English)</b>	解析計画実習		<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine	
	Health Data Processing Laboratory			Program-Specific Professor.OMORI TAKASHI Graduate School of Medicine Professor,SATO TOSIYA JPMA MORI KAZUHIKO Pharmaceuticals and Medical Devices Agency ANDO YUKI Graduate School of Medicine Program-Specific Assistant Professor.Omiva Masatomo	
<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>	2	<b>Year/semesters</b>	2023/Second semester
<b>Days and periods</b>	Tue.3,4	<b>Class style</b>	Practical training	<b>Language of instructor</b>	Japanese
<b>[Overview and purpose of the course]</b>					
This course provides students technical issues to develop a statistical analysis plan and a study protocol. This course provides practice to review new pharmaceutical products. At the end of this program, students develop their statistical analysis plans for their master's thesis and give presentation for them.					
<b>[Course objectives]</b>					
- Understand study guidelines - Apply stratified analysis and regression models using JMP statistical software and interpret results - Be familiar with review of submitted documents for approval on new pharmaceutical products - Develop analysis plans for master's theses					
<b>[Course schedule and contents]</b>					
1. October 3 Study guidelines 1 2. October 10 Study guidelines 2 3. October 17 Study guidelines 3 (Presentation) 4. October 24 Stratified analysis 5. November 7 Comparison of means 6. November 14 Regression analysis 7. November 21 Generalized linear models 8. November 28 Survival analysis 9. December 5 Review practice for new pharmaceutical products 1 10. December 12 Review practice for new pharmaceutical products 2 11. December 19 Review practice for new pharmaceutical products 3 (Presentation, 15:00-18:15) 12. December 26 Developing statistical analysis plan 1 13. January 9 Developing statistical analysis plan 2 14. January 16 Statistical analysis plan presentations (Presentation, 10:30-16:30)					
Continue to 解析計画実習(2) ↓ ↓ ↓					

<b>解析計画実習(2)</b>					
<b>[Course requirements]</b>					
All students in the course were expected to take "Introduction to Statistical Computing."					
<b>[Evaluation methods and policy]</b>					
Reports and presentations					
<b>[Textbooks]</b>					
Distributed materials in "Fundamentals of Biostatistics" Distributed materials in "Introduction to Statistical Computing" Distributed materials in "Intermediate Biostatistics"					
<b>[References, etc.]</b>					
<b>(Reference books)</b> You must download and install the statistical software JMP on your own computer. Please see <a href="http://www.med.kyoto-u.ac.jp/software/JMP/">http://www.med.kyoto-u.ac.jp/software/JMP/</a> .					
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>					
Introduction to Statistical Computing					
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>					
*Please visit KULASIS to find out about office hours.					

<b>Course number</b>		P-PUB01 8H159 LB90			
<b>Course title (and course title in English)</b>	環境曝露・リスク評価 Environmental exposures and their risk assessments	<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Associate Professor, HARADA KOUJI Graduate School of Medicine Program-Specific Associate Professor, OKUDA HIROKO 京都大学 医学研究科 研究員 FUJITANI TOMOKO 医療法人社団蔵生会 蔵生会総合病院 医師 HARADA MARIKO Part-time Lecturer, FUJII YUKIKO		
			<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>
<b>Days and periods</b>	Fri.5	<b>Class style</b>	Lecture	<b>Language of instructor</b>	Japanese and English
<b>[Overview and purpose of the course]</b>					
In this course, I lecture on methodologies for assessing the health effects of environmental factors. I will outline various environmental factors and introduce exposure assessment methods for each. I will introduce examples of analyzing the effects of environmental factors on health outcomes and give lectures on their characteristics. I will introduce a framework for assessing risk in a defined population based on the impact of environmental factors and consider case studies. Finally, I will introduce the actual risks and issues of risk management that implement risk evaluation results in our society. In the lecture, the students themselves will consider the case, and have opportunities for presentations and discussions.					
<b>[Course objectives]</b>					
To explain various environmental factors. To explain the outline of the method of exposure assessment of environmental factors. To understand the framework of health impact assessment and risk assessment. To conduct a critical review on published article in environmental health.					
<b>[Course schedule and contents]</b>					
1st Orientation 2nd Exposure assessment 1 Physical factors 3rd Exposure assessment 2 Chemical factors 4th Exposure assessment 3 Biological monitoring 5th Exposure assessment 4 Chemical analysis 6th Toxicology 1 General principle 7th Toxicology 2 Testing methods 8th Toxicology 3 Toxicokinetics 9th Environmental epidemiology 1 Phytoestrogens 10th Environmental epidemiology 2 Chemical exposures and metabolic disorders 11th Risk assessment 1 Critical review 12th Risk assessment 2 Critical review 13th Toxicology 4 Gene and environment interactions 14th Risk management 15th Presentation and discussion					
Continue to 環境曝露・リスク評価 (2) ↓ ↓ ↓					

<b>環境曝露・リスク評価 (2)</b>	
<b>[Course requirements]</b>	
None	
<b>[Evaluation methods and policy]</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>Attendance and active participation 50%</li> <li>Presentation 50%</li> </ul>	
<b>[Textbooks]</b>	
Handouts	
<b>[References, etc.]</b>	
<b>(Reference books)</b> Introduced during class	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
Revision is recommended to follow biological mechanisms in target toxicities.	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
This lecture may be held online.  *Please visit KULASIS to find out about office hours.	

<b>Course number</b>		P-PUB01 8H032 LB90			
<b>Course title (and course title in English)</b>	ベンチトレーニングコース On the Bench Training Course	<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Associate Professor, HARADA KOUJI Graduate School of Medicine Program-Specific Associate Professor, OKUDA HIROKO 武庫川女子大学食物栄養科学部 准教授 HABU TOSHIYUKI 昭和大学医学部 講師 MORITO DAISUKE		
			<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>
<b>Days and periods</b>	Intensive	<b>Class style</b>	Lecture	<b>Language of instructor</b>	Japanese and English
<b>[Overview and purpose of the course]</b>					
The practice of toxicology and exposure assessment will be given for learning protocol writing, protocol meeting, sample collection, sample measurement, audit, paper writing, review and presentation.					
<b>[Course objectives]</b>					
Skills in handling Gas Chromatography/Mass Spectrometry (GC-MS) Skill for protocol writing in accordance with the practice of toxicology Conduct laboratory works Skill to evaluate the experimented data Skill to write a company paper					
<b>[Course schedule and contents]</b>					
Course Schedule 1 Orientation 2 Gas Chromatography 24-1, 24-2, 24-3 3 Mass Spectrometry 22-1, 22-2 4 Biochemical analysis 5 Molecular analysis 6 Physiological analysis 7 Discussion of theme and presentation of background 8 Protocol Writing 9 Protocol Presentation 10 Sample collecting 11 Sample measurement (1) 12 Sample measurement (2) 13 Summarizing the data 14 Presentation of the data 15 Writing Paper					
Continue to ベンチトレーニングコース(2) ↓ ↓ ↓					

<b>ベンチトレーニングコース(2)</b>	
<b>[Course requirements]</b>	
None	
<b>[Evaluation methods and policy]</b>	
Attendance and active participation 50% Presentation 50%	
<b>[Textbooks]</b>	
Instructed during class	
<b>[References, etc.]</b>	
<b>(Reference books)</b> Introduced during class	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
Group discussion will be performed by students in Out-of-Class.	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

<b>Course number</b>	P-PUB01 8H099 LB90		
<b>Course title (and course title in English)</b>	医薬品・医療機器の開発計画、薬事と審査 Development strategy, plan, and regulatory affairs of drugs and medical devices	<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Professor, KAWAKAMI, KOJI
<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>	2
<b>Year/semesters</b>	2023/Second semester		
<b>Days and periods</b>	Wed.3,4	<b>Class style</b>	Lecture
<b>Language of instruction</b>	Japanese and English		
<b>[Overview and purpose of the course]</b>			
Director and Instructors: (Director) Koji Kawakami (Professor, Pharmacoepidemiology). Shiro Tanaka (Program-specific Professor, Clinical Biostatistics), Madoka Sasaki (Osaka Seikei College), Yasuhiro Fujiwara (PMDA), Hiroi Kasai (Tohoku Univ., CRiETO), Haruko Yamamoto (PMDA), Tetsuya Tokoro (JOMDD), Ikuo Horii (Cambridge Univ.), Shige-yuki Wakitani (Mukogawa Women's Univ.), Yoko Uryuhara (Doshisha Univ.), Christian Elze (Catenion), Yoshie Onishi (CreativCeutical), Gen Terashima (JMDC), Hisashi Urushihara (Keio Univ.), Izumi Sato (Professor, Nagasaki Univ.), Toshiaki Fukasawa (Assistant professor, Digital health)			
The development strategy, protocol design, project management, safety/efficacy assessment, and economic evaluation of drugs and medical devices will be lectured. The development of drug and medical device and the regulatory review in terms of manufacturing and control, nonclinical studies, clinical protocol, the new drug applications, and post-marketing will be discussed.			
<b>[Course objectives]</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>The idea of drug/medical device development and regulatory review will be understood.</li> <li>To understand the strategy, protocol development, and project management of drug development and clinical trials.</li> </ul>			
<b>[Course schedule and contents]</b>			
October 4 Drug Development strategy and translational research (Tanaka) October 11 Industry R&D and regulatory reviewer training: protocol review of clinical trial (Fujiwara) October 18 Industry R&D and regulatory reviewer training: CMC (Kawakami) October 25 Industry R&D and regulatory reviewer training: nonclinical studies (Sasaki) November 1 Project management of clinical trial (Kasai) November 8 Industry R&D and regulatory reviewer training: medical devices (1) (Yamamoto) November 15 The Changing Dynamics of Bio-pharmaceutical Innovation (Elze) November 29 Data review and personalized medicine in drug development (Horii) December 6 Industry R&D and regulatory reviewer training: regenerative medicine (Wakitani) December 13 Life cycle management of pharmaceutical products (Uryuhara) December 20 Drug epidemiology methodology training (Fukasawa) December 27 Pharmacoeconomics and value-based drug pricing (Onishi) January 10 Industry R&D and regulatory reviewer training: medical devices (2) (Tokoro)			
Continue to 医薬品・医療機器の開発計画、薬事と審査(2) ↓ ↓ ↓			

<b>医薬品・医療機器の開発計画、薬事と審査(2)</b>	
January 17 Industry R&D and regulatory reviewer training: Post-marketing surveillance (Urushihara) January 24 Evaluation of medical database / health evaluation (Terashima)	
<b>[Course requirements]</b>	
You must take this course along with the course H109 "Drug policy and regulations" and H079 "Drug development, evaluation and regulatory sciences" of Wednesday 2nd of the second semester for you to acquire fundamental understanding of the field.	
<b>[Evaluation methods and policy]</b>	
Participation (50%) and report (50%)	
<b>[Textbooks]</b>	
Not used	
<b>[References, etc.]</b>	
<b>(Reference books)</b> Saeko Yasuo et al. 『Invitation to new drug development.』 (Kyoritsu Press, 2006) Koji Kawakami, Hisashi Urushihara, Shiro Tanaka et al. ed. 『Strom's Textbook of Pharmacoepidemiology』 (NANZANDO Co., Ltd., 2019.)	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
Preparation in advance and review after lecture	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
Koji Kawakami (3F, Bldg G) appointment required by email. e-mail: kawakami.koji.4e@kyoto-u.ac.jp	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

<b>Course number</b>	P-PUB01 8H079 LB90		
<b>Course title (and course title in English)</b>	医薬品の開発と評価 Drug Development, Evaluation and Regulatory Sciences	<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Professor, KAWAKAMI, KOJI
<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>	1
<b>Year/semesters</b>	2023/Intensive, Second semester		
<b>Days and periods</b>	Intensive	<b>Class style</b>	Lecture
<b>Language of instruction</b>	Japanese and English		
<b>[Overview and purpose of the course]</b>			
Director and Instructors: (Director) Koji Kawakami (Professor, Pharmacoepidemiology) Hiromitsu Shirasawa (MSD, Japan). Ikuo Horii (Cambridge Univ.), Izumi Sato (Professor, Nagasaki Univ.), Christian Elze (Catenion), Yoshie Onishi (Creativ Ceutical), Takahiro Ishikawa (MOF), Hisashi Urushihara (Keio Univ.), Sachiko Tanaka (Program specific professor, Digital health)			
The efficacy and safety of the drug, biologics, and medical devices are evaluated through the drug development process involving preclinical and clinical studies, manufacturing, and post-marketing surveillance. Also, cost/benefit consideration through the comparative effective research is necessary. Fundamental considerations of these issues along with research examples will be discussed.			
<b>[Course objectives]</b>			
To understand idea of the development, evaluation, cost/benefit of medicinal products.			
<b>[Course schedule and contents]</b>			
November 15 Healthcare Systems - Challenges and Reform (Elze) November 29 Drug development and toxicity/safety (Horii) December 6 Medical real world data and Medicine evaluation (Kawakami) December 13 Regulatory affairs in the globalwide pharmaceutical company (Shirasawa) December 20 An introduction to Pharmacoepidemiology (Sato) December 27 Pharmacoeconomics and value-based drug pricing (Onishi) January 10 Finance of Japan and healthcare (Ishikawa) January 17 Postmarketing surveillance (Urushihara) January 24 Digital health and epidemiology (Tanaka)			
Continue to 医薬品の開発と評価(2) ↓ ↓ ↓			

<b>医薬品の開発と評価(2)</b>	
<b>[Course requirements]</b>	
You must take this course along with the course H109 "Drug policy and regulation" otherwise the entire grasp of the drug research, development, and regulations will not be achieved.	
<b>[Evaluation methods and policy]</b>	
Participation (50%) and report (50%)	
<b>[Textbooks]</b>	
Not used	
<b>[References, etc.]</b>	
<b>(Reference books)</b> Saeko Yasuo et al. 『Invitation to new drug development.』 (Kyoritsu Press, 2006) Koji Kawakami, Hisashi Urushihara, Shiro Tanaka et al. ed. 『Strom's Textbook of Pharmacoepidemiology』 (NANZANDO Co., Ltd., 2019.)	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
Preparation in advance and review after lecture	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
Koji Kawakami (3F, Bldg G) appointment required by email. e-mail: kawakami.koji.4e@kyoto-u.ac.jp intermediate	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

<b>Course number</b>		P-PUB01 8M022 LB90			
<b>Course title (and course title in English)</b>	ゲノム科学と医療 Genome Science and Medicine		<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Professor, MATSUDA FUMIHIKO Center for the Promotion of Interdisciplinary Education and Research Program-Specific Professor, NAGASAKI MASAO Graduate School of Medicine Associate Professor, KAWAGUCHI SHUJI	
	<b>Target year</b>	Professional degree students		<b>Number of credits</b>	2
<b>Days and periods</b>	Thu.3	<b>Class style</b>	Lecture	<b>Language of instructor</b>	English
<b>[Overview and purpose of the course]</b>					
DNA sequencing technology is increasingly popularized, the application of this technology in the clinical medicine is now coming into reality. The aim of this course is to provide knowledges which are necessary to understand Genomic Medicine. The link between basic science and clinical medicine will be focused, from the currently ongoing practice to future perspectives. A lecture is provided by expert researcher each week. Students are also required to participate in the symposium of Kyoto Course on Bioinformatics for Genomic Medicine.					
<b>[Course objectives]</b>					
- Understand the basic concepts behind Genomic Medicine - Learn about current and upcoming application of genome science in the clinical practice					
<b>[Course schedule and contents]</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>• Genomic Medicine: Regulators and Disease (Yasuhiro Murakawa) 【On-demand class】</li> <li>• Disease and AI (Associate Prof. Shuji Kawaguchi) 【On-demand class】</li> <li>• High-Dimensional Statistical Methods; Challenges and Innovations (Prof. Hung Hung, Taiwan University) 【On-demand class】</li> <li>• Genetics of Diseases: Quantitative Traits and Structural Polymorphisms (Prof. Masao Nagasaki) 【On-demand class】</li> <li>• Genomic Database Resources for Rare Diseases (Prof. Masao Nagasaki) 【On-demand class】</li> <li>• Genomic Medicine COVID-19 (Prof. Masao Nagasaki) 【On-demand class】</li> <li>• Genomic Medicine Genomic Drug Discovery (Prof. Yukinori Okada, Osaka University) 【On-demand class】</li> <li>• Pharmacogenetics of Genomic Medicine (Prof. Taisei Mushiroda, Group Leader, RIKEN) 【On-demand class】</li> <li>• How to Communicate the Results of Scientific Research (Riko Muranaka) (tentative) 【Simultaneous bidirectional class】</li> </ul> In principle, the classes will be delivered online in English.					
<b>[Course requirements]</b>					
Completion of Statistical Genetics I and II is strongly recommended					
----- Continue to ゲノム科学と医療(2) ↓ ↓ ↓					

<b>ゲノム科学と医療(2)</b>	
<b>[Evaluation methods and policy]</b>	
Status of class participation in lectures, Submission of reports for each class.	
<b>[Textbooks]</b>	
Handouts will be given during the class	
<b>[References, etc.]</b>	
<b>(Reference books)</b>	
Introduced during class Introduced during class	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
Review of the handouts should be the main focus.	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
This classes is media class and will be delivered online in English.	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

<b>Course number</b>		P-PUB01 8N018 LJ90			
<b>Course title (and course title in English)</b>	医療倫理学各論 Practicum for Clinical Genetics		<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Associate Professor, NAKAJIMA TAKESHI	
	<b>Target year</b>	Professional degree students		<b>Number of credits</b>	2
<b>Days and periods</b>	金5・6：開講日注意	<b>Class style</b>	Lecture	<b>Language of instructor</b>	Japanese
<b>[Overview and purpose of the course]</b>					
[Basic information] Class date and time: 5th and 6th periods of Fridays (biweekly) Classroom: Building G, 3rd Floor, Seminar room. Online classes may be conducted depending on circumstances. Level: Advanced Staff in charge: Takeshi Nakajima, Takahito Wada, Masanobu Ogawa, Yasuji Yamazaki (Kobe University), Atsushi Asai (Tohoku University), Sayaka Takenouchi, Shinji Kosugi,					
<b>[Course overview]</b>					
Analysis of clinical problems that arise with the development of medical technology and issues in clinical research. The goal is for participants to acquire the "ability to think about problems on their own, seek solutions, and practice clinically" and to become practical, action-oriented medical professionals.					
<b>[Course objectives]</b>					
1) Understand the basics of medical ethics • Understand the background of medical ethics, the transformation of the doctor-patient relationship, as well as the patient's rights and the doctor's responsibility. 2) Learn how to deal with ethical issues • Recognize the existence of an issue and analyze it using a framework for thinking. • Create a path for a solution through discussion. • Think about how to apply medical ethics to clinical practice.					
<b>[Course schedule and contents]</b>					
[1st/2nd lectures] 10/6 [Kosugi] "Ethics Committee/Transplantation Therapy and Ethics" The history of the ethics review committee, current status, legal basis, structure, and issues in organ transplants from brain dead donors, living liver transplants, pancreatic islet transplants from cardiac death donors and living bodies, based on real cases. [3rd/4th lectures] 10/20 [Takenouchi] "Terminal Care" An analysis of the discontinuation of treatment, life-prolonging treatment, euthanasia, death with dignity, medical care for the elderly, DNR orders, advance instructions, and medical futility. [5th/6th lectures] 11/17 [Wada] "Pediatric Medicine and Ethics" A look at guardianship in pediatric treatment, informed consent and assent, and medical ethics. [7th/8th lectures] 12/1 [Asai] "Problems in Medical Resource Allocation" [9th/10th lectures] 12/15 [Nakajima] "The Problem of Secondary (Accidental) Findings" Learn how to handle secondary (accidental) findings, which have become common in today's era of the extensive use of genome information.					
----- Continue to 医療倫理学各論(2) ↓ ↓ ↓					

<b>医療倫理学各論(2)</b>	
-----	
[11th/12th lectures] 1/5 [Yamazaki] "Law and Ethics" A comprehensive analysis of the relationship between morality, ethics, and law, as well as the natural law theory and legal positivism. [13th/14th lectures] 1/19 [Ogawa] "Obstetrics and Gynecology and Ethics" Since these particular fields involve embryos and unborn children, obstetrics and gynecology have inherent broad ethical issues, which these lectures examine. [15th/16th lectures] 2/2 [Nakajima] "Independent Research Presentation" Presentation of independent theme research by graduate students who are taking the course.	
<b>[Course requirements]</b>	
Compulsory subject for first-year students in the Genetic Counselor Course:  The SPH elective "Basic Medical Ethics" must be taken in advance as a prerequisite.  Availability for students majoring in Human Health Sciences: Contact us in advance	
<b>[Evaluation methods and policy]</b>	
Research presentations, active participation in discussions, reports, and attendance are evaluated comprehensively.  Presentation of independent research (the final step): Each student must present the outcome of investigating a theme of his/her own choice (any theme related to medical ethics) and looking for issues on his/her own. Each theme is discussed by everyone in the class. The time allocated (presentation + discussion) depends on the number of presenters, but it is between 15 and 20 minutes. (Please use PowerPoint in your presentation and distribute a handout to everyone). This is a required step for students and attendees from other majors and postgraduate courses as well.	
<b>[Textbooks]</b>	
Other handouts distributed in class	
<b>[References, etc.]</b>	
<b>(Reference books)</b>	
Introduced during class	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
Instructions will be given accordingly	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
Other messages: Videos and cartoons may be used in case analyses.  The lecture schedule, lecturer, and content are subject to minor changes.	
----- Continue to 医療倫理学各論(3) ↓ ↓ ↓	



医療倫理学各論(3)	
An official letter of enrollment must be submitted without fail.	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course number		P-PUB01 8H130 LB90				
Course title (and course title in English)	健康情報学 I Health informatics I	Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Professor, NAKAYAMA TAKEO Graduate School of Medicine Associate Professor, TAKAHASHI YOSHIMITSU Daito Bunka University, Professor, SUGIMORI HIROKI Japan MBTI Association, Director SONODA YUKI Center for Cancer Control and Information Services, Director WAKAO FUMIHIKO Kyoto University Hospital Associate Professor, KATOU GENTA Information System Engineering Inc, Representative Director and President KURODA SATOSHI Shizuoka Graduate University of Public Health (Shizuoka SPU) Associate Professor FUJIMOTO SHUHEI			
			Target year	Professional degree students	Number of credits	2
Days and periods	Fri.2	Class style	Lecture	Language of instruction	Japanese and English	
<b>[Overview and purpose of the course]</b>						
This course comprises systematic lectures on health / medical information, collection, accumulation, transmission, retrieval and appraisal of data and knowledge. Being based on epidemiology and EBM, methods of utilizing information about health and medicine via medical literature, mass media or internet. Health literacy, circulation of information and information ethics including protection of individual information will be also addressed. Moreover, the workshop of the "MBTI", which is very popular among healthcare professionals in the US and western countries, will be held to understand intra and inter personal pattern of information recognition and processing, and communication.						
Methods of Instruction Lectures, practices, small group discussion.						
<b>[Course objectives]</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>• Being based on knowledge of epidemiology and EBM, to acquire skills of utilizing various health / medical information.</li> <li>• To be capable of collecting and appraising health information via mass media or internet and of utilizing them as materials for decision making, problem solving and promoting communication.</li> <li>• To understand intra and inter personal pattern of information recognition and processing, and communication in terms of the "MBTI".</li> </ul>						
<b>[Course schedule and contents]</b>						
1 October 6 Information / health literacy: Introduction 1 2 October 13 Information / health literacy: Introduction 2 3 October 20 Internet and e-health 4 October 27 Quality of life and "patient reported outcome" in health						
Continue to 健康情報学 I (2) ↓ ↓ ↓						

健康情報学 I (2)	
5 November 10 Evidence-based practice and clinical practice guidelines 6 November 24 Communicating Risks and Benefits 7 December 1 Secondary use of healthcare data 8 December 8 Topics of technical communications 9 December 15 Dissemination of cancer information: the current state of enlightenment and problem 10 December 22 Narrative information: the significance and possibility January 5 an optional extra day 11 January 12 World cafe 12 January 19 Health literacy and risk communication 13 January 25 "MBTI" special workshop (1) 14 January 26 "MBTI" special workshop (2) 15 February 9 Individual presentation and wrap-up Note: This schedule is subject to change. The class will be scheduled to avoid overlapping "Health informaticsII".	
<b>[Course requirements]</b>	
None (it is desirable to have basic knowledge of epidemiology or evidence-base medicine).	
<b>[Evaluation methods and policy]</b>	
Short report for each lecture 80%, Oral Presentation 20%	
<b>[Textbooks]</b>	
The material necessary for the lecture will be provided by lecturers. Purchase of the textbook of MBTI is required (approximately, 3,300Yen).	
<b>[References, etc.]</b>	
<b>(Reference books)</b> Baruch Fishhoff, Noel T Brewer, Julie S Downs 『Communicating Risks and Benefits: An Evidence-Based User's Guide』 (US Department of Health and Human Services, Food and Drug Administration)	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
Rather than spending more time on your preparation, please put more energy into the review.	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
Information is defined as "those which reduce uncertainty". This course provides students with the opportunity to consider how to develop, transmit and utilize information appropriately. Moreover, the special workshop of the "MBTI" must benefit students to widen perspectives of personal pattern of information recognition, processing and communication. This course is open to graduate students with the school of human health science.  *Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course number		P-PUB01 8H151 LB90				
Course title (and course title in English)	健康情報学 II Health informatics II	Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Associate Professor, TAKAHASHI YOSHIMITSU Graduate School of Medicine Assistant Professor, NISHIKAWA YOSHITAKA			
			Target year	Professional degree students	Number of credits	2
Days and periods	Fri.3,4	Class style	Lecture	Language of instruction	Japanese and English	
<b>[Overview and purpose of the course]</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>• Participants will learn about elementary knowledge of the Internet and e-health, and ICT in healthcare will be introduced. Participants will learn about secondary data analysis and medical big data in Japan.</li> <li>• Community pharmacies in developed countries are playing an important role not only in supplying medicines but also in public health in communities. In this lecture, it will be introduced the results of some intervention studies in community pharmacies for patients with NCDs. It also will be introduced Nudge and the patient approach on health behavioral theory which was used in the Japanese intervention studies.</li> <li>• Disaster and health informatics: Participants will learn about health outcomes following a disaster and discuss necessary health information during and after the disaster. Participants will also learn about health information on disaster risk reduction. The course will provide the knowledge and skills to write case studies and case reports.</li> <li>• Lecture and practical in Japanese. I will try to offer several handouts in English</li> </ul>						
<b>[Course objectives]</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>• Learning knowledge of the Internet and concepts of e-health. Learning knowledge and analysis of medical big data, public statistics and secondary data.</li> <li>• To know the change of the clinical practice and policy in community pharmacy in the world. Learning the basic knowledge of behavioral economics: Nudge and the health behavioral theory.</li> <li>• Through the course, participants will gain the following: A) basic knowledge about disaster and health, B) basic knowledge about writing case studies.</li> </ul>						
<b>[Course schedule and contents]</b>						
Oct 6, 4th. Introduction Oct 13, 4th. Developing pharmacy practice in the community Oct 20, 4th. Patient care in community pharmacy Oct 27, 4th. Elementary knowledge of the Internet Nov 10, 4th. Guidelines and checklists of healthcare ICT Nov 24, 4th. Group work (Developing a form of an Internet survey) Dec 1, 4th. Disaster and health informatics 1: Health outcome following disaster and health information during a disaster Dec 8, 4th. Disaster and health informatics 2: Health information on disaster risk reduction Dec 15, 4th. Disaster and health informatics 3: Knowledge about writing case studies Dec 22, 3rd-4th. Medical big data and secondary data analysis (Group A) Jan 5, 3rd-4th. Medical big data and secondary data analysis (Group B) Jan 12, 3rd-4th. Cases of healthcare ICT (1)(2)						
Continue to 健康情報学 II (2) ↓ ↓ ↓						

<b>健康情報学 II (2)</b>	
Jan 19, 3rd-4th. Social network analysis, Life-course epidemiology, and secondary data analysis Jan 26, 3rd-4th. an optional extra day	
The schedule could be changed.	
<b>[Course requirements]</b>	
Registration of Health Informatics I.	
<b>[Evaluation methods and policy]</b>	
Participation in the class and discussion, 30%; Reports or presentations, 70%.	
<b>[Textbooks]</b>	
Not used	
<b>[References, etc.]</b>	
<b>(Reference books)</b> Introduced during class	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
I will show educational materials for preparation during the class	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
This course is basically conducted in Japanese. If you have questions, send an e-mail to takahashi.yoshimitsu.3m@kyoto-u.ac.jp.  *Please visit KULASIS to find out about office hours.	

<b>Course number</b>		P-PUB01 8H160 SB90	
<b>Course title (and course title in English)</b>	質的研究・演習 Applied Medical Communication	<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Associate Professor, IWAKUMA MIHO
<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>	2
<b>Year/semesters</b>	2023/Intensive, year-round		
<b>Days and periods</b>	Intensive	<b>Class style</b>	Seminar
<b>Language of instruction</b>	Japanese and English		
<b>[Overview and purpose of the course]</b>			
students learn several qualitative research methods. There are many methods for qualitative research, and you need to choose the appropriate method according to the research question which you want to know. It is better to try some tools before the actual research starts, so it is recommended to take this class at the time when you are aware of your research question and start exploring the methodology. In addition, qualitative research, which is relatively difficult to self-study; therefore, it is easy to learn while sharing tasks and questions with your classmates who take the course together. Focusing on "actually analyzing data", we will experience group analysis and individual analysis.			
<b>[Course objectives]</b>			
to Understand several qualitative research methods can perform group analysis and individual analysis can analyze the data using SCAT can conduct a focus-group interview (FGI) can analyze the large set of data using KH coder, a text-mining software can choose the research method that suits your research question			
<b>[Course schedule and contents]</b>			
1. 9/5 Introduction 2. 9/12 SCAT① 3. 9/19 SCAT② 4. 10/3 SCAT③ 5. 10/17 SCAT④ 6. 10/24 Focus group interview (FGI) ① 7. 11/7 SCAT analysis report 8. 11/14 FGI② 9. 11/21 FGI③ 10. 11/28 KH coder ① (Tomomi Funaki, MPH) 11. 12/5 KH coder ② (Tomomi Funaki, MPH) 12. 12/12 FGI④ 13. 12/19 KH coder ③ (Tomomi Funaki, MPH) 14. 1/9 analysis report 15. 1/16 analysis report			
Continue to 質的研究・演習 (2) ↓ ↓ ↓			

<b>質的研究・演習 (2)</b>	
<b>[Course requirements]</b>	
None	
<b>[Evaluation methods and policy]</b>	
class participation 30%	
analysis reports 30%	
term paper 40%	
title 10%	
final paper 30%	
<b>[Textbooks]</b>	
Instructed during class	
<b>[References, etc.]</b>	
<b>(Reference books)</b> Introduced during class handouts will be delivered in class.	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
homework will be given	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
A high Japanese proficiency is needed for a data analysis  * Classes are delivered in-class only.  *Please visit KULASIS to find out about office hours.	

<b>Course number</b>		P-PUB01 8H132 LB90	
<b>Course title (and course title in English)</b>	エビデンスユーザー入門 Introduction to EBM: How to use evidence in your daily life	<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Professor, FURUKAWA TOSHIAKI
<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>	2
<b>Year/semesters</b>	2023/Irregular, year-round		
<b>Days and periods</b>	月1・2 開講日注意	<b>Class style</b>	Lecture
<b>Language of instruction</b>	Japanese and English		
<b>[Overview and purpose of the course]</b>			
The term "Evidence-Based Medicine" (EBM) is now so popular that every scientist calls his favorite data "evidence". This course aims to provide basic knowledge for evidence users, namely to learn what constitutes evidence, how to find it, how to use it and what to do when you cannot find such in the clinical decisions for individual patients and in the policy decisions. We expect that, once you become proficient evidence users, you will also become ambitious evidence makers. Given the various backgrounds of the KUSPH students, we also expect that EBM can be practiced for all kinds of human services including alternative & complimentary medicine, education, economic policies, environmental policies etc.  *** We expect to form one group for English-speaking students. ***  (We plan to the classes face-to-face in 2022 in a room large enough to keep physical distance.)			
<b>[Course objectives]</b>			
1. To learn standard checkpoints for critical appraisal in diagnosis, treatment (intervention), prognosis, and systematic reviews. 2. To submit one report for each of the above domains that deals with the student's own clinical question and describes how he/she formulated a clinical question, how he/she found the evidence, how he/she critically appraised the evidence and how he/she applied the evidence.			
<b>[Course schedule and contents]</b>			
The class will basically proceed as follows: 1. The students will take turns to present the summary of checkpoints for critical appraisal in diagnosis, treatment (intervention), prognosis and systematic reviews based on the designated standard textbook of EBM. 2. The students will be divided into small groups and each group will present an example of practicing EBM in each of the domains above. 3. After learning the basic process of EBM for the five domains as described above, each student will present a report that deals with the student's own clinical question. As a lot of time of self-learning will be required, we expect the students to be so prepared and the class will be held, in principle, every two weeks. Please pay good attention to the class schedule.			
Continue to エビデンスユーザー入門(2) ↓ ↓ ↓			

エビデンスユーザー入門(2)	
1. 4月10日2限	Introduction to EBM Furukawa
2. 5月8日2限	Critical appraisal for articles on therapy Group I
3. 5月22日2限*	Student presentation (1) II, III
4. 6月5日2限*	Student presentation (2) IV, I
5. 7月3日2限	Critical appraisal for articles on diagnosis Group II
6. 7月1日2限*	Student presentation (1) III, IV
7. 8月25日2限*	Student presentation (2) I, II
8. 10月2日2限	Critical appraisal for articles on prognosis Group III
9. 10月16日2限*	Student presentation (1) IV, I
10. 10月30日2限*	Student presentation (2) II, III
11. 1月13日2限	Critical appraisal for pairwise meta-analysis Group IV
12. 1月20日2限	Critical appraisal for network meta-analysis Furukawa
13. 12月4日2限*	Student presentation (1) I, II
14. 12月18日2限*	Student presentation (2) III, IV
15. 1月15日2限	(extra)
* Starts at 10:00, so that we can accommodate two groups.	
[Course requirements]	
We recommend MPH elective for "Literature Search" and "Critical Appraisal."	
[Evaluation methods and policy]	
Class participation (40%) Four reports for diagnosis, treatment (intervention), prognosis, and systematic reviews (60%)	
[Textbooks]	
Gordon Guyatt et al 『Users' Guides to the Medical Literature: Essentials of Evidence-Based Clinical Practice, 3rd Edition』 (McGraw-Hill Professional) (All the chapters we designate for the class are included in the following "Manual" too. If you have purchased the "Manual", you need not purchase the "Essentials.")	
[References, etc.]	
(Reference books) Gordon Guyatt et al 『Users' Guides to the Medical Literature: A Manual for Evidence-Based Clinical Practice, 3rd Edition』 (McGraw-Hill Professional) 古川壽亮 『エビデンス精神医療』 (医学書院)	
[Related URLs]	
<a href="http://ebmh.med.kyoto-u.ac.jp/toolbox.html">http://ebmh.med.kyoto-u.ac.jp/toolbox.html</a> (Please use various tools available in our Department website.)	
Continue to エビデンスユーザー入門(3) ↓ ↓ ↓	

エビデンスユーザー入門(3)	
[Study outside of class (preparation and review)]	
As a lot of time of self-learning will be required, we expect the students to be so prepared.	
(Other information (office hours, etc.))	
Participation from Graduate course of Human Health Sciences is accepted.  *Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course number		P-PUB01 8H156 LB90	
Course title (and course title in English)		質的研究入門 Introduction to Qualitative Research	
Instructor's name, job title, and department of affiliation		Graduate School of Medicine Professor, NAKAYAMA TAKEO Graduate School of Medicine Program-Specific Assistant Professor, KOHNO AYAKO	
Target year		Professional degree students	Number of credits 1
Year/semesters		2023/Intensive, First semester	
Days and periods		Intensive	Class style Lecture
Language of instruction		Japanese	
[Overview and purpose of the course]			
This course outlines the basics of qualitative research methods and lectures on various analysis techniques. This course is for beginners who want to learn qualitative research methods without any prior knowledge.			
[Course objectives]			
Explain the fundamentals of qualitative research methodology. To understand the key methodology of qualitative research and to be able to interpret qualitative research findings critically. Being able to enhance understanding about how to conduct qualitative research with the guidance of qualitative research experts.			
[Course schedule and contents]			
1st Lecture: June 7 What is Qualitative Research? Philosophy of Qualitative Research (Epistemology & Ontology) Role of Theory in Qualitative Research			
2nd Lecture: June 14 Planning and Designing Qualitative Research How to Develop Research Question in Qualitative Research Writing a Research Proposal			
3rd Lecture: June 21 Interviewing, Focus Group and Observations, and Unobtrusive Methods Groupwork (FGD)			
4th Lecture: June 28 Method of Data Analysis (Thematic Analysis and Content Analysis) Groupwork (Thematic Analysis)			
5th Lecture: July 5 Rigour and Ethics in Qualitative Research Appraisal and Validity of Qualitative Research Groupwork (Discussion on reading qualitative paper using COREQ)			
6th Lecture: July 12 Basics of Mixed Methods 7th Lecture: July 19 New Types of Qualitative Research Methods (Photovoice, Participatory Action Research etc.) Groupwork (Photovoice)			
8th Lecture: July 26 Writing and Communicating Qualitative Research			
Continue to 質的研究入門(2) ↓ ↓ ↓			

質的研究入門(2)	
[Course requirements]	
This course is mainly for students in the School of Public Health.  Students from other courses (including students in the School of Human Health Sciences) are also welcome although the number will be limited to 5 students.  For those who wish to take this course in PhD or DrPH degrees as well as students in the School of Human Health Sciences, please e-mail beforehand and consult with the instructor. (kohno.ayako.8w@kyoto-u.ac.jp)	
[Evaluation methods and policy]	
The grade will be based mainly on active participation in the class (class attendance and writing class comments for each class) (50%), and submission of four reports (Summarizing the groupworks during the class) (50%).	
[Textbooks]	
Instructed during class. No textbook is required for this course. Handouts will be distributed by the instructors as needed. [	
[References, etc.]	
(Reference books) Liamputtong P. Qualitative research methods. Fifth edition. Melbourne: Oxford university press; 2020.  Liamputtong P. Research methods in health: foundations for evidence-based practice. 3rd edition. 2017.	
[Study outside of class (preparation and review)]	
Please take enough time for self-study before and after each classes and do the assignments.	
(Other information (office hours, etc.))	
This class will be conducted on-site in seminar room A.  Office hours will be announced at the first lecture.  Students from the School of Human Health Sciences are also welcome although the number will be limited to 5 students.  We will notify the registered students via PandA regarding the course information in advance.  Students who wish to audit this class (without registration thus will not receive credit) should notify the instructor by e-mail of their wish to audit the class by one week before the first day of class (by May 31st).  *Please visit KULASIS to find out about office hours.	

<b>Course number</b>	P-PUB01 8H152 LB90		
<b>Course title (and course title in English)</b>	環境・感染症論 Environment and Infection	<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Center for Southeast Asian Studies Professor, YAMAZAKI WATARU
<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>	2
<b>Year/semesters</b>	2023/Second semester		
<b>Days and periods</b>	Mon.3	<b>Class style</b>	Lecture
<b>Language of instructor</b>	Japanese and English		
<b>[Overview and purpose of the course]</b>			
Students will gain a comprehensive understanding of infectious diseases through lectures by teachers, presentations by students and group discussions. In particular, we will deepen our understanding of the interactions between the environment, humans and pathogens. Social transformation and historical impact of infectious diseases will also be studied from a socio-ecological perspective.			
<b>[Course objectives]</b>			
In order to understand infectious diseases comprehensively, students will acquire the ability to view various factors from a socio-ecological perspective, including the natural environment in which pathogens live, the anthropogenic environment created by humans, and the resistance of humans to infection.			
<b>[Course schedule and contents]</b>			
The first 9 sessions will be lectures, and the 10th-15th sessions will be presentation sessions and group discussions.			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. General introduction</li> <li>2. Transmission of pathogens across animal species</li> <li>3. Food hygiene</li> <li>4. Water and health</li> <li>5. Mosquito- and tick-borne infectious diseases</li> <li>6. Prion diseases</li> <li>7. Drug resistance</li> <li>8. Biological Weapons, Bioterrorism and Pathogen Leak Accidents</li> <li>9. Infodemics</li> <li>10. Presentation session and group discussion I</li> <li>11. Presentation session and group discussion II</li> <li>12. Presentation session and group discussion III</li> <li>13. Presentation session and group discussion IV (Self-study depending on the number of participants)</li> <li>14. Presentation session and group discussion V (Self-study depending on the number of participants)</li> <li>15. Presentation session and group discussion VI (Self-study depending on the number of participants)</li> </ol>			
<b>[Course requirements]</b>			
None			
Continue to 環境・感染症論 (2) ↓ ↓ ↓			

<b>環境・感染症論 (2)</b>
<b>[Evaluation methods and policy]</b>
<b>[Evaluation criteria]</b> Students must achieve a score of 60 or above out of 100 points (60 or above: pass, 59 or below: fail).
<b>[Evaluation Method]</b> Grades will be based on attendance (30%), understanding, proactivity, insight, and ability to express oneself in group discussions (20%) based on the students' presentations (50%). Students who do not give a presentation will not be considered to have taken the examination and will receive no grade.
<b>[Textbooks]</b>
The textbook will not be used. Lecture materials and relevant academic papers will be shared in Panda.
<b>[References, etc.]</b>
<b>(Reference books)</b> The reference book will not be used. Lecture materials and relevant academic papers will be shared in Panda.
<b>(Related URLs)</b>
<a href="https://kyoto.cseas.kyoto-u.ac.jp/en/">https://kyoto.cseas.kyoto-u.ac.jp/en/</a> (Center for Southeast Asian Area Studies, Kyoto University) <a href="http://sph.med.kyoto-u.ac.jp/en/field/class-16/">http://sph.med.kyoto-u.ac.jp/en/field/class-16/</a> (Ecology with Emphasis on the Environment, School of Public Health)
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>
Students are encouraged to prepare for and review the lecture materials.
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>
<b>[Contact address]</b> 46 Shimo Adachi-cho, Yoshida, Sakyo-ku, Kyoto 606-8501, Japan Room E309, East Wing, Center for Southeast Asian Area Studies, Kyoto University Wataru Yamazaki, DVM, PhD Tel: (075) 753-9618 Email: yamazaki@cseas.kyoto-u.ac.jp
*Please visit KULASIS to find out about office hours.

未更新

<b>Course number</b>	P-PUB01 8H135 LJ90		
<b>Course title (and course title in English)</b>	臨床試験の統計的方法 Statistical Methods in Clinical Trials	<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Program-Specific Professor, TANAKA SHIROU Graduate School of Medicine Program-Specific Assistant Professor, Omiya Masatomo
<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>	1
<b>Year/semesters</b>	2023/The first half of second semester		
<b>Days and periods</b>	水5	<b>Class style</b>	Lecture
<b>Language of instructor</b>	Japanese		
<b>[Overview and purpose of the course]</b>			
We hold lectures and practical training with the aim of understanding the design of Phase II and Phase III clinical trials and learning sample size calculations. Lecture videos and assignments will be distributed before the first session, so students should use them for preparation and review. Knowledge of clinical trials and statistics equivalent to the first semester courses "Clinical Trials," "Fundamentals of Statistical Inference," and "Statistical Models and their Applications" is a prerequisite. This is a mandatory course for CB and an elective course for MPH.			
<b>[Course objectives]</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>• Learn to calculate sample sizes in Phase II and Phase III clinical trials.</li> <li>• Understand frequency theory in study design and the differences from Bayesian statistical concepts.</li> </ul>			
<b>[Course schedule and contents]</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>• Classes will be held in Seminar Room B in Building G.</li> <li>• Homework + lecture and practicum format.</li> <li>• Homeworks are provided using an online learning environment KoALA (<a href="https://koala.highedu.kyoto-u.ac.jp/">https://koala.highedu.kyoto-u.ac.jp/</a>).</li> <li>• We calculate sample size in the practicums in Sessions 1 to 4, but no knowledge of software is assumed. In Sessions 6 and 7, we read clinical trial papers and interpret results.</li> <li>• Practicum tutoring is performed by clinical statistics staff.</li> </ul> <p>Session 1, October 6: Sample Size Design 1 Continuous Data (Tanaka, Imai, Yada)  Session 2, October 13: Sample Size Design 2 Binary Data (Tanaka, Imai, Yada)  Session 3, October 20: Interpreting the Results of Clinical Trials (Tanaka, Imai, Yada)  Session 4, October 27: Interpreting the Results of Clinical Trials (Tanaka, Imai, Yada)  Session 5, November 10: Sample Size Design 3 Survival Time Data (Tanaka, Imai, Yada)  Session 6, November 17: Sample Size Design 4 Phase II Clinical Studies, Bayesian Statistics (Tanaka, Imai, Yada)  Session 7, November 24: Reserve date</p>			
<b>[Course requirements]</b>			
Students must have completed the following courses in the first semester: "Clinical Trials," "Fundamentals of Statistical Inference," and "Statistical Models and their Applications."			
Continue to 臨床試験の統計的方法(2) ↓ ↓ ↓			

<b>臨床試験の統計的方法(2)</b>
<b>[Evaluation methods and policy]</b>
Class participation: 50% and Reports: 50%
<b>[Textbooks]</b>
Machin D, Campbell MJ, Tan SB, Tan SH. "Sample Sizes for Clinical, Laboratory and Epidemiology Studies, 4th Edition," (John Wiley & Sons). We will make an announcement on acquiring textbooks during Session 1.
<b>[References, etc.]</b>
<b>(Reference books)</b> Introduced during class
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>
Prepare for and review lessons using the lecture videos and assignments distributed before the first session. Details will be announced via email.
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>
Human health science majors are not eligible to participate in this course.
*Please visit KULASIS to find out about office hours.

Course number	P-PUB01 8H061 PB90		
Course title (and course title in English)	社会健康医学課外実習 Field Training for Public Health Practice	Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Professor, NISHIURA HIROSHI
Target year	Professional degree students	Number of credits	2
Year/semesters	2023/Intensive, year-round		
Days and periods	Intensive	Class style	Practical training
Language of instruction	Japanese and English		
<b>[Overview and purpose of the course]</b>			
I. コースの概要 ・就業体験を通じて、学んだ専門知識等を活かし、応用力を高める。 ・キャリアデザインの実体化につなげる機会とする。 ・所属分野の指導教員と、場合によっては、加えて他分野の担当教員とも、十分に相談の上、履修届を出してください。 (計画未確定のままに急いで、学年初め・学期初めに履修届を出す必要はありません。)			
II. 学習到達目標 (このコース終了時までに習得が期待できること) ・社会の現場に必要な技能の向上を図る。 ・大学院で得た知識・技能を、いかにして実務に役立たせるかを確認する。 ・志望する就業の現場での雰囲気や必要な技能を知る。 ・実務を通じて、社会貢献をする。			
III. 教育・学習方法 ・就業体験を通じて、学んだ専門知識等を活かし、応用力を高める。			
<b>[Course objectives]</b>			
学習到達目標 (このコース終了時までに習得が期待できること) ・社会の現場に必要な技能の向上を図る。 ・大学院で得た知識・技能を、いかにして実務に役立たせるかを確認する。 ・志望する就業の現場での雰囲気や必要な技能を知る。 ・実務を通じて、社会貢献をする。			
<b>[Course schedule and contents]</b>			
所属分野の指導教員等と、十分に相談の上、インターンシップの計画を立ててください。			
Continue to 社会健康医学課外実習(2) ↓ ↓ ↓			

<b>社会健康医学課外実習(2)</b>	
<b>[Course requirements]</b>	
KULASISでの履修登録はできません。履修する場合は、窓口に出してください。	
<b>[Evaluation methods and policy]</b>	
・終了後速やかに報告書・レポート(報告書の様式は教務掛を通じて入手すること)を作成し、かつ、インターン先の責任者と指導教員の確認を得ること。 ・合否のみ、判定する。	
<b>[Textbooks]</b>	
・諸々の学習資源は、就業体験を通じて得られる。	
<b>[References, etc.]</b>	
<b>(Reference books)</b> ・諸々の学習資源は、就業体験を通じて得られる。	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
適宜予習復習を求める	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
<p>その他メッセージ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他の履修科目の日程と重複しないように計画してください。重複した場合、インターンシップを優先するわけではありません。必要な際は、該当する科目責任者に相談してください。</li> <li>・履修登録(単位取得)せずに、インターンシップを行ってもかまいません。</li> <li>・実質的な業務が計60時間以上で2単位。計30時間以上で1単位とします。</li> <li>・上記の時間の目安と、就業体験の内容と質を、担当教員(指導教員等)が評価し、合否と単位数(1単位か2単位)を判定します。</li> <li>・報告書の様式(教務掛で受取ること)を担当教員(指導教員等)に提出し、履修届けを同時に発行してください。</li> </ul>	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course number	P-PUB01 8H161 LB90		
Course title (and course title in English)	感染症数理モデル入門 Introduction to infectious disease modelling	Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Professor, NISHIURA HIROSHI
Target year	Professional degree students	Number of credits	2
Year/semesters	2023/Intensive, First semester		
Days and periods	Intensive	Class style	Lecture
Language of instruction	Japanese and English		
<b>[Overview and purpose of the course]</b>			
This module welcomes students to dive into the introductory science of infectious disease modelling. We cover the fundamental idea of renewal process. Infectious disease data are very special in two critical points, (i) infection event is seldom directly observable and (ii) the risk of infection involves dependence structure. We study how these problems are handled using non-linear models and integral equations.			
<b>[Course objectives]</b>			
a. Understand how the transmission potential is measured in epidemiology; b. Explain threshold phenomena in controlling infectious diseases; c. Describe technical issues associated with delay structure; d. Understand how vaccine efficacy at an individual level can be measured; e. Estimate and implement epidemic modelling in students' own laptop computer.			
<b>[Course schedule and contents]</b>			
Each session takes 90 minutes in total. The module itself will be a part of the 10-day short course of infectious disease modelling, and participants are encouraged to take other lectures too.			
1. Introduction to epidemic modelling 2. Measuring transmissibility 3. Herd immunity and SIR model 4. Capturing heterogeneity 5. Vaccine and vaccination 6. Stability analysis 7. Real time modelling 8. Case fatality risk, followed by exam			
<b>[Course requirements]</b>			
Attend "infectious disease epidemiology" (MPH core) in advance 必ず「感染症疫学」に先にご出席ください			
<b>[Evaluation methods and policy]</b>			
Attendance to a total of two-thirds of classes will be required to be eligible for final examination. Evaluation is conducted by coursework (i.e. comprehension during the class) (30%) and examination (70%).			
<b>[Textbooks]</b>			
西浦博(編)『感染症疫学のためのデータ分析入門』(金芳堂、2021) ISBN:978-4-7653-1882-2 (感染症疫学の入門書。本専門職学位課程での講義内容に準拠してまとめています。)			
Continue to 感染症数理モデル入門(2) ↓ ↓ ↓			

<b>感染症数理モデル入門(2)</b>	
<b>[References, etc.]</b>	
<b>(Reference books)</b> 西浦博(編)『感染症流行を読み解く数理』(日本評論社、2022) ISBN:978-4-535-78759-9 (感染症の流行データを数理的に検討したい方向け。)	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
No specific preparation would be required. There will be math refresher sessions on Day 2 and Day 3 of the entire short course. Students who do not possess substantial mathematical expertise are encouraged to attend those lessons.	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

未更新

Course number	P-PUB01 8H165 LJ90		
Course title (and course title in English)	ポストコロナ社会のイノベーション：展望と自由提言 The Post-COVID-19 Era: Innovation in Life and Technology	Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Professor, IMANAKA YUUCIHI
Target year	Professional degree students	Number of credits	2
Year/semesters	2023/Year-round		
Days and periods	Fri.5	Class style	Lecture
Language of instruction	Japanese		
<b>[Overview and purpose of the course]</b>			
This year is lecture in Japanese. Please refer to the Japanese schedule.			
<b>[Course objectives]</b>			
ポストコロナ時代の社会を多側面から具体的に考えることが出来るようになる。			
<b>[Course schedule and contents]</b>			
第1回	6月17日	オリエンテーション/ビッグデータからみるCOVID-19と保健医療リフォーム (医学研究科 社会健康医学系専攻 医療経済学 教授 今中 雄一)	
第2回	6月24日	新型コロナウイルス感染症の疫学と見通しの科学 (医学研究科 社会健康医学系専攻 環境衛生学 教授 西浦 博)	
第3回	7月1日	パンデミックや災害に強いレジリエントな社会づくり (医学研究科 社会健康医学系専攻 社会疫学 教授 近藤 尚己)	
第4回	7月8日	ポストコロナの医療DX (医学部付属病院 医療情報学 教授 黒田 知宏)	
第5回	7月15日	ポストコロナの地球循環型社会～京都の里山より～ (地球環境学 環境教育論 准教授 浅利美鈴)	
第6回	7月22日	科学とリスクコミュニケーション:福島第一原発事故、COVID-19感染症を教訓に (環境安全保健機構放射線管理部門 助教 角山 雄一)	
第7回	7月29日	ポストコロナの社会経済：行動経済学の展開 (経済学部・経済学研究科 依田 高典)	
第8回	10月14日	COVID-19臨床現場からの医療・社会への提言 (医学部付属病院 感染制御部 教授 長尾 美紀)	
第9回	10月21日	脱炭素時代のDXと経済 (経済学研究科 教授 諸宮 徹)	
第10回	10月28日	ポストコロナ社会の都市計画・地域計画・まちづくり (法学部・法学研究科 非常勤講師/国土交通省総合政策局社会資本経済分析特別研究官 香澤 隆司)	
第11回	11月4日	prePrint時代における機械学習・AIの活用と意思決定 (情報学研究科 知能情報学専攻 教授 鹿島久嗣)	
第12回	11月11日	ELSI: 生命倫理・医療倫理、生命倫理学の視点からのQOL評価 (文学研究科倫理学研究室 准教授 児玉 聡)	
第13回	11月18日	ポストコロナ社会における日本の財政と産業の変革 (経済研究所 准教授 谷 直起)	
Continue to ポストコロナ社会のイノベーション：展望と自由提言 (2) ↓ ↓ ↓			

ポストコロナ社会のイノベーション：展望と自由提言 (2)	
第14回 12月2日 ポストコロナの幸福と社会文化 (人と社会の未来研究院 社会心理学・文化心理学 教授) 内田由紀子)	
第15回 12月9日 ポストコロナ時代の持続可能な福祉社会 (人と社会の未来研究院 公共政策・科学哲学 教授 広井良典)	
第16回 12月16日 まとめ: ポストコロナの社会の展開 (複数教員)	
* 予定は変更となることがあります。初回に予定を説明します。	
<b>[Course requirements]</b>	
None	
<b>[Evaluation methods and policy]</b>	
1. Report (50%) 2. Classroom participation (50%)	
<b>[Textbooks]</b>	
Not used	
<b>[References, etc.]</b>	
(Reference books)	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
特になし	
<b>[Other information (office hours, etc.)]</b>	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course number	P-PUB01 8H167 LB90		
Course title (and course title in English)	QOL・PRO評価法 QOL/PRO assessment	Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Professor, YAMAMOTO YOUSUKE Graduate School of Medicine Associate Professor, OGAWA YUSUKE Graduate School of Medicine Assistant Professor, YAMADA YOSHIE
Target year	Professional degree students	Number of credits	1
Year/semesters	2023/Second semester		
Days and periods	Mon.3	Class style	Lecture
Language of instruction	Japanese and English		
<b>[Overview and purpose of the course]</b>			
Learn how to evaluate QOL (Quality of Life) and PRO (Patient Reported Outcomes), which are essential for clinical research. Understanding the interpretation of results and utilization of existing evaluation methods, students will also learn the basic skills of developing new scales and experience part of the process.			
<b>[Course objectives]</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>Understand QOL/PRO and the evaluation methods.</li> <li>#8226 Be able to interpret the measured results correctly.</li> <li>Know the basic skills required for the development of new measurement scales.</li> </ul>			
<b>[Course schedule and contents]</b>			
※ Depending on the situation, this class may be offered online.			
10/16 1st: Introduction: QOL and PRO			
10/23 2nd: Comprehensive scale			
10/30 3rd: Disease-Specific Scale/Symptom Scale			
11/6 4th: Scale to estimate health preference			
11/13 5th: Interpretation of the results			
11/20 6th: Basic skills required for measurement scale development			
11/27 7th: Developing new scales, practice 1			
12/4 8th: Developing new scales, practice 2 (presentation)			
<b>[Course requirements]</b>			
None			
<b>[Evaluation methods and policy]</b>			
Attendance 50%, Presentation 50%			
Continue to QOL・PRO評価法(2) ↓ ↓ ↓			

<b>QOL・PRO評価法(2)</b>	
<b>[Textbooks]</b>	
Instructed during class	
<b>[References, etc.]</b>	
(Reference books)	
Introduced during class	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
Preparation is not needed, but you should review it after class.	
<b>[Other information (office hours, etc.)]</b>	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

<b>Course number</b>		P-PUB01 8H169 LB90			
<b>Course title (and course title in English)</b>	公衆衛生の緊急事態におけるリスクコミュニケーション Risk Communication for Public Health Emergencies		<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Professor, NAKAYAMA TAKEO Part-time Lecturer, EBINA RYOKO	
<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>	1	<b>Year/semesters</b>	2023/Intensive, year-round
<b>Days and periods</b>	Intensive	<b>Class style</b>	Lecture	<b>Language of instruction</b>	Japanese and English
<b>[Overview and purpose of the course]</b>					
<p>This course aims to deepen understandings of risk communication for public health emergencies and implement it appropriately. This is an intensive day course in the first and second semester each.</p> <p>In the first semester, students will learn about the basic concepts and theories of risk communication in emergency situations. It includes risk perception and outrage, effective risk communication strategies (e.g. developing strategic risk communication plan) and emergency response systems.</p> <p>In the second semester, the basic knowledge of risk communication will be applied to the typical issues occurring under emergencies. It includes how to explain risk and present uncertainty when the people's abilities of processing information are reduced in crisis, how to lead people to rational decision making, how to communicate with vulnerable population, how to cooperate with mass media, how to address social stigma and misinformation.</p> <p>Throughout this course, lectures and exercises will be provided by the course director and part-time lecturer. Teaching and learning methods: lectures and exercises</p>					
<b>[Course objectives]</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>Understand the various types of risk communication required to health professionals and risk managers in public health emergencies.</li> <li>Develop risk communication capacities including strategic risk communication planning, needs assessment, implementation, and evaluation.</li> <li>Increase two-way communication skills that fit to the needs of people at risk after understanding of their risk perceptions, outrage, health literacy and so on.</li> <li>Understand the effective methods of risk communication in crisis control measures and develop capacities.</li> <li>Understand how to address social stigma and mis/dis-information.</li> <li>Understand how to prepare for a next emergency.</li> </ul>					
<b>[Course schedule and contents]</b>					
Day 1 (September 12, 4 Sessions)					
1. Risk communication in emergency situations					
2. Risk perception and outrage					
3. Risk communication strategies and emergency response systems for building trust					
4. Strategic risk communication plan					
Day 2 (Not yet adjusted, 4 sessions)					
5. Explaining risk, presenting uncertainty, and leading to rational decision making					
6. Cooperating with mass media and address social stigma					
7. Communicating with vulnerable populations at risk					
8. Addressing mis/dis-information					
Continue to 公衆衛生の緊急事態におけるリスクコミュニケーション(2) ↓ ↓ ↓					

<b>公衆衛生の緊急事態におけるリスクコミュニケーション(2)</b>	
<b>[Course requirements]</b>	
None	
<b>[Evaluation methods and policy]</b>	
In-class exercises 70%, essay (at the end of the course) 30%.	
<b>[Textbooks]</b>	
<p>Ryoko Ebina 『Risk Communication for Public Health Emergencies: What Community Health Professionals Need to Know』 (Igaku-Shoin) (to be purchased by students (2,860 yen). The textbook will be used mainly. The handouts will be provided for exercises.)</p>	
<b>[References, etc.]</b>	
<b>(Reference books)</b>	
<p>Ryoko Ebina 『Crisis and Emergency Risk Communication (CERC): Principles and Strategies to Protect People's Lives and Health under a Crisis Situation』 (Taishukan Publishing)</p>	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
Think about how you can apply what you've learnt in this course to improve the current situation through daily news and conversations with your colleagues working in the field of healthcare and welfare settings.	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

<b>Course number</b>		P-PUB01 8H170 LB90			
<b>Course title (and course title in English)</b>	健康危機管理 Healthcare crisis management		<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Professor, IMANAKA YUUCIHI	
<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>	1	<b>Year/semesters</b>	2023/Year-round
<b>Days and periods</b>	木 6	<b>Class style</b>	Lecture	<b>Language of instruction</b>	Japanese and English
<b>[Overview and purpose of the course]</b>					
<p>新興感染症の流行、大規模災害、紛争・生物テロ、飲料水・食中毒・医薬品等による健康危機から人々の健康と命を守るための社会のしくみと実践は、益々重要となっている。関連する制度・政策・組織・連携・体制・分析・評価・計画・対策、実践などの各側面を、日常の地域のレジリエンスとともに、強化していく必要がある。</p> <p>以上を含め、各視点から、健康危機管理を我が国の第一人者より学ぶ。</p>					
<b>[Course objectives]</b>					
健康危機管理のしくみを理解し説明できるようになる。					
<b>[Course schedule and contents]</b>					
7月6日より開始し12月21日までの間で以下の候補日から全8講義行います。					
候補日：7月6日、7月20日、7月27日、9月7日、9月21日、10月5日、10月19日、11月16日、11月30日、12月7日、12月21日					
<p>第1回 オリエンテーション/健康危機管理の制度と実践：アカデミアの視点から (医学研究科 社会健康医学系専攻 医療経済学 教授 今中 雄一)</p> <p>第2回 健康危機管理の制度と実践：国の行政・政策の視点から (厚生労働省 生活衛生・食品安全審議官 佐々木 昌弘)</p> <p>第3回 健康危機管理の制度と実践：保健所の視点から (全国保健所長会 副会長/枚方保健所 保健所長 白井 千香)</p> <p>第4回 健康危機管理の制度と実践：自治体行政の視点から (京都府 健康福祉部長 長谷川 学)</p> <p>第5回 健康危機管理の制度と実践：感染症危機管理の視点から (国立感染症研究所 感染症危機管理研究センター長 齋藤 智也)</p> <p>第6回 健康危機管理の制度と実践：災害医療の視点から (国立病院機構本部 DMAT事務次長 近藤 久樹)</p> <p>第7回 健康危機管理の制度と実践：国の政策・研究の視点から (国立保健医療科学院 健康危機管理研究部 部長 富尾 淳)</p> <p>第8回 健康危機管理の制度と実践：アカデミアと実践の視点から (医学研究科 社会健康医学系専攻 環境衛生学 教授 西浦 博)</p>					
※上記の順番と題名は暫定的なものです。初回に予定を説明します。					
Continue to 健康危機管理(2) ↓ ↓ ↓					

<b>健康危機管理(2)</b>	
<b>[Course requirements]</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>80%以上の出席を必須とします。</li> <li>積極的な議論への参加を重視します。</li> </ul>	
<b>[Evaluation methods and policy]</b>	
日々のコミットメント50%、レポート50%	
<b>[Textbooks]</b>	
Not used	
<b>[References, etc.]</b>	
<b>(Reference books)</b>	
<p>『今中雄一編 認知症にやさしい健康まちづくりガイドブック：地域共生社会に向けた15の視点(共著)』(学芸出版社；2023)</p> <p>『病院の教科書第2版』(医学書院)</p> <p>講義で紹介する</p>	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
本人次第	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
※やむを得ず相当の理由等により、対面授業をオンライン授業等へ変更する可能性があります。	
<p>問い合わせ等は、 医療経済学教室 教務 &lt;heqm-kyoumu(at)mail2.adm.kyoto-u.ac.jp&gt; へご連絡ください。</p> <p>面談等希望者は、適宜、教員にアポイントメントをとってください。</p>	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

未更新

<b>Course number</b>		P-PUB01 8H082 LB90			
<b>Course title (and course title in English)</b>	医療経営特別カリキュラム I Healthcare management Special Curriculum I		<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Professor,IMANAKA YUUIICHI Graduate School of Medicine Program-Specific Associate Professor,SASAKI NORIKO Graduate School of Medicine Associate Professor,KUNISAWA SUSUMU Graduate School of Medicine Program-Specific Senior Lecturer,SHIN JUNG-HO Graduate School of Medicine Program-Specific Assistant Professor,GOTO ETSU	
	<b>Target year</b>	Professional degree students		<b>Number of credits</b>	2
<b>Days and periods</b>	Intensive	<b>Class style</b>	Practical training	<b>Language of instructor</b>	Japanese and English
<b>[Overview and purpose of the course]</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>This course is for healthcare management major.</li> <li>It is based on action learning in relation to the real world practice.</li> <li>Topics will include: <ul style="list-style-type: none"> <li>Leadership at different levels</li> <li>Financial Management, Financial Planning</li> <li>Accounting and Costing</li> <li>Organizational Culture</li> <li>Patient Satisfaction and Customer Relationship</li> <li>Safety and Quality Management System</li> <li>Risk Management System</li> <li>Policy and External Environment Analysis</li> <li>Marketing in Health Care</li> <li>Information Technology and Data Analysis/Utilization</li> <li>Starting up a New Function, Project Finance</li> <li>Facility Management</li> <li>Networking, Merge and Acquisition</li> <li>Strategic Planning</li> <li>Implementation of Change</li> <li>Strategic Management</li> </ul> </li> </ul>					
<b>[Course objectives]</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>Explain key issues in healthcare management, including theories/frameworks and internal and external environment</li> <li>Making outputs through teamwork</li> <li>Making outputs through individual work</li> <li>Constructively discuss current issues, and propose their potential resolutions</li> <li>Critically and systematically appraise healthcare management issues</li> <li>Apply the above knowledge and skills for your own planning and action in healthcare management</li> </ul>					
Continue to 医療経営特別カリキュラム I(2) ↓ ↓ ↓					

<b>医療経営特別カリキュラム I(2)</b>	
<b>[Course schedule and contents]</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>Based on the real world practice, data and people</li> <li>Information Collection and Analysis, Quantitative Data Analysis, Planning</li> <li>Interviews, Presentations, Making reports, Discussion</li> </ul>	
<b>[Course requirements]</b>	
This is specifically designed and required for Healthcare Management Young Leaders Course.	
<b>[Evaluation methods and policy]</b>	
Program participation and performance	
<b>[Textbooks]</b>	
Reading materials will be distributed as needed.	
<b>[References, etc.]</b>	
(Reference books)	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
Good preparation and review are necessary.	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

未更新

<b>Course number</b>		P-PUB01 8H083 LB90			
<b>Course title (and course title in English)</b>	医療経営特別カリキュラム II Healthcare management Special Curriculum II		<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Professor,IMANAKA YUUIICHI Graduate School of Medicine Program-Specific Associate Professor,SASAKI NORIKO Graduate School of Medicine Associate Professor,KUNISAWA SUSUMU Graduate School of Medicine Program-Specific Senior Lecturer,SHIN JUNG-HO Graduate School of Medicine Program-Specific Assistant Professor,GOTO ETSU	
	<b>Target year</b>	Professional degree students		<b>Number of credits</b>	2
<b>Days and periods</b>	Intensive	<b>Class style</b>	Practical training	<b>Language of instructor</b>	Japanese and English
<b>[Overview and purpose of the course]</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>This course is for healthcare management major.</li> <li>It is based on action learning in relation to the real world practice.</li> <li>Topics will include: <ul style="list-style-type: none"> <li>Leadership at different levels</li> <li>Financial Management, Financial Planning</li> <li>Accounting and Costing</li> <li>Organizational Culture</li> <li>Patient Satisfaction and Customer Relationship</li> <li>Safety and Quality Management System</li> <li>Risk Management System</li> <li>Policy and External Environment Analysis</li> <li>Marketing in Health Care</li> <li>Information Technology and Data Analysis/Utilization</li> <li>Starting up a New Function, Project Finance</li> <li>Facility Management</li> <li>Networking, Merge and Acquisition</li> <li>Strategic Planning</li> <li>Implementation of Change</li> <li>Strategic Management</li> </ul> </li> </ul>					
<b>[Course objectives]</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>Explain key issues in healthcare management, including theories/frameworks and internal and external environment</li> <li>Making outputs through teamwork</li> <li>Making outputs through individual work</li> <li>Constructively discuss current issues, and propose their potential resolutions</li> <li>Critically and systematically appraise healthcare management issues</li> <li>Apply the above knowledge and skills for your own planning and action in healthcare management</li> </ul>					
Continue to 医療経営特別カリキュラム II(2) ↓ ↓ ↓					

<b>医療経営特別カリキュラム II(2)</b>	
<b>[Course schedule and contents]</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>Based on the real world practice, data and people</li> <li>Information Collection and Analysis, Quantitative Data Analysis, Planning</li> <li>Interviews, Presentations, Making reports, Discussion</li> </ul>	
<b>[Course requirements]</b>	
This is specifically designed and required for Healthcare Management Young Leaders Course.	
<b>[Evaluation methods and policy]</b>	
Program participation and performance	
<b>[Textbooks]</b>	
Reading materials will be distributed as needed.	
<b>[References, etc.]</b>	
(Reference books)	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
Good preparation and review are necessary.	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	



未更新

Course number		P-PUB01 8H053 LB90			
Course title (and course title in English)	医療経営ケーススタディ Case Studies in Healthcare Management		Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Professor,IMANAKA YUICHI Graduate School of Medicine Program-Specific Associate Professor,SASAKI NORIKO Graduate School of Medicine Associate Professor,KUNISAWA SUSUMU Graduate School of Medicine Program-Specific Senior Lecturer,SHIN JUNG-HO Graduate School of Medicine Program-Specific Assistant Professor,GOTO ETSU	
	Target year	Professional degree students		Number of credits	2
Days and periods	Intensive	Class style	Seminar	Language of instructor	Japanese and English
<b>[Overview and purpose of the course]</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>This case study is on healthcare management.</li> <li>It is based on analysis, discussion and constructive critique on real cases originally developed.</li> <li>Topics will include: <ul style="list-style-type: none"> <li>Overview of Healthcare Management: Key Issues</li> <li>Leadership</li> <li>Finance</li> <li>Organizational Culture</li> <li>Safety and Quality Management System</li> <li>Policy and External Environment Analysis</li> <li>Marketing in Health Care</li> <li>Information Technology and Data Analysis/Utilization</li> <li>Starting up a New Function, Project Finance</li> <li>Facility Management</li> <li>Networking, Merge and Acquisition</li> <li>Strategic Planning/ Management</li> <li>Implementation of Change</li> </ul> </li> </ul>					
<b>[Course objectives]</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>Explain key issues in healthcare management, including theories/frameworks and internal and external environment</li> <li>Constructively discuss current issues, and propose their potential resolutions</li> <li>Critically and systematically appraise healthcare management issues</li> <li>Apply the above knowledge and skills for your own planning and action in healthcare management</li> </ul>					
<b>[Course schedule and contents]</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>Case Studies</li> <li>Reports</li> </ul> <p>The cases for this course are originally developed. It might use cases developed elsewhere including ones</p>					
Continue to 医療経営ケーススタディ(2) ↓ ↓ ↓					

医療経営ケーススタディ(2)	
abroad	
<b>[Course requirements]</b>	
This is specifically designed and required for Healthcare Management Young Leaders Course.	
<b>[Evaluation methods and policy]</b>	
Program participation and performance	
<b>[Textbooks]</b>	
Reading materials will be distributed as needed.	
<b>[References, etc.]</b>	
(Reference books)	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
Good preparation and review are necessary.	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
This class is not open to students from graduate school of human health science.	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

未更新

Course number		P-PUB01 8K026 LB90			
Course title (and course title in English)	臨床研究計画法 I (MCR限定) Seminar in Study Design I		Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Professor,KAWAKAMI KOJI Graduate School of Medicine Program-Specific Associate Professor,NAKAO YOKO Graduate School of Medicine Program-Specific Assistant Professor,MIZUNO KAYOKO Graduate School of Medicine Program-Specific Assistant Professor,TAKAYAMA ATSUSHI Graduate School of Medicine Professor,IMANAKA YUICHI Graduate School of Medicine Program-Specific Associate Professor,SASAKI NORIKO Graduate School of Medicine Professor,NAKAYAMA TAKEO Graduate School of Medicine Associate Professor,TAKAHASHI YOSHIMITSU Graduate School of Medicine Assistant Professor,TOYAMA MAYUMI Graduate School of Medicine Professor,FURUKAWA TOSHIAKI Graduate School of Medicine Associate Professor,TAJIKI ARAN Graduate School of Medicine Professor,IWAMI TAKU Graduate School of Medicine Program-Specific Assistant Professor,NISHIOKA NORIHIRO Graduate School of Medicine Professor,KONDO NAOKI Graduate School of Medicine Assistant Professor,INOUE KOSUKE Graduate School of Medicine Professor,YAMAMOTO YOUSUKE Graduate School of Medicine Associate Professor,OGAWA YUSUKE Graduate School of Medicine Assistant Professor,YAMADA YOSHIE	
	Target year	Professional degree students		Number of credits	1
Days and periods	Mon.5	Class style	Lecture	Language of instructor	Japanese and English
<b>[Overview and purpose of the course]</b>					
This course will discuss study designs and protocols in clinical epidemiology based on student's clinical questions.					
Continue to 臨床研究計画法 I (MCR限定)(2) ↓ ↓ ↓					

臨床研究計画法 I (MCR限定)(2)	
<b>[Course objectives]</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>To be able to convert clinical questions to structured research question</li> <li>To be able to build study protocol from research question</li> <li>To be able to communicate study plan effectively with peers</li> </ul>	
<b>[Course schedule and contents]</b>	
* Online lecture / Discussion *	
① April 12 Guidance	
② April 19 Discussion	
③ May 10 Discussion	
④ May 17 Discussion	
⑤ May 24 Discussion	
⑥ May 31 Discussion	
⑦ June 7 Discussion	
⑧ June 14 Discussion	
⑨ June 21 Discussion	
⑩ June 28 Discussion	
⑪ July 5 Discussion	
⑫ July 12 Discussion	
⑬ July 19 Discussion	
⑭ July 26 Discussion	
⑮ August 2 Discussion	
<b>[Course requirements]</b>	
Class for MCR restricted	
<b>[Evaluation methods and policy]</b>	
Course assignment (30%) Presentation (70%)	
<b>[Textbooks]</b>	
Not used	
<b>[References, etc.]</b>	
(Reference books)	
Introduced during class	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
Methods of Instruction	
<ul style="list-style-type: none"> <li>Didactic lectures</li> </ul>	
Continue to 臨床研究計画法 I (MCR限定)(3) ↓ ↓ ↓	

<b>臨床研究計画法 I (MCR限定)(3)</b>	
Student's presentation and discussion	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
There are no pre-requisites for this course.	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

<b>Course number</b>		P-PUB01 8K028 SB90	
<b>Course title (and course title in English)</b>	臨床研究計画法演習 I (MCR限定) Special Seminar in Study Design I	<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Professor,YAMAMOTO YOUSUKE Graduate School of Medicine Associate Professor,OGAWA YUSUKE Graduate School of Medicine Program-Specific Associate Professor,SASAKI NORIKO Graduate School of Medicine Associate Professor,TAKAHASHI YOSHIMITSU Graduate School of Medicine Associate Professor,TAJIKI ARAN Graduate School of Medicine Program-Specific Associate Professor,NAKAO YOKO Graduate School of Medicine Assistant Professor,INOUE KOSUKE Graduate School of Medicine Program-Specific Assistant Professor,TAKAYAMA ATSUSHI Graduate School of Medicine Assistant Professor,TOYAMA MAYUMI Graduate School of Medicine Program-Specific Assistant Professor,NISHIOKA NORIHIRO Graduate School of Medicine Program-Specific Assistant Professor,MIZUNO KAYOKO Graduate School of Medicine Assistant Professor,YAMADA YOSHIE
<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>	1
<b>Year/semesters</b>	2023/First semester		
<b>Days and periods</b>	Thu.4	<b>Class style</b>	Seminar
<b>Language of instruction</b>	Japanese and English		
<b>[Overview and purpose of the course]</b>			
(本講義の通称：プレプロマネI) ◆プロトコル発表検討会 ・MCR専科生および受講生全員が、毎回参加することを原則とする。 ・個々の院生が、自身のリサーチ・クエスチョン (RQ) にもとづいた研究計画を発表し、院生相互の意見交換を通じて質の高い研究プロトコルを作成にむけて学習する。 ・院生はRQの背景や意義の説明を中心に発表する。			
<b>[Course objectives]</b>			
・研究の目的に適合した臨床研究プロトコルを指導者からの助言を得て作成できる。 ・研究の目的に適合した研究のマネジメントの具体的方略を指導者からの助言を得て考案できる。 ・研究の方法や場に応じた研究運営上の留意点を指導者からの助言を得て認識できる。			
<b>[Course schedule and contents]</b>			
※ 状況によりオンラインで提供する場合があります。 第1回 4月13日オリエンテーション/プロトコル発表検討会			
Continue to 臨床研究計画法演習 I (MCR限定)(2) ↓ ↓ ↓			

<b>臨床研究計画法演習 I (MCR限定)(2)</b>	
第2回 4月17日プロトコル発表検討会 ※開講日注意 第2回 4月20日プロトコル発表検討会 第3回 4月27日プロトコル発表検討会 第4回 5月11日プロトコル発表検討会 第5回 5月18日プロトコル発表検討会 第6回 5月25日プロトコル発表検討会 第7回 6月1日プロトコル発表検討会 第8回 6月8日プロトコル発表検討会 第9回 6月15日プロトコル発表検討会 第10回 6月22日プロトコル発表検討会 第11回 6月29日プロトコル発表検討会 第12回 7月6日プロトコル発表検討会 第13回 7月13日予備日 第14回 7月21日予備日	
<b>[Course requirements]</b>	
MCR限定必修科目	
<b>[Evaluation methods and policy]</b>	
・講義への積極的な参加 (100%)	
<b>[Textbooks]</b>	
Not used オリエンテーション時、および演習時に必要文献を適宜指示する。	
<b>[References, etc.]</b>	
<b>(Reference books)</b>	
Introduced during class	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
教育・学習方法 ・課題作業 (プロトコル作成を含む) ・学生によるプロトコル発表・出席者全員による検討。	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
人間健康科学専攻学生の受講可否： 不可 *Please visit KULASIS to find out about office hours.	

未更新

<b>Course number</b>		P-PUB01 8K030 LB90	
<b>Course title (and course title in English)</b>	医療技術の経済評価 (MCR限定) Economic Evaluation of Medical Technologies	<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Professor,IMANAKA YUUIICHI Graduate School of Medicine Program-Specific Associate Professor,SASAKI NORIKO Graduate School of Medicine Associate Professor,KUNISAWA SUSUMU Graduate School of Medicine Program-Specific Senior Lecturer,SHIN JUNG-HO Graduate School of Medicine Program-Specific Assistant Professor,GOTO ETSU
<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>	1
<b>Year/semesters</b>	2023/The first half of first semester		
<b>Days and periods</b>	Wed.3	<b>Class style</b>	Lecture
<b>Language of instruction</b>	Japanese and English		
<b>[Overview and purpose of the course]</b>			
・ Lectures will address the theories and frameworks that support economic evaluations in health care, and students will learn the major research methods used in evaluating healthcare-related economic performance. ・ Economic evaluations of healthcare and medical technologies are usually conducted under practical constraints, and students will learn the approaches to conducting research under these conditions. ・ This course will examine economic evaluations in a wide range of healthcare-related topics.			
<b>[Course objectives]</b>			
・ Students will be able to explain key issues in the theories, frameworks, and research methods that support economic evaluations of medical technologies including medication. ・ Students will understand the possible biases associated with research involving economic evaluations of medical technologies including medication. ・ Economic evaluations are conducted on various aspects of health care, including treatment techniques, pharmaceuticals, medical supplies, medical examinations, and health policy programs. Students will understand and be able to explain the differences and respective applications of the main research methods used in these evaluations, including cost analyses, cost-effectiveness analyses, cost-utility analyses, and cost-benefit analyses. Students will also learn the core concepts of cost calculations and outcome measurements, time-based concepts, discount rates, sensitivity analyses, incremental cost-effectiveness ratios, and the appropriate interpretation of analytical results. ・ Based on the above, students will be able to conduct critical reviews of research articles in this field and explain their significance. Students will also be able to apply their acquired knowledge and techniques when developing research protocols and conducting research.			
<b>[Course schedule and contents]</b>			
1. April 13 Evaluating the economic performance of health care 1 2. April 20 Evaluating the economic performance of health care 2 3. April 27 Economic evaluation methods in health care 4. May 11 Modeling in economic evaluations 5. May 18 Methodologies in cost-effectiveness and cost-utility analyses 1 6. May 25 Methodologies in cost-effectiveness and cost-utility analyses 2			
Continue to 医療技術の経済評価 (MCR限定) (2) ↓ ↓ ↓			

医療技術の経済評価 (MCR限定) (2)	
7. Jun 01 Economic evaluation in health care: Journal article review and discussion 1 8. Jun 08 Economic evaluation in health care: Journal article review and discussion 2 Note: This schedule is subject to change. Overview of the schedule will be shown at the first day.	
[Course requirements]	
This course is only open to students involved in MCR course. Attendance rate 80% or more.	
[Evaluation methods and policy]	
1. Report (60%) 2. Classroom participation (40%)	
[Textbooks]	
Reading materials will be distributed as needed	
[References, etc.]	
(Reference books)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>• Drummond MF, et al. Methods for the Economic Evaluation of Health Care Programmes, 4th Ed. Oxford, 2015.</li> <li>• Myriam Hunink. Decision Making in Health and Medicine: Integrating Evidence and Values. Cambridge, 2001.</li> <li>• 医療制度・医療政策・医療経済 (丸善出版,2013)</li> <li>• Handbook of Health Services Research (Springer Science+Business Media)</li> <li>• 「NEW予防医学・公衆衛生学 改訂第4版」(編集:小泉昭夫/馬場園明/今中雄一/武林亨) 南江堂, 2018.</li> </ul>	
[Study outside of class (preparation and review)]	
Both good preparation and review are needed.	
(Other information (office hours, etc.))	
<ul style="list-style-type: none"> <li>• Places available for students without former experiences of studying economics.</li> <li>• Our department has been accepting graduate students who are interested in research related to health care policies, health care management, and health care quality/safety/cost. (<a href="http://med-econ.umin.ac.jp/int/">http://med-econ.umin.ac.jp/int/</a>)</li> </ul> <p>Note: Topics related to process and outcome measures, clinical practice variation, healthcare evaluations and assessments, hospital functional assessments, and healthcare quality &amp; safety are included in the course "Evaluation of Quality in Health Care" (Wed.3, the last half of first semester). If you would like to learn about these topics, consider to apply for this course.</p> <p>*Please visit KULASIS to find out about office hours.</p>	

Course number		P-PUB01 8K027 LB90	
Course title (and course title in English)	臨床研究計画法 I I (MCR限定) Seminar in Study Design II		Instructor's name, job title, and department of affiliation
	Graduate School of Medicine Professor,KAWAKAMI, KOJI Graduate School of Medicine Program-Specific Associate Professor,NAKAO YOKO Graduate School of Medicine Program-Specific Assistant Professor,MIZUNO KAYOKO Graduate School of Medicine Program-Specific Assistant Professor,TAKAYAMA ATSUSHI Graduate School of Medicine Professor,IMANAKA YUUICHI Graduate School of Medicine Program-Specific Associate Professor,SASAKI NORIKO Graduate School of Medicine Professor,NAKAYAMA TAKEO Graduate School of Medicine Associate Professor,TAKAHASHI YOSHIMITSU Graduate School of Medicine Assistant Professor,TOYAMA MAYUMI Graduate School of Medicine Professor,FURUKAWA TOSHIAKI Graduate School of Medicine Associate Professor,TAJIKI ARAN Graduate School of Medicine Professor,IWAMI TAKU Graduate School of Medicine Program-Specific Assistant Professor,NISHIOKA NORIHIRO Graduate School of Medicine Professor,KONDO NAOKI Graduate School of Medicine Assistant Professor,INOUE KOSUKE Graduate School of Medicine Professor,YAMAMOTO YOUSUKE Graduate School of Medicine Associate Professor,OGAWA YUSUKE Graduate School of Medicine Assistant Professor,YAMADA YOSHIE		
Target year	Professional degree students	Number of credits	1
Year/semesters	2023/Second semester		
Days and periods	Mon.5	Class style	Lecture
Language of instructor	Japanese and English		
[Overview and purpose of the course]			
This course will discuss study designs and protocols in clinical epidemiology based on student's clinical questions.			
Continue to 臨床研究計画法 I I (MCR限定)(2) ↓ ↓ ↓			

臨床研究計画法 I I (MCR限定)(2)			
[Course objectives]			
<ul style="list-style-type: none"> <li>• To be able to convert clinical questions to structured research question</li> <li>• To be able to build study protocol from research question</li> <li>• To be able to communicate study plan effectively with peers</li> </ul>			
[Course schedule and contents]			
① October 11 Discussion ② October 18 Discussion ③ October 25 Discussion ④ November 8 Discussion ⑤ November 15 Discussion ⑥ November 22 Discussion ⑦ November 29 Discussion ⑧ December 6 Discussion ⑨ December 13 Discussion ⑩ December 20 Discussion ⑪ December 27 Discussion ⑫ January 17 Discussion ⑬ January 24 Discussion ⑭ January 31 Discussion			
[Course requirements]			
Class for MCR restricted			
[Evaluation methods and policy]			
Course assignment (30%) Presentation (70%)			
[Textbooks]			
Not used			
[References, etc.]			
(Reference books)			
Introduced during class			
[Study outside of class (preparation and review)]			
Methods of Instruction <ul style="list-style-type: none"> <li>• Didactic lectures</li> <li>• Student's presentation and discussion</li> </ul>			
Continue to 臨床研究計画法 I I (MCR限定)(3) ↓ ↓ ↓			

臨床研究計画法 I I (MCR限定)(3)	
(Other information (office hours, etc.))	
There are no pre-requisites for this course.	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course number	P-PUB01 8K029 SB90		
Course title (and course title in English)	臨床研究計画法演習 I I (MCR限定) Special Seminar in Study Design II	Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Professor, YAMAMOTO YOUSUKE Graduate School of Medicine Associate Professor, OGAWA YUSUKE Graduate School of Medicine Program-Specific Associate Professor, SASAKI NORIKO Graduate School of Medicine Associate Professor, TAKAHASHI YOSHIMITSU Graduate School of Medicine Associate Professor, TAJIKA ARAN Graduate School of Medicine Program-Specific Associate Professor, NAKAO YOKO Graduate School of Medicine Assistant Professor, INOUE KOSUKE Graduate School of Medicine Program-Specific Assistant Professor, TAKAYAMA ATSUSHI Graduate School of Medicine Assistant Professor, TOYAMA MAYUMI Graduate School of Medicine Program-Specific Assistant Professor, NISHIOKA NORIHIRO Graduate School of Medicine Program-Specific Assistant Professor, MIZUNO KAYOKO Graduate School of Medicine Assistant Professor, YAMADA YOSHIE
Target year	Professional degree students	Number of credits	1
Year/semesters	2023/Second semester		
Days and periods	Mon.4	Class style	Seminar
Language of instructor	Japanese and English		
<b>[Overview and purpose of the course]</b>			
<p>(本講義の通称：プレプロマネII)</p> <p>◆プロトコル発表検討会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・MCR専科生および受講生全員が、毎回参加することを原則とする。</li> <li>・個々の院生が、自身のリサーチ・クエスチョン (RQ) にもとづいた研究計画を発表し、院生相互の意見交換を通じて質の高い研究プロトコルを作成にむけて学習する。</li> <li>・院生は、研究実施に際しての問題点を明らかにする。結果が出ている場合は結果の解釈を明らかにする。</li> </ul>			
<b>[Course objectives]</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究の目的に適合した臨床研究プロトコルを作成できる。</li> <li>・研究の目的に適合した研究のマネジメントの具体的な方略を考案できる。</li> <li>・研究の方法や場に応じた研究運営上の留意点を認識できる。</li> </ul>			
<b>[Course schedule and contents]</b>			
※ 状況によりオンラインで提供する場合があります。			
Continue to 臨床研究計画法演習 II (MCR限定)(2) ↓ ↓ ↓			

<b>臨床研究計画法演習 II (MCR限定)(2)</b>	
第1回 9月25日 プロトコル発表検討会 第2回 10月2日 プロトコル発表検討会 第3回 10月16日 プロトコル発表検討会 第4回 10月23日 プロトコル発表検討会 第5回 11月6日 プロトコル発表検討会 第6回 11月13日 プロトコル発表検討会 第7回 11月20日 プロトコル発表検討会 第8回 11月27日 プロトコル発表検討会 第9回 12月4日 プロトコル発表検討会 第10回 12月11日 プロトコル発表検討会 第11回 12月18日 プロトコル発表検討会 第12回 12月25日 プロトコル発表検討会	
<b>[Course requirements]</b>	
MCR限定選択科目	
<b>[Evaluation methods and policy]</b>	
・講義への積極的な参加 (100%)	
<b>[Textbooks]</b>	
Not used 臨床研究計画法演習Iのオリエンテーション時、および、演習時に必要文献を適宜指示する。	
<b>[References, etc.]</b>	
<b>(Reference books)</b> Introduced during class	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
教育・学習方法 ・課題作業 (プロトコル作成を含む) ・学生によるプロトコル発表・出席者全員による検討。	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
人間健康科学系専攻学生の受講可否： 不可	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course number	P-PUB01 8K020 LB90		
Course title (and course title in English)	EBM・診療ガイドライン特論 (MCR限定) Special Lectures on EBM and clinical practice guidelines	Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Professor, NAKAYAMA TAKEO Osaka District Court Judge NISHIOKA SHIGEYASU Shizuoka Graduate University of Public Health (Shizuoka SPH) Associate Professor FUJIMOTO SHUHEI St. Luke's International University Graduate School Associate Professor MASUZAWA YUKO
Target year	Professional degree students	Number of credits	1
Year/semesters	2023/Intensive, Second semester		
Days and periods	Friday:3	Class style	special lecture
Language of instructor	Japanese and English		
<b>[Overview and purpose of the course]</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ This course focuses on evidence-based medicine (EBM) and clinical practice guidelines.</li> <li>・ This course will provide exercise to assess and develop clinical practice guidelines.</li> <li>・ This course will give opportunity to consider communication issues between clinicians and patient/family, legal issues and resource allocation.</li> </ul> <p>Didactic lectures and group work</p>			
<b>[Course objectives]</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Explain the relationship between EBM and clinical practice guidelines</li> <li>・ Understand the basic concepts of development and assessment of evidence-based clinical practice guidelines</li> <li>・ Explain possibilities and subjects of clinical practice guidelines from the social viewpoints.</li> </ul>			
<b>[Course schedule and contents]</b>			
1 October 6 EBM and Clinical Practice Guidelines (CPGs) 2 October 13 Assessment of CPGs 3 October 20 Development of CPGs 4 October 27 From CPGs to Quality Indicators 5 November 10 Legal Issues on CPGs 6 November 24 From CPGs to Shared Decision-Makings 7 December 1 CPGs and Patients' View 8 December 8 Wrap-up Discussion (*This schedule is subject to change) The class will be scheduled to avoid overlapping "Health informaticsII" .			
<b>[Course requirements]</b>			
The class is limited to MCR students.			
Continue to EBM・診療ガイドライン特論 (MCR限定) (2) ↓ ↓ ↓			

<b>EBM・診療ガイドライン特論 (MCR限定) (2)</b>	
<b>[Evaluation methods and policy]</b>	
Short report for each lecture (100%)	
<b>[Textbooks]</b>	
The material necessary for the lecture will be provided by lecturers.	
<b>[References, etc.]</b>	
<b>(Reference books)</b> Nakayama T & Tsutani K 『Rinsho kenkyu to ekigaku kenkyu no tameno kokusai rurushu』 (raihu saiensu shuppan)	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
Rather than spending more time on your preparation, please put more energy into the review.	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
Students who learn this course are expected to be not only good users of clinical practice guidelines but also good developers of clinical practice guideline.	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

<b>Course number</b>	P-PUB01 8K025 LJ90		
<b>Course title (and course title in English)</b>	臨床研究データ管理学 (MCR・CB限定) Data management for Clinical Research	<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Program-Specific Professor,TANAKA SACHIKO
<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>	1
<b>Year/semesters</b>	2023/The first half of second semester		
<b>Days and periods</b>	Thu.5	<b>Class style</b>	Lecture
<b>Language of instructor</b>	Japanese and English		
<b>[Overview and purpose of the course]</b>			
This course consists of lectures and exercises on methodology of data management for clinical research. Exercises will include determination of data items, designing case report forms, preparation of datasets for statistical analysis, data entry and data check, and handling of outputs from statistical analysis. MCR restricted and elective.			
<b>[Course objectives]</b>			
To understand methodology of data management for clinical researches through lectures and exercises.			
<b>[Course schedule and contents]</b>			
October 5 Overview (Tanaka) [Simultaneous bidirectional media class] October 12 Determination of Data Items (Tanaka) October 19 Designing Case Report Form (Tanaka) October 26 Designing Case Report Form (Tanaka) [Simultaneous bidirectional media class] November 2 Data Entry and Data Check (Tanaka) November 9 Preparation of Datasets for Statistical Analysis (Tanaka) November 16 Handling of Output from Statistical Analysis (Tanaka)			
<b>[Course requirements]</b>			
None			
<b>[Evaluation methods and policy]</b>			
Attendance 50%, Report 50%			
<b>[Textbooks]</b>			
Not used			
<b>[References, etc.]</b>			
(Reference books)			
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>			
Please review what you learned before handling data in your research.			
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>			
Laptop PC with Excel is required in the exercise. Contact the director if not available. This course is not open to students in School of Human Health Science.			
*Please visit KULASIS to find out about office hours.			

<b>Course number</b>	P-PUB01 8K034 LB90		
<b>Course title (and course title in English)</b>	臨床研究特論 (MCR限定) Clinical research advanced	<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Professor.IWAMI TAKU Graduate School of Medicine Program-Specific Assistant Professor,NISHIOKA NORIHIRO
<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>	2
<b>Year/semesters</b>	2023/Second semester		
<b>Days and periods</b>	月6	<b>Class style</b>	
<b>Language of instructor</b>	Japanese and English		
<b>[Overview and purpose of the course]</b>			
・研究の立案から体制の構築、研究費の獲得、論文投稿、成果の社会還元まで、一連のプロセスを学ぶ。 ・スモールグループに分かれて、研究計画の作成、研究費申請の実際を体験する。 ・臨床研究計画法I・IIで履修した研究方法について掘り下げる。 ・学生から質問を提示し、教員と参加学生で検討する。 ・教員から研究方法上の問題点を提示し、学生が検討する。			
<b>[Course objectives]</b>			
・臨床疑問の解決に向け、適切な研究方法を選択する過程、その具体化、実践と結果の活用などについて具体的な研究事例に照らして深く理解する。 ・仮説形成、研究計画立案のプロセスを理解し、自身の研究計画に反映できるようになる。 ・研究費の獲得方法の具体例を知り、自身の研究推進に生かす。 ・論文作成・査読への対応の具体例を知り、自身の研究に反映する。 ・研究チームの構築、研究成果のフィードバック、社会還元の実際を知り、自身の研究活動に反映することができるようになる。			
<b>[Course schedule and contents]</b>			
・仮説形成、研究計画立案のプロセス ・研究費の獲得方法の具体例 ・査読への対応方法 ・研究チームの作り方、フィードバックの仕方 ・研究成果の社会還元			
<b>[Course requirements]</b>			
MCR限定 (選択)			
<b>[Evaluation methods and policy]</b>			
授業参加の姿勢、グループワークでの積極性、説明の明快さ			
Continue to 臨床研究特論 (MCR限定) (2) ↓ ↓ ↓			

<b>臨床研究特論 (MCR限定) (2)</b>			
<b>[Textbooks]</b>			
Not used			
<b>[References, etc.]</b>			
(Reference books) 川村 孝 『臨床研究の教科書』 (医学書院) 川村 孝 『エビデンスをつくる：陥りやすい臨床研究のピットフォール』 (医学書院)			
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>			
自らの研究に反映し、同僚の研究を支援する			
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>			
*Please visit KULASIS to find out about office hours.			

<b>Course number</b>	P-PUB01 8K036 LE90		
<b>Course title (and course title in English)</b>	系統的レビュー (MCR限定) Systematic Reviews	<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Professor.FURUKAWA TOSHIAKI Graduate School of Medicine Assistant Professor.SAHKER, ETHAN KYLE Graduate School of Medicine Assistant Professor.LUO YAN
<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>	1
<b>Year/semesters</b>	2023/Intensive, year-round		
<b>Days and periods</b>	Intensive	<b>Class style</b>	Lecture
<b>Language of instructor</b>	English		
<b>[Overview and purpose of the course]</b>			
<b>[Overall objective]</b>			
The students will learn the methodology of a systematic review and pairwise meta-analysis, and write up the (introduction and) methods section(s) of a protocol on a PICO of their own choice.			
The course will be conducted in English. The protocol to be submitted should be in English. The course is limited to MCR students but is optional. Only those MCR students who wish to write up a protocol are accepted.			
<b>[Overall structure of the course]</b>			
The students will be divided into five groups. Each group will summarize and present the allocated chapters from the Cochrane Handbook. The faculty will comment and supplement the lecture by the students. After this lecture, each student will add relevant sections and subsections according to the RevMan format for the Methods section of a systematic review protocol for interventions.			
<b>[in response to the COVID-19 pandemic]</b>			
It is very hard to predict the level of the pandemic in September as of the writing of this syllabus. Depending on the level of the pandemic and/or the readiness of the students, there remains a possibility that this course will be held online.]			
<b>[Course objectives]</b>			
<b>[Expectations for the students]</b>			
1. Each group must read, summarize and present approximately 50 pages of the Handbook. The faculty will announce the groups in July, and each group can start working on their presentation before the course takes place in September. 2. The course takes place in the morning. Each student is expected to work on his protocol in the afternoon. The group members who have a presentation the following day may also wish to brush up their presentation. 3. After the entire course is over, each student must present their completed protocol (Methods section is mandatory. Introduction section is optional) within two weeks. The faculty will then return the commented and edited protocol.			
<b>[Course schedule and contents]</b>			
<b>[Schedule]</b>			
No. Date Period Topic By:			
Continue to 系統的レビュー (MCR限定) (2) ↓ ↓ ↓			

系統的レビュー (MCR限定) (2)	
1	Fri, Aug 25 1st period (8:45-10:15) Introduction to evidence synthesis Prof Furukawa
2	Fri, Aug 25 2nd period (10:30-12:00) Presentation of proposed PICO's by students All students
3	Fri, Aug 25 3rd (13:15-14:30) Handbook Chapters 1-3 Group 1
4	Mon, Aug 28 1st period (8:45-10:15) Presentation by students on "Criteria for considering studies for this review" All students
5	Mon, Aug 28 2nd period (10:30-12:00) Handbook Chapters 4-5 Group 2
6	Tue, Aug 29 1st period (8:45-10:15) Presentation by students on "Search methods for identification of studies" and "Data collection and analysis #8211 Selection of studies, Data extraction and management" All students
7	Tue, Aug 29 2nd period (10:30-12:00) Handbook Chapters 7,8,13 Group 3
8	Wed, Aug 30 1st period (8:45-10:15) Presentation by students on "Data collection and analysis #8211 Assessment of risk of bias in included studies, Assessment of reporting bias" All students
9	Wed, Aug 30 2nd period (10:30-12:00) Handbook Chapters 6&9 Group 4 Handbook Chapters 10 Group 5
10	Thu, Aug 31 1st period (8:45-10:15) Presentation by students on "Data collection and analysis #8211 Measures of treatment effect, Unit of analysis issues, Dealing with missing data, Assessment of heterogeneity Data synthesis Subgroup analysis and investigation of heterogeneity Sensitivity analysis" All students
11	Thu, Aug 31 2nd period (10:30-12:00) Wrap up All students
[Course requirements]	
Statistics and Epidemiology courses recommended. Limited to MCR students (elective for MCR students).	
[Evaluation methods and policy]	
All evaluations will be based on the submitted protocol after the course.	
[Textbooks]	
Julian P. T. Higgins et al 『Cochrane Handbook for Systematic Reviews of Interventions, 2nd edition』 (Wiley) Essential textbook (the whole course will be based on this textbook): Julian P. T. Higgins, James Thomas, et al. (2019) Cochrane Handbook for Systematic Reviews of Interventions, 2nd edition (Wiley Cochrane Series), Wiley-Blackwell	
Continue to 系統的レビュー (MCR限定) (3) ↓ ↓ ↓	

系統的レビュー (MCR限定) (3)	
Essential software (the protocol will follow the format in this software): ReviewManager 5 <a href="https://training.cochrane.org/online-learning/core-software-cochrane-reviews/revman">https://training.cochrane.org/online-learning/core-software-cochrane-reviews/revman</a>	
[References, etc.]	
(Reference books)	
[Study outside of class (preparation and review)]	
Please be advised that much work both before and after the class will be required.	
[Other information (office hours, etc.)]	
人間健康科学系専攻学生の受講可否：不可 ※オフィスアワー実施の有無は、KULASTSで確認してください。 ※オフィスアワーの詳細については、KULASTSで確認してください。  *Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course number		P-PUB01 8K033 LJ90			
Course title (and course title in English)	データ解析法特論 (MCR限定) Special Seminar of Data Analysis		Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Professor, YAMAMOTO YOUSUKE Graduate School of Medicine Assistant Professor, YAMADA YOSHIE	
Target year	Professional degree students	Number of credits	1	Year/semesters	2023/The second half of first semester
Days and periods	月6	Class style	special lecture	Language of instruction	Japanese
[Overview and purpose of the course]					
<ul style="list-style-type: none"> <li>この講義では、統計解析ソフトウェアstataを用いて臨床研究のデータ解析を行う。</li> <li>実習の教材として用いる臨床研究データは、臨床研究の実例のデータを可能な限り用いる。</li> <li>学習の習熟度の確認のために、学習課題を課している。</li> <li>開講期間中は講習会コードを提供し、無償でstataの試用が可能である (ただし開講期間終了後も継続して使用を希望する場合には各自購入する必要があります)</li> </ul>					
[Course objectives]					
<ul style="list-style-type: none"> <li>統計解析ソフトを用いて基礎的な臨床研究データの解析ができる。</li> <li>解析ソフトの出力結果を正確に解釈することができる。</li> </ul>					
[Course schedule and contents]					
※ 状況によっては、この講義はオンラインで提供する場合があります					
第1回 5月22日統計ソフトの基本的な使い方 第2回 5月29日連続変数の検定と推定 第3回 6月5日カテゴリ変数の検定と推定 第4回 6月12日相関と回帰 第5回 6月19日重回帰分析 第6回 6月26日ロジスティック回帰分析 第7回 7月3日生存時間解析 第8回 7月10日サンプルサイズの推定・その他の解析					
[Course requirements]					
stataを用いて解析する予定のある人の履修をおすすめします。					
[Evaluation methods and policy]					
<ul style="list-style-type: none"> <li>講義への積極的な参加 (60%)</li> <li>課題に対するレポート (40%)</li> </ul>					
[Textbooks]					
Not used 基本的な学習資源は配布。					
Continue to データ解析法特論 (MCR限定) (2) ↓ ↓ ↓					

データ解析法特論 (MCR限定) (2)	
[References, etc.]	
(Reference books) 東 尚弘、中村文明、林野泰明、杉岡 隆、山本洋介 『臨床研究のためのstataマニュアル』 (健康医療評価研究機構 (iHope))	
[Study outside of class (preparation and review)]	
<ul style="list-style-type: none"> <li>予習：不要</li> <li>復習：次回講義までに当該回の復習を行うこと。課題がある場合には次回講義までにレポートを提出すること。</li> </ul>	
[Other information (office hours, etc.)]	
面談希望はまずメールでご連絡下さい。  *Please visit KULASIS to find out about office hours.	

未更新

Course number	P-PUB01 8K035 LB90		
Course title (and course title in English)	社会疫学研究法 (MCR限定) Methods in social epidemiology	Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Professor, KONDO NAOKI
Target year	Professional degree students	Number of credits	1
Year/semesters	2023/Intensive, First semester		
Days and periods	Intensive	Class style	Lecture
Language of instruction	Japanese and English		
<b>[Overview and purpose of the course]</b>			
In clinical practice, it is common to encounter patients with social issues such as poverty and isolation. By providing medical care that takes into account the social issues and residential environment of patients, we can expect to increase the effectiveness of treatment and prevention.			
In this course, students will learn the practical aspects of social epidemiology research in clinical settings, including research to evaluate disparities in patients' health, access to medical services, and treatment effectiveness due to socioeconomic status, as well as the development and evaluation of intervention methods to resolve these issues. This course will provide you with the basic knowledge and skills necessary to build evidence to prevent patients from returning to the environment that made them sick.			
<b>[Course objectives]</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>Learn how to evaluate patients' socioeconomic problems.</li> <li>Learn the key topics of social epidemiology research, which is mainly conducted in clinical practice, and how to conduct them.</li> <li>Learn the basics of causal inference using multilevel analysis, counterfactual models, Directed Acyclic Graphs, etc., which are widely used in social epidemiology.</li> </ul>			
<b>[Course schedule and contents]</b>			
The following dates are subject to change.			
<ol style="list-style-type: none"> <li>6/14 Topics of social epidemiology research in clinical settings</li> <li>6/21 Descriptive epidemiology: Distribution of health inequalities and how to evaluate the data (Yuri Ito)</li> <li>6/28 Observational study: Inferring the relationship between individual social factors and health</li> <li>7/5 Experimental and quasi-experimental research: Verifying the effects of interventions</li> <li>7/12 Causal inference in social epidemiology (Kosuke Inoue)</li> <li>7.19 Multilevel analysis in social epidemiology (Koryu Sato)</li> <li>7.26 Research on social prescribing (Daisuke Nishioka)</li> <li>8/1 Making a research plan of social epidemiology</li> </ol>			
<b>[Course requirements]</b>			
None			
Continue to 社会疫学研究法 (MCR限定)(2) ↓ ↓ ↓			

社会疫学研究法 (MCR限定)(2)
<b>[Evaluation methods and policy]</b>
Attendance 40% Report 60%
<b>[Textbooks]</b>
Instructed during class
<b>[References, etc.]</b>
(Reference books)
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>
You will make a research plan in this course. If you wish to actually proceed with the research plan you are creating, please consult with the course instructor (Kondo) for advice and support for building a research team.
<b>[Other information (office hours, etc.)]</b>
*Please visit KULASIS to find out about office hours.

未更新

Course number	P-PUB01 8N022 SJ90		
Course title (and course title in English)	基礎人類遺伝学演習 (GC限定) Fundamental Human Genetics, exercise	Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Program-Specific Professor, WADA TAKAHIRO Graduate School of Medicine Program-Specific Assistant Professor, YOSHIDA AKIKO
Target year	Professional degree students	Number of credits	1
Year/semesters	2023/Second semester		
Days and periods	Thu.5	Class style	Seminar
Language of instruction	Japanese		
<b>[Overview and purpose of the course]</b>			
[Basic information] Class date and time: 5th period on Thursdays during the second semester (there may be exceptions) Classroom: Building G, 3rd Floor, Seminar room. Online classes may be conducted depending on circumstances. Level: Advanced Staff in charge: Shinji Kosugi, Takahito Wada, Takeshi Nakajima, Takahiro Yamada, Hideaki Sawai (Hyogo College of Medicine), Hidenori Kawasaki			
[Course overview] The purpose of this course is to provide the students with a concrete understanding of the analysis of genes and chromosomes, one of the fundamental abilities of genetic counselors, through practical experience. The students will engage in the exercises of family tree creation and estimation of the mode(s) of inheritance and genetic risk, and will learn about clinical image diagnosis and medical follow-up practices.			
<b>[Course objectives]</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>Capable of creating a family tree, estimating the mode(s) of inheritance, and calculating the recurrence probability accurately</li> <li>Understand genetic testing methods and be able to explain them accurately</li> </ul>			
<b>[Course schedule and contents]</b>			
[1st lecture] 6/29 Wednesday 6th period [Sawai] "Bone System Diseases and X-Ray/Ultrasound Test" : This lecture outlines bone system diseases (which are common fetus congenital anomalies) and provides the X-ray interpretation skills required to diagnose them.			
[2nd lecture] 10/6 [Wada 1] "Family Tree Creation Exercise" : A look at the standard method of creating family trees and an analysis of the mode of inheritance and genetic risk estimation.			
[3rd lecture] 10/13 [Yamada 1] "Fetal Ultrasonography" : A look at ultrasonography in early to mid-pregnancy, especially soft markers associated with chromosomal abnormalities. Also, an analysis of ultrasonography performed in the stages of late pregnancy and its significance.			
[4th lecture] 10/20 [Nakajima 1] "Cancer screening": Understand the differences between cancer screening and surveillance for hereditary tumors.			
[5th lecture] 10/27 [Wada 2] "Patterns of inheritance and risk assessment": Learning standard family tree notation and estimate the pattern of inheritance			
[6th lecture] 11/10 [Yamada 2] "Effects of Radiation, Environmental Factors, and Infectious Diseases in the Fetus" : An analysis of the environmental factors responsible for about 5% of congenital defects.			
[7th lecture] 11/17 [Kawasaki 1] "Collecting Medical Information from Medical Records" : Tips to collect information from medical records. Summary of how to collect general medical information.			
Continue to 基礎人類遺伝学演習 (GC限定) (2) ↓ ↓ ↓			

基礎人類遺伝学演習 (GC限定) (2)
[8th lecture] 11/24 [Wada 3] "Interpretation of Chromosomal Test Results (1)" : An analysis of how to interpret chromosomal test results.
[9th lecture] 12/1 [Yamada 3] "Miscarriage Chorionic Villus Sampling" : More than half of miscarriages in early pregnancy have chromosomal abnormalities. This lecture looks at the significance of testing in miscarriage patients.
[10th lecture] 12/16 [Wada 4] "Interpreting Chromosomal Test Results (2)" : A look at how cytogenetic tests other than chromosomal tests are conducted (especially array CGH).
[11th lecture] 12/22 [Nakajima 2] "Diagnostic imaging related to hereditary tumors": Learning about the characteristics and significance of diagnostic imaging such as upper and lower gastrointestinal endoscopy and abdominal ultrasonography.
[12th lecture] 1/5 [Yamada 4] "Amniotic Fluid Chromosomal Test" : A look at how amniotic fluid chromosomal tests are performed and how to provide an appropriate explanation for the results.
[13th lecture] 1/12 [Kawasaki 2] "How to Write Medical Records and Documents" : Learning tips to write medical information.
[14th lecture] 1/19 [Nakajima 3] "Evaluation of Variants (1)" : Evaluation of the variants detected in tumor-related genes and learning to interpret them.
[15th lecture] 1/26 [Wada 2] "Evaluation of Variants (2)" : Evaluation of the variants detected in rare disease related genes and learning to interpret them.
<b>[Course requirements]</b>
Compulsory subject only for first-year students of the Genetic Counselor Course (pre-determined subject)
<b>[Evaluation methods and policy]</b>
Comprehensive evaluation of active participation in exercises, reports, presentations, attendance, and other activities.
<b>[Textbooks]</b>
Other handouts distributed in class
<b>[References, etc.]</b>
(Reference books)
Introduced during class
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>
Instructions will be given accordingly
<b>[Other information (office hours, etc.)]</b>
The lecture schedule, lecturers, and content are subject to minor changes.
*Please visit KULASIS to find out about office hours.

<b>Course number</b>		P-PUB01 8N006 SJ90			
<b>Course title (and course title in English)</b>	臨床遺伝学演習 (GC限定)		<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Program-Specific Professor, WADA TAKAHIITO Graduate School of Medicine Program-Specific Assistant Professor, YOSHIDA AKIKO	
	Clinical Genetics, Exercise				
<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>	1	<b>Year/semesters</b>	2023/Second semester
<b>Days and periods</b>	水 5	<b>Class style</b>	Seminar	<b>Language of instruction</b>	Japanese
<b>[Overview and purpose of the course]</b>					
<p>[Basic information] Also known as "genetic counseling role-play exercise"  Class date and time: Second semester. 5th periods on Wednesdays (Please note that there may be exceptions).  Classroom: Building G, 3rd floor, Seminar room or Online lecture. Level: Advanced  Staff in charge: Takahito Wada, Takeshi Nakajima, Masanobu Ogawa, Hideaki Sawai, Hidenori Kawasaki, Akiko Yoshida, Masako Torishima, Hiromi Murakami, Sayaka Honda, Akira Inaba, Sayoko Haruyama</p> <p>[Course overview] ・ An orientation is given four weeks before the start of the exercise (9/6).  ・ The instructor in charge notifies all parties concerned of the basic settings at least two weeks in advance.  ・ Actual genetic counseling is performed by a medical care team of clinical geneticists and certified genetic counselors with different roles, but one of the characteristics of role play is to perform both. Therefore, tasks such as disclosing genetic test results which in reality are mainly carried out by a clinical geneticist are performed by a genetic counselor in the role-play. This is a valuable experience, not only as a genetic counselor, but also to understand the position of a clinical geneticist. Moreover, having solid knowledge about frequent diseases as a certified genetic counselor is helpful in answering similar questions from clients.  ・ Gradually increase the difficulty of role-playing; role-play for one client in the 1st to 8th lectures and for two clients in 9th to 16th lectures.  ・ In this course, students are expected to learn about the structure of genetic counseling, disease explanation, agenda setting and psychosocial support with keeping counseling minds. Similarly, it is important to understand decision-making support for genetic testing and disclosure of results to relatives. In role-playing for two clients, students learn the power balance between clients and how to deal with disagreements.  ・ The genetic counselor (M1), CGC mentor, and teacher in charge must also hold a preparatory meeting before two weeks the course. Other meetings are held as needed.  ・ The meetings of clients and instructor are also held as needed. The client role is played by an M1 once.  ・ The genetic counselor (M1) must distribute the feedback sheet and material used in genetic counseling by the day before the course starts.  ・ Constructive and positive feedbacks are welcome from genetic counselor (M1), CL role, instructor in charge, CGC mentor and audiences. Also collect comments on the feedback sheet.  ・ If necessary, the genetic counselor (M1), CGC mentor, and instructor will look back on the day or at a later date.  ・ After each lectures, the genetic counselor (M1) and CGC mentor make another retrospective of the exercise using a verbatim record and feedback sheet, and submit the report to the instructor in charge within a week. In addition, after all role-plays are completed, students must submit a review report to Torishima and Yoshida.  ・ The schedule may change depending on the number of students taking the course.</p>					
Continue to 臨床遺伝学演習 (GC限定) (2) ↓ ↓ ↓					

<b>臨床遺伝学演習 (GC限定) (2)</b>					
<b>[Course objectives]</b>					
Acquire practical skills as a genetic counselor and practical response capability in the field. Acquire knowledge of clinical genetics and the basic skills of genetic counseling.					
<b>[Course schedule and contents]</b>					
<p>[Initial meeting] 9/6 5th period  [All members] "How to Perform Role-Play and Orientation for Genetic Counseling Practice" : The objective, method, and significance of role-play, Orientation for genetic counseling practice.  [1st and 2nd lectures] 10/4, 10/18 [Nakajima] "Hereditary Breast Cancer and Ovarian Cancer" : Evaluation of the risk of hereditary breast cancer in a family with multiple breast cancer patients and adaptations to genetic testing. Learn about support sharing information among relatives.  [3rd and 4th lectures] 10/25, 11/1 [Kawasaki] "Hypertrophic Cardiomyopathy" : We will learn about estimating at-risk patients based on family history, explaining symptoms and inheritance patterns, the significance of genetic testing of the patient and presymptomatic diagnosis of relatives, and screening methods.  [5th and 6th lectures] 11/8, 11/15 [Ogawa] "Prenatal Diagnosis" : This lecture is focused on genetic counseling concerning prenatal genetic testing. It prepares students to be able to provide information, including the natural history of diseases and recurrence risk based on an appropriate genetic evaluation.  [7th and 8th lectures] 11/22, 11/29 [Nakajima] "Li-fraumeni syndrome" : A case of a young-onset cancer patient suspected of having Li-fraumeni syndrome by a panel examination of cancer tissue is set. The goal is to be able to explain the significance of germline genetic testing and its impact on relatives.  [9th and 10th lectures] 12/6, 12/13 [Wada] "Mitochondrial Disease" : Learn genetic counseling in mitochondrial diseases such as disease explanation and maternal inheritance for clients with hearing loss and diabetes and their families.  [11th and 12th lectures] 12/20, 12/27 [Kawasaki] "Fabry disease" : Through this role play, students are able to understand and explain the symptoms of Fabry disease, X-linked inherited pattern and its effects on relatives, and treatment methods.  [13th and 14th lectures] 1/10, 1/17 [Wada] "Myotonic Dystrophy" : Learn about providing information of myotonic dystrophy symptoms, triplet repeats and anticipation. Also consider disease acceptance and psychosocial support for symptomatic clients and their families.  [15th and 16th lectures] 1/24, 1/31 [Ogawa/Sawai] "Recurrent Miscarriage" : In these lectures, students will learn not only about evaluations of obstetrics and gynecology, as well as genetic test-based evaluations, to detect the causes of recurrent miscarriage cases, but also genetic counseling</p> <p>Participants: Students, all related teachers, genetic counseling graduate student (M1), observers (M1, M2, PhD student), GC mentor  Video recording: Observers (M1). The video recording and file must be saved on the server for later review.</p>					
<b>[Course requirements]</b>					
Compulsory subject only for first-year students in the Genetic Counselor Course (pre-determined subject)					
<b>[Evaluation methods and policy]</b>					
Comprehensive evaluation of proactivity in exercises, practical abilities, attendance, reports, and other activities.					
Continue to 臨床遺伝学演習 (GC限定) (3) ↓ ↓ ↓					

<b>臨床遺伝学演習 (GC限定) (3)</b>					
<b>[Textbooks]</b>					
Not used					
<b>[References, etc.]</b>					
<b>(Reference books)</b>					
Introduced during class					
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>					
Instructions will be given accordingly					
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>					
*Please visit KULASIS to find out about office hours.					

<b>Course number</b>		P-PUB01 8N020 LJ90			
<b>Course title (and course title in English)</b>	遺伝カウンセラーコミュニケーション概論 (GC限定)		<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Program-Specific Professor, WADA TAKAHIITO Graduate School of Medicine Program-Specific Assistant Professor, TORISHIMA MASAKO	
	Communication for Genetic Counselors				
<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>	3	<b>Year/semesters</b>	2023/Irregular, year-round
<b>Days and periods</b>	木 1 : 開講日注意	<b>Class style</b>	lecture and seminar	<b>Language of instruction</b>	Japanese
<b>[Overview and purpose of the course]</b>					
<p>[Basic information] Class date and time: Weekly classes in 1st period on Thursdays during the first semester, then biweekly classes in 1st period on Thursdays during the second semester (there may be exceptions).  Classroom: Building G, 3rd Floor, Seminar room, Level: Basic  Staff in charge: Shinji Kosugi, Masako Torishima, Akiko Yoshida, Hiromi Murakami, Saeko Katsumoto, Nana Akiyama, Manami Matsukawa</p> <p>[Course overview] These lectures are focused on communication, which is an important theme in genetic counseling. The students themselves take the lead in discussions and share their learning with each other. With these lectures, they learn how to communicate not only with clients and families (to provide them support as genetic counselors), but also with members of their medical care team, who have different specialties. Another aim of this lecture is to provide the basic knowledge and information on the theories required for "Genetic Counseling Role-Play Exercise" and "Genetic Counseling Practice (clinical practice at hospitals)." Ultimately, the students are expected to deepen their knowledge in genetic counseling and genetic counselors' role through these lectures, exercises, and practices. The exercises are programmed to include different methods (such as role-play and video learning) according to the progress of the class.</p> <p>[Teaching/learning method]  ・ Reading the texts before class, followed by the submission of a report.  ・ Discussions and exercises during lectures.  ・ It also includes the following extra-curricular activities: Video learning: "Three approaches to psychotherapy" / "Medical genetics" (in the School of Medicine)</p> <p>We look forward to your participation! Questions about the content of the classes are welcome too. Please contact us by e-mail!</p>					
<b>[Course objectives]</b>					
1. Acquire the minimum knowledge and attitudes required to support clients and their families as a genetic counselor. 2. Acquire the minimum knowledge and attitudes required to know how to act as a member of a medical care team.					
<b>[Course schedule and contents]</b>					
[First semester] [1st lecture] 4/13 [Yoshida] "Introduction and Basic Concepts" "JACGC code of ethics" "Definition and History of Genetic Counseling" First day of the basics: Communication for genetic					
Continue to 遺伝カウンセラーコミュニケーション概論 (GC限定) (4) ↓ ↓ ↓					



遺伝カウンセラーコミュニケーション概論 (GC限定) (2)	
counselors. Introduction to the basics of self-presentation, classes, and homework.	
[2nd lecture] 4/20 [Urao, Torishima]	"Family Interviews" "family systems theory" "family dynamics": 13th day of the basics: The role of genetic counselors in family interviews.
[3rd lecture] 4/27 [Torishima]	"Basic Attitudes of Genetic Counselors": Second day of the basics: Basic attitudes in genetic counseling and comprehension from the inside out (an internal frame of reference). Understanding basic attitudes, listening closely, and developing an internal frame of reference. "Empathic Understanding": Third day of the basics: The concept of empathic understanding.
[4th lecture] 5/11 [Yoshida]	"Building Rapport": Fourth day of the basics: The flow of genetic counseling and the formation of trusting relationships (building rapport). "Reception": Sixth day of the basics: Points to be considered in telephone reception.
[5th lecture] 5/18 [Murakami]	"Non-Verbal communication": Fifth day of the basics: The importance of non-verbal communication.
[6th lecture] 5/25 [Yoshida]	"Providing Information": Eighth day of the basics: Providing information in genetic counseling.
[7th lecture] 6/1 [Yoshida]	"Providing Information": Eighth day of the basics: Providing information in genetic counseling.
[8th lecture] 6/8 [Torishima]	"Decision-Making": Ninth day of the basics: Decision-making in genetic counseling.
[9th lecture] 6/15 [Torishima]	"Decision-Making": Ninth day of practice: Genetic counseling for an individual who requested a pre-symptomatic test for hereditary diseases that are progressive and have no cure.
[10th lecture] 6/22 [Yoshida, Torishima]	"Mini Role-Play": Assessment to confirm the main complaints and to acquire information for creating the family tree.
[11th lecture] 6/29 [Yoshida, Torishima]	"Mini Role-Play": Assessment to explain and provide information about the mode of inheritance.
[12th lecture] 7/6 [Yoshida, Torishima]	"Mini Role-Play": Assessment to explain and provide information about the mode of inheritance.
[13th lecture] 7/13 [Akiyama, Torishima]	"Talking about Heredity to Children": Genetic counseling for children. Tenth day of practice: Talking about heredity to children [practice].
[14th lecture] 7/20 [Honda]	"Views of Disability": Sixteenth day of the basics: Disability and society's understanding. "Prenatal Testing": Eighth day of practice: Genetic counseling involved in prenatal testing.
[15th lecture] 7/27 [Yoshida, Torishima]	"Case Examination": The structure of genetic counseling and client assessment.
[Second semester]	
[16th lecture] 10/5 [Matsukawa, Torishima]	"Communication of the Japanese and Genetic Counseling": Summer Homework(1): Japanese Communication.
[17th lecture] 10/19 [Yoshida]	"Analytic Ethics": Fifteenth day of the basics: Ethics in genetic counseling.
[18th lecture] 11/2 [Yoshida]	"Management" & "Follow up": 14th day of the basics: The end of genetic counseling and follow-up.
[19th lecture] 11/16 [Inaba]	"Cooperation with Related Parties and Institutions": Fourth day of practice: Genetic counseling for visual impairments (retinitis pigmentosa). Fifth day of practice: Cooperation with related parties and institutions.
[20th lecture] 11/30 [Kumamura, Honda]	"Learning from a Medical Social Worker": Tenth day of the basics: Learning from the cases of a medical social worker? Communication for Client Support.
Continue to 遺伝カウンセラーコミュニケーション概論 (GC限定) (3) ↓ ↓ ↓ ↓	

遺伝カウンセラーコミュニケーション概論 (GC限定) (3)	
[21th lecture] 12/14 [Urano, Torishima]	"Defense Mechanisms": Seventeenth day of the basics: Genetic counseling and defense mechanisms. "coping model" "Hands-on Learning of Psychological Assessment": Specific Psychological and Social Assessments.
[22th lecture] 1/18 [Urano, Torishima]	"The Experience of Loss", "crisis counseling" and "grief counseling": Eleventh day of the basics: Understanding the experience of loss.
[23nd lecture] 2/1 [Torishima]	"Living with a Hereditary Disease": Eighteenth day of the basics: Living with a hereditary disease. Evaluation and summary
<b>[Course requirements]</b>	
Compulsory subject only for first-year students in the Genetic Counselor Course (pre-determined subject)	
<b>[Evaluation methods and policy]</b>	
First and second semesters are evaluated together at the end of the course. Attainment of learning goals: 40%: report, 30%: presentation: 30%	
<b>[Textbooks]</b>	
Also, <ul style="list-style-type: none"> <li>• Communication Theory for Genetic Counseling - Graduate School of Medicine of Kyoto University Genetic Counselor Course Lectures (Medical Do) 978-4944157662</li> <li>• Jibun o Mitsumeru Counseling Mind - Healthcare Work no Kihon to Tenkai (Ishiyaku Publishers) ISBN: 978-4-263-2423-5</li> <li>• Counseling o Manabu (University of Tokyo Press) Theory, Experience, Practice ? 2nd Edition ISBN: 978-4-13-012045-6</li> <li>• Health Communication (Kyushu University Press) Revised Edition ISBN: 978-4798500164</li> </ul>	
<b>[References, etc.]</b>	
<b>(Reference books)</b> Introduced during class	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
Preparation and review will be requested accordingly.	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course number					P-PUB01 8N007 SJ90	
<b>Course title (and course title in English)</b>	遺伝カウンセリング演習1 (GC限定) Genetic Counseling, Exercise 1		<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Program-Specific Senior Lecturer, KAWASAKI HIDENORI		
<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>	2	<b>Year/semesters</b>	2023/Irregular, year-round	
<b>Days and periods</b>	4週: 金5・6期	<b>Class style</b>	Seminar	<b>Language of instructor</b>	Japanese	
<b>[Overview and purpose of the course]</b>						
[Basic information] Class date and time: Fridays (every other week in principle) 5th and 6th periods, Classroom: Building G, Seminar room A or Exercise room Level: Genetic Counseling Exercise 1 (Basic)/Genetic Counseling Exercise 2 (Advanced) Staff in charge: Takahito Wada, Takeshi Nakajima, Masanobu Ogawa, Hidenori Kawasaki, Masako Torishima, Akiko Yoshida, Hiromi Murakami, Sayaka Honda, Akira Inaba, Kazuo Tamura, Junko Tatsumi, Kazumasa Saigo, Nobuyuki Fukushima, Norihito Kawashita, Yoshihito Kawashita, Mina Nakama, lecturer						
[Course overview] Actual genetic counseling cases are presented to the participants, who are expected to have a thorough discussion with other conference participants about problems related to genetic, medical, recuperative, social, legal, ethical, and psychological issues. Starting in the second semester of the first year, the course is more focused on conferences, and the participants are expected to make presentations about the cases they have witnessed in actual genetic counseling practice. This is the most important element in the curriculum of genetic counselor courses at Kyoto University and Kinki University, with the active participation of graduate students from both universities. As a rule, graduate students in the practice period (second-year students: April to October; first-year students: November to year-end; the transition period depends on the situation of each course) must make a case presentation in every class. 4:30-6:30 PM: Joint conference for case presentation <ul style="list-style-type: none"> <li>• Review meeting (the moderator does the timekeeping so that between four and six cases are reviewed at each meeting). From 6:30 PM to around 7:20 PM: Presentations about genetic counseling activities from genetic counselors that completed the course at Kyoto/Kinki Universities, or joint conference attendees/invited speakers</li> </ul>						
[Teaching/learning method] Case presentation/discussion and creation of conference record (students take turns for each case)						
<b>[Course objectives]</b>						
Capable of making an appropriate presentation of cases, organizing various problems and making decisions on future response policies, participating in discussions and making logical observations, and creating appropriate conference records.						
<b>[Course schedule and contents]</b>						
[Moderator] Conference lecturers						
[1st lecture] 4/14 [Kosugi] Shinji Kosugi:	"Introduction to Joint Conferences"					
[2nd lecture] 4/28 [Kawasaki] Toshiaki Takenouchi:	"Genetic testing/diagnosis and counseling for critically ill newborns"					
[3rd lecture] 5/12 [Saigo] Yuji Takahashi:	"Neurological diseases - Recent topics"					
Continue to 遺伝カウンセラーコミュニケーション概論 (GC限定) (2) ↓ ↓ ↓ ↓						

遺伝カウンセラーコミュニケーション演習1 (GC限定) (2)	
[4th lecture] 5/26 [Kawasaki] Koji Kitabatake:	"Knowing the life course of Down syndrome; from neonate to adolescent, until adulthood"
[5th lecture] 6/9 [Yoshida] Mari Tsubata:	"Efforts of Department of Genetic Medicine, Tohoku University Hospital"
[6th lecture] 6/23 [Wada] Mari Kuroiwa:	"Mammalian sex determination mechanism, independent of Y chromosome and SRY gene"
[7th lecture] 7/14 [Kishita] Ke Ida:	"Common SNP and RNA splicing"
[8th lecture] 10/27 [Honda] Akira Inaba:	"Work as a certified genetic counselor at the Department of Clinical Genetics Unit, Kyoto University Hospital"
[9th lecture] 11/10 [Nakama] Sawako Matsuzaki:	"Development and prospects of Department of Clinical Genetics, Kyushu University Hospital"
[10th lecture] 11/24 [Torishima] Kayono Yamamoto:	"Qualitative research in the area of #8203#8203genetic counseling"
[11th lecture] 12/8 [Kawasaki] Mizuho Ueyama:	"Involvement of a child life specialist in genetic diseases"
[12th lecture] 12/22 [Nakajima] Masanobu Ogawa:	"Fetus, pregnant women, and me"
[13th lecture] 1/12 [Kawasaki] New Year Roundtable	
[14th lecture] 1/26 [Kawashita] Mashu Futagawa:	"The role of certified genetic counselors at Okayama University Hospital"
[15th lecture] 2/9 [Wada] Michiko Furuya:	"Hereditary kidney tumors and related diseases"
<b>[Specific guidelines for the joint conference]</b>	
1) Objective: This is not a practice debriefing session. The attendees must put their impressions aside and focus on whether genetic counseling was conducted appropriately in each case, whether mistakes were made, or if something was missing. They must listen to the specialists' opinions and comments and join the debate. A time for discussion must be allocated so that many people can share their opinions and they can be effectively applied to genetic counseling.	
2) Presentation: Objectively summarize the facts. First, explain the background and main complaint to the participants. Also, briefly indicate the progress of genetic counseling and pertinent issues. Keep the presentation time under 15 minutes, plus 10 minutes for discussion.	
3) Slides: Try to use bullets to organize the discussion better. The following number of slides must be followed by all. First half: One slide with the title (including the date and name of the presenters and the doctor in charge), one slide to explain the disease, two slides containing the background of the consultation and main complaint, as well as the family tree. Second half: One or two slides with the progress of genetic counseling and one or two slides with issues and problems.	
4) Progress: Instruct the presenters to simplify any redundant parts and to promote constructive discussion.	
5) Assessment: Questions, personal opinions, and impressions must be reserved for later, when there is a general discussion. If you really have to make a comment at the beginning, consult the supervisor and doctor beforehand.	
6) After the presentation: Add one slide containing the content of the discussion. After the confirmation by the doctor in charge, save it in "Genetic Counseling Record" and "Conference Record" (within a week after the conference).	
* Since this activity involves contact with personal information, first-time participants must submit the "Pledge of Confidentiality" in advance. Do not talk about the details of genetic counseling in the presence of others, do not leave the notebook containing genetic counseling information where others can see it, and do not lend the notebook to (or borrow it from) others.	
Continue to 遺伝カウンセラーコミュニケーション演習1 (GC限定) (3) ↓ ↓ ↓ ↓	

遺伝カウンセリング演習 1 (GC限定) (3)	
<b>[Course requirements]</b>	
Compulsory subjects only for students in the Genetic Counselor Course (pre-determined subjects):	
"Genetic Counseling Exercise 1" for first-year students	
"Genetic Counseling Exercise 2" for second-year students	
<b>[Evaluation methods and policy]</b>	
Comprehensive evaluation of presentations, active participation in discussions, creation of conference records, and other activities.	
<b>[Textbooks]</b>	
Not used. As a rule, no handout is distributed.	
<b>[References, etc.]</b>	
<b>(Reference books)</b>	
Introduced during class	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
Instructions will be given accordingly.	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course number		P-PUB01 8N008 SJ90		
Course title (and course title in English)	遺伝カウンセリング演習 2 (GC限定) Genetic Counselling, Exercise 2		Instructor's name, job title, and department of affiliation Graduate School of Medicine Program-Specific Senior Lecturer, KAWASAKI HIDENORI	
	Target year	Professional degree students		Number of credits
Year/semesters	2023/Irregular, year-round		Language of instruction	Japanese
Days and periods	2・4週: 金5・6期	Class style	Seminar	
<b>[Overview and purpose of the course]</b>				
[Basic information] Class date and time: Fridays (every other week in principle) 5th and 6th periods, Classroom: Building G, Seminar room A or Exercise room				
Level: Genetic Counseling Exercise 1 (Basic)/Genetic Counseling Exercise 2 (Advanced)				
Staff in charge: Takahito Wada, Takeshi Nakajima, Masanobu Ogawa, Hidenori Kawasaki, Masako Torishima, Akiko Yoshida, Hiromi Murakami, Sayaka Honda, Akira Inaba, Kazuo Tamura, Junko Tatsumi, Kazumasa Saigo, Nobuyuki Fukushima, Norihito Kawashita, Yoshihito Kawashita, Mina Nakama, lecturer				
[Course overview] Actual genetic counseling cases are presented to the participants, who are expected to have a thorough discussion with other conference participants about problems related to genetic, medical, recuperative, social, legal, ethical, and psychological issues. Starting in the second semester of the first year, the course is more focused on conferences, and the participants are expected to make presentations about the cases they have witnessed in actual genetic counseling practice. This is the most important element in the curriculum of genetic counselor courses at Kyoto University and Kinki University, with the active participation of graduate students from both universities. As a rule, graduate students in the practice period (second-year students: April to October; first-year students: November to year-end; the transition period depends on the situation of each course) must make a case presentation in every class. 4:30-6:30 PM: Joint conference for case presentation				
・ Review meeting (the moderator does the timekeeping so that between four and six cases are reviewed at each meeting). From 6:30 PM to around 7:20 PM: Presentations about genetic counseling activities from genetic counselors that completed the course at Kyoto/Kinki Universities, or joint conference attendees/ invited speakers				
[Teaching/learning method] Case presentation/discussion and creation of conference record (students take turns for each case)				
<b>[Course objectives]</b>				
Capable of making an appropriate presentation of cases, organizing various problems and making decisions on future response policies, participating in discussions and making logical observations, and creating appropriate conference records.				
<b>[Course schedule and contents]</b>				
[Moderator] Conference lecturers				
[1st lecture] 4/14 [Kosugi] Shinji Kosugi: "Introduction to Joint Conferences"				
[2nd lecture] 4/28 [Kawasaki] Toshiki Takenouchi: "Genetic testing/diagnosis and counseling for critically ill newborns"				
[3rd lecture] 5/12 [Saigo] Yuji Takahashi: "Neurological diseases - Recent topics"				
Continue to 遺伝カウンセリング演習 2 (GC限定) (2) ↓ ↓ ↓				

遺伝カウンセリング演習 2 (GC限定) (2)	
[4th lecture] 5/26 [Kawasaki] Koji Kitabatake: "Knowing the life course of Down syndrome; from neonate to adolescent, until adulthood"	
[5th lecture] 6/9 [Yoshida] Mari Tsubata: "Efforts of Department of Genetic Medicine, Tohoku University Hospital"	
[6th lecture] 6/23 [Wada] Mari Kuroiwa: "Mammalian sex determination mechanism, independent of Y chromosome and SRY gene"	
[7th lecture] 7/14 [Kishita] Ke Ida: "Common SNP and RNA splicing"	
[8th lecture] 10/27 [Honda] Akira Inaba: "Work as a certified genetic counselor at the Department of Clinical Genetics Unit, Kyoto University Hospital"	
[9th lecture] 11/10 [Nakama] Sawako Matsuzaki: "Development and prospects of Department of Clinical Genetics, Kyushu University Hospital"	
[10th lecture] 11/24 [Torishima] Kayono Yamamoto: "Qualitative research in the area of #8203#8203genetic counseling"	
[11th lecture] 12/8 [Kawasaki] Mizuho Ueyama: "Involvement of a child life specialist in genetic diseases"	
[12th lecture] 12/22 [Nakajima] Masanobu Ogawa: "Fetus, pregnant women, and me"	
[13th lecture] 1/12 [Kawasaki] New Year Roundtable	
[14th lecture] 1/26 [Kawashita] Mashu Futagawa: "The role of certified genetic counselors at Okayama University Hospital"	
[15th lecture] 2/9 [Wada] Michiko Furuya: "Hereditary kidney tumors and related diseases"	
[Specific guidelines for the joint conference]	
1) Objective: This is not a practice debriefing session. The attendees must put their impressions aside and focus on whether genetic counseling was conducted appropriately in each case, whether mistakes were made, or if something was missing. They must listen to the specialists' opinions and comments and join the debate. A time for discussion must be allocated so that many people can share their opinions and they can be effectively applied to genetic counseling.	
2) Presentation: Objectively summarize the facts. First, explain the background and main complaint to the participants. Also, briefly indicate the progress of genetic counseling and pertinent issues. Keep the presentation time under 15 minutes, plus 10 minutes for discussion.	
3) Slides: Try to use bullets to organize the discussion better. The following number of slides must be followed by all. First half: One slide with the title (including the date and name of the presenters and the doctor in charge), one slide to explain the disease, two slides containing the background of the consultation and main complaint, as well as the family tree. Second half: One or two slides with the progress of genetic counseling and one or two slides with issues and problems.	
4) Progress: Instruct the presenters to simplify any redundant parts and to promote constructive discussion.	
5) Assessment: Questions, personal opinions, and impressions must be reserved for later, when there is a general discussion. If you really have to make a comment at the beginning, consult the supervisor and doctor beforehand.	
6) After the presentation: Add one slide containing the content of the discussion. After the confirmation by the doctor in charge, save it in "Genetic Counseling Record" and "Conference Record" (within a week after the conference).	
* Since this activity involves contact with personal information, first-time participants must submit the "Pledge of Confidentiality" in advance. Do not talk about the details of genetic counseling in the presence of others, do not leave the notebook containing genetic counseling information where others can see it, and do not lend the notebook to (or borrow it from) others.	
Continue to 遺伝カウンセリング演習 2 (GC限定) (3) ↓ ↓ ↓	

遺伝カウンセリング演習 2 (GC限定) (3)	
<b>[Course requirements]</b>	
Compulsory subjects only for students in the Genetic Counselor Course (pre-determined subjects):	
"Genetic Counseling Exercise 1" for first-year students	
"Genetic Counseling Exercise 2" for second-year students	
<b>[Evaluation methods and policy]</b>	
Comprehensive evaluation of presentations, active participation in discussions, creation of conference records, and other activities.	
<b>[Textbooks]</b>	
Not used. As a rule, no handout is distributed.	
<b>[References, etc.]</b>	
<b>(Reference books)</b>	
Introduced during class	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
Instructions will be given accordingly.	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

<b>Course number</b>	P-PUB01 8N009 PJ90				
<b>Course title (and course title in English)</b>	遺伝カウンセリング実習1 (GC限定) Genetic Counselling, Practice 1	<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Associate Professor, NAKAJIMA TAKEHI		
<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>	2	<b>Year/semesters</b>	2023/Irregular, year-round
<b>Days and periods</b>	Other	<b>Class style</b>	Practical training	<b>Language of instruction</b>	Japanese
<b>[Overview and purpose of the course]</b>					
[I. Course overview] The participants go to an actual genetic counseling clinic to experience its daily routine while performing preliminary examinations (pre-counseling), creating family trees, and conducting follow-up by phone with actual clients.  Staff in charge: Takeshi Nakajima, Takahito Wada, Masanobu Ogawa, Hidenori Kawasaki, Hideaki Sawai, Yuka Yotsumoto, Masako Torishima, Akiko Yoshida, Hiromi Murakami, Sayaka Honda, Akira Inaba					
[II. Teaching/learning method] Practical exercises (preparation, pre-counseling, supervised practice, case record creation, case report in conferences, discussion, follow-up by phone). Active participation in related conferences and seminars and submission of a report. The "Genetic Counselor Work Practice," held between January and March, includes exercises of the actual work of certified genetic counselors, such as booking genetic counseling sessions by phone.					
<b>[Course objectives]</b>					
Learn how to approach clients appropriately. Capable of conducting a preliminary examination and creating a family tree. Capable of discussing issues in the cases with the doctors in charge. Capable of summarizing a case, as well as searching the literature regarding medical, psychosocial, and ethical issues to obtain the most recent information. Capable of presenting a case at a conference and having a discussion about it. Capable of exchanging information and collaborating with related departments appropriately and practicing team medical care.					
<b>[Course schedule and contents]</b>					
[Genetic Counseling Practice] The genetic counseling practice starts around the second half of the first year. The exact date of the start and frequency of the practice is determined based on the students' level of knowledge and attainment. In two years, they will have experienced around 60 cases. The first sessions may be limited to observations, but ideally, the students should try to take part in actual genetic counseling as much as possible, even with minor tasks. One example is the initial intake (pre-counseling), which involves the preliminary examination and creation of the family tree. For each case, the student must create a case record and logbook, have it checked by the teacher in charge, and conclude it as soon as possible (within a week at the latest). Then, the student must store it in the designated place. It is also the student's duty to create a typification sheet and to present the cases he/she has witnessed at conferences and to discuss them. Each case requires around 6 hours of work (including the preparation and search phases). The students must seek to diversify disease cases as much as possible, including, for example, familial tumors, neurodegenerative diseases, prenatal diagnosis/  Continue to 遺伝カウンセリング実習1 (GC限定) (2) ↓ ↓ ↓					

<b>遺伝カウンセリング実習1 (GC限定) (2)</b>					
chromosomal abnormalities, genetic deafness, ophthalmic diseases, congenital malformations, congenital metabolic disorder, and others. * Kyoto University Hospital, Clinical Genetics Unit (includes the otorhinolaryngology genetic deafness outpatient ward): Monday to Friday (all course members take turns) * Hyogo College of Medicine, Clinical Genetics Department: Tuesdays (one person per day) * Takatsuki General Hospital, Pediatrics/Obstetrics & Gynecology (on an irregular basis) As a rule, the phone follow-up after the genetic counseling must be made by the students in the genetic counselor course as part of their practical on the job training (OJT) and internship.					
[How to write a case record: Excerpt] 1. File name: Medical record number + Short disease name + Consultation day (e.g., 999FAP120915) For re-examinations, add the date and the number of the re-examination to the previous file name (e.g., 999FAP1261013-2) 2. Type out the medical record number before the body title. 3. Do not write the client's name, but write the real names of the medical facilities involved. 4. Type out the time (ending time and duration). 5. The family tree must be created as a separate PowerPoint file. The file name must be the same as the Word file above.					
[Participation in conferences and workshops] To acquire a broader set of knowledge and experience, the students must participate in the conferences and workshops below for two years (we will provide financial support as much as possible). The students are encouraged to actively participate in conference presentations and seminars. We also recommend participating in conferences and seminars other than the ones listed below that are deeply related to genetic counseling, and to use these opportunities to do active networking. Participating in patient groups and support groups is also highly recommended. We will provide information accordingly.					
<b>[Course requirements]</b>					
Compulsory subjects only for students in the Genetic Counselor Course (pre-determined subjects):  "Genetic Counseling Exercise 1" for first-year students  "Genetic Counseling Exercise 2" for second-year students					
<b>[Evaluation methods and policy]</b>					
Comprehensive evaluation of active participation in practices.					
<b>[Textbooks]</b>					
Also, no resource is as important as the experience of being in contact with actual clients.					
<b>[References, etc.]</b>					
(Reference books) Introduced during class					
Continue to 遺伝カウンセリング実習1 (GC限定) (3) ↓ ↓ ↓					

<b>遺伝カウンセリング実習1 (GC限定) (3)</b>					
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>					
Guidance will be provided.					
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>					
All client information must be kept confidential. Also, students are not to talk about genetic counseling content in the presence of outsiders, or to leave notebooks containing genetic counseling information where outsiders can see them. Lending or borrowing notebooks is strictly forbidden. Those who cannot maintain confidentiality will be expelled from the course.  *Please visit KULASIS to find out about office hours.					

<b>Course number</b>	P-PUB01 8N010 PJ90				
<b>Course title (and course title in English)</b>	遺伝カウンセリング実習2 (GC限定) Genetic Counselling, Practice 2	<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Associate Professor, NAKAJIMA TAKEHI		
<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>	4	<b>Year/semesters</b>	2023/Irregular, year-round
<b>Days and periods</b>	Other	<b>Class style</b>	Practical training	<b>Language of instruction</b>	Japanese
<b>[Overview and purpose of the course]</b>					
[I. Course overview] The participants go to an actual genetic counseling clinic to experience its daily routine while performing preliminary examinations (pre-counseling), creating family trees, and conducting follow-up by phone with actual clients.  Staff in charge: Takeshi Nakajima, Takahito Wada, Masanobu Ogawa, Hidenori Kawasaki, Hideaki Sawai, Yuka Yotsumoto, Masako Torishima, Akiko Yoshida, Hiromi Murakami, Sayaka Honda, Akira Inaba					
[II. Teaching/learning method] Practical exercises (preparation, pre-counseling, supervised practice, case record creation, case report in conferences, discussion, follow-up by phone). Active participation in related conferences and seminars and submission of a report. The "Genetic Counselor Work Practice," held between January and March, includes exercises of the actual work of certified genetic counselors, such as booking genetic counseling sessions by phone.					
<b>[Course objectives]</b>					
Learn how to approach clients appropriately. Capable of conducting a preliminary examination and creating a family tree. Capable of discussing issues in the cases with the doctors in charge. Capable of summarizing a case, as well as searching the literature regarding medical, psychosocial, and ethical issues to obtain the most recent information. Capable of presenting a case at a conference and having a discussion about it. Capable of exchanging information and collaborating with related departments appropriately and practicing team medical care.					
<b>[Course schedule and contents]</b>					
[Genetic Counseling Practice] The genetic counseling practice starts around the second half of the first year. The exact date of the start and frequency of the practice is determined based on the students' level of knowledge and attainment. In two years, they will have experienced around 60 cases. The first sessions may be limited to observations, but ideally, the students should try to take part in actual genetic counseling as much as possible, even with minor tasks. One example is the initial intake (pre-counseling), which involves the preliminary examination and creation of the family tree. For each case, the student must create a case record and logbook, have it checked by the teacher in charge, and conclude it as soon as possible (within a week at the latest). Then, the student must store it in the designated place. It is also the student's duty to create a typification sheet and to present the cases he/she has witnessed at conferences and to discuss them. Each case requires around 6 hours of work (including the preparation and search phases). The students must seek to diversify disease cases as much as possible, including, for example, familial tumors, neurodegenerative diseases, prenatal diagnosis/  Continue to 遺伝カウンセリング実習2 (GC限定) (2) ↓ ↓ ↓					

遺伝カウンセリング実習2 (GC限定) (2)	
<p>chromosomal abnormalities, genetic deafness, ophthalmic diseases, congenital malformations, congenital metabolic disorder, and others.</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Kyoto University Hospital, Clinical Genetics Unit (includes the otorhinolaryngology genetic deafness outpatient ward): Monday to Friday (all course members take turns)</li> <li>• Hyogo College of Medicine, Clinical Genetics Department: Tuesdays (one person per day)</li> <li>• Takatsuki General Hospital, Pediatrics/Obstetrics &amp; Gynecology (on an irregular basis)</li> </ul> <p>As a rule, the phone follow-up after the genetic counseling must be made by the students in the genetic counselor course as part of their practical on the job training (OJT) and internship.</p> <p>[How to write a case record: Excerpt]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. File name: Medical record number + Short disease name + Consultation day (e.g., 999FAP120915) For re-examinations, add the date and the number of the re-examination to the previous file name (e.g., 999FAP1261013-2)</li> <li>2. Type out the medical record number before the body title.</li> <li>3. Do not write the client's name, but write the real names of the medical facilities involved.</li> <li>4. Type out the time (ending time and duration).</li> <li>5. The family tree must be created as a separate PowerPoint file. The file name must be the same as the Word file above.</li> </ol> <p>[Participation in conferences and workshops]</p> <p>To acquire a broader set of knowledge and experience, the students must participate in the conferences and workshops below for two years (we will provide financial support as much as possible). The students are encouraged to actively participate in conference presentations and seminars. We also recommend participating in conferences and seminars other than the ones listed below that are deeply related to genetic counseling, and to use these opportunities to do active networking. Participating in patient groups and support groups is also highly recommended. We will provide information accordingly.</p>	
[Course requirements]	
Compulsory subjects only for students in the Genetic Counselor Course (pre-determined subjects):	
"Genetic Counseling Exercise 1" for first-year students	
"Genetic Counseling Exercise 2" for second-year students	
[Evaluation methods and policy]	
Comprehensive evaluation of active participation in practices.	
[Textbooks]	
Also, no resource is as important as the experience of being in contact with actual clients.	
[References, etc.]	
(Reference books)	
Introduced during class	
Continue to 遺伝カウンセリング実習2 (GC限定) (3) ↓ ↓ ↓	

遺伝カウンセリング実習2 (GC限定) (3)	
[Study outside of class (preparation and review)]	
Guidance will be provided.	
[Other information (office hours, etc.)]	
All client information must be kept confidential. Also, students are not to talk about genetic counseling content in the presence of outsiders, or to leave notebooks containing genetic counseling information where outsiders can see them. Lending or borrowing notebooks is strictly forbidden. Those who cannot maintain confidentiality will be expelled from the course.	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course number		P-PUB01 8H168 LB90	
Course title (and course title in English)		遺伝サービス情報学 Genetic service informatics	Instructor's name, job title, and department of affiliation Graduate School of Medicine Program-Specific Senior Lecturer: KAWASAKI HIDEORU
Target year	Professional degree students	Number of credits	1
Year/semesters	2023/Intensive, First semester		
Days and periods	Wed.6	Class style	Lecture
Language of instruction	Japanese and English		
[Overview and purpose of the course]			
The collection and evaluation of genetic information is now an essential technology for those engaged in genetic medicine. In this course, you will learn general medical information databases and guideline searches, how to use databases related to genes and inherited diseases, how to evaluate variants systematically, and learn the knowledge and skills necessary for the practice of medicine for evidence-based medicine.			
[Course objectives]			
Acquire the skills to properly use medical information and genetic information databases according to their purpose, search for necessary information, and conduct critical examination appropriately.			
[Course schedule and contents]			
[1st lecture] May 17, Wada, Information search for hereditary diseases, "Learn how to use databases on hereditary diseases such as OMIM and GeneReviews"			
[2nd lecture] May 24, Nakajima, Literature management method, "Learn about literature management tools such as EndNote, Mendeley, Zotero, RefWorks, etc."			
[3rd lecture] May 31, Ogawa, Literature search method, "Learn about the outline of literature retrieval using PubMed, Ichushi, etc."			
[4th lecture] June 7, Kawasaki, EBM practice, "Learn the basics of EBM and organize the processes necessary for its practice"			
[5th lecture] June 14, Wada, Genome Browser, "Use the UCSC Genome Browser to search for genome information"			
[6th lecture] June 21, Nakajima, Variant evaluation, "Learn variant evaluation based on ACMG guidelines"			
[7th lecture] June 28, Ogawa, Clinical practice guidelines and systematic review, "Learn about the overview and the way to use about clinical practice guidelines and systematic reviews"			
[8th lecture] July 5, Kawasaki, Diagnosis support system, "Learn about the use of a rare disease diagnosis support system"			
[Course requirements]			
Genetic medicine, ethics/society, and basic human genetics are recommended as prior courses.			
[Evaluation methods and policy]			
Comprehensive evaluation of reports, presentations, attendance, etc.			
[Textbooks]			
R.L.Nussbaum, R.R.McInnes & H.F.Willard 『Thompson & Thompson Genetics in Medicine, 8th ed.』 (Elsevier, 2016) ISBN:978-1437706963			
Continue to 遺伝サービス情報学(2) ↓ ↓ ↓			

遺伝サービス情報学(2)	
<p>中山智祥 『医療に役立つ 遺伝子関連Web情報検索 第2版 手とり足とり教えますガイド』 (メディカルサイエンスインターナショナル, 2020) ISBN:978-4815701970</p>	
[References, etc.]	
(Reference books)	
坊農秀雅 『バリエーションデータ検索&活用 変異・多型情報を使いこなす達人レシピ』 (羊土社, 2020) ISBN:978-4758122450	
水谷修紀 『症例でわかる新しい臨床遺伝学』 (MEDSI, 2008) ISBN:978-4-89592-574-7	
(Related URLs)	
<a href="https://togotv.dbcls.jp/">https://togotv.dbcls.jp/</a> (TogoTV) <a href="https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/">https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/</a> (PubMed) <a href="https://www.ncbi.nlm.nih.gov/omim/">https://www.ncbi.nlm.nih.gov/omim/</a> (OMIM) <a href="http://www.geneclinics.org/">http://www.geneclinics.org/</a> (GeneReviews) <a href="https://genome.ucsc.edu/">https://genome.ucsc.edu/</a> (UCSC Genome Browser)	
[Study outside of class (preparation and review)]	
Lecture	
[Other information (office hours, etc.)]	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

未更新

Course number	P-PUB01 8H140 LB90				
Course title (and course title in English)	臨床研究実地研修 I (CB限定) Clinical Research Training I		Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Program-Specific Professor, TANAKA SHIROU Kyoto University Hospital Professor, Morita Satoshi Kyoto University Hospital Assistant Professor, ABE HIROYASU Kyoto University Hospital Program-Specific Assistant Professor, NAKAKURA Akiyoshi National Cerebral and Cardiovascular Center OOMAE KATSUHIRO National Cerebral and Cardiovascular Center ASAKURA KOUKO Kyoto University Hospital Assistant Professor, HIDAKA YU Kyoto University Hospital Program-Specific Assistant Professor, UENO KENTARO	
	Target year	Professional degree students		Number of credits	2
		Year/semesters	2023/Intensive, year-round		
Days and periods	Intensive	Class style	Practical training	Language of instruction	Japanese
<b>[Overview and purpose of the course]</b>					
This training facilitates a hands-on understanding of how the statistical thinking acquired in the Clinical Statistician Training course can be applied to real-world situations through practical training at a hospital. From this practical experience, students will understand the roles and responsibilities of test statisticians in clinical trials, and will be equipped with the fundamental capabilities (attitude, skills, knowledge) necessary for one to plan, conduct, and report on clinical trials as a test statistician. Clinical Research On-Site Practicum II continues from I, and offers more advanced content. Training will take place at two locations: Kyoto University Hospital and the National Cerebral and Cardiovascular Center. Students are asked to choose the facility they wish to train at in advance. Training at the Kyoto University Hospital mainly comprises planning and conducting clinical trials for the development of innovative new medical technologies (pharmaceuticals, etc.). Training takes place at two locations: Kyoto University Hospital and the National Cerebral and Cardiovascular Center. Details of the training will be published on the website.					
<b>[Course objectives]</b>					
* Understand the process of planning and conducting clinical trials, the operations and system relied on in carrying out clinical trials, and the roles and areas of responsibility of researchers, research assistants, and test statisticians.					
* Understand the statistical items to be included in clinical trial protocols and obtain the fundamental knowledge and techniques required to be able to contribute to the creation of clinical trial protocols.					
* Acquire the fundamental knowledge and skills to be able to plan and carry out a statistical analysis appropriately and summarize the results.					
* Understand the fundamentals of research ethics and conflicts of interest in clinical trials and the protection of personal data, and be capable of contributing to the planning and execution of reliable clinical trials.					
* Learn to use various explanatory methods and means and the attitudes and methods to convey statistical concepts in clinical trials in a way that is easily understood.					
Continue to 臨床研究実地研修 I (CB限定) (2) ↓ ↓ ↓					

臨床研究実地研修 I (CB限定) (2)
<b>[Course schedule and contents]</b>
Kyoto University Hospital Intensive lectures and practicums will be held over five days between July and September (Periods 1-6, 8:45-19:45) Day 1 Period 1: Pre-Training Preparation Period 2: Readiness as a Biostatistician (1) Period 2: Ethics in medical research Period 4: Seed Development Period 5: Statistics Consulting Situations Period 6: Creating Reports Day 2 Period 1: Pre-Training Preparation Period 2: Readiness as a Biostatistician (2) Period 3: Monitoring Tasks Period 4: Clinical Test Sites Period 5: Statistics Consulting Situations Period 6: Creating Reports Day 3 Period 1: Pre-Training Preparation Period 2: Readiness as a Biostatistician (3) Period 3: Project Management Tasks Period 4: The History and Future Potential of Translational Research Period 5: Statistics Consulting Situations Period 6: Creating Reports Day 4 Period 1: Pre-Training Preparation Period 2: Data Management Tasks Period 3: The Role of CRC Period 4: Investigational New Drug Management System Scenarios Period 5: Statistics Consulting Situations Period 6: Creating Reports Day 5 Period 1: Pre-Training Preparation Period 2: Corresponding with Authorities Period 3: Radiodiagnosis Scenarios Period 4: Advanced Medical Technology Scenarios Period 5: Development of Innovative Medical Technologies Using iPSCs Period 6: Creating Reports National Cerebral and Cardiovascular Center This will be held over a total of six days. The first day will be in August, with the remaining five days held
Continue to 臨床研究実地研修 I (CB限定) (3) ↓ ↓ ↓

臨床研究実地研修 I (CB限定) (3)
between December and January (Each session is 90 minutes long) (9:30-11:00/11:15-12:45/13:45-15:00/15:15-17:00) Day 1 Session 1: Training Overview and Explanation, Visit to a Hospital: Purpose and Content of Training Session 2: Cardiovascular Disease Fundamentals (1): The Basics of Arrhythmia Session 3: Cardiovascular Disease Fundamentals (2): The Basics of Cardiac Failure Session 4: Medical Device Research and Development: Visit to an Animal Experimentation Facility Day 2 Session 5: Clinical Trial Planning (1): Basic Matters of Clinical Trial Planning Session 6: Clinical Trial Planning (2): Basic Procedures in Clinical Trial Planning Session 7: Randomized Assignment (1): The Role of Randomized Assignment in Clinical Trials Session 8: Randomized Assignment (2): General Methods of Randomized Assignment Day 3 Session 9: Group Work: Randomized Assignment System Exercise (1) Session 10: Group Work: Randomized Assignment System Exercise (2) Session 11: Sample Size Design (1): Methods of Sample Size Design in Clinical Trials Session 12: Sample Size Design (1): Procedures for Sample Size Design in Clinical Trials Day 4 Session 13: Group Work: Sample Size Design Exercise (1) Session 14: Group Work: Sample Size Design Exercise (2) Session 15: Statistical Analysis Plans (1): Fundamental Points to Describe in a Statistical Analysis Plans Session 16: Statistical Analysis Plans (2): Standard Tasks and Processes for Statistical Analysis in Clinical Trials Day 5 Session 17: Accompanying CRC Patients Session 18: Accompanying CRC Patients Session 19: Group Work (5): Randomized Assignment System Exercise (3) Session 20: Group Work (6): Randomized Assignment System Exercise (4) Day 6 Session 21: Group Work (7): Sample Size Design Exercise (3) Session 22: Group Work (8): Sample Size Design Exercise (4) Session 23: Summary Presentation (1): Reporting on the Results of the Randomized Assignment System Exercise Session 24: Summary Presentation (2): Report on the Results of the Sample Size Design Exercise <b>[Course requirements]</b> None
Continue to 臨床研究実地研修 I (CB限定) (4) ↓ ↓ ↓

臨床研究実地研修 I (CB限定) (4)
<b>[Evaluation methods and policy]</b>
Evaluation is based on the content of the reports and presentations created in practicums. Class participation (attendance etc.) will also be taken into account.
<b>[Textbooks]</b>
Not used.
<b>[References, etc.]</b>
(Reference books) Not used.
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>
Indicated during practicums.
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>
Human health science majors are not eligible to participate in this course.  *Please visit KULASIS to find out about office hours.
Continue to 臨床研究実地研修 I (CB限定) (4) ↓ ↓ ↓

Course number	P-PUB01 8H147 PB90				
Course title (and course title in English)	臨床研究実地研修II (CB限定) Clinical Research Training II		Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Program-Specific Professor, TANAKA SHIROU Kyoto University Hospital Professor, Morita Satoshi Kyoto University Hospital Assistant Professor, ABE HIROYASU Kyoto University Hospital Program-Specific Assistant Professor, NAKAKURA Akiyoshi National Cerebral and Cardiovascular Center OOMAE KATSUHIRO National Cerebral and Cardiovascular Center ASAKURA KOUKO Kyoto University Hospital Assistant Professor, HIDAKA YU Kyoto University Hospital Program-Specific Assistant Professor, UENO KENTARO	
	Target year	1st year students or above		Number of credits	2
Days and periods	Intensive	Class style	Practical training	Language of instructor	Japanese and English
<b>[Overview and purpose of the course]</b>					
<p>This training facilitates a hands-on understanding of how the statistical thinking acquired in the Clinical Statistician Training course can be applied to real-world situations through practical training at a hospital. From this practical experience, students will understand the roles and responsibilities of test statisticians in clinical trials, and will be equipped with the fundamental capabilities (attitude, skills, knowledge) necessary for one to plan, conduct, and report on clinical trials as a test statistician. Clinical Research On-Site Practicum II continues from I, and offers more advanced content. Training will take place at two locations: Kyoto University Hospital and the National Cerebral and Cardiovascular Center. Students are asked to choose the facility they wish to train at in advance. Training at the Kyoto University Hospital mainly comprises planning and conducting clinical trials for the development of innovative new medical technologies (pharmaceuticals, etc.). Training takes place at two locations: Kyoto University Hospital and the National Cerebral and Cardiovascular Center. Details of the training will be published on the website.</p>					
<b>[Course objectives]</b>					
<p>* Understand the process of planning and conducting clinical trials, the operation and system for carrying out clinical trials, and the roles and areas of responsibility of researchers, research assistants, and test statisticians.          * Understand the statistical items that are to be included in clinical trial protocols and obtain the fundamental knowledge and techniques needed in order to contribute to the creation of clinical trial protocols.          * Gain fundamental knowledge and skills to plan and carry out a statistical analysis appropriately and summarize the results.          * Understand the fundamentals of research ethics and conflicts of interest in clinical trials and the protection of personal data, and learn to contribute to the planning and execution of reliable clinical trials.          * Learn to use various explanatory methods and means and the attitudes and methods to convey statistical concepts in clinical trials in a way that is easily understood.</p>					
<b>[Course schedule and contents]</b>					
Kyoto University Hospital					
Continue to 臨床研究実地研修II (CB限定) (2) ↓ ↓ ↓					

臨床研究実地研修II (CB限定) (2)
<p>Intensive lectures and practicums will be held over five days between July and September (Planned) (Periods 1-6, 8:45 - 19:45)</p> <p>Day 1            Period 1: Pre-Training Preparation            Period 2: Advanced presentation and discussion of assignments            Period 3: Standard Operating Procedures            Period 4: Introduction to Real Clinical Trials by a Clinician            Period 5-6: Protocol Creation and Database Construction</p> <p>Day 2            Period 1: Pre-Training Preparation            Protocol 2: Presentation and discussion of the results of the protocol practicum            Period 3-6: Statistical analysis planning practicum</p> <p>Day 3            Period 1: Pre-Training Preparation            Period 2: Presentation and discussion of statistical analysis planning            Period 3: SAS Program practicum            Period 4: Validating the quality of the results of statistical analysis            Periods 5-6: Statistical analysis practicum</p> <p>Day 4            Period 1: Pre-Training Preparation            Period 2: Summary Reports            Period 3: Clinical Trial Report Paper Practicum            Periods 4-6: Statistical Analysis Report Practicum</p> <p>Day 5            Periods 1-2: Pre-Training Preparations            Periods 3-4: Statistical Analysis Report Presentation            Period 5: Conclusion            Period 6: Report Creation</p> <p>National Cerebral and Cardiovascular Center            This will be held over a total of six days. Held between July and September (Each session lasts for 90 minutes) (9:30-11:00/11:15-12:45/13:45-15:00/15:15-17:00).</p> <p>Day 1            Session 1: Training Overview and Explanation, Visit to a Hospital: Purpose and Content of Training            Session 2: Cardiovascular Disease Fundamentals (1): The Basics of Cerebrovascular Disease            Session 3: Cardiovascular Disease Fundamentals (2): The Basics of Cranial Nerve Disease            Session 4: Ethics and Patient Consent</p> <p>Day 2            Session 5: Statistical Analysis (1): Basic Matters in Statistical Analysis            Session 6: Statistical Analysis (2): Tasks and Procedures in Statistical Analysis            Session 7: Statistical Analysis Reports, Summary Reports, and the Publication of Papers</p>
Continue to 臨床研究実地研修II (CB限定) (3) ↓ ↓ ↓

臨床研究実地研修II (CB限定) (3)
<p>Session 8: Statistical Analysis Consultation and Clinical Trial Consultation</p> <p>Day 3            Session 9: Data Management for Clinical Trials: The Fundamentals of Data Management            Session 10: Data Management for Clinical Trials: Data Management Tasks and Processes            Session 11: Group Work (1): Data Management Exercise (1)            Session 12: Group Work (2): Data Management Exercise (2)</p> <p>Day 4            Session 13: Group Work (3): Data Management Exercise (3)            Session 14: Group Work (4): Data Management Exercise (4)            Session 15: Group Work (5): Statistical Analysis Exercise (1)            Session 16: Group Work (6): Statistical Analysis Exercise (2)</p> <p>Day 5            Session 17: Clinical Trial Monitoring            Session 18: Clinical Trial Monitoring Field Trip            Session 19: Group Work (7): Statistical Analysis Exercise (3)            Session 20: Group Work (8): Statistical Analysis Exercise (4)</p> <p>Day 6            Session 21: Group Work (9): Statistical Analysis Exercise (5)            Session 22: Group Work (10): Statistical Analysis Exercise (6)            Session 23: Summary Presentation (1): Data Management Exercise Results Report            Session 24: Summary Presentation (2): Statistical Analysis Exercise Results Report</p>
<b>[Course requirements]</b>
Students must have completed Clinical Research Practicum I.
<b>[Evaluation methods and policy]</b>
Evaluation is based on the content of the reports and presentations created in practicums. Class participation (attendance, etc.) will also be taken into account.
<b>[Textbooks]</b>
Not used
<b>[References, etc.]</b>
(Reference books) Other materials will be indicated during practicums.
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>
Indicated during practicums.
Continue to 臨床研究実地研修II (CB限定) (4) ↓ ↓ ↓

臨床研究実地研修II (CB限定) (4)
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>
Human health science majors are not eligible to participate in this course.
*Please visit KULASIS to find out about office hours.

未更新

Course number	P-PUB01 8H139 LJ90		
Course title (and course title in English)	臨床統計家の実務スキル (CB限定) Practical Skills for Clinical Biostatisticians	Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Program-Specific Professor.OMORI TAKASHI Graduate School of Medicine Professor.SATO TOSIYA Graduate School of Medicine Program-Specific Assistant Professor.Omiya Masatomo
Target year	Professional degree students	Number of credits	1
Year/semesters	2023/First semester		
Days and periods	Mon.5	Class style	Practical training
Language of instruction	Japanese		
<b>[Overview and purpose of the course]</b>			
Students will acquire the minimum knowledge of statistical programming required of clinical statisticians, and practice programming, simple aggregation, and analysis. This course will also prepare students for courses on programming in statistics that are offered in the second semester. We use SAS statistical software mainly, and R in some parts. [Lectures and practicums using PowerPoint slides]			
<b>[Course objectives]</b>			
By learning programming for statistical software, be learn how to:			
<ul style="list-style-type: none"> <li>• Create data sets suitable for analysis,</li> <li>• Create simple aggregations and charts,</li> <li>• Basic statistical analysis,</li> <li>• The basics of analysis of periodic measurement data, and</li> <li>• The basics of survival time analysis.</li> </ul>			
<b>[Course schedule and contents]</b>			
Session 1, April 10, Period 5: Introduction to SAS and R Session 2, April 17, Period 5: Calculation of basic statistics and creating simple charts Session 3, April 24, Period 5: Correlation and Regression (Doi) Session 4, May 1, Period 5: Data Handling using SAS 1 (Doi) Session 5, May 8, Period 5: Data Handling using SAS 2 (Doi) Session 6, May 15, Period 5: SAS Practical (Omiya, Doi, Imai) Session 7, May 22, Period 5: The t-Test and the Wilcoxon Rank Sum Test (Doi) Session 8, May 29, Period 5: Calculating Ratios and Logistic Regression (Doi) Session 9, June 5, Period 5: The General Linear Model (Doi) Session 10, June 12, Period 5: Analysis of Temporal Data 1 (Doi) Session 11, June 19, Period 5: Analysis of Temporal Data 2 (Doi) Session 12, June 26, Period 5: Survival Analysis 1 (Doi) Session 13, July 3, Period 5: Survival Analysis 2 (Doi) Session 14, July 10, Period 5: Fundamentals in R (Doi, Omiya, Imai)			
<b>[Course requirements]</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>• This course is limited to students taking the Clinical Statistician Training course.</li> <li>• Please bring a laptop with SAS and R installed to class.</li> </ul>			
Continue to 臨床統計家の実務スキル (CB限定) (2) ↓ ↓ ↓			

臨床統計家の実務スキル (CB限定) (2)	
-----	
<b>[Evaluation methods and policy]</b>	
Class participation and reports.	
<b>[Textbooks]</b>	
We do not use textbooks. However, it is strongly recommended that students purchase the reference books specified.	
<b>[References, etc.]</b>	
<b>(Reference books)</b>	
Yohei Takanami, Nobuo Funao (2015), "統計解析ソフト「SAS」" (Cutt Systems) ISBN:978-4-87783-503-3 [Designated Reference Book], purchase strongly recommended, Nobuo Funao (2016) "The R Tips 第3版: データ解析環境Rの基本技・グラフィックス活用集" (Ohm Co., Ltd.) ISBN: 978-4-274-21958-0, Ikuko Funatogawa and Takashi Funatogawa (2015) "経時データ解析" (Asakura Shoten) ISBN: 978-4254128550 * This also serves as reference material for "Statistical Models and their Applications." Yasuo Ohasi, Chikuma Hamada, Ryuji Uozumi (2016) "生存時間解析[応用編] SASによる生物統計" (University of Tokyo Press) ISBN: 978-4130623179 * This also serves as reference material for "Survival Time Analysis."	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
Learning the program takes a considerable amount of time. This content is useful for courses in the second semester, so students are advised to take time to review and write many programs.	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

未更新

Course number	P-PUB01 8H144 SB90		
Course title (and course title in English)	統計的推測の基礎・演習 (CB限定) Practicum in Fundamentals of Statistical Inference	Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Program-Specific Professor.OMORI TAKASHI Graduate School of Medicine Professor.SATO TOSIYA 統計数理研究所 HENMI MASAYUKI Graduate School of Medicine Program-Specific Assistant Professor.Omiya Masatomo
Target year	1st year students or above	Number of credits	1
Year/semesters	2023/First semester		
Days and periods	(前期:木) (後期:木)	Class style	Seminar
Language of instruction	Japanese and English		
<b>[Overview and purpose of the course]</b>			
This course focuses on the content of the "Fundamentals of Statistical Inference," and tackles exercises relating to the fundamental points in learning subjects related to statistics. In the first half, we tackle exercises on fundamental points concerning statistical inference in general, and in the second half, we tackle specific statistical inference exercises (estimation, hypothesis testing, and confidence intervals). The overall purpose of the course is to understand and come to grips with each of the topics addressed in "Fundamentals of Statistical Inference" through specific problems, and to teach the fundamental concepts of statistical inference obtained from these. Through exercises in the first half, students will acquire the necessary mathematical skill to study statistics-related subjects, while exercises in the latter half teach methods to apply statistical inference by working on problem sets that are similar to real-world issues as applied to clinical trials, and will understand their utility. Since students of this course are expected to come from various backgrounds, a large number of teaching staff will be assigned and exercises will proceed according to the progress of each student.  [Practicum Format] (Held in sixth period until June 4, then fifth period from June 11)			
<b>[Course objectives]</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>• Understand the techniques necessary for methods of statistical inference and related methods, and learn how to apply them,</li> <li>• Learn the meaning and properties of basic statistics and ways to make calculations by making use of them by yourself, and</li> <li>• Understand the situations in which the fundamentals of statistical inference are required, such as actual clinical trials, and learn to solve basic problems that are important in application.</li> </ul>			
<b>[Course schedule and contents]</b>			
Session 1, April 13: Confirmation of Basic Mathematics and Calculating Probability Session 2, April 27: Basic Properties of Discrete Random Variables Session 3, May 11: Basic Properties of Continuous Random Variables Session 4, May 18: Multiple Random Variables I Session 5, May 25: Multiple Random Variables II Session 6, June 1: Probability Distribution as it Relates to Normal Samples Session 7, June 8: Fundamentals of Statistical Estimation Session 8, June 15: Fundamentals of Statistical Hypothesis Testing I Session 9, June 22: Fundamentals of Statistical Hypothesis Testing II Session 10, June 29: The Basics of Linear Regression Analysis I Session 11, July 13: The Basics of Linear Regression Analysis II			
Continue to 統計的推測の基礎・演習 (CB限定) (2) ↓ ↓ ↓			

統計的推測の基礎・演習 (CB限定) (2)	
-----	
Session 12, July 20: Fundamental Asymptotic Methods I (Limit Theorem, Maximum Likelihood and its Properties) Session 13, July 27: Fundamental Asymptotic Methods II (Tests based on maximum likelihood) Session 14, August 3: Fundamental Asymptotic Methods III (Delta method, methods of estimation other than the maximum likelihood method)	
<b>[Course requirements]</b>	
This course is limited to those taking the Clinical Biostatistics course.	
<b>[Evaluation methods and policy]</b>	
Students will be asked to submit answers to exercises in each session. Grades shall be assigned according to the content.	
<b>[Textbooks]</b>	
Other materials will be introduced during practicums based on progress made.	
<b>[References, etc.]</b>	
<b>(Reference books)</b>	
Other materials will be introduced during practicums based on progress made.	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>• Preparation will not be required when this course is taken together with "Fundamentals of Statistical Inference," which is held on the same day. However, if students are concerned about basic mathematical techniques such as calculus and linear algebra, they are advised to engage in self-study in consultation with their instructor.</li> <li>• For questions that cannot be solved, students should ask their instructor during or after their seminars, and be sure to solve these before taking repeat exercises. Even if a student solves a question once, it is advisable to attempt it again after a while.</li> </ul>	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course number		P-PUB01 8H146 LB90				
Course title (and course title in English)	メタアナリシス (CB・MCR限定) Meta-analysis		Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Program-Specific Professor, TANAKA SHIROU Graduate School of Medicine Program-Specific Assistant Professor, Omiya Masatomo		
	Target year	1st year students or above		Number of credits	1	Year/semesters
Days and periods	Intensive	Class style	Seminar		Language of instruction	Japanese and English
<b>[Overview and purpose of the course]</b>						
Lectures and practicums on meta-analysis, a statistical method for systematic review, will be held in line with guidance from the textbook titled "Introduction to Meta-Analysis, New Edition." This is an elective course for both CB and MPH.						
<b>[Course objectives]</b>						
• Learn techniques for the performance of meta-analysis using STATA.						
<b>[Course schedule and contents]</b>						
• Lecture and practicum format: As we will perform data analysis using SAS statistical software, please set this up on your own PC. STATA installation will be explained in Session 1. A practicum assistant will be provided by the clinical statistics staff. Session 1, August 4, Period 2: Typical Methods of Meta-Analysis (Chapters 3-6) (Maruo) Session 2, August 4, Period 3: Typical Methods of Meta-Analysis (Chapters 3-6) (Tanaka) Session 3, August 8, Period 3: Typical Methods of Meta-Analysis (Chapters 3-6) (Tanaka) Session 4, August 8, Period 4: Multivariate/Network Meta-Analysis (Chapters 7, 9-10) (Tanaka) Session 5, August 10, Period 3: Multivariate/Network Meta-Analysis (Chapters 7, 9-10) (Noma) Session 6, August 10, Period 4: Multivariate/Network Meta-Analysis (Chapters 7, 9-10) (Tanaka)						
<b>[Course requirements]</b>						
None						
<b>[Evaluation methods and policy]</b>						
Class participation: 50% and Reports: 50%						
<b>[Textbooks]</b>						
Toshiro Tango, "新版メタ・アナリシス入門—エビデンスの統合をめざす統計手法—" (Shinpan Meta-Anarishisu Nyumon-Ebidensu no Tougo wo Mezasu Toukei Shuhou, 'Introductory Meta-Analysis: Methods of Statistics Aimed at Evidence Integration, New Edition') (Asakura Shoten) ISBN: 425412760X						
<b>[References, etc.]</b>						
<b>(Reference books)</b>						
Not used.						
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>						
If students understand the basic methods of using STATA, they should be able to deal with the practicums without any issue.						
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>						
Human health science majors are not eligible to participate in this course.						
*Please visit KULASIS to find out about office hours.						

Course number		P-PUB01 8M001 LJ90				
Course title (and course title in English)	アントレプレナーシップ Entrepreneurship		Instructor's name, job title, and department of affiliation	Part-time Lecturer, TERANISHI YUTAKA Graduate School of Medicine Program-Specific Professor, SUZUKI SHINOBU Graduate School of Medicine Program-Specific Senior Lecturer, YAMAGUCHI TARO Graduate School of Medicine Program-Specific Assistant Professor, TAKAYAMA KOJIRO  Part-time Lecturer, YOSHIKAWA TOMOSADA  Part-time Lecturer, YOTSUMOTO KENICHI		
	Target year	Professional degree students		Number of credits	2	Year/semesters
Days and periods	月 6	Class style	Lecture		Language of instruction	Japanese
<b>[Overview and purpose of the course]</b>						
Course overview • Emphasis is placed on learning general-purpose business management techniques in the first half of the course. We combine lectures with case study exercises to make use of the thinking styles and basic business management techniques required of entrepreneurs. • Lectures and workshops (focusing on the creation of business plans and concepts) will be combined in the second half of the course. We also touch upon characteristics of the industrial structure of the medical and pharmaceutical industry as well as the latest topics in the field. • Prioritized themes change each year, and this year, we address two themes: design thinking /business models and venture business development. In the former, students will learn the skills necessary to create business models based on design thinking. In the latter, students will learn venture-specific methods of financing (including venture capital financing, public financial institutions, leasing, industrial finance etc.) and the skills to create business plans, through lectures and exercises. Methods of education and learning • This course will involve lectures, case study exercises, and workshops. There will be small group presentations on case study exercises and workshops.						
<b>[Course objectives]</b>						
• Acquire skills as a medical entrepreneur by utilizing thinking styles, business management techniques, and industry-related knowledge obtained from this course. • Acquire abilities to handle the process right from the search for business seeds all the way through to formulating business development plans. • The ultimate aim of this course is to produce and develop talent with the qualities of both entrepreneurs and researchers, and to contribute toward increasing the probability of successful commercialization.						
<b>[Course schedule and contents]</b>						
Session 1, April 1 0: Orientation Session 2, April 1 7: Business Model and Profit Structure Session 3, April 2 4: Optimal Business Models and Strategy Session 4, May 8: How to Read Financial Statements (External Lecturer)						
Continue to アントレプレナーシップ(2) ↓ ↓ ↓						

アントレプレナーシップ(2)	
<p>Session 5, May 1 5: The Food Truck Challenge (External Lecturer) Session 6, May 2 2: Short Case Exercise (Using a profit and loss statement) Session 7, May 2 9: Presentation of Individuals' Business Ideas Session 8, June 5: Fundraising (External Lecturer) Session 9, June 1 2: Development of Science Cafe-Format Ideas (Team-up) Session 10, June 1 9: Intellectual Property useful for startup companies Session 11, June 2 6: Mid-Term Presentation Session 12, July 3: New Business Development (External Lecturer) Session 13, July 1 0: A History of Overseas ventures (External Lecturer) Session 14, July 2 4: Legal, Accounting, and Tax Affairs Relating to Founding a Company (External Lecturer) Session 15, July 3 1: Business Model Competition * The schedule is subject to change based on the availability of external lecturers.</p>	
<b>[Course requirements]</b>	
This course is mandatory for IP, and an elective for MPH.	
<b>[Evaluation methods and policy]</b>	
The following three points shall be considered and assessed comprehensively: (1) Class participation (including attendance), frequency of speaking up (presentations during case study exercises, active participation in discussions, etc.) (2) Teamwork (3) Business Model Presentation (or report submission)	
<b>[Textbooks]</b>	
Other required texts: None. Powerpoint presentations created by the lecturers are used instead of texts. Reference materials will also be presented as appropriate during lectures. Recommended texts: "バイオデザイン", (Baiodezain, 'Biodesign') Stefanos Zenios, Josh McCower et al. (Yakuji Nippo) "コーポレートファイナンス第6版上・下", (Kooporeeto Fainansu Dai Roku Ban, 'Corporate Finance 6th Ed., Vols. 1&2') Richard Brealey, Stewart Myers (Nikkei BP) "ビジネスモデル・ジェネレーション: ビジネスモデル設計書" (Bijinesu Jenereshon: Bijinesu Moderu Sekkeisho, 'Business Generation: Business Model Design Plans') Alex Osterwalder (Shoheisha) "リーン・スタートアップ" (Riin Sutaatoappu 'Lean Startups') Eric Ries (Nikkei BP)	
<b>[References, etc.]</b>	
<b>(Reference books)</b>	
Introduced during class	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
It is essential for the teams responsible to carry out research while creating their business models.	
Continue to アントレプレナーシップ(3) ↓ ↓ ↓	

アントレプレナーシップ(3)	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
<p>• The lecture content is well defined. We have a reasonable curriculum. Rather than merely acquiring knowledge, we want students to acquire practical thinking skills that commonly relied on in the business world. • This is based on a business model created using the content of lectures by course participants in 2005, which won a business competition sponsored by Nikkan Kogyo Shimbun. The business model created by participants in 2011 was cited in the business introduction at the "CB Forum Osaka 2011" sponsored by the Osaka Chamber of Commerce and Industry and the Osaka NPO Center, and became the subject of Osaka NPO Center business support. • People taking this course will be able to take the M021 Summer Intensive Lectures on "Advanced Entrepreneurship" (Introductory Course on Cash Flow Management and Management Accounting using Business Games). Human health science majors are eligible to participate in this course.</p>	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	



未更新

<b>Course number</b>		P-PUB01 8M026 LJ90			
<b>Course title (and course title in English)</b>	メディカル分野技術経営学概論		<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Part-time Lecturer, YAMAMOTO HIROKAZU	
	Introduction to Technology Management in Medical Science			Part-time Lecturer, IKEDA TAKAFUMI	
<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>	2	<b>Year/semesters</b>	2023/Irregular, First semester
<b>Days and periods</b>	木 6	<b>Class style</b>	Lecture	<b>Language of instructor</b>	Japanese
<b>[Overview and purpose of the course]</b>					
<b>[Course objectives]</b>					
<b>[Course schedule and contents]</b>					
<b>[Course requirements]</b>					
None					
<b>[Evaluation methods and policy]</b>					
<b>[Textbooks]</b>					
<b>[References, etc.]</b>					
(Reference books)					
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>					
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>					
*Please visit KULASIS to find out about office hours.					

<b>Course number</b>		P-PUB01 8M024 SJ90			
<b>Course title (and course title in English)</b>	特許法特論・演習 (前期)		<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Part-time Lecturer, TAKAYAMA SHUKO	
	Special Lecture and Practicum for the Patent Law I			Part-time Lecturer, HIGASHIDA NOBUHIRO	
<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>	2	<b>Year/semesters</b>	2023/Irregular, First semester
<b>Days and periods</b>	水 6	<b>Class style</b>	special lecture	<b>Language of instructor</b>	Japanese
<b>[Overview and purpose of the course]</b>					
I. Course overview You will learn the outline of Patent Law and the points of patent practice in the fields of chemistry and life science.  We will use concrete examples for your in-depth understanding.					
II. Methods of education and learning * Lectures use PowerPoint and web materials					
<b>[Course objectives]</b>					
(Course objectives) 1. Understand the outline of Patent Law. 2. Understand the points of patent practice in the fields of chemistry and life science. 3. Through understanding the above 1 and 2, obtain the skill to facilitate mutual understandings with IP experts such as patent attorneys, Examiners, and Appeal Examiners, thus make most of the research outcomes.					
<b>[Course schedule and contents]</b>					
Session 1, April 12, Takayama, General Patent Practice (1): Principles of the Patent System and Optimal Patent Strategy in the field of Chemistry and Life science Session 2, April 19, Takayama, General Patent Practice (2): Definitions and categories of inventions; Industrial applicable inventions Session 3, April 26, Higashida, Description requirements (1): Concept of Enablement requirements, Support requirements Session 4, May 10, Higashida, Description requirements (2): Clarity requirements; Description of specification, description of examples, and points of inventions related to numerical limitations or parameter invention, etc. Session 5, May 17, Takayama, Novelty of Inventions ; Industrial applicability Session 6, May 24, Higashida, First-filing: Articles 39 and 29 bis of the Patent Law; the relationship between superordinate concepts and subordinate concepts, Article 39 and in-house prior applications. Session 7, May 31, Takayama, Inventive step (1) Concept of inventive step of invention, recognition of inventions and cited inventions, judging methods Session 8, June 7, Takayama, Inventive step (2)					
Continue to 特許法特論・演習 (前期) (2) ↓ ↓ ↓					

<b>特許法特論・演習 (前期) (2)</b>					
Remarkable effects or different effects of the invention, the concept of numerically limited inventions and selected inventions Session 9. June 14, Higashida, Important procedures in practice (1) Examination procedure, amendments and concepts of adding new matters, divisional / changed applications, domestic priority claim applications, utilization of accelerated examination, practice peculiar to the field of chemistry / life science and their countermeasures Session 10. June 21, Takayama, Important procedures in practice (2) Patent term extension, appeal, opposition and other topics. Session 11. June 28, Higashida, Patent right Patent right effects and limitations, invention types, and implementation, exhaustion, and license. Session 12. July 5, Higashida, Patent-related lawsuits (1) Summary of infringement proceedings, defense procedures of seeking invalidation, correction, and damages. Session 13. July 12, Higashida, Patent-related lawsuits (2) Claim interpretation, doctrine of equivalents, indirect infringements, multiple subjects, product-by-process claims, reproduction and repairs. Session 14. July 19 Takayama, Patent-related treaties, and foreign patent application strategies Session 15. July 26, Takayama, Examination (Test)					
<b>[Course requirements]</b>					
This course is mandatory for IP, and an elective for MPH.					
<b>[Evaluation methods and policy]</b>					
Class participation (including attendance) and Results of Examination after all Sessions.					
<b>[Textbooks]</b>					
Handouts will be distributed as texts for each lecture. The JPO text (2021 Text for Briefings on the Intellectual Property Rights System (for beginners)) shall be used as a reference text. No particular reference books are specified. Please refer to the following materials as examples. (Reference books) a) 標準特許法 第7版 (高林 龍著 有斐閣) (Hyoujun Tokkyo Hou, 7th edition) Takabayashi Ryu, Yuhikaku b) JPO Briefing Session Text JPO Website > Information > Event Information > JPO Briefings and Symposia > Briefing Session Text c) 知的財産権 法文集 (Chitekizaisanken Houbunshyu,					
<b>[References, etc.]</b>					
(Reference books) Introduced during class					
Continue to 特許法特論・演習 (前期) (3) ↓ ↓ ↓					

<b>特許法特論・演習 (前期) (3)</b>					
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>					
Students should read the relevant sections of the above JPO text that will be distributed, such as "Section 1: Overview of the Patent System."					
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>					
* We recommend that students take "Fundamentals of Intellectual Property Management" alongside this course.  Human health science majors are eligible to participate in this course.  *Please visit KULASIS to find out about office hours.					

<b>Course number</b>		P-PUB01 8M004 SJ90			
<b>Course title (and course title in English)</b>	契約実務演習		<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Program-Specific Associate Professor, SUZUKI HIROSHI	
	Business Contract Practice			Graduate School of Medicine Program-Specific Professor, SAOTOME CHIKAKO	
<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>	2	<b>Year/semesters</b>	2023/ Irregular, Second semester
<b>Days and periods</b>	火 6	<b>Class style</b>	Seminar	<b>Language of instruction</b>	Japanese
<b>[Overview and purpose of the course]</b>					
<p>Course overview</p> <p>Effective collaboration with others is important to conduct business using research results. Basic knowledge of contracts is required in order to maximize the value of resulting intellectual property and to avoid and resolve disputes at each stage of creation, protection and exploitation of intellectual property.</p> <p>In this course, in addition to learning the basic knowledge of contracts, students will learn about non-disclosure agreements, joint research agreements, patent licensing agreements, and other contracts related to the research activity and the utilization of research results, using a sample of contracts, and learn about the points to be noted when concluding contracts. Students will also learn about legal research methods and basic negotiation techniques based on case studies in the drug discovery field.</p> <p>Teaching and Learning Methods Participation in lectures and exercises</p>					
<b>[Course objectives]</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>- Understand the basics of contracts and enhance legal literacy</li> <li>- Understand the process of entering into R&amp;D-related contracts and the points to keep in mind</li> <li>- Understand how to prepare simple contracts</li> </ul>					
<b>[Course schedule and contents]</b>					
<p>1st session (Suzuki) October 3 Introduction to contracts</p> <p>2nd session (Suzuki) October 10 Contract document (1)</p> <p>3rd session (Suzuki) October 17 Contract document (2)</p> <p>4th session (Suzuki) October 24 Nondisclosure agreement</p> <p>5th session (Suzuki) October 31 Joint research agreement</p> <p>6th session (Suzuki) November 7 Joint research agreement</p> <p>7th session (Saotome) November 14 Legal search</p> <p>8th session (Saotome) November 21 Negotiation skills</p> <p>9th session (Suzuki) November 28 R&amp;D related contracts (1)</p> <p>10th session (Suzuki) December 5 R&amp;D related contracts (2)</p> <p>11th session (Suzuki) December 12 R&amp;D related contracts (3)</p> <p>12th session (Suzuki) December 19 R&amp;D related contracts (4)</p> <p>13th session (Suzuki) January 9 R&amp;D related contracts (5)</p> <p>14th session (Suzuki) January 16 R&amp;D related contracts (6)</p> <p>15th session (Suzuki) January 30 Contract Negotiation Exercise</p>					
Continue to 契約実務演習(2) ↓ ↓ ↓					

<b>契約実務演習(2)</b>	
-----	
<p>In the 9th through 14th sessions, we plan to cover contracts related to research and development, such as material transfer agreements, research consignment agreements, patent license agreements, and data handling agreements, taking into consideration the orientation of the students.</p> <p>In one of the sessions, lectures will be given by outside lecturers who are in charge of contracts at companies, etc.</p>	
<b>[Course requirements]</b>	
<p>This course is mandatory for IP, and an elective for MPH. Students preferably have already taken or concurrently take the following courses: "Fundamentals of Intellectual Property Management" and "Advanced Patent Law and Practice."</p>	
<b>[Evaluation methods and policy]</b>	
<p>Class participation (including attendance), assignment submissions, participation in exercises, and presentations.</p>	
<b>[Textbooks]</b>	
<p>Other required texts: None. Materials will be provided by teaching staff</p>	
<b>[References, etc.]</b>	
<p><b>(Reference books)</b> 知っておきたい知的財産契約の基礎知識 <a href="https://www.inpit.go.jp/katsuyo/ip-contract.html">https://www.inpit.go.jp/katsuyo/ip-contract.html</a></p> <p>Other references will be introduced during class.</p>	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
<p>Indicated as appropriate.</p>	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
<p>Human health science majors are eligible to participate in this course (please contact us in advance).</p> <p>*Please visit KULASIS to find out about office hours.</p>	

<b>Course number</b>		P-PUB01 8M017 LJ90			
<b>Course title (and course title in English)</b>	知的財産経営学 基礎		<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Program-Specific Professor, SAOTOME CHIKAKO	
	Intellectual Property Management in Medical Science			Part-time Lecturer, FUJII ATSUSHI Part-time Lecturer, TANAKA JUNYA	
<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>	2	<b>Year/semesters</b>	2023/ Irregular, First semester
<b>Days and periods</b>	火 6	<b>Class style</b>	Lecture	<b>Language of instruction</b>	Japanese
<b>[Overview and purpose of the course]</b>					
<p>As open innovation is promoted, academic researchers must know intellectual property and skills for smooth industry-academia partnership.</p> <p>This lecture provides knowledge of industry-university collaboration and intellectual property management necessary to return research results in the life science field to society.</p> <p>Specifically, students will learn about the needs of life science companies and open innovation models, an overview of the patent system, and contracts.</p> <p>The lecture will focus on drug discovery and medical science, but will also include life science industries such as food and medical devices in consideration of the background of the students.</p> <p>Finally, life science researchers should be able to avoid infringement of the rights of others and utilize the rights of their own research results.</p>					
<b>[Course objectives]</b>					
<p>You should be able to avoid infringement of the rights of others and utilize your rights of research results.</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• To be able to steadily secure one's own inventions as intellectual property.</li> <li>• To be able to facilitate the licensing of patents to companies and the collaborative research agreements.</li> <li>• To be able to obtain and provide research materials smoothly.</li> </ul>					
<b>[Course schedule and contents]</b>					
<p>1 April 11 Introduction</p> <p>2 April 18 What is Intellectual property</p> <p>3 April 25 Practice of patent</p> <p>4 May 2 Patent description</p> <p>5 May 9 Search of prior art (1)</p> <p>6 May 16 Foreign patent application</p> <p>7 May 23 Search of prior art (2)</p> <p>8 May 30 Material Transfer Agreement</p> <p>9 June 6 Collaborative research</p> <p>10 June 13 Writing of laboratory notebook</p> <p>11 June 20 Practice of making invention disclosure document (1)</p> <p>12 June 27 Topics of the patent in the life science area (1)</p> <p>13 July 4 Topics of the patent in the life science area (2)</p> <p>14 July 11 Practice of making invention disclosure document (2)</p>					
Continue to 知的財産経営学 基礎(2) ↓ ↓ ↓					

<b>知的財産経営学 基礎(2)</b>	
-----	
<p>15 July 18 Technology transfer</p>	
<b>[Course requirements]</b>	
<p>Management of Technology and IP:selective, MPH:selective</p>	
<b>[Evaluation methods and policy]</b>	
<p>Attitude and attendance 40%, Presentation and reports 60%</p>	
<b>[Textbooks]</b>	
<p>Not used</p>	
<b>[References, etc.]</b>	
<p><b>(Reference books)</b> 隅藏 康一 『これからの生命化学研究者のためのバイオ特許入門講座』 (羊土社) ISBN: 4897063590 廣瀬 隆行 『企業人・大学人のための知的財産権入門 一特許権を中心にー』 (東京化学同人) ISBN:4807907565</p>	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
<p>Nothing particular.</p>	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
<p>The class is open to students from the Graduate School of Human Health Science. All students who are interested in intellectual property are welcome to attend. Active questions and discussions are welcome.</p> <p>*Please visit KULASIS to find out about office hours.</p>	

<b>Course number</b>		P-PUB01 8M021 LJ90			
<b>Course title (and course title in English)</b>	アントレプレナーシップ特論 Special Lecture for Entrepreneurship		<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Program-Specific Professor, SAOTOME CHIKAKO	
				Part-time Lecturer, TERANISHI YUTAKA Graduate School of Medicine Program-Specific Senior Lecturer, YAMAGUCHI TARO Graduate School of Medicine Program-Specific Assistant Professor, TAKAYAMA KOJIRO	
<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>	2	<b>Year/semesters</b>	2023/Intensive, First semester
<b>Days and periods</b>	Intensive	<b>Class style</b>	special lecture	<b>Language of instructor</b>	Japanese
<b>[Overview and purpose of the course]</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>The lecture aims to learn business accounting through the business game.</li> <li>You hire employees, purchase factories and raw materials, produce products, and sell them in the business game. After 12 months, a balance sheet (B/S) and profit and loss statement (P/L) are prepared and ordinary income is calculated.</li> <li>Through simulated management experience, you will learn to examine management strategies, build business models, and acquire basic knowledge of accounting.</li> <li>By using a financial sheet that can be prepared even without specialized knowledge of economics, you can acquire basic accounting knowledge regardless of your background.</li> </ul>					
<b>[Course objectives]</b>					
Through simulated management experience, you will acquire practical knowledge of accounting necessary for business. Then, you will be able to build business models and manage budgets so that you can lead your businesses to success when you actually start your own businesses as entrepreneurs.					
<b>[Course schedule and contents]</b>					
1 August 3 Introduction 2 August 3 Description of rules of the game 3 August 3 Demo game 4-6 August 4 Business game I-III 7 August 4 Lecture on basic accounting 8 August 4 Lecture on business management and investment 9-12 August 7 Business game IV-VII 13 August 7 Making a presentation about the results of the game 14 August 8 Lecture on startup business 15 August 8 Presentation about results of the business game					
<b>[Course requirements]</b>					
MPH elective Attendance of all lectures is needed. Taking an Entrepreneurship course is recommended.					
Continue to アントレプレナーシップ特論(2) ↓ ↓ ↓					

<b>アントレプレナーシップ特論(2)</b>	
-----	
<b>[Evaluation methods and policy]</b>	
Attitude and attendance 40%, Presentation and reports 60%	
<b>[Textbooks]</b>	
Not used	
<b>[References, etc.]</b>	
<b>(Reference books)</b> Introduced during class	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
Students should understand the content of the Entrepreneurship course, especially business models and accounting. Students should watch the video of the business game's rules on Panda. Students are expected to understand the rules as the rule book will be distributed in advance.	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
The course is open to students from the Graduate School of Human Health Science.  *Please visit KULASIS to find out about office hours.	

<b>Course number</b>		P-PUB01 8M025 SJ90			
<b>Course title (and course title in English)</b>	特許法特論・演習 (後期) Special lecture and practicum for the Patent Law II		<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Part-time Lecturer, TANAKA JUNYA	
<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>	2	<b>Year/semesters</b>	2023/Irregular, Second semester
<b>Days and periods</b>	水 6	<b>Class style</b>	special lecture	<b>Language of instructor</b>	Japanese
<b>[Overview and purpose of the course]</b>					
Class overview Learn about patent practice through exercises involving the identification of inventions that are a result of research on patent applications and the acquisition of patent rights, while focusing on the fields of chemistry and bioscience (life sciences). Understand the practicalities of patent strategy using specific examples of patent searches and patentability judgments, creation of specifications based on experimental data (invention description), and case studies.					
Methods of education and learning: Lectures with PowerPoint presentations and exercises involving real examples Case study lectures using case materials including self-study in advance					
<b>[Course objectives]</b>					
Course attainment goals (What you can expect to have learned by the end of this course) Deeper understanding of patent strategy in practice and knowledge and skills that form the fundamental requirements for such practice through seminars including personal learning and research.					
<b>[Course schedule and contents]</b>					
Session 1, October 4: How to Read and Write Patent Specifications (1): Explanation of how to read and write patent specifications with reference to actual patent specifications Session 2, October 11: How to Read and Write Patent Specifications (2): Explanation of how to read and write patent specifications with reference to actual patent specifications Session 3, October 18: How to Create a Patent Specification (Invention Description) (1): Identification and compilation of the essential parts of an invention based on simulated experimental data and scenarios up to the completion of the invention Session 4, October 25: How to Create a Patent Specification (Invention Description) (2): Identification and compilation of the essential parts of an invention based on simulated experimental data and scenarios up to the completion of an invention Session 5, November 1: How to Create a Patent Specification (Invention Description) (3): Identification and compilation of the essential parts of an invention based on simulated experimental data and scenarios up to the completion of an invention Session 6, November 8: How to Create a Patent Specification (Invention Description) (4): Identification and compilation of the essential parts of an invention based on simulated experimental data and scenarios up to the completion of an invention					
Continue to 特許法特論・演習 (後期) (2) ↓ ↓ ↓					

<b>特許法特論・演習 (後期) (2)</b>	
-----	
Session 7, November 15: Key Points Concerning Patents in the field of Life Science (1) Session 8, November 22: Analyzing Patent Specifications (1): Analyze, present, and discuss patent specifications. Session 9, November 29: Patent Search and Patentability Judgments (1): Choose a patent publication report, carry out a patent search and determine patentability, present, and discuss. Session 10, December 6: Patent Search and Patentability Judgments (2): Choose a patent publication report, carry out a patent search and determine patentability, present, and discuss. Session 11, December 13: Key Points Concerning Patents in the field of Life Sciences (2) Session 12, January 10: Case Study (1): Discussion of examples of litigation to rescind trial decisions in bioscience and chemistry through individual learning and presentations. Session 13, January 17: Case Study (2): Discussion of examples of litigation to rescind trial decisions in bioscience and chemistry through individual learning and presentations. Session 14, January 24: Practical Points in Patent Strategy in the field of Life Sciences (2) Session 15, January 31: Case Study (3): Discussion of examples of litigation to rescind trial decisions in bioscience and chemistry through individual learning and presentations.	
<b>[Course requirements]</b>	
Required course for IP and elective course for MPH. Students are expected to have completed "Advanced Patent Law and Practice (First semester)" in advance.	
<b>[Evaluation methods and policy]</b>	
Comprehensive evaluation of reports (presentations on topics) and participation in case studies.	
<b>[Textbooks]</b>	
Other required texts: None. The minimum required materials will be distributed during lectures. Recommended texts include: 特許の知識 (Tokkyo no Chishiki "Knowledge of Patents") (Kazuhiro Takeda, Diamond Co.) 産業財産権標準テキスト特許編 (Sangyou Zaisan Hyoujun Tekisuto Tokkyo-Hen "Industrial Property Standard Text: Patents") (Japan Institute of Invention and Innovation) 知的財産権法文集 (Chiteki Zaisan Kenpou Bunshuu "Intellectual Property Rights Law, Collected Works") (Japan Institute of Invention and Innovation)	
<b>[References, etc.]</b>	
<b>(Reference books)</b> Introduced during class	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
In order to give presentations on patent application publications and court judgments among other topics in class, students must study the cases thoroughly before attending class.	
Continue to 特許法特論・演習 (後期) (3) ↓ ↓ ↓	

特許法特論・演習（後期）(3)	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>Learn about patent practice through exercises. Please consult with us first if you are unsure.</li> <li>Those without basic knowledge of patents, please take the Advanced Patent Law and Practice (First semester) first.</li> </ul> <p>Human health science majors are eligible to participate in this course.</p> <p>*Please visit KULASIS to find out about office hours.</p>	

<b>Course number</b>		P-PUB01 8M007 SJ90	
<b>Course title (and course title in English)</b>	知的財産法演習 Practicum for Intellectual Properties Protection Law	<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Part-time Lecturer,TOMA HIROFUMI Part-time Lecturer,SOJYO ISAMU
<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>	2
<b>Year/semesters</b>	2023/Irregular, Second semester		
<b>Days and periods</b>	月 6	<b>Class style</b>	Lecture
<b>Language of instruction</b>	Japanese		
<b>[Overview and purpose of the course]</b>			
I. Course overview			
<ul style="list-style-type: none"> <li>Students are given an overview of how intellectual property in the fields of chemistry and biosciences (life sciences) is protected and used in Japan with reference to court cases. They also learn about the current state of the field and related issues.</li> <li>Students get to analyze the essence of and trends visible in past judgments and learn the basic methodologies necessary to protect and utilize intellectual property properly.</li> <li>Students learn about the current state of intellectual property in the field of life sciences.</li> </ul>			
<b>[Course objectives]</b>			
II. Course attainment goals (What you can expect to have learned by the end of this course):			
<ul style="list-style-type: none"> <li>Together with analyzing key issues in important judgments to understand their logical significance, acquire the practical skills necessary to protect intellectual property appropriately through specific case exercises.</li> <li>By studying the essence of past judgment cases and recent trends, acquire practical capabilities with respect to methods of protection and use of intellectual property specific to the life sciences field.</li> <li>Further your understanding of the current state of intellectual property in field of life science.</li> </ul>			
III. Methods of education and learning			
<ul style="list-style-type: none"> <li>Students will be taught through lectures relying on PowerPoint presentations and discussions and exercises using case materials.</li> </ul>			
<b>[Course schedule and contents]</b>			
Session 1, October 2: Orientation and General Remarks			
Session 2, October 16: The Importance of Recognizing Inventors			
Session 3, October 23: How to Read Trial Decisions and Judgments, The Judgment System			
Session 4, October 30: Professor Sojyo: Aiming for Intellectual Capital Management			
Session 5, November 6: Professor Kumagai: The Role of Trial and Appeal			
Session 6, November 13: Litigation rescinding a trial decision (Novelty and inventive step)			
Session 7, November 20: Litigation rescinding a trial decision (Inventive steps)			
Session 8, November 27: Litigation rescinding a trial decision (Description requirements, amendments, and corrections)			
Session 9, December 4: Case Studies (Inventive steps) (Presentation and discussion)			
Session 10, December 4: Litigation rescinding a trial decision (Applications to register a patent term extension)			
Session 11, December 11: Patent Infringement Lawsuits (1): Efficacy of Patent Rights, the Technical Scope of Patented Inventions			
Session 12, December 18: Patent Infringement Lawsuits (2): Doctrine of Equivalence, Defense			
Continue to 知的財産法演習(2) ↓ ↓ ↓			

知的財産法演習(2)	
<p>Session 13, January 15: Patent Infringement Lawsuits (3): Indirect Infringements</p> <p>Session 14, January 22: Case Study (Infringement litigation) (Presentation and discussion)</p> <p>Session 15, January 29: Professor Kumagai: The Patent System in General</p> <p>No examination</p> <p>*The schedule is subject to change based on the availability of external lecturers.</p>	
<b>[Course requirements]</b>	
This course is mandatory for IP, and an elective for MPH.	
A basic knowledge of the practice of patent law (patent requirements, inspection criteria, etc.) is recommended.	
Students should have already taken or should concurrently take the following courses: "Advanced Patent Law and Practice" (first and second semesters).	
<b>[Evaluation methods and policy]</b>	
Comprehensive assessment will be made based on class participation (including attendance) and submission of assignment reports.	
<b>[Textbooks]</b>	
Other required texts: None. Necessary materials will be distributed during lectures.	
Recommended text: "別冊ジュリスト 特許判例百選 第5版 (No.244)" (Betsuban Jurisuto Tokkyo Hanrei Hyakusen Dai Go Ban, The Jurist: 100 Selected Precedents on Patents' Supplementary Volume, 6th Ed.) (Issued August 2019)	
<b>[References, etc.]</b>	
<b>(Reference books)</b>	
Introduced during class	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
Students should study the judgments to be introduced in lectures in advance and identify relevant issues.	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>High-level expertise in chemistry, bioscience etc., is not required (technical content shall be explained as necessary).</li> <li>Note that the lecture schedule is tentative and subject to change.</li> <li>Consecutive lectures across Periods 5 and 6 shall be held on December 4.</li> </ul> <p>Human health science majors are eligible to participate in this course.</p> <p>*Please visit KULASIS to find out about office hours.</p>	

<b>Course number</b>		P-PUB01 8M028 LB90	
<b>Course title (and course title in English)</b>	創薬医学特論 Special Lecture for Drug Discovery	<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Program-Specific Professor, SAOTOME CHIKAKO
<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>	1
<b>Year/semesters</b>	2023/Second semester		
<b>Days and periods</b>	Other	<b>Class style</b>	Lecture
<b>Language of instruction</b>	Japanese and English		
<b>[Overview and purpose of the course]</b>			
Recently, drug discovery is diversified in modalities such as antibodies and nucleic acid drugs, in addition to traditional small molecule drugs. In addition, technologies for drug discovery, such as drug delivery technology and AI-based drug discovery, have also been developed. Furthermore, not only pharmaceutical companies but also startups create innovative drugs.			
In this lecture, researchers from pharmaceutical companies and startups will give lectures about their business and drug discovery research. This course aims for students to understand cutting-edge drug discovery activities.			
<b>[Course objectives]</b>			
Students will understand the below contents.			
<ol style="list-style-type: none"> <li>Drug discovery strategies, research and development, and business model through real drug discovery cases.</li> <li>Drug discovery technologies and their applications.</li> </ol>			
<b>[Course schedule and contents]</b>			
1. October 6, Period 5 (MIC 2F Conference Room): Introduction			
2. October 13, Period 5 (MIC 2F Conference Room): Biotech's Financing			
3. October 20, Period 5 (MIC 2F Conference Room): Drug discovery of Emericuzumab			
4. October 27, Period 5 (MIC 2F Conference Room): DDS			
5. November 10, Period 5 (MIC 2F Conference Room): Sumitomo Pharma			
6. November 17, Period 5 (MIC 2F Conference Room): Drug discovery at startup I			
7. December 1, Period 5 (MIC 2F Conference Room): Drug discovery at startup II			
8. Drug Discovery Case Studies: New Technologies in the Drug Discovery Field (Under coordination)			
*The schedule is subject to change based on the availability of external lecturers.			
<b>[Course requirements]</b>			
Taking the "Introduction to Technology Management in Medical Science" course is recommended.			
<b>[Evaluation methods and policy]</b>			
Comprehensive evaluation based on class participation and reports.			
Continue to 創薬医学特論(2) ↓ ↓ ↓			

創業医学特論(2)

**[Textbooks]**

Not used  
Necessary materials will be distributed in class.

**[References, etc.]**

(Reference books)  
Introduced during class

**[Study outside of class (preparation and review)]**

Preparation and review may be required as appropriate.

**(Other information (office hours, etc.))**

\*Please visit KULASIS to find out about office hours.









## 2023年度人間健康科学系専攻科目及び他部局開講科目(公共政策大学院科目)における社会健康医学系専攻学生の受講について

### ◎人間健康科学系専攻科目

一部の科目を社会健康医学系専攻の学生が受講することを認めています。  
詳細は、KULASISで人間健康科学系専攻のシラバスをご参照ください。

### ◎公共政策大学院科目

以下の科目を社会健康医学系専攻の学生が受講することを認めています。  
詳細は、KULASISで公共政策大学院のシラバスをご参照ください。

- ・公共政策論 A・B
- ・行政システム
- ・財政システム
- ・CS 予算と政策分析



科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」

推進事業「公共圏における科学技術・教育研究拠点」

教育プログラム 授業科目

科目ナンバリング	G-MED11 8Z069 LB90										
授業科目名 ＜英訳＞	現代社会と科学技術A (政策) Research Methods for Policy A				担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 川上 浩司					
配当 学年	1回生以上	単位数	1	開講年度・ 開講期	2023 前期	曜時間	木1	授業 形態	演習	使用 言語	日本語及び英語
<b>【授業の概要・目的】</b>											
本講義は、「政策のための科学」プログラムの選択科目の1つである。 本講義は、現代社会と科学技術Bと一貫した講義であり、受講者は原則として本講義を先に受講する必要がある。											
<b>【到達目標】</b>											
「政策のための科学」プログラムにおいては、科学と社会、政策とを「つなぐ人材」の育成を目標としている。この目的のために、様々な関連トピックを取り上げて、講師からの話題提供と、それに基づいた学生間のディスカッションを行い、科学の多様性と社会、政策を考えるための端緒とする。											
<b>【授業計画と内容】</b>											
【予定・内容】											
第1回[5/18] 健康福祉政策と情報の利活用 (医学研究科 教授 川上浩司)											
第2回[5/25] まちづくり・地域づくりとソーシャル・キャピタル (経営大学院 特定教授 要藤正任)											
第3回[6/1] 科学技術・イノベーション政策等について (iPS細胞研究所 准教授 南真祐)											
第4回[6/8] まちづくり・地域づくりとソーシャル・キャピタル (経営大学院 特定教授 要藤正任)											
第5回[6/10] 研究プロジェクトテーマ研究会 (全教員)											
第6回[6/15] 科学技術と大学の役割 (文部科学省 田淵敬一)											
第7回[6/22] 現代社会の問題と政策のための科学的考え方 (政策のための科学ユニット 特任教授 カール・ベッカー)											
第8回[6/29] ライフサイエンスの論理とがぼダンス (大阪大学医学研究科 教授 加藤和人)											
第9回[7/6] 高額薬剤と医療保険制度 (東京福祉大学 教授 間宮弘晃)											
第10回[7/13] ビットコインにおける非中央集権の理想と現実 (公共政策大学院 教授 岩下直行)											
第11回[7/20] 研究プロジェクト中間発表会 (全教員) *1~2限											
<b>【履修要件】</b>											
本講義は、現代社会と科学技術と一貫した講義であり、受講者は原則として本講義を先に受講する必要がある。 ◆政策のための科学プログラム受講者のみ履修可。											
現代社会と科学技術A (政策) (2)へ続く↓↓↓											

現代社会と科学技術A (政策) (2)											
<b>【成績評価の方法・観点】</b>											
平常点 (出席及び演習への貢献度)、レポート (提出状況及び内容) により総合的に判断する。											
<b>【教科書】</b>											
使用しない											
<b>【参考書等】</b>											
(参考書) 授業中に紹介する											
<b>【授業外学修 (予習・復習) 等】</b>											
◆授業前の課題がある場合は、事前に政策ユニットの事務局から連絡があります。											
<b>【その他 (オフィスアワー等)】</b>											
◆5月11日 (木) 9:00~9:30 オリエンテーション、9:40~11:10宮野先生の講義の予定です。詳細はユニット事務局から通知があります。 ◆7月20日の中間発表会は1~2限になります。 ◆新型コロナウイルスの感染状況に応じて、進捗報告会や合同発表会は、Zoomを用いたオンラインでの演習、教室での実施のいずれかとなります。 ◆講師の先生方の都合により、標記のタイトル、日程が変更することがあります。											
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング	G-MED11 8Z068 LB90										
授業科目名 ＜英訳＞	現代社会と科学技術B (政策) Research Methods for Policy B				担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 川上 浩司					
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023 後期	曜時間	木4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語及び英語
<b>【授業の概要・目的】</b>											
本講義は、「政策のための科学」プログラムの必修科目の1つ (入門必修科目) である。 本講義は、現代社会と科学技術Aと一貫した講義であり、受講者は現代社会と科学技術Aの講義から継続した受講が必要である。											
<b>【到達目標】</b>											
「政策のための科学」プログラムにおいては、科学と社会、政策とを「つなぐ人材」の要請を目標としている。この目的のために、様々な関連トピックを取り上げて、講師からの話題提供と、それに基づいた学生間のディスカッションを行い、科学の多様性と社会、政策を考えるための端緒とする。											
<b>【授業計画と内容】</b>											
【予定・内容】											
第1回[10/5] データ可視化と政策立案 (京大名誉教授 小山田耕二)											
第2回[10/12] クリティカルシンキングの観点からみた科学技術と社会 (文学研究科 准教授 伊勢田哲治)											
第3回[10/19] 研究プロジェクト中間発表会 (全教員) 3~4限											
第4回[10/26] 公共政策と民主主義 (人間・環境学研究所 教授 佐野巨)											
第5回[11/2] 責任ある研究・イノベーションとは何か (大阪大学COデザインセンター 教授 平川秀幸)											
第6回[11/9] 森林の生態系サービスと政策 (情報学研究所 教授 大手信人)											
第7回[11/16] 持続可能性と人口減少社会のデザイン (人と社会の未来研究院 教授 広井良典)											
第8回[11/30] [政策のための科学] の計量書誌データ分析 (経済研究科 教授 依田高典)											
第9回[12/7] 日本型直接支払制度の政策評価とその方法 (農学研究科 教授 伊藤順一)											
第10回[12/14] 移植医療の社会的価値 (同志社大学商学部 教授 瓜生原菜子)											
第11回[12/21] 医療の経済評価：その現状と課題 (医学研究科 教授 中山健夫)											
第12回[1/12] 質の評価：アートの視点から (京大名誉教授 富田直秀)											
第13回[1/25] 振り返りワークショップ (学際融合教育研究推進センター 准教授 宮野公樹)											
<b>【履修要件】</b>											
本コースは現代社会と科学技術入門と一貫した講義であり、受講者は現代社会と科学技術入門の講義から継続した受講が必要である。 ◆政策のための科学プログラム受講者のみ履修可。											
現代社会と科学技術B (政策) (2)へ続く↓↓↓											

現代社会と科学技術B (政策) (2)											
<b>【成績評価の方法・観点】</b>											
平常点 (出席及び演習への貢献度)、レポート (提出状況及び内容) により総合的に判断する。											
<b>【教科書】</b>											
使用しない 特になし											
<b>【参考書等】</b>											
(参考書) 授業中に紹介する											
<b>【授業外学修 (予習・復習) 等】</b>											
◆授業前の課題がある場合は、事前に政策ユニットの事務局から連絡があります。											
<b>【その他 (オフィスアワー等)】</b>											
◆10月19日の研究プロジェクト中間発表会は3~4限になります。 ◆新型コロナウイルスの感染状況に応じて、講義や合同発表会は、Zoomを用いたオンラインでの演習、教室での実施のいずれかとなります。 ◆講師の先生方の都合により、標記のタイトル、日程が変更することがあります。											
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング	G-MED11 8Z063 SB90										
授業科目名 <英訳>	科学技術イノベーション政策総合演習 (政策) Advanced Seminar on Science, Technology and Innovation Policy				担当者所属・ 職名・氏名		医学研究科 教授 川上 浩司				
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度 開講期	2023・ 前期集中	曜時間	夏季集中	授業 形態	講義	使用 言語	日本語及び英語
<b>[授業の概要・目的]</b>											
本講義は「政策のための科学」プログラムのオリジナル科目の一つ(選択科目II:イシュー科目群)である。プログラム1年目に履修することが望ましい。											
<b>[到達目標]</b>											
当該分野の先端的な知見を得るとともに、様々な視点から検討する。問題分析や政策提言等のグループワークを通じて、得られた知識の応用力を高めるとともに、各拠点の学生間の知的交流を促進する。											
<b>[授業計画と内容]</b>											
科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」基盤的研究・人材育成拠点(京都大学・大阪大学連携、政策研究大学院大学、東京大学、一橋大学、九州大学)合同の合宿セミナー。各拠点およびゲスト講師による講義とともに、共同で問題分析や政策提言等の作成を行うグループワークを行う。夏期休暇中に、2泊3日程度の合宿形式で行われる(新型コロナウイルスの感染状況に応じて、オンラインでの開催となることもある)。 なお、合宿セミナーに先立って実施される、阪大との合同によるワークショップへの参加、科学技術イノベーション政策特別演習の受講を強く推奨する。											
◆日程や詳細は、追って連絡する											
<b>[履修要件]</b>											
プログラム1年目に履修することが望ましい。 ◆政策のための科学プロジェクト受講者のみ履修可。											
<b>[成績評価の方法・観点]</b>											
成果物・提出物により、総合的に判断する。											

科学技術イノベーション政策総合演習 (政策(2))											
<b>[教科書]</b>											
使用しない 特になし											
<b>[参考書等]</b>											
(参考書) 特になし											
<b>[授業外学修(予習・復習)等]</b>											
特になし											
<b>(その他(オフィスアワー等))</b>											
◆授業外学習については、受講生に対して事前に連絡する。  ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング	G-MED11 8Z064 PB90										
授業科目名 <英訳>	研究プロジェクト (政策) Research project				担当者所属・ 職名・氏名		医学研究科 教授 川上 浩司				
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度 開講期	2023・ 通年不定	曜時間	その他	授業 形態	実習	使用 言語	日本語及び英語
<b>[授業の概要・目的]</b>											
本講義は、「政策のための科学」プログラムの必修科目の一つである。プログラム2年目に履修登録すること。											
<b>[到達目標]</b>											
公共的視点から科学技術と政策や社会をつなぐ活動や成果物の作成を行うことにより、自らの専攻分野を生かしつつ、プログラムで学んだ知識やスキルを活用する能力を獲得する。											
<b>[授業計画と内容]</b>											
科学技術イノベーション政策に関連する具体的なトピックと方法論を用いて、「政策のための科学」に関連する個人研究もしくは共同研究のプロジェクトを実施し、小論文・研究レポート(日英可)を作成する。それぞれの研究テーマや進捗に合わせ、プログラム関連教員による個別指導を中心に進める(プロジェクトの内容に関しては、各自の専門の学位論文に関連したもので可)。 1年次に研究計画を策定し、テーマ発表会を行う。 2年次に京都大・大阪大の合同発表会を実施する。											
◆日程については追って説明する。											
<b>[履修要件]</b>											
履修前に、所属研究科の指導教員、および、本科目の担当教員に、研究計画等について相談すること。 ◆政策のための科学プログラム受講者のみ履修可。											
<b>[成績評価の方法・観点]</b>											
成果物・提出物により、総合的に判断する。											
<b>[教科書]</b>											
研究指導担当教員の指示による。											
<b>[参考書等]</b>											
(参考書) 研究指導担当教員の指示による。											
<b>[授業外学修(予習・復習)等]</b>											
研究指導担当教員の指示による。											
<b>(その他(オフィスアワー等))</b>											
◆新型コロナウイルスの感染状況に応じて、進捗報告会や合同発表会は、Zoomを用いたオンラインでの演習、教室での実施のいずれかとなります。  ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング	G-MED11 8Z065 SB90										
授業科目名 <英訳>	政策のための研究方法論 (政策) Research Methods for Policy				担当者所属・ 職名・氏名		医学研究科 教授 川上 浩司 特任教授 Becker, Carl Bradley				
配当 学年	専門職	単位数	2	開講年度 開講期	2023・ 前期不定	曜時間	水曜日4時限	授業 形態	演習	使用 言語	日本語及び英語
<b>[授業の概要・目的]</b>											
本講義は、「政策のための科学」プログラムのオリジナル科目の一つ(選択科目I:基軸科目群)である。以下、2名の教員によって進める。 政策のための科学ユニット 特任教授 Becker, Carl Bradley 政策のための科学ユニット 特定助教 小泉 志保											
公共社会政策を研究するためには、社会学、心理学、科学史、政治学、経済学等の学問体系をまたがらざるを得ない。本演習では、それぞれの学問領域の研究手法論を土台に、情報の検索・収集・分析・評価から、論理構造や政策形成まで、学会発表や投稿論文作成に必要なレベルの高い研究方法と書き方の修得を目指して指導する。 そして論文の論理的構築と標準的形式を理解して、研究論文や出版投稿論文の基礎知識を身に付ける。											
<b>[到達目標]</b>											
本演習の受講生の到達目標は以下の2点である。 (1) それぞれの分野において注目度が高く、信頼性を持つ情報にアクセスし、得られた内容を自分の研究論文の先行研究として位置付けられるようになること。 (2) 論文の論理構成と標準的な形式を理解し、卒業論文や投稿出版論文の基礎知識を身に付けること。											
<b>[授業計画と内容]</b>											
下記の様な内容を毎週紹介し、それぞれの宿題と一緒に添削・訂正する: 1) オリエンテーション:メモの取り方、学術的集中法、情報管理ソフト紹介 2) 中心的概念の定義の広義と狭義、上位と下位、事例と除外 3) 基礎文献の特定・確認・検索方法と表記法 4) CiniiやWeb of Science による有用記事・目的の明瞭化 5) 書評検索 (Web of Scienceや大宅壮一等) 6) 統計データ・新聞・博論の検索法 7) アウトライン・目次・論理構造の形成 8) 博論・オープンデータ・政府白書から科研・財団報告書 9) 医療に限らない医中誌やPubMed 10) アウトライン・目次の実例再検討 11) 英語と日本語の文献表の作成法・再確認 12) 総まとめ、宿題提出(目次・序文・文献表) 13) フィードバック											

政策のための研究方法論 (政策)(2)	
[履修要件]	
特になし	
[成績評価の方法・観点]	
中間の提出:10%、学期末レポート試験:30%、毎回の出席と宿題提出:60%、と計算して評価する。 なお、4回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。	
[教科書]	
授業中に紹介・配布する。	
[参考書等]	
(参考書) 高橋昭男 『仕事文の書き方』 (岩波新書) 小笠原誠 『読み書きの技法』 (筑摩書房)	
[授業外学修 (予習・復習) 等]	
授業外学修としては、各回において、受講者の研究テーマに関するレポートか、図書館やデータベースで資料に基づく調査か、いずれかの作業を期待する。各回で提出されたレポートや調査結果は次の講義で取り上げ、ディスカッションの材料とするため、その予習と提出を必須とする。各回で提出されたレポートや調査結果は、論文作成において必要なパーツを構成しており、その積み重ねによって投稿に至る。論文作成は、数冊の本を読めば出来る作業ではなく、広範囲な文献収集を要するので、計画的な時間配分を心がけられる大学院生を期待する。	
(その他 (オフィスアワー等) )	
曜時間については、受講生と相談の上、決定する。 ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	

科目ナンバリング	G-MED11 8Z067 SJ90		
授業科目名 <英訳>	科学技術コミュニケーション演習(政策) Science, Technology and Communication Seminar	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 川上 浩司
配当 学年	専門職	単位数	2
開講年度・ 開講期	2023・ 通年不定	曜時間	
授業形態	演習	使用 言語	日本語
[授業の概要・目的]			
本講義は「政策のための科学」プログラムの研究プロジェクトコースにおける必修科目の1つである。 以下、2名の教員によって進める。 政策のための科学ユニット 特任教授 Becker, Carl Bradley 政策のための科学ユニット 特定助教 小泉 志保  「政策のための科学」プログラムにおける研究プロジェクトを進めるうえで必要となる、問いの立て方、仮説検証に関する方法論、プレゼンテーションスキルの習得等を目的とする。あわせて、受講生におけるディスカッションを通じて、研究に関する批判的考察能力を涵養する。			
[到達目標]			
科学技術を巡る社会的課題を各分野における分析のフレームワークで捉え、政策分析手法によって論理的に論じられることを到達目標とする。受講生におけるディスカッションによって、実践的に能力の習得を目指す。			
[授業計画と内容]			
受講生は事前に発表等の準備を行うこと、またディスカッションは積極的に参加することを期待する。 【予定・内容】 本演習は後期に開講する。下記のような内容を毎週紹介し、各階に置いて貸した課題を次回の演習において一緒に添削・修正していく。  1) 夏期休業中の研究の振り返りと中間発表への準備 2) 問いの立て方とSTiPSの目標 3) 政策への9つのステップと政策提案書例 4) トピックの絞り方と有意義さ 5) 先行研究の文献レビュー 6) プレゼンの原則と事例 7) 発表の練習と評価法 8) 合同発表最終準備・模擬 9) 合同発表会 10) 合同発表から学べる反省 11) 政策分析手法：カーネマンMAPの事例 12) カーネマンMAP法を自例で利用 13) 総まとめ、宿題提出 (冬期休業期間中の研究の予定について確認) 14) フィードバック			
科学技術コミュニケーション演習(政策) (2)へ続く ↓ ↓ ↓			

科学技術コミュニケーション演習(政策) (2)	
[履修要件]	
◆政策のための科学プログラム受講者のみ履修可。	
[成績評価の方法・観点]	
中間(2-3回)の発表:計 25%、期末発表:15%、毎回の出席と宿題提出:60%、と計算して評価する。 なお、4回以上授業を欠席した場合、単位は認めない。	
[教科書]	
使用しない	
[参考書等]	
(参考書)	
(関連URL)	
<a href="https://scirex-core.grips.ac.jp/">https://scirex-core.grips.ac.jp/</a>	
[授業外学修 (予習・復習) 等]	
特になし	
(その他 (オフィスアワー等) )	
◆曜日、時間については、受講生と相談のうえ、決定する。 ◆新型コロナウイルスの感染状況に応じて、講義や合同発表会は、オンラインでの演習か、教室での対面実施のいずれかとなります。  ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	



